元総社蒼海遺跡群(116)元総社蒼海遺跡群(123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 9. 2

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(116) 元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調查報告書



2 0 1 9. 2

前橋市教育委員会



元総社蒼海遺跡群 (116) 調査区遠景 (上野国分寺跡、染谷川を望む 東から)



元総社蒼海遺跡群 (116) 全景 (破線は染谷川左岸の自然堤防外縁部 上が北西)



元総社蒼海遺跡群(116)H-34号住居跡出土遺物



元総社蒼海遺跡群(123)調査区遠景(榛名山を望む 南から)



元総社蒼海遺跡群 (123) 調査区西側全景 (北から)



元総社蒼海遺跡群(123)A-1号道路跡全景(北から)

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、 2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬を削った地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群 (116) (123) は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、縄文時代から平安時代に亘る多数の住居跡や道路状遺構等が検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理であるため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 31 年 2 月

前橋市教育委員会 教育長 塩 﨑 政 江

例 言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(116)(123)の埋蔵文 化財発掘報告書である。
- 2 発掘調査および整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名 元総社蒼海遺跡群(116) (前橋市遺跡コード:27 A 210)

遺跡所在地 群馬県前橋市元総社町 1690 - 1、1706、1707、1708、1712、1713

監理指導 小峰 篤 藤坂和延(前橋市教育委員会)

調査担当 前田和昭(技研コンサル株式会社)

発掘調査期間 平成28年4月11日~10月6日

整理事業期間 平成30年3月22日~31年2月28日

調査面積 1,830 ㎡

発掘調査参加者 会田義之 青木和男 畔見恒夫 新井 實 飯島冬子 市場初男 岩田 覚

上沢公一 楳原義久 遠藤好則 大澤紀一 太田英明 大竹哲夫 大友康之 加藤知惠子 神坂慶三 鴨田榮作 川野京子 木暮朱実 木村勝彦 小島京子 小林由紀子 今野妙子 佐藤和彦 佐藤文江 佐復 進 末武 卓 末武広海 杉田友香 須藤利雄 関口弘子 都木英之 高野フミ子 高橋一巳 多田ひさ子

田部井美砂子 土屋和美 都丸健一 都丸ゆき子 中島正敏 畠山勝利

樋口久雄 平澤小夜子 星野 博 細野竹美 松島裕樹 丸山 弘 宮澤 博

森田恵子 矢内朝夫 吉井正宏 和田千恵

整理作業参加者 大川明子(技研コンサル株式会社)

安藤三枝子 岡田 萌 川野京子 河本ちさと 木暮朱実 杉田友香 高野フミ子 田所順子 南雲富子 平澤小夜子 福島禄子 細野竹美

遺跡名 元総社蒼海遺跡群 (123) (前橋市遺跡コード: 28 A 228) 遺跡所在地 群馬県前橋市元総社町 1706、1707、1708、1712、1713

監理指導 小峰 篤 藤坂和延(前橋市教育委員会)

調査担当山田誠司(技研コンサル株式会社)発掘調査期間平成28年10月11日~29年3月3日整理事業期間平成30年3月22日~31年2月28日

調査面積 1,606 m²

発掘調査参加者 青木あつ子 青木和男 畔見恒夫 新井 實 飯島由夫 飯塚美奈子 岩田 覚

上沢公一 楳原義久 遠藤好則 太田英明 大竹哲夫 尾内元夫 加藤知恵子 鴨田榮作 川野京子 木暮朱実 久保さつき 小林由紀子 今野妙子 佐藤和彦 佐藤文江 静野佳春 清水隆二 杉田友香 高野フミ子 高橋一巳 高見壽美子

田口美代子 武田茂子 多田ひさ子 田部井美砂子 土屋和美 土屋利治 角田令子 平澤小夜子 星野 博 堀越英行 丸山文江 横堀久子 吉井正宏

吉澤克夫 渡辺義雄

整理作業参加者 大川明子(技研コンサル株式会社)

安藤三枝子 岡田 萌 川野京子 河本ちさと 木暮朱実 杉田友香 高野フミ子 田所順子 南雲富子 平澤小夜子 福島禄子 細野竹美

- 3 本書の編集は前田が行い、原稿執筆は I を小峰 篤(前橋市教育委員会)、 $Ⅱ \cdot V 2$ については山田、他を前田が担当した。
- 4 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 5 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

木津博明 山口逸弘 山下工業株式会社

凡 例

- 1 挿図中に使用した北は座標北である。
- 2 挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を 使用した。
- 3 遺構名称は、竪穴住居跡: J (縄文時代)・ H 、道路跡: A 、溝跡: W 、井戸跡: I 、不明遺構: X 、土坑: D 、ピット: P である。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。 遺構 竪穴住居跡・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60 全体図・・・1/300 遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4 鉄製品・・・1/2 古銭・・・1/1
- 5 本文および表中の計測値については()は現存値を、[]は復元値を表す。
- 6 遺構・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構 焼土範囲: 灰範囲: 遺物 須恵器(還元焰): 施釉:

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B (浅間 B 軽石:1108) 、Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ:6世紀中葉)、

Hr-FA(榛名二ッ岳渋川テフラ:5世紀末~6世紀初頭)、As-C(浅間C軽石:3世紀後葉~4世紀前半)

目 次

卷頭	図別	abla 1	
卷頭	図別	反 2	
卷頭	図別	反3	
卷頭	図別	反 4	
はじ	めに		
例言	· .	记例	
Ι	調	査に至る経緯	• 1
II	遺	跡の位置と環境	. 2
${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	調	査の方針と経過	. 8
IV	基	本層序	. 8
V	遺	構と遺物	
	1	元総社蒼海遺跡群(116)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 13
		(1) 竪穴住居跡	· 13
		(2) 溝跡	· 35
		(3) 井戸跡	• 35
		(4) 土坑	· 35
		(5) 遺構外出土遺物	• 35
	2	元総社蒼海遺跡群(123)	
		(1) 竪穴住居跡	131
		(2) 道路跡	142
		(3) 溝跡	142
		(4) 性格不明遺構	144
		(5) 土坑・ピット	145
		(6) 遺構外出土遺物	145
VI	発	掘調査の成果と課題	
	1	集落の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	215
	2	道と溝、方形堀割について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219
	3	錫杖頭片について	220
	4	郷名瓦について	222
	5	おわり に	222

挿図目次

Fig. 1	遺跡の位置	1	Fig.64	(116) H-3·4号住居跡出土遺物 ······	· 105
Fig. 2	前橋の地形	2	Fig.65	(116) H-5·6·9·10 号住居跡出土遺物 ···············	106
Fig. 3	周辺遺跡図	3	Fig.66	(116) H - 7号住居跡出土遺物 ······	· 107
Fig. 4	周辺調査地点とグリッド設定図	7	Fig.67	(116) H-8号住居跡出土遺物 ······	108
Fig. 5	元総社蒼海遺跡群 (116) (123) 基本層序	9	Fig.68	(116) H-11·12·13 号住居跡出土遺物 ······	109
Fig. 6	遺跡の位置と区画整理前の地形	10	Fig.69	(116) H-14·15·16·17 号住居跡出土遺物 ······	110
Fig. 7	元総社蒼海遺跡群(116)全体図(縄文時代)	11	Fig.70	(116) H-18·20·21 号住居跡出土遺物 ······	. 111
Fig. 8	元総社蒼海遺跡群(116)全体図(古墳時代以降)	12	Fig.71	(116) H-21 号住居跡出土遺物 ·····	112
Fig. 9	(116) J-1号住居跡	50	Fig.72	(116) H-22·23 号住居跡出土遺物 ······	. 113
Fig.10	(116) J-2号住居跡	51	Fig.73	(116) H-24 号住居跡出土遺物 ·····	· 114
Fig.11	(116) J-3·4号住居跡 ······	52	Fig.74	(116) H-25·26 号住居跡出土遺物 ·····	. 115
Fig.12	(116)	53	Fig.75	(116) H-27·28 号住居跡出土遺物 ······	. 116
Fig.13	(116) J-6A·6B号住居跡	54	Fig.76	(116) H-29·30·31·33·34 号住居跡出土遺物 ········	. 117
Fig.14	(116) J-6A·6B·7号住居跡断面	55	Fig.77	(116) H-34 号住居跡出土遺物 (2) ·····	
Fig.15	(116) J-8号住居跡、D-19号土坑	56	Fig.78	(116) H-34 号住居跡出土遺物 (3) ······	. 119
Fig.16	(116) J-9·10 号住居跡 ······	57	Fig.79	(116) H-34 号住居跡出土遺物 (4) ·····	120
Fig.17	(116) J-11 号住居跡	58	Fig.80	(116) H-34·35·36·37 号住居跡出土遺物 ······	. 121
Fig.18	(116) J-12·13 号住居跡 ······	59	Fig.81	(116) H-38·39·40·41·42·43 号住居跡出土遺物 …	
Fig.19	(116) J-12·13·14 号住居跡		Fig.82	(116) H-44·45·46·47·48·49 号住居跡出土遺物 …	
Fig.20	(116) J-15·16 号住居跡 ······		Fig.83	(116) H-52·53·54·55·56·57 号住居跡出土遺物 …	
Fig.21	(116) H-1·2号住居跡		Fig.84	(116) I - 1 号井戸跡、土坑出土遺物	
Fig.22	(116) H - 3 号住居跡		Fig.85	(116) 土坑、遺構外出土遺物	
Fig.23	(116) H - 4号住居跡		Fig.86	(116) 遺構外出土遺物 (2)	
Fig.24	(116) H - 5 · 6 · 52 号住居跡 ····································		Fig.87	(116) 遺構外出土遺物 (3)	
Fig.25	(116) H - 6 · 10 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.88	元総社蒼海遺跡群(123)全体図(縄文時代)	
Fig.26	(116) H - 7 号住居跡 ····································		Fig.89	元総社蒼海遺跡群(123)全体図(古墳時代以降)	
Fig.27	(116) H - 8 · 9号住居跡 ······		Fig.90	(123) J-1·2·3号住居跡(1) ····································	
Fig.28	(116) H - 8 · 9 · 11号住居跡 ····································		Fig.91	(123) J - 1 · 2 · 3 号住居跡 (1)	
Fig.29	(116) H - 12 · 16 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.92	(123) J - 4 号住居跡・P - 135 号ピット ····································	
Fig.30	(116) H-13·51·53 号住居跡			(123) J-4 5 日 日 跡・F-133 5 モ フト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
-	(116) H-14·15 号住居跡		Fig.93	(123) J-8·10 号住居跡	
Fig.31	(116) H-17·20 号住居跡		Fig.94		
Fig.32			Fig.95	(123) J - 9 号住居跡 ····································	
Fig.33	(116) H-18·19 号住居跡 ····································		Fig.96	(123) J-9·11 号住居跡 ····································	
Fig.34			Fig.97		
Fig.35	(116) H - 22 · 23 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.98	(123) H - 2~5号住居跡、D - 39号土坑(1) ····································	
Fig.36	(116) H - 24 ~ 26 · 33 号住居跡、I - 1号井戸(1)…		Fig.99	(123) H - 2~5 号住居跡、D - 39 号土坑(2) ··········	
Fig.37	(116) H - 24 ~ 26 · 33 号住居跡 · I - 1 号井戸 (2) ···		Fig.100	(123) H - 6 号住居跡 (1)	
Fig.38	(116) H-24 ~ 26·33 号住居跡 ····································		Fig.101	(123) H - 6 号住居跡 (2) ···································	
Fig.39			Fig.102	(123) H - 7 · 10 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
Fig.40	(116) H - 29·30·31·32 号住居跡 ····································		Fig.103	(123) H - 8 号住居跡 ····································	
Fig.41	(116) H - 34 · 36 号住居跡 (1) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.104	(123) H - 9 号住居跡 ····································	
Fig.42	(116) H - 34·36 号住居跡 (2) ···································		Fig.105	(123) H - 11 · 13 · 14 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
Fig.43	(116) H - 35 号住居跡 ····································		Fig.106	(123) H-12 号住居跡 (1) ···································	
Fig.44	(116) H - 37 · 38 · 39 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.107	(123) H - 12 号住居跡 (2) ···································	
Fig.45	(116) H - 40 · 46 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.108	(123) H - 15 · 16 · 18 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
Fig.46	(116) H-41·49 号住居跡 ····································		Fig.109	(123) H - 17·19 号住居跡 ····································	
Fig.47	(116) H - 42 · 43 · 44 · 45 号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Fig.110	(123) H - 20·24 号住居跡 ······	
Fig.48	(116) H-42·43·45·50·56 号住居跡 ·······		Fig.111	(123) H-21 号住居跡	
Fig.49	(116) H-47·48 号住居跡 ······		Fig.112	(123) H-22·30 号住居跡 ····································	
Fig.50	(116) H-54·55 号住居跡 ····································		Fig.113	(123) H-22・23 号住居跡カマド	
Fig.51	(116) H-57 号住居跡、W-1号溝、X-1 ····································		Fig.114	(123) H-25·26·29·31 号住居跡 ·····	
Fig.52	(116) 土坑 (1)		Fig.115	(123) H-27·32 号住居跡	
Fig.53	(116) 土坑 (2)		Fig.116	(123) H-28 号住居跡 ······	
Fig.54	(116) J-1号住居跡出土遺物 ······		Fig.117	(123) A-1号道路跡 ······	
Fig.55	(116) J-1·2·3·4号住居跡出土遺物 ···············		Fig.118	(123) W-1·2号溝 ···································	
Fig.56	(116) J-5·6 A号住居跡出土遺物		Fig.119	(123) W-3·4号溝 ······	
Fig.57	(116) J-6B·10 号住居跡出土遺物 ······		Fig.120	(123) W-5・6・7・8・9・10 号溝、D-2号土坑 …	
Fig.58	(116) J-7·8号住居跡出土遺物 ······		Fig.121	(123) X-1、土坑 (1) ·····	
Fig.59	(116) J-8号住居跡出土遺物 ······	100	Fig.122	(123) 土坑 (2)	
Fig.60	(116) J-8·11·12 号住居跡出土遺物	101	Fig.123	(123) 土坑 (3)	
Fig.61	(116) J-13·14 号住居跡出土遺物		Fig.124	(123) 土坑 (4)	
Fig.62	(116) J-14·15·16 号住居跡出土遺物	103	Fig.125	(123) ピット (1)	· 194
Fig 63	(116) H-1・2号住居跡出土遺物 ····································	104	Fig 126	(123) Py h (2)	. 195

Fig.127 Fig.128 Fig.129 Fig.130 Fig.131 Fig.132 Fig.133 Fig.134	(123) ピット (3)	· 197 · 198 · 199 · 200 · 201 · 202	Fig.139 Fig.140 Fig.141 Fig.142 Fig.143 Fig.144 Fig.145		· 209 · 210 講跡、 · 211 · 212 · 213
Fig.135	(123) H-1・2・3・4号住居跡土遺物(123) H-6・7・8号住居跡出土遺物		Fig.146	本遺跡周辺の検出遺構(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Fig.136 Fig.137	(123) H - 9 · 10 号住居跡出土遺物 ····································		Fig.147	本遺跡周辺の検出遺構 (2) 本遺跡周辺の検出遺構 (3)	
Fig.138	(123) H-11·12 号住居跡出土遺物 ······		-	県内出土の錫杖頭関係資料	
Tob 1	周辺遺跡一覧表	表目		(123) 土坑・ビット計測表	. 146
Tab. 1 Tab. 2	「			(123) 出土遺物観察表	
Tab. 3	(116) 出土遺物観察表		1 ab. 5	(125) 山土透物既示私	101
PL. 1	写真 遺跡の位置 (2011年撮影 上が北)	[図]	版目	火 (116) J -16号住居跡全景(北東から)	
	(116) 調査区遠景 (東から)			(116) J-16号住居跡炉埋甕断面D-D'(北東から)	
PL. 2	(116) 縄文面調査状況 (南から パノラマ合成)			(116) J-16号住居跡炉埋甕全景(西から)	
	(116) 縄文面調査状況(北から パノラマ合成) (116) J-1号住居跡全景(東から)		PL. 8	(116) 古代面調査区全景(上が北西)(116) H-1号住居跡全景(西から)	
	(116) J - 1 号住居跡炉A全景(南から)		1 L.O	(116) H - 1 号住居跡カマド全景 (西から)	
	(116) J-1号住居跡遺物出土状況 (南から)			(116) H - 2号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-2号住居跡全景 (北東から)			(116) H-2号住居跡カマド全景 (西から)	
PL. 3	(116) J-2号住居跡炉検出状況(北東から)			(116) H-3号住居跡全景(北西から)	
	(116) J-2号住居跡炉埋甕全景(南東から)			(116) H - 3号住居跡カマド全景(北西から)	
	(116) J - 3 号住居跡全景(西から)			(116) H - 4 号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-4号住居跡全景(南から)(116) J-4号住居跡炉断面(東から)		PL. 9	(116) H-4号住居跡カマド全景(西から) (116) H-5号住居跡全景(北から)	
	(116) J-5号住居跡全景(南から)		1 15. 5	(116) H-5号住居跡断面A-A'(南から)	
	(116) J-6A・6B号住居跡全景(北東から)			(116) H - 6 号住居跡全景 (北から)	
	(116) J-6B号住居跡全景(南から)			(116) H-6号住居跡カマド全景 (北から)	
PL. 4	(116) J-7号住居跡全景(南西から)			(116) H-6号住居跡カマド全景 (西から)	
	(116) J-7号住居跡遺物出土状況(北西から)			(116) H - 6号住居跡貯蔵穴全景(南から)	
	(116) J-7号住居跡遺物出土状況(北から)			(116) H - 7号住居跡全景(西から)	
	(116) J - 7号住居跡炉埋甕全景(南西から)		DI 10	(116) H - 7 号住居跡カマド全景 (西から)	
	(116) J-7号住居跡埋甕断面C-C'(南西から) (116) J-7号住居跡埋甕断面D-D'(南東から)		PL.10	(116) H - 8号住居跡全景(西から) (116) H - 8号住居跡カマド全景(西から)	
	(116) J-8号住居跡全景(南西から)			(116) H - 9号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-8号住居跡遺物出土状況(南西から)			(116) H - 9号住居跡カマド全景 (西から)	
PL. 5	(116) J-8号住居跡遺物出土状況(北東から)			(116) H-10号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-8号住居跡炉全景 (南東から)			(116) H-10号住居跡カマド全景 (西から)	
	(116) J-9号住居跡全景(南から)			(116) H-11号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-10号住居跡全景(北東から)		DI 11	(116) H-11号住居跡カマド全景(西から)	
	(116) J-10号住居跡断面B-B'(北から) (116) J-10号住居跡炉埋甕断面C-C'(北東から)		PL.11	(116) H-12号住居跡全景(西から) (116) H-12号住居跡カマド全景(西から)	
	(116) 「-10号住居跡炉埋甕全景(北東から)			(116) H-13号住居跡のペト主景(西から)	
	(116) J-11号住居跡全景(東から)			(116) H-13号住居跡カマド全景 (西から)	
PL. 6	(116) J-11号住居跡全景 (南から)			(116) H-14号住居跡全景 (北から)	
	(116) J-12号住居跡全景 (東から)			(116) H-14号住居跡カマド全景 (北から)	
	(116) J-12号住居跡遺物出土状況 (東から)			(116) H-15号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-13号住居跡全景(東から)		DI 10	(116) H-15号住居跡カマド全景(西から)	
	(116) J-14号住居跡全景(南東から)		PL.12	(116) H - 16号住居跡全景 (西から)	
	(116) J-14号住居跡炉埋甕全景(南東から) (116) J-14号住居跡埋甕全景(北から)			(116) H-16号住居跡カマド全景(西から) (116) H-17号住居跡全景(南から)	
	(116) J-14号住居跡建憲主京(北から) (116) J-15号住居跡全景(北から)			(116) H-17号住居跡主京 (南から) (116) H-17号住居跡カマド全景 (南から)	
PL. 7	(116) J-16号住居跡全景 (南西から)			(116) H-18・19号住居跡全景 (西から)	

```
(116) H - 18号住居跡全景(西から) (116) H - 55号住居跡全景(南西から) (116) H - 18号住居跡全景(西から) (116) H - 19号住居跡全景(西から) (116) H - 19号住居跡全景(西から) (116) H - 19号住居跡全景(西から) (116) H - 19号住居跡かつド全景(西から) (116) H - 20号住居跡カマド全景(西から) (116) H - 20号住居跡かマド全景(西から) (116) H - 20号住居跡かマド全景(地西から) (116) H - 20号住居跡かマド全景(地西から) (116) H - 21号住居跡全景(西から) (116) H - 21号住居跡金景(西から) (116) H - 21号住居跡強かマド全景(西から) (116) D - 1 · 13号土坑全景(東から) (116) H - 21号住居跡強かマド全景(西から) (116) D - 3 号土坑全景(南東から) (116) H - 22号住居跡造かマド全景(西から) (116) D - 3 号土坑全景(東から) (116) H - 22号住居跡治かマド全景(西から) (116) D - 5 号土坑全景(北東から) (116) H - 22号住居跡治かマド全景(西から) (116) D - 5 号土坑全景(北東から) (116) H - 23号住居跡かマド全景(西から) (116) D - 18号土坑全景(北東から) (116) H - 23号住居跡かマド全景(西から) (116) D - 18号土坑全景(北市ら) (116) D - 18号土坑全景(東から) (116) H - 24号住居跡カマド全景(西から) (116) D - 18号土坑全景(東から) (116) H - 25号住居跡カマド全景(西から) (116) D - 18号土坑全景(東から) (116) D - 18号土坑全景(東から) (116) H - 25号住居跡カマド全景(西から) (116) D - 20号土坑全景(北西から) (116) D - 21号土坑全景(北西から) (116) H - 25号住居跡カマド全景(西から) (116) D - 22号土坑全景(北西から) (116) D - 22号土坑全景(北市ら) (116) D - 22号土坑全景(北市から) (116) H - 28号住居跡かマド全景(西から) (116) D - 22号土坑全景(北東から) (116) H - 28号住居跡カマド全景(西から) (116) 基本土層 (東から) (116) 基本土層 (東から) (116) 基本土層 (南東から) (116) 基本土層 (南東から) (116) 基本土層 (南東から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          (116) 基本土層A (東から)
(116) 基本土層B (南東から)
(116) 基本土層C (南東から)
 (116) H - 28・29号住居跡カマド全景(西から)
(116) H - 28号住居跡全景(西から)
(116) H - 28号住居跡カマド全景(西から)
(116) H - 28号住居跡カマド全景(西から)
(116) H - 29号住居跡かマド全景(西から)
(116) H - 29号住居跡カマド全景(西から)
(116) H - 29号住居跡カマド全景(西から)
(116) H - 30・31・32号住居跡全景(西から)
(116) H - 30・31・32号住居跡全景(西から)
(116) H - 33号住居跡全景(西から)
(116) H - 33号住居跡全景(西から)
(116) H - 34号住居跡全景(南西から)
(116) H - 34号住居跡かマド全景(南西から)
(116) H - 34号住居跡野蔵穴全景(南から)
(116) H - 34号住居跡野蔵穴全景(南から)
(116) H - 34号住居跡遺物出土状況(北東から)
(116) H - 34号住居跡顕製品出土状況(水東から)
(116) H - 34号住居跡顕製品出土状況(東から)
(1173) J - 2号住居跡遺物出土状況(南から)
(1184) 基本土層 R (東から)
(1166) 基本土層 R (東から)

      (116) H - 34号住居跡鋼製品出土状況(南東から)
      (116) H - 34号住居跡鋼製品出土状況(南東から)
      (116) H - 34号住居跡断面 C - C'(南西から)
      (116) H - 34号住居跡断面 B - B'(南から)
      (116) H - 34号住居跡断面 A - A'(南東から)
      (116) H - 34号住居跡断面 A - A'(南東から)
      (116) H - 35号住居跡全景(西から)
      (116) H - 35号住居跡全景(西から)
      (116) H - 36号住居跡全景(西から)
      (116) H - 36号住居跡かマド全景(西から)
      (116) H - 36号住居跡かマド全景(西から)
      (116) H - 36号住居跡全景(西から)
      (116) H - 37号住居跡全景(本から)
      (116) H - 38号住居跡全景(北から)
      (116) H - 38号住居跡全景(北から)

                                      (116) H-37号住居跡全景(北から)
(116) H-38号住居跡全景(西から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              (123) J-9号住居跡炉全景(南から)
    (116) H - 38号住居跡カマド全景 (西から)
PL.18 (116) H - 39号住居跡全景 (西から)
(116) H - 40号住居跡全景 (南西から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           (123) J-9号住居跡埋甕出土状況(西から)
PL.18 (116) H - 39号住居跡全景(西から) (123) J - 9号住居跡埋甕半裁状況(西から) (116) H - 40号住居跡全景(南西から) (123) J - 10号住居跡全景(南から) (116) H - 40号住居跡かマド全景(南西から) (123) J - 11号住居跡全景(南から) (116) H - 41号住居跡全景(西から) (123) J - 11号住居跡全景(南から) (116) H - 41号住居跡かマド全景(西から) (123) J - 11号住居跡炉全景(南から) (116) H - 42号住居跡かマド全景(西から) (123) J - 11号住居跡炉掘り方全景(南から) (116) H - 42・43・44・45号住居跡全景(西から) (123) 古代面調査区全景(上が北西) (116) H - 42・43・44・45号住居跡全景(西から) (123) H - 1号住居跡中室)(西から) (116) H - 42号住居跡かマド全景(西から) (123) H - 1号住居跡かマド全景(西から) (126) H - 43号住居跡カマド全景(西から) (123) H - 1号住居跡市蔵穴全景(西から) (116) H - 43号住居跡カマド全景(西から) (123) H - 2号住居跡を景(西から) (126) H - 43号住居跡かマド全景(西から) (123) H - 3号住居跡全景(西から) (126) H - 45号住居跡かマド全景(西から) (127) H - 4号住居跡全景(西から) (128) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 4号住居跡登景(西から) (129) H - 4号住居跡登景(西から) (129) H - 4号住居跡登景(西から) (129) H - 4号住居跡登景(西から) (120) H - 4号住居跡登景(西から) (121) H - 4号住居跡登景(西から) (122) H - 4号住居跡登景(西から) (123) H - 4号住居跡登景(西から) (123) H - 4号住居跡登景(西から) (124) H - 4号住居跡登景(西から) (125) H - 4号住居跡登景(西から) (126) H - 48号住居跡全景(南西から) (127) H - 4号住居跡登景(西から) (128) H - 4号住居跡登景(西から) (129) H - 4号住居跡登景(西から) (129) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 4号住居跡全景(西から) (129) H - 6号住居跡全景(南から) (129) H - 6号住居跡全景(南から) (129) H - 6号住居跡全景(南から) (129) H - 6号住居跡全景(南から) (129) H - 6号住居跡全景(南から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           (123) J-9号住居跡埋甕半裁状況(西から)

      (116) H - 50号住居跡全景(南東から)
      (123) H - 6号住居跡全景(南から)

      (116) H - 52号住居跡全景(南西から)
      (123) H - 6号住居跡全景(南から)

      (116) H - 53号住居跡全景(西から)
      (123) H - 7号住居跡全景(西から)

      (116) H - 54号住居跡全景(西から)
      (123) H - 7号住居跡カマド全景(西から)

      (116) H - 54号住居跡全景(西から)
      (123) H - 8号住居跡全景(西から)

      (116) H - 54号住居跡カマド全景(西から)
      (123) H - 8号住居跡全景(西から)

                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              (123) H-6号住居跡カマド全景(南から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         (123) H-7号住居跡カマド全景(西から)
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            (123) H-8号住居跡遺物出土状況(西から)
```

- (123) H-9号住居跡全景(西から)
- PL.30 (123) H 9号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-9号住居跡遺物出土状況(西から)
 - (123) H-10号住居跡全景(西から)
 - (123) H-10号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-11号住居跡全景(西から)
 - (123) H-11号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-12号住居跡全景 (東から)
 - (123) H-12号住居跡カマド1全景(東から)
- PL.31 (123) H-13号住居跡全景(北から)
 - (123) H-14号住居跡全景(西から)
 - (123) H-15号住居跡全景(南から)
 - (123) H-16号住居跡全景(西から)
 - (123) H-16号住居跡カマド全景(西から)

 - (123) H-17号住居跡全景(北から)
 - (123) H-17号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-18号住居跡全景(西から)
- PL.32 (123) H-19号住居跡全景 (西から)
 - (123) H-19号住居跡カマド全景(西から)
 - (123)H-19号住居跡カマド遺物出土状況(西から)
 - (123) H-20号住居跡全景(南から)
 - (123) H-20号住居跡カマド全景(南から)
 - (123) H-21号住居跡全景(西から)
 - (123) H-22・30号住居跡全景(西から)
 - (123) H-22号住居跡カマド全景 (西から)
- PL.33 (123) H-22号住居跡石組検出状況(南から)
- - (123) H-23号住居跡全景(西から)
 - (123) H-24号住居跡全景 (東から)
 - (123) H-25号住居跡全景(西から)
 - (123) H-26号住居跡全景(西から)
 - (123) H-27号住居跡全景(西から)
 - (123) H-27号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-28号住居跡全景(西から)
- PL.34 (123) H-28号住居跡カマド全景(西から)
 - (123) H-29号住居跡全景(北から)
 - (123) H-31号住居跡全景(西から)
 - (123) H-32号住居跡全景(北から)
 - (123) A-1号道全景(北から)
 - (123) W-1号溝全景(北から)
 - (123) W-1号溝全景(南から)
- (123) W-2号溝全景 (東から)
- PL.35 (123) W-3号溝全景 (西から)
 - (123) W-3号溝断面A-A'(南から) (123) W-4号溝全景(南から)
 - (123) W-5号溝全景(南から)
 - (123) W-6号溝全景 (東から)
 - (123) W-7号溝全景(南から)
 - (123) W-8号溝全景 (南から)
 - (123) W-9号溝全景(南から)
- PL.36 (123) W-10号溝全景 (南から)
 - (123) D-3号土坑全景(南から)
 - (123) D-49号土坑全景(東から)
 - (123) D-55号土坑全景 (西から)
 - (123) X-1号土坑炭化材出土状況(西から)
 - (123) 基本土層 F (南から)
 - (123) 基本土層 G (東から)
 - (123) 基本土層H(北から)
- PL.37 (116) J-1~5号住居跡出土遺物
- PL.38 (116) J-5~7号住居跡出土遺物
- PL.39 (116) J-8~11号住居跡出土遺物
- PL.40 (116) J-12~15号住居跡出土遺物
- PL.41 (116) J 16、H 1 \sim 4 号住居跡出土遺物
- PL.42 (116) H 4~8 号住居跡出土遺物
- PL.43 (116) H-8~12号住居跡出土遺物
- PL.44 (116) H-13~21号住居跡出土遺物 PL.45 (116) H-21~23号住居跡出土遺物

- PL.46 (116)H-23~26号住居跡出土遺物
- PL47 (116) H 26~34号住居跡出土遺物 PL48 (116) H 34号住居跡出土遺物 PL49 (116) H 34~40号住居跡出土遺物
 - PL.50 (116) H-41~53号住居跡出土遺物
 - PL51 (116) H-55~57、I-1号住居跡出土遺物
- PL.52 (123) J 1 ~ 7 号住居跡出土遺物 PL.53 (123) J 8 ~ 11、H 1 ~ 6 号住居跡出土遺物
- PL.54 (123) H 6~11号住居跡出土遺物
 - PL.55 (123) H-11~21号住居跡出土遺物
 - PL.56 (123) H-21~31、A-1、W-1号住居跡出土遺物
 - PL.57 (123) D-3~56、P-39号住居跡出土遺物
 - PL.58 (116) 文字·記号資料
- PL.59 (116) (123) 文字·記号資料
 - PL.60 (123) 文字・記号資料

I 調査に至る経緯

「元総社蒼海遺跡群 (116) 」 (遺跡コード:27A210) (以下「蒼海 (116) 」という。) については、平成28年2月25日付で土地区画整理に伴う宅地造成工事にあたり、前橋市長 山本 龍 (区画整理課) (以下「前橋市」という。) より、埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が、前橋市教育委員会 (以下「市教委」という。) に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年3月25日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

蒼海 (116) の隣接地である「元総社蒼海遺跡群 (123) 」 (遺跡コード:28A228) (以下「蒼海 (123)」という。)については、平成28年8月8日付で前橋市より埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が市教委に提出され、蒼海 (116)と同様の理由で技研コンサル株式会社と平成28年9月14日付で業務委託契約を締結した。両調査とも平成28年度は現地での発掘作業と出土遺物の洗浄・注記作業までとし、発掘調査報告書作成に係る整理作業については、平成29~30年度に別途前橋市と技研コンサル株式会社との間で業務委託契約を締結し実施した。本発掘調査報告書は、蒼海 (116)と蒼海 (123)の2遺跡の調査成果をまとめたものである。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (116) 」及び「元総社蒼海遺跡群 (123) 」の「元総社蒼海」は土地区画 整理事業名を採用し、 (116) 及び (123) は、過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

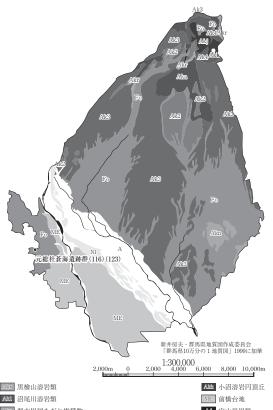


Fig.1 遺跡の位置

Ⅱ 遺跡の位置と環境

遺跡の位置(Fig. 1) 元総社蒼海遺跡群(116)・(123)は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に近接して所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

両遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は3~5mを測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。





- Fig.2 前橋の地形
- (1)縄文時代 八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15] ・産業道路西 [16] 、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22] ・元総社小見Ⅲ遺跡 [59] ・元総社蒼海遺跡群 (24) などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。
- (2) 弥生時代 日高遺跡 [18] [19] ・上野国分僧寺尼寺中間地域 [22] ・正観寺遺跡 [21] などがあるが、 その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間 C 軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古 墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。
- (3) 古墳時代 本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳 [7]・総社二子山古墳 [12]・愛宕山古墳 [10]・宝塔山古墳 [13]・蛇穴山古墳 [8] などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺 [4] が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王廃寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49~56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成9~11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年度調査では北・東・西面、平成20年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成21年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によ

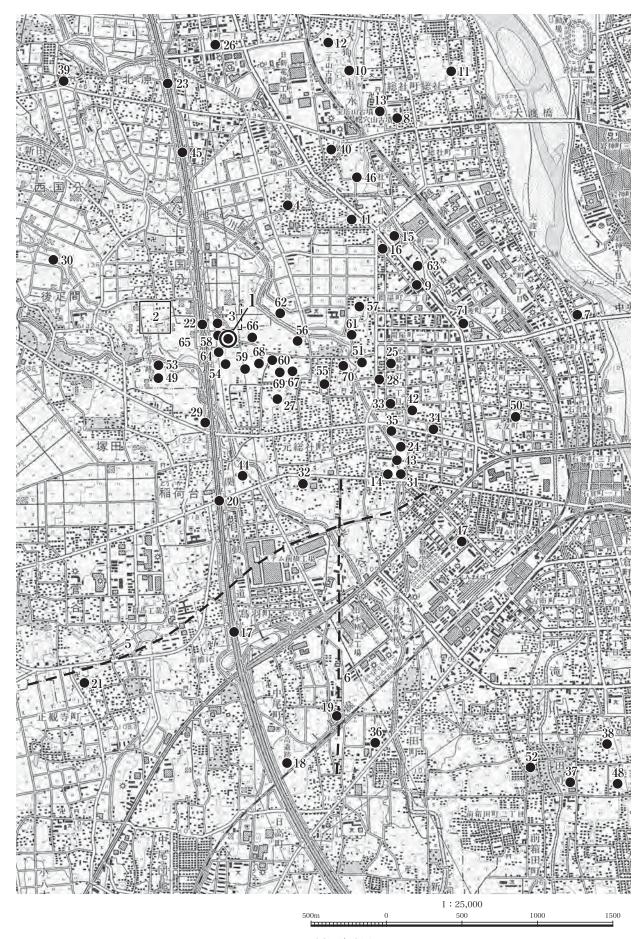


Fig. 3 周辺遺跡図

るものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期~中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北W・V遺跡などで水田跡が確認されている。

(4) 奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺 [2]・国分尼寺 [3] の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡 [14] では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群(99)、上野国府等範囲調査確認28・33・34トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群(95)では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡 [43] では「國府」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形が出土している。元総社明神遺跡 [24] では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡 [25] や元総社蒼海遺跡群(7)・(9)・(10)では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、巡方(腰帯具)なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15年に国指定史跡となり、昭和 40年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成 24年度から 28年度にかけての第 2 期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和 44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成 28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成 29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡 [20] で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22] では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊には N・64°- E 方向に東山道(国府ルート)が、日高遺跡 [19] では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群 (40) で8世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群 (41) では9世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群 (64) では8世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡 (箱型炉)が1基、元総社稲葉遺跡 [47]では10世紀に想定される製鉄炉跡 (小型自立炉)が2基確認されている。

(5) 中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を 治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12~15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・ 袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、 慶長6年(1601年)に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では 大渡道場遺跡 [71] の貨幣埋納遺構から 572 枚におよぶ銭貨が撚紐を通した「緡」の状態で六緡出土している。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	元総社蒼海遺跡群(116)(123)	11	遠見山古墳	21	正観寺遺跡 I ~IV	31	寺田遺跡	41	昌楽寺廻向遺跡·Ⅱ遺跡
2	上野国分寺跡	12	総社二子山古墳	22	上野国分僧寺・尼寺中間地域	32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	42	堰越Ⅱ遺跡
3	上野国分尼寺跡	13	宝塔山古墳	23	北原遺跡	33	屋敷遺跡·Ⅱ遺跡	43	元総社寺田遺跡Ⅰ~Ⅲ
4	山王廃寺跡	14	元総社小学校校庭遺跡	24	元総社明神遺跡 I ~ XⅢ	34	堰越遺跡	44	弥勒遺跡·Ⅱ遺跡
5	東山道 (推定)	15	産業道路東遺跡	25	閑泉樋遺跡	35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	45	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡
6	日高道(推定)	16	産業道路西遺跡	26	柿木遺跡 · Ⅱ 遺跡	36	勝呂遺跡	46	大屋敷遺跡 I ~ VI
7	王山古墳	17	中尾遺跡	27	草作遺跡	37	村前遺跡	47	元総社稲葉遺跡
8	蛇穴山古墳	18	日高遺跡	28	閑泉樋南遺跡	38	五反田遺跡	48	五反田Ⅱ遺跡
9	稲荷山古墳	19	日高遺跡	29	塚田村東遺跡	39	熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	49	上野国分寺参道遺跡
10	愛宕山古墳	20	鳥羽遺跡	30	後疋間遺跡 Ⅰ~Ⅲ	40	村東遺跡	50	大友宅地添遺跡

番号	遺跡名	番号		遺跡	名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	
51	総社閑泉明神北遺跡 · Ⅱ 遺跡	56	元総社	小見内Ⅲ遺跡		61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ·Ⅳ遺跡	66	元総社小見内Ⅷ遺跡	71 大	渡道場遺跡	
-	箱田川西遺跡	57		稲荷塚大道西流	遺跡・Ⅱ遺跡	+	元総社北川遺跡	67	元総社小見内WII遺跡	_		
-	元総社西川遺跡	58	_	小見内Ⅱ遺跡		63	稲荷塚道東遺跡	68	元総社小見IX・元総社小見内IX遺跡	4		
-	元総社小見遺跡	59	_	小見内Ⅲ遺跡	4. 1. 1	_	元総社小見IV·VI遺跡	69	元総社小見内X遺跡	-		
-	元総社宅地遺跡 1 ~ 23 トレンチ	60	兀総社	小見内IV · VI i	直跡	65	元総社小見V遺跡	70	総社閑泉明神北V遺跡			
番号	遺跡名			調査年度	士培。亚克·允F	P. Dr 44			5構・遺物 堀跡(蒼海城) ◇縄文土器(前期)・	62.5k 17.5k	- 40 - 1- 64	
-	元総社蒼海遺跡群(1)			2005	鉄鏃・鉄鋲・腰や			TE.	畑助(昌傳城) ◇地文工品(旧州)	形区作出・カワマイロ	1.385.04434.	
-	元総社蒼海遺跡群 (2)			2005	奈良・平安:住店	舌跡・5	竪穴状遺構・大溝・土坑墓、中世以降:	土坑	・道路状遺構 ◇灰釉・盤・高盤・鉄	鏃・埴輪		
_	元総社蒼海遺跡群(3)・元総社小	見VII 資	跡	2005				路状遺	構、中世:畠跡 ◇縄文土器(前~後期) · 灰釉 ·	円面硯・権カ・	
	70,0012,210,011 (0) 70,0012,3	70 12 72	***	2000	紡錘車・墨書「基			Inte I D	D (->	65 A B	田舎「宝」。	
-	元総社蒼海遺跡群(4)			2005	縄义・壮店跡、F 紡錘車・土錘・E			3人工7	器(前・中期)・灰釉・盤・鉄鉢形土器	· 即筮具 ·	整音 選」カ・	
-	元総社蒼海遺跡群(5)			2005	古墳:住居跡、3	· ・身奈	P安:住居跡、中世:道路状遺構・周漳	‡状遺标	構・土坑墓・火葬墓 ◇暗文坏・板碑・	管玉・臼玉		
-	元総社蒼海遺跡群(6)			2005	古墳:砂岩採掘均	亢、奈良	良・平安:住居跡・竪穴状遺構・鍛冶遺	i構・[図画溝、中世:堀跡 (蒼海城)・土坑墓	◇灰釉・	鉄鏃	
_	元総社蒼海遺跡群 (7)			2005			少岩採掘坑、中世:大溝 ◇灰釉・羽□					
_	元総社蒼海遺跡群(8)			2006					· 三足土器 · 灯明具 · 鉄鏃 · 鉄鍋 · 勾玉			
-	元総社蒼海遺跡群 (9) (10)			2006					書物跡・大溝、奈良・平安:住居跡・竪 ・小札・鉄鎌・紡錘車・土錘・石製模造		大溝・砂岩採	
-	元総社蒼海遺跡群 (11)			2006					上器(前・中期)・灰釉・暗文坏・土錘		ΙΞ	
-	元総社蒼海遺跡群 (12)			2006	古墳・奈良・平野	安:住居	号跡、中世以降:土坑墓 ◇灰釉・暗文	「坏・針	失鏃			
_	元総社蒼海遺跡群 (13)			2008				房跡	道路状遺構・大溝、中世:土坑墓 ◇	縄文土器(前期)・緑釉・	
							金カ・紡錘車・鬼瓦 白吐 孤島・仕屋吐 本島 亚ウ・4	- F-Z p-k-	· 据立柱建物跡、中世: 堀跡 (蒼海城)	87 / 4D: 76	H# ATC64	
-	元総社蒼海遺跡群 (14)			2008			・苗跡、飛鳥・仕店跡、宗良・干女・1) 推定域]	门古助	· 描立仕進初跡、中臣 · 堀跡 (富海城)	* 宏八仏題	1個 ◇炒べ相。	
-	元総社蒼海遺跡群 (15)			2008	奈良・平安:住店	居跡、ロ	中世:土坑墓 ◇灰釉・灯明具					
-	元総社蒼海遺跡群 (16)			2008			自跡 ◇灰釉・盤					
-	元総社蒼海遺跡群 (17)			2008					◇縄文土器 (前期) · 弥生土器 (後期) · 灰釉 ·	灯明具	
-	元総社蒼海遺跡群(18)			2008			备:土坑墓 ◇灰釉・盤・鉗子ヵ・青磁	ž (12c)			
-	元総社蒼海遺跡群 (19)			2008	古墳:水田跡 〈			sin -	h冊・土枝賞 △@-ケ-L-叩 /-ペ - ペ-m\	TT \$4.86 to	49. 須古甲「サ	
-	元総社蒼海遺跡群 (20)			2008					中世: 土坑墓 ◇縄文土器 (前〜後期)・ 記定域、国分尼寺南辺含む]	火相闯器	盤・須思器 躄	
-	元総社蒼海遺跡群 (21)		_	2009			世: 堀跡 (蒼海城) ·盛土状遺構 · 方形			[国庁B	案推定域]	
-	元総社蒼海遺跡群 (22)			2009	古墳・飛鳥:住馬	丟跡、 [∑]	P安:住居跡・竪穴状遺構・道路状遺棒	力(〉灰釉・暗文坏・洗(大形盤)カ・灯明	具・鉄鍵		
-	元総社蒼海遺跡群 (23)			2009			奈良・平安:住居跡・大溝、中世:堀跡	下 (蒼海	毎城) ◇白磁(15c)・青磁(13 ~ 15c	c) · 天目3	茶碗	
-			-		[国庁B案推定均 縄文:住居跡. 書		· 自:住居跡、奈良・平安・仕足跡・取ぐ	:	す、中世:方形竪穴・道路状遺構 ◇縄文	*十哭 / 龄 .	中期) . 広軸 .	
-	元総社蒼海遺跡群 (24)			2009			具・鉄鏃・紡錘車・土錘・青磁(14c)	.1/\.!!!	F、中E・力形並八・垣間小垣博 ▽州×	fiir (BU	中州 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	
-	元総社蒼海遺跡群 (25)			2009	古墳・平安:住馬	舌跡 〈	>灰釉・鉄鏃・青白磁梅瓶(12 ~ 14c)		[国庁A案推定域]			
_	元総社蒼海遺跡群 (26)			2009				世:堀路	亦(蒼海城) ◇緑釉・灰釉・円面硯・盤	注・高盤・旺	音文坏・紡錘車・	
					鉄鏃・腰帯具・土錘・墨書「大舘」 士橋・住尾珠 杏島・平宍・住尾珠・押立柱建物珠・竪穴上造樓 由世・提珠 (茶海峡)・方形竪穴 △縄立+哭 (前~晦期)・恋生+哭							
_	元総社蒼海遺跡群(27)			2009	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構、中世:堀跡(蒼海城)・方形竪穴 ◇縄文土器(前〜晩期)・弥生土器 期)・灰釉・盤・洗ヵ・灯明具・鉄鏃・埴輪							
_	元総社蒼海遺跡群 (28)			2009	古墳:住居跡・カ	大溝、秀	を良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世 歴史 対領東 羽口 持熱	:堀岛	「蒼海城」・方形竪穴 ◇縄文土器(前	前~晩期)	・弥生土器(後	
							・馬具・紡錘車・羽口・埴輪 b##以降・撮跡 (巻海城) ・掘立柱建物	n 92 ht	申下考拉,土拉草,水蕹塘 △匠釉,丝	做, 独决	[国庁B・	
-	元総社蒼海遺跡群(29)			2009	古墳〜平安:住居跡、中世以降:堀跡(蒼海城)・掘立柱建物跡・地下式坑・土坑墓・火葬跡 ◇灰釉・鉄鏃・鉄滓 [国庁F C条推定域]							
_	元総社蒼海遺跡群 (30)			2009	古墳·平安:住居跡、中世:堀跡(蒼海城) · 道路状遺構 · 土坑墓 · 火莽跡 ◇縄文土器 (前 · 中期) · 鉄鏃							
-	元総社蒼海遺跡群 (31)			2009			品跡(蒼海城)、時期不明:道路状遺標					
-	元総社蒼海遺跡群 (32)			2010			安:住居跡、中世:堀跡(蒼海城)·竪				案推定域含む]	
-	元総社蒼海遺跡群 (33)			2010	古墳:粘土採掘り 鉄鉢形十器	亢、飛馬	・奈良:住居跡、平安:住居跡・大溝ヵ	・土ち	竹墓 中世: 堀跡 (蒼海城) · 方形竪穴・	土坑墓(>高盤・こね鉢・	
_	元総社蒼海遺跡群 (34)			2010	奈良・平安:住店	舌跡、 ロ	中世以降:堀跡(蒼海城)・竪穴状遺標	\$ \Q	灰釉・暗文坏・羽口・紡錘車			
_	元総社蒼海遺跡群 (35)			2010	縄文:住居跡、	古墳・引	18鳥:住居跡、奈良・平安:住居跡・布	[掘掘]	2柱建物跡・掘立柱建物跡、中世: 堀跡	(蒼海城)	·土坑墓	
	754612.2197.23011 (66)			2010					・紡錘車・墨書「田」「天」 (則天文)* (東海は) ○ 区科 都 区間目 24		Jerob Frat	
-	元総社蒼海遺跡群 (36)			2010	古墳: 畠跡、平安: 住居跡・水田跡・大溝・砂岩採掘坑、中世: 堀跡(蒼海城)							
_	元総社蒼海遺跡群 (37)			2011	古墳・飛鳥:住居跡、平安:住居跡・竪穴状遺構・土坑墓、中世:堀跡(蒼海城)							
	70年8月上海19年2月10日1			2011					鍾車・土鍾・耳環・臼玉・石製模造品			
-	元総社蒼海遺跡群 (38)			2012	古墳:住居跡・竪穴状造構・砂岩採掘坑・前方後方形周溝墓カ・土器集積・水田跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状造構、中世以降:堀跡(蒼海域)・大溝 ◇灰釉・高盤・灯明具・腰帯具・鉄鏃・銅鈴・鉄鎌・土錘 [国庁A・D楽推定域含む]							
_	元総社蒼海遺跡群 (39)			2012	中国以降・帰跡(宣傳							
	70mm(正暦1時/短期/m)* (U2)			2012			 鉄鎌・羽口・紡錘車・土錘・切子玉・ 			^ 6P - 1 · ·	0 (34 22.197)	
-	元総社蒼海遺跡群 (40)			2013			鳥:住居跡・竪穴状遺構、奈良・平安:(失鏃・腰帯具・紡錘車	L括跡	·掘立柱建物跡·鍛冶遺構·道路状遺構	◇縄文土智	ř(削~後期)・	
					縄文:住居跡、古	墳:住	居跡、奈良·平安:住居跡·鍛冶遺構、「	中世:排	國立柱建物跡・道路状遺構 ◇縄文土器	(前期)・青	「磁・奈良三彩・	
-	元総社蒼海遺跡群 (41)			2013	緑釉・灰釉(金代 (五芒星)」・	†着) ·	盤・鉄鉢形土器・暗文坏・円面硯・須恵	器「壺	G」·灯明具·鉄鏃·鉄鉗·腰帯具·羽口	紡錘車・	臼玉・刻書「☆	
_	元総社蒼海遺跡群 (42)		-	2013	(遺構なし)	E B, 13	F.1					
_	元総社蒼海遺跡群 (43)			2013		舌跡、 ロ	中世:道路状遺構 ◇高盤					
-	元総社蒼海遺跡群 (44)		†	2013			中世:堀跡 (蒼海城)					
_	元総社蒼海遺跡群 (45)			2013		舌跡、 ロ	Þ世:堀跡(蒼海城)・地下式坑 ◇Ξ	足土	器・鉄滓・羽口 [国庁 C 案推定域]			
_	元総社蒼海遺跡群 (46)			2013	平安:住居跡							
_	元総社蒼海遺跡群 (47)			2013	中世:堀跡(蒼江			Les	20.45 A 400-1-1 and 4 32 - 1 and 5	who day	minute de la companion de la c	
-	元総社蒼海遺跡群 (48)			2013	縄文:住居跡、2 鉄鎌・鉄鋤・鉄			博・埋	没谷 ◇縄文土器(前·中期)·灰釉·	尚盤・盤・	暗又环・鉄鏃・	
-	元総社蒼海遺跡群 (49)			2013	平安:住居跡	200						
-	元総社蒼海遺跡群 (50)			2013		奈良・ ^エ	平安:住居跡 ◇灰釉					
_	元総社蒼海遺跡群 (51)			2013	古墳・奈良:住席	居跡 〈	◇盤・暗文坏					
_	元総社蒼海遺跡群 (52)			2013	(遺構なし)							
-	元総社蒼海遺跡群 (53)			2013		舌跡(>灰釉·灯明具·紡錘車·石製模造品	[]	国庁 D 条推定域]			
_	元総社蒼海遺跡群(54) 元総社蒼海遺跡群(55)			2013	(遺構なし) 奈良:住居跡							
-	元総社蒼海遺跡群 (56) (61)			2013		墓・住り		; (\dag{2}	縄文土器(前・中期)・弥生土器(後期	・紡錘由		
_	元総社蒼海遺跡群 (57)			2013			◇高盤・馬骨・青磁 (15 ~ 16c)		FB案推定域]	. WEET		
_	元総社蒼海遺跡群 (58)								作定域]			
-	元総社蒼海遺跡群 (59)			2014			国跡(蒼海城)· 方形竪穴					
-	元総社蒼海遺跡群 (60)			2014	古墳:住居跡、発	飛鳥:フ	大溝、平安:住居跡、中世:堀跡 (蒼海	[城)	◇緑釉・灰釉(朱墨転用硯)・盤・円	面硯・刀装	具·鉄滓	
-	元総社蒼海遺跡群 (62)				古墳:周溝墓							
	元総社蒼海遺跡群 (63)			2014			◇紡錘車・管玉・臼玉 ・ 佐屋味 ・ 中世・ 古形図ウェート サブ・ /	AL VIII	ACRE FINE A SERVICE LAND			
	元総社蒼海遺跡群 (64)		-				:住居跡、中世:方形竪穴・土坑墓 〈 h世:堀珠 (巻海林) 〈四种 「原					
_	元総社蒼海遺跡群 (65) 元総社蒼海遺跡群 (66)		-	2014	古墳・半安:任居			1/1 C	案 推定域]			
	元総社蒼海遺跡群 (67)				古墳:住居跡、		MESO \@ 195794/					
	[2010	THE SECTION STREET							

W -	VIDE A	==++++	ne () , S. d. vitide () () Vitide
番号	遺跡名	調査年度	時代:主な遺構・出土遺物
-	元総社蒼海遺跡群 (68)	2013	奈良:住居跡、中世以降:方形竪穴
-	元総社蒼海遺跡群 (72)	2013	平安:住居跡 ◇灰釉
-	元総社蒼海遺跡群 (73)	2013	時期不明:道路状遺構
	元総社蒼海遺跡群 (74)	2014	古墳・平安:住居跡、中世:井戸
-	元総社蒼海遺跡群 (75)	2014	平安:住居跡 中世:堀跡(蒼海城) ◇埴輪
-	元総社蒼海遺跡群 (76)	2014	平安:住居跡 ◇灰釉·灯明具
-	元総社蒼海遺跡群 (77)	2014	(遺構僅か)
-	元総社蒼海遺跡群 (78)	2014	古墳·飛鳥·平安:住居跡、中世:井戸 ◇灰釉·埴輪·鉄鍵ヵ
-	元総社蒼海遺跡群 (79)	2014	古墳~奈良:住居跡、平安:住居跡・土坑墓 ◇緑釉・灰釉・鉄鏃・権・臼玉・墨書「方」ヵ
-	元総社蒼海遺跡群 (80)	2014	古墳~平安:住居跡
-	元総社蒼海遺跡群 (81)	2014	古墳: 方形周溝墓・住居跡、飛鳥: 住居跡、奈良・平安: 住居跡・竪穴状遺構 ◇紡錘車・管玉・臼玉・石製模造品
-	元総社蒼海遺跡群 (82)	2014	古墳・平安:住居跡
-	元総社蒼海遺跡群 (83)	2014	(遺構僅か)
-	元総社蒼海遺跡群 (84)	2014	飛鳥:住居跡 ◇高盤
-	元総社蒼海遺跡群 (85)	2014	飛鳥~平安:住居跡、中世:堀跡(蒼海城) ◇緑釉・灰釉・羽口
	元総社蒼海遺跡群 (88)	2014	時期不明:畠跡
_	元総社蒼海遺跡群 (89)	2014	中世:竪穴状遺構
_	元総社蒼海遺跡群 (90)	2014	中世:竪穴状遺構
-	元総社蒼海遺跡群 (91)	2014	飛鳥~平安:住居跡、中世:堀跡(蒼海城) ◇灰釉・盤・金銅小仏
	元総社蒼海遺跡群(92)	2014	(遺構なし)
-		2014	
	元総社蒼海遺跡群(94)		中世:堀跡(蒼海城) ◇鉄滓
-	元総社蒼海遺跡群 (95)	2014	古墳・飛鳥:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・大溝
	元総社蒼海遺跡群 (96)	2014	(遺構なし) [国庁C条推定域]
-	元総社蒼海遺跡群 (97)	2014	平安:住居跡、中世:堀跡(蒼海城) ◇灰釉・灯明具・馬具
-	元総社蒼海遺跡群 (98)	2014	中世:掘立柱建物跡 [国庁 C 案推定域]
-	元総社蒼海遺跡群 (99) ·	2015	奈良·平安: 掘込地業建物跡 [国庁 C 案推定域]
	上野国府等範囲内容確認調査 33・34 トレンチ		
-	元総社蒼海遺跡群 (100)	2014	古墳: 周溝墓、飛鳥: 住居跡、奈良・平安: 住居跡・掘立柱建物跡、中世: 掘立柱建物跡・道路状遺構 ◇縄文土器 (晩期) 灰釉・ 鉄滓・埴輪
\vdash		-	編文: 竪穴状遺構・土坑墓、飛鳥・奈良:住居跡、平安:住居跡・掘立柱建物跡・土坑墓、中世:堀跡(蒼海城)・掘立柱建物跡
-	元総社蒼海遺跡群(101)	2014	一
-	元総社蒼海遺跡群 (102)	2015	中世:堀跡 ◇灯明具 [国庁B案推定域]
	元総社蒼海遺跡群 (103)	2015	縄文:住居跡、古墳~平安:住居跡 ◇縄文土器(前・中期)・灰釉・盤状坏・灯明具・「有鍔台付鉢」
	元総社蒼海遺跡群(116)	2016	
-	元総社蒼海遺跡群 (117)	2016	飛鳥:住居跡、奈良・平安:区画溝
-	元総社蒼海遺跡群 (118)	2016	平安:住居跡・土坑墓、中世以降:粘土採掘坑 ◇灰釉・国分寺鬼瓦・鉄鏃
-	元総社蒼海遺跡群(120)	2016	平安:掘立柱建物跡 〈縄文土器(前期)
	元総社蒼海遺跡群(121)	2016	飛鳥: 住居跡・区画溝、奈良・平安: 区画溝・土坑墓 ◇貝巣穴痕軟質泥岩
			古墳:竪穴状遺構、飛鳥・奈良:住居跡、平安:住居跡・掘込地業建物跡・竪穴状遺構、中世:道路状遺構・堀跡(蒼海城)・土塁跡(蒼
-	元総社蒼海遺跡群(122)	2016	「一直要、全人が心思性、尾種、水泉・山川市、「メ・山市市、加速心を大変です」。 マノが心とは、下に・原本は小田市、海市、「高イチル) 「土空町「高 「海城」 (※ 緑釉・灰釉・ 円面観・馬具・鉄鏃・紡錘車・土錘・白玉・刻書・第一、墨書・『黒書 「田」 カ 「代」 カ
-	元総社蒼海遺跡群 (123)	2016	
-	元総社蒼海遺跡群(124)	2017	中世: 堀跡 (蒼海城) · 土塁 (蒼海城) ◇埴輪·火打金
-	元総社蒼海遺跡群 (17 街区)	2015	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・道路状遺構、中世:土坑墓・火葬跡 ◇こね鉢ヵ・板碑
			古墳:畠・粘土採掘坑、奈良・平安:住居跡・粘土採掘坑、中世:堀跡(蒼海城)・掘立柱建物跡 ◇縄文土器(中・後期)・灰釉・
-	元総社蒼海遺跡群(93 街区)	2016	田文环、転用砚、紡錘車、鉄滓
	二份社工目海時	2000	縄文・古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構 ◇縄文土器(中期)・緑釉・灰釉・水瓶・円面硯・馬具・鉄鏃・
_	元総社小見遺跡	2000	紡錘車·臼玉
_	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:道路状遺構 ◇縄文土器(中期)・緑釉・灰釉・三足盤・
	为6.66年17.76年12.669	2002	双耳坏・灯明具・鉄鏃・鉄斧・鉗子・墨書「市」・紡錘車・臼玉
_	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳・飛鳥:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世以降:堀跡(蒼海城)・道路状遺構・土坑墓 ◇縄文土器(中期)・
	- MIII Daviest	2000	緑釉・灰釉・暗文坏・国分寺鬼瓦・耳環・臼玉
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文・古墳〜平安:住居跡、中世:道路跡 ◇縄文土器(中期)・灰釉・灯明具・鉄鏃・弓筈カ・紡錘車・土錘
	元総社小見 V 遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:畠跡 ◇縄文土器(前~後期)・灰釉
-	元総社小見VI遺跡	2004	縄文・古墳~平安:住居跡 ◇縄文土器(前・中期)・緑釉・灰釉・水瓶・鉄鏃・鉄斧・鉄鋤・鉄鎌・腰帯具・紡錘車・権ヵ・墨書「庄」
_	元公社小月由田海 驻	2001	弥生:住居跡、古墳:住居跡、飛鳥:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構・土坑墓、中世:掘立柱建物跡・ 方形竪穴・堀跡(蒼海城)・道路状遺構・土坑墓・火葬墓 ◇縄文土器(中期)・弥生土器(中期)・緑釉・灰釉・盤・こね鉢・暗文坏・
_	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	刀ル空八・塩砂、(官伊城) "退的化退時、上功益、八弁益、〈神以上苗(中朔)、外生上碕(中朔)、林和・水相・盤・こね鉢・喧又外・風字硯、鉄鏃・人打金・鉗子・衛金具・腰管具・竜形上製品・口玉
			飛鳥:住居跡、奈良・平安:住居跡・堀立柱建物跡・竪穴状遺構・道路状遺構・周溝状遺構、中世:堀跡(蒼海城)・土坑墓 ◇灰釉・
-	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	飛鳥・江石跡、景良・十女・江石跡・福立仕走初跡・笠八八退傳・追拾八退傳・同傳小退傳、中臣・堀跡(音傳城)・工児差 ◇炊柚・盤・こね鉢
_	元经社小目由证海时	9009	古墳・飛鳥:住居跡、平安:住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構・砂岩採掘坑、中世:掘立柱建物跡 ◇灰釉・須恵器「壺G」・
	元総社小見内VI遺跡	2003	鉄鏃· 白玉
-	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	縄文:住居跡、飛鳥:住居跡、奈良·平安:大溝 ◇縄文土器(中期)・盤
-	元総社小見内WI遺跡	2003	奈良・平安:住居跡、中世:方形竪穴 ◇高盤・こね鉢・暗文坏
-	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構・土器埋納坑 ◇灰釉・盤・灯明具・鉄鏃・紡錘車
_	元総社小見内X遺跡	2004	奈良・平安:住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世:堀跡(蒼海城)・土坑墓・火葬跡・道路状遺構 ◇縄文土器(晩期)・灰釉・金片・
			金粒
-	元総社草作遺跡	1984	飛鳥~平安:住居跡 ◇縄文土器(中期)・高盤・腰帯具・白磁(15c)・青磁(13c)
-	元総社草作V遺跡	2002	古墳~平安:住居跡・粘土採掘坑、中世以降:堀跡(蒼海城)・土坑墓・火葬跡 ◇白磁(11c ~ 12c)・鉄鏃・臼玉
-	元総社宅地遺跡1~8トレンチ	2000	古墳・平安:住居跡 ◇紡錘車 [国庁 D 条推定域]
-	元総社宅地遺跡 9 ~ 18・21 トレンチ	2000	中世:堀跡(蒼海城)・方形竪穴 [国庁 B 案推定域]
-	元総社宅地遺跡 19 トレンチ	2000	中世: 堀跡 (蒼海城) [国庁 C 案推定域]
-	元総社宅地遺跡 20 トレンチ	2000	(遺構僅か) [国庁 A 案推定域]
_	元総社宅地遺跡 22・23 トレンチ・	2000 · 2012	古墳:住居跡、飛鳥~平安:住居跡(平安)・掘立柱建物跡(奈良)・大溝・道路状遺構 ◇ 獣脚土器
	上野国府等範囲内容確認調査 13 トレンチ		
-	上野国府等範囲内容確認調査1~7トレンチ	2011	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡(平安)・大溝・道路状遺構 [国庁 A 案推定域]
_	上野国府等範囲内容確認調査	2012	 古墳:住居跡、奈良(8c 前半):住居跡、奈良~平安:住居跡・掘込地楽建物跡 ◇石製模造品 [国庁 C 案推定域]
\vdash	8~11・13・14・28トレンチ		
-	上野国府等範囲内容確認調査12トレンチ	2012	古墳・平安:住居跡
-	上野国府等範囲内容確認調査27トレンチ	2016	平安:住居跡 ◇緑釉・灰釉
-	上野国府等範囲内容確認調査28トレンチ	2016	古墳:住居跡、奈良:掘込地業建物跡、平安:住居跡·掘込地業建物跡 ◇銅滓
-	上野国府等範囲内容確認調査 29 トレンチ	2016	奈良・平安:大溝、中世:堀跡(蒼海城) ◇墨書「夫」ヵ
-	上野国府等範囲内容確認調査40トレンチ	2017	奈良・平安: 大溝
_	上野国分尼寺(上野国分尼寺寺域確認調査)	1969 · 1970 ·	 奈良:講堂跡・金堂跡・中門跡・東門跡・築地塀跡・住居跡、平安:住居跡
		1999 · 2000	
-	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安:住居跡・堀立柱建物跡・用水路ヵ、中世:畠跡 ◇緑釉・灰釉・勾玉・管玉
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳:住居跡、平安:住居跡 ◇緑釉·灰釉·銅鉢·紡錘車・管玉·鉄滓
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・畠跡 ◇緑釉・灰釉・石製模造品・紡錘車
-	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳:畠跡、中世以降:道路状遺構・畠跡
-	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳:水田跡·畠跡 ◇縄文土器(前~晩期) ·灰釉·鉄滓·勾玉
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳・平安:住居跡 ◇灰釉・管玉
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文·古墳~平安:住居跡 ◇灯明具
-	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡		古墳:水田跡・畠跡



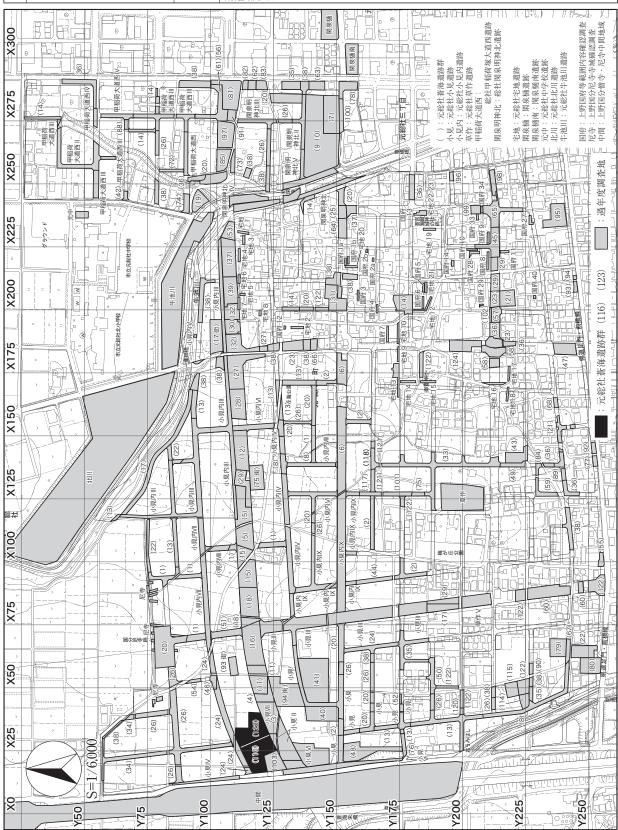


Fig. 4 周辺調査地点とグリッド設定図

Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業地内であり、調査面積は元総社蒼海遺跡群 (116) が 1,830 ㎡、元総社蒼海遺跡群 (123) が 1,606 ㎡である。グリッド座標については国家座標 (日本測地系第IX系) X = 44000.000、Y = - 72200.000 を基点とする 4 mピッチのものを使用し、経線を X、緯線を Yとして北西隅を基点に番付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点 日本測地系 (第Ⅸ系)

世界測地系 (第111系 測地成果 2011)

(116) X 20, Y 120 X = 43520.000 m, Y = -72120.000 m X = 43874.846 m, Y = -72411.290 m

(123) X = 30, Y = 115 X = 43540.000 m, Y = -72080.000 m X = 43894.845 m, Y = -72371.290 m

発掘調査は遺構確認面まで重機 (0.7 ㎡バックホー) にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo.遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行なった。記録写真は35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区全景撮影についてはラジコンへリコプターでの撮影を実施した。

整理作業における出土遺物の計測は、従来の手実測からキーエンス社製 3 Dスキャナー(VL-300)による機械計測に切り替えた。誤差 1 mm の 1/1,000 という高精度な全点取得が可能で、従来の 2 次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

2 調査経過

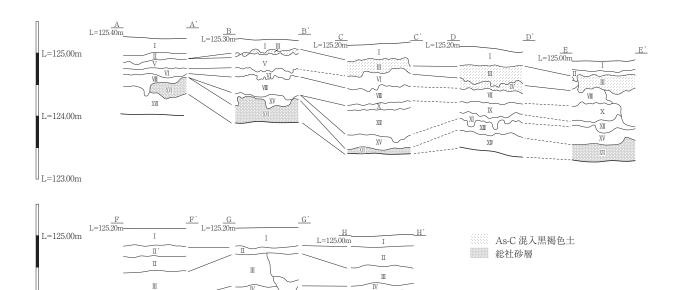
元総社蒼海遺跡群 (116) の発掘調査は、表土掘削を平成28年4月12日から4月15日まで実施した。緩斜面となっている現況とは異なり、地点によって表土厚に差異があることが判明した。続けて鋤簾を用いて人力で遺構確認作業を行ったが、遺構の密度が極めて高いことから、撹乱下の遺構の有無については慎重に判断した。順次調査を進め、7月21日に古代面の全景撮影を実施した。住居跡掘り方等の確認をした後に、縄文面の調査を行い、10月6日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。なお、10月5日のバックフォーによる井戸底面確認作業中に郷名墨書瓦が出土している。

元総社蒼海遺跡群(123)の発掘調査は、表土掘削を平成28年10月11日から15日まで行った。表土掘削に並行して遺構確認作業を行い、10月19日から遺構調査を開始した。古墳時代前期から平安時代を中心とした時期の遺構の調査を行い、12月26日に古代面の全景撮影を行った。古代面遺構の記録作業・住居跡掘り方などの確認調査を実施した後、平成29年1月11日より縄文面の調査を行い、2月24日に終了した。2月27日から調査区の埋め戻しと並行して撤収作業を行い、3月3日に現地での発掘調査を終了した。

両遺跡共に、平成30年3月22日より本格的に出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

IV 基本層序

元総社蒼海遺跡群(116) (123) の調査区は、相馬ヶ原扇状地が前橋台地に隣接する扇端部に立地し、榛名山東南麓の北群馬郡榛東村広馬場に端を発する染谷川が、山裾の傾斜の変化に伴い東南東から南東へと流路を変更する左岸上に位置する。右岸および上野国分寺跡が立地する北側左岸は比較的旧状を留めているが、元総社蒼海



L=124.00m

∐_{L=123.00m}

TV.

VI

VIII

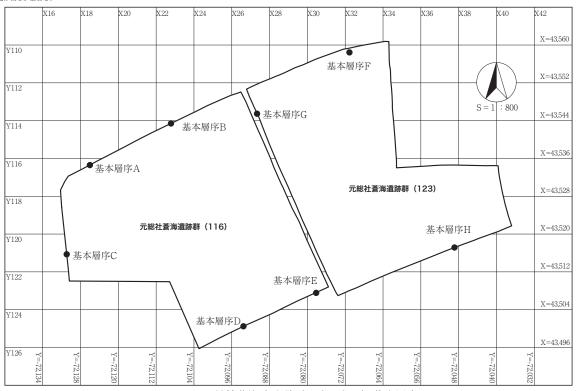
- 17 (* 17 (* 17 (* 18)

VI VII

- 元総社畜海遺跡群(123)基本層序F・G・H I 暗褐色土(10YR3/3) 締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。表土層。 I 褐色土(10YR4/4) 締まり・粘性弱い。黒褐色ブロックを中量含む。耕作土層。 II 黄褐色土(10YR5/4) 締まり強く、粘性弱い。糸を圧軽石紋を中量含む。遺構確認面。 IV によい黄橙色土(10YR5/4) 締まり・粘性弱い。総社砂層漸移層。部分的に粘性の強い箇所

1:60 1 m

- (こが)東陸也工 (1017 RO/4) 物まり、れには切い。 8014 PO 7 mm 1 ア が見られる。
 にぶい黄橙色土 (107 RS/4) 締まり強く、粘性弱い、終社砂層。
 灰白色土 (107 RS/2) 締まり強く、粘性弱い。 黄褐色砂粒を微量含む。
 明貞褐色土 (107 RS/2) 締まり強く、粘性弱い。 黄褐色砂粒を微量含む。



元総社蒼海遺跡群(116) · (123) 基本層序

地区は区画整理以前の圃場整備によって、水田耕作に適した緩やかな傾斜をもつ平坦地へと変貌している。調査区周辺の地形を仔細に観察すると、南東流する地点、現在の関越自動車道とその側道付近にはかつて自然堤防が発達していたことがわかる(Fig. 6)。この自然堤防は、(116)調査時における遺構確認面が調査区中央を境として、東側が総社砂層を多く含む黄褐色土、西側がより上層の黒褐色土となり、さらに西にいくにつれて黒褐色土の堆積厚が増すことが痕跡として認められることから、自然堤防外縁が付近にあったことを示唆している(巻頭図版2)。この起伏は、確認面下の総社砂層においても継承されており、断面A-B-Fでは東方向に傾斜し、E-Hでは平坦に近い状態となる。また、断面D付近では、総社砂層相当層および上下の層序が周囲と異なり、非常に粘性の強い土層が確認されている。この粘質土が認められる範囲では、粘土採掘坑と考えられる複数の土坑状の掘り込みが重なった状態で検出している。周囲の調査事例から判断すると、自然堤防外縁境の基本土層D付近を谷頭とした低地帯が、自然堤防に沿って南東方向へと広がっていると推察できる。表土層と旧耕作土層は、これら起伏のある旧地形を緩やかに平夷化していることから、より削平された西側の遺構密度と遺存度に影響を与えている可能性がある。

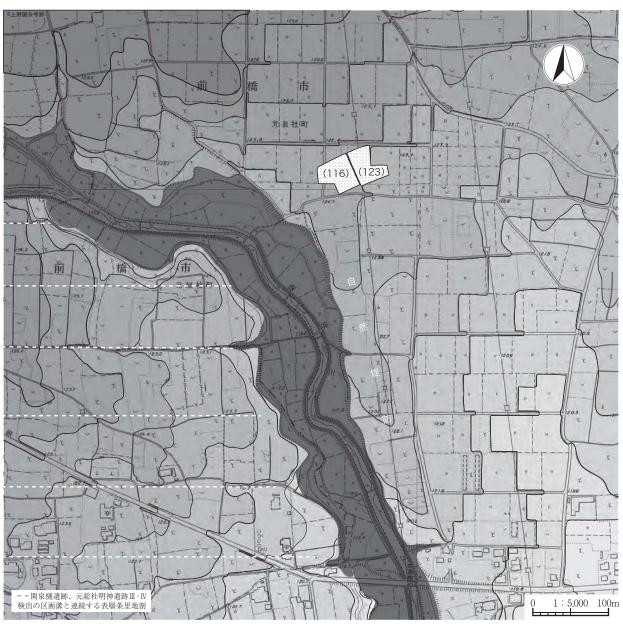


Fig.6 遺跡の位置と区画整理前の地形

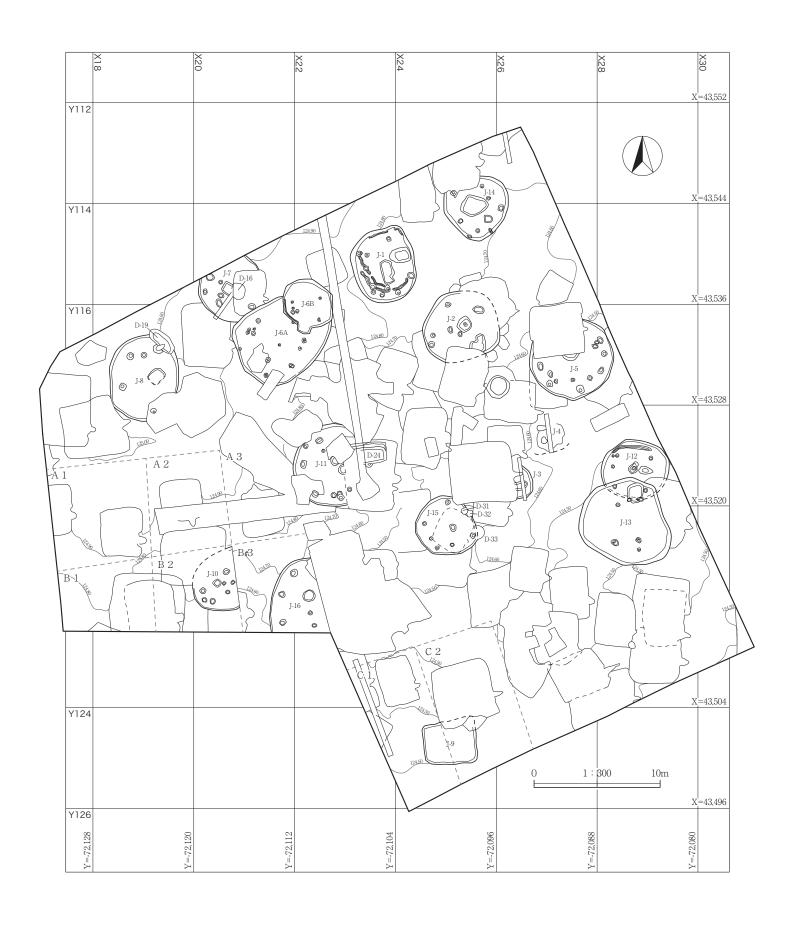


Fig. 7 元総社蒼海遺跡群(116)全体図(縄文時代)

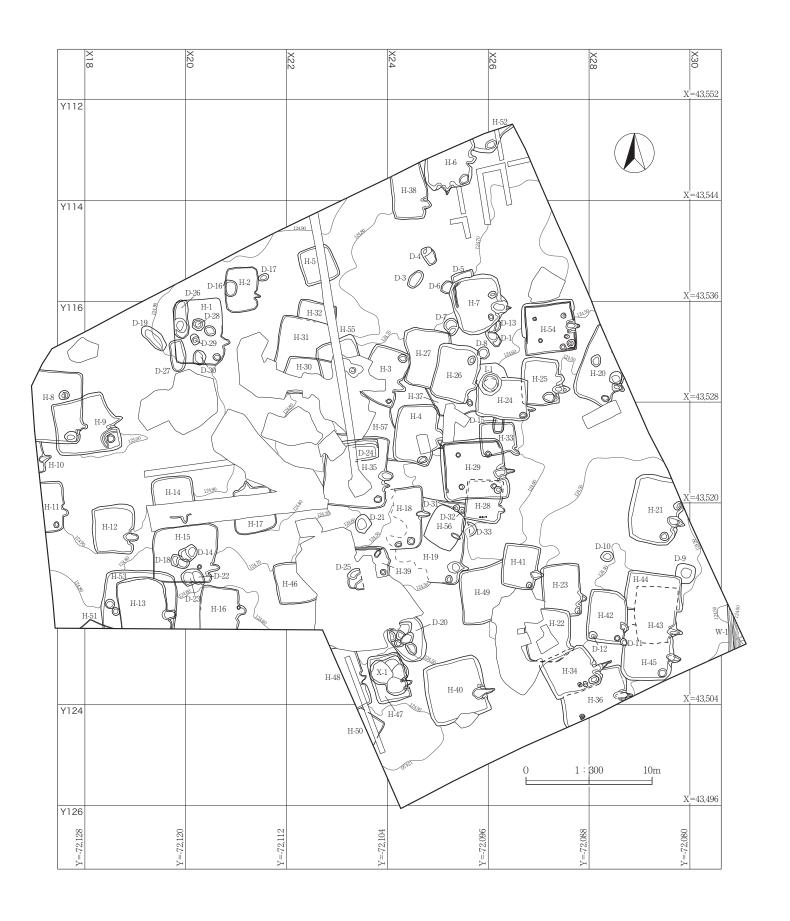


Fig. 8 元総社蒼海遺跡群(116)全体図(古墳時代以降)

V 遺構と遺物

1 元総社蒼海遺跡群(116)

(1) 竪穴住居跡

J-1号住居跡(Fig. 9 · 54、PL. 2 · 37)

位置 X 23・24、Y 114・115 規模 東西軸 5.02 m、南北軸 5.91 m、壁現高 0.40 m。調査区北側東寄りから検出した。 面積 24.37 m 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。 重複 無し。 炉 炉A は東壁際から検出。長軸 1.66 m、短軸 1.18 m、深さ 0.25 mを測り、中央に深鉢が埋設されている。焼土は覆土に混在するのみで、火床面は認められない。炉に使用した礫が底面に散在していた。炉Bは住居中央やや南寄りから検出。長軸 1.94 m、短軸 1.02 m、深さ 0.11 mを測り、底面北側に礫が枕石状に埋設されていた。 周溝東側を除いて断続的に検出。南西側は柱穴ラインで 2 重に巡る。 柱穴 10 基検出。P 1 は長軸 0.57 m、短軸 0.54 m、深さ 0.25 m。 P 2 は長軸 0.42 m、短軸 0.41 m、深さ 0.49 m。 P 3 は長軸 0.39 m、短軸 0.35 m、深さ 0.34 m。 P 4 は長軸 0.38 m、短軸 0.35 m、深さ 0.15 m。 P 5 は長軸 0.51 m、短軸 0.47 m、深さ 0.37 m。 P 6 は長軸 0.42 m、短軸 0.36 m、深さ 0.16 m。 P 7 は長軸 0.35 m、短軸 0.32 m、深さ 0.51 m。 P 8 は長軸 0.49 m、短軸 0.38 m、深さ 0.34 m。 P 9 は長軸 0.39 m、短軸 0.34 m、深さ 0.48 m。 P 10 は長軸 0.57 m、短軸 0.41 m、深さ 0.44 mを それぞれ測る。 出土遺物 深鉢 (1~4)鉢 (5・6)、耳栓 (7)、打製石斧 (8~11)、凹基無茎鏃 (12・13)、石皿 (14・15)が出土している。1 は加曽利EⅢ期新相からEⅢ期古相、2・3・5 は加曽利EⅢ期新相、4 は加曽利EⅢ期古層、6 は加曽利EⅢ期を示す。14 は緑泥片岩製で大型の石棒を転用したと考えられる。時期出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J - 2号住居跡(Fig.10·55、PL 2·3·37)

位置 X 24~26、Y 115~157 規模 東西軸 (6.12) m、南北軸 (5.70) m、壁現高 0.40 m。調査区東側から検出した。 面積 27.42 m 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。 重複 H − 7・26・27、D − 1・6・7・8・13 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 7→H − 26→H − 27、D − 1・6・7・8・13 である。 炉 住居中央から 1 基検出。長軸 1.14 m、短軸 1.11 m、中央には深さ 0.41 mのピット状の掘り込みに、深鉢が埋設されている。埋設土器の周囲、立ち上がり部分の地山は焼土化している。上層には被熱した礫と微細な炭化物を多く含む土層が堆積している。他に南壁東寄りから、長軸 (1.44) m、短軸 1.31 m、深さ 0.22 mを測る、L字状の浅い掘り込みが 1 基検出しているが、覆土中に焼土層は認められない。 柱穴 6 基検出。P 1 は長軸 0.50 m、短軸 0.49 m、深さ 0.18 m。P 2 は長軸 0.39 m、短軸 0.38 m、深さ 0.25 m。P 3 は長軸 0.46 m、短軸 0.38 m、深さ 0.54 m。P 4 は長軸 0.91 m、短軸 0.62 m、深さ 0.37 m。P 5 は長軸 0.54 m、短軸 0.40 m、深さ 0.14 m。P 6 は長軸 0.41 m、短軸 0.32 m、深さ 0.10 mをそれぞれ測る。 出土遺物 浅鉢 (1)、深鉢 (2)が出土している。1 は加曽利EⅢ期新相かららEⅢ期古相、2 は加曽利EⅢ期古層を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J-3号住居跡(Fig.11・55、PL. 3・37)

位置 X 26、Y 119 規模 東西軸 (1.49) m、南北軸 (2.85) m、壁現高 0.21 m。調査区東側中央から検出した。確認面からの掘り込みが浅く、重複により大半が削平されていることから、東側一部のみ調査を行った。 面積 (3.19) ㎡ 床面 総社砂層をベースとして、硬化は弱い。 重複 H − 29 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 29 である。 炉 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 深鉢(1~4)が出土している。1 は加曽利 E Ⅲ期、2 は加曽利 E Ⅲ期中相、4 は加曽利 E Ⅲ期新相を示す。3 は加曽利 E Ⅳ期から E V 期とやや新しく、称名寺並行期と考えられる。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利 E Ⅲ期と想定される。

J-4号住居跡(Fig.11·55、PL. 3·37)

J - 5号住居跡(Fig.12・56、PL. 3・37・38)

位置 X 26~28、Y 116・117 規模 東西軸 6.61 m、南北軸 6.42 m、壁現高 0.33 m。調査区東端中央から検出した。 面積 (22.98) m 床面 総社砂層をベースとして、よく硬化している。 重複 H − 20・25・54 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 54 →H − 20・25 である。 炉 住居中央から検出。北半はH − 54 との重複によって削平されており、長軸 (1.20) m、短軸 (0.77) m、深さ (0.27) mを測る。焼土と灰は覆土に混在するのみで、火床面は認められない。炉に使用した礫が散在していた。 柱穴 12 基検出。P 1 は長軸 0.66 m、短軸 0.42 m、深さ 0.59 m。 P 2 は長軸 0.56 m、短軸 0.38 m、深さ 0.68 m。 P 3 は長軸 0.53 m、短軸 0.47 m、深さ 0.53 m。 P 4 は長軸 0.35 m、短軸 0.29 m、深さ 0.52 m。 P 5 は長軸 0.32 m、短軸 0.29 m、深さ 0.25 m。 P 6 は長軸 0.66 m、短軸 0.57 m、深さ 0.64 m。 P 7 は長軸 0.45 m、短軸 0.42 m、深さ 0.49 m。 P 8 は長軸 0.46 m、短軸 0.45 m、深さ 0.10 m。 P 9 は長軸 0.51 m、短軸 0.35 m、深さ 0.10 m。 P 10 は長軸 0.35 m、短軸 0.27 m、深さ 0.17 m。 P 11 は長軸 0.60 m、短軸 0.41 m、深さ 0.60 m。 P 12 は長軸 0.59 m、短軸 0.39 m、深さ 0.63 mをそれぞれ測る。 出土遺物 器台 (1)、鉢(2~5)、深鉢(6)が出土している。 1・6 は加曽利EⅢ期、2~5 は加曽利EⅢ期新相を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J - 6 A号住居跡(Fig.13・14・56、PL. 3・38)

位置 X 20 ~ 22、Y 115 ~ 117 規模 東西軸 (7.97) m、南北軸 6.34 m、壁現高 0.44 m。調査区北側中央から検出した。当初、J − 6 A・B は同一遺構として調査を開始し、掘り下げていく過程で別住居と判断したため、枝番を付与している。 面積 (32.97) ㎡ 床面 総社砂層をベースとして、中央のみ部分的に硬化しており、周辺は覆土直下から軟質な砂層となっている。 重複 J − 6 B、H − 1 · 2 · 30 · 31 と重複し、新旧関係は J − 6 B → 本遺構→H − 1 → H − 31 → H − 2 → H − 30 である。 炉 検出されず。 柱穴 14 基検出。P 1 は長軸 0.27 m、短軸 0.26 m、深さ 0.35 m。 P 2 は長軸 0.36 m、短軸 0.36 m、深さ 0.34 m。 P 3 は長軸 0.27 m、短軸 0.24 m、深さ 0.55 m。 P 4 は長軸 0.28 m、短軸 0.26 m、深さ 0.29 m。 P 5 は長軸 0.39 m、短軸 0.35 m、深さ 0.45 m。 P 6 は長軸 0.24 m、短軸 0.20 m、深さ 0.52 m。 P 7 は長軸 0.37 m、短軸 0.36 m、深さ 0.75 m。 P 8 は長軸 0.24 m、深さ 0.55 m。 P 9 は長軸 0.36 m、短軸 0.31 m、深さ 0.33 m。 P 10 は長軸 0.33 m、短軸 0.26 m、深さ 0.45 m。 P 11 は長軸 0.22 m、短軸 0.22 m、深さ 0.28 m。 P 12 は長軸 0.44 m、短軸 0.41 m、深さ 0.33 m。 P 13 は長軸 0.41 m、短軸 0.37 m、深さ 0.45 m。 P 14 は長軸 0.23 m、短軸 (0.18) m、深さ 0.34 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢 (1 ~ 5) 、石鏃 (6) 、多孔石 (7) 、台石 (8) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯 c 期と想定される。

J-6B号住居跡(Fig.13・14・57、PL. 3・38)

位置 X 21·22、Y 115·116 規模 東西軸 4.17 m、南北軸 4.34 m、壁現高 0.66 m。調査区北側中央から検出した。 南側に隅丸方形の突出部をもつ。 面積 12.83 m 床面 総社砂層をベースとして、全体的によく硬化してい る。 重複 J-6A、 $H-5\cdot31\cdot32$ と重複し、新旧関係は本遺構 $\rightarrow J-6A$ $\rightarrow H-5\cdot32$ $\rightarrow H-31$ である。 炉 検出されず。 柱穴 6基検出。P 1 は長軸 0.22 m、短軸 0.21 m、深さ 0.27 m。P 2 は長軸 0.21 m、短軸 0.20 m、深さ 0.25 m。P 3 は長軸 0.33 m、短軸 0.32 m、深さ 0.23 m。P 4 は長軸 0.31 m、短軸 0.28 m、深さ 0.18 m。 P 5 は長軸 0.28 m、短軸 0.26 m、深さ 0.16 m。P 6 は長軸 0.21 m、短軸 0.20 m、深さ 0.40 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢 $(1\sim4)$ 、有孔土器 (5) 、玦状耳飾 (6) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から縄 文時代前期後半諸磯 c 期と想定される。

J - 7号住居跡(Fig.14·58、PL. 4·38)

位置 X 20・21、Y 115・116 規模 東西軸 (4.58) m、南北軸 5.26 m、壁現高 0.04 m。調査区北端西寄りからの検出であり、北壁付近は調査区外となる。 面積 (18.96) m 床面 総社砂層と上位の黒褐色土が凹凸によって混在した土層をベースとして、部分的に弱い硬化が認められる。 重複 J-6A、 $H-1\cdot2$ 、D-16 と重複し、新旧関係は J-6A →本遺構 → D-16 → H-1 → H-2 である。 炉 住居中央から 1 基検出。長軸 0.93 m、短軸 (0.84) m、深さ 0.12 mを測り、中央には深鉢が埋設されている。覆土には焼土・灰の混入は認められない。 柱穴 5 基検出。 P 1 は長軸 0.58 m、短軸 0.51 m、深さ 0.12 m。 P 2 は長軸 0.60 m、短軸 0.54 m、深さ 0.09 m。 P 3 は長軸 0.49 m、短軸 0.39 m、深さ 0.09 m。 P 4 は長軸 0.33 m、短軸 0.31 m、深さ 0.11 m。 P 5 は長軸 0.66 m、短軸 0.61 m、深さ 0.11 mをそれぞれ測る。他に北西側から長軸 0.46 m、短軸 0.38 m、深さ 0.21 mを測る掘り込みに、深鉢が埋設された状態で出土している。 出土遺物 深鉢 $(1\sim6)$ が出土している。いずれも加曽利EⅢ期古層を示す。 2 は並行期の郷土式か。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J-8号住居跡 (Fig.15 · 58 \sim 60、PL. 4 · 5 · 39)

位置 X 18・19、Y 116~118 規模 東西軸 5.48 m、南北軸 6.88 m、壁現高 0.35 m。調査区北西から検出し、南東側は一部撹乱によって削平されている。 面積 (30.41) ㎡ 床面 総社砂層と上位の黒褐色土が凹凸によって混在した土層をベースとして、全体的によく硬化している。 重複 H − 9、D − 19と重複し、新旧関係は本遺構→H − 9・D − 19である。 炉 住居中央東寄りから 1 基検出。長軸 1.30 m、短軸 0.17 m、深さ 0.17 mを測り、南から東へかけての 2 辺には石皿等を転用した炉石が設置されている。西から北片についても、周囲に石が散乱した状況が見受けられることから、本来は石囲いがされていたものと想定される。覆土には少量の焼土粒が混入している。炉外の南東側に偏って土器片の出土が認められる。 柱穴 5 基検出。P 1 は長軸 0.44 m、短軸 0.37 m、深さ 0.28 m。 P 2 は長軸 0.54 m、短軸 0.52 m、深さ 0.30 m。 P 3 は長軸 0.59 m、短軸 0.53 m、深さ 0.36 m。 P 4 は長軸 0.46 m、短軸 0.44 m、深さ 0.35 m。 P 5 は長軸(1.00) m、短軸 0.77 m、深さ 0.44 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢(1~6)、土製円盤(7・8)、磨製石斧(9)、打製石斧(10・11)、石皿(12~14)が出土している。 1 は加曽利EⅡ期新相からEⅢ期古相、2・3・5・6 は加曽利EⅡ期、4 は加曽利EⅢ期を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅡ期と想定される。

J-9号住居跡(Fig.16、PL. 5)

位置 X 24·25、Y 124·125 規模 東西軸 4.24 m、南北軸 3.71 m、壁現高 0.39 m。調査区南側中央から検出した。面積 14.06 ㎡ 床面 粘性の強い黒褐色土と黄褐色土が、凹凸によって混在している面をベースとして、硬化は弱い。 重複 H − 40 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 40 である。 炉 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 いずれも小破片で、図示には至らなかった。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸 磯 c 期と想定される。

J - 10 号住居跡(Fig.16 · 57、PL. 5 · 39)

位置 X 20、Y 120 \sim 122 規模 東西軸 (3.76) m、南北軸 (5.09) m、壁現高 0.28 m。調査区西側南寄りから検出した。 面積 (14.05) m 床面 粘性の強い黒褐色土と黄褐色土が、凹凸によって混在している面を

ベースとして、硬化は弱い。 重複 H - 15、D - 22・23 と重複し、新旧関係は本遺構 \rightarrow D - 22・23 \rightarrow H - 15である。 炉 住居中央西寄りから 1 基検出。長軸(5.09) m、短軸(3.76) m、深さ 0.23 mを測り、 4 辺に 台石等を転用して配した石囲い炉で、西コーナーのみ小型の多孔石が据付けられている。炉中央には深鉢が埋設されている。 覆土中に焼土ブロックの混入は少量だが、炉底面の地山層は部分的に被熱によって焼土化している。 柱穴 4 基検出。 P 1 は長軸 0.54 m、短軸 0.47 m、深さ 0.26 m。 P 2 は長軸 0.36 m、短軸 0.35 m、深さ 0.16 m。 P 3 は長軸 0.30 m、短軸 0.30 m、深さ 0.15 m。 P 4 は長軸 0.33 m、短軸 0.32 m、深さ 0.11 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢(1・2)、多孔石(3)が出土している。 1 は加曽利EⅢ期古相、2 は加曽利EⅢ期新相を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J - 11 号住居跡(Fig.17・60、PL. 5 ・ 6 ・ 39)

位置 X 21 ~ 23、Y 118 ~ 120 規模 東西軸 (4.90) m、南北軸 6.56 m、壁現高 0.29 m。調査区中央から検出した。複数の撹乱によって壁面および床面の一部が削平されている。 面積 (25.10) ㎡ 床面 総社砂層と上層の黒褐色土が凹凸によって混在している面をベースとして、硬化は弱い。 重複 H − 35、D − 24と重複し、新旧関係は本遺構→D − 24→H − 35である。 炉 検出されず。 柱穴 9基検出。P 1 は長軸 0.65 m、短軸 0.50 m、深さ 0.54 m。 P 2 は長軸 0.37 m、短軸 0.36 m、深さ 0.22 m。 P 3 は長軸 0.57 m、短軸 0.45 m、深さ 0.50 m。 P 4 は長軸 0.28 m、短軸 0.27 m、深さ 0.22 m。 P 5 は長軸 0.82 m、短軸 (0.52) m、深さ 0.30 m、P 6 は長軸 0.40 m、短軸 0.36 m、深さ 0.08 m。 P 7 は長軸 0.78 m、短軸 0.51 m、深さ 0.39 m。 P 8 は長軸 0.51 m、短軸 0.48 m、深さ 0.37 m。 P 9 は長軸 0.63 m、短軸 0.29 m、深さ 0.48 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢 (1・2)、凹基無茎鏃 (3)、多孔石 (4)が出土している。 1 は加曽利EI期新相からEI期古相、2 は加曽利EI期古相を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EI期お包定される。

J-12号住居跡 (Fig.18 · 19 · 60、PL. 6 · 40)

位置 X 28・29、Y 118・119 規模 東西軸 5.41 m、南北軸 4.73 m、壁現高 0.47 m。調査区東端南寄りから検出した。 面積 (14.19) ㎡ 床面 総社砂層をベースとして、全体的によく硬化している。 重複 J − 13、H − 21と重複し、新旧関係は J − 13→本遺構→H − 21である。 炉 住居中央から検出。長軸 1.01 m、短軸 0.71 m、深さ 0.16 mを測る。底部中央は被熱により焼土化しており、覆土中には焼土と灰が混在している。周溝 北側のみ 1 条検出。 柱穴 4 基検出。 P 1 は長軸 0.29 m、短軸 0.27 m、深さ 0.11 m。 P 2 は長軸 0.21 m、短軸 0.20 m、深さ 0.43 m。 P 3 は長軸 0.31 m、短軸 0.28 m、深さ 0.53 m。 P 4 は長軸 0.33 m、短軸 0.30 m、深さ 0.56 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢(1・2)、打製石斧(3)、石皿(4)が出土している。 1 は加曽利E II 期新相からE III 期古相、 2 は加曽利E II 期古相を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利E II 期と想定される。

J-13号住居跡 (Fig.18 · 19 · 61、PL. 6 · 40)

位置 $X 27 \sim 29$ 、 $Y 119 \sim 121$ 規模 東西軸 7.33 m、南北軸 6.97 m、壁現高 0.76 m。調査区東端南寄りから検出した。 面積 38.74 ㎡ 床面 総社砂層をベースとして、やや凹凸がある床となっており、中央一部のみ硬化している。 重複 J-12、H-21 と重複し、新旧関係は本遺構 $J-12 \rightarrow H-21$ である。 炉 検出されず。 柱穴 8 基検出。 P 1 は長軸 0.65 m、短軸 0.50 m、深さ 0.54 m。 P 2 は長軸 0.37 m、短軸 0.36 m、深さ 0.22 m。 P 3 は長軸 0.57 m、短軸 0.45 m、深さ 0.50 m。 P 4 は長軸 0.28 m、短軸 0.27 m、深さ 0.22 m。 P 5 は長軸 0.82 m、短軸 0.50 m、深さ 0.30 m、P 6 は長軸 0.40 m、短軸 0.36 m、深さ 0.08 m。 P 7 は長軸 0.78 m、短軸 0.51 m、深さ 0.39 m。 P 8 は長軸 0.51 m、短軸 0.48 m、深さ 0.37 mをそれぞれ測る。南北に 2 列に配置され、P 5 は中央北側から検出している。 出土遺物 深鉢 $(1 \sim 5)$ 、磨製石斧(6)、打製石斧(7)、平基無茎鏃(8)、凹基無茎鏃(9)、石核(100)、小型石皿(111)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代前期後半諸磯 100 mと想定される。

J-14号住居跡(Fig.19·61·62、PL. 6·40)

位置 X 24~26、Y 113・114 規模 東西軸 (5.12) m、南北軸 5.15 m、壁現高 0.40 m。調査区北東隅から検出した。 面積 (17.94) ㎡ 床面 総社砂層をベースとして、全体的にやや硬化している。 重複 H − 6と重複し、新旧関係は本遺構→H − 6である。 炉 2基検出。住居中央から検出した炉Aは、長軸 1.95 m、短軸 1.74 m、深さ 0.24 mを測る。底部中央には深鉢が埋設され、焼土粒と小礫を覆土に含む。南東側の炉B は、長軸 0.69 m、短軸 0.58 m、深さ 0.19 mを測り、覆土に焼土の混入は認められない。隣接する南東壁付近には、深さ 0.06 mの浅い窪みに深鉢が埋設されている。 柱穴 9基検出。P 1 は長軸 0.24 m、短軸 0.24 m、深さ 0.17 m。P 2 は長軸 0.22 m、短軸 0.21 m、深さ 0.16 m。P 3 は長軸 0.34 m、短軸 0.33 m、深さ 0.34 m。P 4 は長軸 0.38 m、短軸 0.25 m、深さ 0.20 m。P 5 は長軸 0.40 m、短軸 0.37 m、深さ 0.14 m、P 6 は長軸 0.47 m、短軸 0.44 m、深さ 0.35 m。P 7 は長軸 0.32 m、短軸 0.31 m、深さ 0.33 m。P 8 は長軸 0.35 m、短軸 0.27 m、深さ 0.15 m。P 9 は長軸 0.51 m、短軸 0.44 m、深さ 0.21 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢 (1・3)、浅鉢 (2)、鉢 (4)、磨製石斧 (5) が出土している。1 は加曽利EⅢ期新相からEⅢ期古相、2・3 は加曽利EⅢ期古相、4 は加曽利EⅢ期を示す。4 は (116) J-1号住居跡出土遺物 6 と (123) J-11 号住居跡出土遺物 3 と接合する。時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期と想定される。

J - 15 号住居跡(Fig.20 · 62、PL. 6 · 40)

位置 X 24・25、Y 119・120 規模 東西軸 4.95 m、南北軸 4.68 m、壁現高 0.33 m。調査区中央南東寄りから検出した。 面積 18.19 m 床面 総社砂層と上層の黒褐色土が凹凸によって混在している土層をベースとして、やや硬化が弱い。 重複 H − 18・19・28・29、D − 31・32・33と重複し、新旧関係は本遺構→H − 29→H − 18→H − 19・28、D − 31・32・33である。 炉 住居中央に 1 基検出。長軸 0.62 m、短軸 0.50 m、深さ 0.10 mを測る。覆土中に焼土粒を少量含む。 柱穴 6 基検出。P 1 は長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 0.43 m。P 2 は長軸 0.33 m、短軸 0.33 m、深さ 0.41 m。P 3 は長軸 0.30 m、短軸 0.29 m、深さ 0.46 m。P 4 は長軸 0.33 m、短軸 0.32 m、深さ 0.26 m。P 5 は長軸 0.34 m、短軸 0.31 m、深さ 0.18 m、P 6 は長軸 0.46 m、短軸 0.39 m、深さ 0.41 mをそれぞれ測る。 出土遺物 深鉢 (1~4)、打製石斧 (5・6)、石錐 (7)が出土している。 1 は加曽利EⅢ期、2 は加曽利EⅢ期古相、3 は曽利Ⅲ期、4 は加曽利EⅢ期新相または並行期の郷土式、曽利Ⅲ期を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EⅢ期お想定される。

J-16号住居跡(Fig.20·62、PL. 7·41)

位置 X 21・22、Y 121・122 規模 東西軸 (4.83) m、南北軸 (5.97) m、壁現高 0.26 m。調査区南壁西寄りから検出し、東半は撹乱によって削平され、南半は調査区外となる。 面積 (20.97) ㎡ 床面 粘性の強い黒褐色土をベースとして、全体的にやや硬化している。 重複 H − 46と重複し、新旧関係は本遺構→H − 46である。 炉 住居中央に1基検出。長軸 0.95 m、短軸 0.92 m、深さ 0.33 mを測り、北側には多孔石が枕石状に据付けられている。中央北寄りには浅鉢が埋設されており、土器の口縁、深さ 0.11 m付近によく硬化したリング状の火床面が確認されている。 柱穴 5基検出。P1は長軸 0.62 m、短軸 0.57 m、深さ 0.41 m。P2は長軸 0.53 m、短軸 0.51 m、深さ 0.51 m。P3は長軸 0.53 m、短軸 0.50 m、深さ 0.62 m。P4は長軸 0.40 m、短軸 0.30 m、深さ 0.56 m。P5は長軸 0.37 m、短軸 0.35 m、深さ 0.14 mをそれぞれ測る。 出土遺物 鉢 (1)、深鉢 (2)、土製円盤 (3)、打製石斧 (4)、円基鏃 (5)、石皿 (6)が出土している。1は加曽利EI期、2は加曽利EI期を示す。 時期 出土遺物の傾向から縄文時代中期後半加曽利EI期と想定される。

H-1号住居跡(Fig.21·63、PL. 8·41)

位置 X 19・20、Y 115 \sim 117 主軸方向 N - 91° - E 規模 東西軸 4.07 m、南北軸 5.32 m、壁現高 0.05 m。 調査区北側から検出された。遺構確認時には床が一部露出し、カマド崩落の焼土層が散在している状況で、極めて浅い。 面積 19.50 m 床面 カマド焚口付近から貯蔵穴、中央にかけてはよく硬化しているが、壁付近の

硬化は弱い。 重複 J-7、D-26~30と重複し、新旧関係はJ-7→D-26~30→本遺構である。 カマド 東壁南側に1基検出。確認長 0.96 m、燃焼部幅 0.55 m、袖の残存長は右(南)が 0.20 m、左(北)が 0.16 m、煙道は壁外に 0.59 m突出している。検出深が浅いために判然としないが、燃焼部奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。燃焼部内壁北側には、構築部材として丸瓦が 1 点据付られていた。また、崩落土中からも構築部材として利用されたと考えられる瓦が複数出土している。 天井部は完全に崩落しており、焚口から北西方向に焼土粒を多く含む崩落土層が、南西方向に黒色灰が堆積している。 貯蔵穴 南東寄りに検出。長軸 0.61 m、短軸 0.57 m、深さ 0.20 mを測る。 柱穴 検出されず。 掘り方 黄色砂粒ブロック、As-C 軽石粒を少量含んだ黒褐色土が部分的に貼付された地山硬化床。 出土遺物 床面直上から須恵器坏(1・2・3)、凸部にヘラ記号が刻まれた平瓦片(5・6)、カマド燃焼部から土師器甕(4)、焚口付近から、凸部にヘラ記号が刻まれたカマド構築部材と想定される丸瓦片(6)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から、9世紀後半と想定される。

H-2号住居跡(Fig.21·63、PL. 8·41)

H-3号住居跡(Fig.22·64、PL. 8·41)

位置 X 23・24、Y 116~118 主軸方向 N − 114°-E 規模 東西軸 3.25 m、南北軸 3.25 m、壁現高 0.31 m。調査区中央から検出した。西壁南側は撹乱によって消失している。 面積 13.47 m 床面 全体的によく硬化している。 重複 H − 27・57 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 27・57 である。 カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 1.08 m、燃焼部幅 0.55 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.26 m、左(北)が 0.30 m、煙道は壁外に 0.51 m突出している。崩落土中からは、構築部材として転用された瓦片が複数出土している。掻き出された灰層は、焚口から左右の東壁に沿って薄く堆積している。 貯蔵穴 長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 0.39 mを測る隅丸方形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。この貯蔵穴上部を覆うように、平瓦 2枚が凸面を上にして設置されていた。北西隅からは長軸 0.73 m、短軸 0.63 m、深さ 0.12 mを測る楕円形の浅い掘り込みが検出している。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かく浅い凹凸に As-C軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 須恵器高台付埦(1)、土師器坏(2)、土師器甕(3)、凹面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦(4)、凸面に叩き具で「夕大」(多胡郡大家郷か)と陽刻された平瓦(5)、鉄製刀子(6)、石製紡錘車(7)が出土している。 1・7は住居覆土中、 2~5がカマド崩落土中、 6が床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-4号住居跡(Fig.23·64、PL. 8·41·42)

位置 X 24・25、Y 118・119 主軸方向 N - 98°-E 規模 東西軸 3.31 m、南北軸 4.94 m、壁現高 0.40 m。調査区中央からの検出であり、Bカマド煙道部およびAカマド焚口手前は、撹乱によって遺構面が消失して

面積 15.45 m 床面 カマド付近から貯蔵穴、住居中央部にかけてよく硬化している。 重複 H-いる。 29・37・57 と重複し、新旧関係はH - 29・37・57 →本遺構である。 カマド 東壁中央に 2 基検出。南側に位 置するAカマドは、確認長(1.10) m、燃焼部幅0.59 m、天井部は完全に崩落しており、右袖(南) は僅かな膨 らみが残っているものの、左袖(北)は構築部材として据付けた、面取りされた砂岩が1点遺存するのみである。 北側に位置するBカマドは、確認長(0.64) m、燃焼部幅0.63 m、天井部は完全に崩落しており、袖の形状は不明。 この2基のカマドの新旧は、Aカマド覆土に崩落した焼土ブロックが多く、直下に白色灰の堆積と燃焼部火床面 の焼土層が確認できること。Bカマドは焼土ブロックの混入が極めて少なく、灰層が認められないこと。遺物の 出土、特に煮沸具はAカマドを主体とすることから、新旧関係は、Bカマド→Aカマドとなる。なお、住居内床 面への灰·焼土を含むカマド崩落土層の流入も、Bカマドから南西方向へ堆積していた。 貯蔵穴 長軸0.79 m、 短軸 0.47 m、深さ 0.18 mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 総社砂層をベースとした地山床で、凹凸面に砂粒ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築されている。出土 遺物 須恵器高台付埦(1)、須恵器高台付皿(2)、須恵器坏(3・4)、土師器暗文坏(5)、墨書「財ヵ」 土師器坏(6)、土師器甕(7・8)、土錘(9)、流紋岩を使用した砥石(10)が出土している。1・4・6・ 10が住居覆土中、3・5が貯蔵穴、7がAカマド崩落土中、2・8・9がBカマド覆土中からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-5号住居跡(Fig.24·65、PL. 9·42)

位置 X $22 \cdot 23$ 、Y $114 \cdot 115$ 主軸方向 $N - 16^\circ - W$ 規模 東西軸 2.89 m、南北軸 2.94 m、壁現高 0.25 m。調査区北側中央での検出であり、中央南北方向に試掘トレンチが掛かっている。 面積 7.69 ㎡ 床面 硬化は弱い。 重複 J - 6 Bと重複し、新旧関係は J - 6 B \rightarrow 本遺構である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層混入土層をベースとして、浅い凹凸面に黒褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 床面直上より、土師器坏(1)が出土した。 時期 出土遺物の傾向から7世紀代と想定される。

H-6号住居跡(Fig.24·25·65、PL. 9·42)

位置 X 24·25、Y 112·113 主軸方向 N - 91°-E 規模 東西軸 3.97 m、南北軸(4.10)m、壁現高 0.51 m。調査区北壁東際からの検出で、北西隅は調査区外となる。 面積 (11.41) m 床面 検出範囲内は、よ く硬化している。 重複 J-14、H-52と重複し、新旧関係はJ-14→H-52→本遺構である。 カマド 南壁中央と東壁中央に1基ずつ、計2基検出。南側に位置するAカマドは、確認長1.23 m、燃焼部幅0.78 m、 袖の残存長は右(西)が0.38 m、左(東)が0.47 m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.27 m突出し ている。燃焼部はよく被熱して焼土化しており、掘り窪められた火床面から奥壁が急激に立ち上がる形状と考え られる。左袖には面取りされた砂岩を据付けて構築部材として利用している。東側に位置するBカマドは、確認 長 0.78 m、燃焼部幅 0.73 m、袖の残存長は右(南)が 0.49 m、左(北)が 0.40 m、天井部は完全に崩落しており、 煙道は壁外に 0.34 m突出している。 A カマドの崩落土中には焼土・灰を多く含む層が明確に区分でき、下位に 羽釜など煮沸具の出土が確認できること。袖部の構築部材が遺存していることからも、住居を廃棄する直近まで カマドとしての構造を保持していたと考えられる。一方、Bカマドは掘り方直上に僅かに灰と焼土の混土層が確 認されたのみで、燃焼部内壁の被熱焼土化も認められない。このような極端な検出状況の差から、新旧関係はB カマド→Aカマドとなる。 貯蔵穴 長軸 0.77 m、短軸 0.68 m、深さ 0.23 mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南 東隅から検出した。北から西へかけての立ち上がり部分は、凝灰岩3石、砂岩2石で囲われており、石直下から 中央にかけての底面は床面同様に硬化している。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、砂 粒ブロックを少量、As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土を凹凸面に多く充填して構築される。 出土遺物 灰釉陶 器碗(1)、灰釉陶器皿(2・3)、須恵器高台付皿(4)、体部外面に墨書された須恵器埦(5)、羽釜(6・

7)が出土している。1が床面直上、2・3・7が住居覆土中、4が西壁際、5がAカマド崩落土中、6が貯蔵 穴覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

H-7号住居跡(Fig.26·66、PL. 9·42)

位置 X 25·26、Y 115·116 主軸方向 N - 82°-E 規模 東西軸 4.06 m、南北軸 4.75 m、壁現高 0.44 m。 調査区北東側から検出。西壁北側はやや膨らみをもって孕んでいるが、壁溝の位置と壁際の覆土堆積状況から 判断すると、本来は壁溝際から立ち上がっていたものが、壁面崩落によって広がったと考えられる。 面積 16.14 m 床面 カマド付近から住居中央にかけて硬化している。 重複 J-2、D-1・5・6・7・13 と 重複し、新旧関係はJ-2→D-1・5・6・7・13 →本遺構である。 カマド 東壁中央に1基検出。確認 長 1.58 m、燃焼部幅 0.93 m、天井部と側壁上半は完全に崩落しており、両袖は僅かな膨らみが遺存しているの みだが、両袖の延長上に、構築部材を据付けた窪みが検出している。右袖側(南)は長軸 0.52 m、短軸 0.39 m、 深さ 0.16 m、左袖側(北)は長軸 0.65 m、短軸 0.57 m、深さ 0.21 mを測り、両者の間は 1.24 mとやや間隔が広 いことから、他の用途も考えなければならない。燃焼部奥壁は緩やかに立ち上がり、角度を変えて細い煙道へと 至る。煙道は壁外に 0.37 m突出している。崩落土中からは、構築部材として転用された軒丸瓦を 2 点含む瓦片 が多く出土している。黒色灰層は、火床面から南壁に向かってやや厚く堆積している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、暗褐色土が部分的に薄く充填された地山硬化床。 出 土遺物 須恵器坏(1・2)、土師器坏(3)、土師器甕(4)、土錘(5)、上野国分寺創建期Ⅱの単弁5葉 蓮華文軒丸瓦B 202(6)、上野国分寺修造期の単弁4葉蓮華文の軒丸瓦A 101(7)、板状鉄製品(8)、鉄 釘 (9·10)、鉄製紡錘車軸 (11)、砥石 (12·13)が出土した。1·8·9·10·12は床面直上、2·3· 13 は住居覆土、4・6・7 はカマド崩落土、5 は住居掘り方、11 は西側壁溝からの出土である。 時期 出土 遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-8号住居跡 (Fig.27 · 28 · 67、PL.10 · 42 · 43)

位置 X 16~18、Y 117・118 主軸方向 N − 96°-E 規模 東西軸 (4.26) m、南北軸 5.76 m、壁現高 0.29 m。調査区西壁北側からの検出で西端部は調査区外となる。 面積 (21.85) ㎡ 床面 北壁沿いを除き、よく硬化している。 重複 H − 9・10と重複し、新旧関係はH − 9・10→本遺構である。 カマド 東壁南寄りに1 基検出。確認長 1.06 m、燃焼部幅 0.72 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.36 m、煙道は壁外に 0.48 m突出している。袖石として砂岩を据付けており、焚口上部を跨いでいた丸瓦が、崩れて袖石に覆い被さるように出土している。他にも構築部材として転用された瓦片が 3 点出土している。使用面直上には黒色灰がやや厚く堆積して、住居中央から貯蔵穴付近にかけて焼土粒を多く含んだ状態で確認されている。 貯蔵穴 住居南東隅から長軸 0.99 m、短軸 0.83 m、深さ 0.15 mを測る楕円形の貯蔵穴が検出した。中央北東寄りからは長軸 0.81 m、短軸 0.73 m、深さ 0.35 mを測る楕円形の掘り込みが検出している。 柱穴 検出されず。掘り方 黒褐色土をベースとして、凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物須恵器高台付境(1)、須恵器高台付皿(2)、須恵器境(3・4)、土師器暗文坏(5)、土師器甕(6)、丸瓦(7)、凸面にヘラ文字「八」が刻まれた平瓦(8)、弘仁 9 年(818)鋳造の皇朝十二銭「富壽神寶」(9・10)、鉄鏃(11)が出土している。 1・2・4・5・10・11 が住居覆土、9 が貯蔵穴、3・6~8 がカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-9号住居跡 (Fig.27 · 28 · 65、PL.10 · 43)

位置 X17·18、Y117~119 主軸方向 N-80°-E 規模 東西軸 5.18 m、南北軸 4.76 m、壁現高 0.47 m。 調査区北西側からの検出。 面積 21.17 m 床面 カマド焚口付近から貯蔵穴にかけてのみ硬化が認められる。 重複 J-8、H-9と重複し、新旧関係はJ-8→本遺構→H-8である。 カマド 東壁中央に1基検出。 確認長 1.46 m、燃焼部幅 0.53 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.90 m、煙道は壁外 に 0.47 m突出している。 貯蔵穴 住居南東隅から長軸 0.62 m、短軸 0.61 m、深さ 0.16 mを測る円形の貯蔵穴が検出した。北壁から南西にかけて、非常に硬化している高さ 0.09 mの周堤帯が確認されている。 柱穴 検出されず。 掘り方 遺構確認面は黒褐色土であるが、床および掘り方面は地山層が傾斜しており、北東は総社砂層、他は黒褐色土をベースとする。凹凸面に黒褐色粘質土、砂層を薄く充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付埦($1\cdot 2\cdot 3$)、須恵器埦(4)、土師器甕(5)、凸面にヘラ文字「山」が刻まれた丸瓦(6)が出土している。 $1\sim 6$ はすべて住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

位置 X 17、Y 118・119 主軸方向 N − 82° − E 規模 東西軸 (0.58) m、南北軸 (2.53) m、壁現高 0.21 m。調査区西壁からの検出であり、住居中央から東壁の大半は調査区外となる。 面積 (1.44) ㎡ 床面 カマド周囲のみの検出であるため、全体の状況は不明だが、検出範囲内はよく硬化している。 重複 H − 8と重複し、新旧関係は本遺構→H − 8である。 カマド 東壁に1基検出。確認長 (0.99) m、燃焼部幅 0.52 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.53 m突出している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 黒褐色土をベースとした地山硬化床。 出土遺物 カマド覆土より、土師器長胴甕 (1) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から6世紀後半と想定される。

H-11号住居跡(Fig.28·68、PL.10·43)

H-10号住居跡(Fig.25·65、PL.10·43)

位置 X 17、Y 119・120 主軸方向 N - 90°-E 規模 東西軸 (1.87) m、南北軸 4.04 m、壁現高 0.16 m。調査区西壁において東半のみ検出であり、西半は調査区外となる。表土層直下の確認面で、既に袖石が露出している状態となっており、浅い検出であった。 面積 (6.59) m 床面 全体的にやや弱い硬化が認められる。重複 なし。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 0.68 m、燃焼部幅 0.61 m、天井部は完全に崩落しており、両袖共に構築部材として、面取りされた安山岩が 1 石ずつ据付られていた。袖石を含む残存長は右(南)が 0.20 m、左(北)が 0.26 m、煙道は壁外に 0.90 m突出している。 貯蔵穴 住居南東隅から長軸 0.48 m、短軸 0.40 m、深さ 0.32 mを測る楕円形の貯蔵穴が検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 黒褐色土をベースとした地山硬化床 出土遺物 床面直上より土師器坏 (1) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 7 世紀後半と想定される。

H-12号住居跡(Fig.29·68、PL.11·43)

位置 X18・19、Y120・121 主軸方向 N-90°-E 規模 東西軸 3.42 m、南北軸 3.95 m、壁現高 0.32 m。調査区西側からの検出。 面積 12.13 m 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。 重複なし。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.23 m、燃焼部幅 0.67 m、袖の残存長は右側(南)が 0.51 m、左 (北)が 0.42 m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.34 m突出している。燃焼部奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。燃焼部内壁はよく被熱して焼土化しており、側壁および袖内部から構築部材として転用された瓦が出土している。使用面から掻き出された黒色灰は、住居南東隅に向かって堆積している。 貯蔵穴検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 遺構確認面は黒褐色土だが地山堆積は傾斜しており、南側はやや粘性を帯びた総社砂層、他は黒褐色粘質土をベースとする。黄白色粘質土ブロックを微量含む黒褐色土を部分的に充填した貼床により構築されている。 出土遺物 窯体が融着した須恵器蓋 (1)、土師器坏 (2・3)、土師器甕 (4)、平瓦 (5)が出土している。1~3は住居覆土、4はカマド燃焼部内壁際、5はカマド右袖構築部からの出土である。上記以外に、覆土から上野国分寺創建期Ⅱの右偏行唐草文軒平瓦 P001が1点出土したが、本遺構から離れた調査区南東側から検出している、H-34号住居跡の床面直上から出土した軒平瓦 (6)と接合している。 時期 出土遺物の傾向から8世紀中葉と想定される。なお、H-34号住居跡とは、軒平瓦の接合関係と他の出土遺物から判断して、同時期に存在していたと考えられる。

H-13 号住居跡(Fig.30 · 68、PL.11 · 43 · 44)

位置 X 18・19、Y 121・122 主軸方向 N − 82° − E 規模 東西軸 4.04 m、南北軸 4.43 m、壁現高 0.38 m。調査区南壁西側からの検出で、住居南端は調査区外となる。厚さ 0.13 m程度の表土層直下がすぐに確認面と浅く、元総社蒼海遺跡群 (103) の調査区域と南側で隣接している。 面積 (15.64) ㎡ 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。 重複 H − 15・53 と重複しており、新旧関係はH − 53 →本遺構→H − 15 である。 カマド東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.14 m、燃焼部幅 0.76 m、袖の残存長は右側(南)が 0.25 m、左(北)が 0.13 m、天井は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.44 m突出している。使用面の灰と焼土の堆積は非常に薄く、焼土ブロックを少量含んだ崩落土層がカマド使用面を覆っていた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 H − 53 号住居跡の覆土である黒褐色土をベースとして、凹凸面に As-C 軽石、砂粒ブロックをやや多く含む黒褐色土を充填した貼床。 出土遺物 須恵器短頸壺蓋(1)、須恵器坏(2・3)、酸化焔焼成の坏(4)、土師器坏(5~7)、鉄釘(8)が出土している。1~3、5~8は住居覆土、4はカマド崩落土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から8世紀後半と想定される。

H-14号住居跡(Fig.31·69、PL.11·44)

位置 X 19・20、Y 119・120 主軸方向 N - 174°-E 規模 東西軸 3.35 m、南北軸 3.32 m、壁現高 0.26 m。調査区西側中央から検出。南側は撹乱によって大半が削平されているが、カマド周囲は僅かに残存していた。面積 10.41 ㎡ 床面 カマド焚口から住居中央部のみ硬化している。 重複 なし。 カマド 南壁東寄りに 1 基検出。確認長 0.83 m、燃焼部幅 0.62 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.55 m突出している。カマド周囲は僅かに低いために削平されなかったが、遺存状態は悪い。燃焼部は火床面直上に黒色灰を検出し、上位は焼土粒を多く含む崩落土層が撹乱北側の住居中央まで堆積している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴検出されず。 掘り方 黒色粘質土をベースとした地山硬化床。 出土遺物 須恵器短頸壺蓋 (1)、須恵器坏(2)、刀子(3)、鉄釘(4)が出土している。1・4 は床面直上、2・3 は住居覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H-15号住居跡(Fig.31·69、PL.11·44)

位置 X 19・20、Y 120・121 主軸方向 $N-90^\circ-E$ 規模 東西軸 5.35 m、南北軸 4.69 m、壁現高 0.15 m。調査区西側南寄りから検出。浅い表土層直下が確認面となっており、遺存状態は悪い。 面積 21.81 ㎡ 床面カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。 重複 J-10、 $H-13\cdot53$ 、 $D-14\cdot18\cdot22\cdot23$ と重複し、新旧関係は $J-10\to H-53\to D-14\cdot18\cdot22\cdot23\to H-13\to$ 本遺構である。 カマド 東壁南寄りに検出。確認長 1.47 m、燃焼部幅 0.44 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.50 m、煙道は壁外に 0.53 m突出している。灰層の堆積は薄く、周囲への崩落土層の流れも少ない。構築部材に転用した瓦片が 20点出土している。焚口手前正面の床面は、一部円形に窪んで硬化している。カマド使用時に繰り返し土器を置いたためか。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 黒褐色粘質土をベースとして部分的に暗褐色粘質土を充填した地山硬化床。 出土遺物 須恵器高台付境 $(1\cdot2)$ 、須恵器高台付皿 (3)、土師器坏 (4)、上野国分寺修造期の単弁 7 葉蓮華文軒丸瓦 D 001 (5) 、凸面に陽刻文字叩き「勢」平瓦 (6) が出土している。 $1\sim3$ は床面直上、 4 はカマド掘り方、 $5\cdot6$ は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-16号住居跡(Fig.29·69、PL.12·44)

位置 X 20・21、Y 121・122 主軸方向 N - 92°-E 規模 東西軸 3.16 m、南北軸 3.42 m、壁現高 0.12 m。 調査区南壁西側からの検出で、住居南壁は調査区外となる。調査区内で最も表土層が浅い地点で、すでにカマ ド袖石は露出していた。元総社蒼海遺跡群 (103) の調査区域と南側で隣接している。 面積 (10.43) ㎡ 床 面 カマド焚口から住居中央付近にかけて弱く硬化している。 重複 J-10と重複し、新旧関係は J-10 → 本遺構である。 カマド 東壁中央に検出。確認長 0.79 m、燃焼部幅 0.66 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.29 m、煙道は壁外に 0.52 m突出している。構築部材として面取りされた安山岩が左右に出土しており、右側は内壁に埋め込まれた状態で据付けられ、左側は焚口に向かって倒壊した状況で、元の位置には長軸 0.29 m、短軸 0.27 m、深さ 0.20 mを測る、抜き取り痕跡が確認された。遺構確認面から浅いものの、火床面直上の灰層は良好に遺存しており、燃焼部は奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。 貯蔵穴検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 暗褐色粘質土と総社砂層の境付近をベースとして、細かい凹凸に As-C 軽石を微量含むやや粘性のある土層を部分的に薄く充填した貼床。 出土遺物 土師器坏(1・2)、鞴羽口(3)が出土している。1・3が床面直上、2がカマド覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から8世紀後半と想定される。

H-17号住居跡(Fig.32·69、PL.12·44)

位置 X 20・21、Y 119・120 主軸方向 N - 9°-W 規模 東西軸 3.36 m、南北軸 3.57 m、壁現高 0.18 m。調査区中央西側からの検出で、東西方向に入った撹乱により住居中央の床面は削平されている。 面積 11.32 m 床面 カマド付近を中心として、やや硬化している。 重複 なし。 カマド 北壁西寄りに検出。確認長 0.96 m、燃焼部幅 0.69 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.59 m突出している。カマド使用面の灰層堆積は認められず、焼土を微量含む崩落土が全体を覆っていた。使用面直上からは、土師器長胴甕が右側壁にもたれかかるように倒れて出土した。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 浅い凹凸面に暗褐色粘質土を部分的に薄く充填して構築された地山硬化床。 出土遺物 土師器坏 (1)、土師器長胴甕 (2)、銅製品 (3)が出土している。1・2はかまど崩落土、3は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から、7世紀後半と想定される。

H-18号住居跡(Fig.33·70、PL.12·44)

位置 X 24、Y 119・120 主軸方向 N − 89° − E 規模 東西軸 (2.94) m、南北軸 (5.05) m、壁現高 0.03 m。調査区中央南寄りからの検出で、表土直下の時点で西半は削平されていた。 面積 (10.21) ㎡ 床面 カマド前から住居中央にかけてやや硬化している。 重複 J − 15、H − 19 と重複し、新旧関係は J − 15 → 本遺構→H − 19 である。 カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長 1.10 m、燃焼部幅 0.57 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.22 m、煙道は壁外に 0.65 m突出している。燃焼部には灰層の堆積は無く、焼土粒を少量含む崩落土が使用面を直接覆っている。 貯蔵穴 南壁東寄りに 2 基検出。東側は長軸 0.58 m、短軸 0.56 m、深さ 0.14 m、西側は長軸 0.53 m、短軸 0.42 m、深さ 0.12 mを測る 柱穴 検出されず。 掘り方薄い黒褐色土と直下の総社砂層をベースとして、部分的に黄白色粘質土を貼付した地山硬化床。 出土遺物 床面直上より、板状鉄製品が出土している。 時期 掲載に至らなかった出土遺物の傾向から判断すると、7 世紀末から 8 世紀初頭と想定される。

H-19号住居跡(Fig.33、PL.12·13)

位置 X 24・25、Y 119~121 主軸方向 N - 98° - E 規模 東西軸 (5.34) m、南北軸 6.76 m、壁現高 0.12 m。調査区中央南寄りからの検出で、表土直下の時点で南西側は削平されていた。 面積 (23.26) m 床面カマド付近から貯蔵穴にかけてはよく硬化している。 重複 J - 15、H - 49・56 と重複し、新旧関係は J - 15 \rightarrow H - 56 \rightarrow H - 49 \rightarrow 本遺構である。 カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 1.68 m、燃焼部幅 0.90 m、煙道は壁外に 0.62 m突出している。燃焼部には灰層の堆積は無く、焼土粒を少量含む崩落土が使用面を直接覆っている。 貯蔵穴 長軸 0.63 m、短軸 0.50 m、深さ 0.16 m を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。柱穴 検出されず。 掘り方 黄色砂粒ブロック、As-C 軽石粒を少量含んだ黒褐色土により構築されている。出土遺物 いずれも小破片で図示には至らなかった。 時期 掲載に至らなかった出土遺物の傾向から判断すると、9 世紀代と想定される。

H-20 号住居跡 (Fig.32 · 70、PL.13 · 44)

位置 X 27·28、Y 116~118 主軸方向 N-113°-E 規模 東西軸 3.70 m、南北軸 (5.94) m、壁現高 0.31 m。 調査区東壁中央からの検出で、住居北東隅は調査区外となる。 面積 (15.18)㎡ 床面 全体的によく硬化 している。 重複 Ⅰ-5と重複し、新旧関係はⅠ-5→本遺構である。 カマド 東壁南側に1基検出。確認 長 1.06 m、燃焼部幅 0.57 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.38 m突出している。カマド崩落土 中からは構築部材として転用された瓦片が複数出土している。燃焼部内は崩落土、灰層、よく被熱した焼土の順 に堆積して、焚口から東壁左右に黒色灰と崩落土が広がっている。 貯蔵穴 長軸 0.61 m、短軸 0.48 m、深さ 0.13 を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南西隅から検出した。住居東壁カマド北側に隣接して、長軸 1.01 m、短軸 0.93 m、深さ0.10mを測る楕円形の掘り込みが検出した。周囲の貼床面から、底面までは連続してよく硬化しており、 上位に粘性の強い総社砂層および灰白色粘質土が混入した土層を挟んで、また灰白色粘質土による 0.05 mの窪 みをもつ貼床層を形成している。つまりは2度の造作が認められるといえる。上層硬化面の北側は周堤状にやや 高くなっており、黒色灰を主体とする灰層が外側傾斜部分に堆積している。この状況から判断すると東側調査区 外に、もう1基カマドの存在を推定することができる。また、長軸 0.97 m、短軸 0.80 m、深さ 0.19 mを測る楕 円形の掘り込みが、住居西壁寄り中央付近から検出している。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層直上の 黒褐色土をベースとして、As-C 軽石粒を少量含む暗褐色土および灰白色粘質土を凹凸面に充填した貼床層。 出土遺物 須恵器高台付埦(1・2)、須恵器埦(3・4)、酸化焔焼成の須恵器埦(5)、ヘラ文字「多」左 字が刻まれた平瓦(6)が出土している。1~3は床面直上、4・6は覆土、5はカマド左側窪み上層からの出 土である。 時期 出土遺物の傾向から9世紀前半と想定される。

H-21 号住居跡(Fig.34·70·71、PL.13·44·45)

位置 X 28·29、Y 119·120 主軸方向 N - 103°-E 規模 東西軸 4.18 m、南北軸 5.41 m、壁現高 0.35 m。 調査区東壁南寄りからの検出で、住居北東隅は調査区外となる。 面積 (19.58)㎡ 床面 カマド焚口から 住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 J-12·13と重複し、新旧関係は J-13 → J-12 →本遺構 である。 カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長1.43 m、燃焼部幅0.85 m、天井部は完全に崩落しており、 煙道は壁外に 0.40 m突出している。燃焼部から煙道にかけての形状はやや緩やかに立ち上がり、よく被熱して 焼土化している。崩落土中からは、構築部材として転用された平瓦が複数、粗粒安山岩が5点出土している。 貯蔵穴 カマドの左右から計2基検出している。右側(南)は長軸 0.70 m、短軸 0.66 m、深さ 0.24 mを測り、 楕円形を呈する。左側(北)は長軸 0.71 m、短軸 0.59 m、深さ 0.18 mを測り、楕円形を呈する。 柱穴 検出 されず。 掘り方 地山層が緩やかに傾斜しており、西側は黒褐色土、東側は総社砂層の上端部をベースとして、 部分的に黒褐色土を充填した地山硬化床。 出土遺物 緑釉碗(1)、鍔付台付鉢(2・3)、有孔鍔付台付鉢 (4)、須恵器瓶類底部の転用硯(5)、酸化焔焼成の高台付埦(6~8)、やや古相を示す須恵器埦(9)、 羽釜($10\sim14$)、土釜($15\cdot16$)、上野国分寺創建期 II の右偏行唐草文軒平瓦 P 004(17)、凸面にヘラ文字「丁」 が刻まれた平瓦(18)、凸面にヘラ文字「半」が刻まれた平瓦(19)が出土している。 1 はカマドと南側貯蔵穴 間の覆土、2・10・15・19は西壁北側の覆土、3・4・6~8は住居覆土、5・7・9・11・16・18は床面直 上、12~ 14 はカマド崩落土からの出土である。なお、鍔付台付鉢は本遺跡の南側に隣接する元総社蒼海(103) H-6号住居跡からも出土している。 時期 出土遺物の傾向から 10世紀後半と想定される。

H-22号住居跡(Fig.35·72、PL.13·45)

位置 $X 26 \cdot 27$ 、 $Y 122 \cdot 123$ 主軸方向 $N - 95^{\circ}$ - E 規模 東西軸 3.68 m、南北軸 4.27 m、壁現高 0.24 m。 調査区南側中央からの検出で、北西隅と西壁の一部は撹乱によって消失している。 面積 (12.84) m 床面 カマド付近のみ、やや弱く硬化している。 重複 $H - 23 \cdot 34$ と重複し、新旧関係は $H - 34 \rightarrow H - 23 \rightarrow$ 本遺構である。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 0.77 m、燃焼部幅 0.53 m、天井部は完全に崩落しており、

煙道は壁外に 0.33 m突出している。使用面の被熱焼土層は認められず、直上に黒色灰と焼土粒が混在する崩落 土が堆積していた。構築部材として転用した瓦片が 2 点、崩落土中から出土している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとした地山硬化床。 出土遺物 灰釉陶器把手付水瓶 (1)、 灰釉陶器皿 (2)、羽釜 (3) 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-23 号住居跡(Fig.35·72、PL.14·45·46)

位置 X 27、Y 121・122 主軸方向 N − 89° − E 規模 東西軸 3.18 m、南北軸 4.20 m、壁現高 0.11 m。調査区南側中央からの検出で、南東隅は撹乱によって一部削平されている。 面積 (11.38) ㎡ 床面 カマド 焚口付近から貯蔵穴、住居中央にかけてよく硬化している。 重複 H − 22・41 と重複し、新旧関係は本遺構 → H − 41 → H − 22 である。 カマド 東壁南寄りから 1 基検出。確認長 0.83 m、燃焼部幅 0.89 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.39 m、左(北)が 0.23 m、煙道は壁外に 0.45 m突出している。使用面の被熱焼土層は認められず、直上に焼土粒をやや多く含んだ崩落土が堆積していた。 貯蔵穴 長軸 0.46 m、短軸 0.39 m、深さ 0.13 mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、As-C 軽石を微量含む暗褐色土を充填して構築した貼床。 出土遺物 灰釉陶器碗(1)、灰釉陶器皿(2)、須恵器高台付埦(3・4)、口縁部に煤が付着した、酸化焔焼成の須恵器高台付埦(5)、須恵器高台付皿(6)、酸化焔焼成の鍔付台付鉢(7)、土師器甕(8)、凸面に判読不明の陽刻文字叩きを施した平瓦(9)が出土している。 1・7が住居覆土、2がカマド左袖、3・8がカマド右袖、4・5・6が床面直上、9がカマド崩落土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H − 24 号住居跡(Fig.36 ~ 38 · 73、PL.14 · 46)

位置 X 25・26、Y 117・118 主軸方向 N - 93° - E 規模 東西軸 4.27 m、南北軸 3.45 m、壁現高 0.39 m。調査区西側中央から検出した。 面積 13.10 m 床面 住居中央からカマド周囲を含む東側を中心として、よく硬化していた。 重複 H - 25・26・37、D - 15、I - 1 と重複し、新旧関係はD - 15 →本遺構 \rightarrow H - 25・26 \rightarrow H - 37・I - 1 である。 カマド 東壁南側にに1 基検出。確認長 0.98 m、燃焼部幅 0.39 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に0.49 m突出している。火床面の焼土化は弱いが、灰層は厚く堆積しており、上層にはよく被熱した硬質焼土ブロックを多く含む崩落土が堆積している。カマド内からは、1 枚作りの平瓦が直立して出土している。下端は掘り方まで達しており、瓦を境として前後の土層堆積状況も異なることから、燃焼部を塞ぐ位置関係にはやや疑問を感じるものの、使用時に何らかの機能を有していたと思われる。他にも構築部材として転用した平・丸瓦が複数カマド外の崩落土層から出土している。 貯蔵穴 長軸 0.55 m、短軸 0.44 m、深さ 0.13 m を測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物 内部に朱墨が付着した、灰釉陶器碗の転用硯(1)、須恵器杯(2)、土師器杯(3・4)、土師器甕(5)、平瓦(6)凹面にヘラ文字「十」が刻まれた平瓦(7)が出土している。 1 ・ 4 ~ 6 が住居 覆土、 2 ・ 3 が貯蔵穴上位のカマド崩落土、 7 がカマド内からの出土である。 時期 出土遺物に若干の時間幅が感じられるが、重複関係も踏まえて判断すると、 9 世紀後半の古相と想定される。

H-25 号住居跡(Fig.36 ∼ 38 ⋅ 74、PL.14 ⋅ 46)

位置 X $26 \cdot 27$ 、Y $117 \cdot 118$ 主軸方向 $N - 94^\circ - E$ 規模 東西軸 3.01 m、南北軸 3.89 m、壁現高 0.31 m。調査区西側中央から検出した。 面積 11.39 m 床面 全体的によく硬化している。 重複 J - 5、H - 24 と重複し、新旧関係は $J - 5 \rightarrow H - 24$ →本遺構である。 カマド 東壁中央に 2 基検出。北側に位置する A カマドは確認長 0.72 m、燃焼部幅 0.72 m、煙道は壁外に 0.54 m突出している。南側に位置する B カマドは確認長 1.41 m、燃焼部幅 0.62 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.68 m突出している。 A カマドは覆土に焼土、灰層および使用面の火床が認められず、遺物の出土も極めて少ない。 B カマドは、燃焼部の被熱した焼土壁、

構築部材として転用された瓦が遺存し、火床面と直上の灰層、焼土粒をやや多く含む崩落土の堆積からなっている。この検出状況の違いは、丁寧に内部を除去して埋め戻したAカマドと、使用時の状態で破壊して遺棄された Bカマドという状況を想起させる。以上のことから、この2基のカマドの新旧関係は、Aカマド→Bカマドとなる。 貯蔵穴 長軸0.98 m、短軸0.82 m、深さ0.25 mを測る楕円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付坑(1)、須恵器高台付皿(2)、酸化焔焼成の須恵器高台付皿(3)、酸化焔焼成の須恵器埦(4)、須恵器坏(5)、土師器甕(6・7)、凸面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦(8)が出土している。1・3・4はBカマド崩落土、2・6は床面直上、5・7・8はAカマド覆土 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-26 号住居跡(Fig.36 ~ 38 · 74、PL.14 · 15 · 46 · 47)

位置 $X 24 \cdot 25$ 、 $Y 116 \sim 118$ 主軸方向 $N - 105^\circ - E$ 規模 東西軸 $3.58 \, \mathrm{m}$ 、南北軸 $4.61 \, \mathrm{m}$ 、壁現高 $0.47 \, \mathrm{m}$ 。 調査区中央北東側からの出土。 面積 $14.50 \, \mathrm{m}$ 床面 カマド周囲から住居中心にかけて、よく硬化している。 重複 J - 2、 $H - 27 \cdot 37$ 、I - 1 と重複し、新旧関係は $J - 2 \rightarrow H - 37 \rightarrow H - 27 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow I - 1$ である。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長(0.95) m 、燃焼部幅 $0.63 \, \mathrm{m}$ 、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に(0.16) m突出している。煙道先端は I - 1 との重複により削平されているが、使用面直上の灰層と、上位の焼土および構築部材に転用した瓦片を複数を含む崩落土が、焚口周囲に向かって堆積している。 貯蔵穴 長軸 $0.77 \, \mathrm{m}$ 、短軸 $0.56 \, \mathrm{m}$ 、深さ $0.06 \, \mathrm{m}$ を測る楕円形の浅い窪みが、住居北東隅から 1 基検出している。 柱穴検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む黒褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物 灰釉陶器皿(1)、須恵器高台付埦(2)、須恵器高台付皿(3)、土師器坏($4 \cdot 5$)、土師器甕(6)が出土している。 $1 \cdot 4$ は床面直上、 $2 \cdot 5 \cdot 6$ は住居覆土、3 はカマド崩落土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H - 27 号住居跡(Fig.34 · 75、PL.15 · 47)

位置 X 24・25、Y 116・117 主軸方向 N − 99° − E 規模 東西軸 3.38 m、南北軸 3.10 m、壁現高 0.32 m。調査区中央北東側から検出した。 面積 (11.67) m 床面 住居中央から東側にかけて、若干の硬化が認められる。 重複 J − 2、H − 3・26・37、D − 7と重複し、新旧関係は J − 2 → H − 3・37 → 本遺構 → H − 26 である。 カマド 焼土・黒色灰層の堆積が中央やや南東寄りに認められることから、住居の重複によって削平されたものの、本来は東壁南寄りに存在したものと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を含む暗褐色土を薄く充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付埦(1・2)、土師器坏(3)、瓦当部裏面に「【】」状の刺突と、丸瓦との凹面側接合部に指ナデを施した後、棒状工具による細かな刺突痕がある、上野国分寺創建期 II の単弁 5 葉蓮華文軒丸瓦 B 204(4)、凸面に「圖」の押印がある平瓦(5)が出土している。1・2・3・5が床面直上、4が住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-28号住居跡(Fig.39·75、PL.15·47)

位置 $X 25 \cdot 26$ 、 $Y 119 \cdot 120$ 主軸方向 $N - 96^{\circ} - E$ 規模 東西軸 2.86 m、南北軸 3.44 m、壁現高 0.29 m。調査区中央東寄りから検出した。 面積 (5.22) ㎡ 床面 住居中心からカマドへ向かって、若干の硬化が認められる。 重複 J - 15、 $H - 19 \cdot 29$ と重複し、新旧関係は $J - 15 \rightarrow H - 29 \rightarrow H - 19 \rightarrow$ 本遺構である。カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 0.72 m、燃焼部幅 0.63 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は左(北)が 0.25 m、煙道は壁外に 0.34 m突出している。構築部材として転用された瓦片が、燃焼部両側壁から出土している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、凹凸面に暗 黄褐色土を充填した貼床。 出土遺物 奈良三彩小壺片(1)、須恵器蓋(2)須恵器高台付埦(3)、須恵器

坏($4\cdot 5$)、酸化焔焼成の須恵器坏($6\cdot 7$)、凸面に文字「高ヵ」が押印された平瓦(8)が出土している。 8 は凸面を全面ナデで叩き具の痕跡を消しているために、押印と判断した。他に「高ヵ」の右上に、異なる陽刻の押印痕の一部が認められる。 $1\sim 7$ が床面直上、8 が住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H - 29 号住居跡(Fig.39 · 40 · 76、PL.15 · 47)

位置 $X 25 \cdot 26$ 、 $Y 118 \cdot 119$ 主軸方向 $N - 87^{\circ} - E$ 規模 東西軸 5.36 m、南北軸 4.92 m、壁現高 0.42 m。調査区中央東寄りから検出した。 面積 23.95 m 床面 全体的にやや硬化している。 重複 J - 15、 $H - 4 \cdot 19 \cdot 28 \cdot 33$ と重複し、新旧関係は J - 15 →本遺構 $\rightarrow H - 33$ $\rightarrow H - 4 \cdot 19 \cdot 28$ である。 カマド 東壁中央に 1 基検出。確認長 1.67 m、燃焼部幅 0.65 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.81 m、左(北)が 0.62 m、煙道は壁外に 0.79 m突出している。燃焼部両側壁および火床面は、よく被熱し焼土化しており、煙道は燃焼部底面から緩やかに立ち上がる。 貯蔵穴 長軸 0.58 m、短軸 0.55 m、深さ 0.40 mを測る円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。 柱穴 床面において、主柱穴と想定される $P1 \sim 4$ が検出した。規模(長軸×短軸×深さ)は、 P1 が 0.46 m × 0.43 m × 0.47 m、 P2 が 0.44 m × 0.43 m × 0.55 m、 P3 が 0.38 m × 0.35 m × 0.53 m、 P4 が 0.52 m × 0.50 m × 0.60 m である。 掘り方 総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石を少量含む黒暗褐色を充填した貼床。 出土遺物 須恵器坏(1)、内外面黒色処理の土師器坏身模倣坏(2)、内面黒色処理の土師器坏蓋模倣坏(3)、内面黒色処理の土師器坏蓋模倣坏(4)、福島県に分布の主体が求められる、内面黒色処理の土師器内彎口縁坏(5)、土師器有段口縁坏(6)、土師器小型壺(7)、土師器高坏の脚部(8)が出土している。 $1 \sim 3 \cdot 5 \sim 7$ が住居覆土、 $4 \cdot 8$ が床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 6 世紀末から 7 世紀初頭と想定される。

H-30 号住居跡 (Fig.40 · 76、PL.15 · 47)

位置 $X 21 \cdot 22$ 、Y 117 主軸方向 $N-102^\circ-E$ 規模 東西軸 (3.87) m、南北軸 3.19 m、壁現高 0.22 m。調査区中央北側からの検出で、東から南にかけて大きく撹乱により削平されているが、南壁が一部残存している。 面積 (11.62) m 床面 部分的に薄く硬化している。 重複 $H-31\cdot 32\cdot 33\cdot 55$ と重複し、新旧関係は $H-55\to H-32\to H-31\to$ 本遺構である。 カマド 検出していないが、床面の硬化具合と覆土中の焼土・灰の混入が東側に偏ることから、本来は撹乱によって削平された東壁にあったものと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 地形の転換点が近く、西側は As-C 軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 床面直上より酸化焔焼成の内面黒色処理須恵器高台付埦 (1) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

H-31 号住居跡(Fig.40·76、PL.15·47)

位置 $X 21 \cdot 22$ 、 $Y 116 \cdot 117$ 主軸方向 $N-101^{\circ}-E$ 規模 東西軸 (4.54) m、南北軸 (4.56) m、壁現高 0.21 m。調査区中央北側からの検出で、北東隅から南西にかけては撹乱により削平されている。東壁は、南北方向のトレンチより東側でプランが確認されなかったことから、トレンチ内で削平されていると想定される。 面積 (12.17) ㎡ 床面 やや凹凸があり、硬化は弱い。 重複 $H-30 \cdot 32 \cdot 55$ と重複しており、新旧関係は $H-55 \rightarrow H-32 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-30$ である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 地形の転換点が近く、西側は As-C 軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 覆土中より灰釉陶器碗(1)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H - 32 号住居跡(Fig.40、PL.15)

位置 X 22、Y 115·116 主軸方向 N - 102°-E 規模 東西軸 3.10 m、南北軸 (1.60) m、壁現高 0.12

m。調査区中央北側からの検出であり、南半は重複、東は南北方向のトレンチで一部削平されている。 面積 (4.53) ㎡ 床面 部分的に弱い硬化。 重複 H − 31と重複し、新旧関係は本遺構→H − 31である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 地形の転換点が近く、西側は As-C 軽石を含む黒褐色土、東側は総社砂層をベースとして、極浅い凹凸面に暗褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 小破片により図示には至らず。 時期 出土遺物の傾向から7世紀代と想定される。

H − 33 号住居跡 (Fig.36 ~ 38 · 76、PL.16 · 47)

位置 $X 25 \cdot 26$ 、 $Y 118 \cdot 119$ 主軸方向 $N - 86^{\circ} - E$ 規模 東西軸 2.89 m、南北軸 2.67 m、壁現高 0.29 m。調査区中央東側から検出した。 面積 (4.94) ㎡ 床面 カマド付近を中心として若干の硬化が認められる。重複 H - 29、D - 15 と重複し、新旧関係は $H - 29 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow D - 15$ である。 カマド 南東隅に検出し、主軸方向は $N - 122^{\circ} - E$ となる。確認長 1.07 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は左(北)が 0.30 m、煙道は壁外に 0.47 m突出している。やや硬質の焼土ブロックを含む崩落土層の下には、黒色灰が使用面に直接堆積していた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層直上の暗褐色土をベースとして、凹凸面に総社砂層ブロックを含む黒褐色土を充填して、構築されている。 出土遺物床面直上から砥石(1)が出土している。 時期 掲載に至らなかった小破片出土遺物の傾向から、7世紀代と想定される。

H-34 号住居跡(Fig.41 · 42 · 76 ∼ 80、PL.16 · 17 · 47 ∼ 49)

位置 X 27·28、Y 122·123 主軸方向 N - 65°-E 規模 東西軸 4.27 m、南北軸 3.55 m、壁現高 0.74 m。 調査区南東側から検出した。 面積 28.04 ㎡ 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 H - 22⋅36と重複し、新旧関係はH - 36→本遺構→H - 22である。 カマド 東壁南側に1基検出。 確認長 1.25 m、焚口幅 0.54 m、燃焼部幅 0.59 m、袖の残存長は右(南)が 0.54 m、左(北)が 0.46 m、煙道は 壁外に 1.13 m突出している。構築財として転用された瓦が複数出土している。右袖内壁は平瓦(19)、左袖内 壁は軒丸瓦(12)が据付けられており、軒丸瓦は瓦当面を下にして袖に埋め込むように元位置を留めていた。こ の直立した2枚の瓦間を跨ぐように、丸瓦(14・15)を渡して焚口天井部を構築している。カマド天井部は完全 に崩落しているために、土圧によって瓦も焚口中央付近から、くの字状に脱落している。使用面直上の灰層は、 貯蔵穴へ向かって堆積しており、上位には被熱した焼土ブロック(天井部内壁)を含む崩落土が認められる。 貯蔵穴 長軸 0.81 m、短軸 0.57 m、深さ 0.34 を測る不整円形の貯蔵穴が、住居南東隅から検出した。覆土中層 には、カマドから流れ込んだ灰層が堆積している。上層からは、貯蔵穴の蓋として使用したと考えられる、丸瓦 が2点出土している。この貯蔵穴の西側に浅い窪みが2基検出している。西側は長軸0.35 m、短軸0.31 m、深 さ 0.24 mを測り、楕円形を呈する。東側は長軸 0.44 m、短軸 0.36 m、深さ 0.15 mを測り、不整円形を呈する。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、住居中央からカマドにかけてやや掘り込みが深く、凹 凸面に As-C 軽石粒、粘質土ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築された貼床。 出土遺物 須恵器高盤 (1・2・3)、須恵器長頸瓶(4)、須恵器坏(5・6)、体部外面に墨書「朝」が書かれた須恵器坏(7)、 土師器暗文坏(8)、土師器坏(9~11)、上野国分寺創建期Ⅱの単弁5葉蓮華文軒丸瓦B 202 c (12) 、同 時期の右偏行唐草文軒平瓦 P 001(13)、丸瓦(14 ~ 17)、平瓦(18·19)、錫杖頭と考えられる銅製品片(20) が出土している。1 · 4 · 7 · 18 は住居覆土、2 · 5 · 6 · 9 ~ 11 · 13 · 20 は床面直上、3 はカマド煙道部、 8・16・17 は貯蔵穴直上、12・14・15・19 はカマドからの出土である。なお、13 は本遺構の北西に位置する、 H-12号住居跡覆土出土軒平瓦片と接合している。 時期 出土土器の傾向からは8世紀前半と想定される。 ただし、カマド構築材に用いられた瓦を考慮すると、天平13年(741年)2月14日発布の「国分寺建立の詔」 および天平19年(747年)11月「国分寺造営督促の詔」を考慮する必要があることから、若干の幅を持たせて 8世紀中葉と想定したい。 備考 出土遺物と上野国分寺創建の時期が一致することから、カマド内で使用して

いる瓦は国分寺荒廃後持ち帰ったのではなく、造営中に使っていることになる。住居自体の重複関係、遺物出土 状況を再確認したが、須恵器高盤・長頸瓶が複数の平瓦と同一層位で隣接して出土していること、型式名が判断 できる軒丸瓦を含む、複数の瓦を構築材に転用したカマドの袖付近、床面直上からカマド崩落土に覆われた状態 で出土している須恵器坏の時期から判断すると、検出状況および出土状況には齟齬はないといえる。また、軒平 瓦が接合したH - 13 号住居跡の出土遺物が同時期であることも、傍証となるであろう。出土遺物の構成が通常 の住居とは異なり、仏教系の遺物が多いことからも、造営に何らかの形で携わった者の住居ではないだろうか。

H-35号住居跡(Fig.43·80、PL.17·49)

位置 X 22~24、Y 118~120 主軸方向 N − 95° − E 規模 東西軸 5.13 m、南北軸 5.73 m、壁現高 0.14 m。調査区中央から検出した。 面積 (28.04) ㎡ 床面 全体的に弱い硬化。 重複 H − 57 と重複し、新旧関係は本遺構→H − 57 である。 カマド 東壁中央に 1 基検出。北側に位置する A カマドは、確認長 1.16 m、燃焼部幅 0.76 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.57 m突出している。燃焼部側壁の袖側と奥壁にかけて計 4 点の安山岩が構築部材として、また燃焼部底面には、面取りされた粗粒安山岩が支脚として遺存していた。南側に位置する B カマドは、確認長 0.63 m、燃焼部幅 0.36 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.30 m突出している。 A カマドは使用面直上に灰層が堆積し、焼土ブロックをやや多く含む崩落土が住居貼床面にまで広がっている。 B カマドは焼土・灰が混在した土層堆積のみで、遺物出土も A カマドが主体となることから、新旧関係は B カマド→A カマドとなる。 貯蔵穴 長軸 0.58 m、短軸 0.56 m、深さ 0.36 mを測る円形の貯蔵穴が、南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層と直上の黒褐色土が起伏により混在した土層をベースとして、細かい凹凸面に砂層および暗黄褐色粘質土を少量含んだ暗褐色土を充填して構築する貼床。 出土遺物 口縁部内外面に煤が付着した須恵器高台付埦(1)、須恵器埦(2)、酸化焔焼成の甑(3)が出土している。 1 が床面直上、 2 が住居覆土、 3 が A カマド崩落土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と想定される。

H - 36 号住居跡(Fig.41 · 42 · 80、PL.17 · 49)

位置 X 27・28、Y 123・124 主軸方向 N - 80°-E 規模 東西軸 5.44 m、南北軸 (4.20) m、壁現高 0.57 m。調査区南壁東寄りから検出し、南壁付近は調査区外となる。 面積 (13.28) m 床面 全体的によく硬化している。 重複 H - 34・45と重複し、新旧関係は本遺構→H - 34→H - 45となる。 カマド 東壁中央より 1 基検出。確認長 1.52 m、燃焼部幅 0.47 m、天井部は燃焼部から煙道に至る箇所が一部残存している。袖の残存長は右(南)が 0.49 m、左(北)が 0.57 m、煙道は壁外に 0.51 m突出している。床面より僅かに低い平坦な燃焼部から、煙道は戸外に向かって急激に立ち上がる形状となっている。内壁および天井部は非常に焼土化して堅緻であり、火床面には粗粒安山岩の支脚が中央奥に直立して灰層が厚く堆積していた。袖は総社砂層および粘性の強い暗褐色土を貼付けることによって構築され、構築部材である粗粒安山岩が焚口側に倒れて出土した。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 0.42 mを測る不整円形の柱穴が、住居南西側から 1 基検出した。また、隣接する H - 34 号住居跡南壁の西側掘り込み(SPJ)は、規模と深さから本遺構の柱穴の可能性が高い。 掘り方 総社砂層をベースとした地山床。 出土遺物 住居覆土より須恵器蓋 (1)、カマドより土師器甕が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 7 世紀前半と想定される。

H - 37 号住居跡(Fig.44 · 80、PL.17 · 49)

位置 $X 24 \cdot 25$ 、 $Y 117 \cdot 118$ 主軸方向 $N - 75^{\circ} - E$ 規模 東西軸 (3.95) m、南北軸 (2.85) m、壁現高 0.11 m。調査区中央東側からの検出で、撹乱および複数住居との重複によって、大半は消失している。また、遺構確認面から極めて浅く、不明瞭な点が多い。 面積 (4.36) m 床面 弱い硬化。 重複 $H - 4 \cdot 24 \cdot 26 \cdot 27$ と重複し、新旧関係は $H - 4 \rightarrow H - 24 \cdot 26 \cdot 27 \rightarrow$ 本遺構である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 長軸 0.52 m、短軸 0.44 m、深さ 0.21 mを測る不整円形の貯蔵穴が、住居南東より検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方

総社砂層をベースとして、凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を充填した貼床。 出土遺物 体部外面に 判読不明の墨書が記された灰釉陶器碗(1)、酸化焔焼成の須恵器高台付埦(2)、須恵器坏(3)が出土して いる。1・2 は住居覆土、3 は貯蔵穴からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から10世紀前半と想定される。

位置 X 24、Y 113・114 主軸方向 N − 88° − E 規模 東西軸 2.94 m、南北軸 (4.50) m、壁現高 0.23 m。 調査区北壁東側からの検出であり、住居北壁周辺は調査区外となる。 面積 (10.72) ㎡ 床面 全体的に硬化は弱い。 重複 H − 6と重複し、新旧関係は本遺構→H − 6である。 カマド 東壁南側に 1 基検出。確認長 0.94 m、燃焼部幅 0.46 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.25 m、左(北)が 0.50 m、煙道は壁外に 0.23 m突出している。使用面には灰層の堆積が認められず、焼土粒・灰および構築部材として転用した瓦片が混在した崩落土が、住居中央に向かって薄く堆積していた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、カマド付近の細かい凹凸面に As-C 軽石粒を少量含む黒褐色土を部分的に充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付埦(1)、須恵器埦(2)、須恵器甕の底部を使用した転用硯(3)が出土している。 1・3 が床面直上、2 が住居覆土からの出土である。また、掲載には至らなかったが、瓦片がカマド崩落土から住居内全域にかけて、26 点出土している。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-39 号住居跡 (Fig.44 · 81、PL.18 · 49)

H-38号住居跡(Fig.44·81、PL.17·49)

位置 X 23・24、Y 120・121 主軸方向 N - 86°-E 規模 東西軸 (2.70) m、南北軸 (2.56) m、壁現高 0.14 m。調査区中央南側から検出した。住居中央から西壁・南壁に向かって、撹乱により削平されている。 面積 (3.80) ㎡ 床面 全体的に弱い硬化。 重複 無し。 カマド 東壁に1基検出。確認長 0.39 m、燃焼部幅 0.42 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.15 m突出している。 貯蔵穴 住居南東寄りから長軸 0.44 m、短軸 0.44 m、深さ 0.16 m、不整円形、北東寄りから長軸 0.65 m、短軸 0.35 m、深さ 0.17 m、楕円形の計 2基が検出されている。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層と直上の黒褐色土が起伏によって混在している面をベースとして、浅い凹凸面に As-C 軽石粒を微量含む黒褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 カマド 脇より、土師質坏 (1) が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 8 世紀前半と想定される。

H-40 号住居跡(Fig.45·81、PL.18·49)

位置 X $24 \sim 26$ 、Y $123 \cdot 124$ 主軸方向 $N - 76^{\circ} - E$ 規模 東西軸 4.84 m、南北軸 4.89 m、壁現高 0.42 m。調査区南側中央からの検出した。覆土中には Hr-FA ブロックが混入している。 面積 22.28 ㎡ 床面 カマド前から住居中央にかけて硬化している。 重複 J - 9 と重複し、新旧関係は J - 9 →本遺構である。 カマド東壁南側に 1 基検出。確認長 1.82 m、燃焼部幅 0.55 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.52 m、左(北)が 0.51 m、煙道は壁外に 0.71 m突出している。燃焼部側壁は被熱によりよく焼土化しており、使用面直上には灰層が堆積する。崩落土には、構築材として使用された劣化した砂岩が、燃焼部から焚口にかけて崩れ落ちた状態で多く検出している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 やや変性した粘質の強い黒褐色土をベースとして、表面のみ薄く硬化した、地山硬化床。 出土遺物 土師器坏($1 \sim 4$)、土師器甕が出土している。 1 は床面直上、 2 はカマド覆土、 $3 \sim 5$ は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 7 世紀前半と想定される。

H-41号住居跡(Fig.46·81、PL.18·50)

位置 X $26 \cdot 27$ 、Y $120 \cdot 121$ 主軸方向 $N - 98^\circ - E$ 規模 東西軸 2.88 m、南北軸 3.53 m、壁現高 0.50 m。調査区南東側からの検出。 面積 9.77 ㎡ 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 $H - 23 \cdot 49$ と重複し、新旧関係は $H - 49 \rightarrow H - 23 \rightarrow$ 本遺構である。 カマド 東壁南側から 1 基検出。確認 長 1.05 m、燃焼部幅 0.43 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.55 m突出している。燃焼部側壁下

半は焼土化しており、火床面直上には灰層が堆積している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、住居中央からカマドにかけては地山硬化床、他の壁周辺は凹凸面に As-C 軽石を少量含む黒褐色土を充填して構築している。 出土遺物 カマド崩落土から須恵器埦 (1)、住居覆土からかなり崩れたコの字状頸部をもつ土師器甕 (2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-42 号住居跡(Fig.47 · 48 · 81、PL.18 · 19 · 50)

位置 X 27・28、Y 120・121 主軸方向 N − 95° − E 規模 東西軸 3.19 m、南北軸 4.20 m、壁現高 0.37 m。調査区南東隅からの検出。 面積 12.36 m 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 H − 43 ~ 45 と重複し、新旧関係はH − 45 → H − 44 → 本遺構 → H − 43 である。 カマド 東壁南側から 1 基 検出。確認長 0.67 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、煙道は壁外に 0.14 m突出する。構築部 材の抜き取り痕跡によって、平面ブランは元の形状を留めていないが、燃焼部使用面の直上には僅かに灰層が堆積している。 貯蔵穴 長軸 0.45 m、短軸 0.43 m、深さ 0.18 mを測る、円形の貯蔵穴が南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、カマドから中央にかけては地山硬化床。壁付近は浅い凹凸面に As-C 軽石粒を含む黒褐色土を充填して構築している。 出土遺物 赤色顔料を溶くのに使用した酸化 焔焼成の須恵埦 (1)、体部外面に判読不明の墨書が記された須恵器埦 (2)、羽釜 (3・4)が出土している。 1 ~ 3 は床面直上、4 はカマド崩落土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-43 号住居跡(Fig.47 · 48 · 81、PL.19 · 50)

位置 $X 28 \cdot 29$ 、 $Y 121 \cdot 122$ 主軸方向 $N - 95^\circ - E$ 規模 東西軸 3.37 m、南北軸 4.56 m、壁現高 0.33 m。調査区南東隅から検出した。 面積 14.23 ㎡ 床面 カマド付近から中央東側にかけて硬化している。 重複 $H - 42 \cdot 44 \cdot 45$ と重複し、新旧関係は $H - 45 \rightarrow H - 44 \rightarrow H - 42 \rightarrow$ 本遺構である。 カマド 東壁南側から 1 基検出。確認長 1.23 m、燃焼部幅 0.35 m、天井部は完全に崩落しており、構築部材に転用した瓦片が出土している。補の残存長は右(南)が 0.36 m、左(北)が 0.60 m、煙道は壁外に 0.49 m突出している。燃焼部火床面は被熱により、よく焼土化しており、崩落土は住居東壁付近まで堆積していた。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴検出されず。 掘り方 総社砂層直上の黒褐色土をベースとして、凹凸面に砂層ブロックを少量含む暗褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 住居覆土から、有鍔台付鉢の口縁部片(1)、須恵器高台付埦の脚部(2)、羽釜(3)凸面にヘラ文字「三」が刻まれた平瓦(4)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

H-44 号住居跡(Fig.47·82、PL.18·50)

位置 X 28・29、Y 121・122 主軸方向 $N-171^\circ-W$ 規模 東西軸 4.70 m、南北軸 3.17 m、壁現高 0.25 m。調査区南東隅から検出した。 面積 (7.46) m 床面 全体的に硬化は弱い。 重複 $H-42\cdot43\cdot45$ 、D-9 と重複し、新旧関係はH-45 →本遺構 $\rightarrow H-42$ $\rightarrow H-43$ である。 カマド 検出状況から判断すると、南壁に存在したと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面に砂層ブロックと As-C 軽石粒を少量含む暗褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 須恵器高台付埦(1)、内面黒色処理で花弁状の暗文を施した、酸化焔焼成の須恵器高台付埦(2)、羽釜(3)、鉄鏃(4)が出土している。 $1\sim3$ は床面直上、 4 は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半と想定される。

H-45 号住居跡(Fig.47 · 48 · 82、PL.19 · 50)

位置 X 28・29、Y 122・123 主軸方向 N - 97°-E 規模 東西軸 2.43 m、南北軸 4.39 m、壁現高 0.31 m。 調査区南東隅から検出した。 面積 (13.24) ㎡ 床面 カマドから住居中央にかけて、よく硬化している。 重複 H-36・42~44と重複し、新旧関係はH-36→本遺構→H-44→H-42→H-43である。 カマド東壁南側に1基検出。確認長1.21 m、燃焼部幅0.58 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が0.24 m、煙道は壁外に0.59 m突出している。燃焼部両側壁には、構築部材として安山岩が据付られており、直立気味の奥壁から緩やかに立ち上がる煙道へと至る。火床面直上には灰層が認められ、崩落土は貯蔵穴の方向へ堆積している。 貯蔵穴 長軸0.71 m、短軸0.67 m、深さ0.26 mを測る、円形の貯蔵穴が住居南東隅から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層と上層黒褐色土の起伏がある境をベースとして、カマドから住居中央にかけては地山硬化床で、壁周辺は浅い凹凸面にAs-C軽石を微量含む黒褐色土を充填して構築される。出土遺物 床面直上より、須恵器高台付埦(1)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

H-46 号住居跡(Fig.45·82、PL.50)

位置 $X 21 \cdot 22$ 、 $Y 121 \cdot 122$ 主軸方向 $N - 81^{\circ} - E$ 規模 東西軸 (3.15) m、南北軸 3.38 m、壁現高 0.21 m。 調査区南側から検出し、東半は撹乱によって削平されている。 面積 (7.66) m 床面 全体的に薄い硬化面が認められる。 重複 J - 16 と重複し、新旧関係は J - 16 →本遺構である。 カマド 検出していないが、削平された東壁にあったと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 粘性の強い黒褐色土をベースとした地山硬化床。 出土遺物 住居覆土より、内外面に漆を塗布した土師器有段口縁坏(1)、土師器坏(2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 6 世紀後半と想定される。

H-47号住居跡(Fig.49·82、PL.19·50)

位置 X 23・24、Y 122・123 主軸方向 N − 77° − E 規模 東西軸 2.87 m、南北軸 3.89 m、壁現高 0.40 m。調査区南側中央から検出した。 面積 10.32 m 床面 カマド前から住居中央にかけて、よく硬化している。重複 J − 9と重複し、新旧関係は J − 9 → 本遺構である。 カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 0.89 m、燃焼部幅 0.41 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.45 m、左(北)が 0.59 m、煙道は壁外に 0.31 m突出している。住居床面から火床面は比較的平坦で、奥壁が急激に立ち上がる形状と考えられる。火床面直上に白灰色の灰層が認められ、焼土粒を含む崩落土層は住居内広域に堆積している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 やや変性した粘性の高い黒褐色土をベースとして、黄白色粘質土と As-C 軽石を少量含む黒褐色土により構築される貼床。 出土遺物 住居覆土より、土師器坏(1・2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 8 世紀後半と想定される。

H-48 号住居跡(Fig.49·82、PL.19·20·50)

位置 X 22・23、Y 122~124 主軸方向 N − 71°- E 規模 東西軸 (1.84) m、南北軸 5.20 m、壁現高 0.36 m。調査区南側の西壁際から検出し、住居中央から西半は調査区外となる。なお、隣接した元総社蒼海遺跡群 (103) では、H − 13 号住居跡として報告されている。 面積 (7.40) ㎡ 床面 カマド前を中心として硬化している。 重複 H − 50 と重複し、新旧関係はH − 50 →本遺構である。 カマド 東壁やや南寄りに 1 基検出。確認長 (0.67) m、燃焼部幅 0.24 m、袖の残存長は右側(南)が 0.40 m、左(北)が 0.36 m、煙道は壁外に 0.20 m突出している。両袖残存部の先端には、面取りされた砂岩が直立して据付られており、その上を同じく面取りされた砂岩を跨がせて焚口を構築している。燃焼部奥壁の緩斜面部には、円錐状に整形された安山岩の支脚が出土している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 やや変性した粘性の強い黒褐色土をベースとして、黄白色粘質土と As-C 軽石を少量含む黒褐色土により構築される薄い貼床。 出土遺物 須恵器短頸壺 (1)、土師器鉢 (2・4)、土師器小型壺 (3)が出土している。 1~3は住居覆土、4は床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から7世紀前半と想定される。

H-49 号住居跡(Fig.46·82、PL.20·50)

位置 X 25·26、Y 121·122 主軸方向 N - 84°-E 規模 東西軸(4.47)m、南北軸 4.93 m、壁現高 0.26 m。

調査区南側から検出した。東半は撹乱と住居跡の重複によって削平されている。 面積 (14.12) ㎡ 床面全体的によく硬化している。 重複 なし。 カマド 検出されなかったが、住居構造から判断すると東側に存在したと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面にAs-C軽石粒を含む黒褐色土を充填して構築されている。 出土遺物 住居覆土より須恵器坏(1・2)、須恵器甕(3)、土師器坏(4・5)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から8世紀後半と想定される。 H-50号住居跡(Fig.48、PL.20)

位置 X 23、Y 124 主軸方向 N - 31°-W 規模 東西軸 (1.50) m、南北軸 (2.08) m、壁現高 0.19 m。 調査区南側西壁において北東隅のみの検出で、大半は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群 (103) では、 H - 14号住居跡として報告されている。 面積 (2.82) ㎡ 床面 全体的によく硬化している。 重複 無 し。 カマド 検出されなかったが隣接調査地点の検出状況から判断すると、北壁中央から西寄りに存在したと 考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 粘性の強い黒褐色土をベースとして、黄 白色粘質土を少量含む暗褐色土を薄く貼って構築されている。 出土遺物 無し。 時期 狭小範囲のみ検出し た結果、時期の判断はできなかったが、同一遺構である元総社蒼海遺跡群 (103) H - 14号住居跡では、4点の 出土遺物を図示して6世紀後半と推定されている。

H-51号住居跡(Fig.30)

位置 X 17・18、Y 122 主軸方向 N − 120° − E 規模 東西軸 (0.24) m、南北軸 (0.14) m、壁現高 0.31 m。調査区西側南壁から北西隅のみ検出で、大半は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群 (103) では、H − 2号住居跡として報告されている。 面積 (0.91) m 床面 やや硬化している。 重複 H − 53と重複し、新旧関係はH − 53 →本遺構である。 カマド 検出しなかったが、隣接調査区域では東壁中央やや南寄りから 1 基検出している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 粘性の強い黒褐色土をベースとして、浅い凹凸面に黄褐色粘質土ブロックを含む暗褐色土を充填して構築された貼床。 出土遺物 無し。 時期狭小範囲のみ検出した結果、時期の判断はできなかったが、同一遺構である元総社蒼海遺跡群 (103) H − 2号住居跡では、26 点の出土遺物を図示して 11 世紀代と推定されている。

H-52 号住居跡(Fig.24·83、PL.20·50)

位置 $X 25 \cdot 26$ 、 $Y 112 \cdot 113$ 主軸方向 $N-101^\circ-E$ 規模 東西軸 (3.02) m、南北軸 (2.68) m、壁現高 0.57 m。 調査区北壁東端から南東隅のみ検出で、大半は調査区外となる。 面積 (3.42) ㎡ 床面 検出範囲内はよく硬化している。 重複 H-6と重複し、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-6$ である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとして、浅い凹凸面に砂層ブロックを含む暗褐色土を充填して構築された貼床。 出土遺物 須恵器蓋 (1)、須恵器坏 $(2\sim4)$ 、土師器甕 (6)が出土している。 $1\cdot3\cdot4$ が貯蔵穴、 $2\cdot5$ が床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9世紀前半と想定される。

H-53 号住居跡(Fig.30 · 83、PL.20 · 50)

位置 X18·19、Y121·122 主軸方向 N-95°-E 規模 東西軸5.98 m、南北軸(4.88) m、壁現高0.54 m。調査区西側南壁から北半のみ検出で、南壁は調査区外となる。隣接する元総社蒼海遺跡群(103)では、H-12号住居跡として報告されている。 面積 (26.12)㎡ 床面 よく硬化している。 重複 H-13·15と重複し、新旧関係は本遺構→H-13→H-15である。 炉 検出されず。 貯蔵穴 西壁中央より2基検出。南側は長軸0.62 m、短軸0.58 m、深さ0.16 mを測り、平面円形を呈する。北側は長軸0.76 m、短軸0.72 m、深さ0.21 mを測り、平面円形を呈する。 柱穴 検出されず。 掘り方 変性した粘性の強い総社砂層をベースとして、黄褐色粘質土ブロックをやや多く含む黒褐色土を厚く充填して構築されている貼り床。 出土遺物 S字状口縁台付甕(1・2)が出土している。1は住居覆土、2は床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向か

ら、4世紀後半と想定される。

H-54号住居跡(Fig.50·83、PL.20)

位置 X 26・27、Y 115~117 主軸方向 N − 85°-E 規模 東西軸 4.38 m、南北軸 4.12 m、壁現高 0.54 m。調査区西側中央からの検出。 面積 16.90 ㎡ 床面 全体的によく硬化している。 重複 J − 5 と重複し、新旧関係は J − 5 → 本遺構である。 カマド 東壁中央に1 基検出。確認長は 1.11 m、燃焼部幅 0.50 m、天井部は完全に崩落しており、袖の残存長は右(南)が 0.67 m、左(北)が 0.70 m、灰褐色粘質土を用いて袖を構築し、煙道は壁外に 0.34 m突出している。燃焼部内壁は被熱によってやや硬質焼土化しており、火床面直上には灰層が堆積している。上位の焼土粒・灰を含む崩落土は、南東方向の貯蔵穴へ流れ込んでいる。 貯蔵穴 長軸 0.63 m、短軸 0.62 m、深さ 0.42 mを測る、不整円形の貯蔵穴が住居南東隅から検出した。その東側からは、長軸 0.49 m、短軸 0.29 m、深さ 0.18 mを測る、不整円形の浅い掘り込みが検出している。 柱穴 4 基検出したが、掘り込みはいずれも浅い。 P 1 は長軸 0.43 m、短軸 0.33 m、深さ 0.09 mを測り、楕円形を呈する。 P 2 は長軸 0.32 m、短軸 0.31 m、深さ 0.18 mを測り、不整円形を呈する。 P 3 は長軸 0.30 m、短軸 0.27 m、深さ 0.06 mを測り、不整円形を呈する。 P 4 は長軸 0.41 m、短軸 0.40 m、深さ 0.09 mを測り、円形を呈する。 掘り方総社砂層をベースとして、細かい凹凸面に As-C 軽石粒と砂層ブロックを少量含む黒褐色土を充填して構築された貼床。 出土遺物 住居覆土中より土師器坏(1・2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 7 世紀前半と想定される。

H-55号住居跡(Fig.50 · 83、PL.20 · 51)

位置 $X 22 \cdot 23$ 、 $Y 116 \cdot 117$ 主軸方向 $N - 77^{\circ} - E$ 規模 東西軸 $3.41 \, \mathrm{m}$ 、南北軸 $(3.43) \, \mathrm{m}$ 、壁現高 $0.35 \, \mathrm{m}$ 。 調査区中央北側から検出し、南側は撹乱によって削平されている。 面積 $(9.50) \, \mathrm{m}$ 床面 全体的に弱い硬化。 重複 $H - 30 \cdot 31 \, \mathrm{と重複}$ し、新旧関係は本遺構 $\to H - 31 \, \to H - 30 \, \mathrm{co}$ ある。 カマド 検出しなかったが、床面における焼土粒の堆積状況から判断すると、東壁に存在したと考えられる。 貯蔵穴 長軸 $0.53 \, \mathrm{m}$ 、短軸 $0.50 \, \mathrm{m}$ 、深さ $0.33 \, \mathrm{m}$ を測る、円形の貯蔵穴が住居南東側から検出した。 柱穴 検出されず。 掘り方 北側は総社砂層、南側は砂層直上の黒褐色土をベースとして、部分的に黒褐色土を薄く充填して構築された貼床。 出土遺物 住居覆土より、土師器暗文坏(1)、土師器甕(2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向から 8世紀前半と想定される。

H-56号住居跡(Fig.48·83、PL.21·51)

位置 X $24 \cdot 25$ 、 Y 120 主軸方向 $N-120^\circ-E$ 規模 東西軸 (2.77) m、南北軸 (3.18) m、壁現高 0.04 m。 調査区中央南寄りから、確認面がほぼ床面に近い状態で検出した。 面積 (7.92) m 床面 カマドから住居中央にかけて硬化している。 重複 J-15、 $H-19 \cdot 28$ 、D-31 と重複し、新旧関係は $J-15 \rightarrow H-28 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow H-19 \rightarrow D-31$ である。 カマド 東壁中央から 1 基検出。確認長 0.82 m、燃焼部幅 0.34、煙道は壁外に 0.15 m突出している。燃焼部左壁側(北)に、構築部材の砂岩が 1 点検出している。 貯蔵穴検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 J-15 の覆土をベースとして、凹凸面に薄く黒褐色土を充填した貼床。 出土遺物 須恵器高台付埦(1)、須恵器埦(2)、土師器甕(3)が出土している。 1 は床面直上、2 は住居掘り方、3 は住居覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

H-57号住居跡(Fig.51·83、PL.21·51)

位置 $X 23 \cdot 24$ 、 $Y 117 \sim 119$ 主軸方向 $N - 69^{\circ} - E$ 規模 東西軸 (2.86) m、南北軸 (6.20) m、壁現高 0.13 m。調査区中央から検出した。周辺は遺構の重複が激しく、西側は撹乱によって削平されていることから、僅かに東壁の一部を含む床面が検出したのみである。 面積 (5.63) m 床面 硬化は認められない。 重複 $H - 4 \cdot 27 \cdot 35$ と重複し、新旧関係は本遺構 $H - 4 \rightarrow H - 27 \rightarrow H - 35$ である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 総社砂層をベースとしている地山床。 出土遺物 床面

直上より須恵器埦(1)、丸瓦(2)が出土している。 時期 出土遺物の傾向と重複関係から、8世紀後半と 想定される。

(2) 溝跡

W-1号溝跡(Fig.51、PL.21)

位置 X30~31、Y122 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ(3.85) m、上幅(1.37) m、深さ(1.23) m、調査区南東隅からの検出で下端は未検出のため、下幅は不明。同一遺構として、東側に隣接する元総社蒼海遺跡群(123) ではW-1号溝、北側の元総社蒼海遺跡群(24) では31区W-2号溝、南側の小見Ⅱ遺跡ではW-2号溝として報告されている。覆土中位にはAs-B軽石混土層が堆積しており、通水の痕跡は認めらない。 形状等 検出範囲が狭いため不明。 重複 無し。 出土遺物 灰釉陶器碗、須恵器境・甕、土師器坏・甕、丸・平瓦、陶器鉢が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。 時期 元総社蒼海遺跡群(123) では、重複関係と出土遺物から、10世紀後半以降の開削で中世以降も存続したと想定されている。本遺跡地内では、狭小範囲のため判然としないが、堆積土層から判断すると上記想定と齟齬がないと考えられる。

(3) 井戸跡

I − 1 号井戸跡(Fig.36 · 37 · 84、PL.51)

位置 X 25・26、Y 117 規模 上端部は幅 2.65 mで逆ハの字に開き、2 段の階段状の掘り込みから、幅 1.27 mの井戸本体円柱部へと至る形状。確認面から基底面までは深さ 4.86 mを測る。段部には部分的に灰白色粘質土を貼り付けた瓦片が凸面を上にして敷かれており、井戸本体の覆土からは落下したとみられる瓦片が 380 点出土していることから、井戸本体上端から開口部にかけて瓦積みがあった可能性が高い。なお、覆土最上層には、紫灰色火山灰層を含む As-B 軽石 2 次堆積層が確認されている。 重複 H − 24・26・37 と重複し、新旧関係は H − 24・26・37 →本遺構である。 出土遺物 上野国分寺修造期の軒丸瓦 A 103(1)、凸面に「(那)波郡朝倉」と墨書された平瓦(2)、凹面端部に二重囲い「方」陰刻の押印がある平瓦(3)、凸面の叩き下端部に左字「雀」の平瓦(3)がいずれも井戸本体の覆土下層から出土している。 時期 重複関係から、10 世紀前半以降と想定される。 備考 同種の遺構として、本遺跡の東方に位置する元総社蒼海遺跡群(18) I − 4 号井戸跡がある。

(**4**) 土坑 (Fig.52 · 53 · 84 · 85、PL.21 ~ 23)

土坑32基を確認している。D-2は欠番で、時期は縄文時代中期後半加曽利EⅢ期から平安時代末までと幅があるが、出土遺物が無いことから時期不明の土坑も多い。D-3号土坑は、軟質な灰黄褐色土が底面から20cm程堆積し、直上に紫灰色火山灰層を上位に含むAs-B軽石1次堆積層が確認されている。各土坑の計測値については「Tab.2 (116)土坑・ピット計測表」を参照のこと。

(5) 遺構外出土遺物(Fig.85 ~ 87)

調査区南西側においては、遺構確認面下黒色土の堆積が厚く、縄文時代の遺物が古代面調査時にも散発的に出土していた。撹乱と古代住居跡によって縄文面の遺構認定がやや困難な状況であったので、東西方向に1~3、南北にA~C、計8地点の任意メッシュを設定し、スライスによる掘り下げを行った。出土した遺物はできるだけ元位置に留め、遺構プランが判明した時点で当該遺構の帰属とした。該当しなかった遺物や遺構と時期が異なる混入遺物については、遺構外出土資料としてこちらに40点掲載している。

縄文時代の出土遺物は諸磯b期(1)と加曽利EⅡ~Ⅲ期(3~11)を主体とする。(11)は口縁下に円孔

による補修痕が認められる。他に 1 点のみ東関東に分布の中心をもつ、前期後半の興津式が出土している(2)。(12)~(14)は土製円盤、(15)は上下ともに渦巻状の沈線文を施した耳栓、(16)は砂岩製の尖頭器、(17)は安山岩製の打製石斧で撥形を呈する。(18)~(21)は黒色頁岩製の打製石斧で短冊形を呈する。(22)は珪質頁岩、(23)はチャート製の凹基無茎鏃である。

古代の出土遺物は6世紀後半から7世紀、10世紀以降を主体とする。(37)は鍔付台付鉢の有孔タイプで、H-21号住居跡出土遺物に同種の資料がある。(38)の羽口は使用により全体的に脆い状態で、高温に晒された結果、端部にはガラス質が釉出している。

縄文時代の遺構外遺物は、調査によって検出された遺構との時期が概ね一致するものの、古代の遺構外遺物に関しては、時期毎の住居件数の増減とは必ずしも一致しない結果となっている。

Tab. 2 (116) 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D - 1	X 25 · 26、 Y 116	1.56	0.82	0.19	長楕円形	半円状	縄17、石3、土24、須5、鉄2	
D - 2	欠番							
D - 3	X 24、Y 115	1.54	0.97	0.53	長楕円形	台形状	縄3、土3、須5、瓦3	As-B 軽石 1 次堆積層有り
D - 4	X 24、Y 114 · 115	1.49	0.99	0.33	長方形	階段状	縄 20、土1、須1	
D - 5	X 25、Y 115	1.79	(0.67)	0.11	長方形	弧状	縄23、土2、須1	
D - 6	X 25、Y 115	1.03	(0.83)	0.13	方形	台形状	縄7、土2、須1	
D - 7	X25、Y116	1.40	1.18	0.38	円形	階段状	縄39、石3、土9、須6	
D - 8	X 25 · 26, Y 116 · 117	0.98	0.93	0.20	円形	弧状	縄 18、土 10、須 1	9世紀か
D - 9	X 29 · 30、 Y 121	1.59	1.55	0.49	方形	階段状	縄12、土25、須12、灰2、瓦3	
D - 10	X 28、Y 120·121	1.02	0.33	0.21	楕円形	弧状	縄 17、土6、須4	
D - 11	X 28、Y 122	0.59	0.53	0.34	円形	階段状	土7、灰1	9世紀か
D - 12	X 27 · 28, Y 122	0.66	0.60	0.28	円形	半円状	石1、土1、須5	
D - 13	X 25 · 26, Y 116	1.06	(1.01)	0.21	円形	弧状	縄7、土6、須2、瓦3	
D - 14	X 19 · 20, Y 120 · 121	1.47	1.21	0.40	楕円形	階段状	縄13、土9、須10、瓦4、鉄1	
D - 15	X 26、Y 118	(1.26)	0.89	0.19	長方形	弧状	縄 20、石1、土14、須3、灰1、瓦1	
D - 16	X 20 · 21, Y 115	1.28	(1.08)	0.20	円形	台形状	_	
D - 17	X 21、Y 115	0.85	0.54	0.25	長楕円形	台形状	縄3	
D - 18	X 19 · 20、 Y 121	1.50	0.94	0.29	長方形	箱状	縄13、土4、須8、瓦1	
D - 19	X 19、Y 116	2.47	(1.11)	0.54	長楕円形	弧状	縄11、石1	
D - 20	X 24、Y 122·123	(3.21)	2.97	0.79	円形	台形状	縄 121、石 11、土 95、須 28、瓦 28	粘土採掘坑
D - 21	X 23、Y 120	1.50	1.28	0.52	不整形	台形状	土1	
D - 22	X 20、Y 121	1.14	0.74	0.33	不整形	弧状	縄16、土8、須11、瓦1	
D - 23	X 19 · 20、 Y 121	0.99	(0.84)	0.32	不整形	弧状	縄12、石1、土3、須8、灰1、瓦1	9世紀後
D - 24	X 23、Y 118·119	2.84	1.69	0.49	長方形	階段状	縄89、石4、土6、須12、瓦2	
D - 25	X 23、Y 121	1.74	(1.17)	0.23	不整円形	箱状	縄 18、土 15、須 1	8世紀か
D - 26	X 19 · 20、 Y 115 · 116	3.06	1.20	0.19	長整円形	弧状	縄9、土3、須2、灰1	
D - 27	X 19 · 20, Y 116 · 117	2.48	1.27	0.19	長方形	台形状	縄 18、石 5、須 1	
D - 28	X 20、Y 116	1.06	0.95	0.35	円形	階段状	縄 4	
D - 29	X 20、Y 116	0.85	0.66	0.32	長方形	台形状	縄 5	
D - 30	X 20、Y 116 · 117	1.18	1.02	0.15	円形	弧状	縄6、灰1	
D - 31	X 25、Y 120	0.55	0.51	0.27	円形	台形状	_	
D - 32	X 25、Y 120	0.56	(0.51)	0.19	円形	V字状	縄4、土3	
D - 33	X 25、Y 120	1.15	(0.64)	0.25	円形	弧状	縄14、石1、土1、須3	
X - 1	X 23 · 24、 Y 123	3.16	3.08	0.91	不整形	箱状	縄 246、石 13、土 68、須 20、瓦 14	採掘坑

Tab. 3 (116) 出土遺物観察表

J — 1

J — No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	平口縁か。口縁文様帯下に括れを持つ。口縁下に横位蕨状沈線と孤状沈線区画 が連続する。口画内は経位か線を撮っな様帯下端に燃壮略夢、以下2本1組の		残存状況・備考
1	No.25	縄文土器深鉢	[24.0]	-	(13.8)	白・黒色粗粒、 チャート粗粒	やや軟質	明黄褐橙	が連続する。	区画内は縦位沈線充塡。文様帯下端に鍔状隆帯。以下2本1組の	□縁~胴部上位片 1/2 残存。 加曽利E II 期新相~Ⅲ期古相。
2	No. 1	縄文土器深鉢	(46.0)	-	(35.0)	白·茶色粒、 黒雲母	良好	暗赤褐	平口縁。口縁3	J 字光徳沈線施文。沈線則に無節斜縄文 尺 施立か。 交替帝は太い္状沈線と上線と下縁に交正に配して連続する。 蕨 火・中医帯と光道により区両を持ち、縄文左爆、文様帯以下は2 無文帯を持つ懸垂線が等間隔に配され、沈線文間に縄文施文。	加資利E I 判析和~ II 判 日
3	No. 3	縄文土器深鉢	(32.0)	-	(16.5)	白・灰色粗粒、 石英、黒雲母	良好	にぶい黄褐	平口縁。口縁一充塡。以下胴部	。 下は隆帯によるやや歪みのある楕円形区画が連続し、区画内縄文 略は2本の沈線間に無文を持つ懸垂線が口縁帯楕円形区画の境に 文間に縄文施文。施文縄文は直前段合巻の「異条料縄文」か。	□緑~胴部中位片。 加曽利EⅢ期。
4	No.55 · 74	縄文土器深鉢	(28.8)	-	(13.7)	チャート粗粒	良好	橙明黄褐	平口縁、。口線 状文1単位には 縄文充塡。胴部	接下は太い隆帝と沈線による横位蕨状文が3連続で全周する。 歳 は渦巻文と半載竹管の背による三角形区画が3ヶ所伴い、区画内 都は3本1組と2本1組の懸垂沈線が交互に等間隔に施され、沈 文、施文構立 R。	口縁~胴部上位片。 加曽利E Ⅲ期古相。
5	覆土	縄文土器 鉢	(24.4)	-	(9.4)	白・茶色粒、黒雲 母、チャート小石	良好	灰褐褐	平□縁。□縁	下は太い渦巻状沈線と隆帯による単位が上下反転しながら連続す 渦巻文間の円形区画には施文縄文RLが充塡。	□縁部文様帯片。 加曽利EⅢ期新相。
6	覆土	縄文土器 鉢	(27.2)	-	(15.9)	白色粒、黒雲母	良好	暗灰黄 黄褐	平口緑。口緑	下は若干の隆帯が横位に廻り、以下胴部には半截竹管或は工具に い沈線が全面に施されている。	□縁~体部片。 J·14号住4・ (123) J·11号住3と接合。 加曽利EⅢ期。
No	出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	覆土	縄文土器 耳栓	2.6	1.1	2.6	黒雲母少量	良好	明赤褐	外周には直径総	な凸面を呈する。中心から細沈線による3~4重の渦巻文を施し 約 1.5mm の円形刺突文を施文。裏面は緩やかに狭小して整えられ	一部欠損。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	ている。	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	No.35	石器 打製石斧	11.0	4.7	1.1	黒色安山岩	-	-	56.4	表面上部に自然面を残す横長剣片素材を縦位に使用し、主に周縁 に加工を施し中位に若干の括れを有する短冊形を作出している。 左右側縁は鋭利で削器利用も推定できる。	完存。 短冊形。
9	No.36	石器 打製石斧	10.4	4.0	1.4	かんらん岩	-	-	70.0 る自然面は磨耗により滑らかで、磨製石斧等からの石器の再成が 推定できる。		完存。 短冊形。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量 器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
10	No.62	石器 打製石斧	11.1	4.3	1.5	黒色頁岩	-	-	表面に広く自然面を残す横長剝片素材を横位に使用し、主に関縁 に加工を施し下半部がやや広がる短冊形を作出している。自然面 5		完存。 短冊形。
11	No.70	石器 打製石斧	13.8	7.2	3.4	安山岩	-	-	原手の扁平剝片を素材に使用しやや刃部の広がる短冊形を作出し イルス たた側続け両面から細める調整知識を始上続色に佐出し		完存。 短冊形。
12	No.72	石器 石鏃	(2.4)	(1.7)	(0.4)	黒色頁岩	-	-	鎌身中位に若干の括れを有して鋭く失頭する。左右側縁には微細		左脚部欠損。 凹基無茎鏃。
13	覆土	石器 石鏃	2.2	1.5	0.3	黑色安山岩	-	-	0.8	やや粗い整形剝離を施し鏃身が長く脚部の短い形状を作出している。 四基部は丸みを有して若干歪む。	完存。 凹基無茎鏃。
14	No.67	石製品 石皿	(11.6)	(6.7)	(4.6)	緑泥片岩	-	-	497.4	裏面は丸みを有し、やや大型の石棒片の転用が推定できる。節離 割れ面は磨耗が顕著で若干凹み、石皿使用面とみられる。	破片。
15	No.75	石製品 石皿	(12.6)	(10.2)	(5.7)	粗粒輝石、安山岩	-	-	784.8	表面の皿部及び裏面の広い範囲に磨耗が顕著で、表面中央付近に は歳打痕の集中が認められる。 側面及び裏面には複数の凹部を有 し、被熱による変色もみられる。	破片。
J –		種別 哭種	口径	库径	言さ		性成			哭形 成・敷形 文様等の特徴	建友州沿・備老
No	出土位置	種別、器種組文土器	口径	底径	高さ	胎土 白·赤色粗粒	焼成	色調橙		器形、成・整形、文様等の特徴 無文帯下はくの字に括れて、以下に第上の修帝を上下に配する文 集をもと様と後の記さいる。	残存状況・備考 口縁下~体部下位片。
No 1	出土位置 No. 1 · 4		口径	底径	(20.8)	白・赤色粗粒 チャート粗粒、石英	良好		様態を持つ。i 位として、6 章 平口縁。口縁	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 議舎文と半載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線充墳を1 単 程位で全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態	
No 1	出土位置 No. 1 · 4 No. 8	縄文土器 浅鉢	口径 - -	底径		白·赤色粗粒		橙 にぶい赤褐	様態を持つ。i 位として、6 単口縁。口縁 を持ち、区画	無文帯下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帯を上下に配する文 満巻文と半載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線充塡を1単 単位で全周する。	□禄下~体部下位片。 加曾利E II 期新相~II 期古相。
No 1 2 J —	出土位置 No. 1 · 4 No. 8	縄文土器 浅鉢 縄文土器 深鉢	-	-	(20.8)	白・赤色粗粒 チャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒	良好良好	橙にぶい赤褐 橙、灰褐 にぶい褐	様態を持つ。i 位として、6 単口縁。口縁 を持ち、区画	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 満巻文と半載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線充填を1 単 単位で全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態 内に尖羽状沈線充塡。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂線及び縄文施文RL。	口核下~体部下位片。 加曾利E II 期新相~II 期古相。 口核部片。 加曾利E II 期古相。
1 2 J - No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置	縄文土器 浅鉢 縄文土器 深鉢 種別、器種 縄文土器	- C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	底径	(20.8) (10.8)	自・赤色粗粒 チャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、	良好良好	橙にぶい赤褐 橙、灰褐 にぶい褐 色調 にぶい黄褐	様態を持つ。記 位として、6 単口縁。口縁 を持ち、区画 無文帯を持つ見 平口縁。口縁	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 満巻文と半載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線充填を1里 単位で全関する。 には平隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態 内に矢羽状沈線充填。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線剛に	口縁下~体部下位片。 加管利E II期新相~II期占相。 口縁部片。 加管利E II期占相。 残存状况・備考 口縁部片。
No 1 2 J - No 1	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22	縄文土器 浅鉢 縄文土器 深鉢	-	-	(20.8) (10.8) 高さ (6.3)	自・赤色粗粒 チャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土	良好良好	程にぶい赤褐 程、灰褐にぶい褐 色調 にぶい黄褐 明黄褐	様態を持つ。 位として、6 単口縁。口縁を持ち、区画「無文帯を持つ見 平口縁。口縁は無文帯を持つ見	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 誘意文と手載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光現を1 単 単位で全関する。 下は字母が構位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文財標 内に矢羽状沈線光環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 極素線及び観文施文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴	口綾下~体部下位片。 加資利E II期新相~II期古相。 工廠部片。 加資利E II期古相。 残存状况・備考 口縁部片。 加資利E II期。
No 1 2 J — No 1 2	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23	概文土器 浅鉢 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 純文土器 深鉢 概文土器 深鉢	-	-	(20.8) (10.8) 高さ (6.3) (7.3)	白・赤色粗粒 チャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 由・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、 水晶	良好良好鬼好鬼好	程 にぶい赤褐 程、灰褐 にぶい褐 色調 にぶい黄 間 黄褐 程 り 乗 数 機	様態を持つ。 位として、6 単口縁。口縁 を持ち、区画 無文帯を持つ見 単口縁。口縁 は無文。 平口縁。口縁 は無文。 平口縁。口縁 1組の沈線及で	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と手載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光現を1 単 単位で全脚する。 下は半珠密が構位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文財標 内に矢羽状沈線光環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 整垂像及び縄文施文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は鳴曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準載竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び縄文施文L R。	口綾下 《 体部下位片。 加管利 E I 期新相 ~ II 期古相。 工 校
No 1 2 No 1 2 No 1 2 3	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24	概文土器 浅鉢 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢	-	-	(20.8) (10.8) 高さ (63) (73) (43)	白・赤色粗粒 チャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、 木品 白・茶色粒、 黒雲母、石英	良好 良好 烷成 良好 良好	程にぶい赤褐 程、灰褐 にぶい掲 色調 にぶい掲 を調 機 関 黄褐 明 黄褐 根 にぶい横	様態を持つ。減位として、6± 位として、6± 平口線。口線下 を持ち、区画 無文帯を持つ! 平口線。口線下 は無文。 平口線。口線下 は無文。 平口線。口線下 は無文。 平口線。口線下 は無文。	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と手載竹管の背による楕円形区画内に新位沈線光現を1 単 単位で全脚する。 下は字珠密が構位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文財標 内に矢羽状沈線光環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 整垂像及び縄文施文R と 器形、成・整形、文様等の特徴 下は鳴歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準載竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本	口綾下~体部下位片。 加曾利EⅢ期新相~Ⅲ期古相。 口綾部片。 加曾利EⅢ期古相。
No 1 2 J — No 1 2 3 4	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29	概文土器	-	-	(20.8) (10.8) 高さ (6.3) (7.3)	白・赤色粗粒 ナヤート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎士 白・茶色粗粒、 水晶 白・茶色粒、 一 二 の の の の の の の の の の の の の	良好良好鬼好鬼好	程 にぶい赤褐 程、灰褐 にぶい褐 色調 にぶい黄 間 黄褐 程 り 乗 数 機	様態を持つ。減位として、64 位として、64 平口線。口縁、区画下無文帯を持つ見 単工線。口縁 車文帯を持つ見 平口線。口縁 1組の沈線及で 平口線。口縁 1組の沈線及で 平口線。口縁	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半載竹管の寄による楕円形区画内に新位沈線充填を1 単 単位で全脚する。 下は半珠帝が楠位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文壁標 内に矢羽状沈線充塡。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 整番級な研文施文RL。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は韓歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は韓歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は韓歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は非載竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び横立施文LR。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文LR。	口縁下心体部下位片。 加資利E II期新相~Ⅲ期古相。 口縁部片。 加資利E II期古相。 「現務部片。 加資利E III期。 口縁部片。 加資利E III期中相。 口縁部片。 加資利E III中相。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢	- 口径 - · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底径 - -	(20.8) (10.8) 高さ (6.3) (7.3) (4.3) (7.6)	白・赤色電粒 サヤート観粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、 木白・茶色粒、 黒雲母、石英 白白色粗粒、輝石細 粒	良好 良好 燒好 良好 良好	橙にない赤褐 松 灰褐にない場響にない場響にない表現 松 東郷 にない表現 松 東美樹 根 黒褐	様態を持つ。減位として、64 位として、64 平口線。口縁、区画下無文帯を持つ見 単工線。口縁 車文帯を持つ見 平口線。口縁 1組の沈線及で 平口線。口縁 1組の沈線及で 平口線。口縁	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半執竹管の背による楕円形以両内に斜位沈線光環を1 単 程位空全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区両の文様態 内に矢羽状沈線光環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂線及び縄文施文化。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は備粛状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準載竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び縄文施文LR。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を塊に縄文施文LR。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文RL。	口縁下心体部下位片。 加曽利EⅢ期新相~Ⅲ期古相。 口縁部片。 加曽利EⅢ期古相。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢	-	-	(20.8) (10.8) 高さ (63) (73) (43)	白·赤色粗粒	良好 良好 烷成 良好 良好	程に高い赤褐 校、灰褐に高い桃 一色調 日本の 一般	機能を持つ。 (位として、6 平口線。口線できずり、区画 無文帯を持つ。 平口線、口線では は無文。 平口線、口線では は無文。 平口線、口線で は無文。 平口線、口線で は一線、口線で で で で で で で で で に に に に に に に に に に に に に	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高徳女と手執竹管の背による楕円形区側内に斜位沈線光現を1 単 程位で全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様照 内に矢羽状沈線光弧。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂線及び縄文施文 R.。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は衛歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準載竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び縄文施文 L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文 L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 。服租上部は無文。以下渦巻文及び半載竹管の背による楕円形区	口縁下~体部下位片。 加管利EⅢ期新相~Ⅲ期古相。 口縁部片。 加管利EⅢ期古相。 「残存状況・備考 「は総部片。 加管利EⅢ期。 「以総部片。 加管利EⅢ期中相。 「以総部片。 加管利EⅢ期中相。 「以総部片。 加管利EⅢ期新相。 「残存状況・備考 頭部片。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置	種別、器種 一種別、器種 一種別、器種 一種別、器種 一種別、器種 一種別、器種 一種別、器種	- 口径 - · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底径 - -	(20.8) (10.8) (10.8) 高さ (6.3) (7.3) (4.3) (7.6)	自・未色報处 サヤート組総、石英 白・黒・茶色報 白・黒・茶色報 た本品 白・茶色粗粒、水 木品 白黒芸母、黒雲母、黒雲母、大品 白色粗粒、輝石細 松 胎土	良好 良好 原成 良好 良好 良好	提にぶい赤褐 根、灰褐にぶい褐 を	規能を持つ。 は 使として、61 平口線、口球 を持ち、区画 無文帯を持つ! 平口線、口球 は無差次 平口線、口球 ではなとなる。 平口線、口球 ではなとなる。 平口線、口球 ではなり、 平口線、口球 ではなり、 ではなりまない。 ではなり、 ではなりなり、 ではなりなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなり、 ではなりなり、 ではなり、 ではなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半数竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光頻を1 単 単位字全関する。 下は半醛帶が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態 州に矢羽状沈線光頻、約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂級及び縄文施文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は櫛曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 で横した。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文 L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文 R L。 総形、成・整形、文様等の特徴 、服相上部は無文。以下添巻文及び半致竹管の背による楕円形区 充塊、文様帯から屈曲下の彫らみをもつ。 の突起を持つ。以下指子形による幅広の沈線文及び無状沈線文の の突起を持つ。以下指子形による幅広の沈線文及び無状沈線文の	口縁下心体部下位片。 加曽利E II 期新相~II 期古相。 口縁部片。 加曽利E II 期古相。 「八縁部片。 加曽利E II 期古相。 「八縁部片。 加曽利E II 期中相。 「八縁部片。 加曽利E II 期中相。 「八縁部片。 加曽利E II 期新相。 「八縁部片。 加曽利E II 期新相。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 度土	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 種文土器 深鉢 種文土器 深鉢	- 口径 - · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底径	(20.8) (10.8) (10.8) (6.3) (7.3) (4.3) (7.6) 高さ (6.5)	白・赤色粗粒 クャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・米色粗粒、 木品 白・米色粒、 黒雲母、石芸 よ品 白色粒、黒雲母、 木品 白色粗粒、輝石細 粒 胎土 白色粗粒、輝石細 粒 上 白・灰色粒、 上 白木 上 白木 大品 白色粒、 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粒 大品 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗粒 大 白色粗 大 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色	良好 良好 良好 良好 良好 良好	程にぶい赤褐 根、灰褐にぶい褐 化二氯化物 化二氯化物 化二氯化物 化二氯化物 相 明 東縣 灰黄褐 程 明 東縣 灰黄褐 生 無	機能を持つ。 (位として、6) 平口線。口線でき持ち、区画 無文帯を持つ。 平口線。口線では ・ 四線では ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 四線の ・ 一線の ・ 一、一、一 ・ 一、一 ・ 一 、 ・ 一 ・ 一 、 ・ 一 、 一 、	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半数竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光頻を1 単 単位字全関する。 下は半醛帶が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態 州に矢羽状沈線光頻、約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂級及び縄文施文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は櫛曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 で横した。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文 L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文 R L。 総形、成・整形、文様等の特徴 、服相上部は無文。以下添巻文及び半致竹管の背による楕円形区 充塊、文様帯から屈曲下の彫らみをもつ。 の突起を持つ。以下指子形による幅広の沈線文及び無状沈線文の の突起を持つ。以下指子形による幅広の沈線文及び無状沈線文の	口縁下心体部下位片。 加管利臣 II 期新相~Ⅲ期古相。 口縁部片。 加管利臣 II 期前相。 残存状況・備考 口縁部片。 加管利臣 II 期。 「は縁部片。 加管利臣 II 期。 「は縁部片。 加管利臣 II 期 中相。 口縁部片。 加管利臣 II 則 「
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 夏土	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 純文土器 深鉢 一種文土器 深鉢 一種文土器 深鉢	口径 : :	底径	(20.8) (10.8) (6.3) (7.3) (4.3) (7.6) (6.5) (9.0)	白・赤色粗粒 テャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎士 白・茶色粗粒、 不品 白・茶色粒、 黒雲母粒 、	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	程に高い赤褐 根の に高い 表現 を を は を に を い 表現 を と の は ない と を の で ままままままままままままままままままままままままままままままままま	「「大きない」 「大きない」 「大きない。 「しきない。	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線先現を1 里 単位で全脚する。 下は半珠密が楠位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文壁壁 内に矢羽状沈線充環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 整金線及び縄文施文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は輸出状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準載竹管の背による刺突文(擬径8mm)が巡り、以下に2本 び横び編文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に始え。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 ・服曲上部は無文。以下渦巻文及び半載竹管の背による楕円形区 た場、文様帝から照曲下の節らみをもつ。 の突起を持つ。以下指ナデによる幅はの沈線文及び蕨状沈線文の れる。	口縁下~体部下位片。 加曽利EⅢ期新相~Ⅲ期古相。 口縁部片。 加曽利EⅢ期古相。 「残存状況・備考 口縁部片。 加曽利EⅢ期 口縁部片。 加曽利EⅢ期中相。 口縁部片。 加曽利EⅢ期中相。 口縁部片。 加曽利EⅢ期新相。 「残存状況・備考 頭部片。 加曽利EⅢ期新相。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 度土 度土 出土位置 度土	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無 無文土器 深 無 無 表 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	口径	底径	(20.8) (10.8) 高さ(6.3) (7.3) (4.3) (7.6) 高さ(6.5) (9.0) 厚さ	自·赤色粗粒 + + ト粗粒、石英 白・黒・茶色粒	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	を を を を を を を を を を を の の の の の の の の の の の の の	「「大きない」 「大きない」 「大きない。 「しきない。	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高徳文と手執竹管の育による楕円形区画内に斜位沈線元項を1 単 程位空全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S 字及び楕円形区画の文様態 内に欠羽状沈線元現。約10mmの隆帝を境に以下2 本の沈線間に 懸張線及び縄文施文化。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は構備状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準裁竹管の背による刺突文(縦径8 mm)が巡り、以下に2 本 び縄文施文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に触文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 a 監形、成・整形、文様等の特徴 、	口縁下へ体部下位片。 加曽利E II 期新相〜Ⅲ期古相。 □縁総片。 加曽利E II 期古相。 「八縁総片。 加曽利E II 期古相。 「八縁総片。 加曽利E II 期中相。 「八縁総片。 加曽利E II 期中相。 「八縁悠片。 加曽利E II 期中相。 「八歳悠片。 加曽利E II 期前相。 「八歳悠片。 加曽利E II 期前相。 「八歳悠片。 加曽利E II 期前相。
No 1 2 J - No 1 2 3 4 J - No 1 2 No 1 3 J - No 3 J -	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 度土 度土 出土位置 度土	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無文土器 深 無 無文土器 深 無 無 表 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	口径	底径	(20.8) (10.8) 高さ(6.3) (7.3) (4.3) (7.6) 高さ(6.5) (9.0) 厚さ	自·赤色粗粒 + + ト粗粒、石英 白・黒・茶色粒	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	を を を を を を を を を を を の の の の の の の の の の の の の	「「大きない」 「大きない」 「大きない。 「しきない。	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高徳文と手執竹管の育による楕円形区画内に斜位沈線元項を1 単 程位空全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S 字及び楕円形区画の文様態 内に欠羽状沈線元現。約10mmの隆帝を境に以下2 本の沈線間に 懸張線及び縄文施文化。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は構備状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準裁竹管の背による刺突文(縦径8 mm)が巡り、以下に2 本 び縄文施文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に触文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 a 監形、成・整形、文様等の特徴 、	口縁下へ体部下位片。 加曽利E II 期新相~II 期古相。 口縁部片。 加曽利E II 期古相。 現存が兄・備考 口縁部片。 加曽利E II 期中相。 「は縁部片。 加曽利E II 期中相。 「は縁部片。 加曽利E II 期前相。 「は縁部片。 加曽利E II 期前相。 「は縁部片。 加曽利E II 期前相。 「は縁部片。 加曽利E II 期前相。 「は本部片。 「は、一部・大規・備考
No 1 2 J - No 1 2 3 4 J - No 1 2 No 1 3 J - No 3 J -	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 漫土 理土 出土位置 要土	種別、器種 網文土器 深鉢 種別、器種 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 網文土器 深鉢 相文土器 深鉢 相文土器 深 独 和文土器 深 独 和 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	口径	底径	(208) (108) (63) (73) (43) (76) 高さ (65) (90)	自・来色報数	良好	橙にない赤褐 根	「現代を持つ。 (金) を持ち、 (4) を持ち、 (5) を持ち、 (5) 下口線。 口線 (5) を持ち、 (5) 下口線。 口線 (5) である。 (5) では (5) で	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 論念文と手執竹管の育による楕円形以画内に斜位沈線元項を1 単 程位空全関する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S 字及び楕円形区画の文様態 内に欠羽状沈線元現。約10mmの隆帝を境に以下2 本の沈線間に 懸張線及び縄文施文尺 。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は構備状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は非裁竹管の背による刺突文(縦径8 mm)が巡り、以下に2 本 び縄文施文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 ammと応は無文がみられる。施文機文R L。 を下はった。以下過巻文及び半裁竹管の背による楕円形区 元項、文様帯から配曲下の節らみをもつ。 の突起を持つ。以下指ナデによる幅広の沈線文及び蕨状沈線文の れる。 器形、成・整形、文様等の特徴 は被やかな曲面を見し、土器片の再生利用が維定でき、側面には 整面が認められる。施文縄文R L。	口縁下~体部下位片。 加曽利E II 期新相~ II 期古相。 口縁部片。 加曽利E II 期古相。 「残存状况・備考 「は縁部片。 加曽利E II 期。 「日縁部片。 加曽利E II 期中相。 「日縁部片。 加曽利E II 期中相。 「日縁部片。加曽利E II 期前相。 「日縁部片。 加曽利E II 期前相。
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 養土 大生 出土位置 養土 出土位置	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 深鉢 概文土器 無本 種別、器種 概文土器 概文土器 概文土器 概文土器 概文土器 無本 無本 無本 無本 無本 無本 無本 無本 無本 無本	口径	底径	(20.8) (10.8) (6.3) (7.3) (4.3) (7.6) 高さ (6.5) (9.0) 厚さ 1.1	自・来色粗粒 クャート粗粒、石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、 方山・茶色粗粒、 二・茶色粒、 黒雲母、黒雲母、 二・茶色粒、 黒雲母、黒雲母、 大品 白色粗粒、蝉石細 として、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、黒雲母、 た品 白色粒、 上葉母 たる 白色粒、 上葉母 たる 白色粒、 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上葉母 たる 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	良好	を を を を を を を を を を を の で を を の の の を の の の を の の の の の の の の の の の の の	「	無文帝下はくの字に揺れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高意文と手載竹管の育による楕円形区画内に斜位沈線元項を1 単 程位全屋財子の 下は半陸帝が横位に巡り、以下に横S 字及び楕円形区画の文様態 内に交羽状沈線元乳。約10mmの隆帝を境に以下2 本の沈線間に 能垂線及び縄文施文化。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は韓歯状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準裁竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2 本 び縄文施文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を塊に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 整形、成・整形、文様等の特徴 、開風上部は無文、以下渦巻文及び半载竹管の背による楕円形区 充壌。文様帯から層曲下の膨らみをもつ。 の突起を持つ。以下指ナデによる幅はの沈線文及び蕨状沈線文の れる。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が振定でき、側面には 各面が認められる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が振定でき、側面には 各面が認められる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は毎中か認められる。施文縄文R L。	口縁下~体部下位片。 加曽利E II 期新相~ II 期古相。 「は縁部片。 加曽利E II 期古相。 「残存状況・備考 「は縁部片。 加曽利E II 期 日 日 明 日 日 明 日 日 明 日 日 明 日 日 明 日 日 明 日 日 明 日 日 日 報 日 日 明 日 日 日 日
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 诞土 世土位置 で土 出土位置 で、大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	種別、器種 概文土器 深鉢 種別、器種 概文土器 深鉢 純文土器 深外 純文土器 深外 純文土器 深外 純文土器 深外 純文土器 深外 純文土器 深外 種文土器 深外 種文土器 深外 種文土器 深外 種文土器 深外 種文土器 不 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	口径	底径	(20.8) (10.8) (10.8) (10.8) (6.3) (7.3) (7.6) (6.5) (9.0) 厚さ 1.1	白・赤色粗粒 クャート粗粒 石英 白・黒・茶色粒 胎土 白・茶色粗粒、 方・茶色粗粒、 方・茶色粒、 黒雲母、黒雲母、 大品 白色粗粒、 輝石細 た品 白色粒、 上 白色粒、 上 白色粒、 上 大品 白色粒、 上 大品 白色粒、 上 大品 白色粒、 上 大品 白色粒、 上 大品 白色粒、 上 白色粒、 白色粒、 上 白色粒、 上 白色粒、 上 白色粒 白色粒 白色粒 上 白色粒 白色粒 白色粒 上 白色粒 白色 白色粒 白色粒 白色 白色粒 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色 白色	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	程にぶい赤褐 根にぶい赤褐 根にぶい 横にぶい 横 化二氯 い 横 化二氯 い 横 相 明 在 所 所 横 相 明 在 所 所 数 相 と 他 間 明 在 の は 間 所 ない は は 間 を 他 間 に よい 黄 他 に よい 黄 他 に よい 黄 他 に よい 黄 他 に よい 横	「	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高徳女と半執竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光頻を1 単 程位全場する。 下は半隆帝が横位に巡り、以下に横S字及び楕円形区画の文様態 内生交羽状沈線光頻、約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂級及び縄文施文化。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は飾曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準裁竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び縄文施文1 R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文1 R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文Rし。 器形、成・整形、文様等の特徴 、服組上部は無文。以下渦を文及び半载竹管の背による楕円形区 だ娘。文様帯から屈曲下の彫らみをもつ。 の突起を持つ。以下指サデによる幅広の沈線文及び蕨状沈線文の れる。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかる曲面を呈し、土器片の再生利用が徹定でき、側面には 整面が認められる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は最やかる曲面を呈し、土器片の再生利用が徹定でき、側面には 整形、成・整形、文様等の特徴 は最近かられる。施文縄文R L。	口縁下心体部下位片。 加管利E II 期新相~ II 期古相。 口縁部片。 加管利E II 期古相。 「残存状况・備考 口縁部片。 加管利E II 期 中相。 「日縁部片。 加管利E II 期中相。 「日縁部片。 加管利E II 期中相。 「日縁部片。 加管利E II 期 中相。 「日縁部片。 加管利E II 期 市相。 「日縁部片。 加管利E II 期 市相。 「日縁部片。 加管利E II 期 市相。 「日縁部片。 「「日本部」 「「日本部」 「「日本部」 「「日本部」 「「日本部」 「日本部」 「日本部 「日本部」 「日本部 「日本部 「日本部」 「日本部 「日本部 「日本部 「日本部 「日本部 「日本部 「日本部 「日本部
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 度土 度土 出土位置 度土 出土位置 度土 出土位置	種別、器種 網文土器 深外 種別、器種 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 深外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網文土器 經外 網交土器 經 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	口径 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底径	(20.8) (10.8) 高さ(6.3) (7.3) (7.6) 高さ(6.5) (9.0) 厚さ 1.1	白·赤色粗粒	自好 自好 自好 自好 自好 自好 自好 自好 自好 自好	程にぶい赤褐 を	「現代を表現しています。 「現代を表現しています。 「現代を表現しています。 「現代を表現しています。 「日本の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 高意文と手載竹管の背による楕円形区画内に斜位沈線光頻を1 単 程位で全関する。 下は半陸帝が横位に巡り、以下に横S 字及び楕円形区画の文様態 内に交射状沈線光頻、約 10mm の隆帝を境に以下2本の沈線間に 懸垂級及び縄文施文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は飾曲状工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は準裁竹管の背による刺突文(縦径8mm)が巡り、以下に2本 び縄文施文 L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文 L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に施文。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文 R L。 総形、成・整形、文様等の特徴 、原阻上部は無文。以下渦を文及び半载竹管の背による楕円形区 充頻。文様帯から屈曲下の彫らみをもつ。 の突起を持つ。以下指ケアによる幅はの沈線文及び蕨状沈線文の れる。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が撤定でき、側面には 格面が認められる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が撤定でき、側面には 格面が認められる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が撤定でき、側面には 格面が認められる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が撤定でき、側面には 格面が認められる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は採せかな曲面を呈し、土器片の再生利用が撤定でき、側面には 格面が認められる。施文縄文 R L。 器形、成・整形、文様等の特徴	口縁下~体部下位片。 加管利E II 期新相~ II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期 古相。 「日縁部片。 加管利E II 期 一 II 期 一 II 期 市相。 「日縁部片。 加管利E II 期 一 V 期 (称名寺)。 「日縁部片。 加管利E II 期 市相。 「「「「「「「「「「「「「「」」」」 「「「「「「「」」」 「「「「「」」 「「「「」」 「「「「」」 「「「」」 「「「「」」 「「」」 「「 「
No	出土位置 No. 1 · 4 No. 8 3 出土位置 No.22 No.23 No.24 No.29 4 出土位置 渡土 支土位置 渡土 出土位置 渡土 世土位置 渡土	種別、器種 概文土器 深終 種別、器種 概文土器 深終 純文土器 深外 純文土器 深外 純文土器 不完終 純文土器 不完終 純文土器 不完終 純文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 不完終 種文土器 一種 五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	口径 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底径	(20.8) (10.8) (10.8) (10.8) (6.3) (7.3) (7.6) (6.5) (9.0) 厚さ 1.1 高さ 6.8 (6.4) (5.1)	白·赤色粗粒 石英 白·黑·茶色粒	良好 良	程にぶい赤褐 を	「現代 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	無文帝下はくの字に括れて、以下に鍔上の隆帝を上下に配する文 動意文と半載竹管の寄による楕円形区画内に斜位沈線光環を1 里 単位で全脚する。 下は非深密が楠位に巡り、以下に横と字及び楕円形区画の文壁標 内に矢羽状沈線光環。約10mmの隆帝を境に以下2本の沈線側に 整金線及び禰文施文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 下は輸出杯工具による文様が施され、沈線文も認められる。地文 下は非数竹管の背による刺突文(擬径8mm)が巡り、以下に2本 び横び編文L R。 下は2段の列点文が巡り、以下横位沈線を境に縄文施文L R。 直下から縄文が斜め及び縦位の下方向に始な。曲線から懸垂する はすり消し縄文がみられる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 ・ 掘曲上部は無文。以下渦巻文及び半截竹管の背による楕円形区 た場、文様帝から照画下の膨らみをもつ。 の突起を持つ。以下指ナデによる幅広の沈線文及び蕨状沈線文の れる。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が推定でき、側面には 搭面が認められる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が推定でき、側面には 搭面が認められる。施文縄文R L。 器形、成・整形、文様等の特徴 は緩やかな曲面を呈し、土器片の再生利用が推定でき、側面には 搭面が認められる。施文縄文R L。 ・ 下は十字による渦巻沈線及び楕円形区画が連続し、楕円形区画 がまなった。施文縄文 R L。 ・ 下は指力学による渦巻沈線及び楕円形区画が連続し、楕円形区画 上光環。 下は青田や沈線で調整した際沈線が横位に巡り、以下に横位 J 字 線が接続する。施文縄文 R L R で P で P で P で P で P で P で P で P で P で	口縁下~体部下位片。 加管利E II 期新相~ II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期一 V 期 (称名寺) 。 「日縁部片。 加管利E II 期一 V 期 (称名寺) 。 「日縁部片。 加管利E II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期古相。 「日縁部片。 加管利E II 期 古相。 「日縁部片。 加管利E II 期 古相。 「日縁部片。 加管利E II 期 新相。 「長春子大兄・備考 「大子大兄・備考 「大子大兄・備考 「大子大兄・備考 「大子大兄・備考 「大子大兄・備考 「大子大兄・備考 「日縁部片。 「日縁部片。 「日縁部片。 「日縁部片。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。 「日縁部月。

J-6A

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土.	縄文土器 鉢	(22.9)	-	(19.8)	白色粗粒、黒雲母	良好			口禄~胴部下位 1/2 残存。 諸磯 c 期。	
2	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(5.4)	白·茶色粒、黒雲 母	良好	にぶい赤褐			口縁部片。 諸磯 c 期。
3	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(8.2)	白色粒、黒雲母、 チャート粗粒	良好	にぶい黄橙 にぶい褐	こぶい黄橙 強い折り返し口縁。口唇部地文には縦位集合沈線が施され、太い棒状粘土瘤貼 口		口縁部片。外面煤付着。 諸磯 c 期。
4	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(4.0)	白色粒、黒雲母	良好	明赤褐 褐灰		□縁。□縁は斜位集合沈線が施され、ボタン状及び貝殻状粘土瘤 斜位及び横位集合沈線が施され、横棒状及び円形粘土瘤貼付。	口緑部片。 諸磯 c 期。
5	覆土	縄文土器 深鉢		-	(6.9)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄橙 黒褐	胴部上位内湾。 の粘土瘤貼付。	,地文には横位・縦位・斜位・矢羽状の集合沈線が施され、円形	胴部片。 諸磯 c 期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	覆土	石器 石鏃	2.3	1.4	0.4	黒曜石	-	-	0.9	鎌身上半部は丁寧に作出し、鋭利に尖頭する。左側縁下位は欠損 ともみられるが微細剣離が認められ、右側縁下位の抉れを有する 脚部の特徴から未製品か。	完存か。 凹基無茎族か。
7	No. 1	石製品 多孔石	36.0	21.9	19.2	安山岩	-	-	2220	実測面には最大径 2.5 cm \sim 最小径 1.0 cm、最深 1.3 cm σ 16 τ 所有する。 裏面は緩やかな凹面を呈し滑らかである。	完存。
8	No. 4	石製品 台石	(19.2)	(28.0)	(7.5)	粗粒安山岩	-	-	5810	表面は平坦化して滑らかで、上部に被熱による変色がみられる。 中央に深さ 0.7 と 0.3cm の孔を有し、部分的に設打銀が集中する。 裏面は深さ 0.6cm 1 孔と 0.3cm 2 孔を有し、左右側縁に被熱の変 色。	1/2 残存か。

J – 6B

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 2	縄文土器 深鉢	-	-	(13.1)	白色粒、黒雲母	良好	褐黄褐	以下は地文に集合沈線文或は櫛歯状工具痕が施され、結節浮線文による渦巻文 施文。		□緑破片。 諸磯 c 期。
2	No. 8	縄文土器 深鉢	-	-	(12.3)	白色粗粒、黒雲母	良好	灰黄褐 褐	状に伴なう集合沈線文、以下は横位集合沈線文施文。		口縁部~胴部上位片。 諸磯 c 期。
3	No. 5	縄文土器 深鉢	-	-	(13.0)	白·灰色粒、黒雲 母	良好	暗赤褐 明赤褐			口縁〜胴部片。楕円器形か。 諸磯 c 期。
4	No. 9	縄文土器 深鉢	-	11.1	(10.1)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄橙		ヘラ状工具により回転ナデ調整。胴部下位施文撚紋 r 及び 2 個 1 瘤張付。内面ヘラ状工具によるナデ調整。	胴部下位~底部残存。 諸磯 c 期。
5	No. 6	縄文土器 有孔土器	5.8	3.6	4.6	白色粒、黒雲母、 金色鉱物	良好	にぶい赤褐		部からくの字状に屈曲し、口縁は直立する。屈曲部直下には直径 6ヶ所に等間隔で穿たれている。底部貼り付け高台。	口縁部一部欠損。 諸磯 c 期。
No	出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	覆土	石製品 玦状耳飾	2.4	2.4	0.35	滑石	-	-	3.2	全面研磨。円孔径 0.7mm。切り込み幅 0.2mm。若干の歪み有り。	ほは完存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	No. 7	石製品 台石	37.7	30.8	13.5	安山岩	-	-	1998	実測面は磨り面利用により潜らかで、周縁にはやや浅い孔が 10ヶ所認められる。裏面には6ヶ所孔が認められる。	完存。

J – 7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 深鉢	22.2	-	(14.0)	白色粗粒、黒雲 母、水晶	良好	明赤褐	平口緑。口緑下は2本の構佐沈線が巡る。以下地文に縄文LR 施文後、2本1組の懸垂沈線及び縦位に連続する2本1組の文様が施され、懸垂沈線と文様沈線が交互に全間する。	口縁~胴上半部残存。連弧文の変化か。 加曽利E Ⅲ期古相。
2	No.70	縄文土器 深鉢	-	-	(13.5)	白色粗粒、石英粗 粒	やや軟質	にぶい赤褐 明黄褐	口縁下文様帯はやや郷状の隆帯を持ち、以下狭小してくの字状屈曲し直線的胴 部へ、網上部は半数竹管の背による楕円形区両皮び区両内線位沈線光期の連続。 頭部は同竹管による桁な洗線 たれ部には横皮の相四隆者とと面積を北線で調 節両節した懸垂隆沈線が交互に連続し、隆沈線剛に斜位及び縦位沈線施文。	口縁帯〜胴部残存。 加曽利E Ⅲ期古相並行。 郷土式か。
3	No.60	縄文土器 深鉢	(20.1)	-	(12.0)	白·灰色粒、石英	良好	にぶい黄橙 にぶい黄褐	口縁には半円形の突起を持つ。口縁下半載竹管の背による構長楕円形区画及び 区画内縦位沈線充塡が連続。口縁文様帯下に鍔状隆帯が巡り、以下縦位・S字沈 線及び下矢羽状沈線施文。	口縁~胴部残存。 加曽利EⅢ期古相。
4	No.25 · 27	縄文土器 深鉢	(16.5)	-	22.2	黒·茶色粒、白色 粗粒、輝石	良好	にぶい黄橙		2/3 残存。 加曾利EⅢ期古相。
5	No.50	縄文土器 深鉢	(17.1)	6.8	24.3	黒色粒、白色粗粒	良好	にぶい橙 明赤褐	平口縁。口縁下には隆帯と隆帯内半載竹管の背による沈線の下位に丸味を持つ 三角形区両及び、区両内縄文 LR 充壌。以下地文に縄文 LR 施文後、2 本 1 組で 北線両力 7 泊 組みつき塩気が助土半部を巡り、下半部は弧下端から長方形の 同沈線が懸示する。旅部なで調整。	1/2 残存。 加曾利EⅢ期古相。
6	No.30	縄文土器深鉢	(31.0)	-	(18.5)	白·黒色粒	良好	黒褐 明赤褐	平口縁。口縁下は渦巻文に続く楕円形区画及び区画内斜位沈線の充壌を1単位 として巡る。口縁帯下位降帯は渦巻隆帯文に連なる。以下半載竹管の帯による 2本1組懸無洗線は沈線囲無文を1単位として連続する。単位間には斜位沈線 文施文。	口縁~体部片。 加曾利 E II 期古相。

J – 8

									器形、成・整形、文様等の特徴		
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 6 · 7 · 9 · 11 · 12 · 14 · 17 · 18 · 21 · 24 ~ 35 · 38 · 50 ~ 52 · 54 ·	縄文土器深鉢	45.2	-	(48.0)	白・黒・灰色粒 微細輝石	良好	にぶい赤褐			□緑~体部は部分欠損及び、底部欠損。 加曽利 E II 期新相~Ⅲ期古相か。
2	No. 4	縄文土器 深鉢	[35.0]	-	(12.3)	白·黒色粒 黒雲母	良好	にぶい黄褐		下には渦巻文を上向きに配する突起及び楕円隆帯文を交互に連続。 斜位沈線充塡。口縁帯下無文。	口縁~胴部上位片。外面煤付着。 加曽利E II 期。
3	No.13	縄文土器 深鉢	-	-	(8.6)	白·灰色粗粒 黒雲母	良好	赤褐 極暗赤褐		突起に連結する中空突起を有する波状文。□縁下は隆帯による渦 る楕円形区画が、渦巻文上下反転の連続。区画内施文縄文RL。	口縁文様帯片。 加曽利E II 期。
4	No.42	縄文土器 深鉢	[34.0]	-	(9.9)	白·黒·茶色粗粒 黒雲母	良好	橙、褐灰 にぶい黄橙			口縁文様帯片。 加曽利E Ⅲ期。
5	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(12.5)	白·灰·茶色粒 黒雲母	良好	にぶい褐		下は隆帯による渦巻文及び楕円形区画、区画内縄文RL充塡の連 下沈線文及び縄文RL施文。	口縁~胴部上位片。 加曽利E II 期。
6	覆土	縄文土器 浅鉢	-	-	(11.2)	白·黒色粒 黒雲母	良好	にぶい黄褐	以下は無文。 文が交互に施	く内屈し、最大径(約40cm)を有する鍔状隆帯は刻みが施され、 上部文操帯は細半数竹管による連続刺突文及び同竹管による渦巻 され地文に平行改線文施文。文様帯上部はくの字状に外反し、屈 隆帯同様の隆帯が巡る。	体部中位屈曲部片。 加曽利EI期。
No	出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	覆土	縄文土器 土製円盤	4.5	4.3	1.7	白・黒色粒 輝石	良好	にぶい黄褐 にぶい黄		び縦位半隆帯文。 な曲面を呈し、無文。	完存か。 土器片転用。
8	覆土	縄文土器 土製円盤	2.2	2.1	1.1	白·黒色粒 黒雲母	良好	にぶい褐 灰褐	表面は施文縄 裏面は緩やか	文RL。 な曲面を呈し、無文。	完存。 土器片転用。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	No.47	石器 磨製石斧	10.9	5.1	2.5	緑泥片岩	-	-	287.5	全面研修。表・裏面はやや丸味を有して刃部に向かい厚さを減少 し、裏面には使用による欠損剥離がみられる。全体に多方向の様 銀が顕著で、左右側面及び上面は酸を有して平坦化している。表 面左側縁に痘痕状歳打痕もみられる。	ほぼ完存(発掘時の破損あり)。
10	No.45	石器 打製石斧	10.5	5.1	1.5	黒色頁岩	-	-	92.4	表面に広く自然面を残す薄手の横長剣片を縦位に使用し、主に周 緑に加工を施し石器を作出している。鋭利な刃部には擦痕及び歯 こほれが認められ、石器は全体に滑らかである。	完存。 鉄分付着。短冊形。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調			残存状況・備考
11	覆土.	石器	14.3	5.3	4.2	安山岩	-	-	258.8	表面に自然面を残す厚手の剝片を素材に用いて、主に周縁に加工	基部一部欠損か。
11	权上	打製石斧	14.5	5.5	4.2	女山石	-		336.6	左右側縁には敲打による潰れが認められる。 表面は楕円形とみられる石皿片の磨面は凹状を呈して滑らかであ	※即一即入損か。
12	No.60	石製品 石皿	(15.7)	(16.9)	(6.9)	粗粒安山岩	-	-	1826.0	る。陵及び側縁上方には最深で8mmの孔が数ヶ所認められ、側縁を有段にしている。 裏面は平坦で深さ約5mmの孔が数ヶ所認められる。	破片。
13	No.63	石製品 石皿	(26.0)	(18.9)	(9.7)	礫岩	-	-	4761.0	表面磨面は若干凹み滑らかで、皿部の陵付近に孔を有する。 裏面はやや平坦で多数の孔が認められる。	破片。
14	No.67	石製品 石皿	(16.0)	(16.8)	(6.0)	安山岩	÷	-	1760.0	表面磨面はやや凹みを有して滑らかで、緩やかな陵付近に孔が認められる。裏面は平坦で、最深9mmの孔が複数認められる。	破片。
J – No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器	-	-	(14.0)	白色粗粒、長石、	やや軟質	橙		帯と連結した突起を有する。口縁下は隆帯による連弧状区画が連 斜位沈線充塡。以下は平行沈線懸垂文、S字及びクランクの文様	口縁~胴部中位残存。劣化が著しい。
	包含層	深鉢 縄文土器	20.0			石英、黒雲母 白・灰色粒、		橙	沈線が交互に 4ヶ所の緩や;	※30.施文縄文の有無は不明。 か公三角突起を有する波状口縁。胴部中位に括れを有して開きな 最大径の膨らみをもち、波状口縁でやや内湾する。口縁下は太沈	加普利EⅢ期古相。
2	B - 3	深鉢	29.2	6.2	38.0	黒雲母	良好	灰褐		F細沈線による文様が地文縄文のすり消しを伴い施文されている。	4/5 残存。加曽利EⅢ期新相。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No.2	石製品 多孔石	17.3	15.9	7.5	粗粒 輝石安山	-	-	1319.0	表面は直径 $15\sim 2.5$ cm の孔が 14 ヶ所認められ、最深 20 mm を 計る。 裏面は最大径 3.0 cm の孔が 7 ヶ所認められ、最深 1.5 mm を計る。	完存。
J – No	11	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.11	縄文土器	-	-	(13.0)	白·灰色粒、	良好	にぶい赤褐		出い、 大口線。口縁文様帯は立体的な中空突起が大型化して全周し、口 突起に連結。文様帯下圧痕隆帯。以下地文に集合沈線文施文後、	口禄部片。
2	No. 11	深鉢 縄文土器			(12.1)	輝石 白色粒、黒雲母	良好	暗色褐 灰黄褐	横位の蕨状文が 平口縁。口縁		加曽利E I 期新相~Ⅱ期古相。 □縁部片。
		深鉢	-	-				にぶい黄褐	隆带。		加曾利EI期古相。
No 3	出土位置 _{覆土}	種別、器種 石器 石鏃	長さ 2.2	1.7	厚さ 0.7	石材 黒色安山岩	焼成	色調・	重量 23	器形、成・整形、文様等の特徴 左右側縁は連続的で丁寧な剝離加工を施し、やや鋸歯状に作出。 鎌身は若干厚手で、表・裏面共に磨耗範囲が認められる。	残存状況・備考 完存。凹基無茎鏃。
4	No. 1	石製品 多孔石	18.9	15.2	8.1	凝灰岩	-	-	1334	表面には最深 1.7cm の孔、裏面には最深 2.5cm の孔が複数認められる。	完存。
 J —	12										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 深鉢	(7.8)	-	(7.1)	白・灰色粗粒、 黒雲母	良好	にぶい黄褐 明黄褐	以下地文に櫛状工具痕施文後S字状沈線施文。		口縁~胴部上位片。 加曽利E II期新相~II期古相。
2	覆土	縄文土器 深鉢	[40.0]	-	(9.5)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄褐 黒	平口様。口縁下は横位沈線が巡り、文様帯下位にはJ字状と蕨状隆帯による横 長区画が連続する。区画内施文縄文LR。文様帯下端には連続刺突文。		口縁部文様帯片。外面赤色塗装。 加曽利E II 期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴 表面に広く自然面を残す横長剝片素材を縦位に使用し、主に周縁	残存状況・備考
3	覆土	石器 打製石斧	9.0	4.0	1.1	砂岩	-	-	48.7	に加工を施し若干刃部の広がる短冊形を作出。鋭利な刃部周辺は 磨耗が顕著。	完存。 短冊形。
4	No.10	石製品 石皿	(23.2)	(10.2)	(5.3)	緑泥片岩	-	-	1643	形状は縦長の整った楕円形と見られる。磨面は滑らかで周縁と磨 面深部には 2.1cm の高低差。裏面は平坦で複数の孔を有する。	左上半部片。
J –		trou mir			I \.	B/- 1	14-5	4 -m			TR4-1572 ###
NO 1	出土位置 _{覆土}	種別、器種 縄文土器 深鉢	[31.0]	底径	高さ (4.3)	胎土 白·茶色粒、 黒雲母	焼成 _{良好}	色調 にぶい黄褐 にぶい赤褐	には斜位及び	器形、成・整形、文様等の特徴 から口縁下で最大径の膨らみを持ち内清する平口縁。膨み部地文 黄位集合沈線文施文後、縦長の棒状粘土瘤を連続的に貼付。以下	残存状況・備考 □縁部片。 諸磯 c 期。
2	覆土.	縄文土器深鉢	-	-	(8.9)	白·黑·茶色粒	良好	にぶい黄	耳状の口縁部	集合沈線文施文。 大型突起。表・裏面共に耳形に添う弧状の集合沈線施文後、二等 かし孔及び中央に円形の透かし孔を穿ち、中央付近にボタン状の	口禄部突起片。 諸磯 c 期。
3	覆土	縄文土器深鉢	(29.0)	-	(6.3)	白·茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄 暗灰黄	棒状の太い粘	内屈する平口縁。幅広の口唇部には地文に斜位集合沈線施文後、 土牆と棒状の細い粘土端を交互に貼付け、間に円形粘土端を貼付 コ縁下は締む体金分線。 圏部部位 集合水線施立後ボタン状針土頓	口緑部~胴部上位片。 諸磯c期。
4	覆土.	縄文土器	[21.0]	-	(8.1)	白色粒、黒雲母	良好	黒褐			口緑~胴部中位片。 諸磯c期。
5	P - 3	深鉢 縄文土器	_	_	(14.5)	白色粒、石英、	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐、黒褐		時つ波状口縁。口唇部は小さく内屈し、口縁下のくの字状屈折は	口禄部突起片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	^{黒雲母} 石材	焼成	にぶい黄橙色調	靴先上突起に 重量	連結する。地文には櫛状工具による弧状及び横位集合沈線文施文。 器形、成・整形、文様等の特徴	諸磯 c 期。 残存状況・備考
6	No. 1	石器 磨製石斧	(13.4)	5.4	3.2	緑泥片岩	-		里重		一部欠損。
7	覆土	石器 打製石斧	10.8	4.5	1.6	砂岩	-	-	対のに、四がい手がながありる。 Sa動がしばれる 横長剣片素材を縦位に使用し、主に関縁に加工を施し中位付近に 若干の括れを有する短冊形を作出。 刃部には磨耗範囲が認められ る。		完存。 短冊形。
8	覆土	石器 石鏃	2.6	2.3	0.6	黒曜石	-	-	左側縁には両面加工が施されているが、右側縁は片面加工で凹状 を星し不整形。未製品か。やや厚手。		完存。平基無茎鏃。
9	覆土	石器 石鏃	2.3	1.5	0.6	黒曜石	-	-	1.7	やや粗い成形・調整加工を施し細味の繊身を作出しているが、や や厚手。深い凹基部も歪みを持ちながら長脚を作出。	完存。凹基無茎鏃。
10	No. 6	石器 石核	12.0	13.8	7.8	安山岩	÷	-	1549	実測面裏面の広く残存する自然面には爪形痕。実測面右側面に平 坦面を僅かに残し、周緑全方向からやや細かい剝離が施されてい る。小形の素材剝片作出か。	完存。
11	No. 5	石製品 小型石皿	15.7	9.6	3.2	輝石安山岩	-	-	519.0	表・裏面共に中央付近は緩やかな凹状を呈し、石器全体は滑らか である。	完存。被熱による赤色化が顕著。
J – No		種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	<u>五工业</u> No. 1	縄文土器	(25.5)	产生	(14.3)	加工 白・灰色粒及び粗 粒	やや軟質	型調 橙 明黄褐		益形、成・釜形、又像寺の村取 下文様帯は突起から蕨状文を横位の弧状に配し、6ヶ所の突起に 区画内に縦位短沈線充塡。以下胴部は地文にRの撚糸文施文後、	口縁~胴部上位片。
2	覆土	深鉢 縄文土器 浅鉢	-	-	(15.5)	白・灰・茶色粗粒	良好	明寅福 にぶい福 福灰	沈線による懸	垂文及び文様施文。 大径の膨らみを持ち屈曲し、文様帯上部でくの字に括れ口縁に向 は渦巻文に連結する楕円形区画が連続。区画内施文縄文RL。	加普利E II 期新相~II 期古相。 胴部片。 加普利E II 期古相。
3	覆土	縄文土器深鉢	-	-	(8.3)	白·茶色粒、石英、 黒雲母	良好	にぶい黄橙	平口縁。口縁 緑下は3本の	下は緩やかに内湾し、くの字状に小さく屈曲し口唇部で外友。口 黄位沈線が巡り、以下に蕨状文を伴なう3本の弧状沈線が横位に	加資利E Ⅲ期古相。 □緑部片。 加管利E Ⅲ期古相。
4	覆土	縄文土器	(27.7)	-	(7.0)	白色粒、黒雲母	良好	暗灰黄 黄褐		無文。 下は若干の隆帯が機位に巡り、以下胴部には半載竹管或は工具に 小沈線が全面に施されている。	口縁部片。 J - 1号住6・(123) J - 11号住3と接合。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	加曽利EⅢ期。 残存状況・備考
5	No. 4	石器 磨製石斧	12.4	5.1	3.1	緑泥片岩	-	-	314.7	全面研磨。上面及び左右側縁は平坦化し稜を有する。断面形状は 隅丸長方形を呈し、刃部に向かい厚味を減少して鋭利な蛤歯状の	ほぼ完存。定角式磨製石斧。
			1						314.7 隅丸長方形を呈し、刃部に向かい厚味を減少して鋭利な蛤歯状 刃部を作出。		I .

J - 15

_	15										
No 1	出土位置 No. 1	種別、器種	口径	底径	高さ 7.5	胎土 色·灰·茶色粗粒、	焼成 _{良好}	色調 にぶい赤褐		下文様帯は隆帯による渦巻文及び楕円形区画。区画内斜位短沈線	残存状況・備考
2	No. 4	深鉢 縄文土器 深鉢	-	-	(12.8)	輝石 白·茶色粗粒、石 英、黒雲母	良好	暗灰黄 浅黄	平口緑。口緑	文に縄文LR施文後懸垂沈線施文。 下に無文帯を持つ。以下無文帯は、隆帯による上下区画内に楕円 伏文施文。楕円形区画内斜位沈線充塡。以下地文に縄文LR施文	加曾利E II 期。 □緑~胴部上位片。 加曾利E II 期古相
3	覆土	縄文土器	(18.4)	_	7.0	白·灰色粒、黒雲	良好	灰黄褐		文様施文。 上位からくの字に屈曲し外反する平口緑。屈曲部には小型の突起 と刻みの加えられた隆線が横位に平行して連結。以下胴部には同	口縁~肩部片。
		縄文土器				母		にぶい黄褐	様の隆線が懸	を持つ波状口縁。口縁以下地文に斜位短沈線及び矢羽状沈線を施	自利II期。 □緑部片。
4	覆土	深鉢	[16.0]	-	(8.0)	白色粒、黒雲母	良好	黒褐		起線文による弧状及び懸垂文施文。	加曽利EI期新相。郷土式、曽利II期か。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	覆土	石器 打製石斧	14.1	5.0	2.2	ホルンフェルス	-	-	180.5	表面中央に自然面を残す横長剝片を縦位に使用し、丁寧な周縁加 工を施し短冊形を作出。刃部は磨耗により滑らか。	完存。短冊形。
6	覆土	石器 打製石斧	13.1	4.9	1.7	黒色頁岩	-	-	121.7	基部上縁に自然面を残す横長剝片素材を縦位に使用し、丁寧な周 縁加工を施し細味の短冊形を作出。裏面中央付近に広く磨耗範囲 が認められ、石器の再生も推定できる。	完存。短冊形。
7	覆土.	石器 石錐	(4.1)	3.8	0.6	黒色頁岩	-	-	10.1	摘み部は大きく薄形で、周縁には加工面が施されて鋭利。錐部は 長く丁寧に作出。削器及び錐併用。	维部先端欠損。
J -					·						
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	RES -0.07 -1-2-5-1 = 100.	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.47	縄文土器 鉢	-	-	(14.2)	石英、水晶、黒雲 母、チャート粗粒	やや軟質	橙	られる。地文 屈曲部には交	らみを持ち、その上部くの字状屈曲部を経て口縁は外反するとみ に巻糸文上を精毅に施文後、屈曲部上部は隆線による文様施文、 互刺突文が巡る。以下胴部上位に3速の沈線による弧状文が連続、 の蹶状文が5ヶ所のほぼ等間隔に施文。	口縁及び脚部欠損。 胴部最大径 24.0cm。 加曽利EI期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No.39	縄文土器			(14.2)	白・灰・茶色粗粒	良好	にぶい橙		・ の突起を持つ波状口縁。口縁下文様帯は突起部から口縁形状に添っ こ幅狭楕円形区画を持ち、区画内半截竹管による押引文施文。突	口縁部片。
Ľ	140.09	深鉢		Ĺ	(14,2)	口:八、米巴租权	民灯	橙		に幅狭楕円形区画を持ち、区画内半截管管による押引又施文。笑 蕨状沈線は文様帯に連結。	加曽利EI期。
No	出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	縄文土器 土製円盤	3.4	3.2	1.0	白色粒、石英、黒 雲母	良好	明褐			完存。 縄文時代中期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土	石器 打製石斧	10.0	6.6	3.8	砂岩	-	-	249.5	表面に広く自然面を残し、主に周縁に加工を施し石器を作出。基 部(上部)は厚手で旋耗が顕著。真面刃部は広く刻離か。	一部欠損か。
5	覆土	石器 石鏃	3.0	2.2	0.7	頁岩	-	-	3.3	節(上部)は写字で磨れか顕者。 果田为部は広く物雕か。 本面土に安林知片的陸の知鮮而を広く跡(間段細軟訓練を始)	
6	No.45	石製品 石皿	(16.2)	(9.8)	(5.6)	粗粒安山岩	-	-	1059.0	上半部は角丸の方形状とみられ磨面は緩やかな凹状を呈する。裏面は平坦で最深 0.6cm の孔が数ヶ所認められる。	破片。
Ή-	- 1					1			1		
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 坏	12.0	7.0	3.4	白色粒含む	堅緻	灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。		口縁 1/4 欠損。
2	No. 7	須恵器 坏	(13.5)	7.9	3.7	精良	良好	灰白	内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部ロクロナデ。		1/2 残存。
3	No.34	須恵器 坏	(14.4)	(8.8)	3.5	精良	良好	灰白	外面口縁部ヨ	コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 コナデ、体部~底部ロクロナデ。	1/3 残存。
4	No.23	土師器 甕	13.2		(6.7)	白色粒、雲母含む	良好	にぶい赤褐	外面口縁部ヨ	コナデ、以下ヘラケズリ。	□緑~頸部 1/2 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	内面口稼部日	コナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No. 2	瓦平瓦	(13.0)	(12.9)	225	石英・長石含む	NUNC	暗赤褐	凹面布目·糸	切り痕、端部へラケズリ。	
6	No. 6	瓦平瓦	(13.9)	(12.9)	2.25	石英・長石含む	堅緻	にぶい福	凸面ナデ、へ 凹面布目、端		破片。
_	140. 0				2.1	42 2460		褐灰	凸面ナデ、ヘ	ラ記号あり。 切り痕、雑部ヘラケズリ。	破片。凸部にヘラ記号あり。
7	No.18	瓦 丸瓦	(33.5)	(12.3)	1.4	石英・長石含む	堅緻	明赤褐		がない。 第ヘラケズリ。ヘラ記号あり。	カマド構築部材と想定される。
Н-	- 2										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.11	須恵器 高台付城	[13.7]	6.2	4.8	石英・長石含む	良好	にぶい黄橙		コナデ、体部ロクロナデ・ユビナデ、底部糸切り後ナデ。 コナデ、以下ロクロナデ・ユビナデ。	1/2 残存。 酸化焰焼成。
2	No.13	須恵器 高台付境	12.0	-	(4.6)	白色粒・雲母含む	良好	灰褐		ロナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 ロナデ、体~底部ロクロナデ。	高台部欠損。 酸化焰焼成。
3	No. 2	須恵器 高台付埦	-	12.4	(6.6)	白色粒・雲母含む	良好	にぶい黄橙 褐灰	外面台上部タ 内面台上部ユ	テ方向のユビナデ、下部ヨコナデ。 ビナデ。	台部のみ残存。 酸化焔。高脚タイプ。
4	No. 4	羽釜	(20.0)	-	(10.1)	石英・長石含む	良好	にぶい橙 にぶい黄橙		コナデ、以下ロクロナデ、体上部ユビナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	口縁部 1/4 残存。 酸化焰焼成。
Ή-	- 3								内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		
	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高台付埦	(13.8)	(7.1)	4.8	白色粒含む	堅緻	灰		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。 コナデ、体~底部ロクロナデ。	1/5 残存。
2	カマド覆土	土師器 坏	(11.7)	-	(2.5)	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙	内面口縁部ヨコナデ、体~底部ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、ユビナデ、体部ケズリ。 内面口縁~体部ヨコナデ。		1/8 残存。
3	No.35	土師器 甕	[19.2]	-	(5.6)	雲母含む	良好	橙		コナデ、以下ヘラケズリ。	□緑部 1/2 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	内面口縁部ヨ	コナデ、以下ヘラナデ。 	残存状況・備考
NO 4	出土11/1直 No.22		(13.8)	(8.6)	月2			橙	凹面布目痕ナ	一部で、以・全形、又様寺の行倒 デ消し、端部へラケズリ。	グ友仔/八元・1順考 破片。
4	190.22	瓦平瓦	(10.0)	(0.0)	1.0	石英・長石含む	良好	135	凸面縄目タタ		凹面にヘラ文字「三」あり。
5	No.37	瓦 平瓦	(18.7)	(11.2)	2.1	石英・長石含む	堅緻	褐灰	凹面布目痕あ 凸面ナデ。押I	り、端部へラケズリ。 印あり。	破片。凸面に叩き具で「夕大」の陽刻あ り。多胡郡大家郷か。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No.39	刀子	(9.4)	(1.1)	(0.3)	鉄	-	-	13.6	-	刃部先端及び柄部欠損。
No	出土位置	種別、器種	直径	穿径	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	覆土	石製紡錘車	2.5 ~ 2.9	0.5	1.5	角閃石安山岩	-	-	18.6	紡錘車は全体に滑らかで、多方向の研磨摩擦痕が認められる。線 刻は認められない。	完存。
Н-	- 4										
No	出土位置		口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高台付埦	(14.5)	(7.6)	6.5	小石含む	堅緻	灰		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。
2	カマド覆土	須恵器 高台付皿	13.2	6.5	2.9	雲母含む	良好	橙		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。 コナデ、体~底部ロクロナデ。	口縁 1/2 欠損。 酸化焰燒成。
				-				1	1		1

		del = 1 = 2 = 4 =					l n		器形、成・整形、文様等の特徴		
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土 黒色粒含む	焼成	色調	外面口縁部ョ:	器形、成・整形、文様等の特徴 コナデ、体部ロクロナデ、成部回転糸切り。	残存状況・備考
3	No. 2	須恵器 坏	12.8	8.0	3.1		堅緻			コナデ、体~底部ロクロナデ。 コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	1/2 残存。
4	覆土	須恵器 坏	13.4	7.6	3.6	黒色粒含む	堅緻	灰黄	内面口縁部3	コナデ、体~底部ロクロナデ。 コナデ、以下ヘラケズリ。	口縁部 1/4 欠損。
5	No. 1 · 3	土師器 坏	13.8	10.1	3.5	雲母含む	良好	明赤褐	内面口緑部3:	コナデ、以下ヨコナデ後放射状ミガキ。 ウロナデ、体部摩滅不明。	1/2 残存。
6	覆土 Aカマド	土師器 坏	-	-	(3.8)	精良	堅緻	橙	内面口縁部ロ		外面に墨書「財カ」あり。
7	覆土	土師器 麂	[17.2]	-	(9.2)	雲母含む	良好	明赤褐	内面口緑部ヨ	コナデ、以下ヘラナデ。	口縁~肩部 1/4 残存。
8	Bカマド 覆土	土師器 甕	[19.6]	-	(9.9)	雲母含む	良好	明赤褐		コナデ、以下ヘラケズリ。コナデ、以下ヘラナデ。	破片。
No 9	出土位置カマド覆土	種別、器種 土製品 土錘	長さ (4.3)	幅	厚さ	胎土 雲母含む	焼成 _{良好}	色調橙	指オサエ、ナ	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考 3/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	1.6	1.4	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
10	覆土	石製品 砥石	16.6	5.9	6.4	流紋岩	-	-	647.1	表・裏面及び左右側面は研磨使用により滑らかで、若干の擦痕も 認められる。	完存。
Н-	- 5							1			
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	bi The Author	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	11.0	-	3.5	茶色粒含む	良好	橙		コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、以下ヘラナデ。	完存。
H -	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.11	灰釉陶器 碗	(15.7)	(7.3)	4.9	白色粒含む	良好	灰白		コナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ、高台部ヨコナ	1/4 残存。
2	覆土	灰釉陶器 皿	13.1	6.4	2.8	精良	良好	灰白	外面口縁部ヨ	郡ヨコナデ、以下ロクロナデ。 コナデ、体上部ロクロナデ、体下部ヘラケズリ、底部回転糸切り、	完存。
									外面口縁部ヨ	デ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 コナデ、体部ロクロナデ。底部エビナデ、高台部ヨコナデ。	1/4 残存。
3	覆土	灰釉陶器 III 須恵器	(13.3)	(6.3)	2.7	精良	良好	灰白	内面口緑部ヨ	コナデ、以下ロクロナデ。 コナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ、高台部ヨコナ	内面に重ね焼き痕あり。
4	No. 1 A カマド	高台付皿	15.5	6.8	5.8	白色粒、雲母含む	堅緻	灰	デ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		ほぼ完存。 破片。体部外面に墨書あり。
5	A ガマト 覆土	須恵器 碗	-	-	(3.1)	精良	良好	にぶい黄橙	内面ロクロナデ。		版片。1年部外国に亜音のり。 酸化焰焼成。
6	No.10	羽釜	(19.7)	-	(7.1)	雲母含む	良好	橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		□縁部 1/4 残存。
7	覆土	羽釜	[20.3]	-	(9.9)	雲母含む	良好	黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		口縁部 1/4 残存。
H-		trou mir	-/-		- ·	B. 1	I+-15	h -m			The Investment
No 1	出土位置 No. 5	種別、器種 ^{須恵器 坏}	12.3	底径 7.0	高さ 4.1	胎土 黒色粒含む	焼成 ^{堅緻}	色調 灰白	外面口縁部ョ	器形、成・整形、文様等の特徴 コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	残存状況・備考
										コナデ、体~底部ロクロナデ。 コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	
2	覆土	須恵器 坏	(13.2)	(8.1)	3.3	雲母含む	堅緻	灰黄	内面口緑部ヨ	コナデ、体~底部ロクロナデ。 コナデ、体部ユビオサエ、底部ヘラケズリ。	1/4 残存。
3	覆土	土師器 坏	[11.0]	(8.1)	3.4	雲母含む	良好	明赤褐	内面口縁部3:	コナデ、体部ユビオサエ、底部ヘラナデ後ユビナデ。コナデ、以下ヘラケズリ。	1/4 残存。
4	No.19	土師器 変	(21.0)	-	(8.7)	雲母含む	良好	橙 布-四		コナデ、以下ヘラナデ。	口縁部破片。
No 5	出土位置 掘り方覆土	種別、器種 土製品 土錘	長さ 3.7	幅 2.1	厚さ 1.95	胎土 _{霊母含む}	焼成 _{良好}	色調	指オサエ、ナ	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
No	出土位置	種別、器種	瓦当径	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調	3114 72 4 7	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No.33	瓦 軒丸瓦	(16.6)	2.8	-	石英・長石含む	良好	灰黄	瓦当中房は蓮- 裏面布目。	F1+4 ₀	1/2 残存。一本造り。上野国分寺創建期 Ⅱの単弁5 葉蓮華文軒丸瓦B 202。
7	No.24	瓦 軒丸瓦	(15.5)	2.8	-	石英・長石含む	良好	灰	瓦当中房は蓮- 裏面布目。	F1+4 _o	3/4 残存。一本造り。范傷あり。 上野国分寺修造期の単弁4 業蓮華文軒丸
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	瓦B 101。 残存状況・備考
8	No. 1	板状鉄製品	(6.9)	(10.8)	(0.3)	鉄	-	-	81.8	中央に方形穴、及び右上角に直径3mmの円孔が穿たれている。	一部欠損及び剝離。
9	No. 6	鉄釘	6.6	1.3	1.3	鉄	-	-	20.6	角皆折釘。	完存。
10	No. 6	鉄釘	8.7	1.5	1.0	鉄	-	-	13.7	角皆折釘。	完存。
11	No.11	鉄製紡錘車軸	(13.0)	(0.7)	0.7	鉄	-	-	13.7 角骨折釘。 23.1 平らな円盤部が欠損している。下端部は鋭く尖る。		輪部残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	23.1 平6な円盤部が欠損している。ト端部は親く失る。 重量 器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
12	No.15	石製品 砥石	15.9	6.0	5.8	流紋岩	-	-	7985 表面及び左右側面は研磨使用により滑らかで、平坦な下面には痘 痕状の敲打痕と若干滑らかな研磨痕が認められる。		ほぼ完存。
13	覆土	石製品 砥石	11.2	6.2	3.2	粗粒安山岩	-	-	表・裏面及び左右側面・下面研磨使用により滑らかで、左側面に		完存。
Н-		trou			-		14. "				The Inc.
No 1	出土位置	須恵器	口径	底径	高さ	胎土	焼成 _{堅級}	色調 褐灰	器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、高台部ヨコナデ。		残存状況・備考
	No. 4	高台付城 須恵器	(17.3)	(9.5)	6.2	雲母・小石含む		灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、高台部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、体〜底部ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。		1/8 残存。
2	No. 6	高台付皿	12.3	6.8	2.9	白色粒含む	堅緻	灰	内面口縁部ヨ	コナデ、体部ロクロナデ。 コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	ほぼ完存。
3	カマド覆土	須恵器 埦	[13.4]	(6.9)	3.3	黒色粒含む	堅緻	灰白	内面口縁部ヨ	コナデ、体~底部ロクロナデ。	1/4 残存。
4	覆土.	須恵器 埦	[12.9]	(8.1)	3.8	白色粒含む	堅緻	灰	内面口縁部3:	コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 コナデ、体〜底部ロクロナデ。	1/4 残存。
5	No. 5	土師器 坏	[12.9]	(8.7)	4.0	雲母含む	良好	黄橙	内面口縁部ヨ:	コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、体部ナデ、底部ヘラナデ。	1/8 残存。
6	No.25	土師器 甕	[20.0]	-	(8.0)	雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨ: 内面口縁部ヨ:	コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、以下ヘラナデ。	口縁部 1/3 残存。
	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	凹面布目、手	器形、成・整形、文様等の特徴 即り痕、端部ヘラケズリ。	残存状況・備考
7	No.23	瓦丸瓦	42.2	17.3	1.8	石英・長石含む	良好	橙褐灰	凸面ナデ。 凹面布目、端		4/5 残存。
8	No.27	瓦平瓦	(8.5)	(9.5)	2.2	白色粒含む	堅緻	黒褐	凸面サデ。		吸用。 凸面にヘラ文字「八」あり。

No	出土位置	銭種名	国	名		初鋳年代	7	材質	直径 穿径 厚さ 重量 232 mm 66 mm 1.9 mm 1.7 g			重量	備考
9	No.28	富壽神寶	Н	本	弘	□9年 (818)		銅	23.2 mm	6.6 mm	1.9 mm	1.7g	4/5 残存。皇朝十二銭。
10	覆土.	富壽神寶		本	21.1	□9年 (818)		銅	240	6.3 mm	2.3 mm	21	一部欠損。皇朝十二銭。
							.I+ -12		24.9 mm			2.1g	
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量		・整形、文様等の	り符倒	残存状況・備考
11	No. 1	鉄鏃	11.1	4.1	0.7	鉄	-	-	35.2 凹地	些有茎鏃。			基部先端欠損。
<u>H-</u>													
No	出土位置	種別、器種 ^{須恵器}	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	別面口給部ココナ	器形、成・整形 デ、体部ロクロナデ、			残存状況・備考
1	覆土	高台付埦	[13.6]	-	(6.2)	白・黒色粒含む	堅緻	灰		デ、体~底部ロクロナ			1/4 残存。
2	覆土.	須恵器 高台付埦	[14.1]	6.6	5.5	白色粒含む	堅緻	灰	外面口縁部ヨコナー	デ、体部ロクロナデ、 デ、体~底部ロクロナ	底部回転糸切り、高: デ。	台部ヨコナデ。	1/2 残存。
3	覆土.	須恵器	(14.1)	7.4	5.6	雲母含む	堅緻	黄灰	外面口縁部ヨコナ	デ、体部ロクロナデ、 デ、体~底部ロクロナ	底部回転糸切り、高	台部ヨコナデ。	1/3 残存。
_		高台付埦	2							デ、体~底部ロクロナ デ、体部ロクロナデ、	-		
4	覆土	須恵器 埦	[12.9]	(6.0)	3.4	雲母含む	堅級	暗灰黄	内面口縁部ヨコナ	デ、体~底部ロクロナ	デ。		1/4 残存。
5	覆土.	土師器 甕	[10.8]	-	(4.6)	雲母含む	良好	にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナー	デ、以下ヘラケズリ。 デ、以下ナデ。			□縁部 1/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考		
6	覆土	瓦丸瓦	(16.8)	(9.2)	2.2	石英・長石含む	良好	黒褐 にぶい黄褐	凹面布目痕、端部へラケズリ。 凸面ナデ。		破片。 凸面ヘラ文字「山」。		
H-	- 10												
_	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考		
1	カマド覆土	土師器 長銅甕	[18.6]	-	29.8	雲母含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。		1/3 残存。		
Н-	- 11					I							
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考		
1	No. 3	土師器 坏	13.0	-	(3.5)	雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。		底部欠損。		
Н-	- 12	1		<u> </u>		I.		I	内面口縁部ヨコナデ、以トナデ。				
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考		
1	授土	須恵器 蓋	(15.0)	-	2.0	雲母含む	堅緻	灰黄褐	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。				破片。
	1 1000		(40.4)			mb m A b	4.17			デ、以下ヘラケズリ。			
2	カマド覆土	土師器 坏	[13.4]	-	3.3	雲母含む	良好	橙	内面口縁部ヨコナ	デ、以下ヘラナデ。	him a ratio		1/2 残存。
3	カマド覆土	土師器 坏	13.0	-	3.2	雲母含む	良好	明褐		デ、体上部ユビオサエ デ、以下ヘラナデ。	、以下ヘフゲスリ。		2/3 残存。
4	No.12	土師器 甕	[19.6]	-	(19.5)	雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナー	デ、以下ヘラケズリ。 デ、以下ヘラナデ。			□緑~胴部 1/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
5	No.14	瓦平瓦	39.1	25.4	2.6	石英・長石・雲母 含む	良好	灰白	凹面布目痕・糸切 凸面縄のタタキ痕	り痕・ナデ、端部ヘラ・ナデ	ケズリ。		ほぼ完存。
<u></u>	- 13			ı		1			1				
Н-													
H -	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
		種別、器種 須恵器 短頭壺蓋	口径	底径	高さ 2.9	胎土	焼成 ^{堅級}	色調 _{黄灰}	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考 完存。 摘み径 4.1cm。
No	出土位置	須恵器		底径 - 8.0					内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ	デ、体部ロクロナデ、			完存。
1 2	出土位置 No. 4 糉土	須恵器 短頸壺蓋 須恵器 坏	11.2	8.0	2.9 3.5	白色粒含む	堅級 堅級	黄灰 灰白	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ・ 内面口縁部ヨコナ・		底部ヘラ切り。		完存。 摘み径 4.1cm。 ほほ完存。
No 1	出土位置 No. 4	須恵器 短顕壺蓋	11.2	-	2.9	白色粒含む	堅緻	黄灰 灰白 灰白	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ・ 内面口縁部ヨコナ・ 外面口縁部ヨコナ・ 内面口縁部ヨコナ・	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。	底部へラ切り。		完存。 摘み径 41cm。 ほぼ完存。 1/3 残存。
1 2	出土位置 No. 4 糉土	須恵器 短頸壺蓋 須恵器 坏	11.2	8.0	2.9 3.5	白色粒含む	堅級 堅級	黄灰 灰白	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナー 内面口縁部ヨコナー 外面口縁部ヨコナー 内面口縁部ヨコナー 外面口縁部ヨコナー	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、	底部へラ切り。		完存。 摘み径 4.1cm。 ほほ完存。
1 2 3	出土位置 No. 4 覆土 覆土	須恵器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏	11.2 12.3 (13.7)	8.0	2.9 3.5 3.9	白色粒含む 雲母含む 雲母含む	堅級 堅級 堅級	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 外面口縁部ヨコナ	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、体部ロクロナデ、	底部へラ切り。		完存。 標本径 4.1cm。 ほぼ完存。 1/3 残存。
No 1 2 3 4 5	出土位置 No. 4 覆土 要土 カマド覆土 No. 1	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5	8.0	2.9 3.5 3.9 4.0 3.3	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む	堅緻 堅緻 堅緻 不良 良好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 外面口縁部ヨコナ 外面口縁部ヨコナ 外面口縁部ヨコナ 外面口縁部ココナ	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下へラケズリ。 デ、以下へラナズリ。 デ、以下へオサエ	底部へラ切り。 底部回転へラ切り。 底部回転糸切り。		完存。 標本径 4.1cm。 14.1c完存。 1/3 残存。 世化烯烷成。 3/4 残存。
No 1 2 3 4 5	出土位置 No. 4 関土 大のマド 関土 カマド カマド 関土 大の、1 関土 	須恵器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8)	8.0	29 35 39 40 33 (33)	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む	堅緻 堅緻 堅緻 不良 良好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙	内面ロクロナア。 外面口線部ヨコナー 内面口線部ヨコナー 内面口線部ヨコナー 内面口線部ヨコナー 内面口線部ヨコナー 内面口線部第コナー 外面口線部第コナー 外面口線部第コナー 外面口線部ココナー 外面口線部ココナー	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、以下ロクロナデ、 プ、以下ロクロナデ、 以下ロクロナデ。 以下ハラケズリ。 デ、以下ヘラケズリ。 デ、以下ヘラナデ。 デ、体部ユビオサエ デ、以下ナデ。	底部へラ切り。 底部回転へラ切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。		完存。 摘み径 4.1cm。 はま完存。 1/3 残存。 酸化塩焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。
No 1 2 3 4 5 6 7	出土位置 No. 4 環土 環土 カマド覆土 No. 1 環土 変土	須恵器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 五師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8)	8.0 8.6 (9.5)	2.9 3.5 3.9 4.0 3.3 (3.3) 3.6	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む	堅報堅報堅報堅報不良良好良好良好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 橙	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ 内面口縁部ヨコナ	デ、係部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、係部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、以下ロクロナデ。 デ、以下のラケメ」。 デ、以下ヘラナオ。 デ、以下ヘナナデ。 ア、以下、ナナデ。 ア、以下、ナナデ。 ア、以下、ナデ・デ、 ア、以下、ナデ。 デ、依上部エビオサエ デ、以下・ナデ。	底部へラ切り。 底部回転へラ切り。 底部回転糸切り。 、以下へラケズリ。		完存。 標本径 4.1cm。 ほぼ完存。 1/3 残存。 酸化偏硬成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 出土位置	須惠器 規頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8) 13.1 全長	- 8.0 8.6 (9.5) - -	29 35 39 40 33 (33) 36	白色粒含む 実得含む 実得含む 実得含む 実得含む 実得含む 実得含む 実得含む	堅緻 堅緻 堅緻 不良 良好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・野面口縁部ヨコナ・重量	デ、係部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ。 デ、保部ロクロナデ。 デ、似下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ。 デ、以下のチケメリ。 デ、以下へラケメリ。 デ、はエジオナエ デ、以下、保上部エジオナエ デ、以下、大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	底部へラ切り。 底部回転へラ切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。		完存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8	出土位置 No. 4 覆土 渡土 カマド覆土 No. 1 覆土 覆土 出土位置 覆土	須恵器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 五師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8)	8.0 8.6 (9.5)	2.9 3.5 3.9 4.0 3.3 (3.3) 3.6	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む	堅報堅報堅報堅報不良良好良好良好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 橙	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・野面口縁部ヨコナ・重量	デ、係部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、係部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、以下ロクロナデ。 デ、以下のラケメ」。 デ、以下ヘラナオ。 デ、以下ヘナナデ。 ア、以下、ナナデ。 ア、以下、ナナデ。 ア、以下、ナデ・デ、 ア、以下、ナデ。 デ、依上部エビオサエ デ、以下・ナデ。	底部へラ切り。 底部回転へラ切り。 底部回転糸切り。 、以下へラケズリ。		完存。 標本径 4.1cm。 ほぼ完存。 1/3 残存。 酸化偏硬成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H -	出土位置 No. 4 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 選土 出土位置 変土 - 14	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8) 13.1 全長 (9.2)	- 8.0 8.6 (9.5) 幅 (0.9)	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母	堅徽 堅徽 堅徽 堅徽 不良 良好 良好 良好	黄灰 灰白 にぶい黄橙 橙 橙 明掲 色調	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・外面口縁部ヨコナ・野面口縁部ヨコナ・重量	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下のクロナデ。 デ、以下へラナデ。 デ、以下へラナデ。 デ、は上ボーナナデ。 米上ボーナーナー ・デ、以下ナデ。 ・デ、以下ナデ。 ・デ、以下ナデ。 ・ボール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	底部のマガリ。 底部回転ネラ切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。	の特徴	完存。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No	出土位置 No. 4 変土 カマド寝土 No. 1 変土 変土 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8) 13.1 全長 (9.2)	- 8.0 8.6 (9.5) - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母	堅報 堅報 堅報 堅報 不良 自好 自好 自好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 橙 甲 明褐 ・ ・	内面ロタマナデ。 外面ロ母部コナナ 外面ロ母部ココナ	デ、係部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ。 デ、保部ロクロナデ。 デ、似下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ。 デ、以下のチケメリ。 デ、以下へラケメリ。 デ、はエジオナエ デ、以下、保上部エジオナエ デ、以下、大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	底部のマガリ。 底部回転ネラ切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。	の特徴	完存。 標本様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 1/3 残存。 能化端焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 ほは完存。 残存状況・備考 顕部欠損。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H -	出土位置 No. 4 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 選土 出土位置 変土 - 14	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8) 13.1 全長 (9.2)	- 8.0 8.6 (9.5) 幅 (0.9)	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母	堅徽 堅徽 堅徽 堅徽 不良 良好 良好 良好	黄灰 灰白 にぶい黄橙 橙 橙 明掲 色調	内面ロマクロナデ。 外面ロ目線部3コナー 外面ロ目線部3コナー 外面ロ目線部3コナー 外面ロ目線部3コナー 外面の目線部3コナー 外面の日線部3コナー 内面の日線部3コナー 内面の日線部3コナー 内面の日線部3コナー 大面の日線部3コナー 東重量 142 角を	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下へラケズリ。デ、以下へラケズリ。デ、以下ナデ、ア、以下ナデ。ア、伏上部ユビオサエデ、以下ナデ。 器形、成 整形 成	底部の転送の では、 底部回転を受けり。 底部回転を受けり。 、以下へラケズリ。 、以下へラケズリ。 ・整形、文様等の	の特徴	完存。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No	出土位置 No. 4 変土 カマド寝土 No. 1 変土 変土 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	11.2 12.3 (13.7) (14.7) 13.5 (12.8) 13.1 全長 (9.2)	- 8.0 8.6 (9.5) 幅 (0.9)	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母	堅報 堅報 堅報 堅報 不良 自好 自好 自好	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 橙 甲 明褐 ・ ・	内面ロクロナデ。 外面回科部 3 コナウム面 11 日本 2 コナウ 11 日本 2 コナ 12 日本 2 コナウ 11 日本 2 コナ 14 2 角を 11 日本 2 日	デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下ロクロナデ。 デ、体部ロクロナデ、 デ、以下のクロナデ。 デ、以下へラナデ。 デ、以下へラナデ。 デ、は上ボーナナデ。 米上ボーナーナー ・デ、以下ナデ。 ・デ、以下ナデ。 ・デ、以下ナデ。 ・ボール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	底部の転送の では、 底部回転を受けり。 底部回転を受けり。 、以下へラケズリ。 、以下へラケズリ。 ・整形、文様等の	の特徴	発存。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No 1	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 選土 出土位置 No. 3	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92)	- 8.0 8.6 (9.5) 幅 (0.9)	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 女母合む 雲母合む 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 焼成 焼成	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 橙 橙 色調 ・	内面ロクロナデ。 外面回科部 3 コナウム面 11 日本 2 コナウ 11 日本 2 コナ 12 日本 2 コナウ 11 日本 2 コナ 14 2 角を 11 日本 2 日	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ。ア、以下ハラナブ。ア、以下ハラナブ。ア、体上部エピオサエデ、以下ナデ。ア、は下が野が、成・整形、成・整形をがある。	底部の転送の では、 底部回転を受けり。 底部回転を受けり。 、以下へラケズリ。 、以下へラケズリ。 ・整形、文様等の	の特徴	発存。
1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No 1 2	出土位置 No. 4 度土 度土 カマド覆土 No. 1 度土 度土 せ上位置 度土 出土位置 下で、3 度土 にいる。3	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92)	- 8.0 8.6 (9.5) 	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07)	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 裏母合む 裏母合む 裏母合む 裏母合む 裏母合む 裏母合む 無力 無力 無力 無力 無力 無力 無力 無力 無力 無力	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 食好 食好 養成 	黄灰 灰白 灰白 にない黄橙 橙 橙 根 明 り 色調 相 灰 矢	内面ロクロナデ。 外面回移部ヨコナ 外面口移部ヨコナ 外面口移部ヨコナ 内面口移部ヨコナ 内面口移部ヨコナ 内面口移部ヨコナ 内面口移部ヨコナ 外面口移部ヨコナ 外面口移部ヨコナ 外面口移部ヨコナ 外面口移部ココナ 外面口移部ココナ 外面口移部ココナ 外面口移部ココナ	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ。ア、以下ハラナブ。ア、以下ハラナブ。ア、体上部エピオサエデ、以下ナデ。ア、は下が野が、成・整形、成・整形をがある。	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。	の特徴	完存。 橋本径 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 散化循焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 はは完存。 ・ 残存状況・備考 頭部欠損。 1/2 残存。 橋本径 3.7cm。 1/4 残存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No 1 2 No No 1 2 No No 1 2 No No No No No No No	出土位置 No. 4 覆土	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 須恵器 短頭壺蓋 須恵器 類恵器 本	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) 口径 (122) (119)	- 8.0 8.6 (9.5) 	29 35 39 40 33 36 厚さ (07) 高さ (21) 32	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 女母含む 杖母含む 杖母含む 杖母含む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母合む 杖母の 杖母の 杖母の 杖母の 杖母の 大母の 大母の 大母の 大母の 大母の 大母の 大母の 大	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 食好 食好 養成 	黄灰 灰白 灰白 にない黄橙 橙 橙 根 明 り 色調 相 灰 矢	内面11日本部 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ。ア、以下ハラナブ。ア、以下ハラナブ。ア、体上部エピオサエデ、以下ナデ。ア、は下が野が、成・整形、成・整形をがある。	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。	の特徴	完存。 標本様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 取化端焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 ほは完存。 一 「養存状況・備考 1/2 残存。 端本様 3.7cm。 1/4 残存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H - No 1 2 No 3 4	出土位置 No. 4 環土 環土 カマド覆土 No. 1 環土 理土 超土位置 スカマドでである。 では、1 では、1 には、1 には、1 には、1 には、1 には、1 には、1 には、1 に	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土爾器 坏 種別、器種 須恵器 須恵器 須恵器 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) 口径 (122) (119) 全長 (144)	80 86 (9.5) - - - - - (0.9) 底径 - - 7.1	29 35 39 4.0 33 (33) 3.6 厚さ (07) 高さ (21) 32 厚さ (03)	自色粒含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 食好 食好 養成 	黄灰 灰白 灰白 にない黄橙 橙 橙 根 明 り 色調 相 灰 矢	内面11日本部 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ。ア、以下ロクロナデ。ア、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下のクサデ。ア、以下へラナデ。ア、以下へラナデ。ア、は上部エビオサエア、以下ナデ。 器形、成・整形、成 特折釘。 器形、成・整形 デ、体部ロクロナデ、ア、以下ログロナデ、ア、以下カア、ア、大阪大力で、	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。	の特徴	定存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 1 2 No 1 4 H H H	出土位置 No. 4 変土 カマド寝土 No. 1 変土 変土 せ上位置 変土 出土位置 変土 出土位置 No. 3 変土 出土位置 変土 ・ 14 出土位置 No. 3 を表土 ・ 15	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 水 種別、器種 短頭壺蓋 須恵器 下 乗回面 五 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) (119) 全長 (144) (95)	8.0 8.6 (9.5) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 33 36 厚さ (07) 高さ (21) 32 厚さ (03)	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母合む 女母のから 女母の 女母の 女母の 女母の 女母の 女母の 女母の 女母の	堅報 堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 疾成 堅報	黄灰 灰白 灰白 にない黄橙 橙 橙 橙 伊那 色調 梅灰 灰 ・	内面11日本部 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、以下のラケメウ。デ、以下、ラナフ・デ、以下ナラナブ。デ、体上部エピオサエデ、以下ナデ。デ、体上部エピオサエデ、以下サデ。デ、体上部エピオサエデ、以下ナデ。デ、体下の成本がある。 器形、成・整形 デ、体部ロクロナデ、成下・対策に対したが、成本が対象。	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。	D特徵 :	発存。 排み径 4.1cm。 は1ま完存。 1/3 残存。 酸化鉛焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 顕部欠損。 「大海大援・ 排み径 3.7cm。 1/4 残存。 「大海大援・ 排み径 3.7cm。 1/4 残存。 「大海大援・ 横木援 3.7cm。 1/4 残存。 「大海大援・ 横木援 3.7cm。 1/4 残存。 「大海大援・ 横木援 3.7cm。 1/4 残存。 「大海大援・ 大海大援・ 大海大援・ 大海大規・ 大海大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大
No 1 2 3 4 5 6 7 No 1 2 No 3 4 H - No No No No No No No	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 選土 出土位置 No. 3 覆土 出土位置 変土 出土位置 できる カマド覆土 出土位置 下・15 出土位置	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 須恵器 類面壺蓋 須恵器 類面壺蓋 須恵器 類面壺蓋 須恵器 類面壺蓋 須恵器 類面壺蓋 須恵器 類面	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) (119) 全長 (144) (95)	80 86 (9.5) - - - - - (0.9) 底径 - - 7.1	29 35 39 40 33 33 36 厚さ (07) 高さ (21) 32 厚さ (03)	白色粒合む	堅報 堅報 堅報 堅報 不良 自好 自好 自好 使院成 堅報	黄灰 灰白 にない 食程 程 程 を を の の の の の の の の の の の の の	内面ロクロナデ。 外面 日	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ。ア、以下ロクロナデ。ア、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下のクサデ。ア、以下へラナデ。ア、以下へラナデ。ア、は上部エビオサエア、以下ナデ。 器形、成・整形、成 特折釘。 器形、成・整形 デ、体部ロクロナデ、ア、以下ログロナデ、ア、以下カア、ア、大阪大力で、	底部のマリウ。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。	D特徵 :	定存。 様本様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 酸化縮焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 ほほ完存。 養存状況・備考 別部欠損。 1/2 残存。 様本様 3.7cm。 1/4 残存。 発存状況・備考 列部中位及び基部先端欠損。 先端欠損。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H- No 1 2 No 3 4 H- No 1 1 1	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 覆土 理土 地土位置 変土 出土位置 No. 3 覆土 出土位置 No. 5 - 15 出土位置 No. 7	須惠器 短頭壺蓋 須恵器 坏 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 短頭壺蓋 須恵器 坏 種別、器種 類頭壺蓋 須恵器 坏 種別、器種 刀子 鉄釘	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) 口径 (122) (119) 全長 (144) (95)	80 86 (95) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) (21) 32 厚さ (03) 10	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母合む 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女	堅報 堅報 平自 自好 自好 自好 集成 整報 「 「	黄灰 灰白 にない黄橙 橙 橙 樹 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	内面 ロインター・デー・ 外面 ロインター・デー・ 外面 田 保証 部 ココーナー・ 外面 田 保証 部 ココーナー・ 外面 田 日 報 部 記 ココーナー・ 外面 田 日 報 部 記 ヨコココーナー・ 外面 田 日 報 部 記 ヨコココナー・ 外面 田 日 報 部 記 ヨコココナー・ 外面 田 日 報 部 記 ヨココナー・ 外面 田 日 報 部 記 ヨココナー・ 第一日 本 日 ココナー・ コーナー・ 国 175	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ログロカナデ、ア、以下ハラケメブ。デ、体上部エピオサエデ、ストナデ、ア、以下ナデ。ア、体上部エピオサエデ、ストナデ。ストナデ、ストナデ、ストナデ、ストナデ、ストナデ、ストナデ、ストナデ、ストナデ、	底部へラ切り。 底部回転ネ切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。 整形、文様等の	D特徵 D特徵	定存。 梅A様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 能化縮焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/2 残存。 横本様 3.7cm。 1/4 残存。 残存状況・備考 刃部中位及び基部先端欠相。 先端欠相。 大端欠相。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H- No 1 2 No 3 4 H- No	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 選土 出土位置 No. 3 覆土 出土位置 変土 出土位置 できる カマド覆土 出土位置 下・15 出土位置	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 推別、器種 短頭壺蓋 須惠器 坏 種別、器種 河子 鉄釘	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) (119) 全長 (144) (95)	8.0 8.6 (9.5) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 33 36 厚さ (07) 高さ (21) 32 厚さ (03)	白色粒合む	堅報 堅報 堅報 堅報 不良 自好 自好 自好 使院成 堅報 整報	黄灰 灰白 にない 食程 程 程 を を の の の の の の の の の の の の の	内面ロクロナデ。 外面回口検絡部ココナ 外面回口検絡部ココナ 外面回口検絡部ココナ 内面回口検絡部ココナ 外面回口検絡部ココナ 外面回口検絡部ココナ 外面回口検絡部部コココナ 外面回口検絡部部コココナ 外面回口検絡部コココナ 外面回口検絡部コココナ 外面回口検絡部コココナ 142 角を 外面回口検部ココナ 重量 362 175 角を 外面回口検部ココナ	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、 体部ロクロナデ、ア、 体部ロクロナデ、ア、 体部ロクロナデ、ア、 体部ロクロナデ、ア、 以下ロクロナデ、ア、ア、 体に部エピオサエデ、 以下・カーデー 、 以下・カーデー 、	底部の表別り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 成部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、数形、文様等の特徴 底部回転糸切り。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の特徴	定存。 様本様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 酸化縮焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 ほほ完存。 養存状況・備考 別部欠損。 1/2 残存。 様本様 3.7cm。 1/4 残存。 発存状況・備考 列部中位及び基部先端欠損。 先端欠損。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H- No 1 2 No 3 4 H- No 1 1 1	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 覆土 理土 地土位置 変土 出土位置 No. 3 覆土 出土位置 No. 5 - 15 出土位置 No. 7	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 頻頭壺蓋 須惠器 坏 種別、器種 刀子 鉄釘	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) 口径 (122) (119) 全長 (144) (95)	80 86 (95) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) (21) 32 厚さ (03) 10	白色粒含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 雲母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母含む 女母合む 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女母 女	堅報 堅報 平自 自好 自好 自好 集成 整報 「 「	黄灰 灰白 にない黄橙 橙 橙 樹 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	内面 ロタロナデ。 外面 口線経路 ココナナ 外面 口線経路 部 ココナナ 外面 口線経路 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 部 ヨココナナ 外面 口線経路 部 部 ヨココナナ 第 142 角を 外面 ロレクロ ポート ココナナ ココナナ ココナナ ココナナ ココナナ ココナナ ココナナ ココ	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、以下ヘクケブ、ア、以下ヘクケブ、ア、以下ヘクケブ、ア、体上部エビオサエデ、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア	底部の表別り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 成部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、数形、文様等の特徴 底部回転糸切り。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の特徴	定存。 梅A様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 能化縮焼成。 3/4 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/2 残存。 横本様 3.7cm。 1/4 残存。 残存状況・備考 刃部中位及び基部先端欠相。 先端欠相。 大端欠相。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H No 1 2 No 1 4 H No 1 1 2	出土位置 No. 4 覆土	須惠器 短頭壺壺 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 須惠器 來 種別、器種 須惠器 坏 種別、器種 須惠器 坏 種別、器種 須惠器 坏 種別、器種 須惠器 「 須惠器 「 須惠器 」 須惠器 「 須惠器 「 須惠器 「 一種別、器種 須惠器 「 一種別、器種 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一切	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) (119) 全長 (144) (95)	- 8.0 8.6 (9.5) 	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) 高さ (03) 10 高さ (55)	自色粒含む	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 良好 免 疾 焼 成 堅報	黄灰 灰白 にない黄橙 橙 明 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	内面 ロクロナデ。 外面 口縁能 部 ココナ・ 外面 口縁能 部 ココナ・ 内面 口縁能 部 ココナ・ 外面 面口縁能 部 部 ココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 第 142 角を 外面 田口縁 部 コココナ・ 第 2 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ハラケメ」。 デ、以下ハラナメ」。 デ、は、エンナナエ、ア、以下ナデ。 デ、体上部エピオサエア、以下ナデ。 ア、以下・カーナデ。 ア、以下・カーナデ、成・整形 成・整形 、成・整形 、成・を部ロクロナデ、ア、以下ケア、ア、以下ケア、ア、以下ケア、ア、以下ケア。 といる。	底部の表別り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 成部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、数形、文様等の特徴 底部回転糸切り。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の特徴	定存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H- No 1 2 No 3 4 H- No 1 2 3	出土位置 No. 4 変土 カマド寝土 No. 1 変土 関土 出土位置 変土 出土位置 取・3 変土 出土位置 No. 3 変土 出土位置 No. 5 - 15 出土位置 No. 7 No. 1 No. 5	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 土飾器 坏 土飾器 坏 土飾器 坏 土飾器 坏 種別、器種 短頭壺蓋 須惠器 环 種別、器種 須魚賣器 环 種別、器種 河子 鉄釘	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (92) (122) (119) 全長 (144) (95)	8.0 8.6 (9.5) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) 高さ (21) 32 厚さ (03) 10	白色粒合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母	 堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 燒成 整数 焼成 上 焼成 臭好 塩数 塩素 	黄灰 灰白 にない を を を を の の の の の の の の の の の の の	内面 ロタロナデ。 外面 日緑経 部 コ コナ 外面 日緑経 部 コ コナナ 外面 日緑経 部 田 コ コナナ 内面 日緑 経 部 田 コ コ コナナ 内面 日緑 経 部 田 コ コ コ コナナ 外面 日日緑 経 部 部 田 コ コ コ コナナ 外面 日日緑 経 部 部 田 コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ	デ、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ストーのカーが、ストーのカーが、ストーのカーが、ストーのカーが、大阪・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、 文様等の特徴 底部回転糸切り。 ・ 文様等の特徴 、 文様等の特徴 、 な様等の特徴	D特徴	定存。
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H No 1 2 No 1 2 No 3 4 H No 1 No	出土位置 No. 4 変土 カマド変土 No. 1 変土 変土 出土位置 変土 出土位置 を表土 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 東惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 短頭壺蓋 須惠器 坏 種別、器種 須惠器 高台付場 須魚台付 與 元 在 一	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (122) (119) 全長 (144) (95) 口径 (158) (150) (134) (128) 瓦当任	80 86 (95) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) (21) 32 厚さ (03) 10 52 (55) 52 22 (35) 長さ	自色粒含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 大子	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 良好 克好 克好 克好 克斯 克斯 克斯 克斯 克斯 克斯 克	東灰 東 東	内面 ロクロナデ。 外面 口縁能 部 ココナ・ 外面 口縁能 部 ココナ・ 内面 口縁能 部 ココナ・ 外面 面口縁能 部 部 ココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 外面 田口縁能 部 コココナ・ 第 142 角を 外面 田口縁 部 コココナ・ 第 2 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下のカケメリ。デ、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、大きないのでは、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないのでは、まないので、大きないので、大きないのでは、まないのではないのでは、まないのではないでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、ま	底部へラ切り。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、 文様等の特徴 底部回転糸切り。 ・ 文様等の特徴 、 文様等の特徴 、 な様等の特徴	D特徴	定存。 様本様 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/2 残存。 残存状況・備考 期部欠損。 1/2 残存。 残存状況・備考 月海中位及び基部先端欠損。 大端欠損。 1/3 残存。 高台部欠損。 1/3 残存。 1/3 残存。 高台部欠損。 1/3 残存。 1/3 残存。 高台部欠損。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/5 概存状況・備考 1/6 残存。 高台部欠損。 1/6 残存。 1/6 残存。 1/7 残存。 高台部欠損。 1/8 残存。 高台部欠損。 1/8 残存。 高台部分損。 1/8 残存。 1/8 残存。 1/8 残存。 高台部分上。 1/8 残存。 1/8 表存。 1/8 表存。 1/
No 1 2 3 4 5 6 7 No 8 H- No 1 2 No 3 4 H- No 1 2 3 4 4	出土位置 No. 4 覆土 覆土 カマド覆土 No. 1 覆土 覆土 理土 地土位置 表土 ・ 1 4 出土位置 No. 3 覆土 ・ 出土位置 No. 5 ・ 1 5 出土位置 No. 7 No. 1 No. 5 カマド覆土 出土位置 東土 出土位置 スープールー・ カマドアで変土 に上位置 スープールー・ カマドアの・カマアの・カマドアの・カマドアの・カマドアの・カマドアの・カマアの・カマアの・カマアの・カマアの・カマアの・カマアの・カマアの・カマ	須惠器 年 須惠器 环 須惠器 环 須惠器 环 須惠器 环 須惠器 环 須惠器 环 土師器 环 土師器 环 土師器 环 土師器 环 推別、器種 頻惠器 張 類 東京	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (192) (119) 全長 (144) (95) 口径 (158) (150) (134) (128) 馬当傑 148	80 86 (95) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) 高さ (03) 10 52 (21) 52 (22) (35) 長2 (41)	自色粒含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 素母含む 材質 鉄 胎土 自色粒含む 材質 鉄 株 株 素母・小石含む 素母・長石含む	 E E	黄灰 灰白 灰白 にぶい黄橙 橙 樹 明掲 色調 抽灰 灰白 上ぶい黄橙 色調 抽灰 灰白 地 大田 地 大	内面 ロタロナデ。 外面 口縁終 部部 ココナ・ 外面 口縁終 部部 ココナ・ 外面 口縁終 部部 ココナ・ 外面 回口線 終 部 部 ココナ・ 内面 回口	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、保部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、体部ロクロナデ、ア、以下へラケズリ、ア、以下へラケズリ、ア、以下へラケズリ、ア、保上部ユビオサエデ、ア、体上部ユビオサエデ、ア、大阪・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・整形、成・のののでは、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ストロクロナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ストロクロナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のローナデ、ア、以下のエースを表示している。	底部のマリリ。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。 整形、文様等の特徴 、大様等の特徴 、大様等の特徴 、大様等の特徴	D特徴台部ヨコナデ。台部ヨコナデ。	定存。 梅み径 4.1cm。 はは完存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/2 残存。 漢存状況・備考 海本径 3.7cm。 1/4 残存。 交換存状況・備考 対応中位及び基部先端欠損。 た端欠損。 1/3 残存。 1/2 残存。 1/2 残存。 1/2 残存。 1/2 残存。 1/3 残存。 1/2 残存。 1/2 残存。 1/2 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/2 横木
No 1 2 3 4	出土位置 No. 4 変土 カマド変土 No. 1 変土 変土 出土位置 変土 出土位置 を表土 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	須惠器 短頭壺蓋 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 須惠器 坏 東惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 種別、器種 短頭壺蓋 須惠器 坏 種別、器種 須惠器 高台付場 須魚台付 與 元 在 一	112 123 (137) (147) 135 (128) 131 全長 (122) (119) 全長 (144) (95) 口径 (158) (150) (134) (128) 瓦当任	80 86 (95) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	29 35 39 40 33 (33) 36 厚さ (07) (21) 32 厚さ (03) 10 52 (55) 52 22 (35) 長さ	自色粒含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 実母含む 大子	堅報 堅報 堅報 不良 良好 良好 良好 良好 克好 克好 克好 克斯 克斯 克斯 克斯 克斯 克斯 克	東灰 東 東	内面面 142	デ、体部ロクロナデ、デ、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下ロクロナデ、ア、以下のカケメリ。デ、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、以下、カーカー・ア・ストで、大きないのでは、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないので、大きないのでは、まないので、大きないので、大きないのでは、まないのではないのでは、まないのではないでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、ま	底部のマリリ。 底部回転糸切り。 底部回転糸切り。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、以下ヘラケズリ。 、文様等の特徴 底部回転糸切り。 整形、文様等の特徴 、大様等の特徴 、大様等の特徴 、大様等の特徴	D特徴台部ヨコナデ。台部ヨコナデ。	定存。

	1 1	16
п	_	L C

Н-	- 16										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 3	土師器 坏	[13.8]	(9.1)	2.7	雲母含む	良好	橙		コナデ、体部ユビナデ、底部ヘラケズリ。 コナデ、以下ナデ。	1/4 残存。
2	カマド覆土	土師器 坏	(10.8)	_	(2.6)	赤色粒·雲母	良好	にぶい黄橙		コナデ、体部ユビナデ。	1/8 残存。
									内面ヨコナデ		
No	出土位置	種別、器種	長さ	外径	内径	胎土	焼成	色調	カボッジエコ	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 1	鞴 羽口	(7.8)	6.6	1.2~1.5	石英・長石	良好	にぶい黄橙	内面ナデ。	及びユビオサエ。輪積痕顕著。	破片。
Н-	- 17										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド覆土	土師器 坏	(11.4)	-	(5.5)	雲母含む	良好	橙		コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、以下ヘラナデ。	1/4 残存。
										コナデ、以下ヘラケズリ。	
2	No. 1	土師器 長胴甕	[23.6]	-	33.1	白色粒・雲母含む	良好	赤褐		コナデ、以下ヘラナデ。	口縁部 2/3 欠損。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土.	銅製品	2.6	1.2	0.2	銅	-	-	1.9	-	破片。
H-	- 18										
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	鉄製品 鎌	(5.4)	7.5	(0.7)	鉄	-	-	31.9	上部中央に直径約1mmの円孔が穿たれている。	刃部欠損。
	- 20	在叫 空往	口尔	京汉	古十	BA 上	ida ett	- 4.39		叩び ポーサび 女様笠の柱物	成力はD /共支
No	出土位置	種別、器種 ^{須恵器}	口径	底径	高さ	胎土 石英·長石·雲母	焼成	色調	外面口袋がコ	器形、成・整形、文様等の特徴 コナデ、体部ロクロナデ、高台部ヨコナデ。	残存状況・備考
1	No.17	高台付埦	[15.3]	(8.1)	5.2	含む	堅緻	褐灰		コナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
2	No.18	須恵器 高台付城	(14.5)	7.4	5.1	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黒褐		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
_	Nr. 4		(10.0)	(40)	4.5		ggy ássz.	E6	外面口縁部ヨ	コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	1 /0 TE #4
3	No. 4	須恵器 埦	[12.2]	(4.6)	4.5	石英・長石含む	堅緻	灰白	内面口縁部ヨ	コナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
4	覆土.	須恵器 埦	12.2	4.7	4.5	石英・長石含む	堅緻	灰白		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 コナデ、以下ロクロナデ。	2/3 残存。
5	貯蔵穴覆土	須恵器 埦	(12.1)	5.8	4.5	雲母含む	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨ	コナデ、以下ヘラケズリ。	1/3 残存。
									内面口緑部ヨ	コナデ、以下ナデ。	酸化焰焼成。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	凹面布日疸	器形、成・整形、文様等の特徴 階部ヘラケズリ。	残存状況·備考
6	覆土	瓦 平瓦	(8.5)	(9.0)	2.3	石英・長石含む	良好	灰褐	凸面ナデ。	MATERIAL CONTRACTOR	ヘラ文字「多」左字あり。
Н-	- 21										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No.31	緑釉陶器 埦	(15.9)	-	(3.9)	精良	堅緻	緑	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。		1/8 残存。
2	No. 3 · 8 ·		(32.2)	(20.3)	12.7	石英・長石・雲母	良好	in	_	つ コナデ、体上部ロクロナデ、体下部ヘラケズリ、底部ナデ、高台	1/2 残存。
	45	鍔付台付鉢	(32.2)	[20.3]	12.7	含む	良好	橙	部ロクロナデ	。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	酸化焰焼成。
3	覆土	鍔付台付鉢	-	[18.8]	(5.6)	白色粒、雲母	良好	灰黄褐	外面回転ナデ 内面回転ナデ		台部片。
4	覆土.	有孔鍔付台付鉢	-	-	(2.2)	白色粒、雲母	良好	褐灰	外面回転ナデ		破片。
_	1,000	須恵器 瓶類			(=,=,	1021 417	25.77	1-2		。円形孔あり。 、高台部ヨコナデ。	100
5	No.17	転用硯	-	14.0	(1.3)	石英・長石含む	堅緻	灰	内面底部ロク		底部残存。
6	覆土	須恵器 高台付城	(13.0)	(5.5)	4.9	茶色粒・雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ョ	コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。 酸化焰焼成。
_	300 I	須恵器	(140)	(0.5)	5.0	4.4 17 (4)	Pr 4-7	in was district		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。	1/4残存。
7	覆土	高台付埦	[14.0]	(6.5)	5.2	雲母含む	良好	にぶい黄橙	_	コナデ、以下ロクロナデ。	酸化焰焼成。
8	覆土	須恵器 高台付城	(13.6)	[5.6]	5.1	雲母含む	良好	明赤褐		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。 酸化焔焼成。
9	No.16 · 47	須恵器 埦	11.2	6.8	3.5	雲母含む	堅緻	灰白		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	ほぼ完存。
	110.10	3000 mi 96	11.2	0.0	0.0	2,700	35.9%			コナデ、以下ロクロナデ。	やや古相を示す。
10	No. 4 · 47	羽釜	(19.0)	-	(24.8)	雲母含む	良好	褐灰 灰白		コナデ、胴上部ロクロナデ、胴下部ヘラケズリ。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
11	No.24	羽釜	(17.9)	-	(11.3)	雲母含む	良好	橙		コナデ、以下ロクロナデ。	□縁部 1/4 残存。
_										コナデ、以下ロクロナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	
12	No.34	羽釜	[17.0]	-	(16.0)	雲母含む	良好	赤褐	内面口緑部ヨ	コナデ、以下ロクロナデ。	口縁~体部 1/3 残存。
13	No.36 · 41	羽釜	20.5	-	(15.3)	雲母含む	良好	明赤褐		コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、以下ヘラナデ。	口縁~胴部上位残存。
14	カマド覆土	羽釜	18.5	_	(10.7)	黒色粒・雲母含む	良好	橙	外面口縁部ョ	コナデ、以下ロクロナデ。	口縁~胴部上位残存。
14	ルマト復工	4436	10.0	_	(10.7)		及灯	D.		コナデ、以下ナデ。	
15	No. 9	土釜	(21.7)	-	(23.7)	石英・長石・雲母 含む	良好	灰黄	外回口縁部3 内面口縁部3	コナデ、胴部ロクロナデ、ユビナデ。 コナデ、胴部ロクロナデ。	口禄~胴部 1/3 残存。 酸化焰焼成。
16	No.25 · 29	土釜	18.2	-	(4.9)	石英・長石含む	良好	にぶい橙		コナデ、頭部ロクロナデ。	口縁部のみ残存。
No	出土位置	種別、器種	瓦当幅	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調	内面口縁部ヨコナデ、頭部ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
INO	加工区屋	(主が)、 位性	26当9曲	丸当序	ЖC		NTIN	日神	nnach rob		が大行ん元・1冊号 破片。上野国分寺創建期Ⅱ P 004 尼寺か
17	No.30	瓦 軒平瓦	(7.8)	(2.0)	(7.9)	石英・長石・雲母 含む	良好	褐灰	凹面布目痕、 凸面ナデ。	端部へラケズリ。	らも出土。藤岡市金山2号窯跡で出土している。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
18	No.32	瓦平瓦	(18.0)	(9.7)	2.5	石英・長石含む	良好	褐灰	凹面布目、手		破片。
10	110.02	26 1 26	(10.07)	(0.1)	2.0		IKNI		凸面ナデ。	機がっこんで11	ヘラ文字あり。
10		t and the second	(34.5)	(13.6)	2.8	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黄褐灰 褐灰	凹面布目痕、 凸面ナデ。	端部へラケズリ。	破片。 ヘラ文字あり。
19	No. 1	瓦平瓦									
	No. 1	瓦平瓦							器形. 成・整形. 文様等の特徴		
Н-		種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
Н-	- 22	種別、器種灰釉陶器		底径	高さ (9.9)	胎土	焼成	色調		デ。ヘラ書きあり。	頸部残存。
H - No	- 22 出土位置 No. 2	種別、器種 灰釉陶器 把手付水瓶	口径	-	(9.9)	黒色粒含む	堅緻	褐灰	内面ロクロナ	デ。ヘラ書きあり。 デ。	顕部残存。 外面に把手、ヘラ書きあり。
H -	- 22	種別、器種灰釉陶器		底径					内面ロクロナ 外面口縁部ヨ 内面口縁部ヨ	ア。ヘラ書きあり。 デ。 コナデ、体部ロクロナデ、嵌~高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。	頸部残存。
H - No	- 22 出土位置 No. 2	種別、器種 灰釉陶器 把手付水瓶	口径	-	(9.9)	黒色粒含む	堅緻	褐灰	内面ロクロナ 外面口縁部ヨ 内面口縁部ヨ 外面口縁部ロ	デ。ヘラ書きあり。 デ。 コナデ、体部ロクロナデ、底〜高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ログロナデ。 クロナデ、開部版公ヘラケズリ。	顕部残存。 外面に把手、ヘラ書きあり。
H - No 1 2 3	- 22 出土位置 No. 2 カマド覆土 カマド覆土	種別、器種 灰釉陶器 把手付水瓶 灰釉陶器 皿	口径 - (13.9)	-	(9.9)	黒色粒含む 黒色粒含む	堅級	褐灰 灰白	内面ロクロナ 外面口縁部ヨ 内面口縁部ヨ	デ。ヘラ書きあり。 デ。 コナデ、体部ロクロナデ、底〜高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ログロナデ。 クロナデ、開部版公ヘラケズリ。	頭部残存。 外面に把手、ヘラ書きあり。 1/3 残存。
H - No 1 2 3 H -	- 22 出土位置 No. 2 カマド覆土 カマド覆土	種別、器種 灰釉陶器 把手付水瓶 灰釉陶器 皿 羽釜	口径 - (13.9) (18.0)	(6.5)	(9.9) 3.2 (8.0)	黒色粒含む 黒色粒含む 白色粒	堅緻 堅緻 良好	褐灰 灰白 浅黄橙	内面ロクロナ 外面口縁部ヨ 内面口縁部ヨ 外面口縁部ロ	デ。へう書きあり。 デ。 コナデ、体部ロクロナデ、成〜高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ロクロナデ。 コナデ、別部報位へラケズり。 デ。	頭部残存。 外面に把手、ヘラ書きあり。 1/3残存。 1/6残存。
H - No 1 2 3 H -	- 22 出土位置 No. 2 カマド覆土 カマド覆土	種別、器種 灰釉陶器 把手付水瓶 灰釉陶器 皿	口径 - (13.9)	-	(9.9)	黒色粒含む 黒色粒含む	堅級	褐灰 灰白	内面ロクロナ 外面口緑部ヨ 内面口緑部ヨ 外面口緑部ロ 内面ロクロナ 外面口緑部ヨ	デ。ヘラ書きあり。 デ。 コナデ、体部ロクロナデ、底〜高台部ヨコナデ。 コナデ、以下ログロナデ。 クロナデ、開部版公ヘラケズリ。	頭部残存。 外面に把手、ヘラ書きあり。 1/3 残存。

No	出土位置	種別、器種	口径	低径	高さ	胎土	焼风	色調		器形、成・整形、又様等の	付倒	残存状況・備考
2	No.13	灰釉陶器 皿	[14.0]	(6.8)	2.9	黒・白色粒含む	堅緻	灰白		ナデ、体上部ロクロナデ、体下部ヘラケ ナデ、体部ロクロナデ。	ズリ。	1/3 残存。
3	No.10	須恵器	13.5	6.5	5.2	白色粒・雲母含む	堅緻	灰黄	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。		完存。	
-	10.10	高台付埦 須恵器	13.3	0.5	3.2		35.484	八 與		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナテ	>	7C1F0
4	No. 1	高台付埦	-	6.5	(5.2)	白色粒・雲母含む	堅緻	灰白	内面体~底部口	クロナデ。		体部~高台部残存。
5	No. 3	須恵器 高台付埦	13.5	5.5	5.4	雲母含む	良好	褐灰		ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。	、高台部ヨコナデ。	ほぼ完存。酸化焰。 □緑部に煤付着。
6	No. 2	須恵器 高台付皿	[13.4]	5.9	3.0	黒色粒・雲母含む	良好	にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り、高台部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		1/2 残存。	
7	カマド覆土	鍔付台付鉢	[29.8]		(5.9)	石英・長石・雲母	良好	にぶい橙	外面回転ナデ。			□縁部 1/8 残存。
	No. 9							にぶい黄橙	内面回転ナデ。	ナデ、以下ヘラケズリ。		酸化焰焼成。
8	12 · 18	土師器 甕	[18.9]	-	(25.1)	雲母含む	良好	橙	内面口縁部ヨコ	ナデ、以下ヘラナデ、胴下部ハケナデ。		1/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	即而本日、土子	器形、成・整形、文様等の 、端部ヘラケズリ。	特徴	残存。残存状況・備考
9	No.21	瓦平瓦	(30.5)	(16.0)	2.1	石英・長石含む	堅緻	褐灰	凸面ナデ。文字			破片。判読不明文字叩き。
	- 24											
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	外面ロクロナテ	器形、成・整形、文様等の	特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 碗	-	(7.4)	(2.4)	精良	堅緻	灰白		。朱墨付着あり。		内面に朱墨付着あり。 転用硯。
2	No. 8	須恵器 坏	11.8	7.0	3.9	白色粒含む	堅緻	灰		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。		完存。
3	No. 9	土師器 坏	[12.4]	-	(3.4)	雲母含む	良好	にぶい赤褐		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ヘラナデ。		1/4 残存。
	N. 4	1 Age BM Ayr	(140)		(0.0)	4.4 17 44	A- L-7	III -1- 401	外面口縁部ヨコ	ナデ、体上部ユビオサエ、以下ヘラケス		1/4 残存。
4	No. 4	土師器 坏	[14.9]	-	(3.0)	雲母含む	良好	明赤褐	+	ナデ、体上部ユビオサエ、以下ヘラナテ	•	1/47%11/0
5	覆土	土師器 甕	[16.3]	-	(15.6)	雲母含む	良好	橙		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ヘラナデ。		□緑~胴部 1/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	musi-k-m - e te	器形、成・整形、文様等の	特徴	残存状況・備考
6	No. 5 · 6	瓦 平瓦	40.1	28.9	2.3	石英・長石・雲母 含む	堅緻	灰白	凸面縄目タタキ	り痕、ナデ。端部ヘラケズリ。 ・ナデ。		ほぼ完存。
7	No.12	瓦 平瓦	34.7	27.7	2.3	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黒	凹面布目痕、糸 凸面縄目タタキ	切り痕、ナデ。端部ヘラケズリ。 ・ナデ。		完存。一枚造り。 凹面にヘラ文字「十」あり。
Ή-	- 25	<u> </u>				1	1	1				
		種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の	特徴	残存状況・備考
1	No.21	須恵器 高台付埦	(14.5)	6.3	5.3	雲母含む	良好	灰黄		ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。	、高台部ヨコナデ。	2/3 残存。
2	No. 7	須恵器	12.8	6.1	3.3	精良	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコ	ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	、高台部ヨコナデ。	完存。
_	140. 7	高台付Ⅲ 須恵器			3.3					ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り		1/2 残存。
3	No.24	高台付皿	[13.9]	6.2	3.2	白色粒・雲母含む	良好	黄橙	内面口縁部ヨコ	ナデ、以下ロクロナデ。		酸化焰燒成。
4	No.22	須恵器 埦	[13.4]	6.5	3.8	白色粒・雲母含む	良好	橙		ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。	0	1/2 残存。 酸化焰焼成。
5	Aカマド will	須恵器 坏	[13.3]	(8.1)	2.7	黒色粒含む	堅緻	灰		ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	•	1/4 残存。
	覆土	土師器 甕	10.0		(0.0)	(4.A. D) (40.	A 1.7	months.	外面口縁部ヨコ	ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ヘラケズリ。		
	No. 6				(6.9)							
6	110. 0	and the area	19.0		(0.0)	雲母含む	良好	明褐		ナデ、以下ヘラナデ。		口縁部残存。
7	No.16	土師器 甕	(20.2)	-	(4.9)	黒色粒・雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコ	ナデ、以下ヘラナデ。 ナデ、顕都ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。	0	□縁部 1/4 残存。
_	No.16 出土位置			幅					外面口縁部ヨコ 内面口縁部ヨコ	ナデ、類部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の		□縁部 1/4 残存。 残存状況・備考
7	No.16	土師器 甕	(20,2)	(7.2)	(4.9)	黒色粒・雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコ 内面口縁部ヨコ	ナデ、顕部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。		口縁部 1/4 残存。
7 No 8	No.16 出土位置 A カマド	土師器 甕種別、器種	(20.2) 長さ		(4.9) 厚さ	黒色粒・雲母含む 胎土	良好焼成	明赤褐色調	外面口縁部ヨコ 内面口縁部ヨコ 凹面布目痕・糸	ナデ、類部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の		□緑部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。
7 No 8	No.16 出土位置 A カマド 覆土	土師器 甕種別、器種	(20.2) 長さ		(4.9) 厚さ	黒色粒・雲母含む 胎土	良好焼成	明赤褐色調	外面口縁部ヨコ 内面口縁部ヨコ 凹面布目痕・糸 凸面ナデ。	ナデ、頭部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の	特徴	□緑部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。
7 No 8 H -	No.16 出土位置 A カマド 覆土	土師器 夷 種別、器種 瓦 平瓦	(20.2) 長さ (16.2)	(7.2)	(4.9) 厚さ 2.5	黒色粒・雲母含む 胎土 石英・長石含む	良好 焼成 堅緻	明赤褐 色調 黒	外面口縁部ヨコ 四面布目痕・糸 凸面ナデ。 外面口縁部ヨコ	ナデ、頭部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。	特徴	□縁部1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三] あり。
7 No 8 H –	No.16 出土位置 A カマド 覆土 - 26 出土位置	土師器 売 種別、器種 瓦 平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器	(20.2) 長さ (16.2) 口径	(7.2)	(4.9) 厚さ 2.5	黒色粒・雲母含む 胎土 石英・長石含む 胎土	良好 焼成 堅緻 焼成	明赤褐 色調 黒	外面口線部ヨコ 四面布目痕・糸 凸面ナデ。 外面口線部ヨコ 内面口線部ヨコ 外面口線部ヨコ 外面口線部ヨコ	ナデ、頭部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り真、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロフロナデ、底部回転ヘラリ ナデ、以下ロフロナデ。 ナデ、体部ロタロナデ、底部回転糸切り	特徴 特徴 I))。	口縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三] あり。 残存状況・備考 1/2 残存。
7 No 8 H - No 1 2	No.16 出土位置 A カマド 渡土 - 26 出土位置 No. 5	土師器 喪 種別、器種 瓦 平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須患器 高台付塊	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2)	(7.2) 底径 8.1 (8.1)	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1	無色粒・素母含む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良	良好 焼成 堅緻 焼成 堅緻	明赤褐 色調 黒 色調 灰白	外面口縁部ヨココ 四面布目裏・糸 四面一縁部 四面一線部 外面口縁部 列面 内面 内面 内面 内面 内面 内面 内面 内面 内面 日縁部 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ナデ、頭部エピオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラリ ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、株部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	特徴 特徴 ₀	日禄部1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字「三」あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然種薬付着。
7 No 8 H = No 1 2	No.16 出土位置 A カマド 寝土 - 26 出土位置 No. 5 寝土	土師器 喪 種別、器種 瓦 平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器 須恵皆境	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2) (13.4)	底径 8.1 (8.1) 6.5	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1 2.9	無色粒・実母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 相良 白色粒・雲母合む	良好 焼成 堅稅 烧成 堅稅 坚稅 坚稅 坚稅 坚稅	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白	外面口縁部 ヨココ 四面 市 目 裏・ 糸	ナデ、原部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転・ラリ ナデ、以下ロクロナデ、底部回転・切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転・切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転・対り ナデ、以下ロクロナデ。	特徴 特徴 。	口縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字「三」あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然結薬付着。
7 No 8 H - No 1 2	No.16 出土位置 A カマド 渡土 - 26 出土位置 No. 5	土師器 喪 種別、器種 瓦 平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須患器 高台付塊	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2)	(7.2) 底径 8.1 (8.1)	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1	無色粒・素母含む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良	良好 焼成 堅緻 焼成 堅緻	明赤褐 色調 黒 色調 灰白	外面口縁部 ヨココ コカ面 口縁部 ヨココ コカ面 口縁部 部ヨココ カ面 口縁部 部ヨココ カ面 口縁部 部ヨココ カ 内面 口縁 部 部 ヨコココカ 内面 回口線部 部 ヨココカ 内面 回口線部 部 ヨココカ 内面 回口線部 部 ヨココカ カ 面 口線部 部 ヨココカ カ 面 口線部 部 ヨコカカ 面 口線部 部 ヨコカカ 面 口線部 コカカ 田 しゅうかん かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	ナデ、頭部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸ラリ ナデ、は下ロクロナデ。 カデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ログロナデ。 ナデ、以下ログロナデ。 カデ、以下ログロナデ。 カデ、以下ログロナデ。 カデ、以下ログロナデ。	特徴 特徴 。。。。 。·	日禄部1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字「三」あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然種薬付着。
7 No 8 H = No 1 2	No.16 出土位置 A カマド 寝土 - 26 出土位置 No. 5 寝土	土師器 喪 種別、器種 瓦 平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器 須恵皆境	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2) (13.4)	底径 8.1 (8.1) 6.5	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1 2.9	無色粒・実母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 相良 白色粒・雲母合む	良好 焼成 堅稅 烧成 堅稅 坚稅 坚稅 坚稅 坚稅	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白	外面口縁総部 ヨココ コココ	ナデ、頭部ユビオサエ、以下ヘラケズリ ナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロンロナデ、底部回転糸のリ ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロンロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロフロナデ。 ナデ、体部ロンロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロフロナデ。	特徴 特徴 。。。。 。·	口縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字「三」あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然結薬付着。
7 No 8 H - No 1 2 3 4	No.16 出土位置 A カマド 覆土 - 26 出土位置 No. 5 覆土 No.26	土師器 養種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰種陶器 皿 須患器 高台付塊 須恵器 坼	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2) (13.4)	底径 8.1 (8.1) 6.5	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1 2.9 3.0	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・雲母含む 雲母合む	良好 焼成 堅微 壁般 壁般 壁般 里般 阜好	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰黄 明赤褐	外面 日線部 部 ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ 田 線 部 部 ヨ ヨ ヨ 田 海 前 田 線 部 部 ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ	ナデ、顕都エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部リカコナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、域下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ。 大学、体部レクロナデ。 ナデ、体部・ロケーナデ、以下ヘラケスナデ、以下・ナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部・ビオサエ、底部ヘラケズリ	特徴 特徴 。。。。 。·	口縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 歳片。 ヘラ文字 [三」あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然積薬付着。 2/3 残存。 はほ完存。
7 No 8 H – No 1 2 3 4 5	No.16 出土位置 A カマド マーク - 26 出土位置 No. 5 変土 No.26 No.18 変土	主師器 東 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須島付塊 須恵器 境 土師器 坏 土師器 坏	[20.2] 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 12.2 (20.0)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8	(4.9) 厚さ 2.5 2.4 6.1 2.9 3.0 3.4 (7.0)	無色粒・薬母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 相良 白色粒・薬母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む	自好 焼成 堅緻 煙級 堅級 堅級 堅級 堅級 以 以 以 以 以 以 以 以	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰点 の の の の の の の の の の の の の	外面 日縁 辞 部 日 ヨ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ コ	ナデ、頭部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラワナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、 ナデ、以下ロクロナデ・ ナデ、以下ログロナデ・ ナデ、以下・デナナー ナデ、以下・デ・ナー ナデ、は「ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・ボース・	特徴 特徴 ・ ・ ・	口縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ペラ文字「三」あり。 現存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然結薬付着。 2/3 残存。 2/3 残存。 1/8 残存。
7 No 8 H – No 1 2 3 4 5	No.16 出土位置 A カマド マーク - 26 出土位置 No. 5 変土 No.26 No.18 変土	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 Ⅲ 須惠器境 白付境 須恵器境 土師器 坏	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8	(4.9) 厚さ 2.5 2.4 6.1 2.9 3.0 3.4	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・素母合む 素母合む 素母合む	自好 焼成 堅報 焼成 堅報 堅報 堅報 堅報 堅報	明赤褐 色調	外面 日 縁	ナデ、顕都エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロッロナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下トナデ、以下トナース。以下トナース。以下・ナデ、成ボーナデ、以下・ナデ、成ボーナデ、成ボーナデ、成ボーナデ、成ボーナデ、成ボーナデ、成ボーナデ、成都・ファケスリナデ、体部・デー、成部ヘラケズリナデ、体部・デー、成部ヘラケズリナデ、体部・デー、体部・デー、成部ヘラケブリナデ、体部・デー、体部・デー、体部・デー、体部・デー、体部・デー、体部・デー、体部・デー、体部・デー、成が、フェー	特徴 特徴 い。。。。 がり。。。 。 禁等の特徴	日禄部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字「三」あり。 発存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 2/3 残存。 はは完存。 2/3 残存。 (ほは完存。 (はに完存。 (はに完存。 (はに完存。
7 No 8 H – No 1 2 3 4 5 6 No 7	No.16 出土位置 A カマド 度土 - 26 出土位置 No. 5 度土 No.26 No.18 度土 出土位置 No. 1	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 III 須惠器 高台付境 須惠器 境 土師器 坏 土師器 坏	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 字径	(4.9) 厚さ 2.5 高さ 2.4 6.1 2.9 3.0 3.4 (7.0) 厚さ	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・雲母合む 雲母合む 雲母合む 雲母合む	自好 焼成 堅緻 煙級 堅級 堅級 堅級 堅級 以 以 以 以 以 以 以 以	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰点 の の の の の の の の の の の の の	外面 日 縁	ナデ、頭部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラリナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ・ ナデ、以下ロクロナデ・カデー、大下ハラケスナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリナデ、体部エピオサエ、、底部ヘラケズリナデ、体部エピオサス、、底部ヘラケズリナデ、体部デデ、底部ヘラケズリナデ、体部デデ、底部ヘラケズリナデ、体部デデ、底部ヘラケズリ	特徴 特徴 い。。。。 がり。。。 。 禁等の特徴	日禄部 1/4 残存。 残存状況・備考 歳片。 ヘラ文字 [三] あり。 残存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然種薬付着。 2/3 残存。 はぼ完存。 2/3 残存。 1/8 残存。 残存状況・備考
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 複土 No.26 No.18 複土 出土位置 No. 1	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器皿 類惠器 高白付境 類惠器 第二十二 類惠器 第二十二 類惠器 第二十二 類惠器 第二十二 五 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	(202) 長さ (162) (161) (162) (134) 112 (200) 直径 53	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 - 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・雲母合む 雲母合む コ色粒、雲母	良好 焼成 堅徽 學級 堅徽 皇好 良好	明赤褐 色調 黒 佐調 灰白 灰白 灰 東 明赤褐 にぶい褐 色調	外面 日 縁	ナデ、顕都ユビオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラナデ。 出形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロウロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ナプロナデ・ナデ、以下ナプロナデ・ナデ、は下サボーナーデ、底部へラケズリナデ、体部エビオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エジオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エデ、底部ヘラナブ。サデ、体部エジオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部ドデ、底部ヘラナズリナデ、体部ドデ、底部ヘラケズリカーデ、体部ドデ、底部へラケズリカーデ、体部ドデ、底部へラナズリカーデ、体部ドデ、底部へラケズリカーデ、体部ドデ、底部へラケズリカーデ、体部ドデ、底部へラケズリカーデ、体部ドデ、底部へラケズリカーデ、大きないる。	特徴 特徴 り。 。 。 。 。 。 参等の特徴 る。光沢あり。	日禄部 1/4 残存。 残存状況・備考 成片。 ヘラ文字「三」あり。 養存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 外・内面に自然釉薬付着。 2/3 残存。 はぼ完存。 2/3 残存。 はば完存。 1/8 残存。 (はば完存。 円孔径 0.8cm。
7 No 8 H-No 1 2 3 4 5 6 No 7	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 覆土 No.26 No.18 覆土 置土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No. 1	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器場 高台付境 須恵器 坼 土師器 坏 土師器 來	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 5.3	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 - 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・紫母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 自色粒・紫母	身好 焼成 堅徽 堅徽 堅徽 與好 身好 身好 身好 身好	明赤褐 色調 黒 佐調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 大大白 大大白 大大白	外面回口線線部 第二日 日本 日本 日本 日本 日本 日本 内面回口線線 日本 内面面回口線線 日本 日本 日本 <td< td=""><td>ナデ、顕都エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部リカロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。ホールー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</td><td>特徴 特徴 (り)。。。。 。。。。。。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。</td><td>日縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三」あり。 発存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 2/3 残存。 はは完存。 2/3 残存。 1/8 残存状況・備考</td></td<>	ナデ、顕都エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部リカロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ。ホールー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	特徴 特徴 (り)。。。。 。。。。。。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	日縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三」あり。 発存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 2/3 残存。 はは完存。 2/3 残存。 1/8 残存状況・備考
7 No 8 H – No 1 2 3 4 5 6 No 7 H – No	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 複土 No.26 No.18 複土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16	土師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器 病 白付塊 須恵器 坼 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 土師器 來	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 5.3	底径 81 (81) 65 7.8 7.0 · 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 8さ 4 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・紫母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 自色粒・紫母 石材 縁現片岩	良好 焼成 堅報 整報 堅報 医報 鱼好 良好 臭好 免疫成 医额	明赤褐 色調 集 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大	外面回口線線部	ナデ、販部ユビオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロフロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロフロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部の両糸分り ナデ、以下ロクロナデ。 カデ、は下ルカーナデ、大部エピオサエ、以下ヘラケスリナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ 器形、成・整形、文材 と体に多方向の擦痕が顕著で清らかであ 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	特徴 特徴 い。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	日禄部 1/4 残存。
7 No 8 H-No 1 2 3 4 5 6 No 7	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 覆土 No.26 No.18 覆土 置土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No. 1	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器 皿 須恵器場 高台付境 須恵器 坼 土師器 坏 土師器 來	(20.2) 長さ (16.2) 口径 (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 5.3	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 - 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・紫母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 自色粒・紫母	身好 焼成 堅徽 學級 堅徽 具好 身好 身好 身好 身好	明赤褐 色調 黒 佐調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 大大白 大大白 大大白	外面回口線線 野面回口線線 野面回回線 中面回回線 日 <td>ナデ、原部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部の転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、上が、カデ、以下へラケス ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、保部エデオ・、底部ヘラナズリ ナデ、原部へラナズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロケロナデ、底部回転糸切り ナデ、集がしてカーデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り</td> <td>特徴 特徴 い。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td> <td>日縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三」あり。 発存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 2/3 残存。 はは完存。 2/3 残存。 1/8 残存状況・備考</td>	ナデ、原部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部の転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、上が、カデ、以下へラケス ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、保部エデオ・、底部ヘラナズリ ナデ、原部へラナズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロケロナデ、底部回転糸切り ナデ、集がしてカーデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	特徴 特徴 い。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	日縁部 1/4 残存。 残存状況・備考 破片。 ヘラ文字 [三」あり。 発存状況・備考 1/2 残存。 1/4 残存。 2/3 残存。 はは完存。 2/3 残存。 1/8 残存状況・備考
7 No 8 H – No 1 2 3 4 5 6 No 7 H – No	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 複土 No.26 No.18 複土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16	主師器 喪 種別、器種 展 平瓦 種別、器種 灰 能陶器 皿 須恵器 境 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 種別、器種 石製紡練車	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 5.3	底径 81 (81) 65 7.8 7.0 · 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 8さ 4 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・紫母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 自色粒・紫母 石材 縁現片岩	良好 焼成 堅報 整報 堅報 医報 鱼好 良好 臭好 免疫成 医额	明赤褐 色調 集 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大白 大	外面回口線線 野面回口線線 野面回回線 中面回回線 日 <td>ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の サデ、体部ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、成下ロクロナデ、以下ロクロナデ、大下、以下ロケン・ナデ、以下ログロナデ、大下、以下、カデ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、が、底部ヘラケズリナデ、以下ルカテスナデ、以下、カテ、、水部ルテ、、成・整形、、成・整形、、大様のかである。 器形、成・整形、文様等のナデ、成部回転糸切りナデ、水下ログロナデ、底部回転糸切りナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、大都ログロナデ、底部回転糸切りカテズ、大部ログロナデ、底部回転糸切りナデ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下のカーズ、大様のログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、</td> <td>特徴 特徴 い。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td> <td>日禄部 1/4 残存。</td>	ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の サデ、体部ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、成下ロクロナデ、以下ロクロナデ、大下、以下ロケン・ナデ、以下ログロナデ、大下、以下、カデ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、カテ、以下、が、底部ヘラケズリナデ、以下ルカテスナデ、以下、カテ、、水部ルテ、、成・整形、、成・整形、、大様のかである。 器形、成・整形、文様等のナデ、成部回転糸切りナデ、水下ログロナデ、底部回転糸切りナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、はボログロナデ、底部回転糸切りカテズ、大都ログロナデ、底部回転糸切りカテズ、大部ログロナデ、底部回転糸切りナデ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下ログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下のカーズ、大様のログロナデ、底部回転糸切りカテ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、カーズ、大下のカーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、カーズ、	特徴 特徴 い。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	日禄部 1/4 残存。
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3	No.16 出土位置 A カマド 度土 - 26 出土位置 No. 5 度土 No.26 No.18 度土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.18	生師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 種別、器種 灰釉陶器皿 須惠器高白付境 須惠器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 5.3	底径 81 (81) 65 7.8 7.0 · 穿径 5.4	(49) 厚さ 25 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石含む お土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・紫母合む 雲母含む 白色粒、雲母 石材 縁起片岩 胎土 白色粒・表母合む ちもちもち	良好 焼成 堅緻 整報 堅報 以 與好 鬼好 鬼好 鬼好 鬼好 鬼好 鬼好 鬼好 鬼好	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰 大 明赤褐 にぶい褐 色調	外面面口線線部 部部 ヨヨコココココココココココココココココココココココココココココココ	ナデ、原部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラナデ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部の転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、上が、カデ、以下へラケス ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、体部エピオサエ、成部ヘラケズリ ナデ、保部エデオ・、底部ヘラナズリ ナデ、原部へラナズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロケロナデ、底部回転糸切り ナデ、集がしてカーデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り	特徴 特徴 け)。。。。 。 が が を 等の特徴 る。光沢あり。	日禄部 1/4 残存。 残存状況・備考 成片。 ヘラ文字「三」あり。 養存状況・備考 1/2 残存。 1.4 残存。 外・内面に自然釉薬付着。 2/3 残存。 13 投存。 2/3 残存。 18 残存。 18 残存。 「残存状況・備考 はは完存。 円孔径 08cm。 残存状況・備考 1/2 残存。 はは完存。 1/4 残存。 残存状況・備考
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3	No.16 出土位置 A カマド 度土 - 26 出土位置 No. 5 度土 No.26 No.18 度土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16 No.18	土師器 喪 種別、器種 展 平瓦 種別、器種 灰 特陶器 皿 須 惠	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 (15.5) (15.5)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 - 穿径 5.4 [8.6]	(49) 厚さ 25 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 13	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・紫母合む 雲母合む 雲母合む 古色粒、雲母 石材 緑泥片岩 路土 白色粒、雲母 石材 緑泥片岩	自好 焼成 堅緻 堅級 堅級 里級 自好 自好 自好 自好 自好 自好 自好	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰 黄 明赤褐 にぶい褐 色調	外面面口線線部 部部 ヨヨコココココココココココココココココココココココココココココココ	ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転ネ切り ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ロクロナデ・ 大下のよいナデ、大下へラケス ナデ、体部エグコナデ、大下へラケス ナデ、体部エグコナデ、底部ヘラケズリ ナデ、体部エグオサエ、底部ヘラケズリ ナデ、体部ングロナデ、底部同転糸切り ナデ、体部ログロナデ、底部同転糸切り ナデ、以下ログロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ログロナデ、底部回転糸切り ナデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、以下ログロナデ・ メデ、は部のラケズリ後エピナナデ、株部へラケズリ後エピオースには一般ないないた。 器形、成・整形、文様等の コード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	特徴 特徴 け)。。。。 。 が が を 等の特徴 る。光沢あり。	日禄部 1/4 残存。 残存状況・備考 成片。 ヘラ文字「三」あり。
7 No 8 H-No 1 2 3 4 5 6 No 7 H-No 1 2 3 No	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 変土 No.26 No.18 変土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16 No.18 コールー・ No.18 コールー・ No.18 コールー・ No.13 コールー・ のいます。 の	生師器 喪 種別、器種 展 平瓦 種別、器種 灰 桂陶器 皿 須恵器 病 自付 境 須恵器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 種別、器種 高自付 境 須恵書 第自付 境 須恵書 第自付 境 須恵書 第自付 東 第自付 東 第自付 第一付	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 瓜当径	底径 81 (81) 65 78 70 · 穿径 54 底径 (86) 80 (80)	(49) 厚さ 25 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 13 高さ 59 59	無色粒・雲母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・雲母含む 雲母含む 白色粒、雲母合む 白色粒、雲母	身好 焼成 堅徽 堅徽 身好 身好 燒成 堅徽 堅徽 身好 身好 身好 身好 燒成	明赤褐 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	外面面口線線	ナデ、原部ユビオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリカデ、以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の サデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラサデ、以下ロクロナデ。 ナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ・ナデ、以下ロクロナデ・大学、大学、以下ログロナデ・カーデ、以下ルラケスリナデ、体部上デ、底部ヘラケズリナデ、体部上が、底部ヘラケズリナデ、体部したオサス、成下のカケスリナデ、体部したオサス、成が、整形、文様等のナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。	特徴 特徴 り)。。。。 ヴ)。。 を等の特徴 る。光沢あり。 特徴	
7 No 8 H-No 1 2 3 4 5 6 No 7 H-No 1 2 3 No	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 変土 No.26 No.18 変土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16 No.18 コールー・ No.18 コールー・ No.18 コールー・ No.13 コールー・ のいます。 の	生師器 養種別、器種 及 平瓦 医	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.1) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 原当径 (14.4)	底径 81 (81) 65 7.8 7.0 · 穿径 5.4 底径 (86) 8.0 (80)	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 59 59 25 長さ	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・紫母含む 素母含む も色粒・紫母合む も色粒・紫母 石材 緑泥片岩 胎土 白石合丸・素母合む 白色粒・素母合む 白色粒・素母合む	身好 焼成 堅報 壁報 整報 具好 身好 身好 身好 原成 堅報 医额 具好 原成 医额 上身好 身好 身好 原成 医数 医数 上身好 原成 医数 上身好 原成	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	外面面口線線	ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナア、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。ナデ、保部エピオサエ、以下ヘラケスナデ、保部エピオサエ、底部ヘラケズリナア、保部エピオサエ、底部ヘラケズリナア、保部エア、底部ヘラナズリナア、保部エア、底部ヘラナズリナア、保部エクエナデ、底部ヘラナズリナア、保部エクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。	特徴 特徴 り)。。。。 ヴ)。。 を等の特徴 る。光沢あり。 特徴	
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3 No No 5	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 変土 No.26 No.18 変土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.16 No.18 出土位置 エールー・ エー	生師器 美種 原	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 原当径 (14.4)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 · 穿径 (8.6) 8.0 (8.0) 瓦当厚	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 59 59 25 長さ	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・素母含む 素母含む 会母合む 自色粒、素母 石材 縁起片岩 胎土 白色粒・雲母合む 胎土 石石含む・雲母合む 胎土 石英・長石・雲母	身好 焼成 堅報 壁報 臭好 臭好 燒成 堅報 壓報 臭好 臭好 燒成 堅報 臭好 臭好 燒成 壓報 臭好 燒成 壓報 臭好 燒成 壓報	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	外内面面回路線	ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナア、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。ナデ、保部エピオサエ、以下ヘラケスナデ、保部エピオサエ、底部ヘラケズリナア、保部エピオサエ、底部ヘラケズリナア、保部エア、底部ヘラナズリナア、保部エア、底部ヘラナズリナア、保部エクエナデ、底部ヘラナズリナア、保部エクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。底部回転条切りナデ、以下ロクロナデ。	特徴 特徴 り)。。。。 ヴ)。。 を等の特徴 る。光沢あり。 特徴	
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3 No 4 H- H- No 5 H-	No.16 出土位置 A カマド 便士 - 26 出土位置 No. 5	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 標別、器種 灰釉陶器 皿 病白付境 須惠器 坏土師器 环 土師器 环 工	(20.2) 長さ (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 原当径 (14.4)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 · 穿径 (8.6) 8.0 (8.0) 瓦当厚	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 59 59 25 長さ	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・素母含む 素母含む 会母合む 自色粒、素母 石材 縁起片岩 胎土 白色粒・雲母合む 胎土 石石含む・雲母合む 胎土 石英・長石・雲母	身好 焼成 堅報 壁報 臭好 臭好 燒成 堅報 壓報 臭好 臭好 燒成 堅報 臭好 臭好 燒成 壓報 臭好 燒成 壓報 臭好 燒成 壓報	明赤褐 色調 黒 色調 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白 灰白	外内面面回路線	ナデ、販部エピオサエ、以下ヘラケズリナア、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の 切り痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転へラワナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部ロ転糸切りナデ、以下ロクロナデ。ナデ、体部ログロナデ、底部ヘラケズリナア、体部ナデ、底部ヘラケズリナア、体部ナデ、底部ヘラケズリカデ、体部ロでは大変にからない。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ログロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ。 カデ、以下ログロナデ。底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。底部回転糸切りナデ、原部フガナデ、底部の手が、底部に対していてある。 器形、成・整形、文様等の またい、文様等の いた、整形、文様等の いた、整形、大様等の いた、整形、大様等の いた、整形、大様等の いた、整形、大様等の いた、整形、大様等の	特徴 特徴 りり。 。。 。。 がり。 。。 を等の特徴 る。光沢あり。 特徴 。。	
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3 No 4 H- H- No 5 H-	No.16 出土位置 A カマド 複土 - 26 出土位置 No. 5 複土 No.26 No.18 複土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.18 は土位置 No.16 は、10 は、10 は、10 は、10 は、10 は、10 は、10 は、10	主師器 喪 種別、器種 瓦平瓦 標別、器種 灰釉陶器 皿 病白付境 須惠器 坏土師器 环 土師器 环 工	(20.2) 長さ (16.2) (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 12.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 瓦当径 (14.4) 長さ (15.2)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 · 穿径 5.4 (8.6) 8.0 (8.0) 瓦当厚 2.6	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 59 25 長さ (85)	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石合む 胎土 白色粒・小石合む 精良 白色粒・紫母合む 素母合む ま母合む 素母合む 白色粒、紫母 石英・長石有さむ 胎土 石石黄・紫母 石英・長石有会む 胎土 石石黄・長石・紫母	臭好 焼成 堅徽 壁緞 臭好 燒成 堅徽 里級 臭好 燒成 堅徽 臭好 臭好 燒成 壓級 壓級 臭好 燒成 壓級 臭好 燒成	明赤褐 色調 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医	外内面面回路線	ナデ、頭部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部のラケズリナデ、体部エクエナデ、大下へラケスナデ、以下ナデ、原部ヘラケズリナデ、体部エピオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エピオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エカーオデ、底部ヘラケズリカデ、体部エクエナデ、底部ヘラケズリナデ、原でリカーボ、成・整形、文様等のナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ。 大ア、以下ロクロナデ。成が回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。 大下、以下ログロナデ。大がに対していて、大学、体部のカーボ、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の	特徴 特徴 りり。 。。 。。 がり。 。。 を等の特徴 る。光沢あり。 特徴 。。	□縁部 1/4 残存。
7 No 8 H- No 1 2 3 4 5 6 No 7 H- No 1 2 3 No 4 H- No 1 No 5 H- No	No.16 出土位置 A カマド 便土 - 26 出土位置 No. 5 関土 No.26 No.18 関土 出土位置 No. 1 - 27 出土位置 No.13 出土位置 22 出土位置 24 出土位置 25 27 出土位置 26 27 18 27 28 出土位置 28 出土位置 28 出土位置 28 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	主師器 喪 種別、器種 及 神界	(20.2) 長さ (16.2) (16.2) (16.1) (16.2) (13.4) 11.2 12.2 (20.0) 直径 (15.5) 15.6 (11.6) 瓦当径 (14.4) 長さ (15.2)	底径 8.1 (8.1) 6.5 7.8 7.0 · 穿径 5.4 (8.6) 8.0 (8.0) 瓦当厚 2.6	(49) 厚さ 25 高さ 24 61 29 30 34 (70) 厚さ 59 25 長さ (85)	無色粒・素母合む 胎土 石英・長石含む 胎土 白色粒・小石含む 精良 白色粒・素母含む 雲母含む 白色粒、素母 石材 縁祀片岩 胎土 白色粒・雲母含む 白色粒・雲母含む 胎土 石英・長石・素母 合む 胎土	自好	明赤褐 色調	外内面面回面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面面	ナデ、頭部エピオサエ、以下ヘラケズリナデ、以下ヘラケズリ、 以下ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の リり痕、端部ヘラケズリ。 器形、成・整形、文様等の ナデ、体部ロクロナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転へラリナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ、底部のラケズリナデ、体部エクエナデ、大下へラケスナデ、以下ナデ、原部ヘラケズリナデ、体部エピオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エピオサエ、底部ヘラケズリナデ、体部エカー大デ、底部ヘラケズリカデ、体部エクエナデ、底部ヘラケズリナデ、原でリカーボ、成・整形、文様等のナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ロクロナデ。 大ア、以下ロクロナデ。成下のラケズリを部レクロナデ、底部回転糸切りナデ、以下ログロナデ。 大学、体部へラケズリ後エピナア。 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の 器形、成・整形、文様等の	特徴 特徴 りり。。。。。 。。。 。。 を等の特徴 。。。。 特徴 。。 特徴	

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 残存状況・備考

No	出土位置	種別、器種 ^{須恵器}	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調 灰黄褐	器形、成・ 面口縁部ヨコナデ、体部ロクロカ	整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 9	高台付境	[15.3]	8.4	7.2	白色粒・雲母含む	良好	灰白	面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナ	ーデ。	1/2 残存。
4	No. 5	須恵器 坏	[13.5]	(8.1)	3.6	白色粒含む	堅緻	灰	面口緑部ヨコナデ、体部ロクロナ 面口緑部ヨコナデ、以下ロクロナ		1/4 残存。
5	No. 8	須恵器 坏	13.2	7.5	3.7	黒色土・雲母含む	堅緻	灰白	面口縁部ヨコナデ、体部ロクロ† 面口縁部ヨコナデ、以下ロクロ†		口禄 1/4 欠損。
6	No.11	須恵器 坏	(11.7)	6.5	3.7	雲母含む	良好	明赤褐	外面口緑部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口緑部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		口縁部 1/4 欠損。 酸化焔焼成。
7	No.15	須恵器 坏	[11.8]	6.2	3.6	雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。		2/3 残存。 酸化焰焼成。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況・備考
8	覆土	瓦平瓦	(14.0)	(9.2)	1.6	石英・長石・雲母 含む	良好	にぶい褐	面布目痕・糸切り痕。 面ナデ。押印あり。		破片。 「高ヵ」の押印あり。
Н-	- 29										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・	整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 坏	(11.0)	-	(2.5)	白色粒	堅緻	灰白	面ヨコナデ。 面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケン	ČII	1/8 残存。 □緑部 1/3 残存。
2	覆土	土師器 坏	[12.3]	-	(4.2)	雲母含む	良好	黒褐にぶい黄	面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミ 面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケン	がキ。	外·内面黑色処理。 1/4 残存。
3	覆土	土師器 坏	[12.3]	-	(4.3)	雲母含む	良好	黒褐	面口縁部ナデ、以下ヘラナデ。		内面黑色処理。
4	H 28 掘り方覆土	土師器 坏	[13.0]	-	(3.1)	雲母含む	良好	にぶい褐 黒褐	面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケク 面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナラ		口縁部 1/4 残存。 内面黒色処理。
5	覆土	土師器 坏	[15.9]	-	(4.5)	石英・長石含む	良好	にぶい黄 黒褐	面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。 面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。		破片。 内面黑色処理。
6	覆土	土師器 坏	[12.0]	-	(3.1)	精良	良好	褐灰	面□緑部ヨコナデ、体部ヘラケラ 面□緑部ヨコナデ後ミガキ。	(1)。	1/8 残存。
7	覆土	土師器 小型壺	[13.0]	-	(7.0)	石英・長石	良好	にぶい黄橙	面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケス 面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナラ		1/8 残存。
8	H 28 No. 4	土師器 高坏	-	15.1	(10.7)	石英・長石・雲母 含む	良好	明褐	面脚部ヘラケズリ、端部ヨコナラ 面脚部ユビオサエ、端部ヘラナラ		脚部残存。
Н-						1 **		1	// - ещие -///		1
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付埦	11.4	6.9	4.7	雲母含む	良好	にぶい黄橙 黒	面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナ 面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。	ア、底部回転糸切り後ナデ。	ほぼ完存。 酸化焔焼成。内面黒色処理。
H-		14 DU 1014		P / 77	- L	n/. 1	4- 4-1.	/ ₂ =m	- A ALDO		T4-11-10-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14-11-14
No 1	出土位置	種別、器種 灰釉陶器 碗	口径 (15.8)	底径	高さ 4.5	胎土 _{精良}	焼成 緊	色調 ^{褐灰}	番形、成・3 面ロクロナデ、底部ヘラケズリ。	整形、文様等の特徴	残存状況・備考 1/6残存。
	· 33	//人有面PM air 19年	(10.0)	(7.0)	4.0	THE .	正叔	TRUPC	面ロクロナデ。		1/072/11/0
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量器形、	成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	石製品 砥石	(8.6)	(5.7)	(4.1)	礫岩	-	-	336.4 全体に滑らかである	0	下半部欠損。
Н-	- 34										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・ 面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケス	整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2 · 19	須恵器 高盤	(21.1)	13.2	8.7	雲母含む	良好	黄灰	面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナ	ーデ。	口縁部 3/4 欠損。
2	No. 4	須恵器 高盤	[19.8]	-	(8.4)	白色粒・雲母含む	堅緻	灰	面口縁部ヨコナデ、底部ヘラケス 面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナ	ーデ。	口縁と脚部の先端欠損。
3	No.38	須恵器 高盤	[21.3]	-	(3.2)	石英・長石・雲母 含む	堅緻	灰白	面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケン 面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナ		1/2 残存。
4	No. 3	須恵器 長頸瓶	-	11.0	9.9	白色粒・雲母含む	良好	にぶい黄橙 橙	面摩滅。刺突列点あり。 面摩滅。		胴~底部残存。
5	No. 5	須恵器 坏	[13.9]	(8.5)	3.3	石英・長石含む	良好	にぶい黄橙	面口縁部ヨコナデ、体部ロクロ† 面口縁部ヨコナデ、以下ロクロ†		1/3 残存。 酸化焰焼成。
6	No.35	須恵器 坏	(11.8)	8.5	2.9	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黄灰	面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナ 面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナ		1/2 残存。
7	覆土	須恵器 坏	-	(9.0)	(2.9)	石英・長石	良好	灰白	面ロクロナデ、底部回転ヘラケン 面ロクロナデ。		底部 1/6 残存。 体部外面に墨書「朝」あり。
8	No. 1	土師器 坏	15.0	10.0	4.5	雲母含む	良好	橙	四二クロクク。 面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケク 面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後B		完存。 平底気味の丸底。内面に暗文あり。
9	No.15	土師器 坏	13.1	-	3.8	石英・長石・雲母	良好	橙	面口縁部ヨコナデ、体上部ユビオ	ナサエ、以下ヘラケズリ。	平放风味の丸飲。内面に暗又めり。 1/2残存。
10	No.30	土師器 坏	12.9	-	3.7	雲母含む	良好	明赤褐	面口縁部ヨコナデ、体上部ユビュ 面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケス		2/3 残存。
11		土師器 坏	13.2	_	(3.2)	雲母含む		橙	面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 面口縁部ヨコナデ、以下ユビオ+	ナエ、ヘラケズリ。	1/3残存。
No	No.32 出土位置	^{土助器 坏} 種別、器種	13.2 瓦当径		(3.2)	無土	焼成	色調	面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	整形、文様等の特徴	1/3 残存。 残存状況・備考
12	М-121E	瓦軒丸瓦	15.0	3.5	42.0	石英・長石・雲母合む	堅緻	灰黄	当面単弁5葉蓮華文、蓮子1+5 面ナデ、外周ケズリ、接合面のよ	5	元
No	出土位置	種別、器種	瓦当幅	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調		を形、文様等の特徴	# 文軒 凡 凡 B 202 c。 残存状況・備考
13	No. 6 · 12 · 16 · H-12 覆土	瓦 軒平瓦	(25.0)	4.2	(13.8)	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黒	面糸切り痕・ナデ、端部ヘラケン 面ナデ。	(1)。	破片。上野国分寺創建期Ⅱの右偏行唐草 文軒平瓦 001。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		整形、文様等の特徴	残存状況・備考
14	No.34	瓦丸瓦	40.3	17.2	1.8	石英・長石・雲母含む	堅緻	灰黄褐	面ナデ。 面布目痕、端部ヘラケズリ。		ほは完存。
15	No.34	瓦 丸瓦	38.5	21.5	1.7	石英・長石・雲母 含む	堅緻	褐灰	面布目痕・糸切り痕、端部ヘラケ 面ナデ。		完存。
16	No.40	瓦 丸瓦	38.2	14.5	1.2	石英・長石・雲母 含む	堅級	灰	面布目痕・糸切り痕、端部ヘラケ 面ナデ。	rズリ。 	完存。
17	No.41	瓦 丸瓦	(36.5)	18.0	1.7	石英・長石含む	堅緻	灰	面布目痕・糸切り痕、端部へラケ 面ナデ。	rズリ。	ほぼ完存。
18	No.25	瓦平瓦	39.9	29.0	1.8	石英・長石・雲母 含む	堅緻	黒褐	面布目痕・糸切り痕・ナデ、端音 面縄目タタキ・ナデ。	ぷ ヘラケズリ。	完存。
19	No.37	瓦平瓦	40.7	27.0	2.4	石英・長石・雲母含む	堅緻	灰	面布目痕・糸切り痕・ナデ・ケス 面縄目タタキ・ナデ。	ぐり、端部ヘラケズリ。	完存。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調		成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
20	No.31	銅製品片	(4.2)	(1.7)	(0.8)	銅	-	-	13.1 錫杖頭か。		杖頭部分か。
<u>H</u> -	- 35				_				<u> </u>		·
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・! 面口緑部ヨコナデ、体部ロクロナ	整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 8	須恵器 高台付埦	(11.3)	-	(5.1)	黒色粒含む	堅緻	灰オリーブ	自□縁部ヨコナデ、体部ロクロゥ 面□縁部ヨコナデ、以下ロクロゥ		口縁部 1/2、高台部欠損。 口縁部外・内面に煤の付着あり。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土.	須恵器 境	(12.9)	上上	(3.5)	白色粒・雲母含む	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
-	Aカマド	骸			(7.5)	石英・長石・雲母	良好		内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、胴上部ロクロナデ、以下ヘラケズリ。	口縁~胴部 1/4 残存。
3	覆土	RA.	[19.4]	-	(7.5)	含む	良好	黄橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	酸化焰焼成。
H -	· 36 出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	4.0	-	(2.6)	石英・長石	堅緻	黄灰	外面回転ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	口縁部欠損。 1/6 残存。
2	No. 3 · 4 ·	土師器 甕	21.5	6.2	34.3	雲母含む	良好	明褐	外面口縁部ヨコナデ後ユビオサエ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラナデ。	ほぼ完存。
Н-	5 · 37								内面口縁部ヨコナデ後ユビオサエ、以下ヘラナデ。	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 碗	(16.3)	8.1	5.5	黒色粒含む	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 外面に判読不明の墨書あり。
2	覆土	須恵器 高台付埦	(19.1)	8.8	7.7	石英・長石・雲母 含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラ切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。 酸化焰焼成。
3	No. 3	須恵器 坏	12.9	6.5	3.7	黒色粒含む	堅級	灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	ほぼ完存。
H-	· 38				l			1	Liminashing 11, Wiley all 1	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	須恵器 高台付碗	15.5	7.2	5.3	黒色粒含む	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。
2	覆土	須恵器 埦	(14.1)	(7.3)	3.2	黒色粒含む	堅緻	灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
3	No.18 · 36 · 38 · 39	須恵器 甕 転用硯	-	15.7	(1.9)	白色粒含む	堅緻	灰	外面ナデ、ユビオサエ。 内面ナデ。	底部のみ残存。
Н-	· 39	TAV 19 00			I				1 4M4 7 7 0	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1 · 2	土師質 坏	16.1	-	2.9	雲母含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体上部エビオサエ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体上部ヘラナデ。	1/2 残存。
	40									
	出土位置		口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	11.8	-	5.1	茶色粒・雲母含む	良好	橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	2/3 残存。
2	カマド覆土	土師器 坏	[12.8]	-	3.7	茶色粒・雲母含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ後ユビナデ、以下ヘラナデ。	1/3 残存。
3	覆土	土師器 坏	(17.3)	-	(5.4)	雲母含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/4 残存。
4	覆土	土師器 坏	(11.9)	-	(3.3)	雲母含む	良好	橙	外面口緑部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口緑部ヨコナデ、以下ナデ。	1/3 残存。
5	覆土	土師器 甕	[14.9]	-	(8.9)	石英・長石・雲母 含む	良好	赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	□縁~肩部 1/4 残存。
Ή-	· 41		1			-	l	1		
					-te- 34	n/s 1	11. 15	da TITO	77 TO THE TO THE TOTAL OF THE T	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
No 1	出土位置カマド覆土	種別、器種 須恵器 城	[12.8]	(8.0)	3.3	精良	焼成 堅緻	灰白	器形、成・整形、又様等の特徴 外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	残存状況・備考 1/6 残存。
									外面ロクロナデ、底部回転糸切り。	
1 2 H –	カマド覆土 覆土 - 42	須恵器 塊 土師器 甕	(12.8)	(8.0)	3.3 (6.0)	精良 白色粒・雲母含む	堅級 良好	灰白	外面ロクロナデ、底部回転条切り。 内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。
1 2 H - No	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置	類恵器 境 土師器 喪 種別、器種	(12.8) (19.3) 口径	(8.0)	3.3 (6.0) 高さ	精良 白色粒・雲母含む 胎土	堅級 良好 焼成	灰白 にぶい赤褐 色調	外面ロクロナデ、底部回転系切り。 内面ロクロナデ。 外面口線のココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考
1 2 H –	カマド覆土 覆土 - 42	須恵器 塊 土師器 甕	(12.8)	(8.0)	3.3 (6.0)	精良 白色粒・雲母含む	堅級 良好	灰白	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部エビナデ、体部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。 □縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「実存状況・備考 1/6 残存・酸化端坡或。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。
1 2 H - No	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置	類恵器 境 土師器 喪 種別、器種	(12.8) (19.3) 口径	(8.0)	3.3 (6.0) 高さ	精良 白色粒・雲母含む 胎土	堅級 良好 焼成	灰白 にぶい赤褐 色調	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部エピナデ、体部ヘラケズリ。 内面ロポココナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ後エピナデ、以下ヘラナデ。	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存。 酸化鉛焼成。
1 2 H - No 1	カマド覆土 覆土 - 42 出土位置 No. 1	須恵器 境 土師器 甕 種別、器種 須恵器 境	(12.8) (19.3) 口径 (13.5)	(8.0)	3.3 (6.0) 高さ (4.3)	精良 白色粒・紫母含む 胎土 白色粒・紫母	堅緻 良好 焼成 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 外面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部エピナデ、体部ヘラケズリ。 内面ココナデ。 外面口縁部ヨナデ、以下ハラケズリ。	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存。酸化熔坡或。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に刺送い明の墨書あり。
1 2 H - No 1	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6	須惠器 境 土師器 薨 種別、器種 須惠器 境 土師器 坏	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8)	(8.0)	33 (6.0) 高さ (4.3) 3.7	精良 白色粒・雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒・雲母含む	堅級 良好 焼成 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙	外面ロクロナデ、厳部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、体部ヘラケズリ。 内面コンナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面に縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケブ。 外面口縁部ヨコナデ、脱下のラケズリ。 外面口縁部ココナデ、脚上部ロクロナデ、以下エピナデ。	1/6 残存。 口禄部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・酸化硫ψ成。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に判読不明の墨書あり。 1/3 残存。
1 2 H - No 1 2 3 4	カマド覆土 寝土 - 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5	須恵器 境 土師器 甍 種別、器種 須恵器 境 土師器 坏 羽釜	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8) (18.1)	(8.0)	33 (6.0) 高さ (4.3) 3.7 (8.7)	精良 白色粒・紫母合む 胎土 白色粒・紫母 茶色粒・紫母合む 紫母合む	整数良好焼成良好良好良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 外面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクナデ。	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置	須恵器 境 土師器 斐 種別、器種 須恵器 境 土師器 坏 羽釜 羽釜	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8) (18.1) (21.5)	(8.0)	高さ (43) 37 (87) (95)	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母 来色粒・雲母合む 雲母合む 石英・長石合む	堅毅 良好 燒好 良好 良好 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、株部ヘラケズリ。 内面ロ縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、駅上部ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、開部のクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、開部のフロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・酸化協峻成。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に判験が明の墨書あり。 3 残存。 破片。 残存状況・備考
1 2 H - No 1 2 3 4 H -	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8	須惠器 境 土師器 甍 種別、器種 須惠器 境 土師器 坏 羽釜 羽釜	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8) (18.1) (21.5)	底径 (64)	33 (60) 高さ (43) 3.7 (87) (95)	精良 白色粒・雲母合む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒・雲母合む 雲母合む 石类・長石合む	堅毅 良好 焼成 良好 良好 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口線部ヨナデ、以下ヘラケズリ。 円面口線部ヨナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨナデ、以下ハケナブ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨカナデ、以下ヘラケズリ。 外面口線部コナデ、以下・フサデ。 外面口線部コカデ、以下ロクロナデ。 外面口線部コカナデ、関部・フサイン。 特面口線部コカナデ、関部・フサイン。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部コカデ、関下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口線部コカデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。	1/6 残存。 □縁部1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存。酸化始娩成。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に対談水明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置	須恵器 境 土師器 斐 種別、器種 須恵器 境 土師器 坏 羽釜 羽釜	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8) (18.1) (21.5)	底径 (64)	高さ (43) 37 (87) (95)	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母 来色粒・雲母合む 雲母合む 石英・長石合む	堅毅 良好 燒好 良好 良好 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 外面ロ谷部コナデ、以下ハクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、株部ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、は下ハラケズリ。 内面口縁部コカナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部コカナデ、脱下ハラケズリ。 内面口縁部コカナデ、脱下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、脱下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、脱部のクロナア・以下ユビナデ。 内面口縁部コカナデ、脱部ロクロナア・スビナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口は総部コカナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面ロクロナデ。 内面ロクロナデ、カー	1/6 残存。 口縁部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・酸化協峻成。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に判験が明の墨書あり。 3 残存。 破片。 残存状況・備考
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No 1	カマド覆土 覆土 - 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置 覆土	須惠器 塊土師器 要 種別、器種 須惠器 塊土師器 坏 羽釜 種別、器種 有獨合付鉢 須惠器	(12.8) (19.3) 口径 (13.5) (12.8) (18.1) (21.5)	底径 (64) - - - - - -	高さ (4.3) 3.7 (8.7) (9.5) 高さ (4.5)	精良 白色粒・素母合む 胎土 白色粒・素母 茶色粒・素母含む 素母含む 石美・長石合む 胎土 雲母合む	堅徽 良好 焼成 良好 良好 良好 良好	灰白 にぶい赤褐	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロ段部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハラナブ。 外面口線部ココナデ、以下ハラナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 外面口線部ココナデ、関係ロクロナデ、以下エピナデ。 内面口線部ココナデ、関係のラケズリ。 内面口線部ココナデ、関係ロクロナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、エピナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、エピナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口線部コフナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口線部コフナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。	1/6 残存。 □経部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 発存状況・備考 1/6 残存・履化破域。 内面にペンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に判該不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 残存状況・備考 □経部破片。
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No 1 2 3 No	カマド覆土 覆土 - 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置 覆土 覆土 覆土	須惠器 塊土師器 要 種別、器種 須惠器 塊土師器 坏羽釜 羽釜 種別、器種 有錫台付終 須惠器 高台付鄉 羽鍪	(128) (193) (193) (128) (128) (128) (128) (128) (128) (127) (178) 長さ	(80)	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ	精良 自色粒・素母合む 胎土 自色粒・素母 茶色粒・素母合む 素母合む 石英・長石合む 素母合む 石英・長石合む 素母合む	堅報 良好 焼成 良好 良好 良好 良好 良好 良好 臭好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 ・ (と ない) 黄橙	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面口段部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハウナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口線部ココナデ、以下ハラナア。 外面口線部ココナデ、以下ハラナア。 外面口線部ココナデ、以下ハウロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、関部ロクロナデ、以下よビナデ。 内面口線部ココナデ、関係のラケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口段部ココナデ、以下ロクロナデ、カ面ロなコナデ、以下ロクロナデ。 別面口がコナデ、以下ロクロナデ。 別面口が第コナデ、以下ロクロナデ。 別面口が第コナデ、以下ロクロナデ。 別面口が第コナデ、以下ロクロナデ。 別面口が第コナデ、以下ロクロナデ。 別面口が第コナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	1/6 残存。 日韓部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 養存状況・備考 1/6 残存。
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No 1 2 3 No 4	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 置土 電土 出土位置	須惠器 塊土師器 要 種別、器種 須恵器 塊土師器 坏羽釜 羽釜 種別、器種 有獨合付鉢 須恵器 高台付塊 羽釜	(128) (193) 口径 (135) (128) (181) (215) 口径 (320) - (178)	底径 (64) - - - - (11.2)	33 (60) 高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (45)	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母 茶色粒・雲母合む 石英・長石合む 胎士 石英・長石合む 雲母合む 石英・長石合む	堅級 良好 焼成 良好 良好 良好 良好 良好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 ・ 大変 世	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口検部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口検部ココナデ、以下ヘクナデ。 外面口検部ヨコナデ、以下ヘクナデ。 外面口検部ヨコナデ、以下ヘクナデ。 外面口検部ヨコナデ、以下ヘクロナデ、以下エピナデ。 内面口検部ヨコナデ、関部ロクロナデ。 外面口検部ヨコナデ、関部ロクロナデ。 特面口検部ヨコナデ、関部ロクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、関でクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面ロクロナデ、エビナデ。 外面ロクロナデ、エビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口検部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口検部ココナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H -	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 覆土 世土位置	須惠器 境 土師器 整 種別、器種 須惠器 境 土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有獨合付鉢 須魚皆境 羽釜	(128) (193) (193) (135) (128) (125) (215) (215) (178) (178) (178) (178) (172) (122) (122) (122) (123) (123) (123) (123) (123) (123) (123	底径 (6.4) - - - (11.2) - 幅 (7.0)	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ 20	精良 自色粒・素母合む 胎士 白色粒・素母 茶色粒・素母含む 素母合む 石英・長石合む 胎士 素母合む 石英・長石合む 素母合む 石英・長石合む 素母合む 石英・長石合む 素母合む 石英・長石合む	堅報 良好 焼成 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 セ にぶい黄橙 黒褐 佐 にぶい黄橙 地次 色調 灰黄 ・ にぶい黄橙 地次 ・ にぶい黄橙 地次 ・ にぶい黄橙 地次 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄色 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 ・ にぶい黄樹 <tr< td=""><td>外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロ検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、限上部ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、膜にカロナデ、以下ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、関係ロクロナデ。 ス・整形、文様等の特徴 外面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口やア・スビナデ。 外面ロクロナデ、スドロクロナデ、スピナプ。 外面口を部ココナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 外面のフロナデ、スドロクロナデ。 メモロと対策部ココナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部ココナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部コカーデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部コカーデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目棋。 凸面ナデ。</td><td>1/6 残存。 □経部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原性(始坡成) 内面にベンガラ付着。溶 のに使用か。 外面に判惑不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 「破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 を 1 日軽部破片。</td></tr<>	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロ検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口検部ヨコナデ、限上部ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、膜にカロナデ、以下ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、関係ロクロナデ。 ス・整形、文様等の特徴 外面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口検部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口やア・スビナデ。 外面ロクロナデ、スドロクロナデ、スピナプ。 外面口を部ココナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 外面のフロナデ、スドロクロナデ。 メモロと対策部ココナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部ココナデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部コカーデ、以下ロクロナデ。 メモロに検部コカーデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目棋。 凸面ナデ。	1/6 残存。 □経部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原性(始坡成) 内面にベンガラ付着。溶 のに使用か。 外面に判惑不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 「破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 を 1 日軽部破片。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H -	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 置土 電土 出土位置	須惠器 塊土師器 軣 種別、器種 須惠器 塊土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有易合付鉢 須惠器 高合付塊 羽釜	(128) (193) (193) (128) (128) (128) (128) (128) (128) (127) (178) 長さ	(80)	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ	精良 自色粒・素母合む 胎士 自色粒・素母 茶色粒・素母含む 素母含む 石美・長石含む 胎士 素母含む 石美・長石含む 素母含む 石美・長石含む 素母含む 石美・長石含む 素母合む 新士 大石含む 素母合む 石美・長石合む 素母合む 一名美・長石合む 上 素母合む 一名美・長石合む 上 素母合む 一名美・長石合む 上 大石会 上 大石会 上 大 大 大石 大 大 大 大 大石 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	堅報 良好 燒好 良好 良好 良好 良好 良好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 色調 灰黄 梅 にぶい黄橙 黒褐 ター 佐瀬 灰黄 佐 にぶい黄橙 梅灰 色調 灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロ段部ヨコナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハクケア。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、保部ヘラケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクナデ。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。以下エビナデ。 内面口線部コカナデ、財部ロクロナア。 スピースピナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 内面口を部コカナデ、以下ロクロナデ、カーエビナデ。 内面口を部コカナデ、以下ロクロナデ。 内面口を部コカナデ、以下ロクロナデ。 関語・日線・コカナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 門面右目底。 出面・ア。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面に根部コカナデ、以下ロクロナデ、底部回転・カーボーは、大様等の特徴	1/6 残存。 日禄部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・履化破壊。 内面にベンガラ付着。溶くのに使用か。 外面に判認不明の墨書あり。 1/3 残存・ 破片。 成件。 成時、 高台部 1/4 残存。 破片。 残存状況・備考 成時、 成時、 残存状況・備考
1 2 H - No 1 2 3 4 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置 覆土 覆土 覆土 セナ位置 では、 44 出土位置 No. 12	類惠器 境土師器 要 種別、器種 類惠器 坊 工師器 好 羽釜 和	(128)	底径 (64) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69)	精良 自色粒・素母合む 胎土 自色粒・素母 茶色粒・素母合む 素母合む 石英・長石合む 器母合む 石英・長石合む 素母合む 品土 素母合む 一名美・長石合む に表石のも に表石のも に表石のも に表石のも にまるしまる。 にまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまるしまる。 にはまる。 にな。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな	壓轍 負好 燒好 負好 負好 臭好 臭好 臭好 臭好 臭好 臭好 臭好 臭好 臭好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面口線部ヨナデ、以下ヘラケズリ。 円面山線部ヨナデ、以下ヘクケズリ。 円面山線部ヨナデ、以下ヘクケズリ。 円面山線部ヨナデ、以下ハクケズリ。 内面山線部ヨナデ、以下ヘクケズリ。 内面山線部ヨナデ、以下ヘクケズリ。 内面山線部ヨナデ、以下ヘクケズリ。 内面山線部ヨカナデ、以下ヘクナデ。 外面山線部ヨカナデ、以下ヘクサデ。 外面山線部ヨカナデ、以下・クカナデ。 外面山線部ヨカナデ、関部ロクロナデ。 外面山線部ヨカナデ、関部ロクロナデ。 大藤一般部の大変にある。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面山線部ヨカナデ、以下ロクロナデ。 大藤一般部の大変にある。 本部の大変にある。 本部の大変にある。 本部の大変にある。 本語の大変にある。 本語の大変にある	1/6 残存。 □経部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原性(始坡成) 内面にベンガラ付着。溶 のに使用か。 外面に判惑不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 「破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 破片。 「残存状況・備考 1/4 残存。 を 1 日軽部破片。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 2 3 No 4 H - No 1 1 2 2 3 No 4 H - No 1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 覆土 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	類惠器 境土師器 整種 類忠器 境土師器 环 羽釜 羽釜 種別、器種 土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有房台付路 資金 內分 器種 瓦平瓦 種別、器種 東京 中域 獨自中境 須重中 東京 東京 中域 東京	(128)	底径 (6.4) - - - (11.2) - 幅 (7.0) 底径	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69) 57	精良 白色粒・雲母合む 胎士 白色粒・雲母合む 素色粒・雲母合む 不英・長石合む お出土 雲母合む 石英・長石合む 素母合む 石英・長石合む 素母合む お出土 雲母合む 胎土 雲母合む 胎土	堅報 食好 燒好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 を にぶい黄橙 黒褐 ・ にぶい黄橙 黒褐 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハウナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、後にからケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、後にからケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハウナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ハウナデ。 外面口縁部ヨコナデ、限にカウロナデ、以下エピナデ。 内面口縁部ヨコナデ、限部のウロナデ、以下エピナデ。 内面口縁部ヨコナデ、関部のウロナデ、スピナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、ユピナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、ユピナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、ユピナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部コナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目棋。 温斯、成・整形、文様等の特徴 四面右目棋。 出口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。	1/6 残存。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 3	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 世土 で置土 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	須惠器 境 土師器 整 種別、器種 土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有獨合付跡 須息皆境 取 天平瓦	(128)	底径 (6.4) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69) 57 (55)	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母合む 素色粒・雲母合む 不英・長石合む お出土 雲母合む 石英・長石合む 紫母合む 石英・長石合む 紫母合む 新士 雲母合む 胎土 雲母合む 胎土 雲母合む ままれ、自色	堅報 食好 焼成 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 を にぶい黄橙 黒褐 を 自調 灰黄 にぶい黄橙 黒褐 た黄 にぶい黄橙	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面ロ段部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、展上部ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、スピナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、ユビナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口は総部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面ロクロナデ。 メートの、 ・整形、成・整形、文様等の特徴 四面が目報。 四面が目報。 四面が目報。 四面が目報。 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、以下ロクロナデ。 成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部的文もり。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 No 1 3 No 1 2 3 No 1 3 No 1 2 3 No 1 No 1	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 出土位置 では、	項惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 境土師器 坏 羽釜 羽釜 羽釜 種別、器種 有獨有世界 現色 時 現 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	(128)	底径 (6.4) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69) 57 (55)	精良 自色粒・素母合む 胎士 自色粒・素母合む 素色粒・素母合む 不変母合む 石英・長石合む 胎士 素母合む 石英・長石合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む メーター・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	堅報 食好 燒好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食好	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 を にぶい黄橙 黒褐 ・ にぶい黄橙 黒褐 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙 ・ にぶい黄橙	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面には第ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、関邦のクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ、大様等の特徴 四面右目棋。 四曲が一部の大学、大様等の特徴 四面右目棋。 四曲が一部の大学、以下ロクロナデ、底部回転が出りたナデ、以下ロクロナデ、成部回大学の特徴 四面右目棋。 四面に縁部ココナデ、以下ロクロナデ、底部回転が出りたナデ、以下ロクロナデ。成部回本のは一部に対していた。 第四日縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転が出りたナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回本がしりたナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部で入り、以下ロクロナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。 □緑部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原 (他域 成。 内面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面に判談不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 「破片。 「ない」 「様考 1/4 残存。 破片。 「ない」 「様子状況・備考 1/4 残存。 ない」 「様子状況・備考 1/4 残存。 ない」 「はい」 「様子状況・備考 1/4 成存。 できない」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「は
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 No 4 No	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 セナ位置 覆土 出土位置 下で、1 の、1 の、1 の、2 No.12 No.12 No.12 No.10 出土位置	須惠器 境 土師器 整 種別、器種 土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有獨合付跡 須息皆境 取 天平瓦	(128)	底径 (6.4) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69) 57 (55)	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母合む 素色粒・雲母合む 不英・長石合む お出土 雲母合む 石英・長石合む 紫母合む 石英・長石合む 紫母合む 新士 雲母合む 胎土 雲母合む 胎土 雲母合む ままれ、自色	堅報 食好 焼成 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 を にぶい黄橙 黒褐 を 自調 灰黄 にぶい黄橙 黒褐 た黄 にぶい黄橙	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面ロ段部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハケナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、展上部ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、スピナデ。 内面口線部ヨコナデ、関ルロクロナデ、ユビナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口は総部ココナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面ロクロナデ。 メートの、 ・整形、成・整形、文様等の特徴 四面が目報。 四面が目報。 四面が目報。 四面が目報。 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、成・整形、文様等の特徴 四面が目れ、以下ロクロナデ。 成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部回家が日から、 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ、成部的文もり。 外面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部ココナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。 日禄部 1/2 残存。 照部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・酸化熔坡或。 内面にペンガラ付着。落くのに使用か。 外面にペンガラ付着。落くのに使用か。 外面に利波い明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 破片。 減分・備考 口縁部破片。 高台部 1/4 残存。 破片。 残存状況・備考 口縁部破片。 八ラ文字 「三」あり。 残存状況・備考 口縁部 1/4 残存。 日縁部 1/4 高台部残存。酸化熔模成。 内面黑色処理。 口縁部 1/4 残存。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 4 H - H - No 4 H - H - No 4	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 出土位置 では、	項惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 境土師器 坏 羽釜 羽釜 羽釜 種別、器種 有獨有世界 現色 時 現 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	(128)	底径 (6.4) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (45) (49) (78) 厚さ (69) 57 (55)	精良 自色粒・素母合む 胎士 自色粒・素母合む 素色粒・素母合む 不変母合む 石英・長石合む 胎士 素母合む 石英・長石合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む 素母合む メーター・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	堅報 食好 焼成 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食好 食 食	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 を にぶい黄橙 黒褐 を 自調 灰黄 にぶい黄橙 黒褐 た黄 にぶい黄橙	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面には第ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、関邦のクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ、大様等の特徴 四面右目棋。 四曲が一部の大学、大様等の特徴 四面右目棋。 四曲が一部の大学、以下ロクロナデ、底部回転が出りたナデ、以下ロクロナデ、成部回大学の特徴 四面右目棋。 四面に縁部ココナデ、以下ロクロナデ、底部回転が出りたナデ、以下ロクロナデ。成部回本のは一部に対していた。 第四日縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転が出りたナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回本がしりたナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部で入り、以下ロクロナデ。内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。 □緑部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原 (他域 成。 内面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面にペンガラ付着。 溶 のに使用か。 外面に判談不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。 「破片。 「ない」 「様考 1/4 残存。 破片。 「ない」 「様子状況・備考 1/4 残存。 ない」 「様子状況・備考 1/4 残存。 ない」 「はい」 「様子状況・備考 1/4 成存。 できない」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「はい」 「は
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 4 H - H - No 4 H - H - No 4	カマド覆土 覆土 - 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 - 43 出土位置 覆土 覆土 セ土位置 変土 出土位置 下の.12 No. 2 No.10 出土位置 覆土 ・ 45	須惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 境 土師器 坏 羽釜 羽釜 和別、器種 有夠合付終 須惠器 高台付終 羽差 種別、器種 別、器種 須惠器 高台中境 現意器 高台中境 現意器 高台中境 現意器 高台中境 現意器 高台中境 現意器	□径 (128) (193) (128) (135) (128) (215) (215) (178) 長さ (122) (168) (136) (187) 全長	底径 (64) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (49) (78) 厚さ (69) 5.7 (55)	精良 白色粒・雲母合む 胎士 白色粒・雲母合む 素母合む 石美・長石合む 胎士 雲母合む 石美・長石合む 胎士 雲母合む 格士 石美・長石合む 素母合む お明合む お明合む お明合む お明合む お明合む お明合む ない	整報	灰白 にぶい赤褐 色調 灰質褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 とぶい黄橙 根灰 色調 皮黄 とぶい黄橙 根灰 の大	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ログロナデ、成下のラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、脱毛ロクロナデ、以下エビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、脱毛ロクロナデ、以下エビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、脱形のフロナデ。 大阪・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面ロ母部ヨコナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 内面ロ母部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 大阪ロクロナデ、スピロクロナデ。 大阪に取る日本の大学の特徴 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面右目纸。 四面に縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後ナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部端文あり。 外面には縁ココナデ、以下ロクロナデ。 本語を表示した。 本語、成・整形、文様等の特徴 97 四落有楽儀。	1/6 残存。 日禄部 1/2 残存。 京部はかなり崩れたコの字状。 受存状況・備考 1/6 残存・履化破域。 内面にベンガラ付着。溶 (のに使用か。 外面に判該不明の墨書あり。 1/3 残存・ 破片。 残存状況・備考 口禄部破片。 高台部 1/4 残存。 破片。 残存状況・備考 口禄部破片。 百日禄年 日禄年 日禄春日 日禄年 日禄日 日春日 日春日
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 1 2 1 3 No 4 H - No 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・ 43 出土位置 覆土 覆土	須惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 坊 土師器 坏 羽釜 羽釜 和別、器種 有獨白付鉢 須惠器 (百付均塊) 羽釜 種別、器種 東平瓦 種別、器種 須惠器 (百付均塊) 羽釜	□径 (128) (193) (128) (135) (128) (215) (215) (178) 長さ (122) (168) (136) (187) 全長	底径 (64) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (49) (78) 厚さ (69) 57 (55) 厚さ	精良 自色粒・雲母合む 胎士 自色粒・雲母 茶色粒・雲母合む 不美母合む 石英・長石合む	医椴 自好 燒好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 ・ (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (を) 東 (本の) 東	外面ロクロナデ、成部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面は一般部コカデ、以下ハケケデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部コカデ、以下ハケケデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクナズリ。 内面口線部コカナデ、以下カウロナデ、以下エビナデ。 内面口線部コカナデ、関ボロクロナデ、以下エビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 外面ロ科部コカナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目棋。 凸面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、底部回転が切り。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転があり。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転のカーデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転のカーデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転があり。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転があり。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転のカーデ、以下ロクロナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部であり。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。 □経部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 「残存状況・備考 1/6 残存 原化焼焼成。 内面にベンガラ付着。溶 (今のに使用か。) 外面に判惑不明の墨書あり。 1/3 残存。 破片。
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 1 2 1 3 No 4 H - No 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	カマド覆土 覆土 ・ 42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・ 43 出土位置 覆土 覆土 では、	須惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 種別、器種 有易合付終 須惠器 種別、器種 和別、器種 和別、器種 別、器種 別、器種 別、器種 別、器種 別、器種 別、器種 別、器種 別、器種	□径 (128) (193) (128) (135) (128) (215) (215) (178) 長さ (122) (168) (136) (187) 全長	底径 (64) 	高さ (43) 37 (87) (95) 高さ (49) (78) 厚さ (69) 57 (55) 厚さ	精良 白色粒・素母合む 胎士 白色粒・素母合む 素母合む 石英・長石合む 紫母合む 石英・長石合む	医椴 自好 燒好 食好 食好 食好 食好 食好 食好 食	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 橙 にぶい黄橙 黒褐 ・ (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (本の) 東 (を) 東 (本の) 東	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 外面には総ココナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、株部ヘラケズリ。 内面口線部コカナデ、投下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、投下ハクケズリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクケスリ。 内面口線部コカナデ、以下ハクナア。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口線部コカナデ、財際のクロナア・以下ユビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、エビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ、スビナデ。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪・整形、文様等の特徴 四面布目痕。 と面ナデ。以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切りを対す。 外面口線部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切りを対す。 大阪には総部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切りを対す。 大阪には総部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切りを対す。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切りを対す。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。大阪に対するり。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。大阪に対するり。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。大阪に対するり。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。大阪に対するり。 大阪工候部コカナデ、以下ロクロナデ。大阪に対するが、大様等の特徴 出版が、大様等の特徴 出版が、大様等の特徴 出版が、大様等の特徴	1/6 残存。 日禄部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 残存状況・備考 1/6 残存・原心を増成。 内面にペグライオを、溶々のに使用か。 外面に刺惑不明の墨書あり。 1/3 残存・ 破片。 養存状況・備考 口禄部破片。 高台部 1/4 残存・ 破片。 大方文字「三」あり。 養存状況・備考 口禄部 1/4 残存・ 成件。 大方式況・備考 口禄部 1/4 残存・ 後月・ 八方文字 「三」あり。 養存状況・備考 日禄部 1/4 残存・ 残存・ 八方文字 「三」あり。 養存状況・備考 日禄部 1/4 残存・ 養存状況・備考 ほほぞ存・
1 2 H - No 1 2 3 No 4 H - No 1 1 2 1 1 H - No 1 1 H - H - H - No 1 1 H - H - H - H - H - H - H - H - H -	カマド覆土 覆土 ・42 出土位置 No. 1 No. 6 No. 5 No. 8 ・43 出土位置 覆土 覆土 型土 出土位置 では、・44 出土位置 No. 12 No. 2 No. 10 出土位置 大い。 45 出土位置 では、・45 い。 6 ・46	須惠器 境土師器 東 種別、器種 須惠器 城 土師器 坏 羽釜 羽釜 種別、器種 有夠合付錄 羽金器 高台付錄 羽金器 高台/東 須惠/中境 現金/中境 現金/中域 現金/中域	(128)	底径 (64) (112) (7.0) 底径 - 68 - 幅 18	高さ (43) (43) (43) (45) (49) (78) 厚さ (69) 57 (55) 厚さ (55)	精良 白色粒・雲母合む 胎土 白色粒・雲母合む 素母合む 石美・長石合む 紫母合む 石美・長石合む 紫母合む 石美・長石合む 紫母合む 胎土 二百色と ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	医缎 自好 烷成 自身 好 自身 好 自身 好 自身 经	灰白 にぶい赤褐 色調 灰黄褐 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 灰黄 色調 原 色調 原 色調 日本	外面ロクロナデ、旅部回転糸切り。 内面ロクロナデ、成下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、体部ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コカナデ、脱ボロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部コカナデ、脱ボロクロナデ、以下ユビナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ、スピナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ、ユビナデ。 内面ロ母部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪・整形、文様等の特徴 四面右目纸。 出面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 成部ロカナデ、以下ロクロナデ。 大阪口は縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 成部ロを部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪口は縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪口に縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪口は縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪には一大で、大阪にのないた。 第形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 大阪にないたが、大様等の特徴 第一段にないたが、大様等の特徴 第一段にないたが、大様等の特徴 第一段にないたが、大阪・整形、大様等の特徴 外面ログロナデ。 内面ログロナデ。 内面ロクロナデ。	1/6 残存。 日禄部 1/2 残存。 頭部はかなり崩れたコの字状。 養存状況・備考 1/6 残存・履化焼破。 内面にベンサラ付着。溶・のに使用か。 外面に料該不明の墨書あり。 1/3 残存・ 破片。 養存状況・備考 口禄部破片。 高台部 1/4 残存。 破片。 大字状況・備考 日禄部は1/4 残存。 茂存状況・備考 日禄部は1/4 残存。 茂存状況・備考 日禄部は1/4 残存。 茂存状況・備考

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	土師器 坏	[13.9]	-	(4.1)	石英・長石・雲母 含む	良好	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/4 残存。
Н-	- 47									
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	[14.2]	-	(3.7)	雲母含む	良好	にぶい赤褐	内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/4 残存。
2	覆土	土師器 坏	12.0	9.0	3.7	雲母含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	底部 1/2 欠損。
H-	- 48									
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 短頭壺	[10.6]	-	(8.1)	黒色粒	良好	灰白	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	1/6 残存。
2	覆土	土師器 鉢	[22.9]	-	(7.0)	雲母含む	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	□縁部 1/5 残存。
3	覆土	土師器 小型壺	(9.8)	-	(6.3)	赤色粒	良好	橙 赤橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	口縁~胴部上位 1/8 残存。
4	No. 1	土師器 鉢	19.7	-	10.6	石英・長石・雲母 含む	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	ほは完存。
Н-	- 49		l				<u> </u>	1	7,1	
	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況·備考
1	覆土	須恵器 坏	[13.0]	(8.0)	(4.2)	黒色粒・雲母含む	堅緻	黄灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	□縁部 1/4 残存。
2	覆土	須恵器 坏	(13.6)	(7.4)	4.2	黒色粒含む	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。
3	覆土	須恵器 甕	[21.9]	-	(11.2)	雲母含む	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁~肩部 1/4 残存。
4	覆土	土師器 坏	(11.7)	_	(3.0)	石英・長石	良好	にぶい橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。	□縁部 1/8 残存。
-									内面ヨコナデ、ユビナデ。 外面口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ。	
5	覆土	土師器 坏	(11.8)	-	(2.8)	赤色粒	良好	にぶい橙	内面ヨコナデ。	口禄 1/6 残存。
	- 52	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	МТ. IZE	須恵器 蓋	山田	- 丛庄	(2.2)	小石含む	堅緻	灰	外面摘み部ヨコナデ、天井部へラナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
2		須恵器 坏	13.1	7.8	3.5	白色粒含む	堅緻	灰黄	内面ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	摘み径 3.4cm。 完存。
-	No. 1								内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。	
3	No. 3	須恵器 坏	11.8	6.6	4.2	白・黒色粒含む	堅緻	灰黄	内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。
4	No. 5	須恵器 坏	12.2	6.5	3.9	白・黒色粒、雲母含む	堅緻	黄灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ後ユビナデ。	ほは完存。
5	No. 6	須恵器 坏	12.7	7.8	3.8	小石含む	堅緻	灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、体下部ユビナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。
6	貯蔵穴覆土	土師器 甕	(17.0)	-	(5.2)	石英・長石・雲母 含む	良好	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ・ユビナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ・ヘラナデ。	口縁~胴部上位 1/8 残存。
Н-	- 53									
	山上/六里	TACOU DO TAC				B/s 1	1.1 15	da -m		TR-1-150m 44-44
No	山工四回	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
No 1	漫土	S 字状口縁 台付甕	[14.0]	底径	高さ (16.9)	胎工 雲母含む	良好	暗褐 明褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	残存状况・偏考 □縁~胴部 1/4 残存。
		S字状口縁		底径 - -				暗褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。	
1 2	覆土 覆土 - 54	S字状口線 台付甕 S字状口線 台付甕		底径	(16.9)	雲母含む	良好	暗褐 明褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。	口禄~胴部 1/4 残存。
1 2	双 土	S字状□縁 台付臺 S字状□縁 台付臺		底径	(16.9)	雲母含む 雲母含む 胎土	良好	略褐 明褐 黑褐 略褐 色調 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	ロ禄〜胴部 1/4 残存。 胴部 1/3 〜台部 1/4 残存。 残存状況・備考
1 2 H-	覆土 覆土 - 54	S字状口縁 台付甕 S字状口縁 台付甕	(14.0)	-	(16.9)	雲母含む 雲母含む	良好良好	暗褐 明褐 黒褐 略褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	口禄~胴部 1/4 残存。 胴部 1/3 ~台部 1/4 残存。
1 2 H - No	覆土 覆土 - 54 出土位置	S字状□縁 台付臺 S字状□縁 台付臺	(14.0)	-	(16.9) (12.9) 高さ	雲母含む 雲母含む 胎土	良好良好	略褐 明褐 黑褐 略褐 色調 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。	ロ禄〜胴部 1/4 残存。 胴部 1/3 〜台部 1/4 残存。 残存状況・備考
1 2 H - No 1 2 H -	覆土麦土54出土位置覆土覆土麦土- 55	S字状口标 合作第 S字状口标 合作第 基種別、器種 土師器 坏 土師器 坏	(14.0) - 口径 (12.0) (12.0)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6	雲母含む 雲母含む 胎士 白色粒・雲母 茶色粒含む	良好良好	略場明 明 問 問 問 問 問 問 問 の で が し る の し る し る し る し る し る し る し る し る し	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面サデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面コオテア、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	口禄~胴部 1/4 残存。 阴部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状况,備考 1/8 残存。
1 2 H - No 1 2 H - No	覆土覆土54出土位置覆土覆土一55出土位置	S字状口标 合作第 S字状口标 合作第 種別、器種 土師器 坏 土師器 坏	(14.0) - 口径 (12.0) (12.0)	-	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6	雲母含む 雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒含む	良好 良好 焼成 良好	略場明 期 思 略 色 調 灰 黄 樹 色 間	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 内面ロ縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トテ。	口縁~胴部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。
1 2 H - No 1 2 H - No 1	関土関土- 54出土位置関土関土で土で土で土で土で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工で工<td>S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 種別、器種 土師器 坏 土師器 坏</td><td>(140)</td><td>底径</td><td>(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6</td><td>雲母含む 雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒含む 胎土 精真</td><td>良好 良好 焼成 良好 良好</td><td>略褐馬馬屬 医</td><td>外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、体部へカケズリ。 内面コナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トテ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。</td><td>□禄~嗣部 1/4 残存。 謝部 1/3 ~台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □経部 1/2 欠損。</td>	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 種別、器種 土師器 坏 土師器 坏	(140)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6	雲母含む 雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒含む 胎土 精真	良好 良好 焼成 良好 良好	略褐馬馬屬 医	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、体部へカケズリ。 内面コナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トテ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 謝部 1/3 ~台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □経部 1/2 欠損。
1 2 H - No 1 2 H - No	覆土覆土54出土位置覆土覆土一55出土位置	S字状口标 合作第 S字状口标 合作第 種別、器種 土師器 坏 土師器 坏	(14.0) - 口径 (12.0) (12.0)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6	雲母含む 雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒含む	良好 良好 焼成 良好	略場明 期 思 略 色 調 灰 黄 樹 色 間	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナテ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面目は部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口線部ヨコナデ、以下トチ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口線部ココナデ、以下トテックメリ。	口禄~嗣部 1/4 残存。 阴部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状况,備考 1/8 残存。
1 2 H - No 1 2 H - No 1 4 H -	 覆土 7 7 7 8 7 7 8 7 8 7 8 9 10 10	S字状口禄 台传完 S字状口禄 台传完 種別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	(14.0)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7)	雲母含む 雲母含む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒含む 胎土 精食 雲母含む	自好 良好 烷成 良好 良好 良好	略稱 明報 開報 医软髓 医软髓 医黄褐 医黄褐 医黄褐 医二甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面サデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 内面ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ロ縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下・フケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下・フケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下・フケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下・フケズリ。	口禄一嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~台部 1/4 残存。 残存状况·備考 1/8 残存。 1/3 残存。 戊存状况·備考 1/4 残存。 1/4 残存。
1 2 H-No 1 2 H-No No 1 2 H-No No	 覆土 で変土 ・54 出土位置 覆土 で支土 である。 である。 では、 かマド電土 ・56 出土位置 	S字状口禄 台付完 S字状口禄 台付完 基別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	(14.0)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7)	雲母合む 雲母合む 胎土 自色粒・雲母 株色粒合む 胎土 精良 雲母合む	良好 良好 焼成 良好 良好 良好	略稱 明報 明報 巴朗 医黄褐 色調 明赤褐 色調 电多级 电影 电影 医克格 电调 电影 医克格 电调 电影 医克格 电调 电极 电阻	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面に縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 内面コカデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部ロケロナデ、成が同転糸切り。	口禄~順部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。
1 2 H - No 1 1 2 H - No 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	 複土 - 54 出土位置 複土 - 55 出土位置 複土 カマド複土 - 56 出土位置 No. 2 	S字状口縁 合付完 S字状口縁 合付完 基準別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	口径 (120) (120) (125) (256) 口径 147	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6 高さ (21.7)	雲母含む 紫母含む 胎土 白色粒・紫母 茶色粒含む 胎土 精良 紫母含む 胎土	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	略福 明報 日本	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。 外面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。
1 2 H-No 1 2 H-No No 1 2 H-No No	 覆土 で変土 ・54 出土位置 覆土 で支土 である。 である。 では、 かマド電土 ・56 出土位置 	S字状口禄 台付完 S字状口禄 台付完 基別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	(14.0)	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7)	 要得合む 整土 自色粒・雲母 茶色粒合む 胎土 精良 雲母合む 胎土 無合む 無色粒・雲母合む 	良好 良好 焼成 良好 良好 良好	略稱 明報 明報 巴朗 医黄褐 色調 明赤褐 色調 电多级 电影 电影 医克格 电调 电影 医克格 电调 电影 医克格 电调 电极 电阻	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面上線部ヨコナデ、以下ハウメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 別面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 別面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 別面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ。	口禄~胴部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 残存状況・備考
1 2 H - No 1 1 2 H - No 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	 複土 - 54 出土位置 複土 - 55 出土位置 複土 カマド複土 - 56 出土位置 No. 2 	S字状口縁 合付完 S字状口縁 合付完 基準別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	口径 (120) (120) (125) (256) 口径 147	底径	(16.9) (12.9) 高さ (3.7) 4.6 高さ (21.7)	雲母含む 紫母含む 胎土 白色粒・紫母 茶色粒含む 胎土 精良 紫母含む 胎土	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	略福 明報 開報 日本	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面ナデ。 粉面ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ロは部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下トテット 監形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下トプレクロナデ、旅前回転条切り。 内面口縁部ココナデ、体部ロクロナデ、旅前回転条切り。 内面口縁部ココナデ、体部ロクロナデ、旅前回転条切り。 外面口縁部ココナデ、体部ロクロナデ、旅前回転条切り。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。
1 2 H - No 1 4 H - No	 関土 「選土 - 54 出土位置 関土 でます。 ではます。 ではまする。 ではます。 ではまする。 ではまれるまする。 ではまする。 ではまれるまする。 ではまする。	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	□径 (120) (120) (120) (135) (256) □径 (147 (125) (198)	底径	(169) (129) 高さ (37) 46 高さ 39 (217) 高さ 53 37 (145)	雲母合む 紫母合む 胎土 自色粒・雲母 株色粒合む 胎土 精良 雲母合む 胎土 素母合む 黒色粒・雲母合む 黒色粒・雲母合む 茶・黒色粒・雲母合む	良好 良好 燒成 良好 臭好 燒成 良好 臭好 燒成 鬼好 臭好	略福期 期福 一色調 灰 黄 樹	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面コオデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ルタロナデ。 水面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 水面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラナデ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 □禄部 1/2 欠損。 □禄部 1/4 欠損。 □禄部 1/4 欠損。 □禄部 1/2 残存。
1 2 H No 1 2 H No 1 2 H No	 覆土 覆土 - 54 出土位置 覆土 できる できる フィド電土 カマド電土 - 56 出土位置 No. 2 掘り方覆土 できる できる できる できる できる できる できる による <li< td=""><td>S字状口禄 合付党 S字状口禄 合付党 基型 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏</td><td>□径 (120) (120) (120) (120) (135) (256) □径 (147 (125) (198)</td><td>底径</td><td>(169) (129) 高さ (3.7) 46 高さ 39 (21.7) 高さ 5.3 3.7 (14.5)</td><td>雲母合む</td><td>良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好</td><td>略福 明 期 日 期 日 日 明 日 日 明 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日</td><td>外面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ョコナデ、体部ヘラケズリ。 内面ロは部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下のフロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ロコナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。</td><td>□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠損。 1/4 残存。 「日禄部 1/4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。</td></li<>	S字状口禄 合付党 S字状口禄 合付党 基型 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏	□径 (120) (120) (120) (120) (135) (256) □径 (147 (125) (198)	底径	(169) (129) 高さ (3.7) 46 高さ 39 (21.7) 高さ 5.3 3.7 (14.5)	雲母合む	良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好	略福 明 期 日 期 日 日 明 日 日 明 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	外面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ョコナデ、体部ヘラケズリ。 内面ロは部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下のフロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ロコナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ヘラケズリ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠損。 1/4 残存。 「日禄部 1/4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。 □禄3 4 欠損。
1 2 H - No 1 2 H - No 1 2 3 H - No 1 1	 関土 「夏土 「ラム 出土位置 関土 「夏土 カマド夏土 カマド夏土 大の。2 掘り方覆土 関土 「夏土 大の。2 掘り方覆土 大の。2 掘り方覆土 大の。1 	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻	□径 (120) (120) (120) (135) (256) (256) (147) (198) (140)	底径 	(169) (129) 高さ (37) 46 高さ 39 (217) 53 37 (145)	雲母合む	良好	略福 明報 日本 明 日	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハウス・ 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロッカナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、保部ロッロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロッロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラナデ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠相。 1/4 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。
1 2 H No 1 2 H No 1 2 3 H No 1 N	関土 関土 - 54 出土位置 関土 - 55 出土位置 形。 2 掘り方限土 で、2 掘り方限土 で、5 出土位置 No. 2 掘り方限土 関土 地土位置 No. 2 掘り方形土 関土 地土位置 と、1 地土位置 と、2 ボー・5 は、2 ボー・5 は、2 ボー・5 は、3 ボー・5 は、4 ボー・5 は、4 ボー・5 は、5 は、5 は、5 は、5 は、6 は、7 は、7 は、7 は、7 は、7 は、7 は、7 は、7	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種 土師器 坏 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 高合付境 須恵器 攻 高色付境	口径 (120) (120) (123) (256) 口径 (147) (125) (198) 口径 (140) 長さ	底径 6.5 5.9 底径	(169) (129) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7) 高さ 5.3 3.7 (14.5) 高さ 高さ にはない。 (4.2) 厚さ	雲母合む	良好	略福 明期 日本	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、は下ナア。 米面ハケメ。 内面コナデ、 大藤形、 成・整形、 文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下・スケズリ。 内面口縁部コナデ、以下・スケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ロクロナデ、旅部回転系切り。 内面口縁部コナデ、以下ロクロナデ、旅部回転系切り。 内面口縁部コナデ、以下ロクロナデ。 ※形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部コナデ、以下ヘラナデ。 ※形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コナデ、以下ロクロナデ。 米面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 米面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 米面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 米面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 米面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 大藤形、文様等の特徴 四面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 ※形、成・整形、文様等の特徴 四面右目痕、糸切り痕、端部ヘラケズリ・ナデ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 1/4 残損。 □禄部 1/4 欠損。 □禄部 1/2 残存。 残存状況・備考 政務 3/4 欠損。 以表 3/4 入損。
1 2 H-No 1 2 H-No 1 2 H-No 1 1 2 No 1 No 2 No 2	環土 覆土 - 54 出土位置 覆土 フマド覆土 - 55 出土位置 水の、2 振り方覆土 変土 大の、2 振り方覆土 でして ルの、1 出土位置 No、2	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻	□径 (120) (120) (120) (135) (256) (256) (147) (198) (140)	底径 	(169) (129) 高さ (37) 46 高さ 39 (217) 53 37 (145)	雲母合む 雲母合む 胎土 白色粒・雲母 茶色粒合む 胎土 精良 雲母合む 胎土 精良 雲母合む 胎土 素母合む 胎土 素母合む 胎土 黒色粒・雲母合む 胎土 素白む 胎土 株良 胎土 株良 胎土 株良 胎土	良好	略福 明報 日本 明 日	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面コは部田ヨナデ、体部へのケズリ。 内面コは部田ヨナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下リカーの の田縁部コナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下リロナデ。 素部回転条切り。 外面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラナズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠相。 1/4 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄3/4 欠相。
1 2 H No 1 2 H No 1 2 H No 1 No 2 I No 1 1 No 2 I No 1 No 2 I No 1 No 2 I No 1 No 2 No 2 I No	関土 関土 - 54 出土位置 関土 - 55 出土位置 アンド関土 - 56 出土位置 No. 2 担力可能 地土位置 No. 2	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 本師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來	口径 (120) (120) (125) (256) 147 (125) (198) 口径 (140) 長さ 387	底径	(169) (129) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7) 高さ 5.3 3.7 (14.5) 高さ 4.2 2.4	雲母合む	良好 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 食好 魚好 烧酸 堅椴 良好 焼成 医椴 焼成 良好 焼成 良好	略福 明福 明福 明福 明福 明福 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面上線部ヨコナデ、以下ハウメリ。 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部コカーデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロウロナデ。 大阪に整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラナズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラナズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目戦、糸切り戦。端部ハラケズリ・ナデ。 凸面十デ。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □経部 1/2 欠担。 1/4 残存。 残存状況・備考 □経部 1/2 欠担。 1/4 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 □禄3/4 欠担。 □禄3/4 欠担。 □禄3/4 欠担。 □禄4 欠損。 □禄4 欠損。 □禄4 欠損。 □禄5 八元・備考 成片。 残存状況・備考
1 2 H-No 1 2 H-No 1 2 H-No 1 1 2 No 1 No 2 No 2	関土 関土 - 54 出土位置 関土 - 55 出土位置 アンド関土 - 56 出土位置 No. 2 担力可能 地土位置 No. 2	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種 土師器 坏 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 土師器 攻 高合付境 須恵器 攻 高色付境	口径 (120) (120) (125) (256) 147 (125) (198) 口径 (140) 長さ 387	底径 6.5 5.9 底径	(169) (129) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7) 高さ 5.3 3.7 (14.5) 高さ 高さ にはない。 (4.2) 厚さ	雲母合む	良好	略福 明期 日本	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、株下ナア。 外面イタ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 内面コナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ロウロナデ、旅部同転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ロウロナデ、東部同転糸切り。 内面口縁部コナデ、以下ロウロナデ。 外面口縁部コナデ、以下ロウロナデ。 外面口縁部コナデ、以下ロウロナデ。 が、文様等の特徴 等の特徴 器形、成・整形、文様等の特徴 四面布目痕、糸切り痕。端部ヘラケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面布目痕、糸切り痕。端部ヘラケズリ・ナデ。 と当面単弁4葉。	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 □禄部 1/2 欠担。 □禄子状況・備考 破片。 残存状況・備考 破片。 残存状況・備考 破片。 残存状況・備考 はほ定存。
1 2 H-No 1 2 H-No 1 2 H-No 1 1 2 1 No 1 1 No 2 I -No No 2 I -No No 1 No 2 No No 2 No	環土 覆土 - 54 出土位置 覆土 ララララー ファット ファット ファット ファット ファット ファット ファット ファット	S字状口經合付完 S字状口經合付完 S字状口經合付完 工師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來	(140) ・ 口径 (120) (135) (256) 147 (125) (198) 口径 (140) 長さ 387	底径 	(169) (129) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7) 5.3 3.7 (14.5) 高さ 4.2 長さ	雲母合む	良好 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 良好 焼成 食好 焼成 堅敬 鬼好 焼成 堅敬 焼成 鬼好 焼成 鬼好 焼成 鬼好		外面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハケメ。 内面上線部ョコナデ、以下ハウメ、 内面ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面ココナデ。 外面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面ロ縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ョコナデ、以下ロアリカデ、旅部回転糸切り。 内面口縁部ョコナデ、以下ロアリカデ、京部回転糸切り。 内面口縁部ョコナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外部口縁部ココナデ、以下ハラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 中語口縁部ヨコナデ、以下ロフロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面白髯部コナデ、以下ロフロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面右目線、糸切り痕、端部ハラケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠相。 1/4 残存。 1/4 残存。 「成存が況・備考 □禄部 1/4 欠相。 □禄3/4 欠相。 □禄4/5 代元・備考
1 2 H - No 1 2 H - No 1 2 No 1 No 1 No 2 I - No 1	環土 覆土 - 54 出土位置 覆土 環土 - 55 出土位置 形。2 振り方覆土 覆土 形。2 振り方覆土 で、1 出土位置 N。1 出土位置 N。2	S字状口經 合付完 S字状口經 合付完 S字状口經 合付完 工師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 土師器 來 有合付付 類思器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 土師器 來 人 五百十一 類思 為 一 五百十一 類思 一 五百十一 類思 一 五百十一 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	(140) 140	底径 	(169) (129) 高さ (3.7) 4.6 高さ 3.9 (21.7) 高さ (4.17) 高さ (4.2) 厚さ (4.2) 長さ (2.4)	雲母合む	良好	 略福 明報 ・ 原報 	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハウメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面コカテ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロッカナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ロッロナデ。成部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロッロナデ。の 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロッロナデ。 場形、成・整形、文様等の特徴 正当面和目痕、糸切り痕。端部ハラケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 正当面和目痕、糸切り痕。端部ハラケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 正当面和目痕、糸切り痕。端部、アケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴	口禄一嗣部 1/4 残存。 開都 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状况,備考 1/3 残存。 1/3 残存。 1/3 残存。 1/4 残存。 1/2 贫存。 1/2 贫存 (表存 (表存 (表存 (表存 (表存 (表
1 2 H No 1 2 H No 1 2 H No 1 No 2 I No 1 No 1 No 2 No 1 No 1 No 1 No 1 No 1	環土 環土 で	S字状口經合付完。 S字状口經合付完。 S字状口經合付完。 S字状口經合付完。 在別、器種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 攻 土師器 攻 土師器 变 種別、器種 須忠器境 土師器 変 種別、器種 須忠器境 種別、器種	口径 (120) 口径 (120) 口径 (135) (256) 147 (125) (198) 口径 (140) 長さ 長さ 長さ	底径 	(169) (129) 高さ (37) 46 高さ 39 (217) 高さ 53 37 (145) 高さ (42) 厚さ 424 長さ	雲母合む	良好 良好 燒成 良好 燒 好 良好 燒 好 良好 磨	 略福期期報 ・ 企調 ・ 企 <l< td=""><td>外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面上線部ヨコナデ、株部へカケズリ。 内面コナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 の面が音音が、大変をある対象。 の面が音音が、大変をある対象。 の音音音楽、条切り裏、端部ハラケズリ・ナデ。 といるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると</td><td>□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/4 欠担。 □禄部 1/2 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/2 残存。 「残存状況・備考 ・ 残存状況・備考 ・ 様存状況・備考 ・ 様存状況・備考 ・ 様存状況・備考 「はは完存。 ・ 「残存状況・備考 「(那) 淡郡明倉」墨書あり。 ・ 破片。</td></l<>	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面上線部ヨコナデ、株部へカケズリ。 内面コナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロウロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ、底部回転系切り。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 の面が音音が、大変をある対象。 の面が音音が、大変をある対象。 の音音音楽、条切り裏、端部ハラケズリ・ナデ。 といるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/3 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/4 欠担。 □禄部 1/2 残存。 「残存状況・備考 □禄部 1/2 残存。 「残存状況・備考 ・ 残存状況・備考 ・ 様存状況・備考 ・ 様存状況・備考 ・ 様存状況・備考 「はは完存。 ・ 「残存状況・備考 「(那) 淡郡明倉」墨書あり。 ・ 破片。
1 2 H-No 1 2 H-No 1 No 1 No 2 I-No 1 No 2	関土 関土 ・54 出土位置 関土 ・55 出土位置 No. 2 振り方限土 でも ボー・56 出土位置 No. 2 振り方限土 関土 ・2 振り方限土 関土 で、2 振り方限土 関土 で、2 ボー・57 出土位置 No. 2 は土位置 No. 2 は土位置 に、2 は土位置 に、3 に、4 に、4 に、5 に、5 に、6 に、7 に、7 に、7 に、7 に、7 に、7 に、7 に、7	S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 S字状口禄 合付完 基種 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 坏 土師器 來 種別、器種 系合付境 須恵器 境 種別、器種 須恵器 境 種別、器種 夏、大瓦	口径 (120) (120) (123) (256) (147) (125) (198) (140) 長さ (182) 長さ (260)	底径 	(169) (129) 高さ (3.7) 46 高さ 39 (21.7) 高さ (4.15) 高さ (4.2) 厚さ (4.2) 厚さ (2.4)	雲母合む	良好	略福 明期 日本	外面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハケメ。 内面ナア。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面目は部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トテ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下トラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、旅部同転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、旅部同転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ハラケズリ。 内面口縁部コナデ、以下ハラナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部コナデ、以下ロクロナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 四面布目痕、糸切り痕。端がヘラケズリ・ナデ。 器形、成・整形、文様等の特徴 正高田半介。器形、成・整形、文様等の特徴 正高田半介。器形、成・整形、文様等の特徴 正高田半介。器のフラケズリ。 と面サデ。器形、成・整形、文様等の特徴 と面サデ。器が、スタを持数 といるの特徴	□禄~嗣部 1/4 残存。 開部 1/3 ~ 台部 1/4 残存。 残存状況・備考 1/8 残存。 1/3 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/2 欠担。 1/4 残存。 残存状況・備考 □禄部 1/4 欠担。 □禄3/4 欠担。 □禄→嗣部 1/2 残存。 残存状況・備考 破片。 残存状況・備考 破片。 残存状況・備考 域片。 残存状況・備考 域片。 大野国分等を造期。 単介4 素進幸义。 残存状況・備考 「第) 該郡朝倉」墨書あり。

_		_
l)	_	_/

D -	- 7										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 坏	13.3	6.2	4.8	雲母含む	堅緻	浅黄		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 コナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。
D -	- 8								1 Am makub -		
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	(11.4)	(7.5)	(3.0)	雲母含む	良好	橙		コナデ、体部ユビナデ、底部ヘラケズリ。 コナデ、以下ユビナデ。	1/4 残存。
D-	- 12										1
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	(12.1)	(6.3)	3.9	雲母含む	良好	明赤褐		コナデ、体部ユビオサエ・ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 コナデ、以下ナデ。	1/2 残存。
D-	- 13										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	bl The Arrive	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1 · 2	須恵器 坏	(11.7)	(6.0)	2.9	精良	堅緻	灰白		コナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切り。 コナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	即福本日秋	器形、成・整形、文様等の特徴 条切り痕、端部ヘラケズリ。	残存状況・備考
2	No. 3	瓦平瓦	39.8	27.2	1.9	黒色粒・雲母含む	堅緻	灰黄	凸面縄目タタ		ほぼ完存。
_	- 22	TT 011 00 TT			- ·	76.1	14-1	4a -m	1	DD Tree and the Tree and T	Th4-15/27 /#44
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	外面口縁部ョ	器形、成・整形、文様等の特徴 コナデ、体部ロクロナデ・ユビナデ、底部回転糸切り。	残存状況・備考 1/4 残存。
1	覆土	高台付埦	(13.7)	[6.4]	5.1	雲母含む	良好	にぶい橙		コナデ、以下ロクロナデ・ユビナデ。	酸化焰焼成。
	- 23	年叫 四年		京 ②	言よ	E/s I	体子	4. =m		BIV C 참IV 구설♡이라바	TP-5-14-70 (#±4/
INO 1	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土 _{白色粒}	焼成	色調	外面回転ナデ	器形、成・整形、文様等の特徴 底部回転糸切り。	残存状況・備考
_	覆土		[13.0]	(7.5)	(3.8)		堅緻		内面回転ナデ		
2	覆土	土師器 夔	[15.3]	-	(4.3)	石英・長石・雲母	良好	にぶい褐		コナデ・ユヒナア、胴部ペプケスリ。 コナデ、胴部ペラナデ。	口縁~胴部上位 1/8 残存。
	- 25	14 DI			-	26.1	J				The last of the la
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	外面口級忽日	器形、成・整形、文様等の特徴 コナデ、以下ヘラケズリ。	残存状況・備考
1	覆土	土師器 甕	(11.2)	-	(4.9)	雲母含む	良好	褐	内面口縁部ヨ	コナデ、以下ナデ。	破片。
2	覆土	土師器 甕	(12.1)	-	(3.9)	雲母含む	良好	赤褐	外面口縁部ヨ	コナデ、以下ヘラケズリ。 コナデ、以下ナデ。	破片。
遺構	外										
No	出土位置		口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	上面け至相で	器形、成・整形、文様等の特徴 井円形に残存し、周縁下は彫らみを持ち以下は内傾する。上面及	残存状況・備考 口縁部突起状飾り片か。
1	包含層 A 2	縄文土器 深鉢	-	-	(4.5)	白·灰色粒、 黒雲母	良好	明褐	び側面の地文下位に貼付粘	に縄文RL施文後、細い半截竹管による対沈線で文様施文。側面	最大幅 6.1cm。 諸磯 b 期
2	J - 15	縄文土器	(17.6)	-	(4.7)	白色粒、黒雲母、	良好	黒褐	平口緑。口緑	下は押引文及び半截竹管による刺突文が施され、下位に両側を沈	口縁部片。
	覆土	深鉢				チャート粗粒		にぶい褐		査沈線が横位に巡る。 大突起を4ヶ所に持つ波状□縁。□縁下は両側を沈線で調整した。	興津式。
3	包含層 A 2	縄文土器 深鉢	(31.0)	-	(26.5)	白·黑·茶色粗粒、 黒雲母	良好	明赤褐赤褐	横位隆沈線を	主体に交互刺突文施文。以下地文に縄文RL施文後、若干の括れ 中位に3本の横位沈線を巡らせ、括れ部上部には3本の沈線によ	口縁~胴部中位残存。 加曽利E Ⅱ期~Ⅲ期。
	/ AP	縄文土器				A EAN TH		明黄褐	る連弧文他が	連続し、下半部には連弧文と蕨状文他が連続して施文。 录下は太沈線が巡り、以下太隆帯による楕円形区画及び角丸方形	
4	包含層 B 1	深鉢	(34.0)	-	(12.0)	白·灰色粒、石英、 黒雲母	良好	橙	区画が交互に	連続。区画内施文縄文 R L 。	口縁~文様帯片。 加曽利EⅢ期新相。
5	包含層 B3	縄文土器 深鉢	(47.0)	-	(13.8)	白色粒、黒雲母、 茶色粗粒	良好	暗赤褐 赤褐	結する横長S:	F 文様帯は両側を沈線で調整した太い隆沈線による渦巻文及び連 字状文施文。隆沈線内区画及び下端の太隆帯間の区画内に縦位沈	口禄~胴上部片。 加曽利E Ⅲ期古相。
	包含層	縄文土器				白色粒、石英、黒雲		明黄褐		也文に縄文LR施文後、3本の懸垂沈線施文。 かに内湾する平口緑(歪みあり)。□緑下は地文に縄文施文後○	口級~胴上部片。
6	B 1	深鉢	(32.0)	-	(12.3)	母、チャート粗粒	軟質	にぶい黄褐	字状沈線施文。		加曾利EⅢ期新相。
7	包含層 B 1	縄文土器 深鉢	-	-	(10.0)	白·茶色粒、 黒雲母	軟質	明黄褐 オリーブ褐		吉する突起を有する波状口縁。地文に縄文LR施文後、文様を描 間無文及び、文様区画内縄文充塡。	口縁部片。 加曽利EⅢ期新相。
8	包含層 A 1	縄文土器 深鉢	-	-	(9.3)	白、黒色粒、石英、 黒雲母	やや軟質	にぶい黄褐 褐		無文、下部には横位隆沈線を主体に交互刺突文を施文後、渦巻状 全起線文貼付。	胴部片。 加曾利EⅡ期。
9	包含層 B 3	縄文土器深鉢	[24.0]		(5.5)	白·灰色粗粒、 黒雲母	良好	褐里褐	平口緑。口緑	下は横位沈線が巡り、以下文様帯は突起を伴なう蕨状文による沈 象による方形区画を持ち、区画内縄文RL充塡。	□縁部片。 加曽利EⅡ期新相。
10	包含層	縄文土器	_		(6.8)	白・茶色粒、	良好	黒褐	くの字状屈曲	部には円形交互刺突文施文。以下地文に縦位沈線施文後突起を伴	胴部片。
-	A 2 包含層	深鉢 縄文土器				黒雲母 白・灰色粒、		にぶい橙		文及び縦位の対隆帯施文。 F 文様帯は太隆帯による渦巻文及び方形区画施文。文様帯上部に	曽利Ⅱ期。 □緑部片。
11	A 2	深鉢	-	8.7	(8.5)	茶色粗粒、黑雲母	良好	灰黄褐	最大径 1.0cm	円孔が穿たれている。	加曾利EII期。
No	出土位置	種別、器種組文土器	最大径	最小系	厚さ	胎土	焼成	色調	14, -h- : - 60* -1 - 1 *	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況·備考 ^{完存。}
12	C 1	土製円盤	3.0	2.8	1.4	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄橙		女後、沈線文施文。裏面は僅かな曲面を呈し、土器片の転用推定。	縄文時代中期。 裏面一部欠損。
13	遺構外	土製円盤	3.3	2.9	1.1	白·灰·茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄橙	施文縄文RL	裏面は僅かな曲面を呈し、土器片の転用推定。	縄文時代中期。
14	遺構外	縄文土器 土製円盤	2.5	2.4	1.2	白・茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄橙 にぶい黄褐	地文に縄文施	女後、沈線文施文。裏面は僅かな曲面を呈し、土器片の転用推定。	完存。 縄文時代中期。
15	遺構外	縄文土器 耳栓	2.7	2.7	1.9	白・灰色粒、 茶色粗粒、黒雲母	良好	橙 にぶい黄褐	表・裏面共に	尚巻き沈線文施文。側面は緩やかな凹状を呈する。	一部欠損。 縄文時代中期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
16	基本土層 D	石器 尖頭器	21.3	6.1	3.3	砂岩	-	-	568.4	表・裏面共に中央付近に広く自然面を残し、主に周縁に加工を施 し長尺の槍先形を作出。左右側縁には痘痕状の敲打痕が顕著で、 鋭利な尖頭部及び下端部利用に加えて敲石機能が認められる。	完存。
17	包含層 A 1	石器 打製石斧	12.3	6.9	2.9	安山岩	-	-	154.7	表面に自然面を残す横長剝片を縦位に使用し、主に左右側縁に加 工を施し長めの接形を作出。左右側縁は比較的丁寧な調整剥離が	完存。 接形。
10	A 1 包含層	石器	10.0	20	1.7	甲条百里			640	施され、鋭利な刃部は素材剝片段階。 表面に広く自然面を残す横長剝片素材を縦位に使用し、主に周縁	完存。
18	A 2	打製石斧	10.3	3.9	1.7	黒色頁岩	-		64.2	に加工を施し短冊形を作出。表面自然面は滑らかで、石器の再生 も推定できる。	短冊形。
19	包含層 A 2	石器 打製石斧	9.2	4.2	1.8	黒色頁岩	-	-	52.4	表面上部に自然面を残す薄型の剝片を素材に用いて主に左右側縁 に加工を施しやや刃部が広がる短冊形を作出。刃部及び左右側縁 は鋭利で削器利用も。	ほほ完存。 短冊形。 風化が著しい。
20	包含層 A 2	石器 打製石斧	10.4	4.0	1.1	黑色頁岩	-	-	58.3	表面上端部及び下半部に自然面を残す横長剣片素材を縦位に使用 し整った短冊形を作出。左右側縁には丁寧な調整列離が施され、 刃部付近には磨耗が顕著。	完存。 短冊形。
21	包含層	石器	12.5	4.1	1.7	黒色頁岩	-	-	90.7	表面に広く自然面を残す横長剝片を縦位に使用し、主に周縁加工	完存。
22	C 2 包含層	打製石斧								を施し長めの短冊形を作出。刃部及び中位に磨耗が顕著。 尖頭部左右に括れを有し、左右側縁は緩やかな丸味を持たせて作	短冊形。
	B 2	石器 石鏃	(2.4)	(2.1)	0.4	珪質頁岩	-	-	1.5	出。凹基部はやや深く整った脚部を作出。 左右側縁は連続的で丁寧な調整剝離を施しやや鋸歯上を呈するが	脚部一部欠損。凹基無茎鏃。 先端部欠損。
23	遺構外	石器 石鏃	(2.4)	1.8	0.4	チャート	-	-	1.3	左右関係は連続的で丁寧な調整刺離を施しやや新樹工を至するか 直線的に作出。丸味を持つ凹基部及び脚部も丁寧に作出。	无难部欠損。 凹基無茎鏃。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形	、文様等の特徴	Ţ	残存状況・備考
24	包含層 C 1	須恵器 蓋	(12.6)	-	3.7	黒色粒、白·灰色 粗粒	堅緻	灰黄 黄灰	り後ヘラケズリ	後体部上位回転ヘラケズ 。 、口縁部ヨコナデ。	1/5 残存。 天囲径〔6.6〕cm。		
25	遺構外	土師器 坏	(12.3)		(3.4)	雲母含む	良好	黄褐 黒褐		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ミガキ。	破片。 内面黑色処理。		
26	遺構外	土師器 坏	[13.8]	-	(3.5)	雲母含む	良好	にぶい黄褐		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ミガキ。			□縁部 1/4 残存。
27	遺構外	土師器 坏	[12.4]	-	7.6	雲母含む	良好	橙		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ナデ。			1/3 残存。
28	遺構外	土師器 坏	(12.1)	-	(3.9)	茶色粒含む	良好	明赤褐		ナデ、以下ヘラケズリ。 ナデ、以下ナデ。			2/5 残存。
29	遺構外	緑釉陶器 皿	(11.8)	-	(3.0)	粘土質	堅緻	灰オリーブ		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ後	細沈線による文様施	文。	口禄~体部片。 外·内面緑釉施釉。
30	D - 20 覆土	須恵器 蓋	11.6	-	3.5	黒色粒	堅緻	灰		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。			2/3 残存。 摘み径 1.9cm。
31	遺構外	須恵器 高台付埦	[14.8]	(7.6)	5.0	白色粒、チャート 粗粒	堅緻	黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。				1/2 残存。
32	遺構外	須恵器 高台付埦	[16.7]	9.1	5.5	白·黒色粒、灰色 粗粒	堅緻	褐灰		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。	底部回転糸切り後高	台貼付け。	2/3 残存。 口縁部は水平気味に開く。
33	包含層 A 2	須恵器 坏	[12.3]	(6.9)	4.4	白・黒色粒	堅緻	灰白		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。	底部回転糸切り。		2/5 残存。
34	包含層 A 2	須恵器 坏	[13.6]	(7.8)	3.3	白・黒・灰色粒	堅緻	黄灰		ナデ、以下ロクロナデ。 ナデ、以下ロクロナデ。	底部回転糸切り。		2/5 残存。
35	遺構外	須恵器 甕	[24.0]	-	(13.2)	白·黒色粒	堅緻	褐灰		コナデ、以下顕部回転ナ ナデ、以下顕部回転ナテ		タキ。	口縁~肩部片。口縁帯の両端部を突出さ せている。外面肩部に自然釉付着。
36	遺構外	土釜	(21.1)	-	(12.1)	石英・長石含む	良好	灰黄 暗灰黄		ナデ、胴部ロクロナデ、 ナデ、胴部ロクロナデ。	胴下部ユビナデ。		□緑~胴部 1/4 残存。
37	遺構外	有孔鍔付台付鉢	-	-	(0.9)	雲母含む	良好	にぶい黄 灰黄	外面ヘラケズリ 内面ロクロナテ				破片。 穿孔あり。
No	出土位置	種別、器種	長さ	最大径	孔径	胎土	焼成	色調	重量	器形、成	・整形、文様等の	の特徴	残存状況・備考
38	包含層 C 2	土製品 羽口	(8.6)	-	2.4	黒色粒、白色粗 粒、小石	軟質	黄灰 にぶい橙		が型け毛担力 ハラナデ係セナデュト2 II 禁形			吹き出し口残存。吹き出し周辺にはガラス化による光沢が認められる。円筒部はもろい。 最大口径 6.6cm。
39	包含層 B 2	土製品 土錘	3.6	1.1	0.5	粘土質	良好	灰白	3.9	表面は滑らかで中央付近	に最大径を持つ。		ほほ完存。
No	出土位置	銭種名	国	名	1	初鋳年代	1	才質	直径	穿径	厚さ	重量	備考
40	遺構外	寛永通寳	Н	本	寛永	13年 (1636)		銅	23.1 mm	6.1 mm	1.3 mm	2.7g	完存。

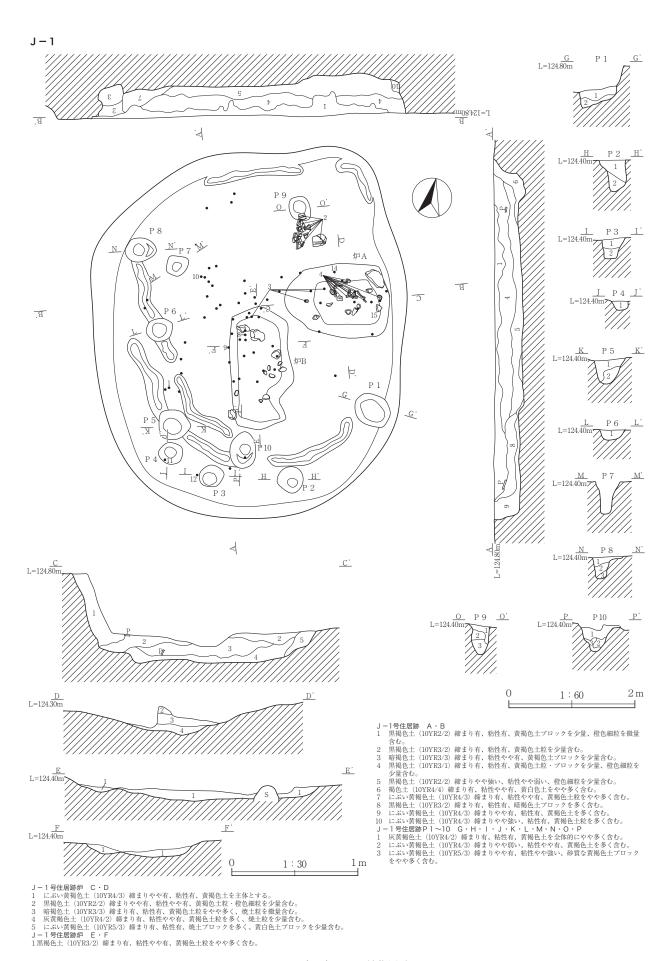


Fig. 9 (116) J - 1 号住居跡

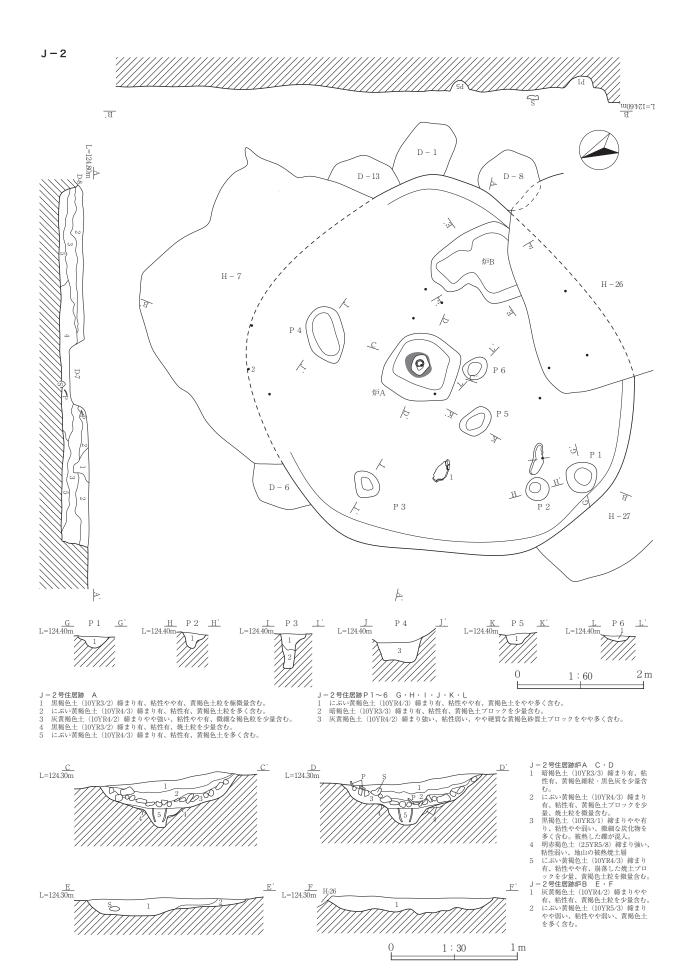
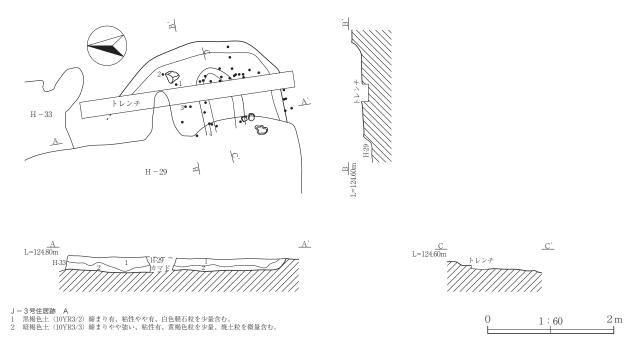
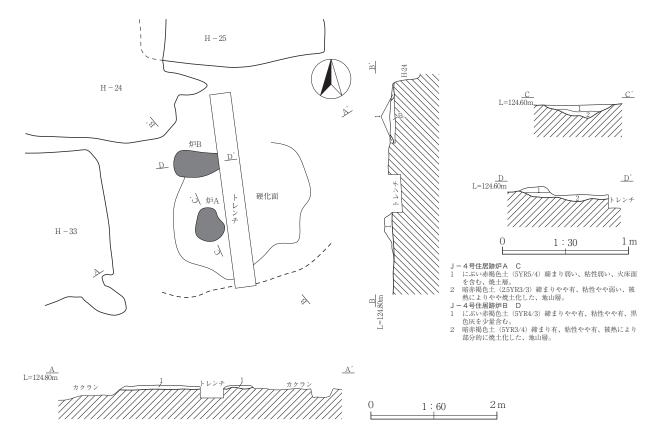


Fig.10 (116) J - 2 号住居跡

J - 3



J-4



 $J-4号住居跡 \ A\cdot B$ 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まり有、粘性やや有、黄褐色土ブロック・焼土粒を少量含む。

Fig.11 (116) J - 3 · 4 号住居跡

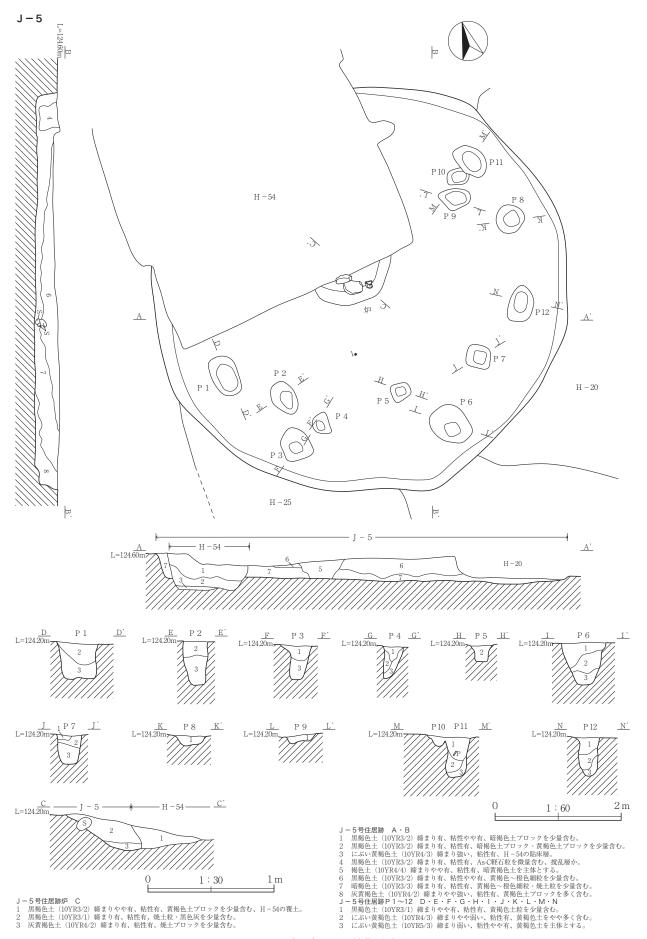
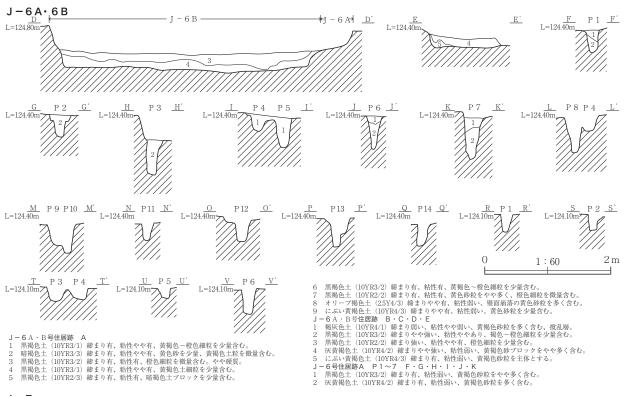


Fig.12 (116) J - 5 号住居跡







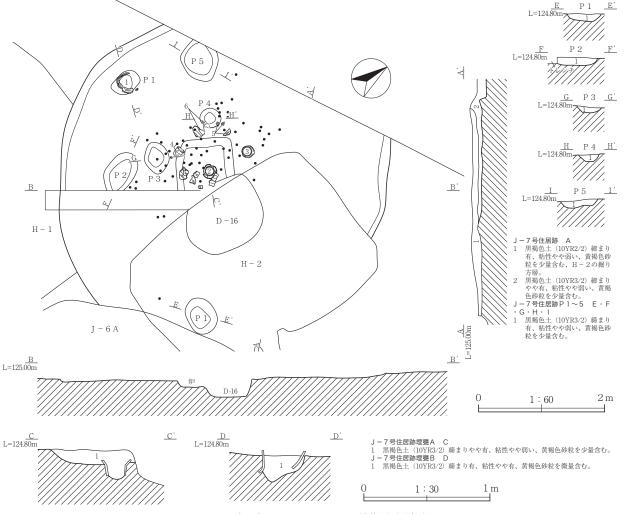


Fig.14 (116) J - 6 A · 6 B · 7 号住居跡断面

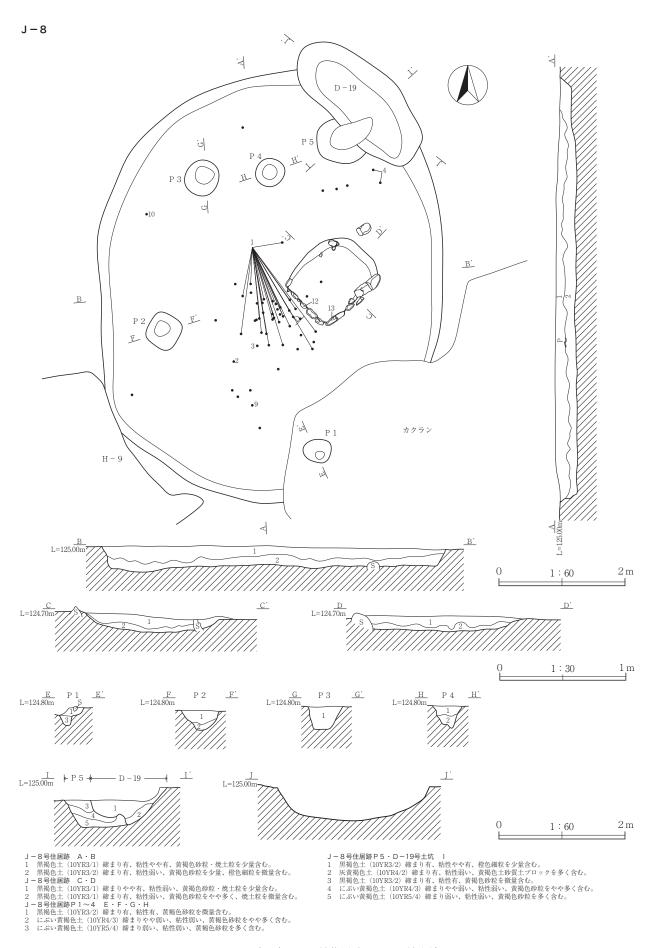
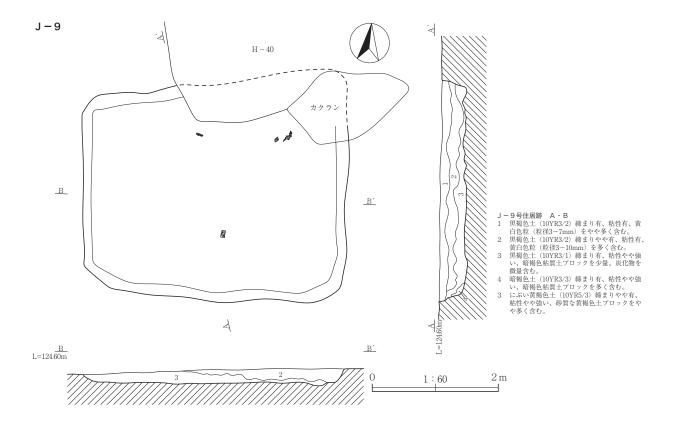


Fig.15 (116) J - 8 号住居跡、D - 19 号土坑



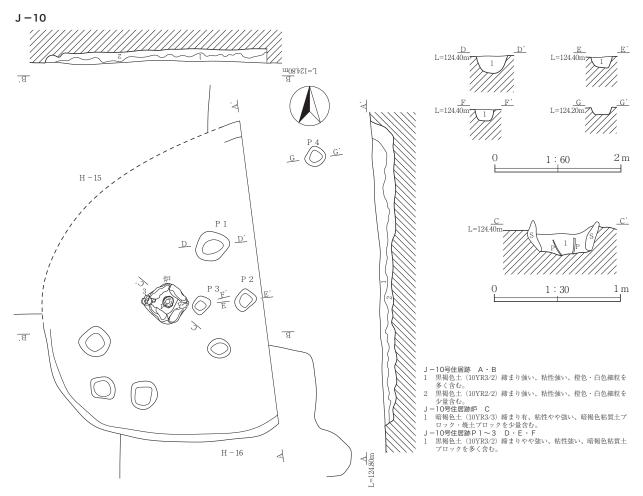


Fig.16 (116) J - 9 · 10 号住居跡

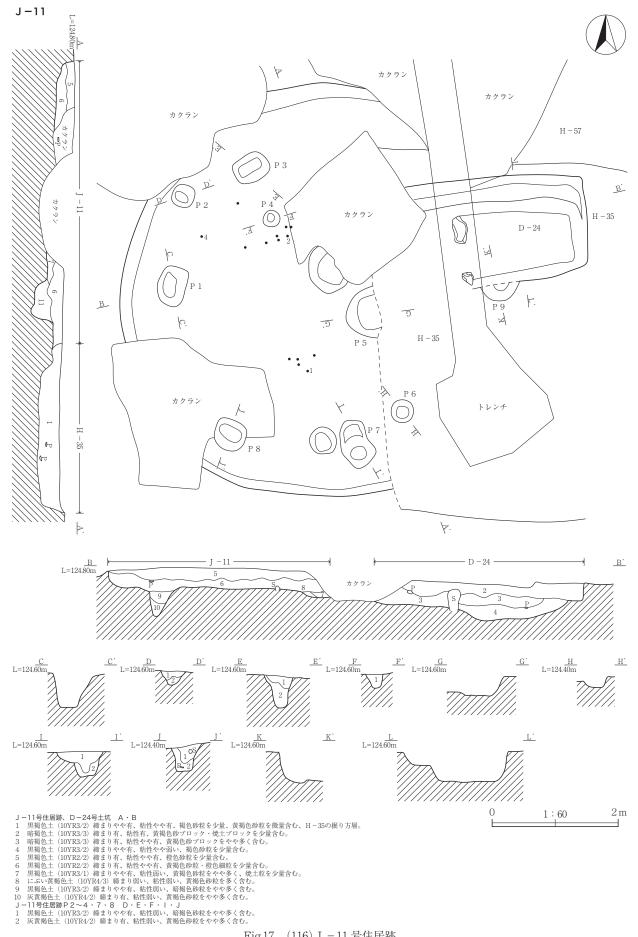
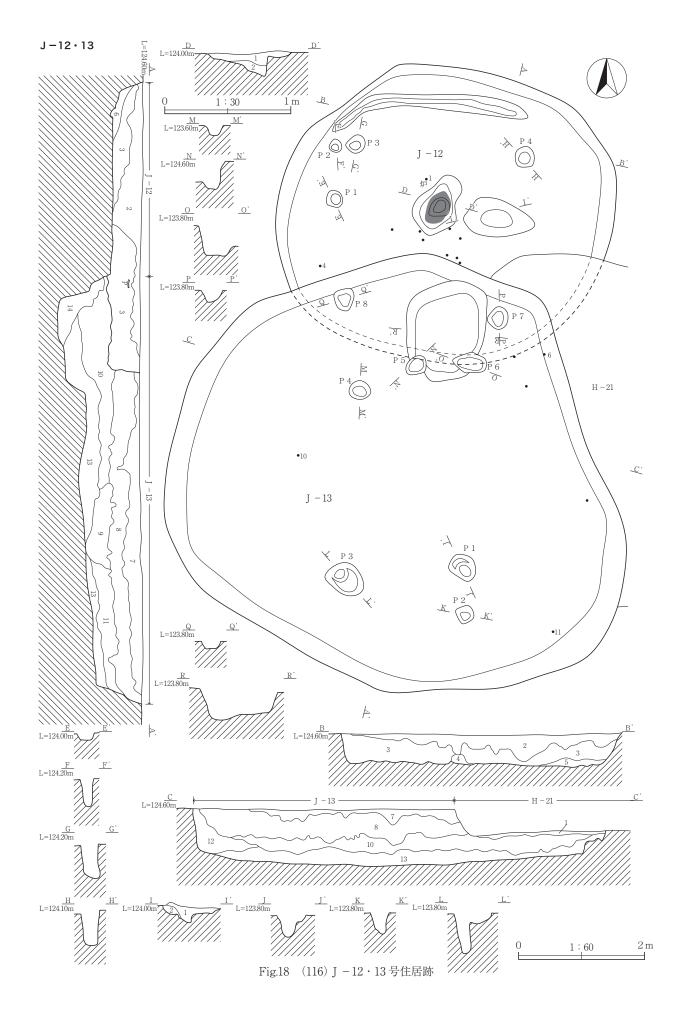


Fig.17 (116) J - 11 号住居跡

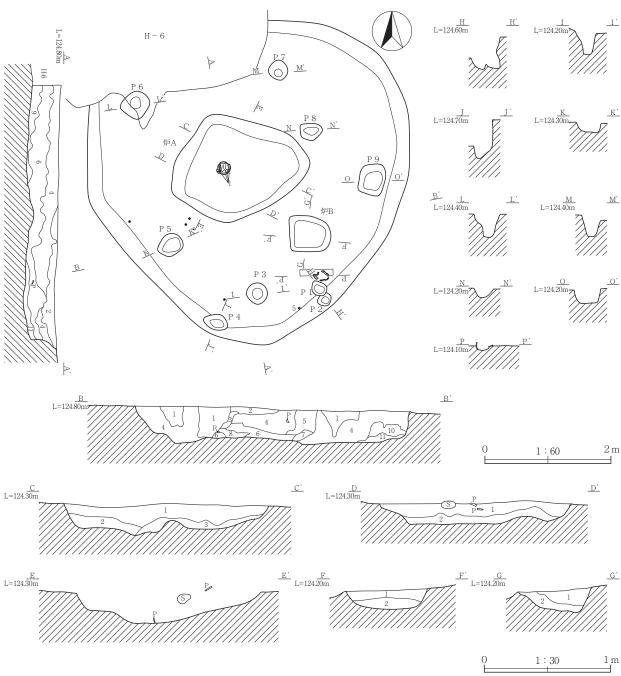


- J 12・13号住居跡 A・B・C
 1 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや強い、粘性有、黄褐色土ブロックをやや多く含む、H 21の貼底、掘り方層。
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり有、粘性やや有、黄褐色土粒をやや多く含む。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり有、粘性やや有、黄褐色土粒をやや多く含む。
 4 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや強い、粘性有、黄褐色土粒・焼土粒をやや多く含む。
 6 展克士 (10YR4/4) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土粒を主体とする。
 6 医克褐色土 (10YR4/2) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土粒を主体とする。
 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり やや有、粘性有、黄褐色土粒・橙色細粒を微量含む。
 8 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土粒と多く含む。
 8 開褐色土 (10YR3/4) 締まり本や有、粘性有、黄褐色土粒を多く、橙色細粒を少量含む。
 10 暗褐色土 (10YR3/4) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土粒を多く、橙色細粒を少量含む。
 11 にぶい黄褐色土 (10YR3/4) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土粒を多く、橙色細粒を少量含む。

- 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりやや強い、粘性やや有、黄褐色土粒を多く、硬質な黄褐色砂プロックを少量、橙色細粒を微量含む。
 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり強い、粘性やや有、橙色〜黄褐色細粒をやや多く、焼土粒を少量含む。やや硬質。
 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりやや弱い、粘性有、黄褐色土プロックを少量含む。やや軟質。
 Jー12号住居跡炉 D
 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり有、粘性有、焼土粒・灰を少量含む。
 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり有、粘性弱い、黄褐色土プロックを多く、焼土粒を少量含む。

- 2 にぶい現地によいいいかした。 した。 J-12号住居跡 | 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりやや有、粘性やや弱い、黄褐色砂粒をやや多く、橙色細粒を微量含む。 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり有、粘性弱い、黄褐色砂粒を多く含む。

J-14



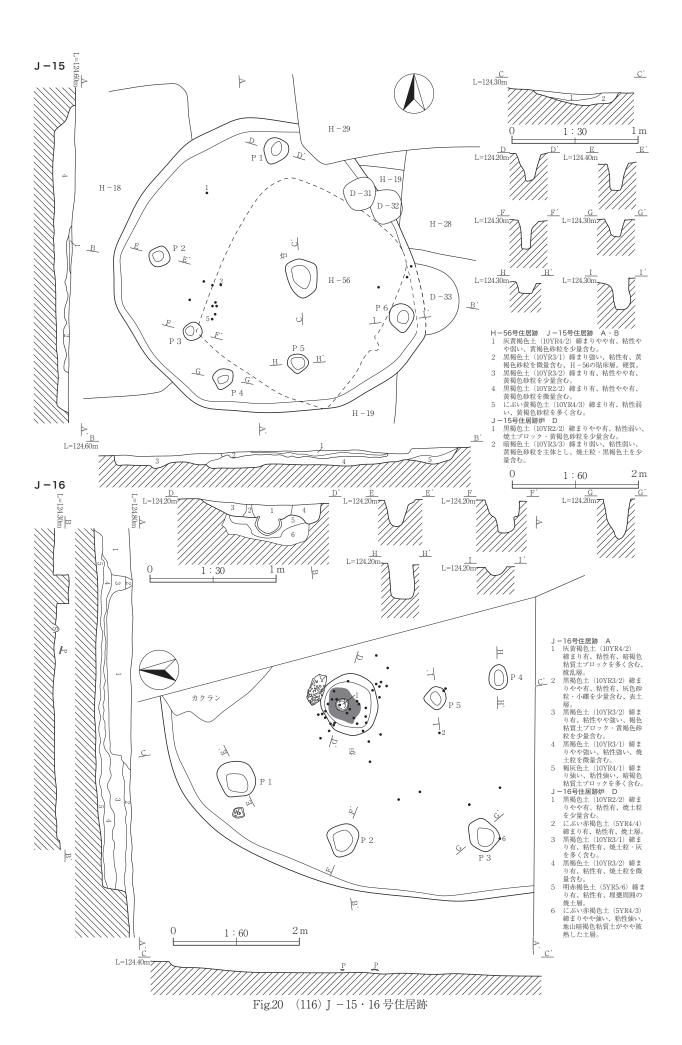
J-14号住居跡 A⋅B

- -14号住居跡 A・B
 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや弱い、粘性有、黄褐色土プロックをやや多く含む、撹乱層。
 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり有、粘性やや有、白色・橙色細粒を少量含む。
 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まり有、粘性有、黄褐色土ガロックを多く、橙色細粒を微量含む。
 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや強い、粘性有、黄褐色土粒を多く含む。
 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりれ、粘性病、黄褐色土粒を少量含む。
 暗褐色土 (10YR3/2) 締まりや、樹木は有、黄褐色土粒を少量含む。
 場色土 (10YR3/2) 総まりやや有、粘性病、黄褐色土地でリスタンや多く含む。
 褐色土 (10YR4/4) 締まりや中痛、粘性有、黄褐色土ガロックをやや多く含む。
 板色土 (10YR4/2) 締まりや中痛い、粘性やや弱い、黄褐色土粒を多く、小碟を少量含む。
 灰質褐色土 (10YR4/2) 締まりやや弱い、粘性やや弱い、黄褐色土粒を多く、小碟を少量含む。

- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや強い、粘性有、黄褐色土粒をやや多く、橙色細粒を少量含む。
 11 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まり強い、粘性やや弱い、黄褐色土ブロックを少量含む。

 1 二4号住居炉 C・D 黒褐色土 (10YR4/3) 締まり有、粘性有、黄褐色土粒を少量、焼土粒を微量含む。
 2 にぶい黄褐色土 (10YR3/3) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土ブロックを多く含む。
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや強い、粘性有、黄褐色土粒・ブロックをやや多く含む。
 1 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりす、粘性有、黄褐色土粒・ブロックをやや多く含む。
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まりやや有、粘性有、黄褐色土を主体とし、暗褐色土ブロックを少量含む。 量含む。

Fig.19 (116) J - 12 · 13 · 14 号住居跡



- 61 -

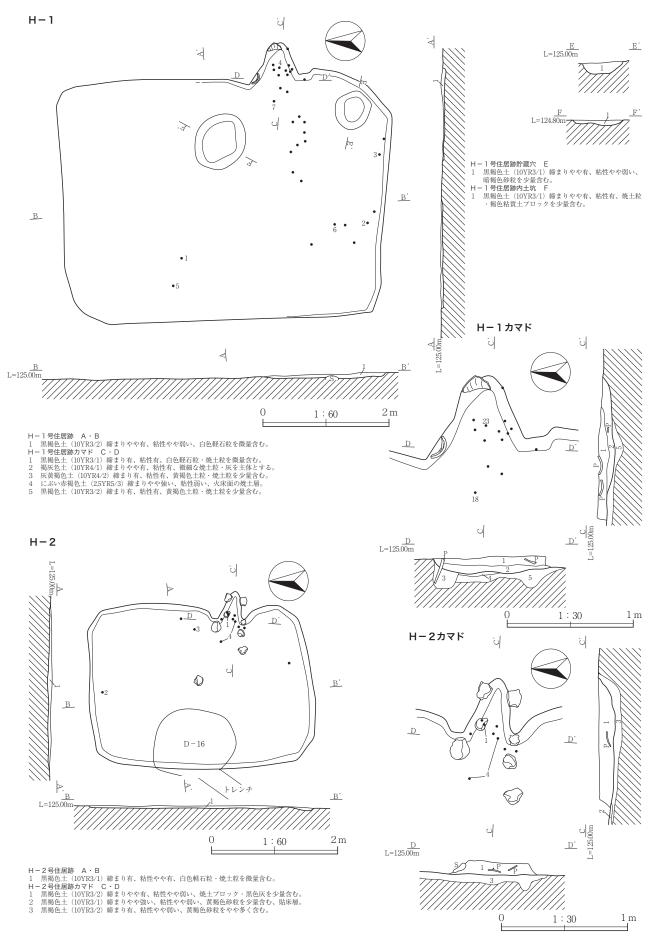
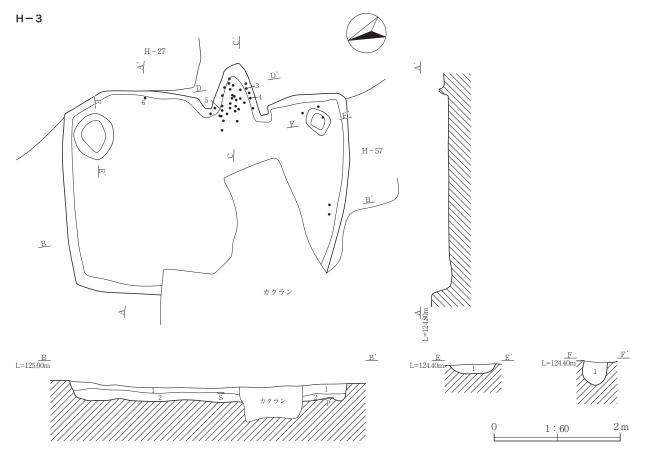


Fig.21 (116) H - 1 · 2 号住居跡



- H 3 号住居跡 B
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや弱い、粘性弱い、白色軽石粒を微量合む。
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや弱い、粘性弱い、白色軽石粒・黄褐色土ブロックを微量含む。
 H 3 号住居跡 E
 1 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり有、粘性有、黄褐色土ブロックを少量合む。
 H 3 号住居跡貯蔵穴 F
 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 締まりやや有、粘性有、黒色灰・灰色粘質土ブロックを多く合む。

H-3カマド

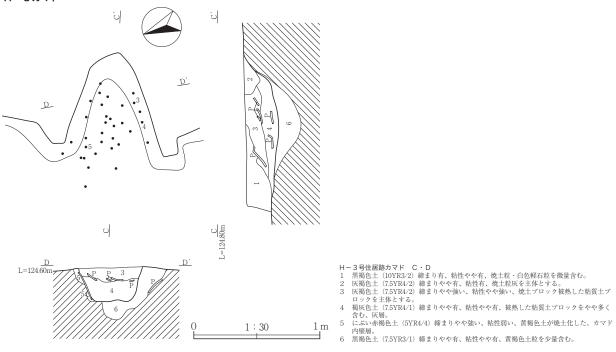


Fig.22 (116) H - 3 号住居跡

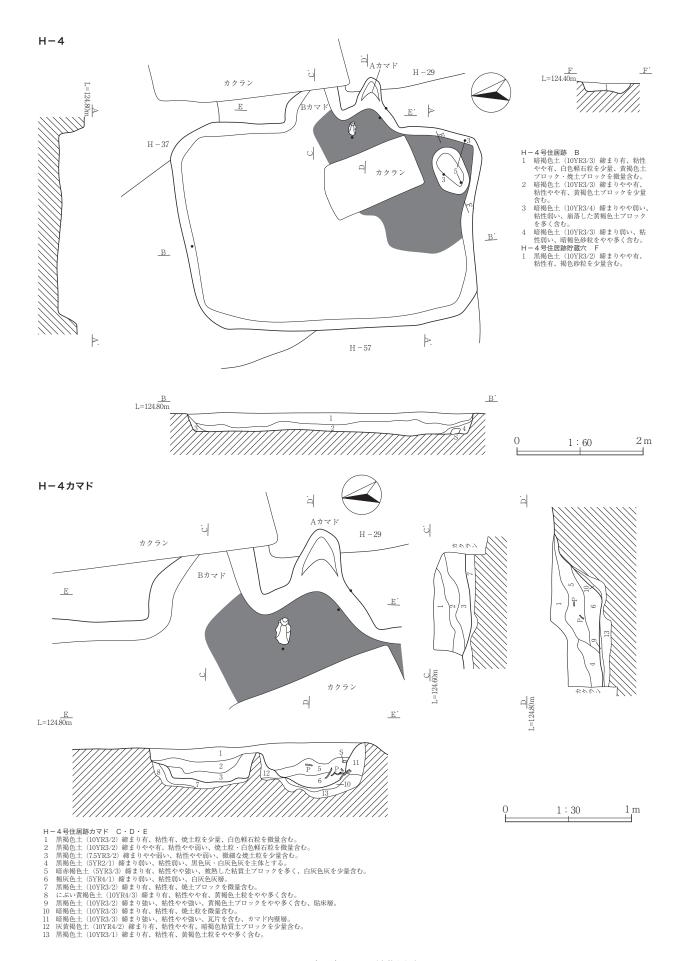
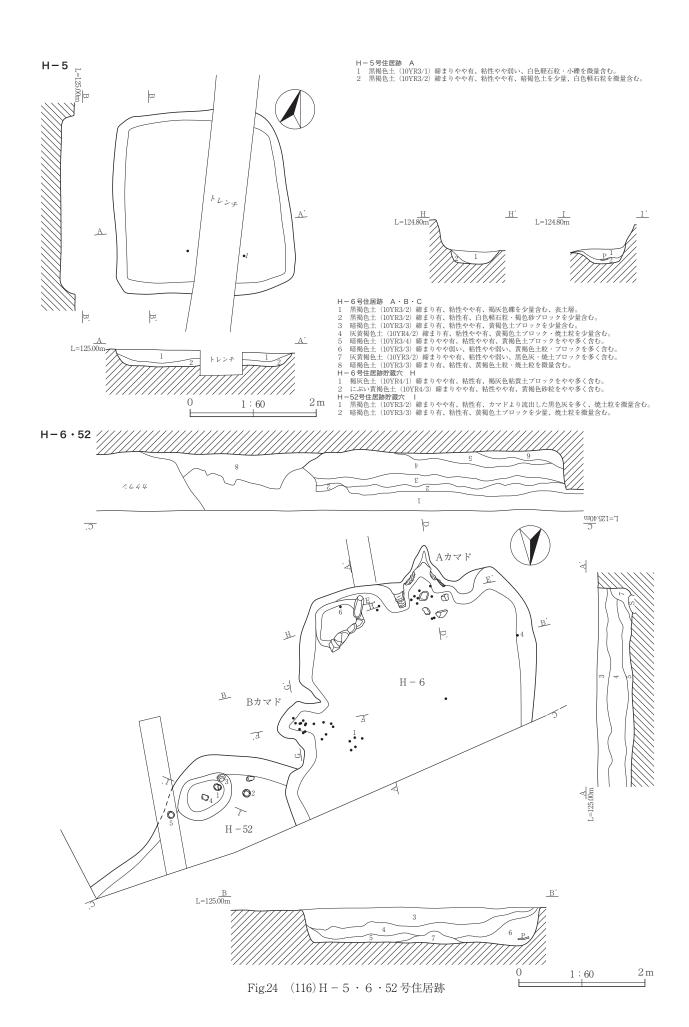
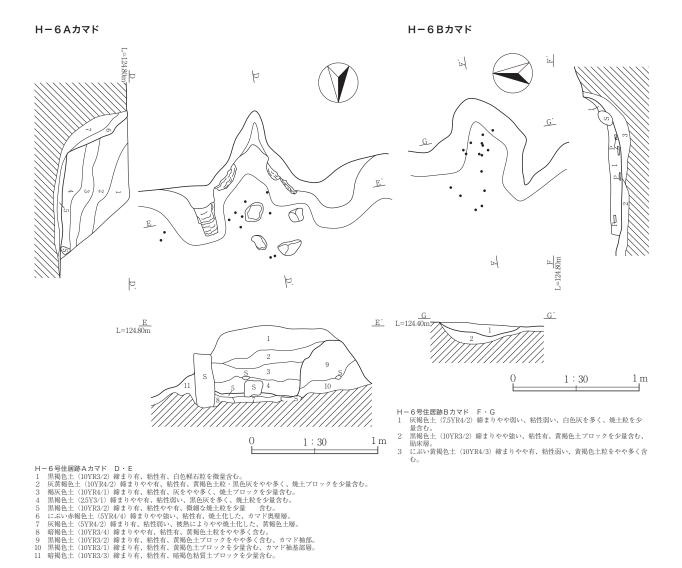
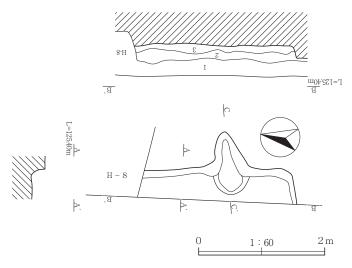


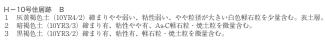
Fig.23 (116) H - 4 号住居跡

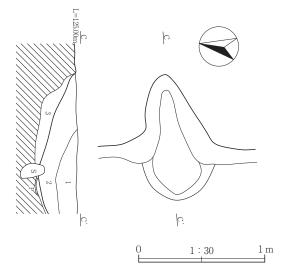




H - 10H-10 カマド

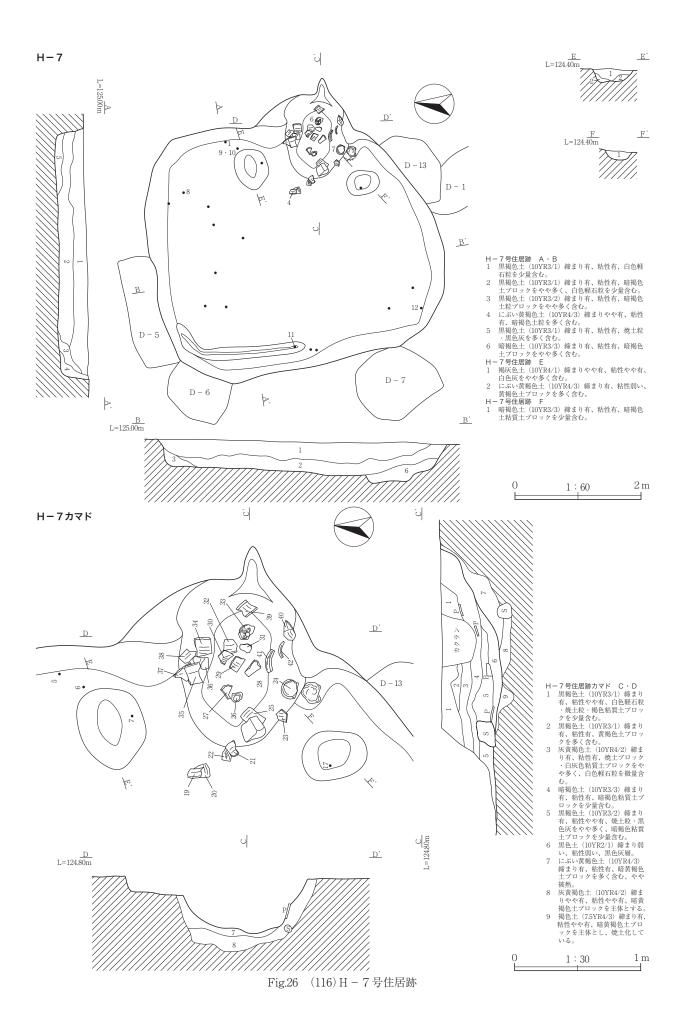






H-10号住居跡カマド C 1 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) 締まり有、粘性有、焼土粒・ブロックをやや多く含む。 2 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり有、粘性有、黒色灰をやや多く含む。 3 黒褐色土 (10YR3/2) 締まり有、粘性有、軽石粒を微量含む。

Fig.25 (116) H - 6 · 10 号住居跡



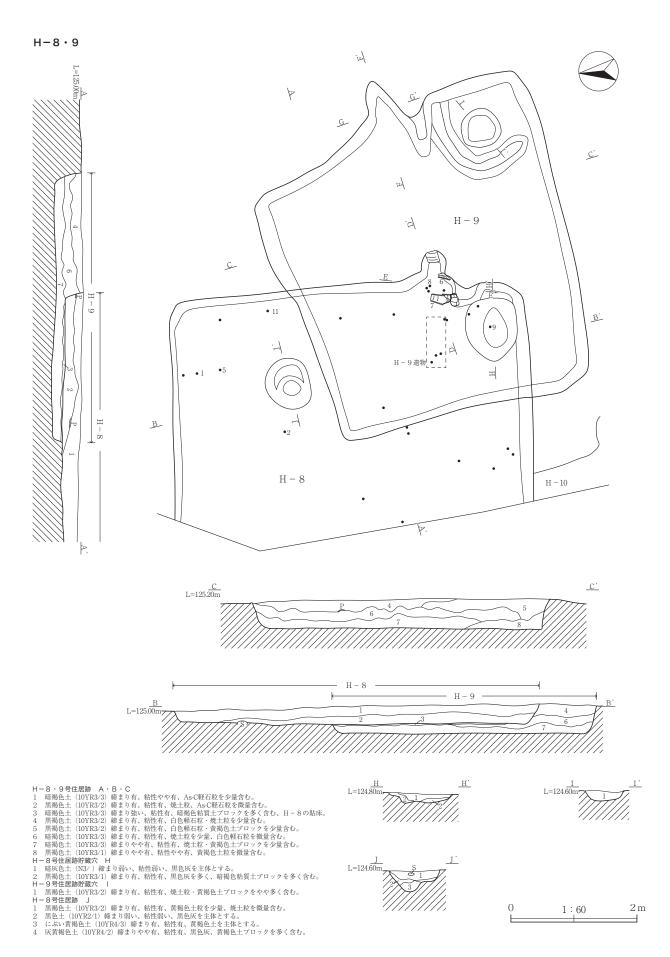


Fig.27 (116) H - 8 · 9 号住居跡

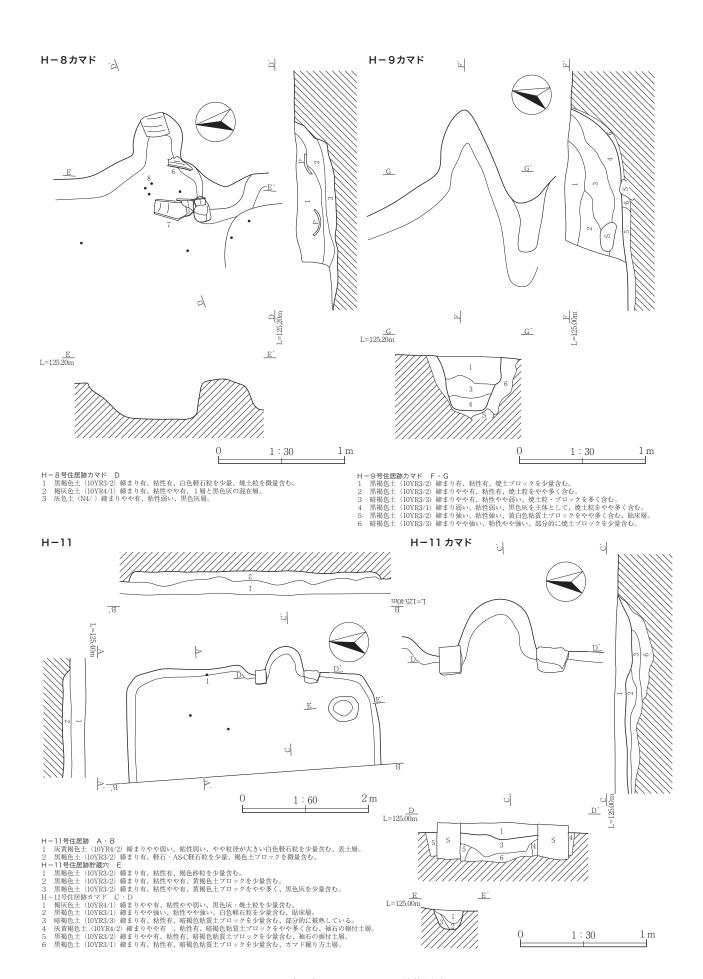


Fig.28 (116) H - 8 · 9 · 11 号住居跡

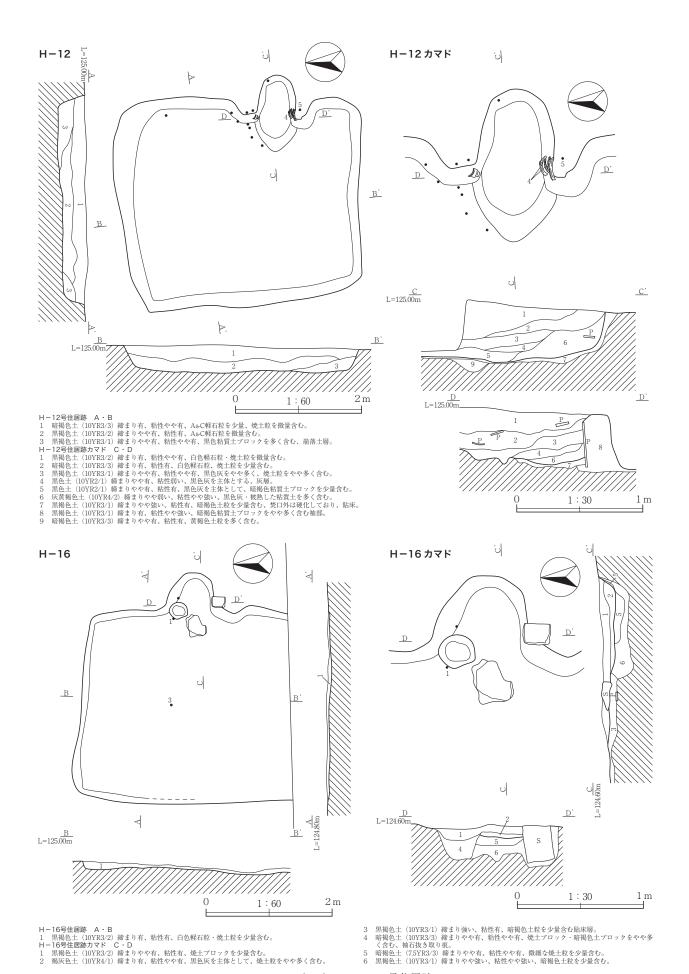
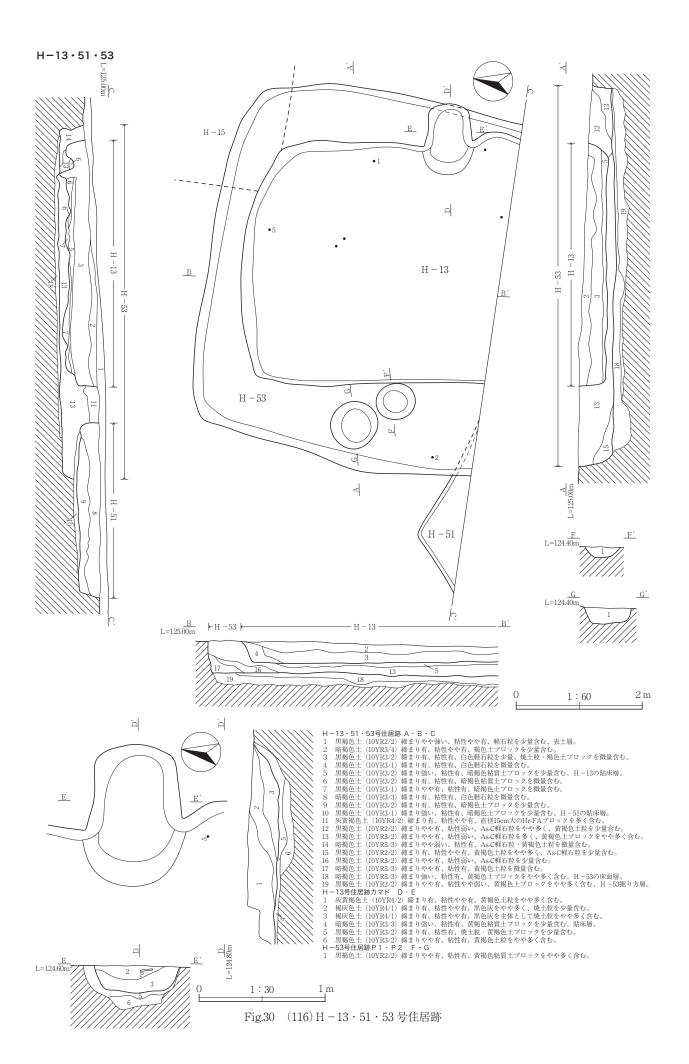
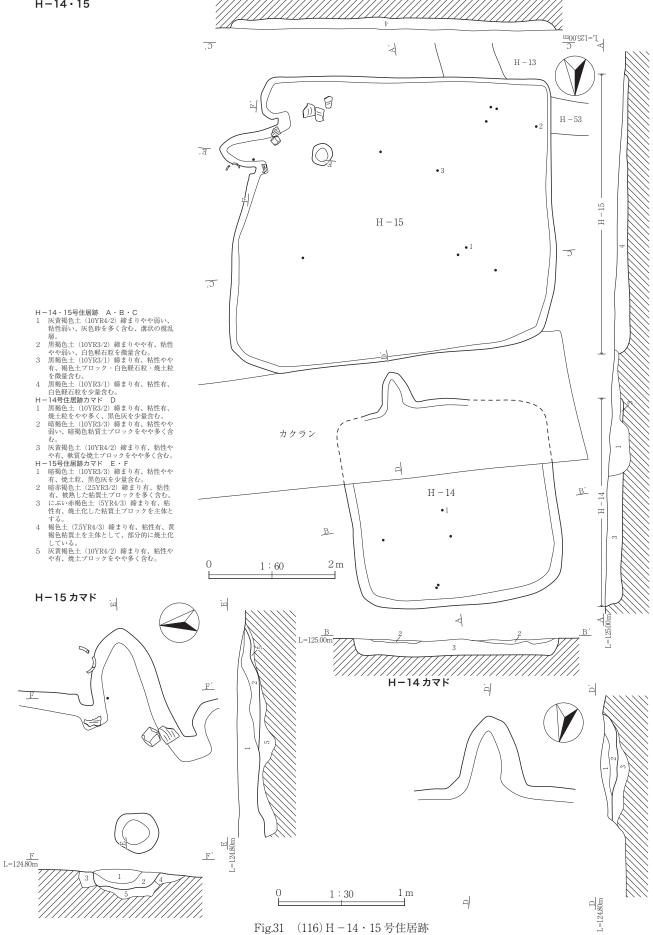


Fig.29 (116) H - 12 · 16 号住居跡





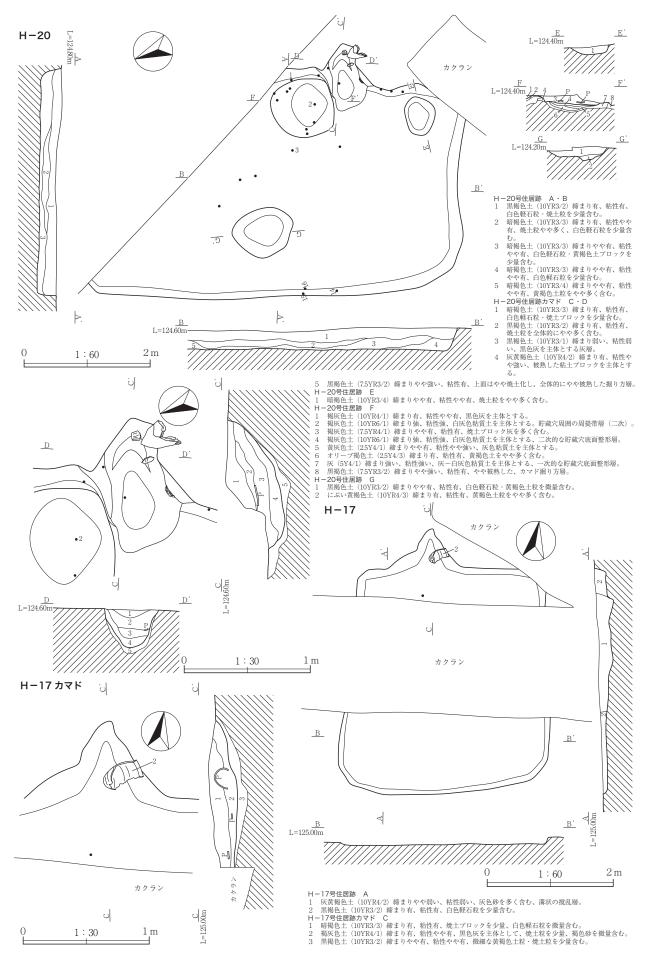


Fig.32 (116) H - 17 · 20 号住居跡

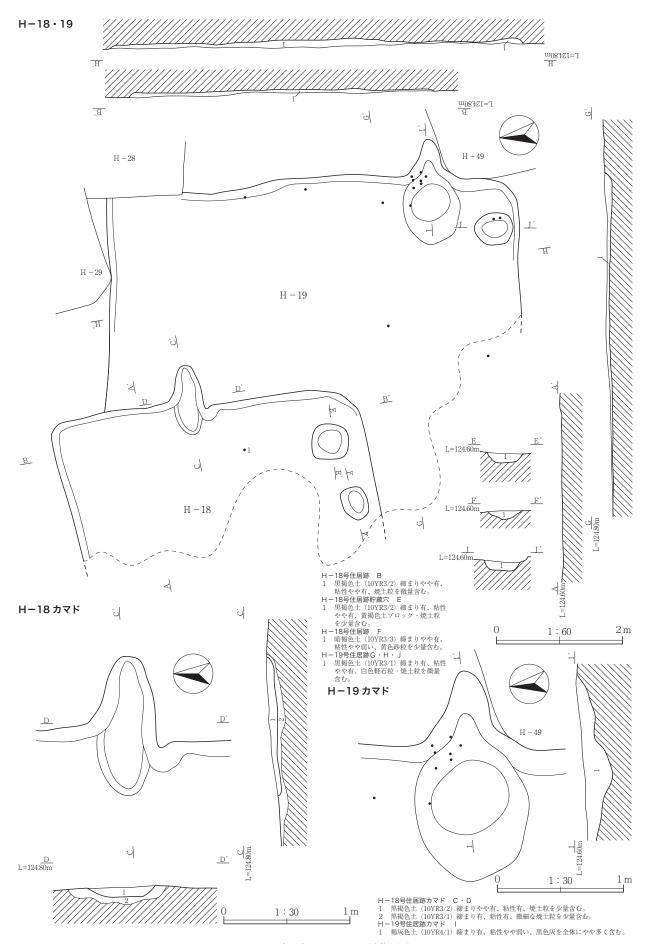


Fig.33 (116) H - 18 · 19 号住居跡

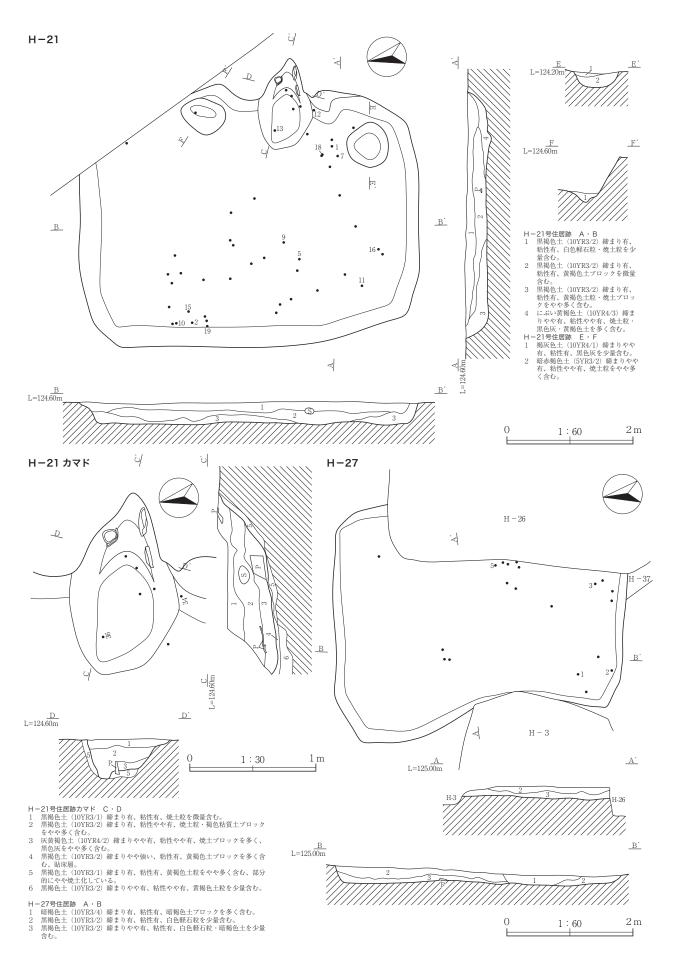


Fig.34 (116) H - 21 · 27 号住居跡

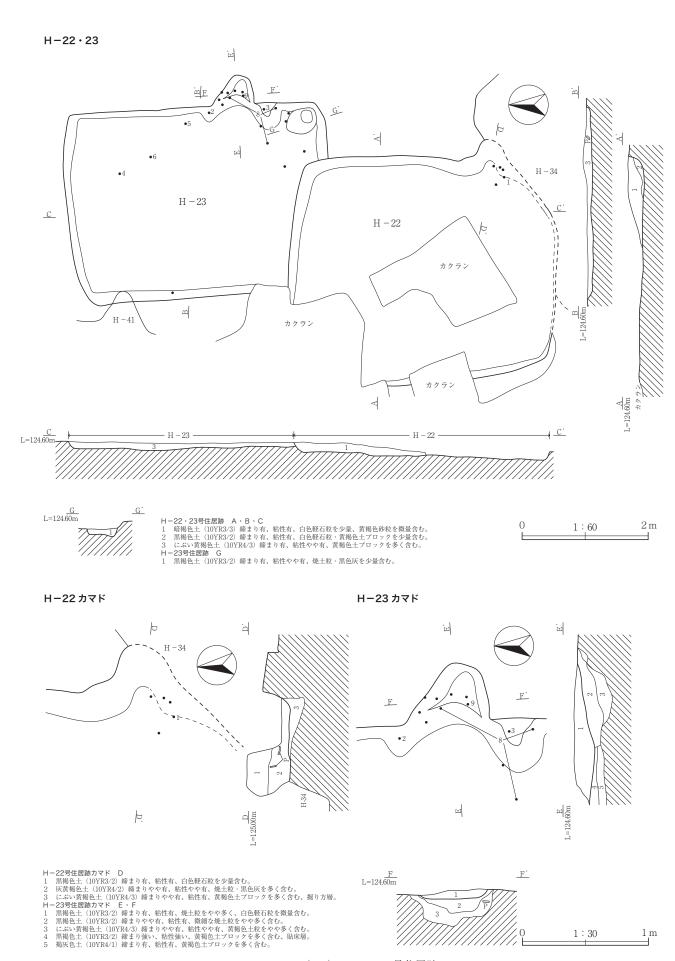
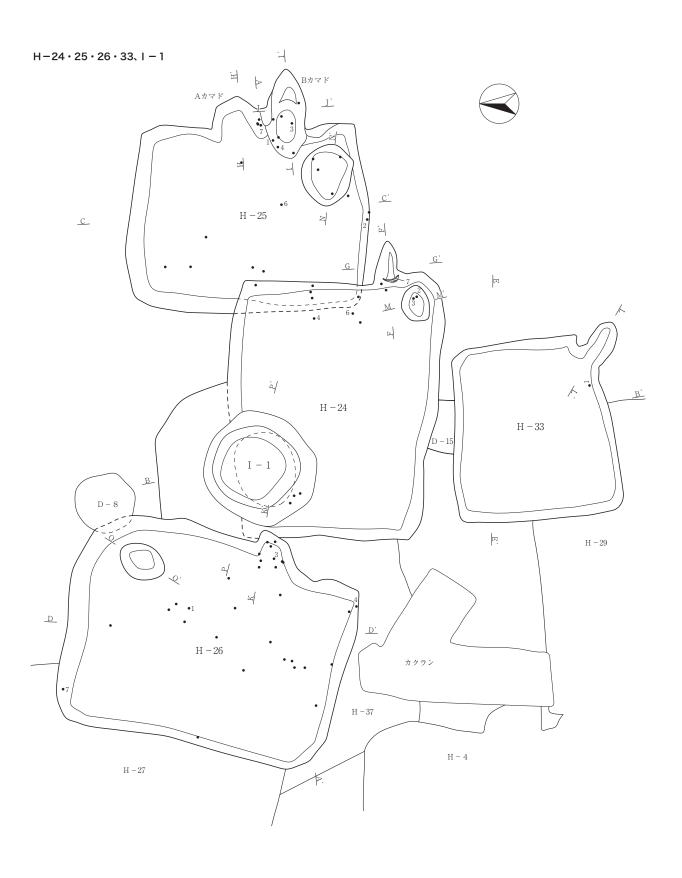


Fig.35 (116) H - 22 · 23 号住居跡



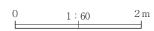
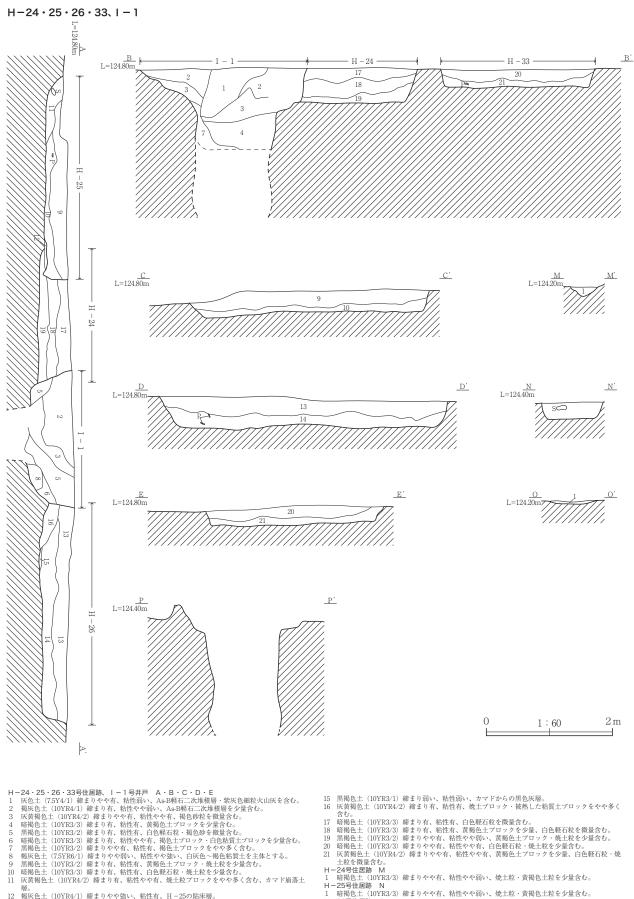


Fig.36 (116)H $-24 \sim 26 \cdot 33$ 号住居跡、I -1 号井戸(1)



- 層。 傷灰色土(10YR4/1)締まりやや強い、粘性有、H‐25の貼床層。 黒褐色土(10YR3/2)締まり有、粘性有、白色軽石粒を少量、焼土粒を微量含む。 暗褐色土(10YR3/3)締まり有、粘性有、灰色粘質土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。

- 15 黒褐色土 (10YR3/1) 締まり弱い、粘性弱い、カマドからの黒色灰層。
 反黄褐色土 (10YR4/2) 締まり有、粘性有、焼土ブロック・被熱した粘質土ブロックをやや多く合む。
 17 暗褐色土 (10YR3/3) 締まり有、粘性有、白色軽石粒を微量含む。
 18 暗褐色土 (10YR3/2) 締まり有、粘性有、白色軽石粒を微量含む。
 19 黒褐色土 (10YR3/2) 締まりやや有、粘性やや弱い、黄褐色土ブロック・焼土粒を少量含む。
 20 暗褐色土 (10YR3/2) 締まりやや有、粘性やや有、白色軽石粒・焼土粒を少量含む。
 17 天黄褐色土 (10YR3/2) 締まりやや有、粘性やや有、黄褐色土ブロックを少量、白色軽石粒・焼土粒を微量含む。
 18 「新褐色土 (10YR3/3) 締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒・黄褐色土粒を少量含む。
 18 田褐色土 (10YR3/3) 締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒・黄褐色土粒を少量含む。
 18 暗褐色土 (10YR3/3) 締まりやや有、粘性やや弱い、焼土粒・黄褐色土粒を少量含む。
 18 田名号住居跡 O

Fig.37 (116) $H - 24 \sim 26 \cdot 33$ 号住居跡 $\cdot I - 1$ 号井戸 (2)

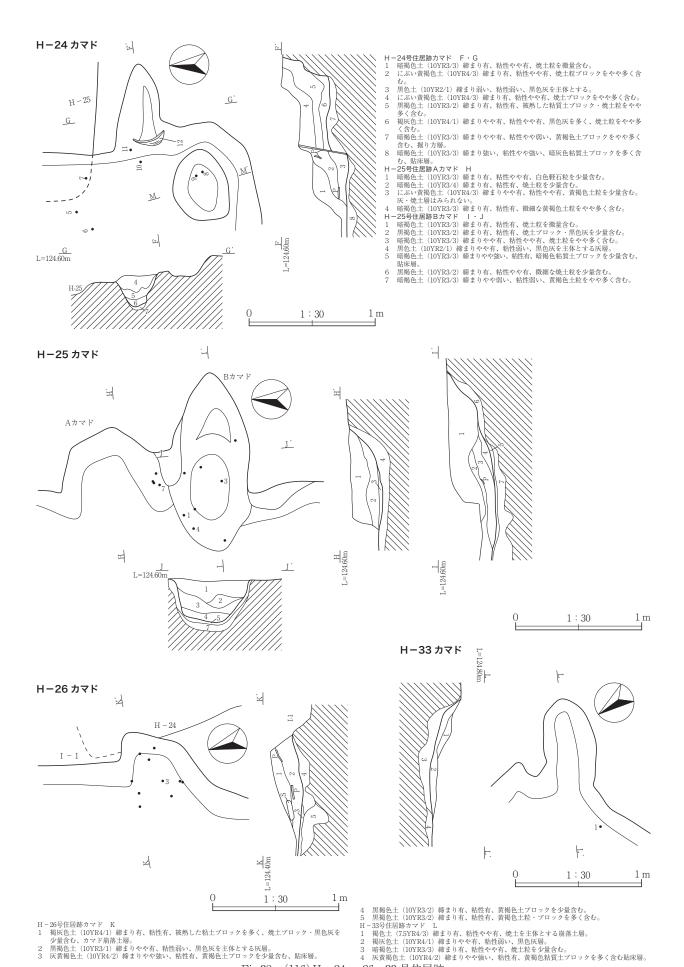


Fig.38 (116) H $-24 \sim 26 \cdot 33$ 号住居跡

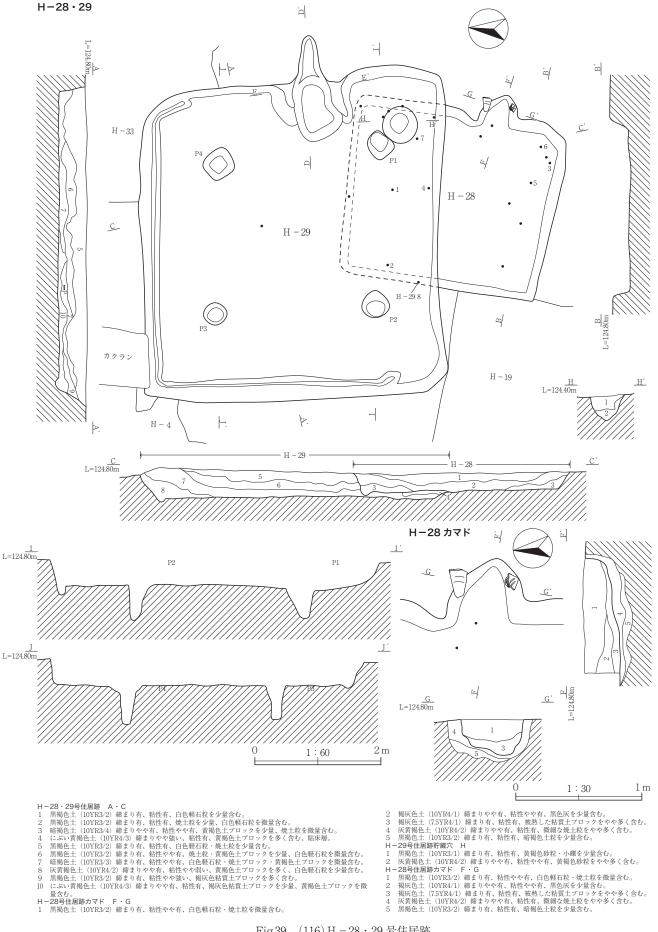
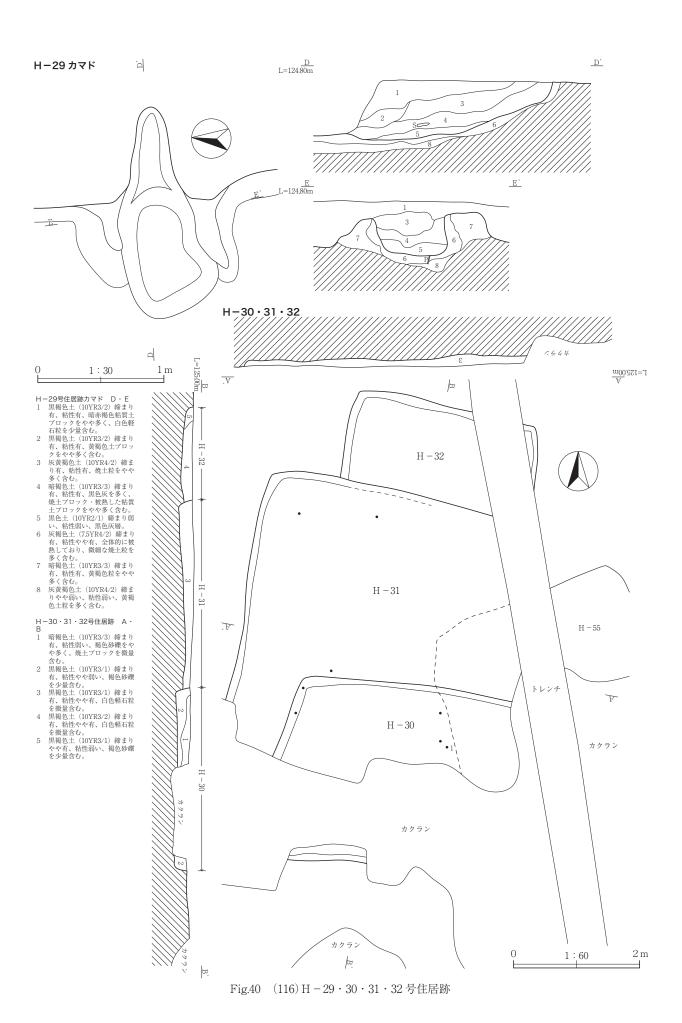


Fig.39 (116) H - 28 · 29 号住居跡



- 81 -

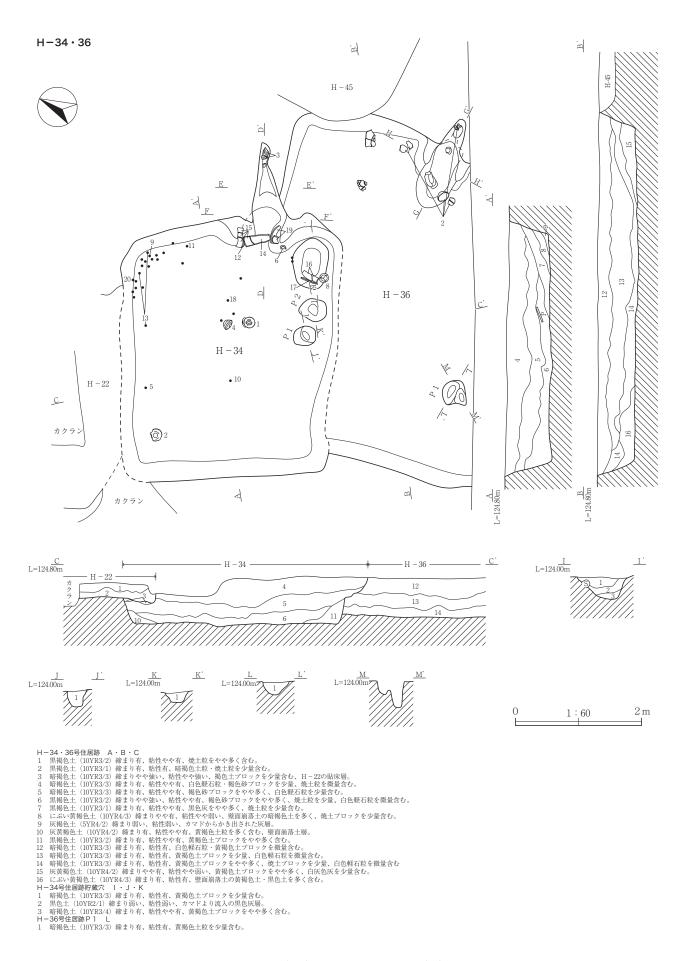


Fig.41 (116) H - 34·36 号住居跡 (1)

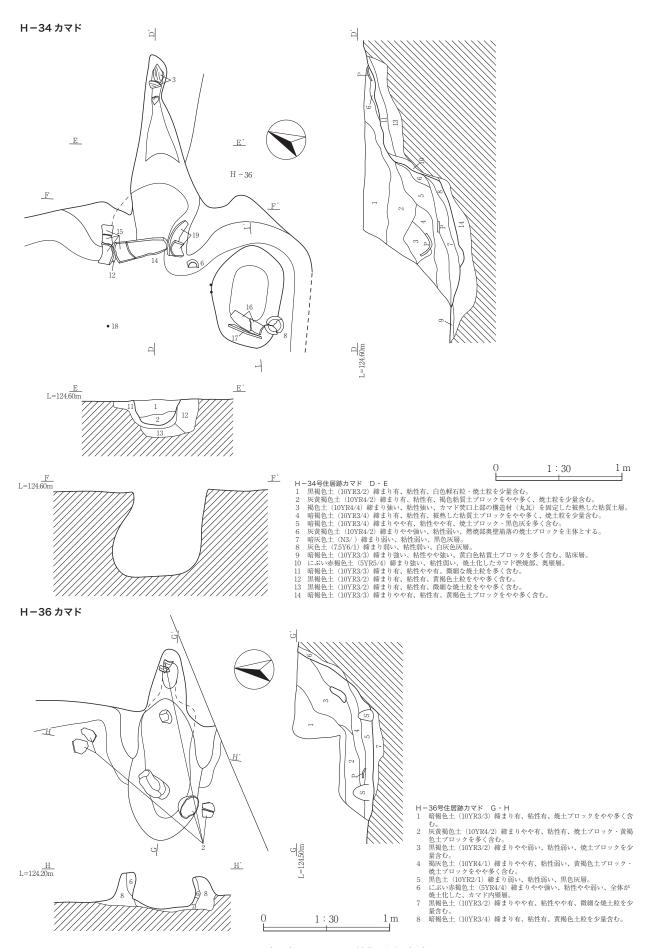
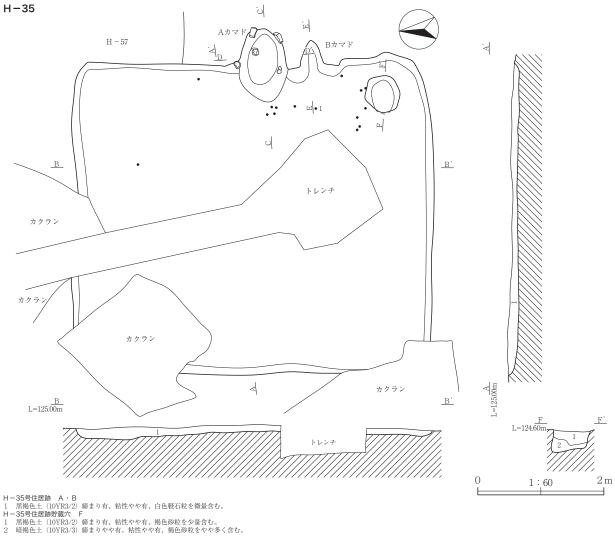
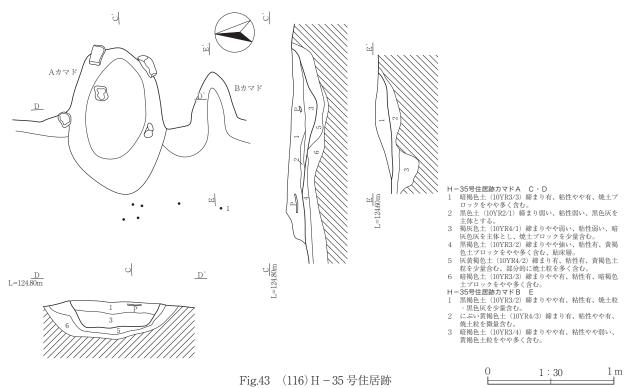


Fig.42 (116) H - 34·36 号住居跡 (2)



H-35 カマド



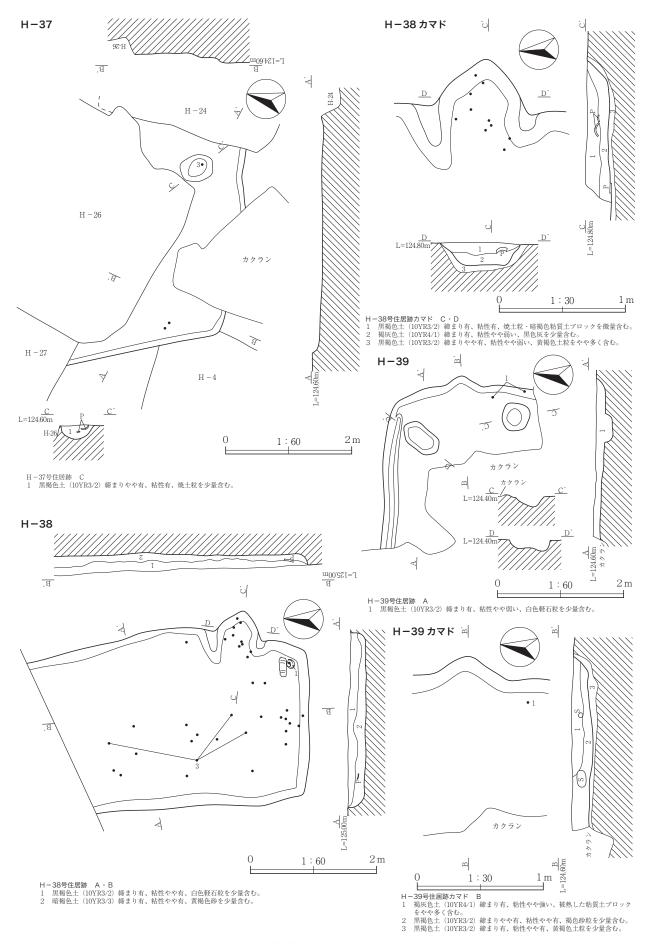


Fig.44 (116) H - 37 · 38 · 39 号住居跡

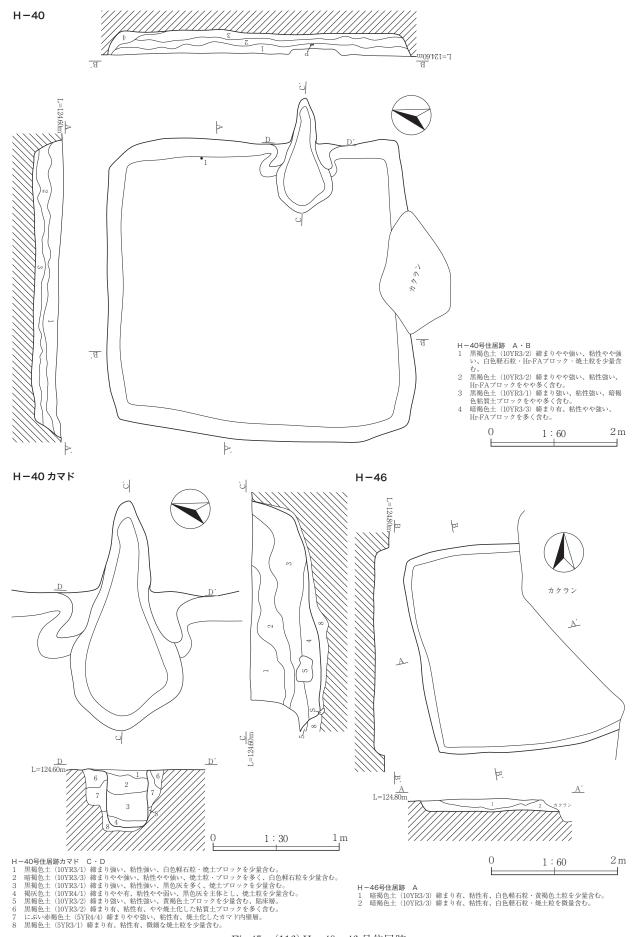


Fig.45 (116) H - 40 · 46 号住居跡

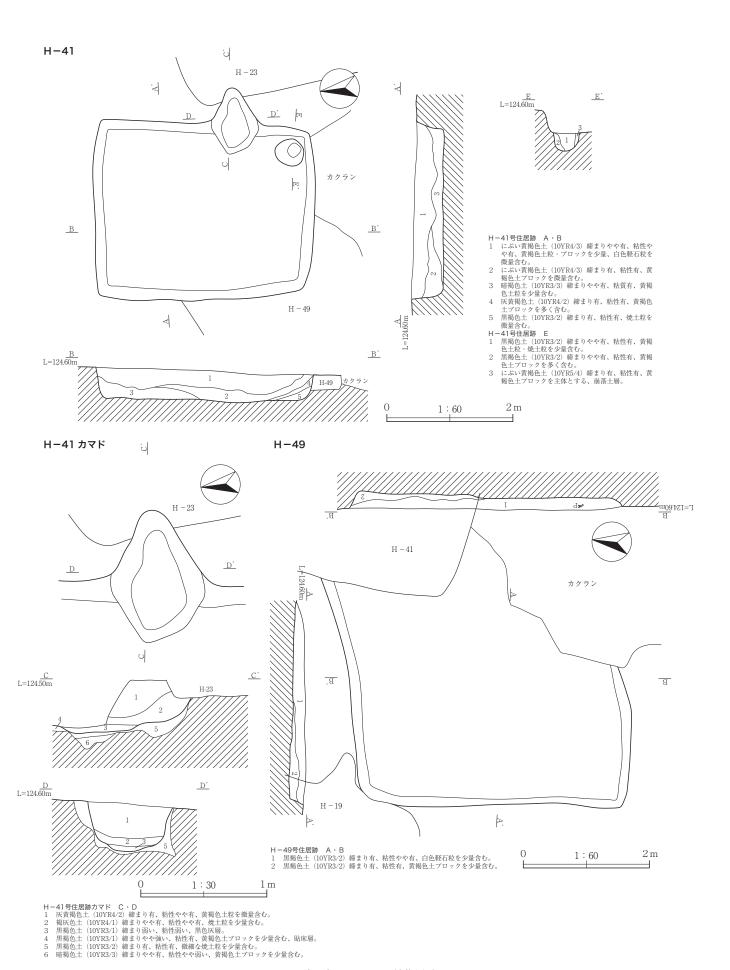


Fig.46 (116) H - 41 · 49 号住居跡

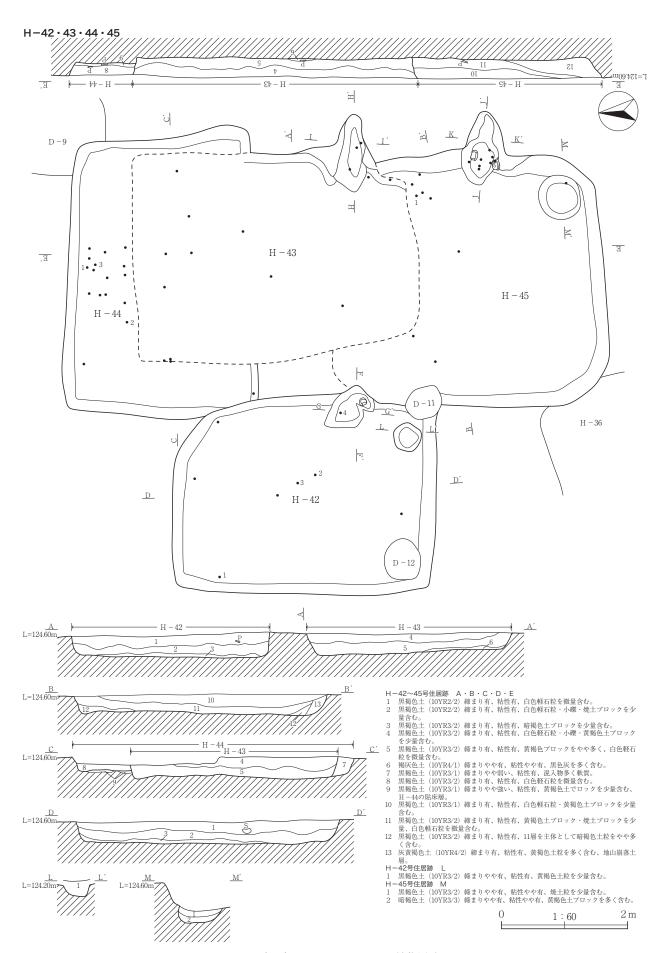


Fig.47 (116) H - 42 · 43 · 44 · 45 号住居跡

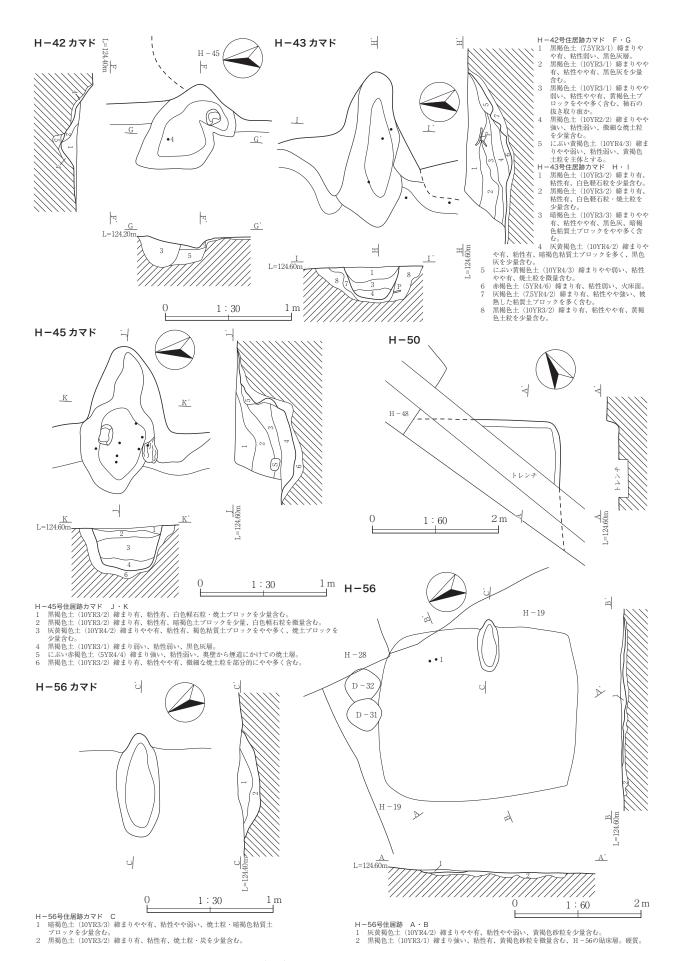


Fig.48 (116) H - 42 · 43 · 45 · 50 · 56 号住居跡

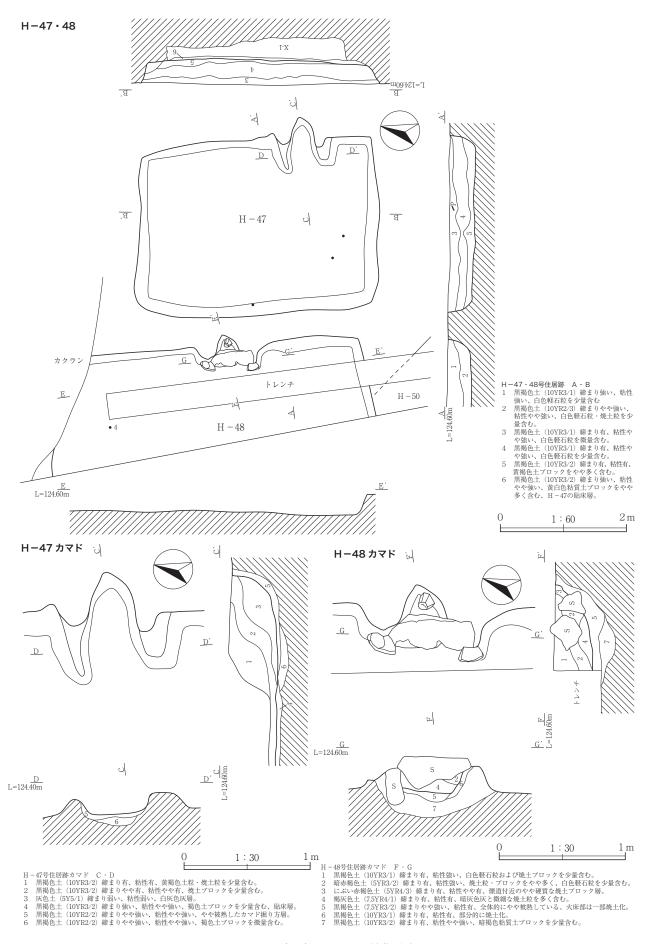


Fig.49 (116) H - 47 · 48 号住居跡

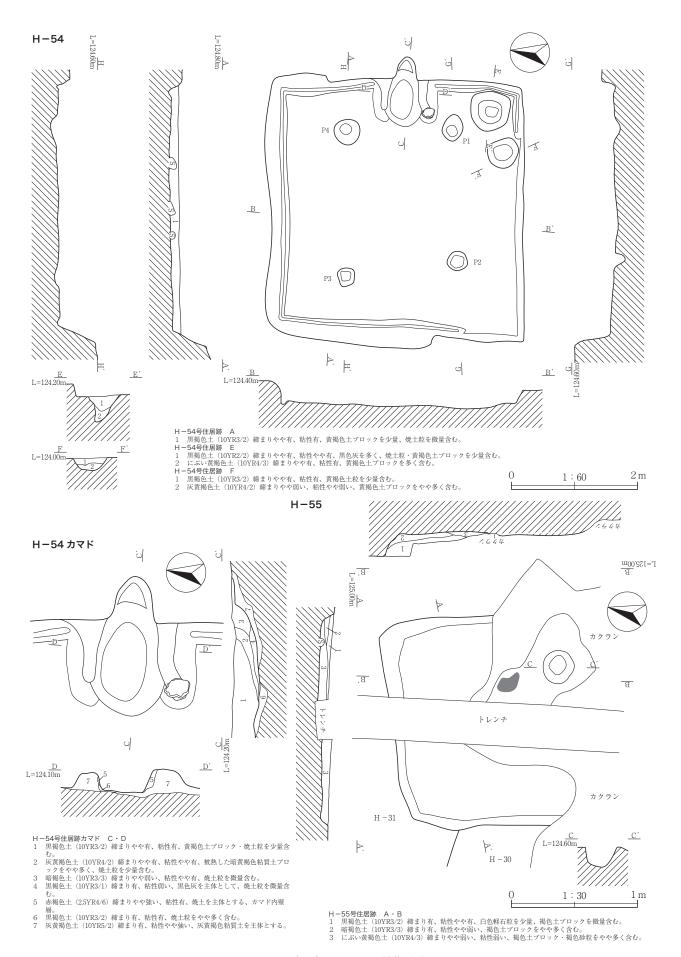


Fig.50 (116) H - 54 · 55 号住居跡

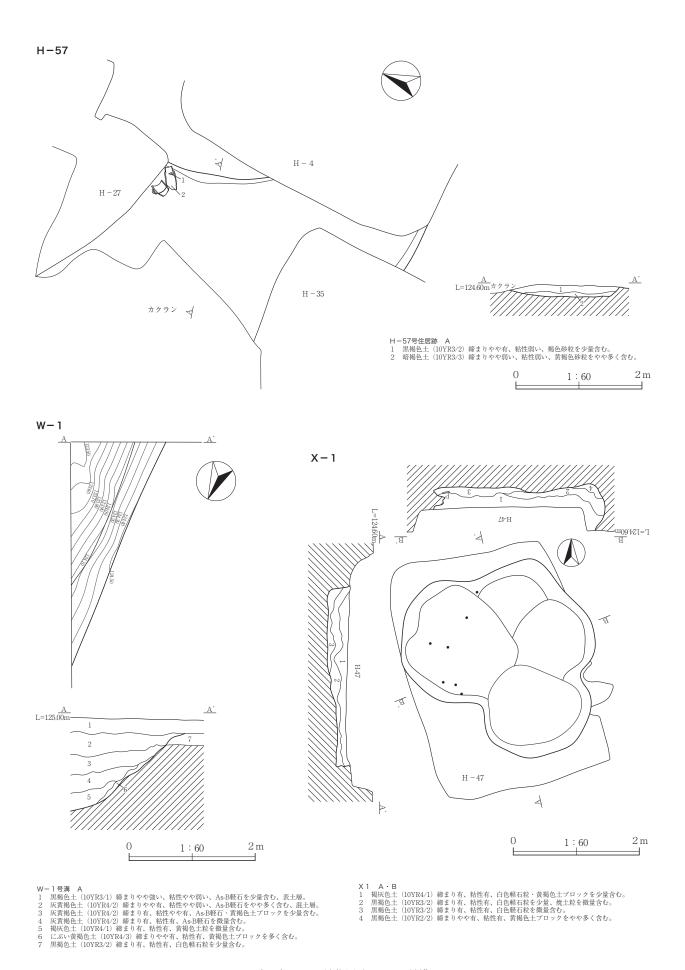


Fig.51 (116) H - 57 号住居跡、W - 1 号溝、X - 1

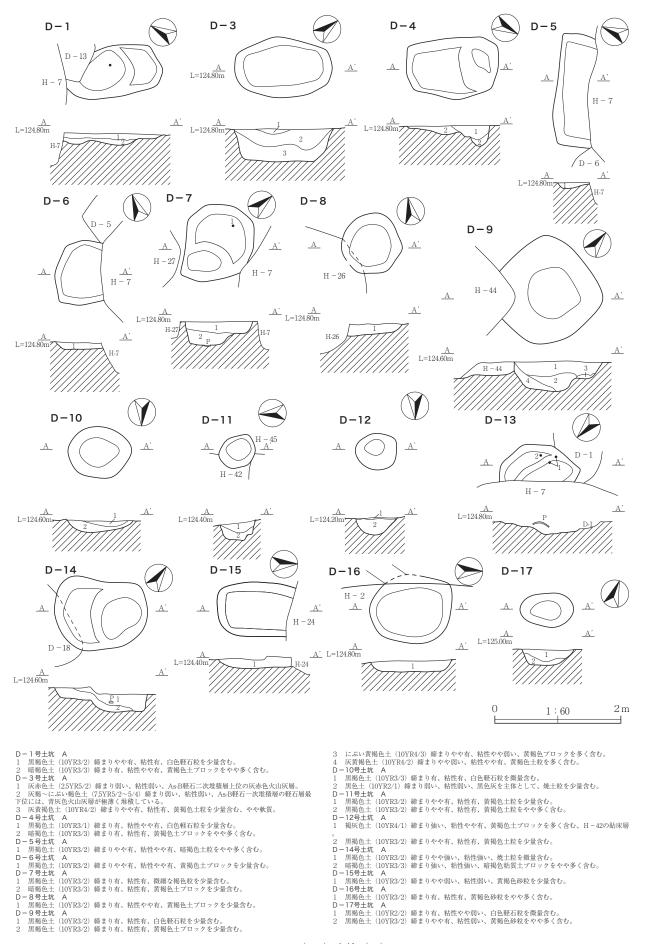


Fig.52 (116) 土坑 (1)

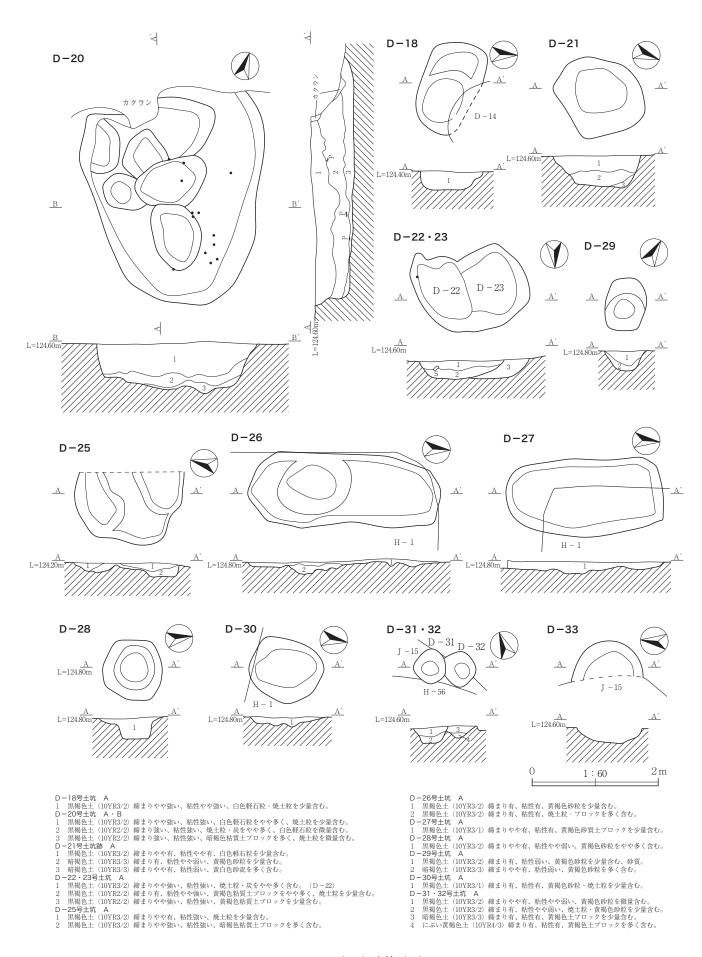
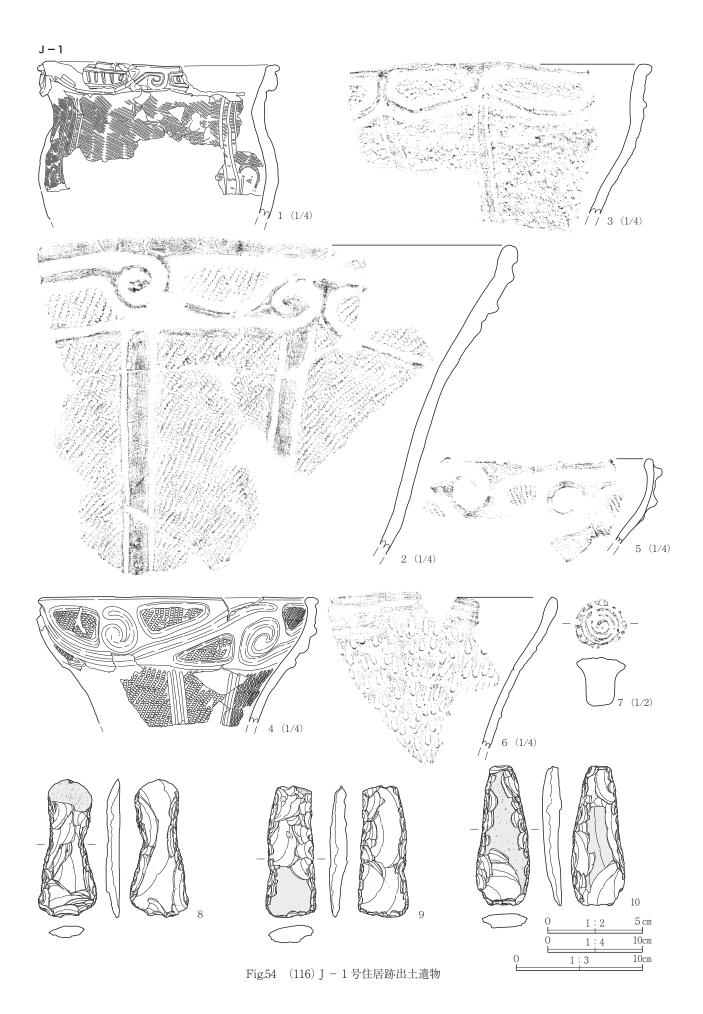


Fig.53 (116) 土坑 (2)



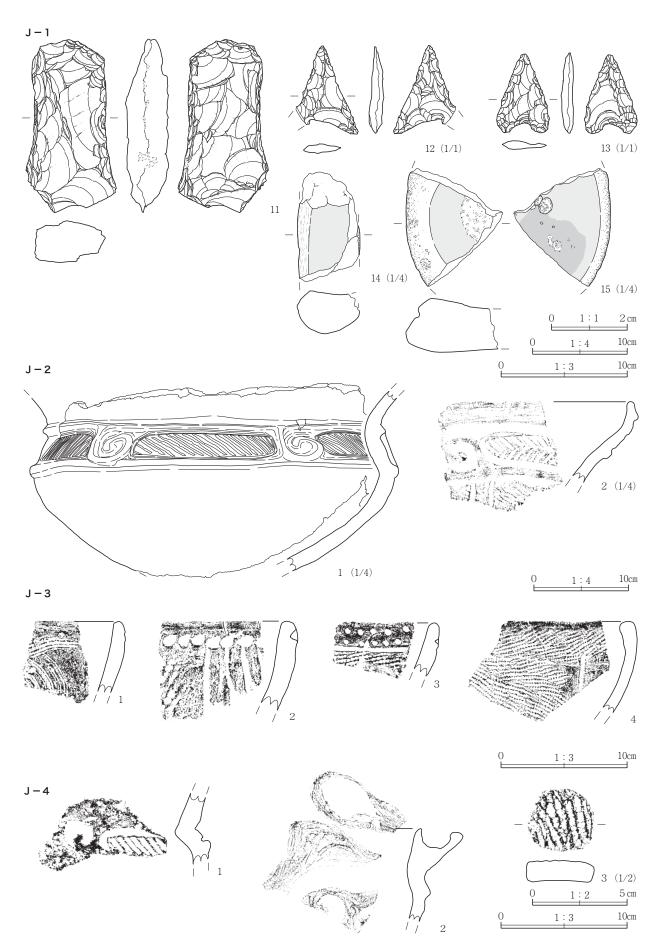


Fig.55 (116) J - 1 · 2 · 3 · 4 号住居跡出土遺物

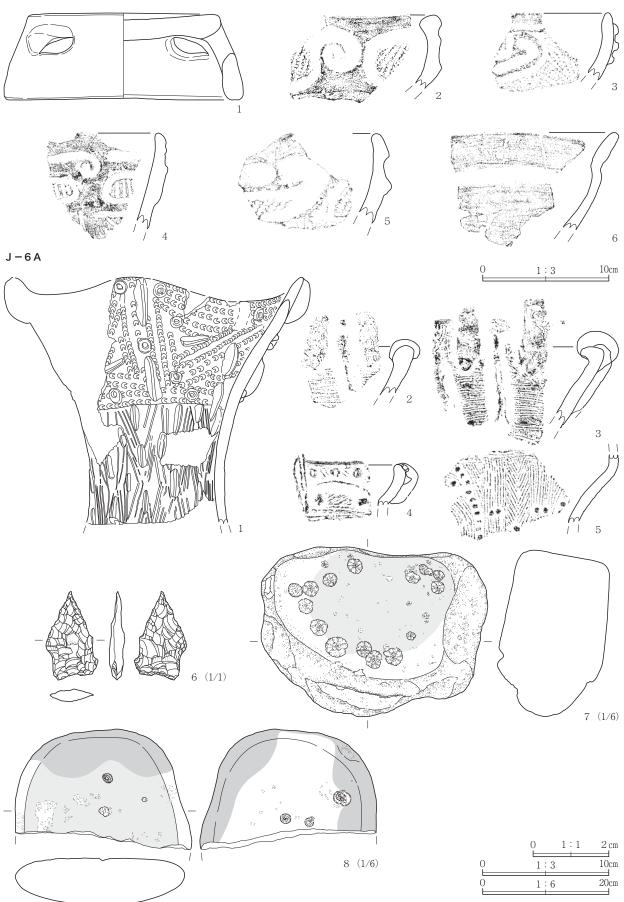


Fig.56 (116) J - 5 · 6 A 号住居跡出土遺物

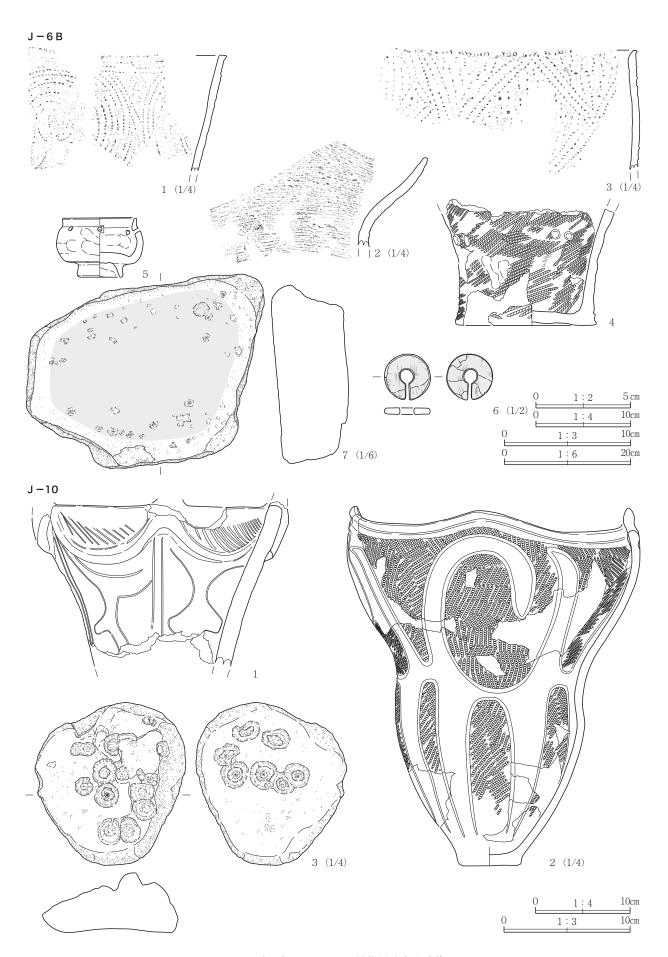


Fig.57 (116) J - 6 B · 10 号住居跡出土遺物

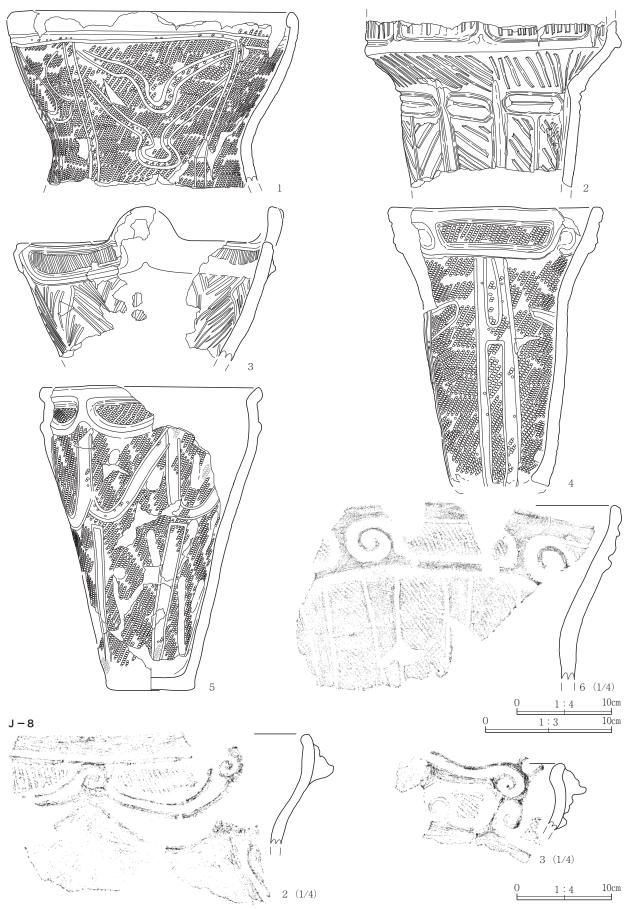
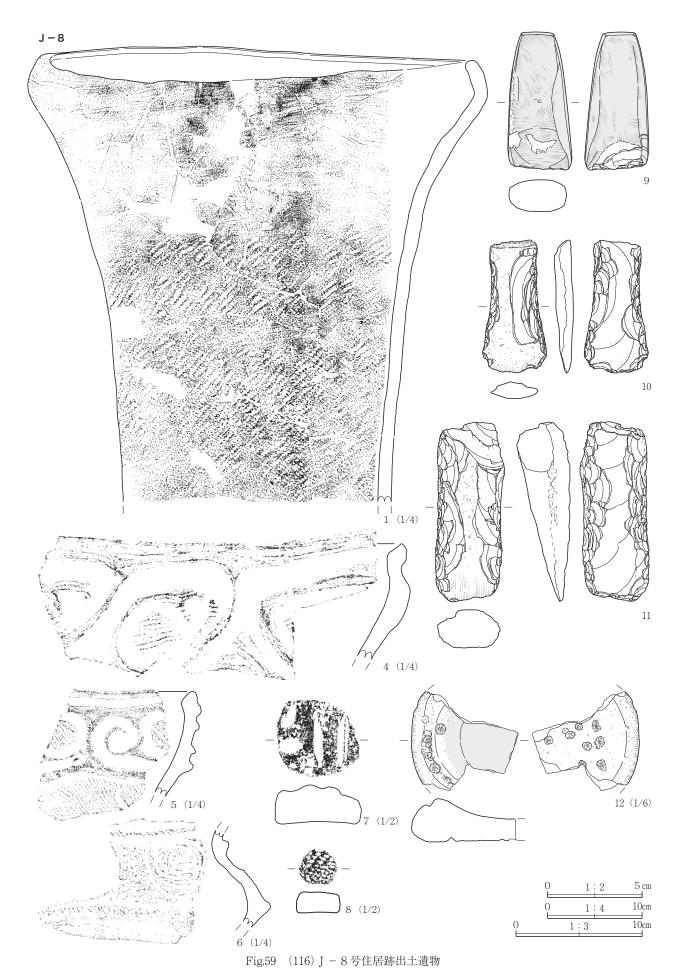
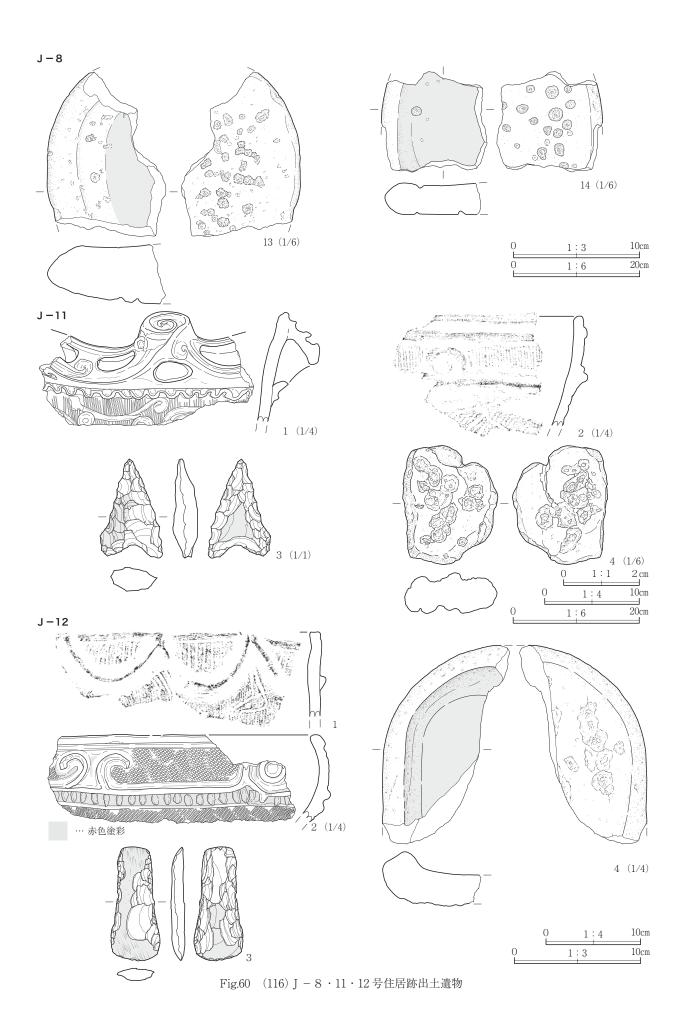
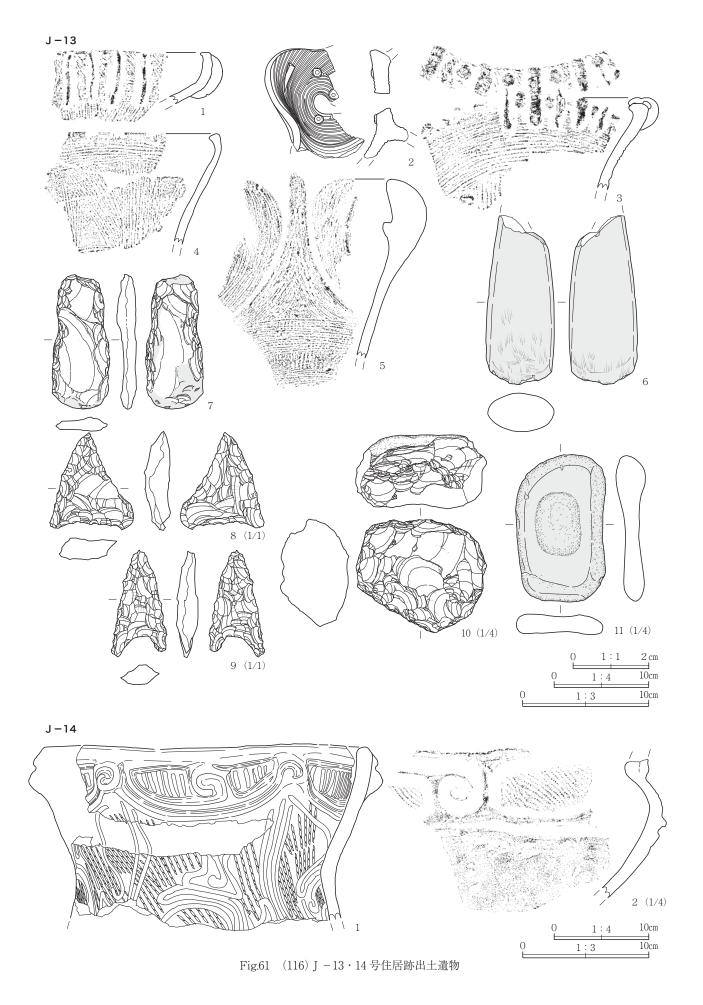


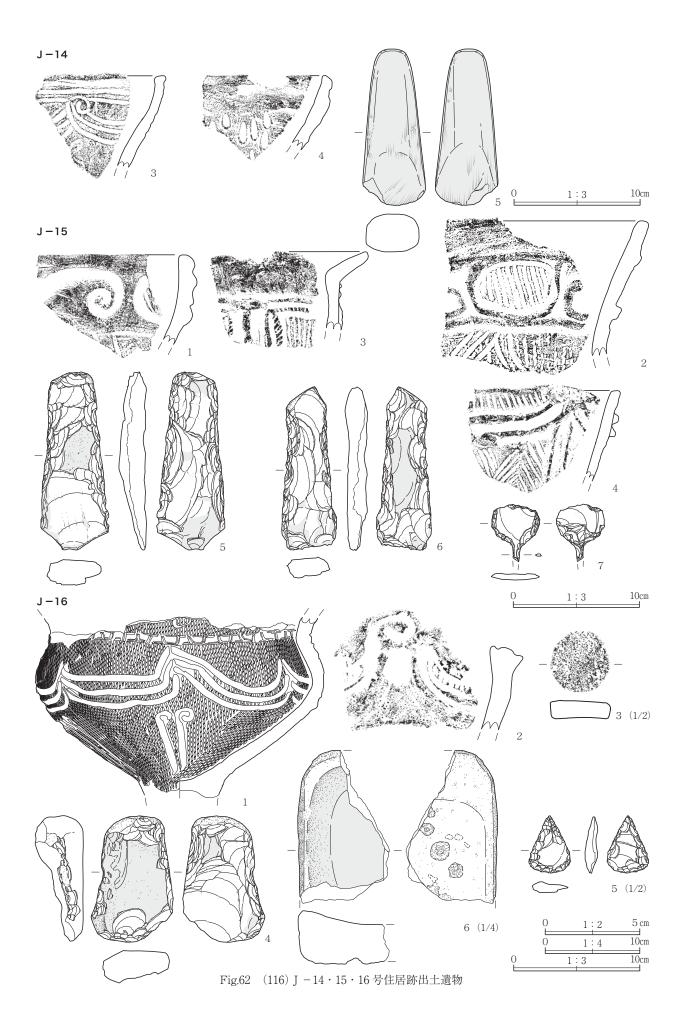
Fig.58 (116) J - 7 · 8 号住居跡出土遺物

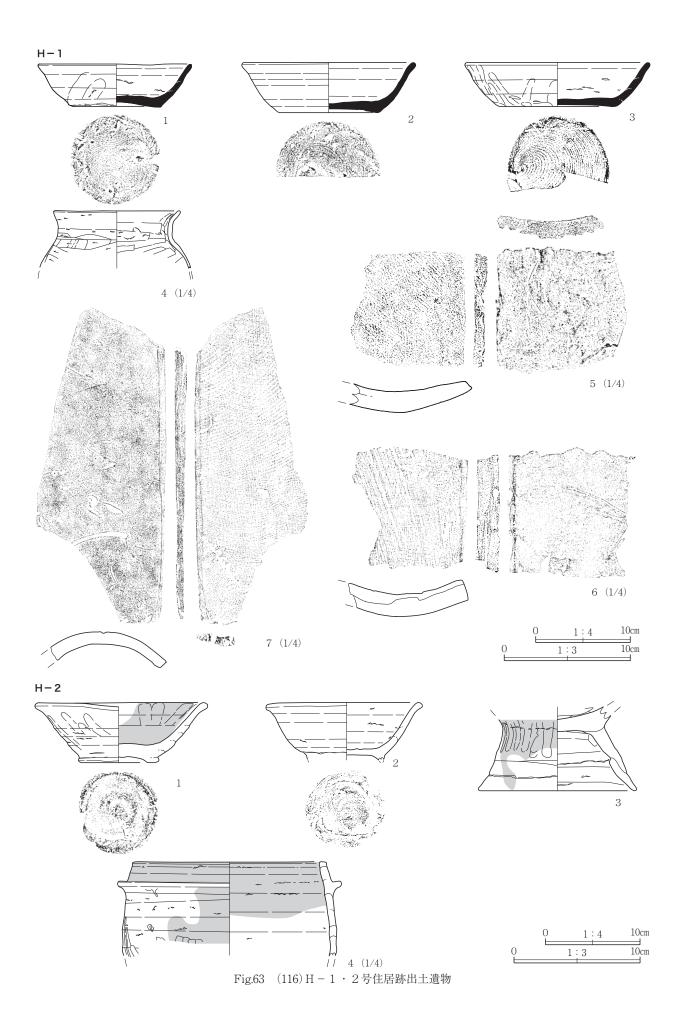


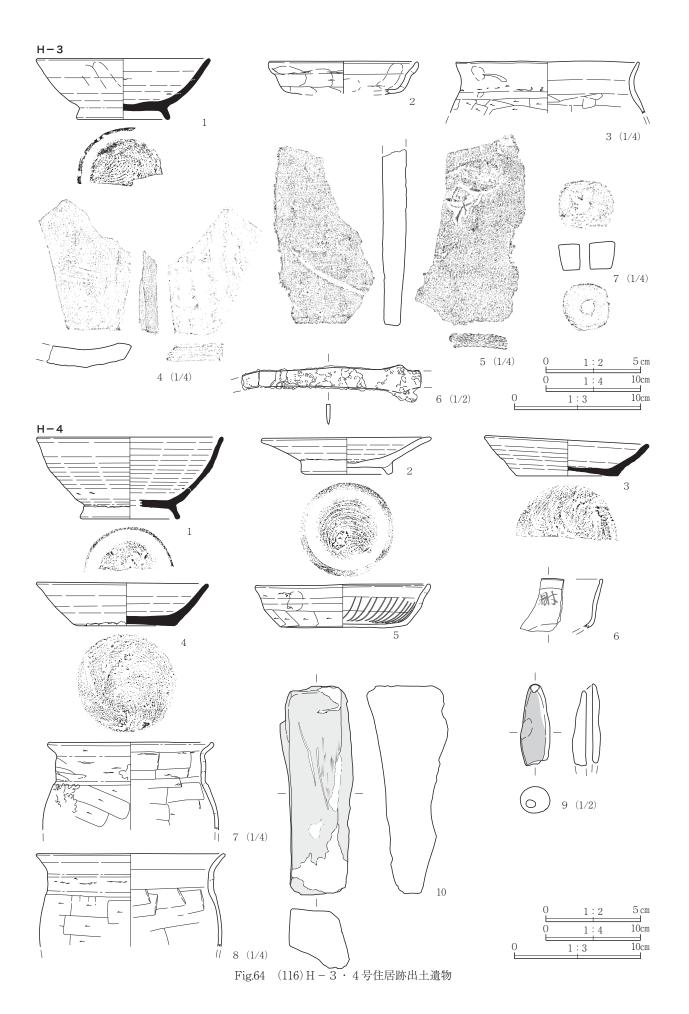


- 101 -









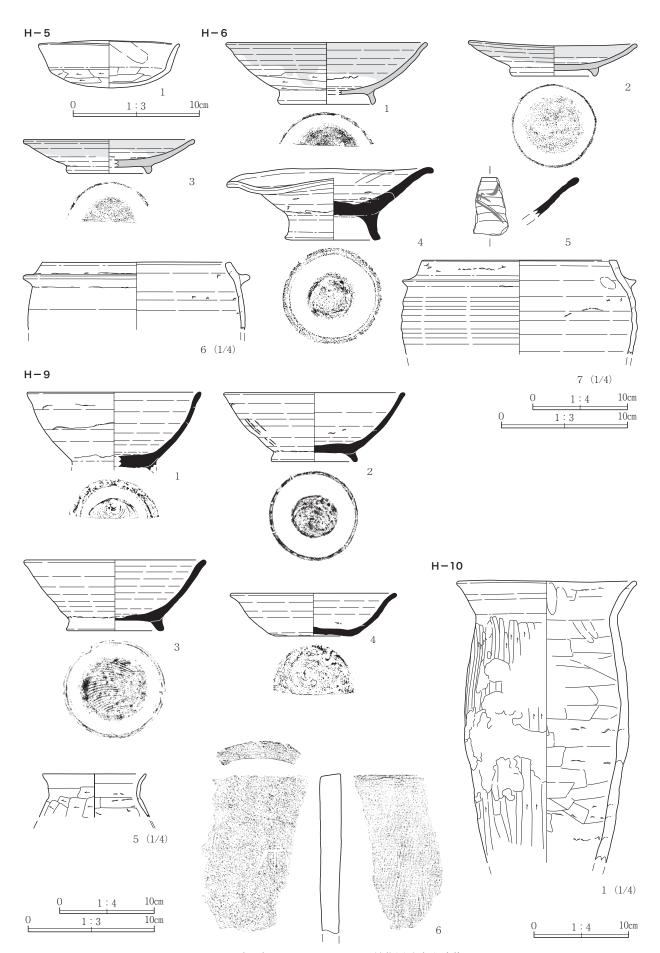


Fig.65 (116) H - 5 · 6 · 9 · 10 号住居跡出土遺物

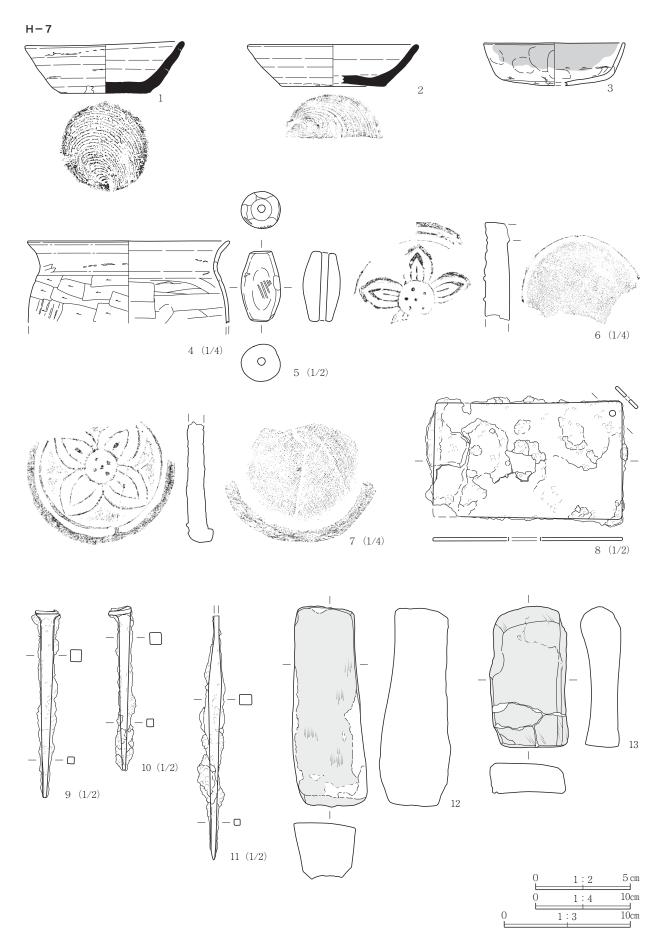


Fig.66 (116) H - 7 号住居跡出土遺物

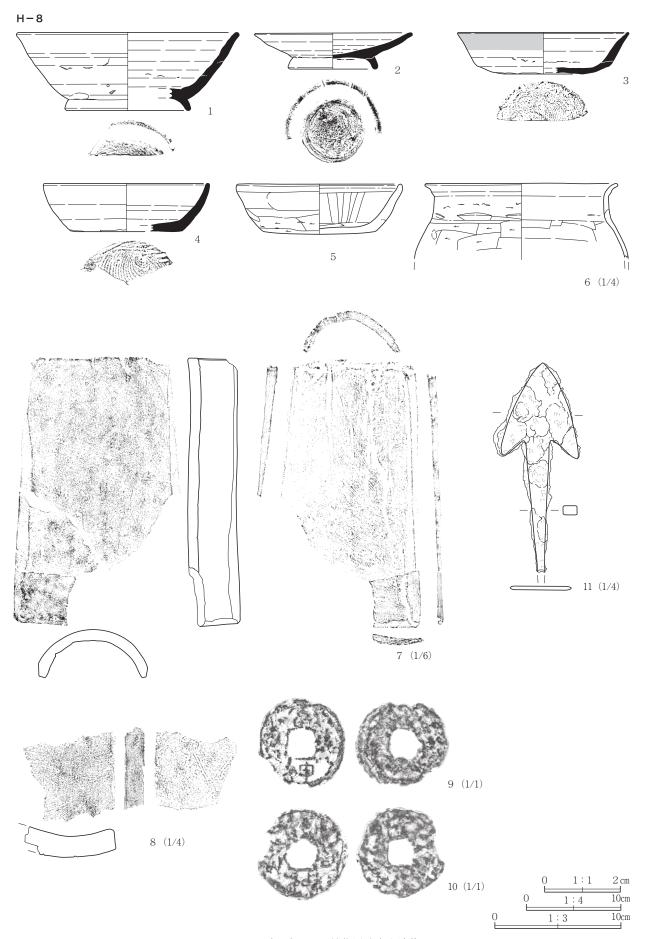
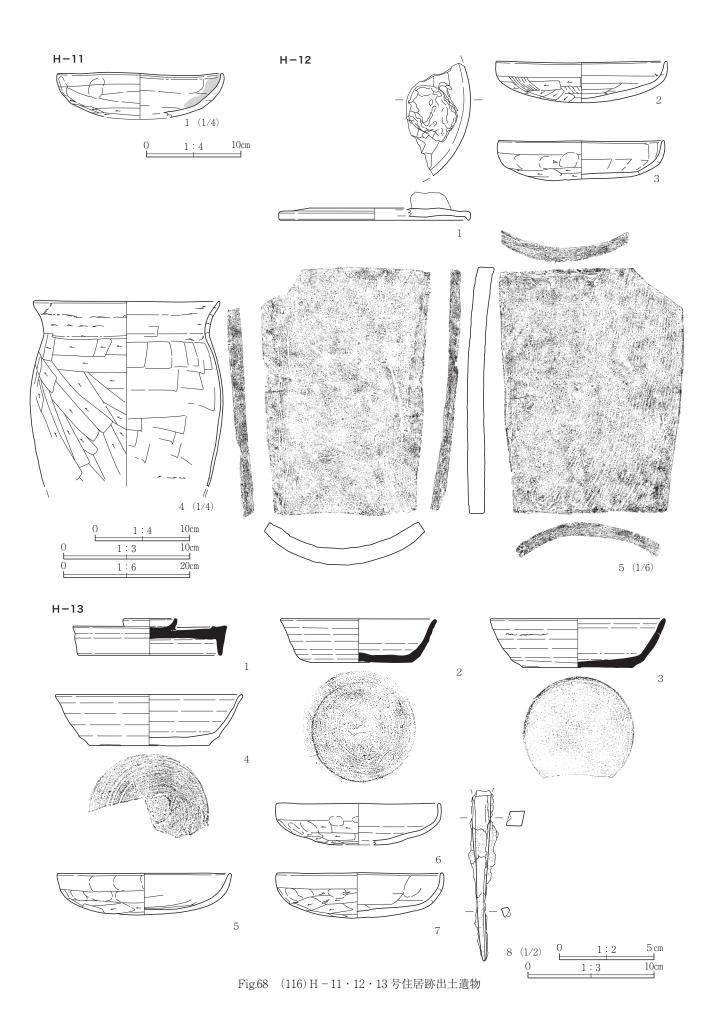


Fig.67 (116) H - 8 号住居跡出土遺物



- 109 -

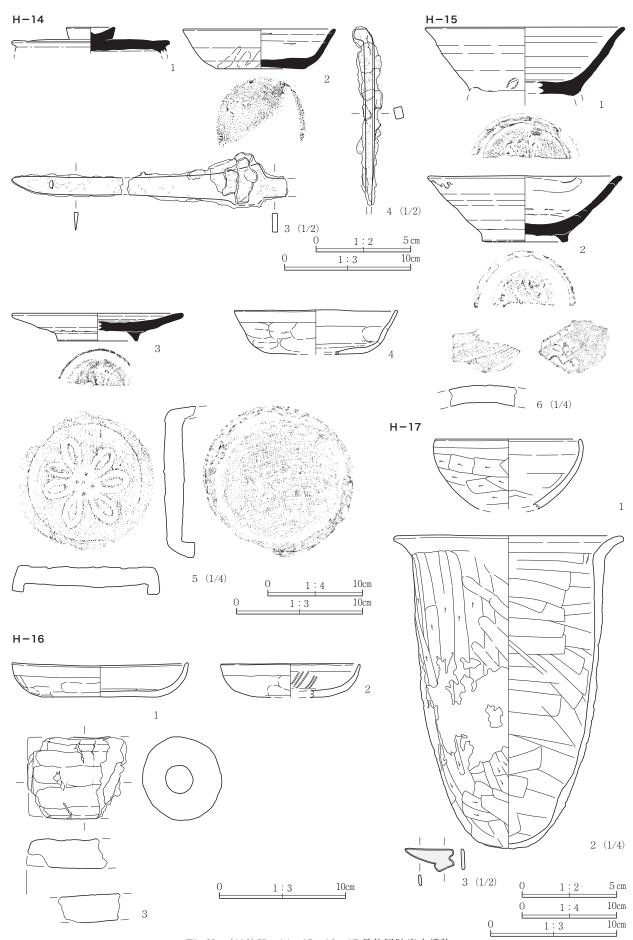
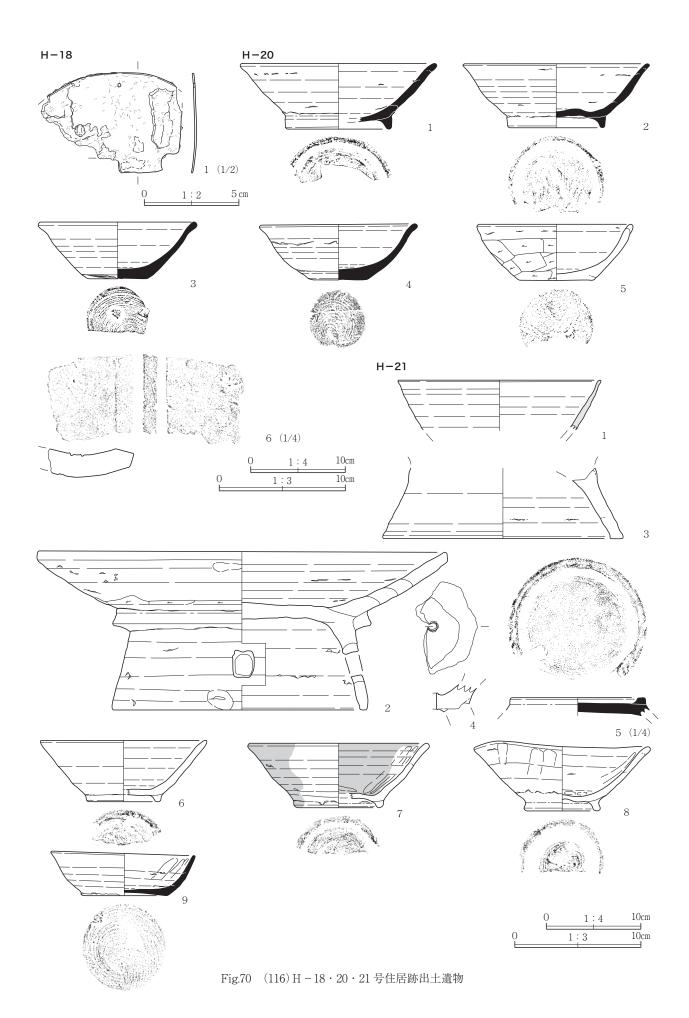
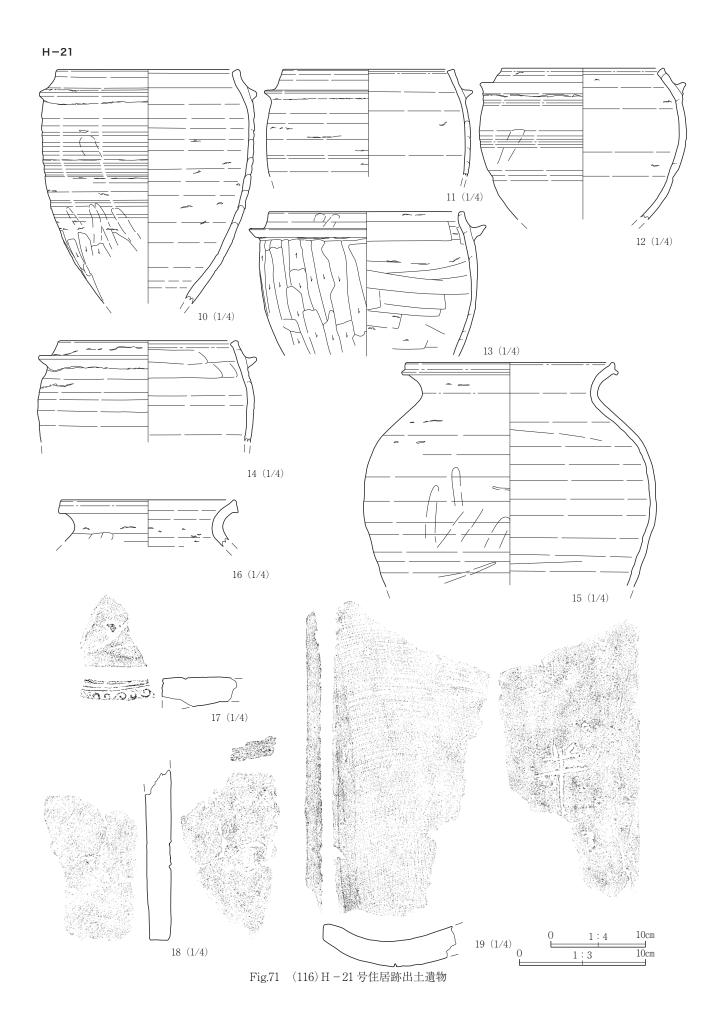


Fig.69 (116) H - 14 · 15 · 16 · 17 号住居跡出土遺物



- 111 -



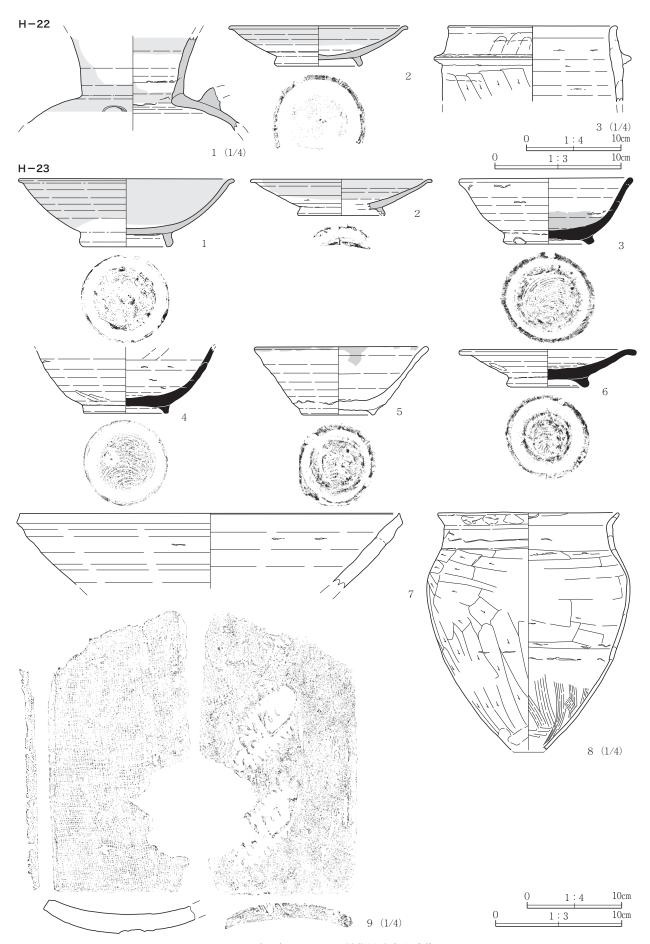
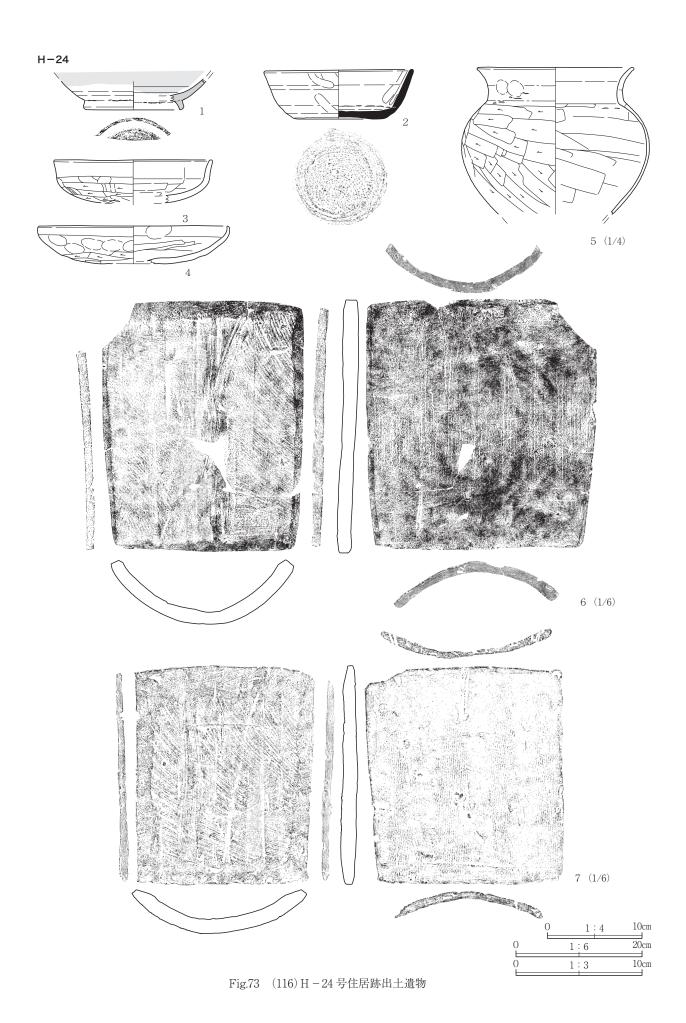


Fig.72 (116) H - 22 · 23 号住居跡出土遺物



- 114 -

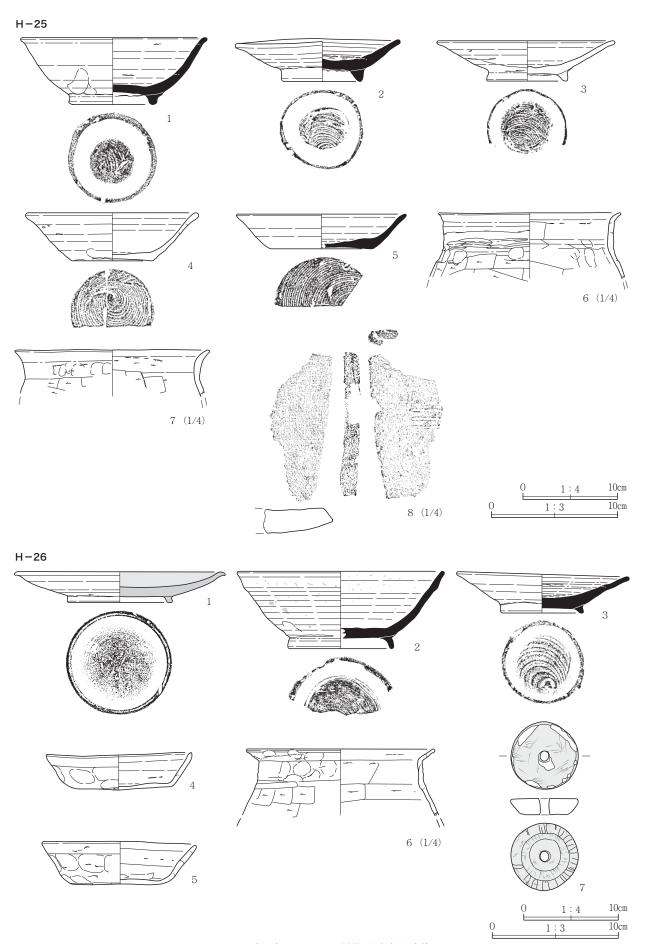


Fig.74 (116) H - 25 · 26 号住居跡出土遺物

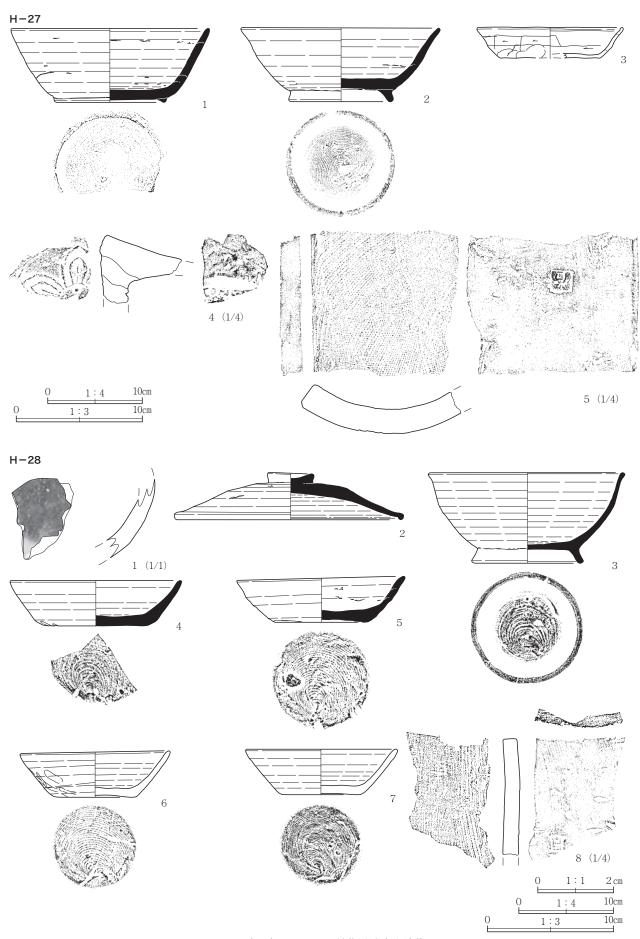


Fig.75 (116) H - 27 · 28 号住居跡出土遺物

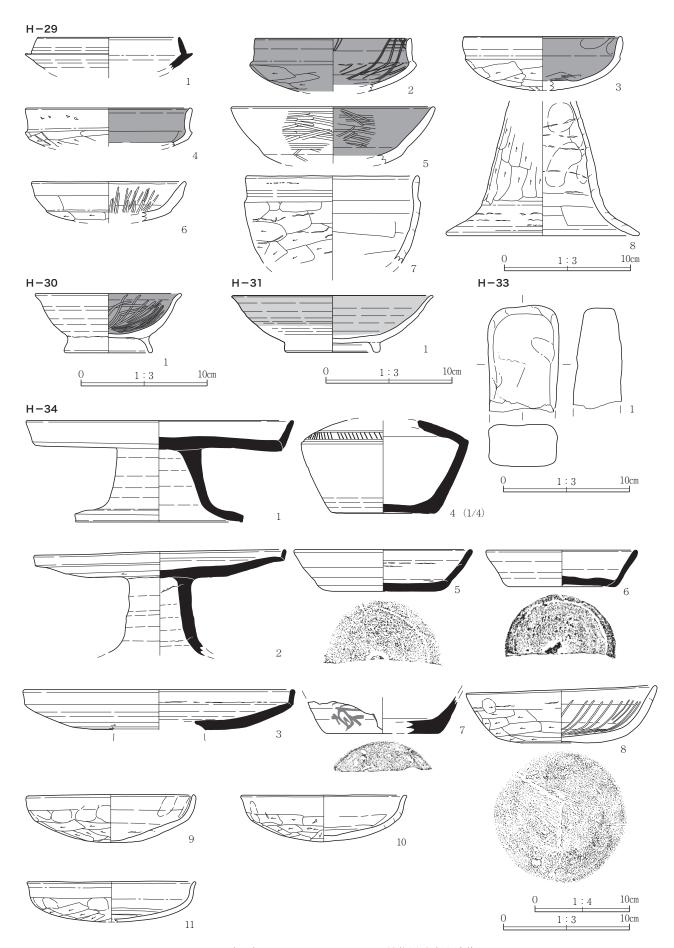


Fig.76 (116) H - 29 · 30 · 31 · 33 · 34 号住居跡出土遺物



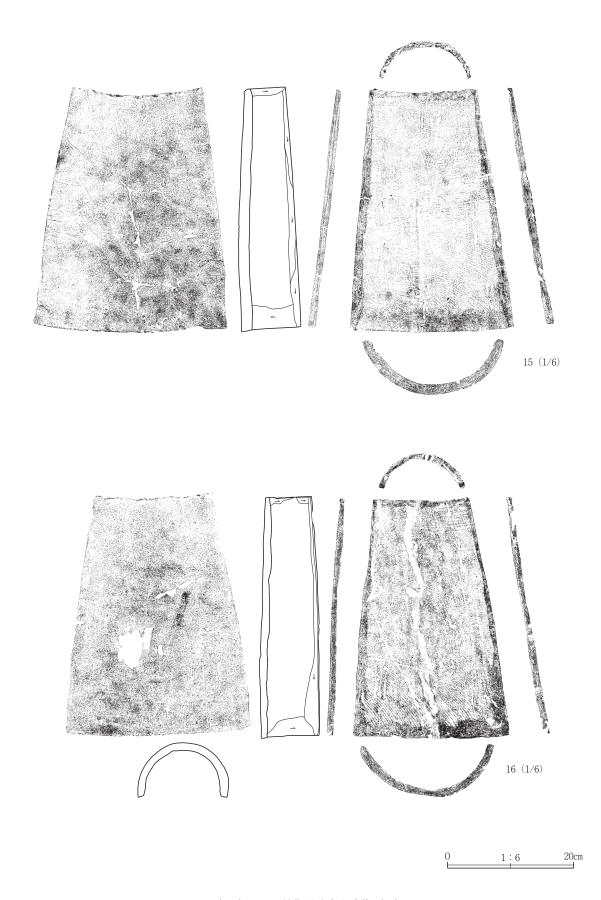


Fig.78 (116) H - 34 号住居跡出土遺物 (3)

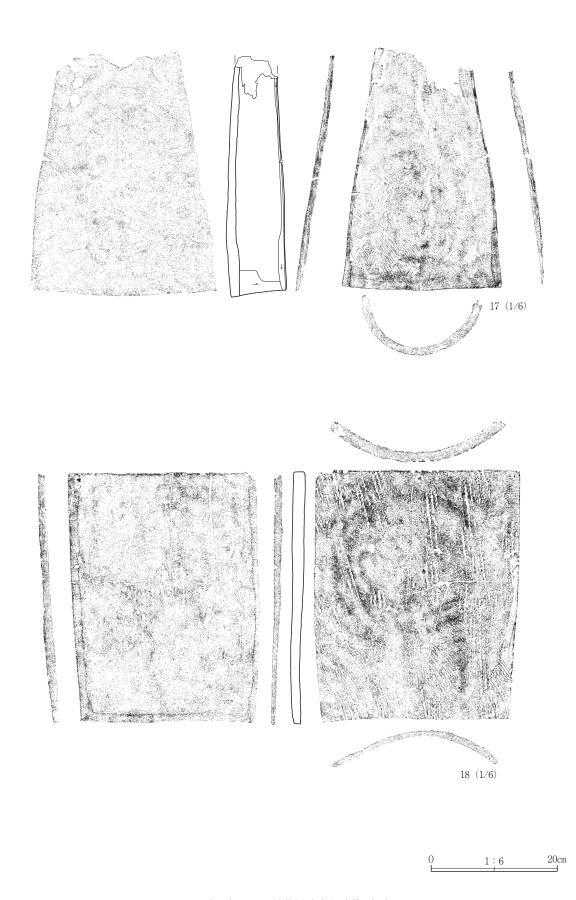


Fig.79 (116) H - 34 号住居跡出土遺物 (4)

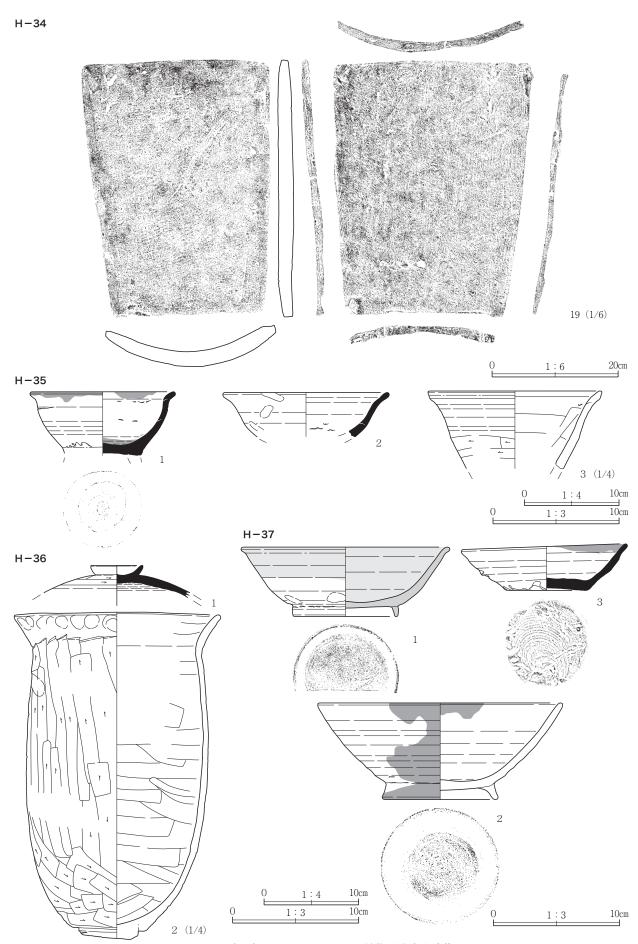


Fig.80 (116) H - 34 · 35 · 36 · 37 号住居跡出土遺物

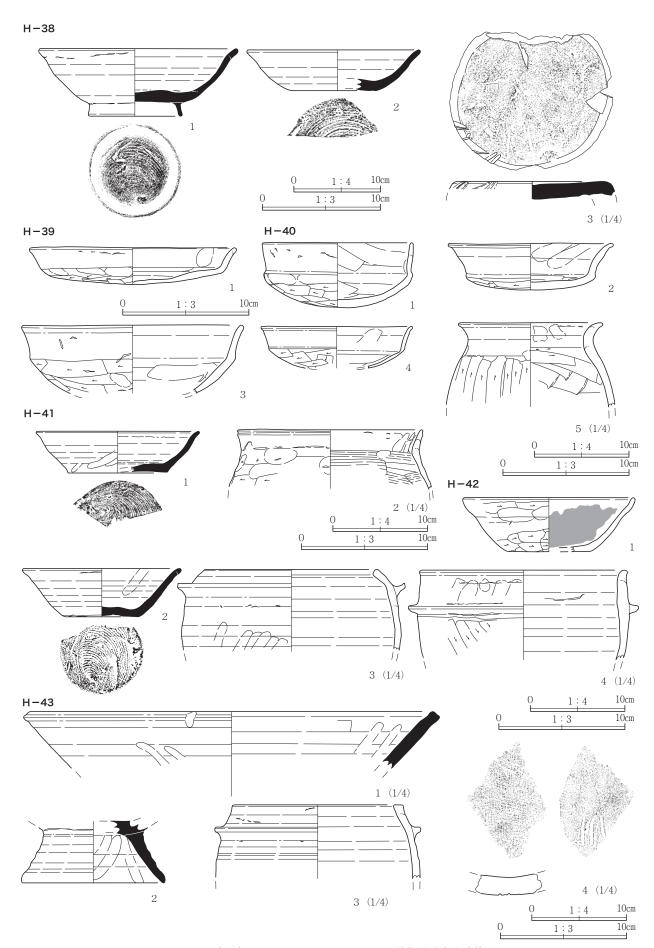
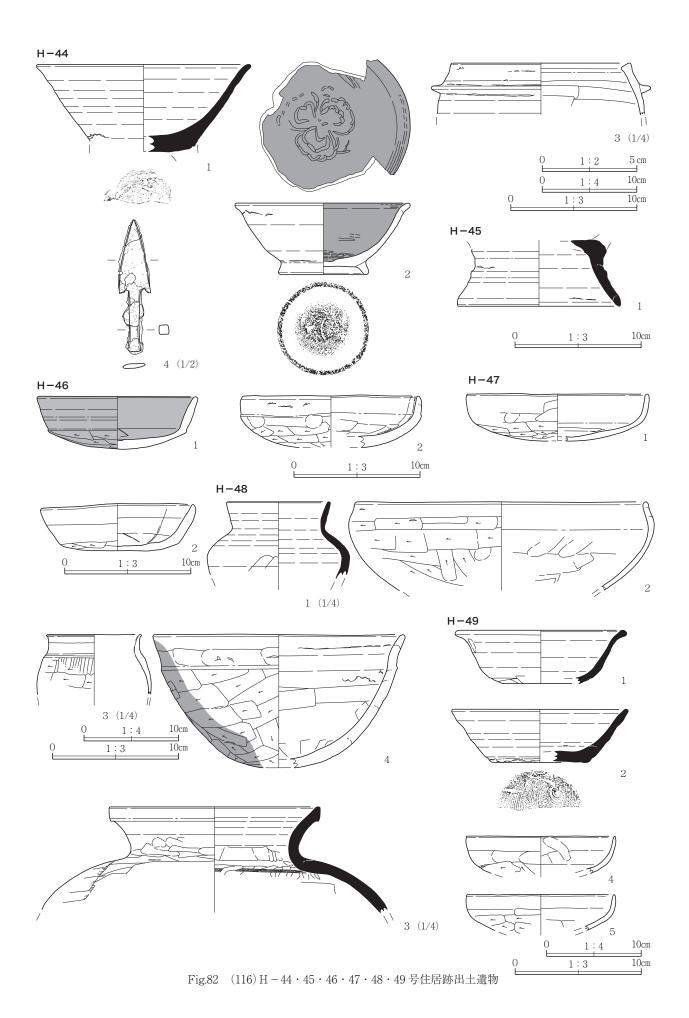
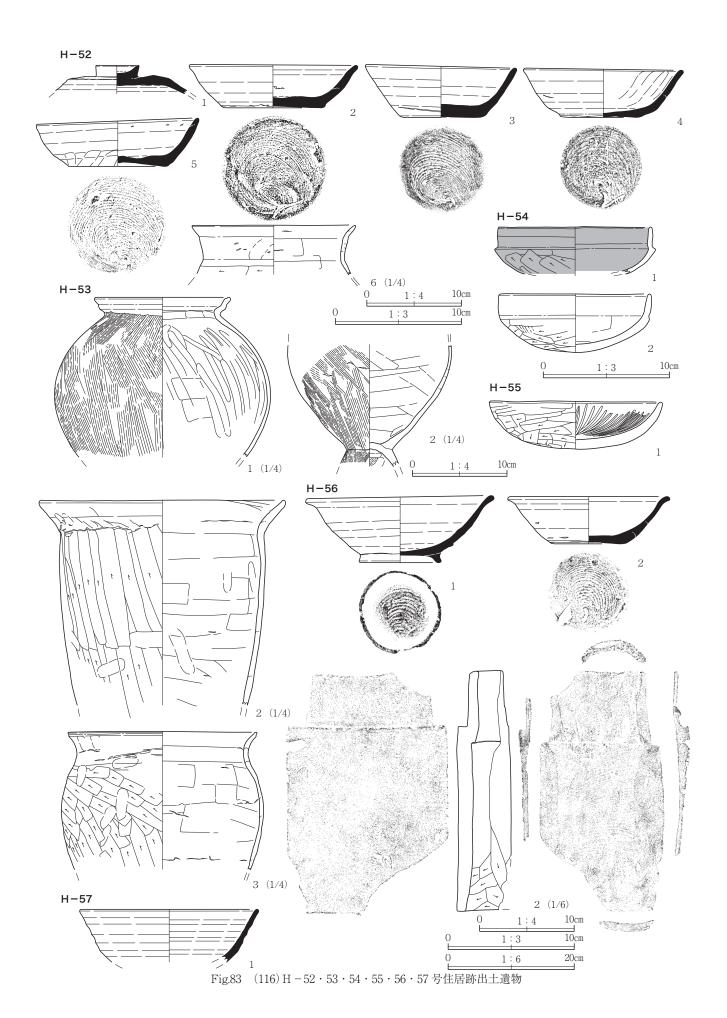


Fig.81 (116) H - 38 · 39 · 40 · 41 · 42 · 43 号住居跡出土遺物





- 124 -

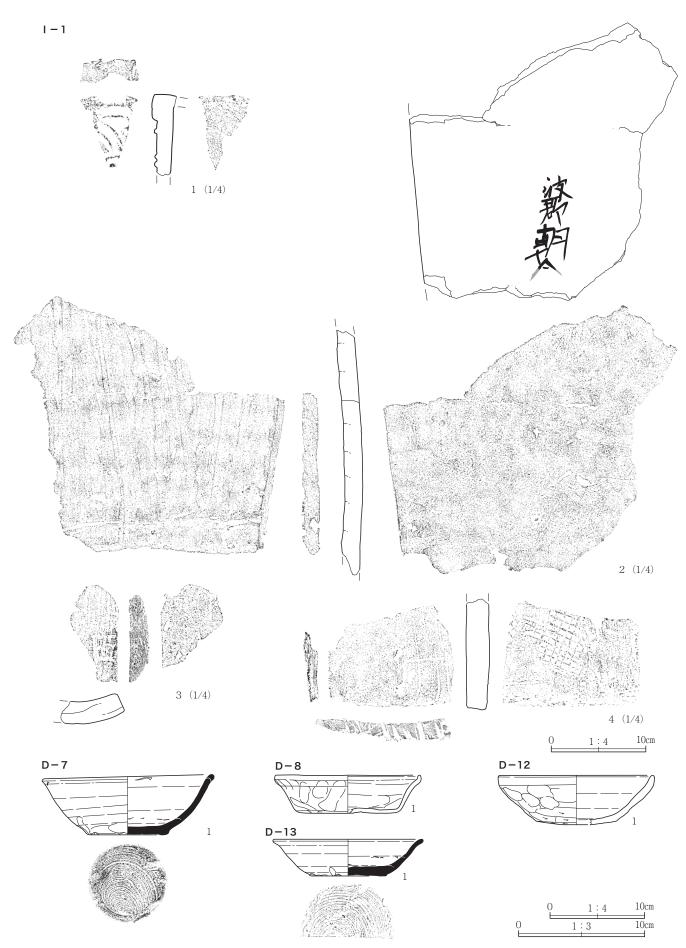
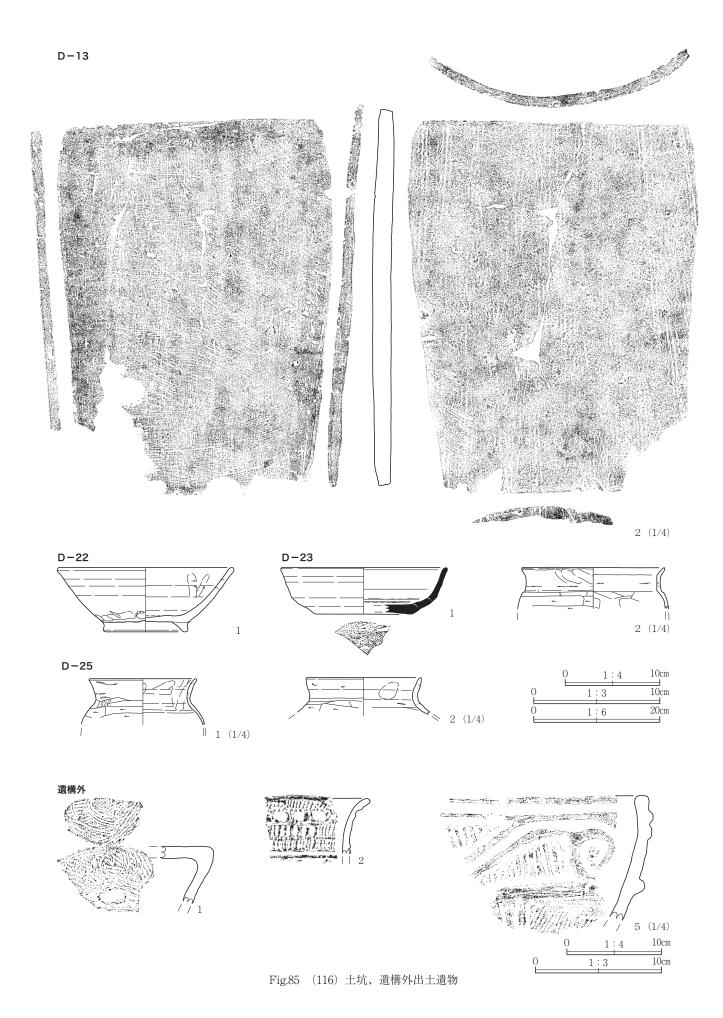
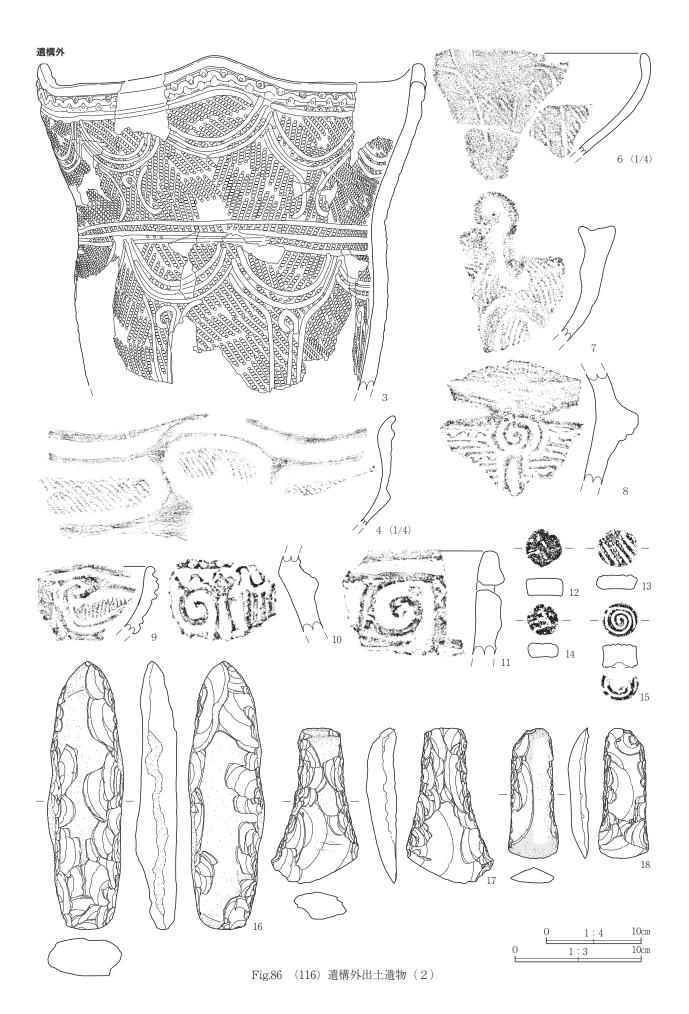
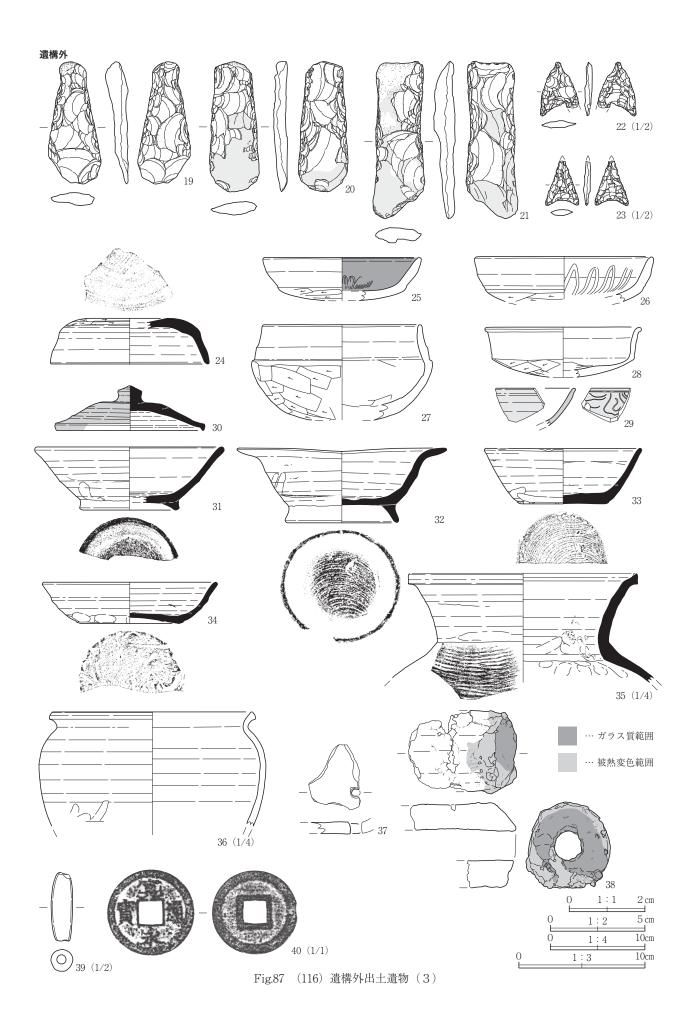


Fig.84 (116) I - 1 号井戸跡、土坑出土遺物



- 126 -





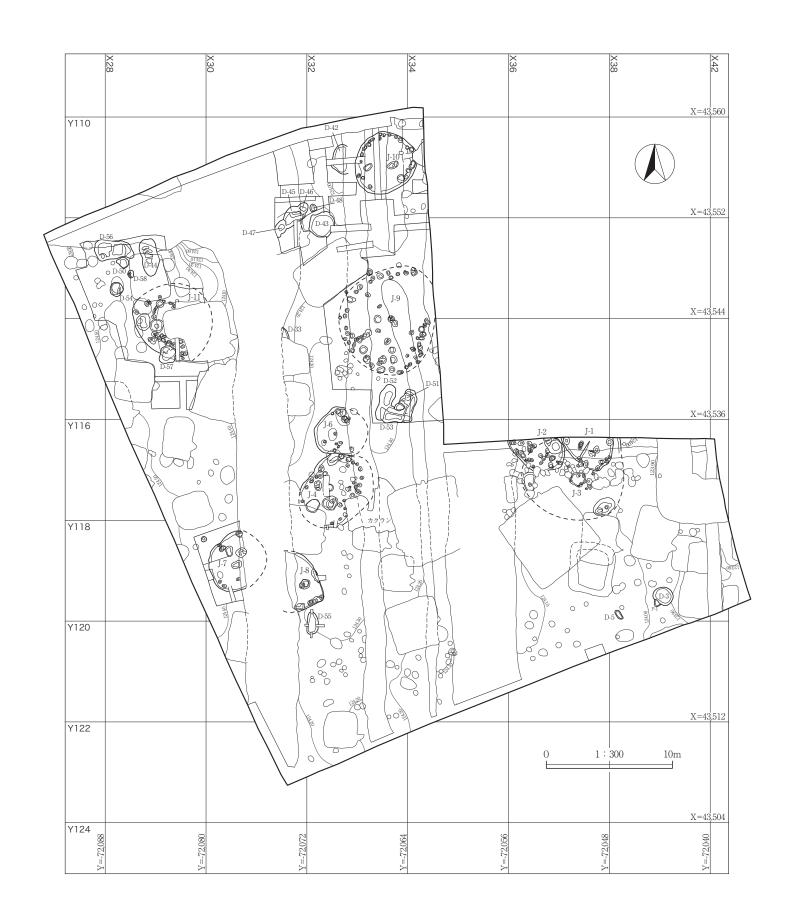


Fig.88 元総社蒼海遺跡群(123)全体図(縄文時代)

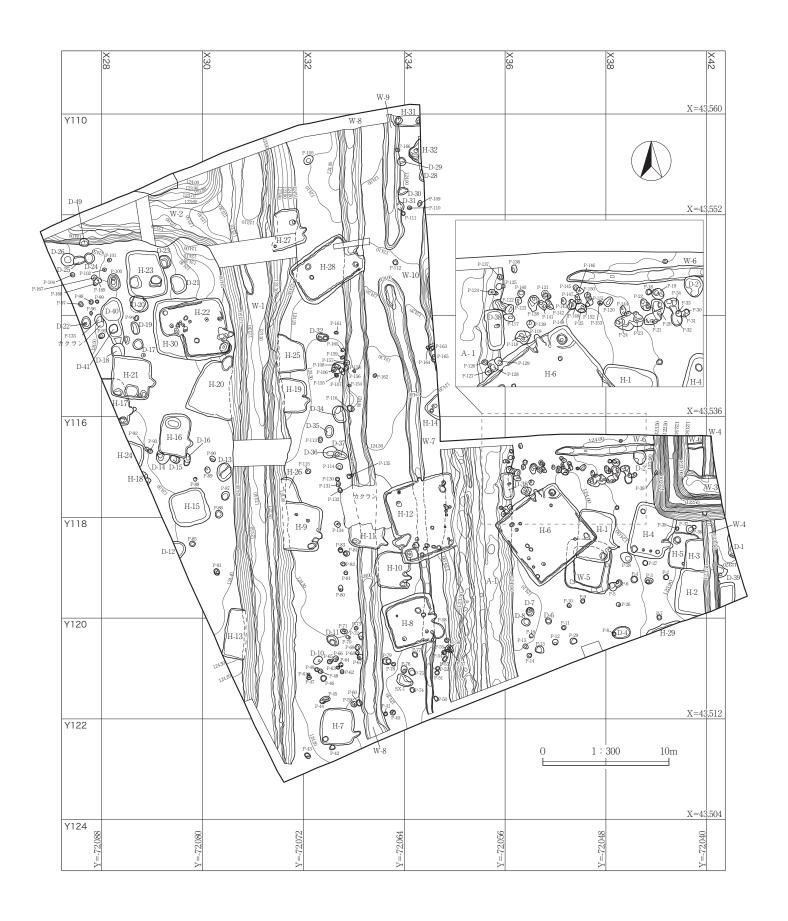


Fig.89 元総社蒼海遺跡群(123)全体図(古墳時代以降)

2 元総社蒼海遺跡群(123)

(1) 竪穴住居跡

J-1号住居跡(Fig.90 · 91 · 130、PL.24 · 52)

位置 $X37 \cdot 38$ 、Y116 主軸方向 $N-35^{\circ}-E$ 規模 東西 4.13m、南北(2.61)m、壁現高 0.19m。住居南側の検出であり、北半は調査区外となる。 面積 (7.94) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。炉周辺にやや硬化した面が見られる。 重複 J-3、W-6と重複し、新旧関係は J-3 →本遺構 W-6である。 炉 住居中央付近に 1 基検出された。長軸 0.53 m、短軸 0.42 m、深さ 0.11 mを測る。地山を掘りくぼめて構築しており、最下面は被熱により若干焼土化している。 出土遺物 床面直上および覆土から出土した、加曽利 E 皿式土器と考えられる縄文土器深鉢 5 点を図示した。その他、縄文時代前期の諸磯 E 式土器、黒曜石を含む剥片、後世の流入である須恵器・土師器・瓦が出土しているが、いずれも極少量である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半(加曽利 E III 期)と推定される。

J-2号住居跡(Fig.90・91・130、PL.24・25・52)

J-3号住居跡 (Fig.90・91・131、PL.25・52)

J-4号住居跡(Fig.92·131·132、PL.25·52)

位置 $X31 \sim 33$ 、 $Y116 \sim 118$ 主軸方向 $N-40^{\circ}-E$ 規模 東西 (5.56) m、南北 5.77m、壁現高 0.45m。 北東から東側をW-8・攪乱、南西側をH-9・26 により削平されている。 面積 (17.36) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。 重複 H-9・26、W-8、D-36・37 と重複し、本遺構が最も古い。 炉 住居南西寄りに 1 基検出された。長軸 1.17 m、短軸 0.90 m、深さ 0.15 mを測る。石組により炉を構築しており、集中して出土する石材は被熱が顕著である。また、地山最下面でも被熱が強く焼土化する箇所も確認された。 出土遺物 縄文土器深鉢 $(1\sim5)$ 、石棒 (6) 、〈ぼみ石 (7) 、石皿 $(8\cdot9)$ が床面直上および覆土から出土している。縄文土器は口縁部文様帯が消失しており、新相を呈する。石棒 (6) は白色花崗岩製であり、先端部のみの残存である。石皿 (8) は炉の構築材に転用されていたもので、若干の被熱が認められる。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期終末(加曽利E IV 期)と推定される。

J-5号住居跡

欠番。

J-6号住居跡(Fig.93、PL.25)

位置 X32、Y115・116 主軸方向 N-4°-E 規模 東西 (3.22) m、南北 3.71m、壁現高 0.26m。住居西側の検出であり、東側はW-8により削平される。 面積 (9.49) ㎡。 床面 地山床で、全面的に平坦である。 床面はやや軟弱で、明確な硬化面は確認されなかった。 重複 D-34~37、W-8と重複し、本遺構が最も古い。 炉 検出されず。 出土遺物 縄文土器深鉢が出土しているが、小破片で図示に至らず。出土量も他住居跡に比べ、少量である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半(加曽利 E Ⅲ期)と推定される。

J - 7号住居跡(Fig.93 · 132、PL.26 · 52)

位置 X30、Y118・119 主軸方向 N-25°-W 規模 東西 (2.89) m、南北 4.78m、壁現高 0.34m。住居西側の検出であり、東側はW-1により削平される。 面積 (10.89) m。 床面 地山床で、全面的に平坦である。床面はやや軟弱で、明確な硬化面は確認されなかった。 重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1。 炉 明確な炉は検出できなかったが、W-1の傾斜面に続く土坑状の掘り込みに焼土粒の混入が認められ、炉跡である可能性が考えられる。 出土遺物 縄文土器深鉢 (1・2)を図示した。 (1)は加曽利E皿式土器であり、本遺構から出土する遺物群の主体となる時期である。 (2)は両耳壺の把手である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半 (加曽利E皿期)を中心とする時期と推定される。

J-8号住居跡(Fig.94・133、PL.26・53)

位置 X31・32、Y118・119 主軸方向 N-24°-W 規模 東西 (1.82) m、南北 (4.52) m、壁現高 0.32m。住居東側の検出であり、西側はW-1により削平される。住居北側の一部はH-9が重複している。 面積 (9.94) ㎡。 床面 地山床で、全面的に平坦である。炉周辺にやや硬化した面が見られる。 重複 H-9、W-1と重複し、新旧関係は本遺構→H-9→W-1である。 炉 住居中央付近に1基検出された。長軸 0.93 m、短軸 0.74 m、深さ 0.16 mを測る。焼土は覆土最下層に極少量含むのみであり、被熱も弱く火床面は認められない。 出土遺物 覆土中から出土した縄文土器深鉢 (1)、黒曜石の石核 (2)、くぼみ石 (3)を図示した。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半 (加曽利EⅢ期)と考えられる。

J-9号住居跡 (Fig.95 · 96 · 133、PL.26 · 53)

位置 $X32 \sim 34$ 、 $Y112 \sim 115$ 主軸方向 N-7°-W 規模 東西 (7.40) m、南北 9.06m、壁現高 0.32m。ほぼ全形を検出したが、住居東端の一部がW -10 により削平される。また住居東側に風倒木と考えられる床面の攪拌が見られる。土層の観察から北東に向かって倒れたものと推測される。 面積 (57.76) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。全体的に硬化するが断続的であり、明確な硬化面として範囲を確認できるのは炉周辺である。 重複 H-28、 $W-7\cdot8\cdot10$ と重複し、本遺構が最も古い。 炉 住居中央付近に 1 基検出された。長軸 0.61 m、短軸 0.56 m、深さ 0.17 mを測る。炉の中央に深鉢を埋設している。 出土遺物 縄文土器深鉢($1\sim5$)、尖頭器もしくは削器(6)、打製石斧(7)が床面直上および覆土中から出土している。 (1) は炉の中央に埋設されていた深鉢で、文様の構成から唐草文系土器(郷土式)で、EI併行期とやや古相を示す。 (2) は連弧文土器である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半(加曽利EⅢ期)と考えられる。

J-10号住居跡(Fig.94·134、PL.26·53)

位置 $X32 \sim 34$ 、 $Y110 \cdot 111$ 主軸方向 $N-15^{\circ}-W$ 規模 東西 4.86m、南北 4.89m、壁現高 0.53m。 面積 (18.31) ㎡。 床面 地山床で、全面的に平坦である。明確な硬化面は確認できず。 重複 H-32、 $W-8 \cdot 9$ と重複し、本遺構が最も古い。 炉 住居中央やや東寄りに 1 基検出された。長軸 0.91 m、短軸 0.53 m、深

さ0.13 mを測る。被熱は弱く、火床面は認められない。 出土遺物 床面直上および覆土中から縄文土器深鉢(1~4)が出土している。その他、図示には至らなかったが多孔石や台石などの石製品も出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半(加曽利 E Ⅲ 期)と考えられる。

J-11号住居跡(Fig.96·134、PL.26·27·53)

位置 $X28 \cdot 29$ 、 $Y113 \cdot 114$ 主軸方向 N-2°-E 規模 東西 (4.49) m、南北 (4.95) m、壁現高 0.43m。 住居西側の検出である。北側および東側は後世の住居跡により削平される。 面積 (14.78) ㎡。 床面 地山床で、全面的に平坦である。明確な硬化面は確認でなかった。 重複 $H-22 \cdot 23 \cdot 30$ 、 $D-19 \cdot 21 \cdot 57$ と重複し、本遺構が最も古い。 炉 住居中央やや西寄りに1基検出された。長軸 1.02 m、短軸 0.99 m、深さ 0.06 mを測り、炉の中心には深鉢を埋設している。焼土は覆土最下層に極少量含むのみであり、被熱も弱く火床面は認められない。 出土遺物 縄文土器深鉢 $(1 \sim 3)$ 、土製品耳栓 (4) が床面直上および覆土中から出土している。 (1) は炉の中央に埋設されていた深鉢であるが胴下半部以下を欠く。 (3) は雨垂れ状に列点文を施文し、元総社蒼海遺跡群 (116) J-1出土遺物と接合する。 (4) の耳栓は表裏両面に櫛書きによる文様が施されている。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から縄文時代中期後半(加曽利 E III 期)と考えられる。

H-1号住居跡(Fig.97 · 135、PL.27 · 53)

位置 X 37・38、Y 117・118 主軸方向 N − 100° − E 規模 東西軸 2.69m、南北軸 3.95m、壁現高 0.39m。 面積 10.93 ㎡。 床面 黄褐色砂質ブロックを含む褐色土で、床面を構築する。西半はH − 6 覆土を掘り込んでおり、部分的にH − 6 覆土を床面としている。また、カマド前を中心として全体的に締まりやや強い。 重複 J − 3、H − 6、W − 5と重複し、新旧関係は J − 3→H − 6→本遺構→W − 5である。 カマド 東壁南寄りに1 基検出された。確認長 1.04 m、燃焼部幅 0.62 m、袖は右側のみ残存しており残存長 0.41 mを測り、褐色粘質土により構築されている。煙道は壁外に 0.68 m突出している。天井部は完全に崩落しており、焚口前面を中心に、焼土粒を少量含む灰層が床面直上まで堆積している。 貯蔵穴 南東隅に1 基検出された。平面円形で長軸 0.52 m、短軸 0.51 m、深さ 0.21 mを測る。 柱穴 検出されず。 掘り方 黄褐色ブロックを少量含む褐色土により構築される。全体的には平坦な掘り方であるが、住居北・南側を土坑状に掘り込む箇所が見られ、住居中央がやや浅くなっている。 出土遺物 カマド付近床面直上より須恵器坏 (1) が、貯蔵穴内から土師器坏(2)が出土している。その他、須恵器高台付埦、土師器坏・甕、瓦類などが出土している。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀前半と推定される。

H-2号住居跡(Fig.98·135、PL.28·53)

位置 $X39\cdot 40$ 、Y119 主軸方向 $N-97^\circ-E$ 規模 東西 3.22m、南北 3.73m、壁現高 0.57m。南東隅は調査区外となり、他遺構による削平もあり東半部の詳細は不明である。 面積 (7.77) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。締まりやや強く一部では硬化面も見られ、カマド前と想定される。 重複 $H-3\cdot 5$ 、W-4、D-39 と重複し、新旧関係は $H-5\rightarrow H-3\rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow W-4$ 、D-39 である。 カマド 検出されず。しかしながら焼土・灰が床面直上に残存しており、その残存範囲から東壁南寄りにあったと思われ、W-4 およびD-39 に削平されているものと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上より緑釉陶器碗(1)、須恵器高台付埦(2)、丸瓦(3)が出土している。丸瓦(3)は凸面にへラ記号「×」、凹面に判読不明だが押印が確認できる。その他、灰釉陶器碗、須恵器境、土師器甕などが出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀前半と推定される。

H-3号住居跡(Fig.98·99·135、PL.28·53)

位置 $X39\cdot 40$ 、 $Y118\cdot 119$ 主軸方向 $N-93^\circ-E$ 規模 東西 2.64m、南北(2.54)m、壁現高 0.36m。住居南側をH-2に、東側からカマド前をW-4により削平されている。 面積 (4.51) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦である。重複により全面は不明であるがカマド前を中心として締まりやや強い。 重複 H

 $-2\cdot 5$ 、W -4 と重複し、新旧関係はH -5 →本遺構→H -3 →W -4 である。 カマド 住居の南東隅に 1 基検出された。確認長 0.89 m、燃焼部幅 0.87 m、煙道は壁外に 0.72 m突出している。両袖はともに残っていないが、砂岩が 4 つ残っており構築芯材と考えられ、右袖手前の砂岩は倒れているが、その他は原位置を保っているものと思われる。また、カマド覆土中からも弱いながらも被熱した砂岩が出土しており、残存する砂岩と合わせて、石組によりカマドが構築されていたものと考えられる。天井部は完全に崩落しており、焚口前面はW -4 による削平を受けている。焼土・灰層は焚口を中心にW -4 をまたぎ、住居中央まで堆積している。 貯蔵穴検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 遺物の出土はカマドに集中しており一部は床面直上で、覆土中からの出土は比較的少なかった。床面直上から酸化焔焼成の須恵器高台付埦(1)、カマドから土師器鉢(2)、羽釜(3)、覆土中から刀子と思われる鉄製品(4)が出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀前半と推定される。

H-4号住居跡(Fig.98·99·135、PL.28·53)

位置 X38・39、Y117・118 主軸方向 N-104°-E 規模 東西3.35m、南北4.35m、壁現高0.51m。北東隅はW-3により削平される。 面積 (12.22) ㎡。 床面 地山硬化床で、カマド前を中心に締まりやや強い。重複 H-5、W-1と重複し、新旧関係はH-5→本遺構→W-1である。 カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長0.91 m、燃焼部幅0.66 m、煙道は壁外に0.39 m突出している。燃焼部の焼土化は弱い。左袖は黄褐色粘質土を主体とする構築部材が比較的良好に残存し、残存長1.09 mを測る。掘り方では袖石が埋め込まれたと思われる掘り込みが両袖に確認された。天井部は完全に崩落しており、焼土粒を含む灰層が焚口から左袖周辺部にかけて薄く堆積している。 貯蔵穴 南東隅に1基検出され、平面円形で長軸0.32 m、短軸0.30 m、深さ0.29 mを測る。 柱穴 P1~P4が検出された。北西の柱穴は検出されず、W-3により削平された可能性が考えられる。 出土遺物 須恵器坏(1~3)、須恵器皿(4)、須恵器高台付埦(5)が床面直上および貯蔵穴内から出土し、その他土師器甕、瓦類が覆土中から出土している。高台付埦(5)は酸化焔焼成であり、内面は黒色処理および暗文が施されれている。なお、土師器坏(6)が出土しているが、器形や調整・施文の特徴から8世紀代のものと思われ、混入遺物である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀前半~中頃と推定される。

H-5号住居跡(Fig.98·99、PL.29)

位置 X39、Y118 主軸方向 N - 98° - E 規模 東西 (2.37) m、南北 2.92m、壁現高 0.14m。住居北西隅が H-4、住居中央から東半がH-3と重複し削平されている。 面積 (3.89) m。 床面 地山硬化床で、平 坦である。住居中央から東側にかけて硬化面を確認した。 重複 $H-2\cdot3\cdot4$ と重複し、新旧関係は本遺構 $\rightarrow H-2\cdot3\cdot4$ である。 カマド 検出されず。硬化面の範囲と若干の焼土・灰の検出状況から住居東壁に構築されていたものと考えられ、H-3により削平されている。 貯蔵穴 北西隅に 1 基検出された。平面円形で 長軸 0.59 m、短軸 0.56 m、深さ 0.25 mを測る。 柱穴 1 基検出された。平面円形で深さ 0.06 mと浅いものである。組み合う柱穴は検出されず。 出土遺物 床面直上より須恵器高台付埦・甕などが少量出土しているが、いずれも小破片で図示に至らず。 時期 出土遺物が僅少で判然としないが、重複関係などから 9 世紀前半と推定される。

H-6号住居跡(Fig.100 · 101 · 136、PL.29 · 53 · 54)

位置 $X35\sim37$ 、 $Y117\sim119$ 主軸方向 $N-35^{\circ}-W$ 規模 東西 6.14m、南北 6.40m、壁現高 0.59m。北西隅がA-1、南東隅がH-1により削平され壁高が低くなるが、床面は残存している。 面積 (36.71) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に平坦な床を構築する。カマド前を中心に全体的に硬化しているが、南北両隅はやや締まりが弱い。カマド・貯蔵穴周辺を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。 重複 H-1、A-1、W-5と重複し、新旧関係は本遺構H-1、H-10、H-10 である。 カマド 住居の北壁東寄りに 1 基検出された。確認

長0.95 m、燃焼部幅0.60 m、煙道は壁外に0.24 m突出している。両袖ともに比較的残存状態は良好で、残存長0.72 mを測る。凝灰質砂岩を面取り加工した袖石を芯材として構築されている。また、凝灰質砂岩の支脚が残り、燃焼部内壁は被熱が強く焼土化している。焚口を中心に両袖周りにかけて焼土粒を含む灰層が堆積している。 貯蔵穴 北東隅に1基検出され、平面楕円形で長軸0.55 m、短軸0.51 m、深さ0.62 mを測る。覆土上層にはカマド崩落土の流入と思われる焼土粒を含んでいる。貯蔵穴南側には黄褐色粘質土により構築された周堤帯が半円状に巡る。 柱穴 P1~P12 が検出された。P1~P4はいずれも深さが50cmを超えるものであり、主柱穴として組み合うものと考えられる。 出土遺物 須恵器蓋(1)、土師器坏(2~7)、土師器甑(8)、土師器甕(9)が床面直上から出土している。(1)の須恵器蓋はつまみを欠損するが、ほぼ完形であり外面に波状文が巡る。土師器坏は須恵器模倣坏の特徴を示し、甕は長胴甕の上半部であり縦方向のヘラケズリが施される。時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-7号住居跡(Fig.102·136、PL.29·54)

位置 X32・33、Y121・122 主軸方向 N-35°-W 規模 東西2.72m、南北2.91m、壁現高0.15m。上方から攪乱を受けており、浅い掘り込みでの検出となっている。 面積 7.42 ㎡。 床面 地山硬化床で、平坦な床面である。カマド前から住居中央を中心に硬化しており、締まりは強い。 重複 なし。 カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長0.68 m、燃焼部幅0.41 m、煙道は外に0.51 m突出している。袖、天井部ともに残存しておらず、燃焼部の焼土化も認められない。焚口部分にわずかに灰・焼土層が残るのみである。 貯蔵穴 南西隅に1基検出された。平面円形で長軸0.45 m、短軸0.42 m、深さ0.24 mを測る。覆土中にカマド崩落土の流入と考えられる焼土粒・灰を主体とする層を確認できる。 柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上より須恵器境(1)・高台付境(2・3)、羽釜(4)が出土しており、境・高台付境はすべて酸化焔焼成である。その他、小破片で図示し得なかったが灰釉陶器碗、羽釜、砥石などが覆土中から出土している。 時期 出土遺物の傾向から10世紀前半~中頃と推定される。

H-8号住居跡(Fig.103 · 136、PL.29 · 54)

位置 X33・34、Y119・120 主軸方向 N − 72° − E 規模 東西 4.07m、南北 3.94m、壁現高 0.39m。 面積 15.52 ㎡。 床面 地山硬化床で、住居中心部に細かな凹凸が見られるが、概ね平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、全体的に締まりやや強い。またカマド周辺を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。 重複 W − 7と重複し、新旧関係は本遺構→W − 7である。 カマド 住居の東壁中央(カマド1)と、東壁南寄り(カマド2)に2基検出された。残存状況および周溝の巡りからカマド2が先行し、作り替えによりカマド1が構築されたものと思われる。カマド1は確認長 0.61 m、燃焼部幅 0.52 m、煙道は外に 0.08 m突出している。両袖ともに白色砂粒を微量に含む暗褐色粘質土により構築されている。左袖の残存状態がよく、残存長 0.52 mを測る。天井部は完全に崩落しており、覆土中に天井崩落土と考えれれる焼土粒・粘土粒が含まれている。焚口周辺に焼土・灰が床面直上まで薄く堆積している。燃焼部の被熱は強く、内壁は焼土化する箇所が見られる。カマド2は確認長 0.78 m、燃焼部幅 1.07 m、煙道は外に 0.54 m突出している。平面形状から、掘り方まで壊されていると思われ、カマド構築材と考えられる黄褐色粘質土の散在が確認された。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 P1~ P4が検出された。 出土遺物 床面直上より土師器坏(1~5)、土師器甕(6・7)が出土している。時期重複関係および出土遺物の傾向から 6 世紀後半と推定される。

H-9号住居跡(Fig.104·137、PL.29·30·54)

 部幅 0.47 m、煙道は外に 0.26 m突出している。両袖ともに面取り加工した凝灰岩質砂岩を芯材に構築されており、天井に架けられていたと思われる同質の砂岩がカマド周辺に確認された。また、左袖前面からは平瓦が出土しており、袖の構築材として用いられていた可能性が考えられる。燃焼部上層には粘質土が確認でき、部分的には天井部が残存しているものと思われる。焚口を中心に焼土粒・灰が薄く堆積しているが、燃焼部を含めて全体的に被熱は弱かったためか、焼土化は認められない。 貯蔵穴 南東隅に 1 基検出され、平面楕円形で長軸 0.61 m、短軸 0.46 m、深さ 0.11 mを測る。 柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗(1)、須恵器坏(2)、須恵器埦(3・4)、須恵器高台付埦(5)、土師器甕(6)、羽釜(7)が出土している。須恵器高台付埦(5)は酸化焔焼成となっている。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀前半と推定される。

H-10 号住居跡(Fig.102·137、PL.30·54)

位置 X33·34、Y118·119 主軸方向 N-94°-E 規模 東西2.83m、南北2.89m、壁現高0.29m。 面積 7.34 ㎡。 床面 地山硬化床で、平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりは強い。重複 H-12、W-8と重複し、新旧関係はH-12→本遺構→W-8である。 カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長0.74 m、燃焼部幅0.33 m、煙道は外に0.12 m突出している。両袖ともに面取り加工した凝灰岩質砂岩を芯材に用いて構築されており、支脚にも同質の砂岩が用いられる。 貯蔵穴 南東隅に検出され、平面楕円形で長軸0.54 m、短軸0.44 m、深さ0.14 mを測る。 柱穴 検出されず。 出土遺物 カマドおよび貯蔵穴周辺での出土量が多い。床面直上およびカマド覆土から灰釉陶器皿(1)、須恵器境(2~4)、須恵器高台付境(5~8)が出土している。境・高台付境は酸化焔焼成のものも含み、(8)はいわゆる「足高高台付境」である。また、国分寺跡からの搬入と考えられる軒丸瓦(9)が覆土中より出土している。瓦当面約1/3を欠損しているが残存状態から単弁5葉連華文と考えられ、連弁間には珠文を配している。中房の膨らみはなく平坦で中房径も縮小しており、連子は1つ配している。瓦当裏面は強くナデ付けられている。諸特徴から国分寺出土のB001 aと同笵の軒丸瓦と考えられる。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から10世紀中頃と推定される。

H-11 号住居跡(Fig.105·138、PL.30·54·55)

位置 X32・33、Y118 主軸方向 N − 107° − E 規模 東西 2.82m、南北 (2.11) m、壁現高 0.42m。住居の北側約 1/2 は攪乱により削平される。 面積 (4.74) ㎡。 床面 地山硬化床で、全面的に細かな凹凸が見られるが、平坦な床面を構築している。カマド周辺から住居南側にかけて特に硬化しており締まりは強い。 重複 W − 8 と重複し、新旧関係は本遺構→W − 8 である。 カマド 住居の南東隅に1 基検出された。確認長0.65 m、燃焼部幅 0.40 m、煙道は外に 0.48 m突出している。煙道部の掘り方は東側のH − 12 カマド 1 の覆土を掘り込んでいる。天井部および袖部は崩落しており、焚口から燃焼部にかけて焼土粒を含む灰層が薄く堆積している。 貯蔵穴 南西隅に1 基検出され、平面楕円形で長軸 0.57 m、短軸 0.40 m、深さ 0.23 mを測る。 柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗(1・2)、須恵器瓶(3)、須恵器埦(4 ~ 6)、須恵器高台付埦(7)、羽釜(8)が出土している。また、覆土中より国分寺跡からの搬入と考えられる軒平瓦(9)が出土している。瓦当面の残存が悪く、一部が残るのみで詳細は不明であるが、右偏行唐草文と考えられ、界線は1本で珠文はない。顎の形態は曲線顎である。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 10 世紀中頃と推定される。

H-12 号住居跡(Fig.106 · 107 · 138、PL.30 · 55)

位置 $X33 \sim 35$ 、 $Y117 \cdot 118$ 主軸方向 $N-108^{\circ}-W$ 規模 東西 5.65m、南北 6.41m、壁現高 $0.34 \sim 0.43m$ 。 住居の東~南東にかけて A-1 により床面まで削平されている。 面積 (30.71) ㎡。 床面 全面的に、に ぶい黄褐色土を中心とした貼り床である。住居東側は削平により不明であるが、北東側を除き周溝が巡る。また、カマド 1 前を中心として硬化しており、締まりは強い。 重複 H-10、A-1、W-7と重複し、新旧関係

は本遺構→H-10、A-1、W-7である。 カマド 住居の西壁南寄り(カマド1)と、北壁中央(カマド2)の2基が検出された。残存状況などからカマド2が先行し、カマド1へと造り替えられたものと考えられる。カマド1は確認長1.55 m、燃焼部幅0.59 m、煙道は外に0.31 m突出している。両袖ともに灰黄褐色粘質土を主体として構築されており比較的残存状態は良く、右袖残存長0.66 m、左袖残存長0.51 を測る。燃焼部奥壁から急激に立ち上がるが、煙道部は短い。天井部は崩落しており、覆土中層に崩落土が多く見られる。燃熱は弱く内壁の焼土化は部分的に見られるのみであり、灰層の広がりは少ないものである。カマド2は確認長0.37 m、燃焼部幅0.24 m、煙道は外に0.27 m突出している。天井部は崩落し袖部は残存せず、焚口から燃焼部にかけて焼土粒・灰が少量が残るのみである。カマド1への造り替えに伴い、壊されたものと考えられる。 貯蔵穴 南西隅に1 基検出され、平面隅丸長方形で長軸0.99 m、短軸0.88 m、深さ0.51 mを測る。平面長方形の中段をもつ。 柱穴 P1~P20の20基が確認された。位置関係からP1~P4が主柱穴として組み合うものと考えられる。 掘り方 にぶい黄褐色土を中心として構築される。全体的には平坦な掘り方であるが、住居壁際ではやや掘り込みが深くなる箇所も見られる。 出土遺物 床面直上より土師器坏(1~4)、土師器甕(5~8)が出土している。坏は須恵器の模倣坏、甕は長胴甕であり、胴部には縦方向のヘラケズリによる調整が施されている。その他は須恵器坏、すり石・こも編石などが出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から6世紀後半と推定される。

H-13号住居跡(Fig.105·139、PL.31·55)

位置 X30、 $Y119 \cdot 120$ 主軸方向 $N-99^{\circ}-E$ 規模 東西 (1.82) m、南北 3.95m、壁現高 0.28m。住居の東側約 1/2 はW-1 により削平される。 面積 (6.29) ㎡。 床面 地山硬化床で、住居南側がやや低くなるが全体的に平坦な床面である。住居の中心が硬化しており、締まりが強い。 重複 W-1 と重複し、新旧関係は本遺構 W-1 である。 カマド 検出されず。W-1 に削平されていると考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上から出土した鉄製品刀子 (1) を図示した。小破片で掲載できなかったが、床面直上および覆土中からは灰釉陶器碗、須恵器高台付埦なども出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 9 世紀後半と推定される。

H-14 号住居跡(Fig.105、PL.31)

位置 X34、Y115・116 主軸方向 N-45°-E 規模 東西 (1.64) m、南北 (1.70) m、壁現高 0.35m。住居の南西隅の検出で、大部分は調査区外となる。 面積 (1.46) ㎡。 床面 検出した範囲では地山直床で、平坦である。住居隅にあたるためか硬化面は認められず。 重複 なし。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 P1・2の2基が検出された。P1は深さ 0.32 mを測り、位置的に住居の主柱穴の1つと考えられる。 出土遺物 P1覆土中から須恵器蓋が出土したが、小破片のため図示に至らず。 時期 出土遺物が僅少で判然としないが、7世紀代の遺構と推定される。

H-15 号住居跡(Fig.108 · 139、PL.31 · 55)

位置 X29・30、Y117・118 主軸方向 N-16°-W 規模 東西2.93m、南北2.81m、壁現高0.44m。覆土中にAs-C軽石を多く含有する。 面積 7.68 ㎡。 床面 黄褐色砂粒を含む黒褐色土による貼り床で、住居中央を中心に硬化が顕著で、締りが強い。 重複 なし。 炉 炭化材が散在するが、火焼面はなく炉と判断できる遺構は検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 全体的に平坦な掘り方であるが、住居東側に集中して掘削工具痕と思われる凹凸が確認された。 出土遺物 床面直上より土師器坩(1)、S字状口縁台付甕(2・3)が出土している。胴下半から台部にかけて残存しており、外面には縦方向のハケメ調整を施している。 時期 出土遺物の傾向から4世紀後半と推定される。

H-16号住居跡(Fig.108·139、PL.31·55)

位置 X29、Y115・116 主軸方向 N-97°-E 規模 東西3.33m、南北2.68m、壁現高0.19m。 面積 7.53 ㎡。 床面 黄褐色ブロックを含む暗褐色土による貼り床で、平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりはやや強い。 重複 D-14・16と重複し、新旧関係はD-14・16→本遺構である。 カマド住居の東壁やや南寄りに1基検出された。確認長0.51 m、燃焼部幅0.58 m、煙道は外に0.40 m突出している。 天井部および両袖とも残存しないが、構築材と考えられる砂岩が確認された。被熱は弱く、燃焼部内壁が一部焼土化するのみで、カマド前面に灰・焼土の薄い堆積が広がる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 掘り方 全体的に平坦な掘り方であるが、部分的に掘削工具痕と思われる凹凸が確認された。また、住居北西側には平面楕円形で、長軸1.20 m、短軸0.87 m、深さ0.23 mを測る床下土坑が検出された。 出土遺物 床面直上から須恵器高台付皿(1)、土師器甕(2)が出土している。(1)は底部を回転糸切り後高台貼付けであるが、高台部は欠損している。(2)は「コ」の字甕で、器壁も薄いものである。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀中頃~後半と推定される。

H-17号住居跡(Fig.109·139、PL.31·55)

位置 X28、Y115・116 主軸方向 N-84°-E 規模 東西 (1.76) m、南北 3.69m、壁現高 0.25m。住居西半は調査区外となる。 面積 (4.97) ㎡。 床面 地山硬化床で、細かな凹凸が見られるが全体的に平坦な床面である。カマド前を中心として硬化しており、締まりは強い。 重複 H-21と重複し、新旧関係はH-21→本遺構である。 カマド 住居の東壁南寄りに1基検出された。確認長 0.74 m、燃焼部幅 0.55 m、煙道は外に 0.51 m突出している。天井部および両袖は残存していないが、燃焼部左奥にカマド構築材である砂岩が 1個確認された。これと同じくカマド構築材であったと考えられる被熱した石材が、貯蔵穴上層で検出された。カマドの被熱は強く、特に燃焼部底面および左側内壁での焼土化が顕著である。焼土粒を含む灰層は薄く、焚口周辺に広がるのみである。 貯蔵穴 南東隅に1基検出された。平面楕円形で、長軸 (0.62) m、短軸 0.46 m、深さ 0.19 mを測る。上層ではカマド構築材と思われる人頭大の礫が出土している。 柱穴 検出されず。 出土遺物 カマド周辺から貯蔵穴周辺にかけての出土量が多い。床面直上および覆土から須恵器境(1)、土師器坏(2)、土師器甕(3・4)、鉄滓(5)が出土している。 (1)の須恵器境は墨書土器であり、外面に「吉」が書かれている。その他は須恵器甕、瓦類などが出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 9世紀前半~中頃と推定される。

H-18号住居跡(Fig.108·139、PL.31·55)

位置 X28、Y117 主軸方向 不明 規模 東西 (0.38) m、南北 (1.18) m。カマド部分のみの検出であり、住居西側の大部分は調査区外となる。 面積 (0.28) m。 床面 検出されず。 重複 なし。 カマド 確認長 0.38 m、燃焼部幅 0.32 m、煙道は外に 0.16 m突出している。天井部は崩落しており、その崩落土と考えられる多量の焼土粒を含む層が覆土上層で確認された。被熱は強く、全体的に焼土化が顕著である。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 覆土中より出土した土師器甕 (1)を図示した。その他は須恵器坏、土師器甕、丸瓦の小破片が少数出土している。 時期 出土遺物およびの他遺構との関係から9世紀前半と推定される。 備考 位置関係からH - 24号住居に付随するカマドとなる可能性が考えられる。また、平面形状がやや歪になるが、本調査区西側の元総社蒼海遺跡群 (116)のH - 20号住居跡と同一の住居になることも考えられる。

H-19 号住居跡(Fig.109 · 139、PL.32 · 55)

位置 $X31 \cdot 32$ 、Y115 主軸方向 $N-89^{\circ}-E$ 規模 東西 (2.38) m、南北 2.76m、壁現高 $0.14\sim0.23$ m。住居の西側はW-1により削平される。 面積 (5.01) ㎡。 床面 地山硬化床で、住居中央がやや浅い掘り込みとなっている。カマド前から住居中央にかけて硬化しており、締まりはやや強い。 重複 W-1と重複し、

新旧関係は本遺構→W-1である。 カマド 住居の東壁やや南寄りに1基検出された。確認長 0.68 m、燃焼部幅 0.51 m、煙道は外に 0.26 m突出している。凝灰岩質砂岩を芯材として構築しており、カマド覆土中に被熱した砂岩が確認された。右袖は構築粘土が崩落しており袖石のみの検出である。左袖は残存長 0.39 mを測る。また、袖石と同質の砂岩を用いた支脚も出土している。なおカマド覆土中の石材に多孔石が1点確認でき、カマドの構築材として転用されたものと考えられる。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 灰釉陶器碗、須恵器境・高台付境、土師器坏・甕、羽釜、瓦類などが出土している。床面直上およびカマドより出土した灰釉陶器碗(1・2)、須恵器境(3・4)、須恵器高台付境(5)を図示。 時期 出土遺物の傾向から9世紀後半~10世紀前半と推定される。

H-20 号住居跡(Fig.110 · 140、PL.32 · 55)

位置 $X29\cdot30$ 、 $Y114\sim116$ 主軸方向 $N-20^\circ-W$ 規模 東西 (3.78) m、南北 4.38m、壁現高 0.44m。住居の東側はW-1 により削平される。 面積 (13.91) m。 床面 地山硬化床で、カマド前を中心として締まり強い。 重複 W-1 と重複し、新旧関係は本遺構 W-1 である。 カマド 住居の北壁に 1 基検出された。確認長 1.27 m、燃焼部幅 0.70 m、煙道は外に 0.68 m突出している。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 床面直上および覆土より灰釉陶器皿(1)、灰釉陶器碗(2)、須恵器埦($3\cdot4$)、須恵器高台付埦(5)、瓦($6\cdot7$)、鉄製品刀子(8)が出土している。(6)は軒平瓦で、子葉はなく主葉のみの表現であり、方向の違うものが 1 組となる。界線は 2 本であるが、下側は部分的に 1 本となる。顎は断面三角形を呈する。国分寺出土軒平瓦(P 302)と同笵か。(Y)は凸面にへラによる刻書をもつ平瓦で、「平ヵ」が確認できる。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から Y0 世紀後半と推定される。

H-21 号住居跡(Fig.110 · 140、PL.32 · 55 · 56)

位置 X28・29、Y115 主軸方向 N-94°-E 規模 東西 3.17m、南北 3.31m、壁現高 0.36m。 面積 10.08 ㎡。 床面 にぶい黄褐色土による貼り床で、カマド前を中心として硬化しており締まりは強い。 重複 J-11、H-17、D-18と重複し、新旧関係は J-11→D-18→本遺構→H-17である。 カマド 住居 の北壁中央に 1 基検出された。確認長 0.57 m、燃焼部幅 0.62 m、煙道は外に 0.43 m突出している。天井部および袖は完全に崩落しており、残存しない。被熱は強く、燃焼部奥壁には顕著な焼土化が認められる。焼土粒を含む灰層が焚口からカマド前にかけて堆積している。 貯蔵穴 住居南東隅に 1 基検出した。平面楕円形、長軸 0.60 m、短軸 0.44 m、深さ 0.27 mを測る。 柱穴 住居南東 (P1) と、住居南西 (P2) に 2 基検出した。掘り方 掘り方は住居中央が高く、両端がやや窪む形となる。住居南側に床下土坑を検出し、平面長方形で長軸 1.13 m、短軸 0.92 m、深さ 0.20 mを測る。 出土遺物 床面直上より灰釉陶器碗 (1)、須恵器境 (2)、須恵器高台付境 (3)、ヘラ記号のある丸瓦 (4)、鉄製品刀子 (5)が出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 9 世紀前半と推定される。

H-22 号住居跡(Fig.112·113·141、PL.32·33·56)

位置 $X29\cdot30$ 、 $Y113\cdot114$ 主軸方向 $N-83^\circ-E$ 規模 東西 5.16m、南北 4.82m、壁現高 $0.29\sim0.62$ m。 面積 20.21 ㎡。 床面 地山硬化床で、カマド前を中心として硬化しており、締まり強い。部分的に途切れながらも、ほぼ全周に周溝が巡る。また、住居西側に張り出しをもち、石組を検出した。この張り出し部分は当初、下層の縄文遺構と捉えていたが、石組覆土から土師器坏が出土し、周溝も住居中央より伸びてくるためH-22号住居の張り出しと判断した。石組については石材の被熱もなく、灰・焼土も認められなかった。 重複 J-11、H-30と重複し、新旧関係は $J-11\to H-30\to \pi$ 遺構である。 カマド 住居の東壁南寄りに検出された。確認長 1.34 m、燃焼部幅 0.60 m、煙道は外に 0.49 m突出している。右袖は褐灰色粘質土を主体とする袖構築土が良好に残存し、0.43 mを測る。 貯蔵穴 住居南東隅に検出した。平面楕円形、長軸 0.76 m、短軸 0.69 m、深さ 0.41 mを測る。 柱穴 11 基検出された。 出土遺物 床面直上および覆土中より須恵器蓋(1)、須恵

器盤(2)、須恵器フラスコ瓶(3)、須恵器甕(4)、須恵器壺(5)、土師器坏(6・7)、土師器鉢(8)、土師器甕(9~12)が出土している。なお、須恵器高坏(13・14)、土師器坏(15・16)は古い段階の遺物群であり、先行するH-30号住居跡に伴う遺物である可能性が考えられる。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から7世紀前半~中頃と推定される。

H-23 号住居跡(Fig.113·141、PL.33·56)

位置 X28・29、Y112・113 主軸方向 N-4°-W 規模 東西 3.16m、南北 3.76m、壁現高 0.47m。 面積 10.38 ㎡。 床面 地山硬化床で、中央付近が締まり強い。住居南東および南西に 2 基の床下土坑を検出した。床下土坑 1 は平面不整形円形で長軸 0.97 m、短軸 0.95 m、深さ 0.21 mを測る。床下土坑 2 は平面円形で長軸 0.87 m、短軸 0.87 m、深さ 0.28 mを測り、南側に平面方形の中段をもつ。 重複 D-20・23と重複し、新旧関係は D-20・23→本遺構である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土 遺物 覆土より緑釉陶器皿(1)、須恵器坏(2・3)、土師器坏(4)が出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 9 世紀後半と推定される。

H-24 号住居跡(Fig.110 · 141、PL.33 · 56)

位置 X28、Y116 主軸方向 $N-84^{\circ}-E$ 規模 東西 (1.54) m、南北 (1.77) m、壁現高 0.41m。住居北東隅のみの検出で、大半は調査区外となる。 面積 (1.29) ㎡。 床面 地山直床。硬化面は認められず。 重複 なし。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 覆土より須恵器坏 (1)、土師器甕 (2) が出土している。 時期 出土遺物およびの他遺構との関連から 9 世紀前半と推定される。 備考 位置関係からH-18のカマドが本遺構に伴う可能性が考えられる。また、西側の元総社蒼海遺跡群 (116) のH-20 号住居跡と同一住居になることも考えられる。

H-25 号住居跡(Fig.114·141、PL.33·56)

位置 $X31 \cdot 32$ 、Y114 主軸方向 N-6°-W 規模 東西 (2.23) m、南北 3.04m。住居西側はW-1により削平される。 面積 (5.60) m。 床面 地山硬化床で、住居中心部の硬化が顕著で締まり強い。 重複 W-1と重複し、新旧関係は本遺構 W-1である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 須恵器蓋 (1) が出土した。他は土師器坏の小破片が 3 点出土したのみである。 時期出土遺物が少なく判然としないが、 9 世紀代の遺構と推定される。

H-26 号住居跡(Fig.114、PL.33)

位置 X31、Y117 主軸方向 N-68°-E 規模 東西 (1.23) m、南北 (2.20) m。住居南側はH-9、西側はW-1により削平され、一部分のみの検出である。 面積 (2.00) m。 床面 地山直床で、硬化面は認められない。 重複 H-9、W-1と重複し、新旧関係は本遺構→H-9→W-1である。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 須恵器坏、土師器甕、平瓦が数点出土しているが、いずれも小破片のため図示に至らず。 時期 出土遺物が少なく判然としないが、重複関係から9世紀代の遺構と推定される。

H-27 号住居跡(Fig.115·141、PL.33·56)

位置 X31・32、Y111・112 主軸方向 N − 75° − E 規模 東西 (2.77) m、南北3.02m、壁現高 0.16 ~ 0.44m。 住居西側はW − 1 により削平されている。 面積 (6.31) ㎡。 床面 地山硬化床で、カマド前を中心として締まり強い。 重複 W − 1 と重複し、新旧関係は本遺構→W − 1 である。 カマド 住居の東壁南寄りに 1 基検出された。確認長 0.52 m、燃焼部幅 0.42 m、煙道は外に 0.37 m突出している。天井部および袖は完全に崩落している。カマド覆土中に天井崩落による焼土粒を多量に含む灰黄褐色土が堆積している。 貯蔵穴 住居北東側に 1 基検出された。平面楕円形で、長軸 0.48 m、短軸 0.40 m、深さ 0.25 mを測る。 柱穴 住居南西側に 1 基検出された。 出土遺物 覆土から灰釉陶器碗 (1) が出土している。その他、須恵器甕、土師器坏・甕の小 破片が数点出土しているが、小破片のため図示に至らず。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から9世紀後半~10世紀前半と推定される。

H-28 号住居跡(Fig.116 · 142、PL.33 · 34 · 56)

位置 $X31 \sim 33$ 、 $Y112 \cdot 113$ 主軸方向 $N-50^{\circ}-E$ 規模 東西 5.73m、南北 3.71m、壁現高 0.61m。北西隅を除き、ほぼ全周に周溝が巡る。 面積 19.50 ㎡。 床面 地山硬化床で、カマドを中心として住居東半に硬化面が見られ、締まりは強い。 重複 W-8と重複し、新旧関係は本遺構 W-8である。 カマド 住居の東壁中央に 1 基検出された。確認長 1.21 m、燃焼部幅 0.44 m、煙道は外に 0.40 m突出している。左袖はW-8 に伴う先行トレンチにより破損してしまったが、トレンチ調査中に袖構築土と考えられる粘質土と焼土粒の堆積を確認した。天井部は完全に崩落している。被熱は弱く焼土化は認められず、灰層の堆積も極めて薄いものである。 貯蔵穴 住居南東隅に 1 基検出された。平面楕円形で、長軸 0.45 m、短軸 0.41 m、深さ 0.66 mを測る。柱穴 住居西側に 2 基検出された($P1\cdot 2$)。いずれも平面円形で、深さ 0.05 mと掘り込みは浅いものである。出土遺物 床面直上より土師器甕($1\sim 3$)が出土している。いずれも長胴甕で胴部には縦方向のヘラケズリを施している。その他は、須恵器坏、こも編石などが床面直上および覆土中から出土している。 時期 重複関係および出土遺物の傾向から 6 世紀後半と推定される。

H-29 号住居跡(Fig.114、PL.34)

位置 X38・39、Y120 主軸方向 N-17°-W 規模 東西 (2.88) m、南北 (0.36) m、壁現高 0.34m。住居 北壁のみの検出で、大部分は調査区外となる。 面積 (0.68) ㎡。 床面 地山直床。床面の検出範囲が狭小で、硬化面の確認はできなかった。 重複 なし。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 なし。 時期 出土遺物がないことから時期判断できないが、後述する他遺構との関連から 9世紀後半と推定される。 備考 位置関係から本遺跡南側の元総社小見型遺跡のH-37 ないしは 48 号住居跡と同一住居になると考えられる。

H-30 号住居跡(Fig.112、PL.32)

位置 X29、Y113・114 主軸方向 N - 86° - E 規模 東西 (3.71) m、南北 (4.77) m、壁現高 0.59m。住居中央から東側はH-22 に削平される。 面積 (6.25) m。 床面 地山直床。残存範囲が狭小であり、硬化面の確認はできなかった。 重複 J-11、H-22 と重複し、新旧関係はJ-11 →本遺構 \to H-22 である。カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 なし。 時期 出土遺物がないことから直接の時期判断はできない。しかしながら、重複するH-22 号住居跡の出土遺物の中で古相を示す遺物群があり(H-22 出土遺物 $13\sim16$)、それらが本遺構に伴う可能性が考えられ、6 世紀後半に帰属するものと推定される。

H-31 号住居跡(Fig.114·142、PL.34·56)

位置 $X33\cdot 34$ 、Y110 主軸方向 N-0° 規模 東西 (2.31) m、南北 (0.94) m、壁現高 0.39m。住居南西隅の検出であり、大部分は調査区外となる。 面積 (2.38) ㎡。 床面 地山直床。硬化面の確認はできなかった。 重複 なし。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 $P1\cdot 2$ の 2基が検出された。 出土遺物 土師器坏 (1) が出土している他、灰釉陶器碗、須恵器、土師器が小破片ながら出土している。 時期 出土遺物が少ないことから判然としないが、9世紀代の遺構と考えられる。

H-32号住居(Fig.115、PL.34)

位置 X34、Y110 主軸方向 N-55°-E 規模 東西 (1.36) m、南北 (1.67) m、壁現高 0.36m。住居南西 隅の検出であり、大部分は調査区外となる。 面積 (1.21) ㎡。 床面 地山直床。硬化面の確認はできなかった。 重複 なし。 カマド 検出されず。 貯蔵穴 検出されず。 柱穴 検出されず。 出土遺物 丸瓦と 縄文土器の小破片が数点出土したのみである。 時期 出土遺物が少ないことから判然としないが、他遺構との

関連から9~10世紀代の遺構と推定される。

(2) 道路跡

調査区東側において検出した。周辺の調査では道路状遺構の性格を考慮されつつも、溝跡としての記載であった。今回の調査では、溝跡とは区別し道路跡として記載する。

A-1号道路跡(Fig.117·142、PL.34·56)

位置 X 34 ~ 36、Y 116 ~ 121 主軸方向 N - 2 ° -W 規模 長さ(20.39)m、上幅 5.01 ~ 5.93 m、下幅 3.12 ~ 3.64 m、深さ 0.63 ~ 0.77 m。 形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面は台形状 を呈するが、底面両端に幅 0.80 ~ 0.91 mを測る浅い溝状の窪みが検出され、道路遺構に見られる両側側溝と考 えられる。底面は比較的平坦であり、周辺遺跡で確認されている波板状凹凸面や道下土坑などは検出されてい ない。 硬化面 側溝を除く、路面中央に顕著な硬化面が確認された。また、断面観察から覆土中に砂・砂礫の 水成堆積が確認され、流水を伴う自然埋没の状況を示している。その中で、少なくとも2つの硬化層が確認さ れ、遺構の埋没過程にあっても道路としての機能は継続していたものと考えられる。 重複 H-6・12、D-38、ピットと重複し、新旧関係はH - 6 · 12 →本遺構→D - 38、ピットである。 出土遺物 底面直上および 覆土から出土した緑釉陶器(1)、国分寺跡からの搬入と考えられる軒平瓦(2・3)およびヘラ記号・文字の ある丸・平瓦(4~6)を図示した。緑釉陶器(1)は底部片で、内面には暗文状のミガキが施されている。(2) の軒平瓦は国分寺出土のR002と同笵瓦と考えられ、流水文として分類されている。界線は上側が2本で、下側 が1本となる。顎の形状は曲線顎と思われるが、段顎の整形とも指摘される。(3)は右偏行唐草文軒平瓦で、 界線は1本、外区に非常に小さな珠文を配する。顎は断面三角形状を呈する。国分寺出土P 002 Bと同笵と考え られる。(4)は丸瓦で凸面にヘラ記号「×」が見られる。(5)・(6)は平瓦の小破片で(5)は凹面に、 (6)は凸面にヘラ文字が確認できるが、全体が残っておらず判読不能である。その他の出土遺物としては縄文 土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などあり、かなりの時期幅が見られ周囲からの流れ込みと思われる。 時期 重複関係および出土遺物、周辺遺跡の調査歴などから7~8世紀代に構築され、中世(As- B降下以前)には埋 没していたものと考えられる。 備考 走行方向から、W-10 号溝跡は本遺構の延伸部になることも考えられ る。なお、本調査区南側の元総社小見Ⅲ遺跡W−1号溝跡、さらに隣接する元総社小見Ⅱ遺跡W−4号溝跡と同 一遺構であり、北側の元総社蒼海遺跡群(24)W-8号溝跡へ続くものと思われる。

(3) 溝跡

10条の溝跡を検出、いずれも古代から中世にかけての溝跡である。W -1 · 2 号溝跡は規模・形状から溝跡としているが通水の痕跡はなく土地区画の機能を持った溝もしくは、断続的ではあるが硬化面を確認していることから道路として機能していた可能性も考えられる。また、W -3 号溝跡は形状から蒼海城に関連する遺構と考えられる。

W-1号溝跡(Fig.118·142、PL.34·56)

位置 X 30・31、Y 110~122 主軸方向 N-3°-W 規模 長さ (49.33) m、上幅 3.99~6.08 m、下幅 1.79~3.60 m、深さ 0.94~1.12 m。 形状 南北方向に走行し、南から北へ緩やかに傾斜する。断面は台形状を呈する。底面は比較的平坦であるが部分的に硬化した箇所が認められ、この硬化は西側に接続するW-2号 溝跡へと続く。また、覆土中にも断続的な硬化層が確認された。 重複 $J-7\cdot8$ 、 $H-9\cdot13\cdot19\cdot20\cdot25$ ~28、 $D-33\cdot45$ ~48 と重複し、本遺構が最も新しい。なお、W-2号溝跡と交差するが新旧関係は平面・断面的に確認できず、同時機能していたものと考えられる。 出土遺物 かわらけ (1)、墨書のある須恵器境(2・3)、道具瓦(4)、軒丸瓦(5)、古銭(6)が出土している。(3)の墨書は土器の残存状況から判

読不明だが、(3) は「田」の字が読み取れる。(4) は鬼瓦の可能性が考えられる。表面にはヘラ描きによる意匠が見られ、裏面は平坦にナデつけられる。小破片で表面の剥落も著しいため、詳細は不明な遺物である。(5) の軒丸瓦は外区および周縁部のみ残存する小破片であり、全体の文様構成は不明。(6) は熈寧元寶(初鋳:1068年)である。その他の出土遺物は縄文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、古代瓦、板碑片などあり、先行する遺構からの混入が見られる。 時期 重複関係にある10世紀前半の住居跡を壊していることや、周辺での調査歴などから10世紀後半以降の開削で、覆土中の硬化層や出土遺物から中世以降も存続していたものと推定される。 備考 本調査区北側の元総社蒼海遺跡群(24) 31 区W − 2 号溝跡および南側の元総社蒼海遺跡群(116) W − 1 号溝跡、元総社小見Ⅱ遺跡W − 2 号溝跡と同一遺構である。

W-2号溝跡(Fig.118、PL.34)

位置 X $26 \sim 30$ 、Y $111 \cdot 112$ 主軸方向 $N-88^{\circ}-E$ 規模 長さ (13.34) m、上幅 4.14 m、下幅 2.03 m、深さ 0.80 m。 形状 東西方向に走行し、東から西へ緩やかに傾斜する。断面は台形状を呈する。東端はW-1号溝跡に接続する。底面にはW-1号溝跡から続く硬化面が断続的に確認できるが、覆土中の硬化層は認められなかった。 重複 $D-44\cdot 49\cdot 56$ と重複し、本遺構が最も新しい。なお、上述のようにW-1号溝跡との新旧関係は平面・断面的に確認できず、同時機能していたものと考えられる。 出土遺物 須恵器、土師器、古代瓦を中心として出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係や出土遺物、W-1号溝跡との関係からなどから、10 世紀後半以降の開削で中世以降も存続していたものと推定される。 備考 本調査区西側の元総社蒼海遺跡群 (24) 31 EW-1 号溝跡と同一遺構である。

W-3号溝跡(Fig.119、PL.35)

位置 X 38 \sim 40、Y 116 \sim 118 主軸方向 N-2°-W 規模 長さ(東西 5.65、南北 6.72) m、上幅 2.85 \sim 3.58 m、下幅 0.51 m、深さ 1.59 m。 形状 南北方向に走行し、直角に屈曲して東西方向となる。断面は V字 状で、薬研掘りに近い形状を呈する。 重複 H-4、 $W-4\cdot6$ と重複し、本遺構が最も新しい。なお、東端 でテラス状の落ち込みが見られる。断面観察からも他遺構の重複が考えられるが、攪乱の可能性もある。 出土 遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係や形 状などから中世以降の開削と推定される。 備考 時期や規模・形状などから蒼海城に関連する遺構と推測される。また、東側延伸部は元総社蒼海遺跡群(11)W-1 号溝跡にあたり、走行方向や規模・形状から同一遺構と 考えられる。

W-4号溝跡(Fig.119、PL.35)

位置 $X 39 \cdot 40$ 、 $Y 116 \sim 119$ 主軸方向 $N-1^{\circ}-W$ 規模 長さ (14.11) m、上幅 $0.88 \sim 1.00$ m、下幅 $0.29 \sim 0.50$ m、深さ 0.46 m。 形状 南北方向に走行し、断面台形状および弧状を呈する。 重複 $H-2 \cdot 3$ 、 $W-3 \cdot 6$ 、 D-39 と重複し、新旧関係は $H-2 \cdot 3 \rightarrow W-6 \rightarrow$ 本遺構 $\rightarrow W-3$ 、 D-39 である。 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土 から中世以降と推定される。 備考 本調査区南側の元総社小見W遺跡W-3 号溝跡と同一遺構である。

W-5号溝跡(Fig.120、PL.35)

位置 $X 37 \cdot 38$ 、 $Y 18 \cdot 19$ 主軸方向 $N - 9^{\circ} - E$ 規模 長さ 3.63 (東西) $\times 4.09$ (南北) m、上幅 $0.57 \sim 0.82$ m、下幅 0.44 m、深さ 0.07 m。 形状 方形に巡り、断面弧状を呈する。 重複 $H - 1 \cdot 6$ と重複し、新旧関係は $H - 1 \cdot 6$ →本遺構である。 出土遺物 縄文土器の小破片が出土しているが、重複関係や覆土から、他遺構からの混入遺物である。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 掘り込みの極めて浅い溝が方形に巡る遺構である。内部にはピットなどの施設は確認できず、時期・性格を示すような出土遺物もないことから、遺構の性格は不明である。

W-6号溝跡 (Fig.120、PL.35)

位置 X 37 \sim 39、Y 116 主軸方向 $N-90^\circ-W$ 規模 長さ(11.71)m、上幅 $0.38\sim0.78$ m、下幅 $0.23\sim0.52$ m、深さ $0.13\sim0.20$ m。 形状 東西方向に走行し、東から西へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。重複 $J-1\sim3$ 、W-3、D-2と重複し、新旧関係は $J-1\sim3$ \rightarrow 本遺構 \rightarrow W-3、D-2である。 出土 遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。

W-7号溝跡(Fig.120、PL.35)

位置 $X 33 \cdot 34$ 、 $Y 113 \sim 121$ 主軸方向 $N-4^{\circ}-W$ 規模 長さ (34.86) m、上幅 $0.40 \sim 1.90$ m、下幅 $0.29 \sim 0.81$ m、深さ 0.16 m。 形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。重複 J-9、 $H-8 \cdot 12$ 、D-51 と重複し、新旧関係は J-9、 $H-8 \cdot 12$ 、D-51 →本遺構である。 出土遺物 縄文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 走行方向や規模・形状などから、W-9 号溝跡と一連 の遺構と考えられる。

W-8号溝跡 (Fig.120、PL.35)

位置 X 32・33、Y 110~122 主軸方向 N-2°-W 規模 長さ (48.74) m、上幅 1.37 m、下幅 0.62 m、深さ 0.43 m。 形状 南北方向に走行し、断面台形状および弧状を呈する。 重複 J-4・6・9・10、H-10・11・28、土坑、ピットと重複し、本遺構が最も新しい。 出土遺物 縄文土器、須恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 本調査区南側の元総社小見 W遺跡W-2号溝跡と同一遺構である。

W-9号溝跡 (Fig.120、PL.35)

位置 X 33、Y 110~112 主軸方向 N - 0° 規模 長さ(10.28) m、上幅 0.40~ 1.90 m、下幅 0.29 \sim 0.81 m、深さ 0.13 m。 形状 南北方向に走行し、北から南へ緩やかに傾斜する。断面台形状を呈する。 重複 J - 10、H - 31、土坑と重複し、新旧関係は J - 10、H - 31、土坑→本遺構である。 出土遺物 縄文土器、領恵器、土師器、灰釉陶器などが出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から中世以降と推定される。 備考 走行方向や規模・形状などから、W - 7号溝跡と一連の遺構と考えられる。

W-10号溝跡(Fig.120、PL.36)

位置 X 34、Y 111~115 主軸方向 N-4°-W 規模 長さ(13.16)m、上幅(0.78)m、下幅(0.25)m、深さ 0.44 m。 形状 南北方向に走行しする。断面形状は部分的な検出のため、全容は不明であるが台形状を呈すると思われる。 重複 J-9と重複し、新旧関係は J-9→本遺構である。 出土遺物 縄文土器、須恵器、土師器などが出土しているが、小破片のため図示には至らず。 時期 重複関係および覆土から古代以降と推定される。 備考 走行方向から、A-1号道路跡と同一遺構になる可能性が考えられる。

(4) 性格不明遺構

調査区南西において1基検出している。遺構確認面精査時に炭化材のまとまりと、それに沿っての土坑状のプランを検出したが、周辺の土壌に被熱はなく焼土や灰も確認されなかった。掘り方においても焼土・灰などはなく、遺構の性格は不明である。

X – 1 (Fig.121, PL.36)

位置 $X33\cdot 34$ 、Y121 主軸方向 $N-60^{\circ}$ -W 規模 長軸 1.35m、短軸 0.91m、深さ 0.48m。 形状 平面 形状は不整形な楕円形を、断面は箱状を呈する。 重複 なし。 出土遺物 なし。 時期 出土遺物がなく炭

化材の検出のみであり時期決定できないが、検出層位などから中世以降と推定される。

(5) 土坑・ピット

本調査区では土坑を 55 基(D - 9・27 は欠番)、ピットを 170 基(P - 103・170 は欠番)を検出している (Fig.121 ~ 129・142 ~ 144、PL.36・57) 。

出土遺物や遺構検出面などから、確実に縄文時代に属する土坑は $D-3\cdot 5\cdot 12\cdot 33\cdot 42\sim 48\cdot 50\sim 58$ 号土坑の 19 基である。出土する遺物は諸磯 c 式を中心とした縄文時代前期の土器を極少数含むが、主体となるのは加曽利 E 田式を中心とした土器であり、縄文時代中期後半の時期に帰属するものである。この傾向は検出した縄文住居跡と同様で、時期的な乖離は見られない。このうち $D-50\cdot 56$ では出土する土器数が他の土坑に比べ極めて多く、出土状況などから縄文住居跡になることも考えられるが、後出する遺構などにより調査段階では判然としなかったため土坑としておく。D-50 出土遺物は加曽利 E II 併行期の唐草文系土器を含み、やや古相を示す。なお、 $D-51\cdot 52\cdot 53$ は不整形な掘り込みの連続であり、断面観察から風倒木の可能性も考えられる。その他は古墳時代から古代を中心とした土坑である。

170 基を検出したピットについては遺構の重複関係や出土遺物から、P-1号ピットが縄文時代、それ以外のピットについては古墳時代以降、特に古代から中世にかけての遺構と判断している。しかしながら重複や出土遺物がなく、覆土からも判別困難であり、縄文時代に遡るものも少なからず存在すると思われる。

各計測値については「Tab. 4 (123) 土坑・ピット計測表」を参照のこと。

(6) 遺構外出土遺物

遺構外遺物は30点掲載した(Fig.144・145)。いずれも調査区内で検出した遺構群との時期的な乖離はなく、各時期での特徴的な遺物を抽出した。以下に簡単であるが、個別の特徴について触れておく。

- (1)は縄文土器深鉢で、口縁下に無文帯、縄文RL施文後に沈線文を施文する。(2)は縄文土器深鉢で、体部には貝殻状痕文または櫛状工具による集合沈線文を縦位に施文する。(1)・(2)ともに加曽利EⅢ期の範疇で捉えられ、縄文時代中期後半と時期比定できる。(3)・(4)は土製円盤であるが縄文土器片からの転用で、周縁部に2次調整が見られる。(5)・(6)は須恵器坏蓋であり(5)は宝珠、(6)は環状の摘みを持つ。(7)~(11)は須恵器坏であり、(7)は口端部を欠損するものの、全体的な形状から6世紀中頃の時期と考えられる。(9)~(11)は須恵器坏でロクロ整形、底部回転糸切りといった特徴を持つ。なお、(11)は底部に墨書が見られ、「七」が書かれているものと思われる。(12)は須恵器で方形穿孔のある脚部片であり、破片の形状から円面硯と考えられる。(13)は土師器甕の胴部片で、外面に「カ」と考えられる墨書が確認できる。(14)は灰釉陶器皿、(15)~(17)は灰釉陶器碗の体部以下の破片である。(18)は平瓦で凸面にへラ記号が施される。(19)・(20)は丸瓦で、(19)は凹面にへラ記号が施され、(20)は凸面に「田」の押印が見られる。
- (21) は円盤形の石製模造品であり、石材は滑石を用いている。周縁には研磨方向が顕著な平坦面が複数認められ、製作途中の未製品とみられる。(22) は黒曜石製の凹基無茎鏃、(23) は黒色頁岩製の石錐で、完形品である。(24) ~ (26) は黒色頁岩製の打製石斧で、(27) も同様に黒色頁岩製の打製石斧であるが分銅形を呈する。括れ部の作出は丁寧でほぼ左右対象であるが、刃部には凹凸が確認でき、使用による欠損剝離の可能性が考えられる。
- (28) は鉄製の雁股鏃であり Y字状を呈しているが、茎部は欠損している。(29) は銅製の春霞形煙管の吸口であるが、吸口先端は欠損する。(30) も銅製品であるが、薄手で中空の形状を呈するが、器種については不明である。

Tab. 4 (123) 土坑・ピット計測表

1 ab. 4	(123) 그 씨.	C / T HIL	X12C					
遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
D - 1	X 40, Y 118	(2.04)	(0.39)	0.45	(長方形)	(箱状)	縄2、土2	
D - 2	X 38, Y 116	1.12	0.99	0.47	円形	箱状	縄 10、土 12、須 8	
D - 3	X 38 · 39, Y 119	1.57	1.30	0.37	楕円形	弧状	縄3、石2	縄文土坑 縄文中期か
D - 4	X 38, Y 120	1.44	0.94	0.14	楕円形	台形状	縄5、土6	
D - 5	X 38、Y 119	0.76	0.40	0.16	長方形	弧状	縄 4	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 6	X 36、Y 120	0.49	0.46	0.14	円形	弧状	縄4、土2	
D - 7	X 36、Y 119	0.69	0.60	0.16	円形	弧状	土1、須1	
D - 8	X 36、Y 120	0.65	0.59	0.29	円形	台形状	縄1、土1、須1	
D - 9	欠番							
D - 10	X 32、Y 120	0.74	0.51	0.32	楕円形	箱状	縄1、土1、須1	
D - 11	X 32, Y 120	1.05	0.75	0.21	楕円形	台形状	縄1、土8、須1	6世紀末~7世紀初頭
D - 12	X 29, Y 118	(0.75)	(1.41)	0.15	(楕円形)	台形状	縄 5	縄文土坑 加曽利EⅢ・Ⅳ式
D - 13	X 30、Y 116 · 117	1.38	1.12	0.57	楕円形	箱状	縄 19、石 2、土 5、須 2	
D - 14	X 29、Y 116	(0.94)	1.06	0.26	(楕円形)	弧状	縄9、石1、土9、須7	10 世紀代
D - 15	X 29、Y 116	0.79	0.53	0.41	楕円形	U字状	縄5、須3	
D - 16	X 29、Y 116	0.93	0.45	0.43	(長方形)	台形状	縄 14、土 6、須 9	9世紀代
D - 17	X 28、Y 114	0.85	0.81	0.46	円形	箱状	縄13、石1、土2、須1、瓦1	10 世紀代
D - 18	X 28、Y 114	(1.13)	1.02	0.42	(楕円形)	(台形状)	縄2、土3、須1	9世紀代
D - 19	X 28、Y 114	1.03	0.60	0.50	長方形	箱状	縄7、石2、土1、須1	
D - 20	X 28, Y 113	1.58	1.09	0.44	楕円形	袋状	縄 19、土1、瓦2	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 21	X 29, Y 113	1.54	1.17	0.52	長方形	箱状		
D - 22	X 27、Y 114	0.93	0.71	0.24	楕円形	弧状	縄2、土1	
D - 23	X 29、Y 112·113	1.03	(0.84)	0.44	楕円形	U字状	縄7、土2、須2	
D - 24	X 27, Y 112	0.88	0.78	0.25	楕円形	箱状	縄10、石1、土2、須1	
D - 25	X 27、Y 112	(0.91)	0.66	0.17	(楕円形)	台形状	縄8、土1、須4、瓦1	
D - 26	X 27、Y 112	(1.07)	1.00	0.44	(円形)	U字状	縄8、須7、灰1、鉄2	9世紀代
D - 27	欠番							
D - 28	X 34、Y 111	(1.12)	0.25	0.33	(長方形)	(弧状)		
D - 29	X 33、Y 110	0.64	0.62	0.29	円形	U字状		
D - 30	X 33 · 34、 Y 111	0.79	0.57	0.42	楕円形	(箱状)	縄3	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 31	X 33、Y 111	0.70	0.49	0.20	(楕円形)	(弧状)	縄7、土1、須1	
D - 32	X 32、Y 114	1.01	0.57	0.47	楕円形	台形状	縄 17、石 1、土 5	
D - 33	X 31、Y 114	(0.96)	(0.54)	0.14	(楕円形)	(弧状)	縄6、石1	縄文土坑
D - 34	X 32、Y 115	1.15	0.86	0.44	長方形	台形状	縄 21、土3、須6、瓦1	
D - 35	X 32, Y 116	0.97	0.68	0.09	楕円形	弧状	縄3	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 36	X 32, Y 116	1.12	0.85	0.28	楕円形	U字状	縄4、土1、須1	
D - 37	X 32, Y 116	(1.09)	0.64	0.30	楕円形	台形状	縄5、土1、須2	
D - 38	X 35 · 36, Y 117	2.13	0.92	0.50	長方形	箱状	縄1、土3、瓦1	11 世紀末、墓坑。
D - 39	X 40、Y 119	(1.74)	1.21	0.76	(長方形)	(箱状)	石3、土3、須4、瓦3	
D - 40	X 28、Y 113·114	(1.81)	1.75	0.39	不整円形	台形状	縄5、土2、須11、灰3、瓦1	
D - 41	X 28、Y 114	(2.11)	1.24	0.47	不整楕円形	台形状	縄3、土1	
D - 42	X 32、Y 110·111	2.34	(1.13)	0.16	楕円形	弧状	縄 5	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 43	X 32、Y 111 · 112	2.04	1.99	0.43	不整円形	台形状	縄 192、石 10、須 2	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 44	X 28, Y 112	2.89	1.35	0.86	不整長方形	台形状	縄 50、石 1、土 1、須 1	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 45	X 31、Y 111 · 112	(1.13)	1.04	0.39	不整楕円形	台形状	縄 316、石 7、土 3	縄文土坑 加曽利EIV式
D - 46	X 31、Y 111	(0.68)	0.57	0.21	不整円形	(弧状)		
D - 47	X 31, Y 112	(0.82)	0.63	0.20	不整楕円形	(台形状)	縄8	縄文土坑 加曽利EⅢ式
D - 48	X 32, Y 111	0.56	0.52	0.15	円形	台形状	縄 15	縄文土坑 加曽利EⅢ式
	.=			1		1	<u> </u>	1

遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物		備考
D - 49	X 27、Y 112	0.71	0.61	0.15	楕円形	台形状	土6、須4、瓦4		
D - 50	X 28、Y 112	(0.88)	0.82	0.41	不整円形	台形状	縄 635、石 40、土 14、須 9	縄文土坑	加曽利EⅢ式
D - 51	X 33 · 34、 Y 115	2.55	1.24	0.36	不整長方形	台形状			
D - 52	X 33、Y 115	2.21	1.17	0.33	不整長方形	台形状			
D - 53	X 33 · 34、 Y 115	2.83	1.13	0.24	不整長方形	弧状			
D - 54	X 28、Y 113	1.15	1.03	0.62	円形	台形状			
D - 55	X 32、Y 119·120	1.72	0.87	0.33	楕円形	箱状	縄 69、石 9、須 2	縄文土坑	加曽利EⅢ式
D - 56	X 27 · 28, Y 112	3.14	1.37	0.23	不整長方形	箱状	縄 109、石 1	縄文土坑	加曽利EⅢ式
D - 57	X 29、Y 114	1.37	1.25	0.37	不整方形	台形状	縄 18、石 1	縄文土坑	加曽利EⅢ式
P - 1	X 38、Y 119	0.76	(0.44)	0.19	(楕円形)	(弧状)	縄 1	縄文遺構	
P - 2	X 39、Y 119	0.44	0.43	0.22	円形	箱状	縄 1		
P - 3	X 38、Y 119	0.64	0.48	0.31	楕円形	箱状	縄 5		
P - 4	X 38、Y 119	0.54	0.53	0.41	円形	U字状	縄10、土2		
P - 5	X 38、Y 119	0.67	(0.64)	0.46	円形	U字状	縄14、土2		
P - 6	X 38、Y 119	(0.56)	0.48	0.34	楕円形	箱状			
P - 7	X 39、Y 119	0.40	0.39	0.17	円形	台形状	土2		
P - 8	X 38、Y 120	0.29	0.29	0.07	円形	箱状	縄3、須5		
P - 9	X 37、Y 119	0.36	0.32	0.25	円形	U字状	縄3、石1		
P - 10	X 37、Y 119	0.32	0.32	0.27	円形	U字状	石1		
P - 11	X 37、Y 120	0.36	0.33	0.43	円形	U字状	縄 1		
P - 12	X 36 · 37、 Y 120	0.45	0.44	0.59	円形	U字状	土1		
P - 13	X 36、Y 120	0.71	0.56	0.36	楕円形	U字状	縄7、石1		
P - 14	X 36、Y 120	0.36	0.36	0.12	円形	弧状			
P - 15	X 36、Y 120	0.44	0.34	0.13	楕円形	台形状	縄6、土2、須1		
P - 16	X 36、Y 120	0.32	0.31	0.41	円形	U字状	縄3		
P - 17	X 38、Y 116	0.25	0.23	0.28	円形	U字状			
P - 18	X 38, Y 116	0.32	0.30	0.33	円形	U字状			
P - 19	X 38, Y 116	0.63	0.55	0.51	楕円形	台形状	縄2、土1、須2、瓦1		
P - 20	X 38, Y 116 · 117	0.71	0.65	0.41	楕円形	台形状	縄3、石1、土2、須1		
P - 21	X 38、Y 117	0.92	0.57	0.73	楕円形	U字状	縄3、須3、瓦1		
P - 22	X 38、Y 117	0.67	0.43	0.26	楕円形	箱状	縄1、土2、瓦1		
P - 23	X 37、Y 117	0.74	0.76	0.45	不整円形	台形状	縄10、石1、須1		
P - 24	X 37、Y 117	(1.00)	0.82	0.43	不整楕円形	U字状	縄7、石1、土2、須2		
P - 25	X 37、Y 117	0.61	0.48	0.37	楕円形	箱状	縄7、須1		
P - 26	X 38, Y 119	0.34	0.31	0.47	円形	U字状	縄2、土1		
P - 27	X 38, Y 118	0.41	0.38	0.22	円形	箱状	縄1、石1、土1		
P - 28	X 38, Y 118	0.91	0.78	0.42	梅円形	弧状	縄3、土7		
P - 29	X 37, Y 119	0.54	0.44	0.28	楕円形 IDIN	U字状	縄1、土1、瓦1		
P - 30	X 38, Y 117	0.31	0.29	0.43	円形	U字状			
P - 31 P - 32	X 38, Y 117	0.32	0.22	0.50	楕円形 (梅田形)	U字状	須1		
P - 32	X 38, Y 117	(0.66)	0.57	0.55	(楕円形)	U字状 U字状	/共 1		
P - 33	X 38, Y 117 X 38, Y 117	(0.79)	0.28	0.37	円形(楕円形)	台形状	須2、瓦1		
P - 34	X 38, Y 117	0.30	0.72	0.11	円形	U字状	MUN HII		
P - 36	X 39, Y 118	(0.30)	0.30	0.29	(円形)	箱状	土2、須1、瓦1		
P - 37	X 39, Y 118	0.63	0.29	0.19	楕円形	U字状	上口、次工、丸工		
P - 38	X 39, Y 117	0.03	0.24	0.37	楕円形	U字状			
P - 39	X 39, Y 118	0.32	0.24	0.12	円形	箱状	銭 1		
P - 40	X 33, Y 121	0.27	0.40	0.12	円形	U字状	土1、須1		
1 40	A 50, 1 121	0.41	0.40	0.40	1.1/15	0 7-1/	上 1 次 1		

遺構名	 位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P - 41	X 33、Y 121	0.31	0.31	0.20	円形	U字状		
P - 42	X 32, Y 122	0.41	0.36	0.09	不整円形	台形状		
P - 43	X 32, Y 122	0.50	0.37	0.25	楕円形	台形状		
P - 44	X 32, Y 121	0.69	(0.26)	0.36	(楕円形)	箱状	縄8、石1、須1	
P - 45	X 32, Y 121	0.85	(0.25)	0.36	(楕円形)	箱状		
P - 46	X 32, Y 121	0.47	0.46	0.15	円形	台形状		
P - 47	X 32, Y 121	0.38	0.32	0.20	円形	箱状		
P - 48	X 32, Y 121	0.37	0.33	0.09	円形	弧状	縄1、須1	
P - 49	X 32, Y 121	0.35	0.31	0.12	円形	弧状		
P - 50	X 34、Y 121	0.41	0.28	0.47	楕円形	U字状	石1、須1	
P - 51	X 34、Y 121	0.36	0.35	0.41	円形	U字状	縄 1	
P - 52	X 34、Y 120	0.32	0.27	0.19	円形	U字状	縄 1	
P - 53	X 34、Y 120	0.49	0.31	0.17	楕円形	台形状		
P - 54	X 34、Y 120	0.36	0.36	0.35	円形	U字状	組 1	
P - 55	X 34、Y 120	0.27	0.17	0.32	楕円形	U字状	縄 1	
P - 56	X 34、Y 120	0.25	0.20	0.35	楕円形	U字状		
P - 57	X 34、Y 120	0.22	0.21	0.57	円形	U字状		
P - 58	X 34、Y 120	0.35	0.34	0.19	円形	U字状	土2	
P - 59	X 32 · 33, Y 121	0.48	0.42	0.34	楕円形	台形状	縄1、須1、瓦1	
P - 60	X 33、Y 121	0.52	0.42	0.18	楕円形	弧状		
P - 61	X 32、Y 121	0.20	0.20	0.26	円形	U字状		
P - 62	X 32、Y 121	0.33	0.30	0.37	円形	U字状	維1	
P - 63	X 32、Y 120	0.29	0.27	0.38	円形	U字状		
P - 64	X 32, Y 120	0.34	0.34	0.42	円形	U字状	石1、土1	
P - 65	X 32、Y 120	0.43	0.36	0.31	楕円形	台形状		
P - 66	X 32、Y 120	0.47	0.41	0.63	楕円形	U字状	縄2、須1	
P - 67	X 33、Y 120	(0.45)	0.40	0.44	(楕円形)	U字状	縄1	
P - 68	X 33、Y 120	0.32	0.29	0.33	円形	U字状	縄1	
P - 69	X 33、Y 120	0.48	0.38	0.22	楕円形	箱状		
P - 70	X 32、Y 120	0.36	0.24	0.36	楕円形	U字状	須1	
P - 71	X 32、Y 120	0.54	0.39	0.33	楕円形	弧状		
P - 72	X 33、Y 120	0.58	(0.36)	0.33	(楕円形)	(U字状)	縄1、土1	
P - 73	X 33、Y 120	0.30	0.29	0.37	円形	U字状		
P - 74	X 34、Y 121	0.41	0.35	0.52	楕円形	U字状	縄1、土1	
P - 75	X 34、Y 121	0.59	0.49	0.32	楕円形	箱状	縄1、土1	
P - 76	X 34、Y 121	0.59	0.47	0.38	楕円形	U字状		
P - 77	X 34、Y 120	0.47	0.38	0.18	楕円形	台形状		
P - 78	X 33、Y 120	0.32	0.30	0.21	楕円形	箱状		
P - 79	X 33、Y 120	0.69	0.55	0.40	楕円形	U字状		
P - 80	X 32、Y 119	0.50	0.34	0.51	楕円形	U字状	土2、瓦2	
P - 81	X 32、Y 119	0.30	0.29	0.21	円形	U字状	縄 1	
P - 82	X 32、Y 118	0.38	0.31	0.56	楕円形	U字状	縄 4	
P - 83	X 32、Y 118	0.41	0.34	0.13	楕円形	箱状	土1	
P - 84	X 32、Y 118	0.47	0.42	0.60	円形	U字状	縄3、須2	
P - 85	X 29、Y 118	0.45	0.42	0.12	円形	弧状	縄3、石1	
P - 86	X 30、Y 117	0.62	0.59	0.26	円形	U字状	縄13、石1、土1	
P - 87	X 30、Y 117	0.69	0.60	0.30	楕円形	箱状	縄8	
P - 88	X 29、Y 117	0.31	0.26	0.20	楕円形	U字状	縄4	

遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P - 89	X 30、Y 117	0.50	0.39	0.43	楕円形	U字状	縄5、土3、須3	
P - 90	X 30、Y 116	0.48	0.38	0.42	楕円形	U字状	縄1、土7、須3、灰1	
P - 91	X 30、Y 119	0.54	0.41	0.15	楕円形	台形状	縄 4	
P - 92	X 28、Y 116	(0.30)	0.30	0.49	(円形)	U字状		
P - 93	X 28、Y 116	0.37	(0.34)	0.44	(円形)	U字状	土2、須2	
P - 94	X 28、Y 114	0.42	0.34	0.28	楕円形	箱状	縄11、石1、須1	
P - 95	X 27 · 28、 Y 114	0.50	0.38	0.29	楕円形	弧状	縄 2	
P - 96	X 27、Y 113	0.30	0.21	0.33	楕円形	U字状		
P - 97	X 27、Y 113	0.41	0.34	0.08	楕円形	弧状	須1	
P - 98	X 27、Y 113	0.36	0.33	0.07	円形	弧状	縄3	
P - 99	X 27、Y 113	0.28	0.26	0.09	円形	弧状		
P - 100	X 28、Y 113	1.31	0.94	0.65	楕円形	階段状	縄 1	
P - 101	X 28、Y 112	0.34	0.27	0.32	楕円形	U字状	縄3	
P - 102	X 28、Y 113	0.29	0.28	0.23	円形	階段状	縄1、石1	
P - 103	欠番							
P - 104	X 27、Y 113	0.38	0.34	0.21	円形	弧状	須1	
P - 105	X 32、Y 110	0.81	0.61	0.38	楕円形	弧状	縄5、土2	
P - 106	X 32、Y 115	0.37	0.29	0.65	楕円形	U字状	縄3、土3、瓦2	
P - 107	X 32、Y 115	0.35	0.34	0.59	円形	U字状	縄 12、土8	
P - 108	X 32、Y 114·115	0.54	0.27	0.71	不整楕円形	U字状	縄3、土1	
P - 109	X 34、Y 111	0.47	0.32	0.49	楕円形	U字状		
P - 110	X 34、Y 111	0.35	0.28	0.48	楕円形	U字状	土1	
P - 111	X 33、Y 111	0.33	0.32	0.22	円形	U字状		
P - 112	X 33、Y 112	0.41	0.38	0.32	円形	U字状	縄2、灰1	
P - 113	X 32、Y 116	0.46	0.34	0.11	楕円形	弧状	縄2	
P - 114	X 32、Y 116·117	0.53	0.46	0.28	楕円形	U字状	縄3、土1	
P - 115	X 32、Y 117	0.44	0.37	0.32	楕円形	U字状		
P - 116	X 32、Y 115	0.60	0.47	0.37	楕円形	台形状	維1	
P - 117	X 36、Y 117	0.62	0.40	0.56	楕円形	U字状	土1、瓦1	
P - 118	X 36、Y 117	0.71	0.66	0.45	不整方形	U字状	縄5、灰3	
P - 119	X 36、Y 117	0.71	0.66	0.45	不整方形	U字状		
P - 120	X 37、Y 116 · 117	0.53	0.38	0.52	楕円形	階段状	縄3、須1	
P - 121	X 36、Y 116	0.54	0.38	0.21	楕円形	台形状	瓦 1	
P - 122	X 36、Y 116 · 117	0.73	0.37	0.44	不整楕円形	台形状	土1、瓦1	
P - 123	X 36、Y 116 · 117	0.56	0.41	0.42	楕円形	U字状	土1、瓦1	
P - 124	X 36、Y 116	0.53	0.24	0.32	楕円形	U字状		
P - 125	X 36、Y 116	0.48	0.31	0.39	楕円形	U字状	須1	
P - 126	X 35、Y 117	0.50	0.43	0.13	楕円形	台形状		
P - 127	X 35、Y 117	0.36	0.32	0.36	円形	U字状		
P - 128	X 36、Y 117	0.63	0.39	0.08	(楕円形)	弧状		
P - 129	X 36、Y 117	0.44	0.39	0.25	楕円形	U字状		
P - 130	X 32、Y 115	0.32	0.29	0.30	円形	U字状	土1	
P - 131	X 32、Y 115	0.44	0.32	0.44	楕円形	U字状		
P - 132	X 32、Y 115	0.41	0.31	0.33	楕円形	U字状		
P - 133	X 27、Y 114	(0.78)	0.66	0.08	(楕円形)	台形状	縄4、土1	
P - 134	X 32、Y 118	0.50	0.39	0.53	楕円形	U字状	縄2、土1、須1	
P - 135	X 32、Y 115	0.37	0.35	0.28	円形	箱状	瓦1	
P - 136	X 36、Y 116	0.41	0.29	0.23	楕円形	U字状	須1	

遺構名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
P - 137	X 36、Y 116	0.30	0.26	0.07	円形	台形状		
P - 138	X 36、Y 116·117	0.85	0.50	0.60	不整楕円形	U字状	縄4、瓦1	
P - 139	X 36、Y 117	0.42	0.41	0.39	円形	U字状	縄6、石3	
P - 140	X 36、Y 116	0.38	0.30	0.31	楕円形	U字状		
P - 141	X 36、Y 116·117	0.50	0.37	0.25	楕円形	U字状	縄3、土1	
P - 142	X 36、Y 116·117	0.54	(0.27)	0.25	楕円形	U字状		
P - 143	X 36、Y 116·117	0.35	0.25	0.28	楕円形	U字状		
P - 144	X 37、Y 117	0.50	0.31	0.52	不整楕円形	階段状	須1、瓦1	
P - 145	X 37、Y 116	0.29	(0.25)	0.56	(円形)	U字状		
P - 146	X 37、Y 116	0.33	0.31	0.49	方形	U字状		
P - 147	X 37、Y 116	(0.27)	0.23	0.19	(楕円形)	U字状		
P - 148	X 37、Y 117	0.28	0.23	0.33	方形	U字状		
P - 149	X 37、Y 117	0.52	0.38	0.18	不整楕円形	階段状		
P - 150	X 37、Y 116	0.32	0.26	0.50	楕円形	U字状		
P - 151	X 37、Y 117	(0.42)	0.25	0.49	(楕円形)	U字状	縄4、須1	
P - 152	X 37、Y 117	(0.22)	0.21	0.36	(楕円形)	U字状		
P - 153	X 37、Y 117	0.23	0.23	0.28	円形	階段状		
P - 154	X 32、Y 115	(0.22)	0.20	0.31	(楕円形)	U字状		
P - 155	X 32、Y 115	0.34	0.28	0.31	楕円形	U字状		
P - 156	X 32、Y 115	0.42	0.32	0.33	楕円形	U字状		
P - 157	X 32、Y 114	0.45	0.28	0.38	不整楕円形	箱状		
P - 158	X 32 · 33、 Y 115	0.26	0.19	0.16	楕円形	弧状		
P - 159	X 32, Y 114	0.34	0.24	0.19	楕円形	台形状		
P - 160	X 32、Y 114	0.28	0.24	0.30	楕円形	U字状		
P - 161	X 32、Y 114	0.33	0.21	0.12	楕円形	箱状		
P - 162	X 33、Y 115	0.31	0.25	0.20	楕円形	U字状		
P - 163	X 33、Y 114	0.49	(0.32)	0.29	不整方形	箱状		
P - 164	X 33、Y 114	0.30	0.22	0.13	楕円形	台形状		
P - 165	X 33、Y 114	0.52	(0.30)	0.24	楕円形	階段状		
P - 166	X 33、Y 110	0.33	0.24	0.60	楕円形	U字状		
P - 167	X 27、Y 113	0.44	0.43	0.28	円形	台形状		
P - 168	X 27、Y 113	0.34	(0.32)	0.10	(円形)	台形状		
P - 169	X 27、Y 113	(0.58)	0.36	0.32	(楕円形)	U字状		
P - 170	欠番							
P - 171	X 28、Y 114	0.64	0.43	0.57	楕円形	U字状	縄1、土6	
P - 172	X 28、Y 114	0.33	0.25	0.26	楕円形	U字状	瓦1	

Tab. 5 (123) 出土遺物観察表

J – 1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	縄文土器 深鉢	-		(14.8)	白·黒粒、 茶色粗粒	良好	にあい他	平口禄。口禄下は両側を太い沈線で調整した隆沈線が巡り、以下地文に縄文 LR施文後口縁下文様帯を区画する太隆帯施文。以下2本の懸垂沈線間に無文 帯施文。	口縁~胴部上位片。 加曽利EⅢ期。
2	No. 3	縄文土器 深鉢	-	-	(9.1)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい褐 褐灰	波状口縁。口縁下は沈線による文様区画及び横位蕨状文の連続、区画内縄文R L 充塡。以下地文に縄文R L 施文後懸垂沈線施文。蕨状文と楕円形区画間に上 下 2 つの円形刺突文施文。	口縁~胴部上位片。 加曽利 E Ⅲ期。
3	No. 4	縄文土器 深鉢	-	-	(10.4)	白·灰·茶色粒、 黒雲母	良好		口縁下で屈曲を持つ波状口縁。低い三角形状口唇部下を起点に横位蕨状文施文 及び、隆帯による楕円形区画の連続する文様帯。蕨状文と楕円形区画間に上下 2つの円形刺突文。区画内施文縄文LR。	口縁文様帯片。 加曽利E Ⅲ期新相。
4	No.12	縄文土器 深鉢	-	-	(28.6)	白·黒·茶色粒、 石英	良好	にぶい橙	地文に縄文RL施文後、2本の沈線間に無文帯を持つ懸垂文が等間隔に連続する。	胴部片。 加曽利 E Ⅲ期中相。
5	No.12	縄文土器 深鉢	-	-	(18.6)	白·灰·茶色粗粒	良好		波状口縁。口縁下は粗い蕨状文に連続する文様区画が隆帯により施文され、文 様帯下隆帯は弧状に連続する。区画内縄文充塡。以下地文に縄文RL施文後、 2本の懸垂沈線間に無文帯及び蕨状文施文。	口縁~胴部上位片。 加曽利 E II 古相。

J – 2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 深鉢	-	-	(9.8)	白・黒色粒、 チャート粗粒	良好	明赤褐		1級下は隆帯による蕨状文及び楕円形区画が連結して連続する。蕨状 楕円形区画内施文縄文RL。	□緑文様帯。 加曽利EⅢ期。
2	No.13	縄文土器 深鉢	-	-	(13.7)	白·黒·茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄褐 にぶい黄橙	り、渦巻文	緩やかな山形に突起する口縁下を起点に渦巻文から横位太沈線が巡 の左右下方に楕円形区画を配する。区画内縦位短沈線充填。以下地 R 施文後懸垂及び文様沈線施文。	□縁文様帯片。 内面側にも渦巻文施文。 加曽利EⅢ期。
3	覆土	縄文土器 深鉢			(4.0)	白・黒色粒、 チャート	良好	にぶい褐		口縁下は両側を沈線で調整した隆沈線を横位に 2 段巡らせ、隆帯部 形連続刺突文施文。	□緑部片。 加曽利EⅢ期古相。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土	石器 石鏃	(1.6)	(1.7)	(0.3)	黒曜石	-	-	0.5	鏃身は全体に連続する丁寧な調整剝離が施され、整った凹基部及び 左右対称の脚部を作出している。	上半部欠損。 凹基無茎鏃。
5	No.10	石器 打製石斧	11.8	5.2	1.7	安山岩	-	-	110.8	表面に広く自然面を残す薄形の剝片を素材に使用し、左右側縁に僅かな調整剝離を施し短冊形を作出している。素材剝片段階で鋭利な 刃部は使用による欠損が認められる。	一部欠損。 短冊形。
6	覆土	石製品 石皿	(18.1)	(10.4)	(5.2)	緑泥片岩	-	-	1142.8	表面は使用により緩やかな凹状を呈し、裏面は平坦で最深 6 mmを計る孔が3ヶ所認められる。方形か。	破片。

J – 3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	縄文土器 深鉢	(27.8)	-	(16.7)	白・灰粗粒、 黒雲母、チャート	やや軟質	にぶい橙 明黄褐	波状口縁か。口縁下は沈線による横位熊状文及び連結する横位沈線が巡り、文 様帯下位は隆起線文が横位に巡る。以下地文に複節斜縄文RLR施文後、3本 1組の懸垂沈線文施文。	□緑〜胴部中位片。 □緑は横位蕨状時点で緩やかに突出する。 加曽利 E Ⅲ期古相。
2	No. 5	縄文土器 深鉢	-	(11.1)	(17.8)	白·灰·茶色粒、 黒雲母	良好	明褐 明赤褐、暗赤褐		胴部中位~底部 2/5 残存。 加曽利 E Ⅲ期古相。
3	覆土.	縄文土器深鉢	-	-	(21.5)	白色粒、茶色粗 粒、黒雲母	良好	にぶい赤褐	平口縁。口縁下に無文帯を有し、以下文様帯は沈線による横位康状文及が楕円 形区両づ継続し、文様帯では両側を光線で調整した陸沈線が巡る。楕円形区両 内縦節斜構立、R L 充塊、以下2 本の沈線間に無文帯を持つ懸垂文が等間隔に 遥り、沈線文間には縦位矢羽状沈線施文。	口縁〜胴部上位片。 J・3号住4と同一個体とみられる。 加曽利EⅢ期。
4	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(14.1)	白色粒、茶色粗 粒、黒雲母	良好	他	平口縁。口縁下は沈線による楕円形区画が連続し、文様帯下位は低い隆沈線が 遥る。楕円形区画内複節斜縄文LRL充填。以下2本の沈線間に無文帯を持つ 懸垂文が等間隔に巡り、沈線文間には縦位矢羽状沈線施文。	□緑〜胴部上位片。 J·3号住3と同一個体とみられる。 加曽利EⅢ期。
5	No. 1	縄文土器 深鉢	÷	-	(10.3)	白·黒色粒、 黒雲母	良好	にぶい褐	平坦な突起部上面を起点に渦巻文が口縁下文様帯の下端部に接続し、渦巻文隆 帯には円形刺突と施文。中空突起左右側面には竹管による巌状文が施され、口 線下文様帯も同様の竹管により上下に横位光線を巡らせ、沈線文間に縦位短沈 線光環。文様帯以下2本1組の懸弛光線施文。	中空突起片。 加曾利EI~EⅢ期古相。

J – 4

0	_										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2 · 43 · 67	縄文土器 深鉢	(54.6)	-	(28.5)	白・黒・灰色砂粒	良好	明黄褐 灰黄褐	R施文後模	1級下は無文帯が高り、以下横位に隆線を配して胴部は地文に縄文上 位隆線に接続する対隆線は間に無文帯を有して「∩」「U」の連続 半部に施文。さらに「∩」文様内に小型の「∩」文様を隆線で施文後、 消し縄文。	□緑~胴部中位片。 加曽利EⅣ期。
2	No.23 · 24	縄文土器 深鉢	[40.4]	-	(19.6)	白·黒·茶色粗粒、 石英	やや軟質	明黄褐 橙		1緑下は無文帯が巡り、以下横位隆線を配して胴部は地文に縄文LR 8線による蕨状文他文様施文。	口縁~胴部上位片。 加曽利E IV期。
3	No.45 · 47	縄文土器 深鉢	-	-	(17.8)	白·黒色砂粒、 白色粗粒	良好	にぶい黄 暗灰黄	R施文後、	1楼下は無文帯が巡り、以下横位に隆線を配して胴部は地文に縄文L 横位隆線に接続する対隆線は囲に無文帯を有して「∩」文様を施文。 紅連続か。	口緑~胴部上位片。 加曾利EIV期。
4	No.13	縄文土器 深鉢	-	-	(13.6)	白・黒・茶色粒、 チャート	良好	明黄褐 浅黄	平口緑。口 R施文。	1緑下は無文帯が巡り、以下横位に半隆帯を配して胴部地文に縄文L	口縁~胴部上位片。 加曽利E IV期。
5	覆土	縄文土器 鉢	1	-	(9.0)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄、黄灰 灰黄褐		プロ緑か。口縁下は無文帯が巡り、以下横位に沈線を配して胴部地文 2 施文後、沈線文施文。沈線文様内すり消し縄文。	口縁~胴部上位片。 加曽利E IV期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No.33	石製品 石棒	(14.5)	(10.2)	(9.4)	角閃石安山岩	-	-	1914.0	頭部は扁平で頭部下位に括れを持ち、敲打成形後にミガキ調整が施 されている。断面形状は丸型。	下半部欠損。
7	No.41	石製品 凹石	11.1	7.5	3.8	粗粒安山岩	-	-	462.1	表・裏面共に中央付近に縦長の凹部を持ち、側縁にも痘痕状の敲打 痕が認められる。凹部周辺は滑らかで磨石併用。	完存。
8	No.60	石製品 石皿	(18.9)	(19.3)	(8.2)	粗粒輝石安山岩	-	-	2661.0	表面は広く滑らかで下方向(手前側)に低く傾斜している。裏面に は数ヶ所孔が認められる。	破片。
9	No.70	石製品 砥石	(3.9)	(10.0)	(3.4)	角閃石安山岩	-	-	447.9	表面には 1 条、裏面には 2 条の筋状の緩やかな凹部を持つ。中央付近には敲打による凹部も認められる。	上部及び下部欠損。

J – 7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.29	縄文土器 深鉢	[26.4]	-	(11.8)	白·灰色粒、白色粗 粒、黒雲母、水晶	良好	黒褐 にぶい赤褐	下は無文帯	(曲を持つ波状口縁。山形突起は口縁の対角線上4ヶ所に配置。口縁が近り、山形突起下を起点に太沈線による横位蕨状文施文度が連絡。 方式境。文操帯下は太隆帯及び沈線により波状に施文、以下胴部縄。	□縁~肩部 1/4 残存。 加曽利 E Ⅲ期。
2	No.22 · 30	縄文土器 両耳壺	-	-	(14.0)	白·灰·茶色粗粒	良好	橙 明黄褐	は文様帯下	空把手上縁は横位隆帯と連結し、把手中位に連結する緩やかな隆帯 端を弧状に巡る。把手及び文様帯には縄文RL施文。把手円孔側辺 施文。以下胴部は横状工具による集合沈線が縦位に施文。	肩部及び把手片。 加曽利 E Ⅲ期。
J -	- 8										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	縄文土器 鉢	(20.6)	-	(8.8)	白色粒・黒・茶色 粗流、チャート	良好	にぶい黄褐 明黄褐		1縁下は竹管による円形刺突文が巡り、以下胴部は蕨状文及び蕨状文 ₹文と、縦位S字連続沈線文が交互に施文。	口禄~胴部上位片。 加曽利 E Ⅲ期。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	石器 石核	5.1	4.7	3.2	黒曜石	-	-	65.4	大きく剝離した左側面以外は風化面である。節理及び斑晶を多く含 有している。	完存。
3	覆土	石製品 凹石	13.0	7.6	3.6	粗粒輝石安山岩	-	-	482.1	表・裏面共に中央付近に縦方向に数ヶ所の凹部を持つ。凹部周辺は 磨面使用による磨耗が顕著。	完存。

J - 9

J –	- 9										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 7	縄文土器 深鉢	-	8.9	(41.8)	白·灰色粒、石英	やや軟質	橙 オリーブ褐	S字状文・ 填されてい	膨らみから上部は両側を沈線で調整した隆沈線により、渦巻文・横 楕円形に両他が始され、隆沈線区画内には文様に添って短沈線が充 る。以下はほ光線によるを頭文に縦位波状の彩絵及び渦巻文に懸 が交互に連続し、文様内には縦矢羽状沈線文施文。	2/5残存。 胴部最大径〔37.6〕cm。 加曾利EII期並行唐草文系(郷土式)。
2	覆土.	縄文土器 鉢	-	-	(8.5)	白·黒·茶色粒、 黒雲母、石英	良好	にぶい黄褐 橙		曲を持つ波状口縁。口縁下は指による横位蕨状文及び円形刺突文他 。文様内縄文R L 充填。	口縁部片。 加曽利EⅢ期。
3	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(8.0)	白·黒色粒、黒雲 母	良好	明黄褐 黄褐		を持つ波状口縁。口縁下は指による沈線が巡り、山形状突起中央は 右には蕨状文が指による沈線で施文。	□緑突起部片。 加曽利EⅢ期新相。
4	南西グリッド	縄文土器 鉢	-	-	(8.5)	白色粒、黒雲母、チャート	良好	灰黄褐 にぶい橙	突起を有す つ部分から	る小波状口縁。突起は指痘痕状を呈し、口縁下最大径の膨らみを持 の把手の延長。把手は無孔。口縁下は横位沈線が巡り、以下地文に 文後 「○」状沈線文施文。	口縁突起片。 加曽利 E IV期。
5	覆土	縄文土器 鉢	(18.6)	-	(9.4)	白·灰·茶色粒、 黒雲母	良好	褐暗褐	平口緑。口交互刺突文	縁下文様常は上下に横位沈線が巡り、間の幅広隆帯には竹管による が連続。以下胴部は地文に櫛状工具による斜め集合沈線が施文され、 る連弧文の連続、以下沈線による文様施文。	□縁~胴部上位 1/4 残存。 加曽利E II ~ E III 期古相。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No. 2	石器 削器	3.7	10.1	1.6	黒色頁岩	÷	-	38.3	石器は周縁にやや粗い細かな調整加工が認められ、尖頭器ほか細身 の形状を作出したとみられるが、被熱による剝落が表面中央と裏面 には広く認められ、さらに鋭利な刃部作出は意図的か。	完存。
7	南グリッド	石器 打製石斧	10.0	4.6	1.5	黒色頁岩	÷	-	65.9	表面に広く自然面を残す横長剝片を縦位に使用し、主に左右側縁に 調整加工を施し細身の形状を作出している。鋭利な刃部は磨耗が顕 著である。	完存。 短冊形。
J —	10							,			
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 2	縄文土器 深鉢	-	-	(7.0)	白·黒·茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい褐 灰褐	波状口縁か 区画内縄文	。口縁下文様帯は指による楕円形区画及び横位蕨状文施文。楕円形 R L 充塡。	□縁文様帯片。 加曽利EⅢ期。
2	覆土	縄文土器 深鉢	-	-	(10.8)	白·灰色粒、黒雲 母	軟質	褐		緑下は無文帯が巡り、以下文様帯は横位蕨状沈線文と、隆帯による 楕円形区画が交互に施文され、区画内横矢羽状沈線文充塡。文様帯 帯が巡る。	口禄~胴部上位片。 加曽利E II 期。
3	北グリッド	縄文土器 鉢	(21.0)	-	7.2	白·灰·茶色粒、 黒雲母	良好	浅黄	による逆S	下に屈曲を持つ平口縁。口縁下は無文帯が巡り、以下文様帯は沈線 字文と楕円形区画が交互に連続し、区画内縦位短沈線充塡。文様帯 帯が巡る。以下櫛状工具による縦位集合沈線施文。	口禄~胴部上位片。 加曽利EⅡ期。
4	No. 5	縄文土器 鉢	(24.0)	-	(6.6)	白·灰·茶色粗粒、 黒雲母	軟質	灰黄褐	刺突文及び	直下に屈曲を持つ平口縁。三角形状の口縁には半截竹管による連続 横位沈線が巡る。以下地文に縄文RL施文後「∩」状隆帯文施文。 り消し縄文。	口縁~胴部上位片。 加曽利EⅢ期。
J —	11										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 鉢	(25.3)	-	(17.0)	白·黒色粒、石英	良好	橙	隆起線文に	線下は無文帯が巡り、以下低い隆帯を横位に巡らせ文様帯下端には よる連弧文施文。連弧文区画内無文。以下胴部施文縄文LR。 口線下は無文帯が巡り、以下緩やかな山形突起を起点に指による沈	□縁~胴部中位残存。 加曽利EⅢ古相。
2	No. 5	縄文土器 鉢	[24.6]	-	(21.4)	白·黒色粒、黒雲 母	良好	にぶい黄褐 にぶい黄橙	線で横位蕨 を施文し上	状文施文。以下文様帯は上縁を隆沈線、下端には緩やかな波状沈線 下沈線区画内縄文RL充塡。	□緑~胴部中位 1/3 残存。 加曽利 E Ⅲ期新相。 □禄~胴部下位片。(116) J-1 号住 6
3 No	_{覆土} 出土位置	網文主器 鉢 種別、器種	〔27.2〕	最小径	(15.9) 厚さ	白色粒、黒雲母胎土	_{良好}	暗灰黄 黄褐 色調		線下は若干の隆帯が横位に廻り、以下胴部には半載竹管或は工具に 短い沈線が全面に施されている。 器形、成・整形、文様等の特徴	(116) J - 14 号住 4 と接合。 加曾利 E II 期。
4	覆土	縄文土器 耳栓	2.5	2.5	2.4	白・黒・茶色粒、	良好	にぶい橙	去, 東面井	に半載竹管による対沈線文で「C」と逆「C」状に施文。	一部欠損。
		70,238 712	2.0	2.0	2.1	チャート	22.71	灰褐	34 3411171	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O	HP7 C1900
H –	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況·備考
1	Мо. 7	須恵器 坏	13.1	7.8	4.0	黒色細粒、灰色粗	堅緻	灰白		ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	完存。
2	No. 1	土師器 坏	15.3	丸底	4.3	粒 黒・白色細粒、白 色鉱物	良好	黒、にぶい褐 黒	外面口縁部	ヨコナデ、以下ロクロナデ。 ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びヘラミガキ。 ヨコナデ、以下 (ヘラナデ後) ヘラミガキ。	外·内面煤付着。 3/4 残存。 内面黑色処理。
Н-	- 2										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 8	緑釉陶器 碗	-	(8.9)	(2.2)	粘土質	堅級	オリーブ黄	内面口縁部	ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部削出し高台か。緑釉施釉。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。緑釉施釉。	体部下位~底部片。 外·内面緑釉施釉。
2	No. 7	須恵器 高台付境	(11.4)	6.5	4.6	黒色細粒、灰色粗 粒	良好	灰黄褐 にぶい黄橙		ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/5 残存。酸化焔焼成。 内面黒色処理か。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 1	瓦 丸瓦	(21.1)	19.3	2.3	石英、長石	堅緻	暗灰	凹面布目痕 凸面ヘラナ	、ヘラケズリ。 デ。	1/2 残存。 凸面ヘラ記号「×」あり。
Н-	. 3										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.20	須恵器 高台付境	[12.8]	6.0	5.2	精良	良好	にぶい黄橙		ヨコナデ、体部ロクロナデ後ユビナデ。底部回転糸切り後高台貼付 縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ後ユビナデ。	1/4 残存。 酸化焰焼成。
2	No.18	土師器 鉢	(7.8)	-	(6.5)	精良	良好	にぶい黄橙		ヨコナデ、体上部ヨコナデ、体下部ヘラケズリ。 ヨコナデ、体部ナデ。	1/4 残存。
3	No.11 · 13	羽釜	[19.0]	-	(14.5)	白色粒	良好	灰黄褐		ヨコナデ、以下ロクロナデ胴下半部ロクロナデ後ユビナデ。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 底部欠損。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土	鉄製品 刀子	(10.4)	(1.8)	(0.5)	鉄	-	-	20.2	刃身と茎を分ける棟区及び刃区が明確ではないが、比較的茎が太 い。刃部は平造。	茎欠損。
Н-	- 4										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.10	須恵器 坏	12.7	6.5	3.5	黒色細粒、白・灰 色粗粒	堅緻	黄灰		ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	4/5 残存。歪みあり。 内面に褐色の付着物痕。
2	No.11	須恵器 坏	12.8	7.0	3.6	黑色細粒少量	堅級	褐灰 褐灰、灰白		ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。 内面煤付着。
3	No.19	須恵器 坏	13.0	7.3	3.6	黒色粒、黒色細粒	堅級	灰黄	外面口縁部内面口縁部	ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	一部欠損。 外·内面煤付着。
4	No. 8	須恵器 皿	[14.0]	(7.2)	3.85	黒·白·輝石細粒	堅緻	灰黄、浅黄橙	外面口級部	ヨコナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	2/3 残音。 内面煤付着。
5	No.24	須恵器 高台付埦	12.7	6.5	3.5	黒・白・茶色粒及 び粗粒	良好	橙 黒	外面口縁部	ココナデ、体部ロクロナデ。底部回転糸きり後高台貼付け。内面口 デ、以下ロクロナデ後底部から暗文が施されている。黒色処理。	一部欠損。酸化焰焼成。 内面黑色処理。
6	No.20	土師器 坏	-	7.0	(1.4)	雲母	良好	にぶい橙	外面ヘラケ 内面暗文。		底部のみ残存。
						1			1四曲增又。		1

H-6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 4	須恵器 蓋	8.3	11.3	4.2	白·灰色粒、石英 粗粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ後天頂部回転ヘラケズリ、以下櫛状工具による波状文が二段施 されている。内面ロクロナデ。	ほぼ完存。 摘み欠損。
2	No. 1	土師器 坏	13.4	丸底	4.1	黒·白·茶色粒少量	良好	にぶい黄橙、 褐灰	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損。 外面底部は磨滅により滑らか。
3	No. 9	土師器 坏	(12.7)	丸底	4.3	白色粒、チャート 粗粒	良好	にぶい黄橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/2 残存。
4	No.13	土師器 坏	(13.1)	丸底	4.3	白・茶色粒、チャー ト粗粒	良好	明赤褐 暗褐	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁部 2/3 欠損。
5	No.10	土師器 坏	12.3	丸底	3.7	白·灰·茶色粗粒	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	3/4 残存。
6	No.12	土師器 坏	12.7	丸底	4.4	黒・白色粒、チャー ト粗粒	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後坏中央付近に螺旋状ヘラミガキ。	4/5 残存。
7	No. 3	土師器 坏	13.5	丸底	4.5	黒·白色粒、茶色 粗粒、石英	良好	にぶい橙、黒 褐 橙、黒褐	外面口縁部と坏身は稜により明確に分かれ断面くの字状。口縁部ヨコナデ、以 下ヘラケズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後底部から中位を往復する 放射状ヘラミガキ。	ほぼ完存。 外・内面黒色処理或いは煤付着。
8	No. 2	土師器 慨	[17.4]	3.1	11.3	白色粒、白色祖粒	良好	にぶい橙 黒	外面外反し歪みを有しヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ。底部円孔ヘラケズリ及 びユビナデ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	2/3 残存。丸底。 内面煤付着。
9	No. 8	土師器 甕	(17.8)	-	(123)	チャート粗粒、4 mm 大の石英	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁~胴部上位片。

H – 7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	須恵器 埦	13.6	5.9	4.7	白色粒	良好		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。 酸化焰焼成。
2	No. 2	須恵器 高台付境	13.6	6.1	5.5	石英、黒色粒	やや軟質		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	ほほ完存。 酸化焔焼成。
3	No. 7	須恵器 高台付境	(14.3)	(9.1)	5.8	石英、雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 酸化焰焼成。
4	No. 6	羽釜	(17.4)	-	(12.5)	白色粒	良好		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/6 残存。

H-8

	U									
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	[13.7]	-	(3.8)	精良	軟質	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/4 残存。
2	覆土	土師器 坏	(12.8)	-	(3.0)	精良	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。
3	覆土	土師器 坏	[13.6]	-	(5.0)	雲母	良好	褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。
4	覆土	土師器 坏	[12.0]	-	(3.8)	黒・赤色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。
5	覆土	土師器 坏	[12.0]	-	(4.0)	白色粒	良好	灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。
6	No. 1	土師器 甕	[19.8]	4.9	38.8	黒色粒、石英、長 石	良好	灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ、下半部横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	ほぼ完存。 外面にカマド構築土付着。
7	No. 2	土師器 甕	14.7	2.6	22.7	黒・白粒、長石、 石英	良好	にぶい黄橙、 灰黄褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部上半部縦位ヘラケズリ、下半部斜位及び横位ヘラケ ズリ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	ほぼ完存。

H-9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.20	灰釉陶器 碗	[13.5]	(10.8)	4.7	精良	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
2	No.16	須恵器 坏	11.0	4.8	3.6	黒·白·茶色粒		褐灰 灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。
3	No.19	須恵器 埦	11.5	5.2	4.7	白色粒、輝石、~ 5 mm 大の小石	堅緻	黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。外・内面黒色処理か。 外面カマド土付着か。
4	No.17	須恵器 埦	13.5	8.5	6.7	黒・白色粒、チャー ト・石英粗粒	堅緻	灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。 歪みあり。
5	No.26	須恵器 高台付城	(14.4)	-	(5.1)	黒色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	酸化焰焼成。 1/2残存。
6	No. 8	土師器 甕	(17.6)	-	(8.3)	白・黒色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁~胴上半部 1/4 残存。
7	No. 6	羽釜	(21.0)	-	(17.4)	黒・白色細粒、 チャート粗粒	良好	にぶい黄橙、 黒褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、口縁部は若干の凹を有して内斜する。以下ロクロナデ後 脚下半部斜位ヘラケズリ及びユビナデ。内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁~胴部中位 1/2 残存。酸化焰焼成。 外・内面煤付着。鍔径 25.5 。

H-10

Н-	- 10									
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	灰釉陶器 皿	14.3	7.0	3.3	黒·白色粒	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け後回転ナ デ。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁一部欠損。 外·内面体部灰釉施釉。
2	No. 3	須恵器 埦	12.0	4.9	4.8	黑·白色細粒。	堅級	浅黄、黄灰 にぶい黄橙、 黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。外・内面媒付着。特に内面はタール状付着痕。
3	カマド覆土	須恵器 埦	13.3	6.9	4.8	黒・白色・輝石細 粒、灰色粗粒	良好	にぶい褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。外面底部に高台 の痕跡及び磨滅。内面煤付着。
4	No.10	須恵器 埦	11.7	5.1	3.9	黒色・輝石細粒。	良好	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。内面口縁部ヨコナデ、 以下ロクロナデ。底部から口縁を往復するヘラミガキ調整か。	完存。酸化焔焼成。
5	No. 4	須恵器 高台付埦	13.3	5.7	6.0	白色粒、チャート 粗粒白色鉱物	堅緻	にぶい黄、暗 灰黄 黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁一部欠損。
6	No. 5	須恵器 高台付埦	13.5	6.7	5.4	黒色細粒、白色粗 粒、黒雲母	堅緻	浅黄 灰黄、黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/4 残存。
7	No. 9	須恵器 高台付埦	14.5	6.5	5.7	黒・白色粒、白色 鉱物	堅緻	にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	3/5 残存。酸化焔焼成。 内面煤付着。
8	No. 7	須恵器 高台付境	(13.9)	8.0	6.6	黒色細粒、白・灰 色粗粒	良好	黄褐 暗灰黄	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/4 残存。
No	出土位置	種別、器種	瓦当径	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	覆土	瓦 軒丸瓦	(15.3)	1.89	(4.71)	石英、長石	堅緻	灰白	瓦当面単介 5 葉蓮華文、蓮子 1 、蓮弁間に珠文。 裏面ナデ。	2/3 残存。 国分寺 B 001 a と同笵。

H- 11

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.16	灰釉陶器 碗	-	(8.0)	(3.7)	精良	堅緻		外面体部ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け。 内面ロクロナデ。	底部 1/3 残存。
2	No.20	灰釉陶器 碗	[13.6]	6.4	4.8	石英	堅緻		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。外・内面施釉。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 6	須恵器 瓶	-	(17.0)	(6.0)	黒色粒	堅緻	灰	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	底部 1/3 残存。
4	No.14	須恵器 埦	(11.6)	5.4	4.1	白色粒	良好	灰白	外面口線部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口線部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。
5	No.23	須恵器 埦	(12.2)	5.8	4.0	白色粒	良好	にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ及びユビナデ。底部回転糸切り。	酸化焰。
6	No. 9	須恵器 埦	-	(13.0)	(4.6)	石英、長石	良好	にぶい黄橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面ロクロナデ。	2/3 残存。 高台部 1/2 残存。
		須恵器 現							内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ及びユビナデ。	
7	No.17	高台付埦	-	14.3	(6.8)	石英、白色粒	良好	にぶい橙	内面ロクロナデ。 外面口緑部ヨコナデ、以下ロクロナデ。胴下半部ユビナデ及びヘラケズリ。	高台部のみ残存。
8	No.22	羽釜	[20.0]	-	(23.3)	精良	良好	灰白	内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。胴下半部ユビナデ。	1/2 残存。
No 9	出土位置 _{覆土}	種別、器種 瓦 軒平瓦	瓦当幅 〔11.1〕	瓦当厚 2.4	長さ (13.4)	胎土 白色粒、雲母	焼成 ^{医級}	色調 ^{褐灰}	器形、成・整形、文様等の特徴 凹面布目痕、ヘラケズリ。	残存状況·備考 ^{唐草文。}
	12	AC FITA	(11.1)	2.4	(13.4)	口巴性、杂中	3E48X	TEJ//C	凸面ナデ。	破片。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.20	土師器 坏	12.4	丸底	4.1	黒・灰色粒、白・ 茶色粗粒	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	ほぼ完存。
2	覆土	土師器 坏	(14.5)	-	(4.2)	黒色粒	軟質	黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/4 残存。
3	No.17	土師器 坏	12.7	丸底	4.2	黒·白色粒、石英	良好	明赤褐、黒褐橙	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口緑部一部欠損。 外面煤付着。
4	No.21	土師器 坏	12.7	丸底	4.1	白・灰色粒、雲母	良好	黒褐	外面口縁部ヨコナデ、坏身との境に綾を有し、以下ヘラケズリ。	口縁部 2/3 欠損。
5	No. 7	土師器 甕	17.6		(19.3)	石英、長石、雲母	良好	福、黒褐にぶい橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。	外·内面黑色処理。 口縁~胴上半部残存。
						黒·白色粒、白色		明黄褐	内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ。	口縁~胴部上位残存。
6	No.13	土師器 甕	20.3	<u> </u>	(11.4)	粗粒、輝石	良好	にぶい黄橙	内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。 外面口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。	煤付着。 口縁~胴下半部残存。
7	No.14	土師器 甕	18.5	-	(27.6)	石英、長石、雲母	良好	灰黄褐	7	底部欠損。
8	No.16	土師器 亴	[20.0]	-	(19.5)	白色粒、雲母	良好	にぶい赤褐	外国口稼がヨコアア、胴がヘファスリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	1/6 残存。
H – No	13	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量 器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	Мо. 9	鉄製品 刀子	(8.9)	'YEE	0.6	鉄	光以 -		7.35 刀身と茎を分ける棟区が明瞭、刃区は不明瞭。刃部平造、茎は方形	刃身先端部欠損。
H –			(040)						を呈する。	最大幅 1.3cm。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 4	土師器 坩	[15.6]	-	(4.2)	精良	軟質	橙	外面ヨコナデ。 内面ヨコナデ。	磨減顕著。 口縁部片。
2	No. 1	S 字状口縁 台付甕	-	-	(4.3)	石英、雲母	良好	浅黄橙	外面ハケメ。 内面ヨコナデ。	底部のみ残存。
3	No. 2	S字状口緑	-	9.1	(4.2)	白色粒	良好	にぶい黄橙	外面ハケメ後底部ヨコナデ。 内面ヨコナデ。	台部のみ残存。
H –	· 16	台付甕			ļ			1	F7100	
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	須恵器 高台付皿	(18.8)	-	(2.0)	精良	良好	褐灰 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/2 残存。 高台欠損。
2	No.10 · 11	土師器 蹇	[20.4]	-	(10.5)	白色粒、雲母	良好	にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ及びユビオサエ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁~胴上半部 1/6 残存。
Н-	17							,		
No	出土位置	tacinii nn tac								
1		種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
	No.10	種別、	口径 (12.6)	底径 (5.3)	高さ (3.6)	胎土 石英、雲母	焼成 _{良好}	色調 褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	残存状況・備考 1/3 残存。 外面に墨書「吉」あり。
2	No.10 覆土								外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ。 内面ヨコナデ。	1/3 残存。 外面に墨書「吉」あり。 1/2 残存。
2		須恵器 埦	[12.6]	(5.3)	(3.6)	石英、雲母	良好	褐灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。	1/3 残存。 外面に墨書「吉」あり。
	覆土	須恵器 埦 土師器 坏	[12.6]	(5.3)	(3.6)	石英、雲母 白色粒、雲母	良好	福灰にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ヨコナデ。 外面ロクロナデ。	1/3 残存。 外面に墨書「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。
3	覆土 No. 2	須恵器 境 土師器 坏 土師器 合付薨	(12.6)	(5.3)	(3.6)	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母	良好良好良好	褐灰 にぶい橙 暗黄灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面自コナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロがエコナデ、頭部エピオサエ。 内面エピナデ。 番番 器形、成・整形、文様等の特徴	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に維付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考
3	覆土 No. 2 覆土	須恵器 境 土師器 坏 土師器 白付甕 土師器 憂	(12.6) (13.0) - (14.8)	(5.3) (6.0) 9.7	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2)	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒	良好良好良好良好	掲灰 にぶい橙 暗黄灰 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面ロ縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ヨコナデ。 外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 内面ログロナデ。 内面ログロナデ。 内面エピナデ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に維付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考
3 4 No 5	覆土No. 2覆土出土位置No. 618	須恵器 境 土師器 坏 土師器 台付喪 土師器 甍 種別、器種 鉄製品 炉底淬	(12.6) (13.0) · (14.8) 全長 7.4	(5.3) (6.0) 9.7 - - 幅	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄	良好良好良好良好	褐灰 にぶい橙 略黄灰 にぶい橙 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロシロナデ。 外面ロジオデ、顕部エピオサエ。 内面エピナデ。 垂量 器形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気を有して凹凸が楽しい。暗褐色、下面は緩やかな 丸味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。	1/3 残存。 外面に患害「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に媒付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。
3 4 No 5 H –	覆土No. 2覆土出土位置No. 618出土位置	須恵器 境 土師器 坏 土師器 合付喪 土師器 变 種別、器種 鉄製品 炉底滓	(12.6) (13.0) - (14.8) 全長 7.4	(5.3) (6.0) 9.7 - 幅	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白·黑色粒 材質 鉄	良好 良好 良好 良好 失 焼成	掲灰 にぶい橙 暗黄灰 にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 野面ログロナデ。 重量 器形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気泡を有して凹凸が著しい。暗褐色、下面は緩やかな 丸味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考
3 4 No 5 H- No 1	覆土No. 2覆土出土位置No. 618出土位置カマド覆土	須恵器 境 土師器 坏 土師器 台付喪 土師器 甍 種別、器種 鉄製品 炉底淬	(12.6) (13.0) · (14.8) 全長 7.4	(5.3) (6.0) 9.7 - - 幅	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄	良好良好良好良好	褐灰 にぶい橙 略黄灰 にぶい橙 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面コクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロ縁部ヨコナデ、頭部エピオサエ。 内面エピナデ。 垂量 器形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気急を有して凹凸が著しい。暗褐色。下面は緩やかな 丸床を有して炉低部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。
3 4 No 5 H - No 1 H -	覆土No. 2覆土出土位置No. 618出土位置カマド覆土	須恵器 境 土師器 坏 土師器 合付喪 土師器 变 種別、器種 鉄製品 炉底滓	(12.6) (13.0) - (14.8) 全長 7.4	(5.3) (6.0) 9.7 - - 幅	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白·黑色粒 材質 鉄	良好 良好 良好 良好 失 焼成	褐灰 にぶい橙 略黄灰 にぶい橙 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 野面ログロナデ。 重量 器形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気泡を有して凹凸が著しい。暗褐色、下面は緩やかな 丸味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。
3 4 No 5 H - No 1 H -	関土 No. 2 関土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土	須惠器 境 土師器 坏 土師器 合付毫 土師器 整 種別、器種 鉄製品 炉底滓 種別、器種 土師器 蹇	(126) (130) - (148) 全長 7.4 口径 (15.6)	(5.3) (6.0) 9.7 - 幅 9.3	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒	良好良好良好良好成成,	福灰 にぶい程 略質灰 にぶい程 色調 ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 所面エピオナ。 重量 器形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気泡を有して凹凸が帯しい。暗褐色。下面は緩やかな 丸味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、ハラナデ。	1/3 残存。 外面に器書「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に媒付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考
3 4 No 5 H— No 1 H— No		須恵器 境 土師器 坏 土師器 合付完 土師器 美 種別、器種 鉄製品 炉底淬 種別、器種 土師器 要	(126) (130) - (148) 全長 7.4 口径 (156)	(53) (60) 9.7 - 幅 9.3 底径 -	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8)	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒	良好 良好 良好 良好 焼成 - 焼成	福灰 にぶい役 時 英 欠 に ぶい 程 色調	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、以下ロクロナデ。 内面ヨコナデ、外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 大面はボケッな。 を形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気泡を有して凹凸が著しい。暗褐色、下面は緑やケック、大味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 口縁~刷上半部 1/6 残存。
3 4 No 5 H - No 1 H - No	覆土No. 2覆土出土位置No. 618出土位置カマド覆土19出土位置No. 2	須忠器 塊 土師器 坏 土師器 合付美 土師器 蹇 種別、器種 鉄製品 炉底滓 種別、器種 土師器 菱	(126) (130) - (148) 全長 7.4 口径 (156)	(53) (60) 97 - 幅 93 底径 -	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8)	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎士 石英、白石粒	良好 良好 良好 焼成 焼成 食好	相反 にぶい程 暗音灰 にぶい程 色調 ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 外面ロタロナデ。 外面にカンロナデ。 外面にカンロナデ。 外面にカンロナデ。 外面にカンロナデ。 外面にカンロナデ。 外面にカンロナデ。 大麻を有して四凸が著しい。暗褐色。下面は歳やかな 鬼味を有して加底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ロクロナデ。底部回転条切り	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 口縁~刷上半部 1/6 残存。 残存状況・備考 はほぞ存。 外・内面協権。 1/4 残存。 完存。
3 4 No 5 H - No 1 H - No 2	覆土No. 2覆土出土位置No. 618出土位置カマド覆土19出土位置No. 2No.16	須惠器 境 土師器 坏 土師器 合付亳 土師器 整 種別、器種 土師器 要 種別、器種 土師器 要	(12.6) (13.0) - (14.8) 全長 7.4 □径 (15.6) □径 (16.4 (13.0)	(53) (60) 9.7 - 幅 9.3 底径 -	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8)	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 胎土 精良 精良	良好 良好 良好 良好 焼成 ・ 焼成 ・ 焼成 ・ 焼成 ・ 火 焼成 ・ 火 焼成 ・ 火 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	相反 にぶい程 略質灰 にぶい程 色調 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コは部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ。 外面ロクロナデ。 内面コクナア。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 外面ログロナデ。 大麻を有して凹凸が着しい。暗褐色。下面は緑やから 大味を有して炉底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ヘクナズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘクナズリ。 内面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 成所回口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 成所回口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 には完存。 外・内面歯軸。 1/4 残存。 完存。 3/4 残存。 3/4 残存。
3 4 No 5 H — No 1 H — No 1 2 3 4	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 	須惠器 境 土師器 坏 土師器 全付毫 土師器 整 種別、器種 共師器 整 種別、器種 土師器 整 種別、器種 東海陽器 碗 灰釉陶器 碗	(126) (130) (148) 全長 7.4 口径 (156) 口径 (130) 107	(53) (60) 97 - 幅 93 底径 - 82 70 55	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 4.0 3.2 3.3	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 ・	良好 良好 良好 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成	相灰にない程 等質灰 にぶい程 色調 こ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、以下ロクロナデ。 内面ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面コロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 大麻を有して四合か著しい。暗褐色。下面は緑やかな 鬼味を有して如底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所回和縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所回和縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端の紅が上が、は常同転続の一条	1/3 残存。 外面に患害「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 □縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 □縁~胴上半部 1/6 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 歳存・成存・の面強軸。 1/4 残存・ 機化硫烷或。 3/4 残存・ 機化硫烷或。 はは定存・ (ほぼ定存・ しょうなん)
3 4 No 5 H No 1 H No 1 2 3 4 5	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 No.14 	須惠器 境 土師器 坏 土師器 查付美 土師器 变 種別、器種 飲製品 炉底溶 種別、器種 土師器 变 種別、器種 土師器 变 種別、器種 工師器 变	(126) (130) (148) 全長 7.4 (156) 口径 (156)	(53) (60) 97 - 幅 93 底径 - 82 70	(36) 39 (36) (52) 厚さ 4.7 高さ (68) 60 4.0	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 胎土 精良 精良	良好 良好 良好 焼成 食好 烧成 食好	相反 にぶい程 略賞灰 にぶい程 を調 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コは部ココナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。 内面エジナデ。 発面口縁部ヨコナデ、原部エビオサエ。 内面エジナデ。 整形、成・整形、文様等の特徴 上面は大小の気泡を有して凹凸が著しい。暗褐色。下面は緩やかな 丸味を有してが底の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下のクカスリ。 内面口縁部コカナデ、以下のクカスリ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。 の面口縁部コカナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 には実存。 外・内面に維付着。 1/4 残存。 にはまます。 り・内面結軸。 1/4 残存。 完存。 機化硫铯成。 3/4 残存。 機化硫铯成。
3 4 No 5 H - No 1 H - No 4 5 H - H - H - H - H - H - H - H - H - H -	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 	須惠器 境 土師器 坏 土師器 全付毫 土師器 整 種別、器種 共師器 整 種別、器種 土師器 整 種別、器種 東海陽器 碗 灰釉陶器 碗	(126) (130) (148) 全長 7.4 口径 (156) 口径 (130) 107	(53) (60) 97 - 幅 93 底径 - 82 70 55	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 4.0 3.2 3.3	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 ・	良好 良好 良好 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成	相灰にない程 等質灰 にぶい程 色調 こ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、以下ロクロナデ。 内面ヨコナデ、体部エピオサエ。 内面コロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 大麻を有して四合か著しい。暗褐色。下面は緑やかな 鬼味を有して如底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所回和縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所回和縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端ココナデ、以下ログロナデ。 大田の紅端の紅が上が、は常同転続の一条	1/3 残存。 外面に患害「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 □縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 □縁~胴上半部 1/6 残存。 1/4 残存。 1/4 残存。 歳存・成存・の面強軸。 1/4 残存・ 機化硫烷或。 3/4 残存・ 機化硫烷或。 はは定存・ (ほぼ定存・ しょうなん)
3 4 No 5 H - No 1 H - No 4 5 H - H - H - H - H - H - H - H - H - H -	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 No.14 	須惠器 境 土師器 坏 土師器 合付瓷 土師器 整 種別、器種 共師器 整 種別、器種 大師器 整 板 大種陶器 碗 須惠器 碗 須惠器 碗	(126) (130) (148) 全長 7.4 (156) 口径 (156) 164 (130) 107 107	(5.3) (6.0) 9.7 - 幅 9.3 底径	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 4.0 3.2 3.3 5.4	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 胎土 精良 精良 白色粒 石英、赤色粒 白・赤色粒	良好 良好 良好 焼成 焼成 焼成	相反 にぶい程 略質灰 にぶい程 色調 にぶい程 色調 にぶい程 色調 にぶい程 と調 灰白 灰白 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。 内面コロクロナデ。 内面コウナア。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 大麻を有して四凸が張しい。暗褐色。下面は緑やかな 丸味を有してが底部の形状を呈する。黄褐及び黒褐色。小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 所面に縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 所面に縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面に縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面に縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面に縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 外面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。	1/3 残存。 外面に患害「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 には定存。 外・内面施輸。 1/4 残存。 完存。 酸化始娩成。 3/4 秩存。 酸化始娩成。 はは定存。 酸化始娩成。
3 4 No 5 H - No 1 2 3 4 5 H - No No	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 No.14 20 出土位置 	須惠器 境 土師器 坏 土師器 合付瓷 土師器 整 種別、器種 土師器 要 種別、器種 土師器 要 種別、器種 大麻陶器 碗 灰釉陶器 碗 須惠器 境 須惠器 境	(126) (130) (148) 全長 7.4 (156) 口径 (156) 164 (130) 107 107 121	(5.3) (6.0) 9.7 - 幅 9.3 底径	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 6.0 4.0 3.2 3.3 5.4	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 胎土 精良 精良 白色粒 石英、赤色粒 白・赤色粒	良好 良好 良好 燒成 燒好 燒 燒 火 燒 火 燒 火 火 火 火 火 火 火 火 火 火 火 火	相反 にぶい程 略貫灰 にぶい程 色調 にぶい程 色調 にぶい程 と調 にぶい程 と調 にぶい程 と調 にぶい程 と調 にぶい程	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 大味を有して四点が養しい。暗褐色、下面は緩やかる。 大味を有して炉底部の形状を呈する。 黄褐及び黒褐色。 小石付着。 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下のクケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下のクロナデ。 成が回転線部コナデ、以下のクロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 成部回転線部コカーデ、以下のクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 米が中の特徴 器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 株部回転条切り、 内面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 大いの特徴 発展が、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 株部日秋部ココナデ、以下のクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 外面口縁部ココナデ、以下のクロナデ。 株部日秋部・ファ、以下のクロナデ、成部回転条切り後略付け。 内面口縁部ココナデ、以下のクロナデ、旅部回転条切り後略付け。	1/3 残存。 外面に患害「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 には完存。 外・内面施輸。 1/4 残存。 定存。 酸化偏娩成。 3/4 模存。 酸化偏娩成。 (1/4 洗存。) (1/4 洗涤存。) (1/4 洗涤存在。) (1/
3 4 No 5 H— No 1 H— No 1 2 3 4 5 H— No	関土 No. 2 関土 出土位置 No. 6 18 出土位置 カマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 No.14 - 20 出土位置 No. 4	須惠器 城 土師器 存 土師器 養 種別、器種 飲製品 炉底溶 種別、器種 土師器 養 種別、器種 上師器 養 種別、器種 火釉陶器 碗 灰釉陶器 碗 灰釉陶器 碗	(126) (130) (148) 全長 7.4 口径 (156) 口径 (156) 107 107 121 口径 (150)	(53) (60) 9.7 - 幅 9.3 底径	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 6.0 4.0 3.2 3.3 5.4	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 胎上 精良 精良 白色粒 石英、赤色粒 白・赤色粒	良好 良好 良好 焼成 焼成 烧成 烧成 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以	相反にぶい程 暗黄灰 にぶい程 色調 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ロクロナデ。 外面ログロナデ。 大阪・整形、文様等の特徴 外面口縁部ヨコナデ、以下のクサズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下のクサズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ヨコナデ、以下ログロナデ。 所面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 成・整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 成部回転線ココナデ、以下ログロナデ。 成が一整形、文様等の特徴 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 成部回転線ココナデ、以下ログロナデ。 成部回転線ココナデ、以下ログロナデ。 統部回転条切り後高台貼付け。 外面口縁部ココナデ、以下ログロナデ。 統部回転条切り後高台貼付け。	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部 1/3 残存。 残存状況・備考 完存。 残存状況・備考 には定符。 外・内面協組。 1/4 残存。 完存。 酸化協挽成。 3/4 残存。 酸化協挽成。 ほぼ定符。 酸化協挽成。 ほぼ定符。 酸化協挽成。 ほぼ定符。
3 4 No 5 H— No 1 H— No 1 2 3 4 5 H— No 1 2	 覆土 No. 2 覆土 出土位置 No. 6 18 出土位置 かマド覆土 19 出土位置 No. 2 No.16 No.15 No.18 No.14 20 出土位置 No. 4 覆土 	須惠器 境 土師器 好 土師器 全付凳 土師器 整 種別、器種 鉄製品 炉底溶 種別、器種 大師器 要 種別、器種 灰釉陶器 碗 須惠器 碗 須惠器 境 須惠器 境	(126) (130) (148) (148) (148) (156) (156) (156) (164) (107) (107) (121) (150) (145)	(53) (60) 97 - 幅 93 底径 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(3.6) 3.9 (3.6) (5.2) 厚さ 4.7 高さ (6.8) 高さ 6.0 4.0 3.2 3.3 5.4	石英、雲母 白色粒、雲母 雲母 白・黒色粒 材質 鉄 胎土 石英、白石粒 ・	良好 良好 良好 焼成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧成 烧	相灰にない程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転系切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面コは部コカナデ、以下ロクロナデ。 内面コカナデ。 外面ロペカーデ。 内面コカナデ。 外面ロクロナデ。 内面エピナデ。 発音 3917	1/3 残存。 外面に患者「吉」あり。 1/2 残存。 脚部のみ。 外・内面に煤付着。 口縁部1/3 残存。 残存代兄・備考 完存。 残存状兄・備考 に帰考 にはま完存。 外・内面能軸。 1/4 残存。 歳化始娩成。 3/4 残存。 歳化始娩成。 3/4 残存。 歳化始娩成。 1はまた存。 歳化始娩成。 1はまた存。 歳化始め成。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No.12	須恵器 高台付埦	(13.0)	(7.2)	4.9	白色粒、石英、長 石	良好	灰黄褐		ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3 残存。
No	出土位置	種別、器種	瓦当幅	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	No.13	瓦 軒平瓦	(13.43)	4.22	(9.66)	石英、長石	良好	にぶい褐		一組の唐草文。 角形状を呈する。	瓦当片。 国分寺 P 302 と同笵か。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	No.18	瓦平瓦	(26.3)	(16.0)	2.3	石英、長石	堅緻	黄灰	凹面布目痕 凸面ヘラナ	。端部へラケズリによる面取り。 デ。	広端部。 ヘラ文字「平ヵ」。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	覆土	鉄製品 刀子	(7.5)	(1.8)	(0.4)	鉄	-	-	14.8	刃部は平造。	刃身片。
Н-	- 21										
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	灰釉陶器 碗	14.7	6.8	4.5	精良	堅緻	灰白		ヨコナデ、以下ロクロナデ。施釉。 ヨコナデ、以下ロクロナデ。施釉。	ほぼ完存。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴 残存状況・備考
1	No. 1	灰釉陶器 碗	14.7	6.8	4.5	精良	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。施稿。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。施稿。
2	No. 2	須恵器 埦	(15.9)	-	(4.4)	白色粒、雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。
3	No.16	須恵器 高台付埦	(15.2)	6.2	6.3	石英、長石	良好		外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 1/3 残存。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 酸化偏熱成。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴 残存状況・備考
4	No.10	瓦 丸瓦	(9.8)	(11.0)	2.3	白色粒	堅緻		凹面布目痕。矯都ケズリ。 凸面ヘラナデ。 破片。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量 器形、成・整形、文様等の特徴 残存状況・備考
5	No.13	鉄製品 刀子	13.8	0.9	0.6	鉄	-	-	26.9 刃身先端は剣形を呈しやや厚みを減少しているが、刃身及び茎の断 完存。

5 No.1 H - 22

пТ	- 22									
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	(12.0)	-	(1.5)	白色粒	堅緻	灰	外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。
2	覆土	須恵器 盤	-	(13.6)	(5.2)	精良	堅緻	灰	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	脚部のみ 1/2 残存。
3	覆土	須恵器 フラスコ瓶	-	-	(11.3)	白色粒	堅緻	灰	外面カキメ。 内面ユビナデ。	頭~胴上半部残存。
4	No. 9	須恵器 甕	(17.0)	-	(7.5)	白色粒	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁~胴部上位 1/2 残存。
5	No.11	須恵器 壺	[12,0]	-	(6.5)	白色粒	堅緻	灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口禄~胴部上位 1/4 残存。
6	No.15	土師器 坏	[10.8]	-	(2.9)	白色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	1/3 残存。
7	No.18	土師器 坏	(14.5)	丸底	4.4	白色粒、雲母	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ユビナデ。 内面ナデ。	1/4 残存。
8	No. 4	土師器 鉢	11.3	-	8.5	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	完存。
9	No. 8	土師器 甕	17.4	7.5	20.0	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部エビナデ。	胴部一部欠損。
10	No. 5	土師器 甕	[17.3]	-	(23.0)	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口禄~胴下半部 1/4 残存。
11	No. 1	土師器 甕	[21.0]	-	(7.8)	白色粒、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ後エビナデ。	口縁~胴上半部 1/2 残存。
12	カマド覆土	土師器 甕	(19.0)	-	(25.0)	雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘナナデ。	1/6 残存。
13	覆土	須恵器 高坏	(11.8)	-	(4.8)	白・黒色粒	良好	灰白	外面ロクロナデ。 横指波状文。 内面ロクロナデ。	口縁部 1/6 残存。
14	覆土	須恵器 高坏	-	-	(8.8)	精良	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。しほり痕。	脚部片。 長脚二段透孔。
15	覆土	土師器 坏	[13.0]	-	(3.8)	白色粒、雲母	やや軟質	浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/4 残存。
16	覆土	土師器 坏	[13.6]	-	(4.3)	黒色粒	軟質	浅黄橙	外面口緑部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	1/6 残存。

H – 23

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	緑釉陶器 皿	-	-	(1.8)	精良	堅緻		外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口緑部片。 外·内面施釉。
2	覆土	須恵器 坏	-	(7.0)	(1.4)	黒色粒	堅緻		外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	底部 1/2 残存。
3	覆土	須恵器 坏	-	-	(4.6)	白色粒	良好		外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口縁部片。
4	覆土	土師器 坏	(11.4)	(5.6)	4.4	雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ、体部ユビナデ及びヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ユビナデ。	1/4 残存。 酸化焰焼成。

H – 24

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 坏	-	(6.6)	(2.1)	精良	良好		外面ロクロナデ、底部糸切り後高台貼付け。 内面ロクロナデ。	底部 1/3 残存。
2	覆土	土師器 甕	[18.6]	-	(5.2)	雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ後ユビオサエ、胴部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	口縁~胴部上位 1/4 残存。

H – 25

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 蓋	-	-	(1.6)	精良	堅緻		外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口縁部片。

H – 27

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 碗	-	-	(4.9)	精良	堅緻		外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口縁部片。

H - 28

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.11	土師器 甕	22,1	-	(16.9)	石英、長石、雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、胴部エビナデ。	口縁~胴上半部。
2	No. 5	土師器 甕	[14.0]	-	(11.3)	石英、長石、雲母	良好		外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁~胴上半部 1/2 残存。
3	No. 2	土師器 甕	(16.5)	-	(12.9)	石英、長石、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁~胴上半部 1/2 残存。

Н	I —	3	1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		5	器形. 成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 1	土師器 坏	(12.5)	丸底	4.0	白·黒色粒、雲母	良好	にぶい赤褐		《リ後口	緑部ユビナデ。	· >< >< >< >< >< >< >< ><		1/4 残存。
1	100. 1	工的机	(12,0)	<i>JURY</i>	4.0	口、無品框、条件	TS X I	1-32 A - 01 (JP)	内面ユビナテ	۳.				1/47%(170
<u>A</u> –					·			Y						
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	Married Action		<u>器形、成・整形</u>	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 1	緑釉陶器 碗	-	(6.4)	(1.5)	精良	堅緻	オリープ灰	外面ロクロナ 内面ミガキ。	- ア。				底部片。
No	出土位置	種別、器種	瓦当幅	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調		Ę	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
2	覆土	瓦 軒平瓦	4.67	2.8	(9.36)	石英、長石	堅緻	灰白	流水文。上界 顎断面は曲網		、下界線一本。 !する。			瓦当片。 国分寺R 002 と同笵。
	37.11	ner der ent ner		0.00	(11.00)	ris PH As du	per éss.	AM CC	_		が一本巡り、珠文を	:配する。		瓦当片。
3	No.11	瓦 軒平瓦	5.54	3.83	(11.36)	白·黒色粒	堅緻	褐灰	顎断面は三角	角形状を	:呈する。			国分寺 P 002 B と同笵。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	凹面布目痕。	ž		、文様等の特徴		残存状況・備考 破片。
4	No. 8	瓦 丸瓦	(6.9)	(7.2)	1.95	石英、長石	堅緻	褐灰	四国市日根。 凸面ヘラナテ	P _o				wn。 ヘラ記号「×」あり。
5	覆土	瓦 平瓦	(6.17)	(8.51)	1.67	黒色粒	良好	灰	凹面布目痕。					破片。
									凸面布目叩き 凹面布目痕。	3.0				凹面にヘラ文字、判読不能。 破片。
6	覆土	瓦平瓦	(9.94)	(6.22)	2.49	黒色粒	良好	灰白	凸面ヘラナデ	۳.				凸面にヘラ文字、判読不能。
W -	- 1													
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調				、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	(7.0)	4.0	2.0	赤色粒	良好	浅黄橙			[?] 、以下ロクロナデ。 [?] 、以下ロクロナデ。	底部回転糸切り。		3/4 残存。
2	覆土	須恵器 埦	_	_	(4.3)	石英、長石	良好	灰白	外面ロクロナ	- デ、墨	書「田」あり。			口緑部片。
	19.1.	202/III 28			(4.0)	176, 241	TCXI	<i>X</i> L	内面ロクロナ					外面に墨書「田」あり。
3	覆土	須恵器 埦	-	-	-	白色粒	軟質	灰白	外面ロクロナ 内面ロクロナ		書あり。			破片。 酸化焰焼成。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		Ę	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
4	覆土	瓦 鬼瓦	8.46	(7.63)	3.78	白·黒色粒	良好	灰白	表面ヘラガキ		文様を施す。 ・デにより整形する。			小破片。鬼瓦と考えられるが、剝離・磨 滅により残存悪く詳細不明。
No	出土位置	種別、器種	瓦当径	瓦当厚	長さ	胎土	焼成	色調	actual)) o si			、文様等の特徴		残存状況・備考
5	覆土	瓦 軒丸瓦	-	1.32	(2.94)	石英、長石	堅緻	灰白	開組が巡る。					瓦当片。
	出土位置		田										重量	備考
No		銭種名	国			初鋳年代		才質	直径		穿径	厚さ		
6	覆土	熈寧元寶	:lt:		八八	享元年(1068)		銅	23.9 mm	1	6.4 mm	1.5 mm	3.9g	完存。
D -	- 3													
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量			整形、文様等の		残存状況・備考
1	No. 1	石器 磨製石斧	15.0	5.6	3.1	緑色片岩	-	-			售製石斧。全面研磨。 V部は両凸刃、円刃。	左右側縁に稜を有し	、断面形状は隅丸	完存。
2	No. 2	石器 磨製石斧	10.6	4.8	29	緑色片岩	_	_	220.6 5	定角式度	售製石斧。全面研磨。	左右側縁に稜を有し	、断面形状は隅丸	完存。
		石皿 冶多石厂	10.0	1.0	2.0	MC/14			225.0	方形。天	内部は両凸刃、直刃。			JCIT 0
	- 14													
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	Al III M. WI			、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	羽釜	[20.8]	-	(14.0)	石英、長石	良好	灰白			、以下ロクロナデ、 、以下ロクロナデ。	胴下半部ヘラケズリ	0	口縁~胴下半部 1/6 残存。
D -	- 17													
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		ž	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高台付埦	-	6.7	(2.7)	精良	良好	灰白	外面ロクロナ 内面ロクロナ		(部回転糸切り後高台	計り付い。		底部 2/3 残存。
_	10	MJ 121 13-98						<u> </u>	MINIO DO	/ 0				
	- 18 出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		5	岩 形 成・敷形	、文様等の特徴		残存状況・備考
									外面口緑部=		ロアルン、 AX 	V VM-ONB		
1	覆土	須恵器 坏	(12.5)	(9.5)	3.3	精良	堅緻	灰			、以下ロクロナデ。			1/4 残存。
	- 26													
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調				、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	須恵器 埦	13.2	7.7	3.9	石英、長石、雲母	良好	黄灰	外面ロクロナ 内面ロクロナ		(部回転糸きり。			2/3 残存。
D -	- 38						•							
	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調			器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 皿	9.3	4.9	2.3	黒·白色粒	良好	褐		- デ、底	(部回転糸きり。			完存。
									内面ロクロナ		部回転糸きり。			酸化焰焼成。 完存。
2	No. 2	須恵器 皿	10.3	6.1	2.2	黒色粒	良好	にぶい橙	内面ロクロナ	・デ。				酸化焰烧成。
<u>D</u> –	- 43													
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		5	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	覆土	縄文土器 鉢	_	-	(9.8)	白・黒・茶色粒、	良好	橙				でが巡り、以下に横位	沈線が巡る。胴部	口緑~胴部上位片。
		TO. A. L. HE FF			(3.0)	黒雲母	24,71	褐灰	は地文に縄文	てLR施	E文後、「∩」状沈新	以文を等間隔に施文。		加曾利EⅢ期新相。
_	- 44	年 即 2017		H-/		n/s 1	4+4	A Em			A- VII DD			T\$ - 1000 Ht -
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	교미환 다하			、文様等の特徴	the transfer of	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器	(28.4)	_	(32.7)	白・黒・灰色粒、	良好	にぶい赤褐	突起し、茎部	『は弧状	を呈して6単位で全	を起線文に横位蕨状文 問する。以下地文に	然糸文Lを施文後、	口縁~胴部下位 2/3 残存。
1	100.1	深鉢	(aQT)		(02.1)	チャート	20,71	黒褐	蕨頭部から豊 文を持つ懸垂			た隆沈線と、2本1	組の隆沈線で楕円	加曾利EI期。
D -	- 49			1		1								1
_	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		5	器形、成・整形	、文様等の特徴		残存状況・備考
1	No. 6	須恵器 埦	149	5.5	5.0	石英、長石、雲母	良好	黄灰		- デ、底	部回転糸きり。			2/3 残存。
		24-12-10F-278	14.3	5.5	3.0	一大、八八、大口、大口	1621	54//	内面ロクロナ	ーデ。				D V/VITO
_	- 50	TE DI CO TO			-	76.1	J4 - P	4			70 T/	-1-10-66		The lave will
	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土 ウ・甲・**6**	焼成	色調	かわさナユ。			、文様等の特徴	90-6-1-24-6-1 A	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 深鉢	-	-	(9.0)	白・黒・茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄褐 褐灰			□縁か。矢起部は□線 □縁下文様帯内縦位	以下文様帯下端の隆起 2短沈線充塡。	●休人 ⊂ 迷褶 し、や	□稼部庁。 加曽利EⅡ期。
					(44.0)	白色粒、茶色粗	良好	橙	上部は隆起網	中を主	(休に構位産計 するだ	邓状文施文。邓状文	下端から円形隆沈	胴部片。内面煤付着。
2	No.48	縄文土器 鉢	-	-	(11.2)	粒、黒雲母	1550	にぶい橙	線に連結する			t縦矢羽状沈線文施文		加曾利EII期並行唐草文系(郷土式)。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	縄文土器深鉢	-	-	(13.6)	白・黒・茶色粗粒	良好	にぶい褐褐	平口縁。口 文され、方 下隆起線は を横位に選	口禄~胴部上位片。 加曽利 E Ⅱ 期。	
No	出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	胎土	焼成	色調		残存状況・備考	
4	覆土	縄文土器 耳栓	3.7	3.4	2.7	白·灰·黒色粒、 黒雲母	良好	橙 にぶい赤褐	表面は半都 には「十」	完存。 縄文時代中期。	
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No.58	石器 磨製石斧	10.7	5.3	3.1	緑色珪質頁岩	-	-	303.2	左右側縁に稜を持ち定角式磨製石斧とみられるが、上面及び右側面 上半部には痘痕状の敲打痕が顕著で、欠損後の利用がうかがえる。 刃部は両凸刃、やや偏刃。	完存。
6	覆土	石器 磨製石斧	11.3	3.9	1.9	緑色珪質頁岩	-	-	141.1	定角式磨製石斧。全面研磨。研磨による稜を有し、断面形状は隅丸 方形。刃部は両凸刃と見られるが片面欠損。丸刃。	一部欠損。
D -	- 55										

_											
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1 ~ 19	縄文土器 深鉢	-	(6.5)	(27.1)	白·灰色粗粒、石 英	良好			5から胴部は直線的に広がり中位で緩やかな膨らみを持つ。胴部中位 5地文に縄文LR施文、以下胴部下位は工具ナデ痕が顕著な無文帯。	胴部中位~底部残存。 加曽利EⅢ期新相。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No.21	石製品 石皿	(31.7)	24.9	(10.5)	粗粒安山岩	-	-	7961.0	表面は深さ約4cmの凹面、裏面は中央付近がやや平坦で、最深 10cmの孔が複数認められる。楕円形。	4/5 残存。

D - 56

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	縄文土器 深鉢	-	-	(12,1)	白·灰·茶色粗粒、 黒雲母	良好		波状口線。山形の突起都を起点に口縁下には指による横位蕨状沈線及び、楕円 形区画他文様区画が施文され、連続するとみられる。区画内縄文RL充塡。以 下地文に縄文施文後2本の沈線間に無文帯を持つ懸垂文施文。	□縁部片。 加曽利EⅢ期新相。
2	No. 4	縄文土器 深鉢	-	-		白·灰色粒、茶色 粗粒、黒雲母	良好			□縁部片。 加曽利EⅢ期新相。
3	No. 3	縄文土器 深鉢	-	-	(6.4)	白·黒色粒、茶色 粗粒	良好		両側を沈線で調整した隆沈線により横位の対蕨状文施文及び、蕨状文を囲む緩 やかな曲線の隆沈線施文。曲線区画内放射状短沈線充塡。	胴部片。 加曽利EⅡ期並行唐草文系。

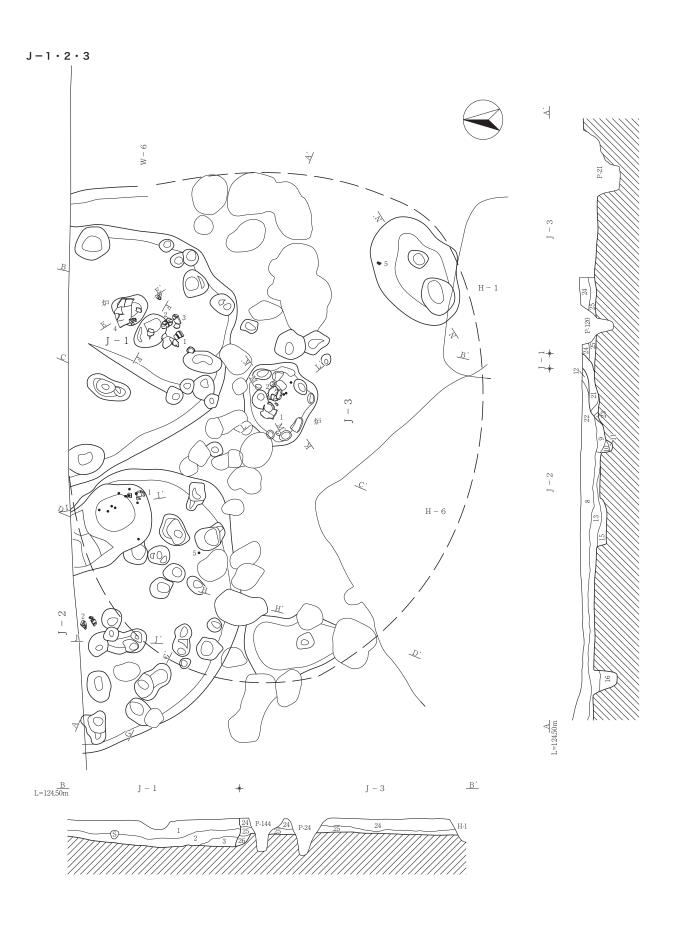
P - 39

	10 出土	出土位置 銭種名 国名		初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	備考	
Г	1 1	覆土	皇宋通寳	北宋	宝元二年(1039)	胴	24.6mm	6.7mm	1.3mm	3.2g	完存。

遺構外

出土位置	種別、器種	口径	底径	古キ	D/v I	44.44	da Tim			-0.4.100
	エルハ コル/王	HΗ	压压	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
確認面	縄文土器 深鉢	[38.0]		(22.0)	白色粒、白·灰色 粗粒、黒雲母	良好	灰褐 浅黄		縁下は無文帯が巡り、以下地文に縄文RL施文後、沈線による2重 文を胴部5ヶ所に施文。不等間隔。	□縁~胴部中位残存。 加曽利EⅢ期。
J - 1 No.10	縄文土器 浅鉢	(12.8)	(4.4)	9.7	白・灰・茶色粗粒、 チャート粗 粒、黒雲母	良好	赤褐暗赤褐		1/3 残存。 加曾利EⅢ期。	
出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
W-1 覆土	縄文土器 土製円盤	4.3	4.0	2.0	白色粒、茶色粗 粒、黒雲母、石英	良好	黄褐	厚手の深鉢 いる。	胴部片を素材に用いて、周縁に研磨を施しやや歪な円形を作出して	完存。 縄文時代中期。
W-7 養土	縄文土器 土製円盤	3.4	3.2	1.4	精良	良好	にぶい黄橙			破片。 縄文土器からの転用か。
出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
W-3 覆土	須恵器 蓋	(11.5)	-	3.5	精良	堅緻	灰白			1/3 残存。 摘み径 1.8cm
確認面	須恵器 蓋	-	5.6	(1.5)	白色粒	堅緻	灰白			天井部片。
確認面	須恵器 坏	-	-	(2.7)	白色粒	堅緻	灰			破片。
確認面	須恵器 坏	-	-	(2.0)	白色粒	良好	灰白			体部片。
確認面	須恵器 坏	[12.0]	(8.4)	3.3	石英、長石	堅緻	灰			1/4 残存。
確認面	須恵器 坏	[12.6]	(7.6)	3.3	精良	堅緻	灰			1/6 残存。
確認面	須恵器 坏	[13.9]	(4.0)	4.0	白色粒	良好	灰白			底部墨書「七」か。
確認面	須恵器 円面硯か	-	-	(3.0)	精良	良好	灰白			脚部片。 透孔あり。
J - 11 覆土	土師器 甕	-	-	(2.8)	黒色粒	良好	にぶい橙			胴部片。
J - 9 南西グリッド	灰釉陶器 皿	[16.0]	(4.0)	2.6	精良	堅緻	灰白			1/6 残存。
確認面	灰釉陶器 碗	-	(7.0)	(3.0)	精良	堅緻	灰白			底部 1/4 残存。
確認面	灰釉陶器 碗	-	(8.0)	(2.9)	精良	堅緻	灰白			底部 1/6 残存。
確認面	灰釉陶器 碗	-	(7.5)	(3.3)	精良	堅緻	灰白			底部片 1/3 残存。
出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
確認面	瓦 丸瓦	(9.8)	(9.8)	2.1	石英、長石	堅緻	褐灰			破片。 ヘラ記号あり。
確認面	瓦平瓦	(6.53)	(6.69)	1.83	石英、長石	良好	にぶい褐	凸面縄目タ	タキ。	破片。 ヘラ記号あり。
H - 22 覆土	瓦 平瓦	(9.0)	(8.0)	2.1	白色粒	堅緻	褐灰			破片。 スタンプ「田」あり。
出土位置	種別、器種	最大径	最小径	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
W - 8 No. 2	石製模造品	2.5	2.2	0.9	滑石	-	-	7.8	周縁には研磨方向が顕著な平坦面が複数認められ、製作途中の未製 品とみられる。円盤形。	完存。 穿孔径 0.3cm。
出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
確認面	石器 石鏃	2.3	1.5	0.4	黒曜石	-	-	0.7	連続的な調整剝離を施し鋸歯状の両側縁を作出し、凹基部も丁寧な 剝離により丸味を持たせて作出。	凹基無茎鏃。
確認面	石器 石錐	4.2	3.3	1.3	黑色頁岩	-	-	素材制片作出時の打撃面に自然面を残す縦長制片を使用し、調整制 92 離は錐部に僅かに認められる程度である。摘み部は大きく錐に最適 な形状の粗製石錐。		完存。
確認面	石器 打製石斧	12.9	4.4	2.0	黑色頁岩	-	-	な調整剝離を施し整った短冊形を作出している。		完存。 短冊形。
W-1 覆土	石器 打製石斧	13.3	5.3	1.7	黑色頁岩	-	-	121.0	表面に広く自然面を残す横長制片を縦位に使用し、主に左右側縁に 調整加工を施し細身の形状を作出している。鋭利な刃部周辺は磨耗 が顕著である。	完存。 短冊形。
	J-1 No.10 出土位置 W-1 関土 W-2 現土 W-3 様認面 確認面 確認面 確認面 確認面 確認面 確認面 確認面 確認面 確認面 世土位置 ※0.2 出土位置 確認面 確認面		漢字	下級 1	Repair Repair	探撃 128	報文上器	接換	振水 10 10 10 10 10 10 10 1	

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
26	W-1 覆土	石器 打製石斧	10.9	5.2	1.1	黑色頁岩	-	-	75.6	薄手の横長剣片素材を縦位に使用し、細かな調整剣離を周縁に施し 左右側縁下半部が若干広がる整った形状を作出。刃部には使用によ る欠損が認められる。	ほぼ完存。短冊形。
27	W-1 覆土	打製石斧 分銅形	9.5	7.9	2.2	黑色頁岩	-	-	153.9	若干の捩れを有するが数回の成形剝離で厚みを減少し、周縁加工を 施し上半部が小型の分銅形を作出している。括れ部の作出は丁寧で ほば左右対象である。刃部の凹凸は使用による欠損剝離か。	ほぼ完存。 風化が著しい。
No	出土位置	種別、器種	全長	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
28	確認面	鉄製品 雁股鏃	(6.5)	(4.1)	(1.1)	鉄	-	-	29.1	Y字状を呈し、長い茎が欠損しているとみられる。鏑矢利用他。	鏃身片。
No	出土位置	種別、器種	全長	最大径	最小径	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
29	確認面	銅製品 煙管	(4.2)	0.9	0.2	胴	-	-	3.1	春霞形煙管の吸□。	吸口先端欠損。 近世。
No	出土位置	種別、器種	長辺	短辺	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
30	確認面	銅製品 不明	(3.1)	1.5	3.0	胴	-	-	3.7	-	器種不明。 中空。





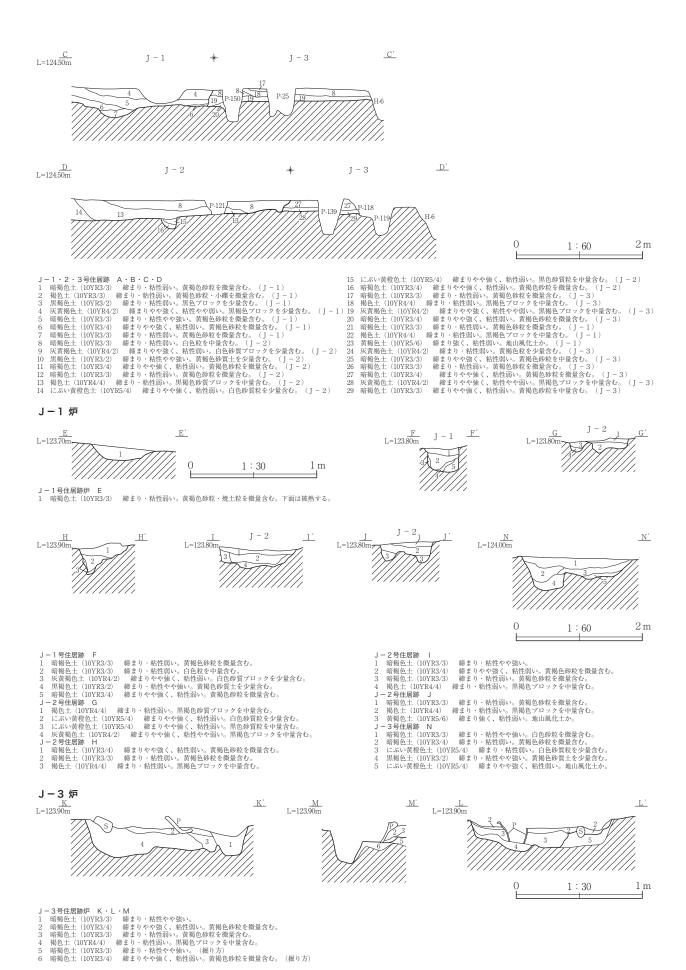


Fig.91 (123) J - 1 · 2 · 3 号住居跡 (2)

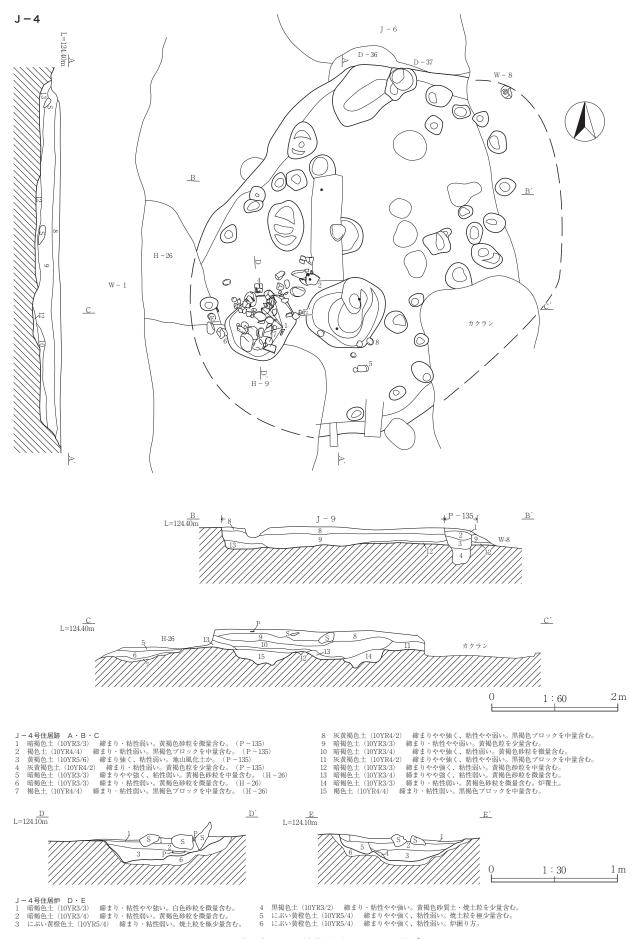
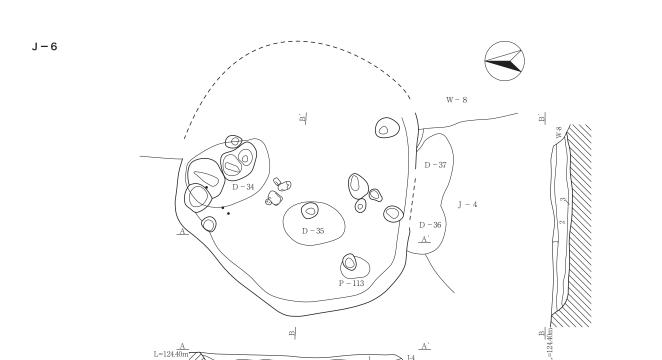


Fig.92 (123) J - 4 号住居跡 · P - 135 号ピット



 $2\,\mathrm{m}$

- J-6号住居跡
 A・B

 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)
 締まり・粘性弱い。黄褐色粒を少量含む。

 2 暗褐色土 (10YR3/3)
 締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

 3 暗褐色土 (10YR3/3)
 締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

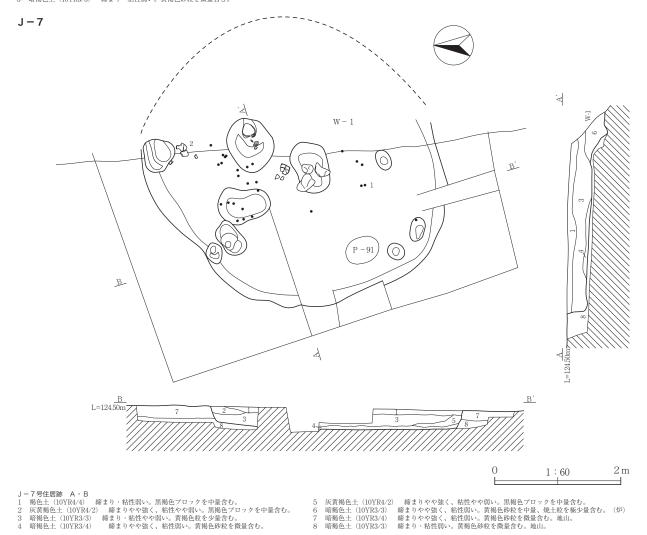
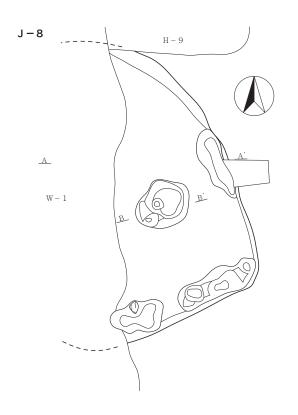
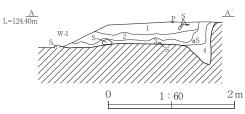


Fig.93 (123) J - 6 · 7 号住居跡



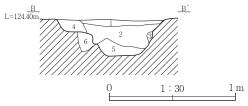


- J 8号住居跡 A
 展業機色土 (10YR4/2)
 締まり・結性弱い。黄褐色粒を少量含む。

 2 暗褐色土 (10YR3/3)
 締まり・や強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。

 8 暗褐色土 (10YR4/4)
 締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を増養含む。

 4 褐色土 (10YR4/4)
 締まり・粘性弱い。黒褐色ブロックを中量含む。地山。



- J 8号住居跡炉
 B

 1 灰青褐色土 (10YR8/2)
 締まり・粘性弱い。黄褐色粒を少量合む。

 5 暗褐色土 (10YR8/3)
 締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

 6 開樹色土 (10YR8/3)
 締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。

 6 開樹色土 (10YR8/4)
 締まり・粘性弱い。黒褐色ブロックを中量含む。

 6 にぶい黄橙色土 (10YR8/4)
 締まりやや強く、粘性弱い。 佐北粒を発金含む。

 6 にぶい黄橙色土 (10YR5/4)
 締まりやや強く、粘性弱い。 (炉棚り方)

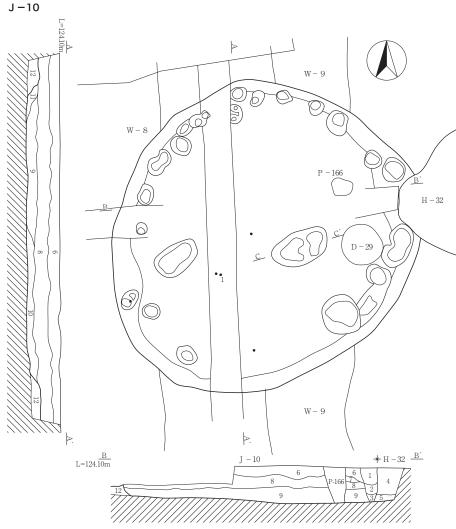
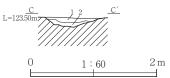


Fig.94 (123) J - 8 · 10 号住居跡



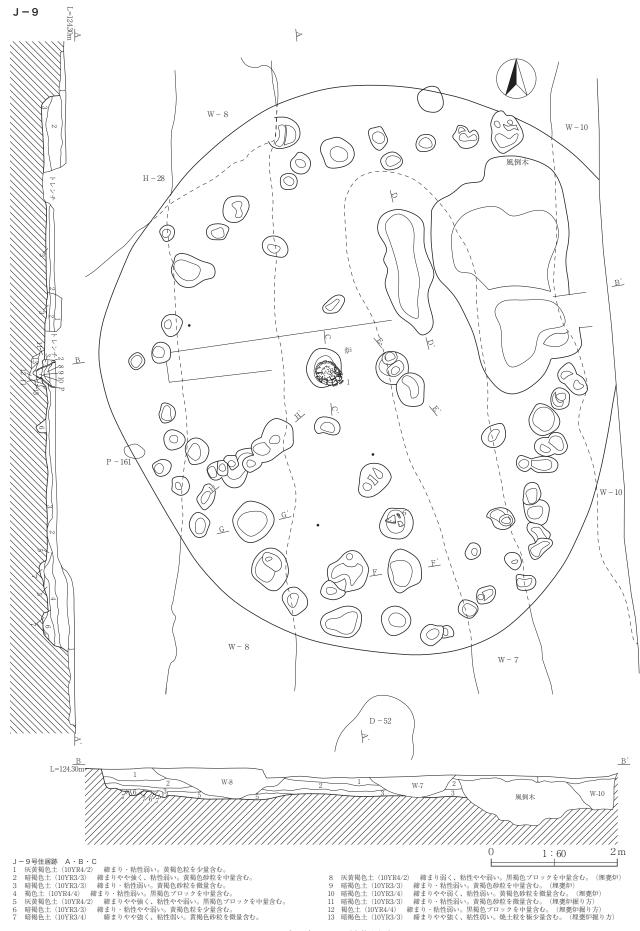


Fig.95 (123) J - 9 号住居跡

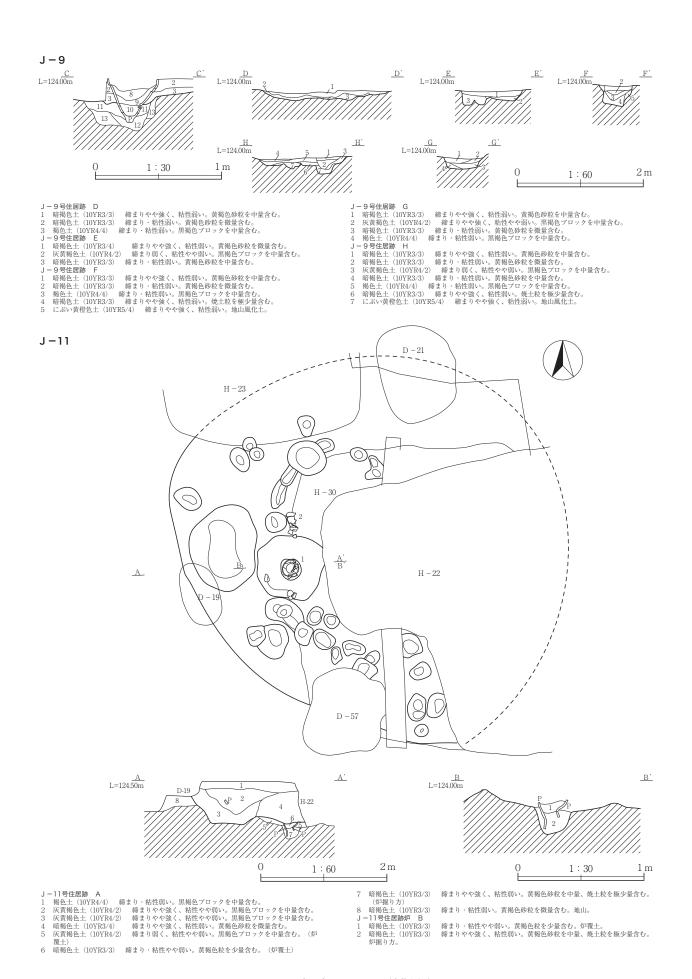


Fig.96 (123) J - 9 · 11 号住居跡

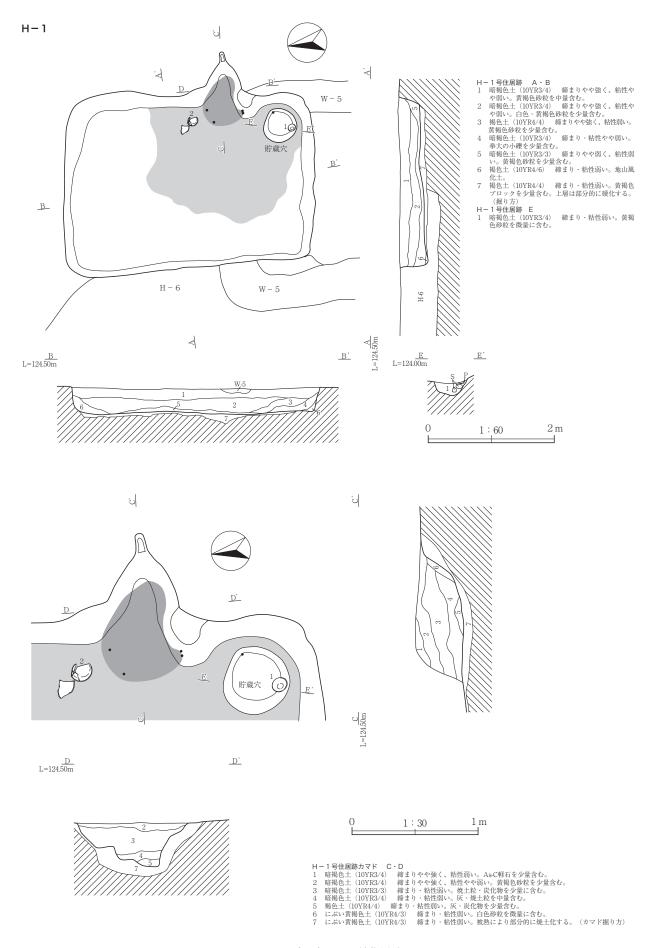


Fig.97 (123) H - 1 号住居跡

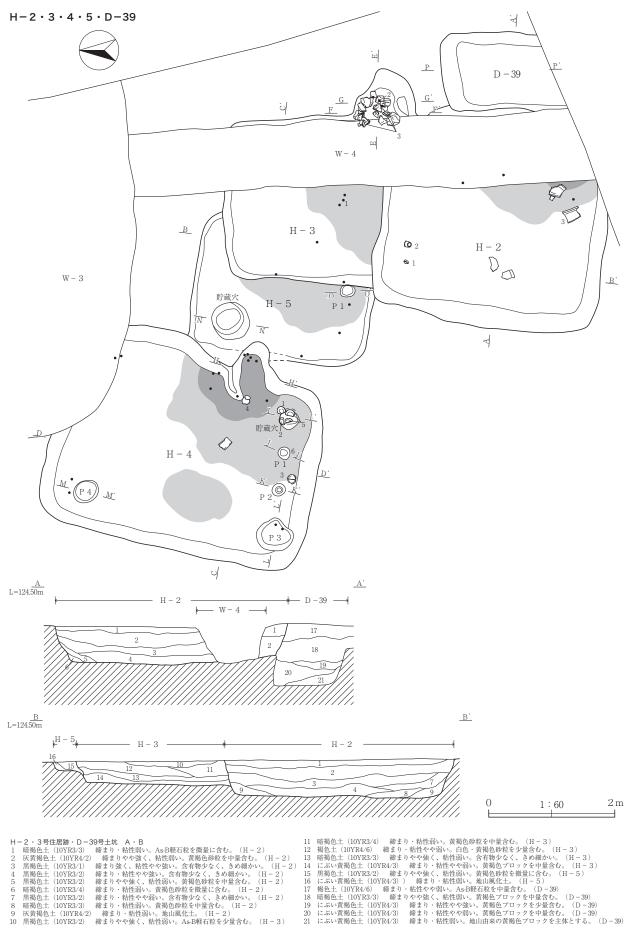


Fig.98 (123) H - 2~5号住居跡、D-39号土坑 (1)

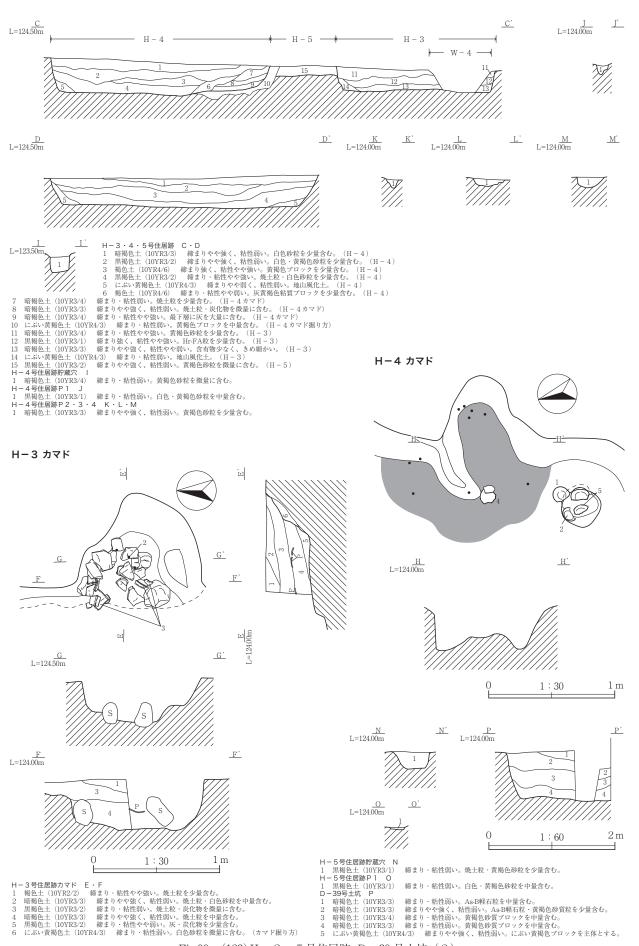
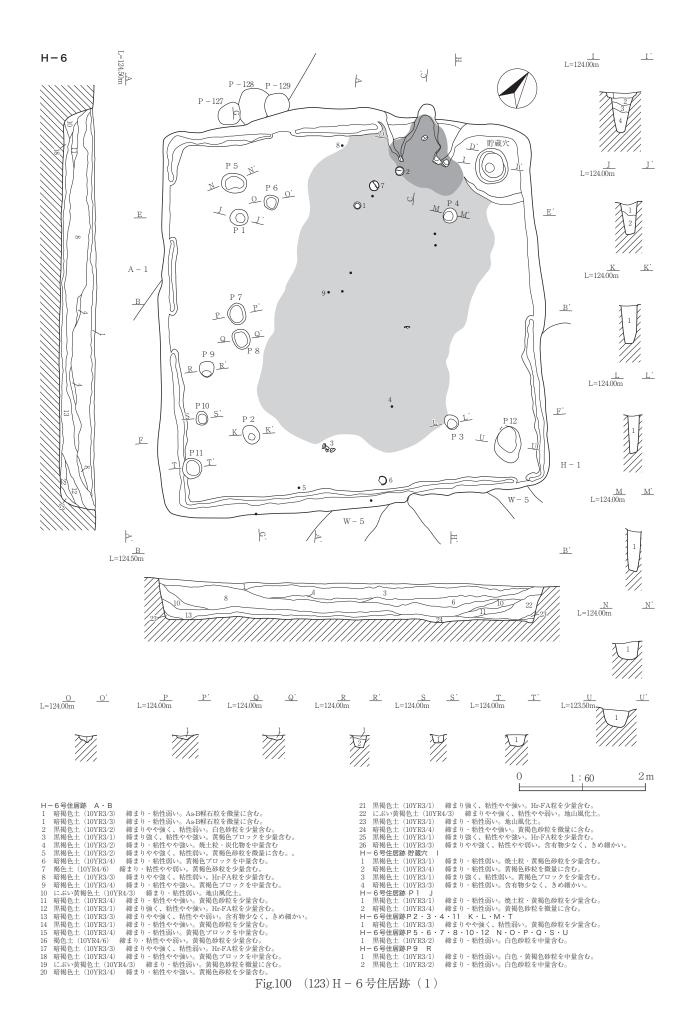
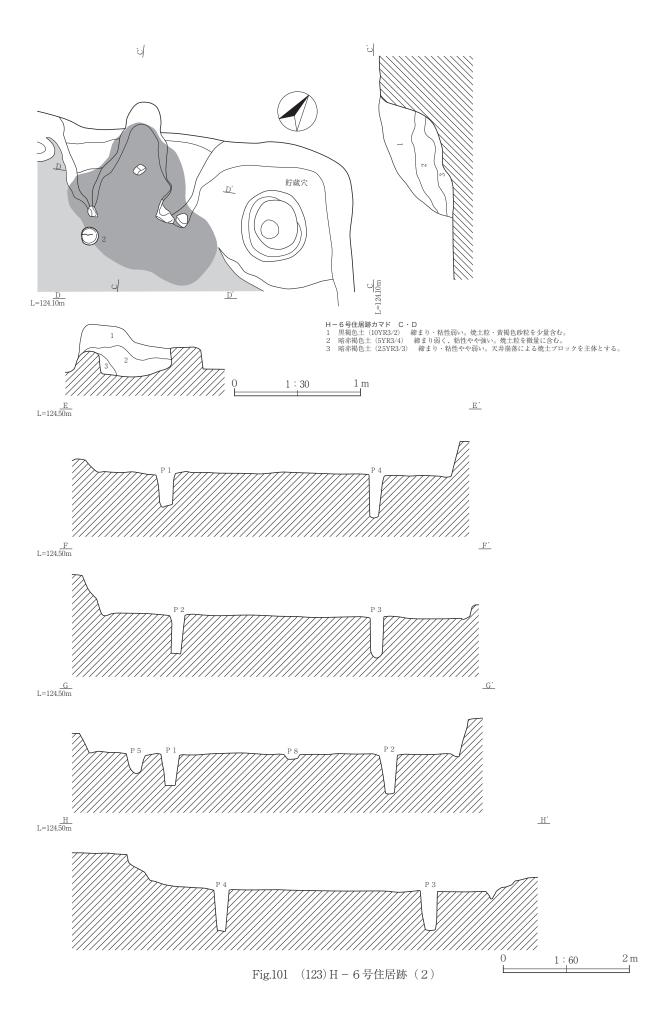


Fig.99 (123) H $-2 \sim 5$ 号住居跡、D -39 号土坑 (2)



- 169 -



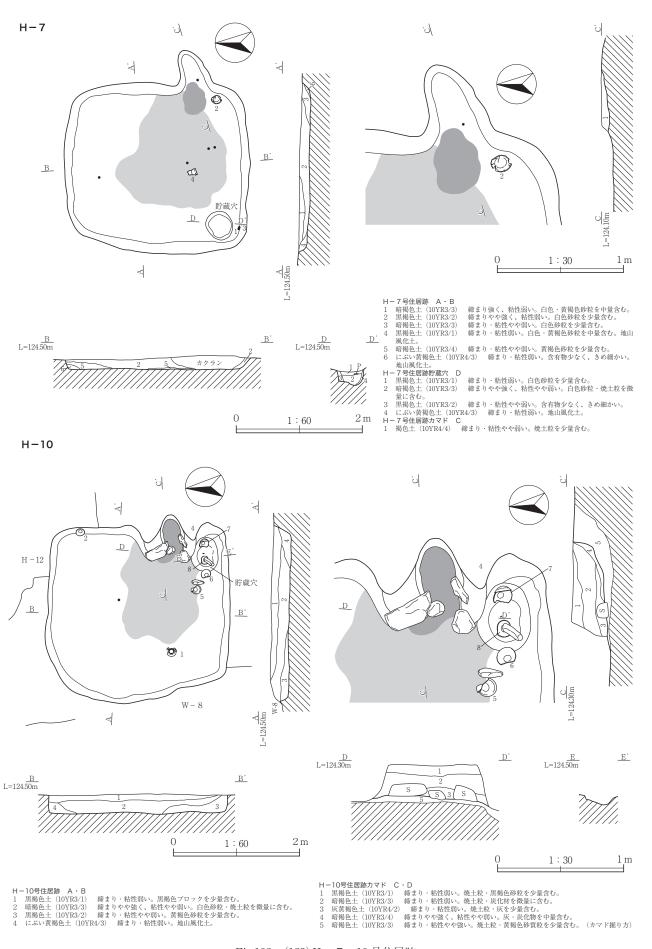


Fig.102 (123) H - 7 · 10 号住居跡

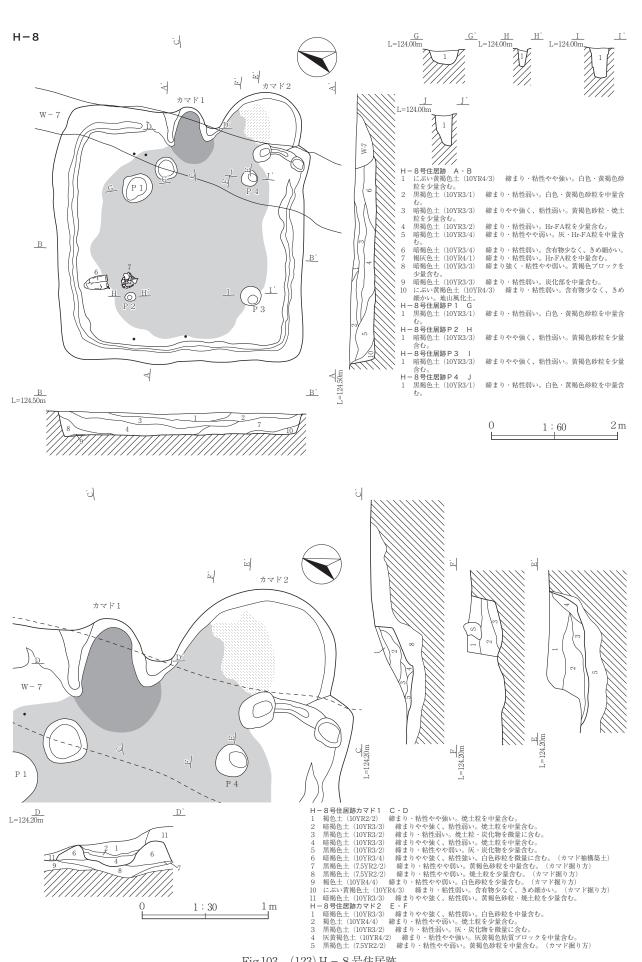


Fig.103 (123) H - 8 号住居跡

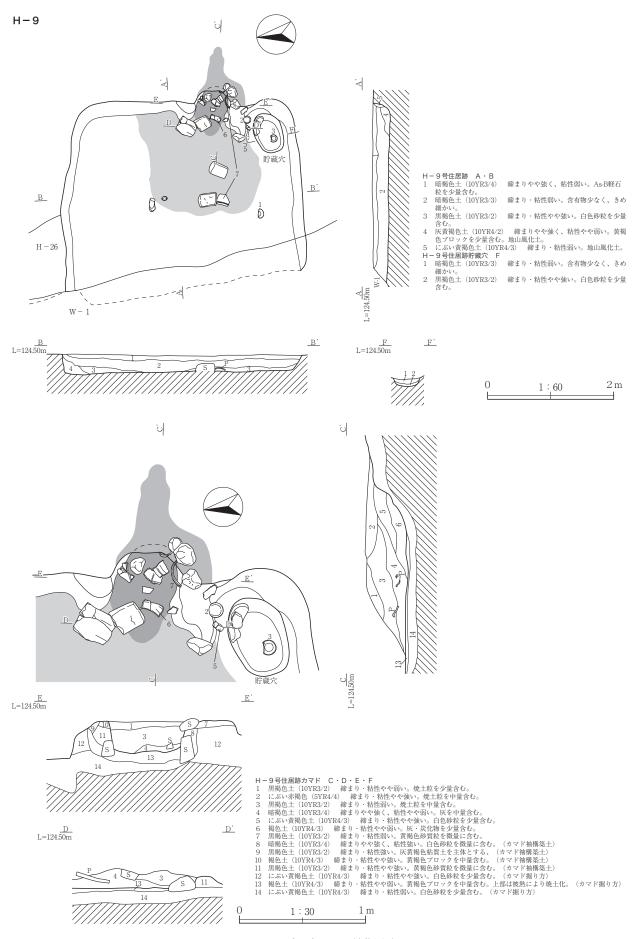


Fig.104 (123) H - 9 号住居跡

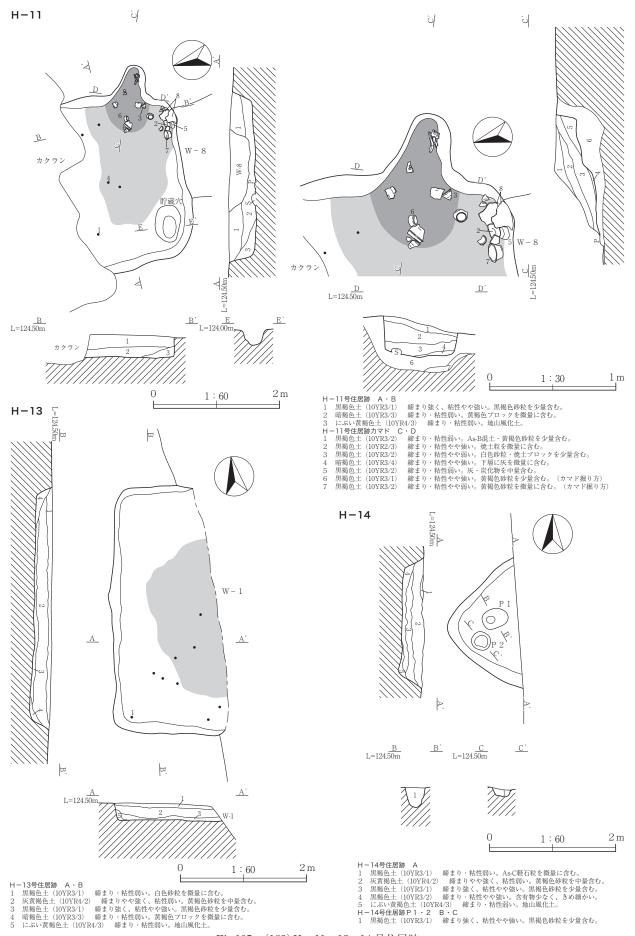


Fig.105 (123) H - 11 · 13 · 14 号住居跡

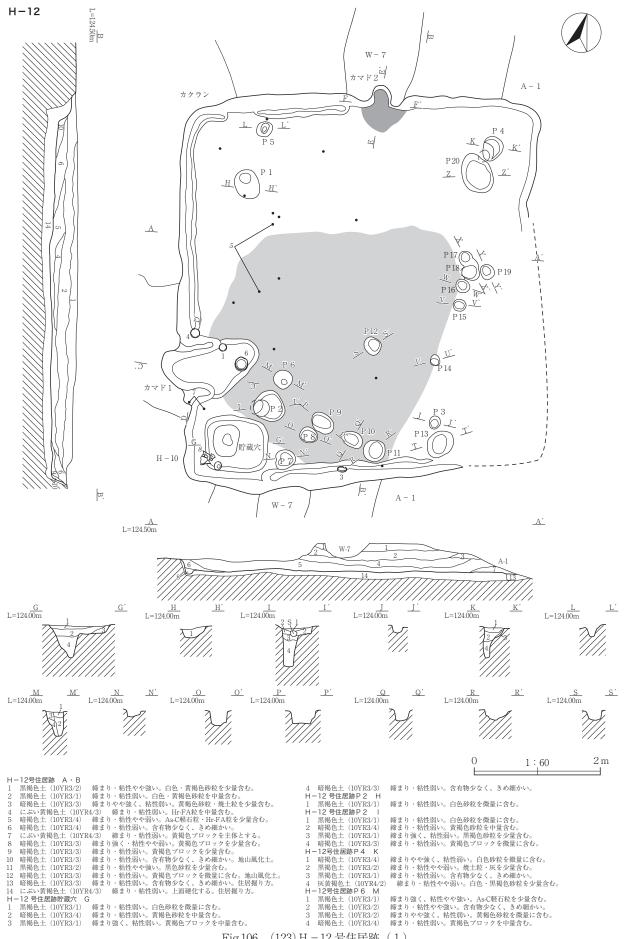


Fig.106 (123) H-12 号住居跡 (1)

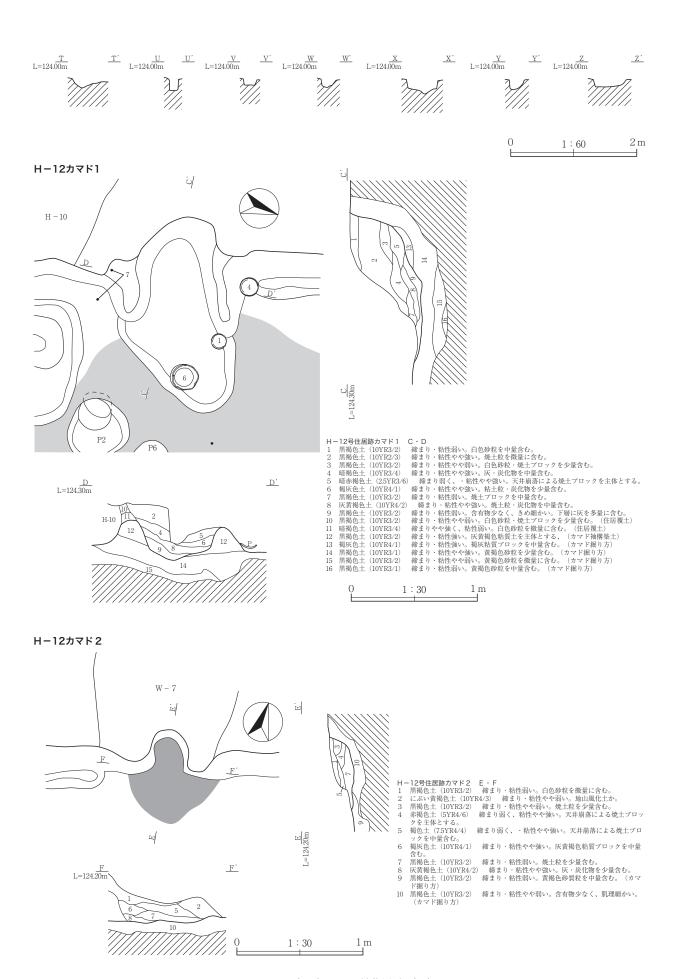


Fig.107 (123) H - 12 号住居跡 (2)

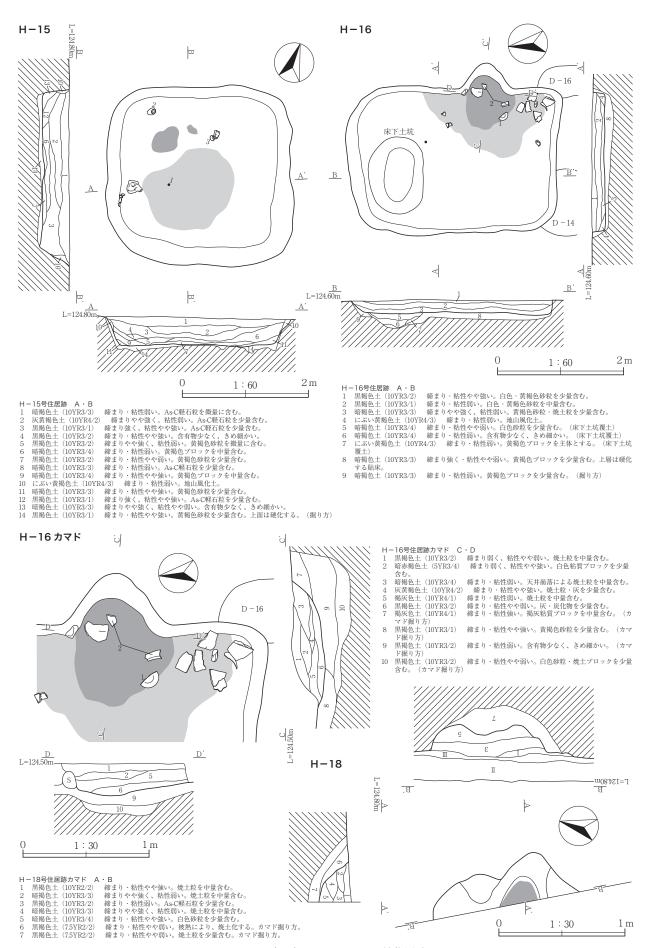


Fig.108 (123) H - 15 · 16 · 18 号住居跡

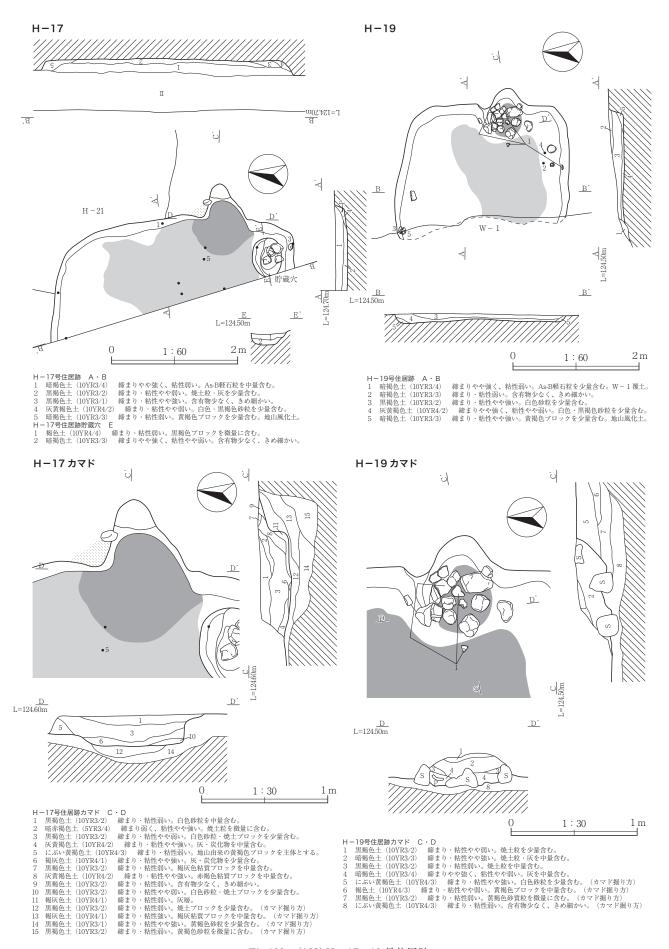


Fig.109 (123) H - 17 · 19 号住居跡

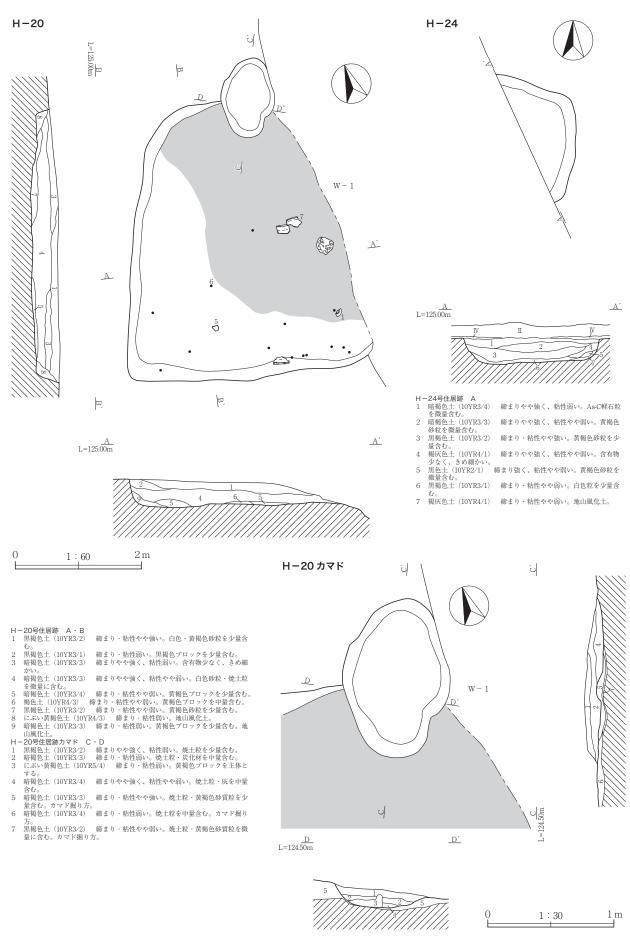


Fig.110 (123) H - 20 · 24 号住居跡

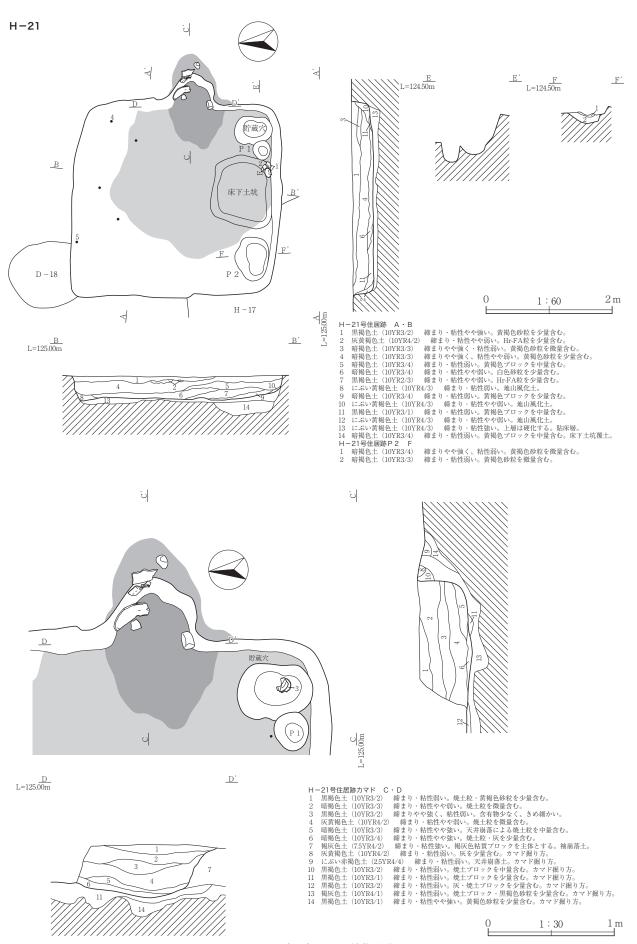


Fig.111 (123) H - 21 号住居跡

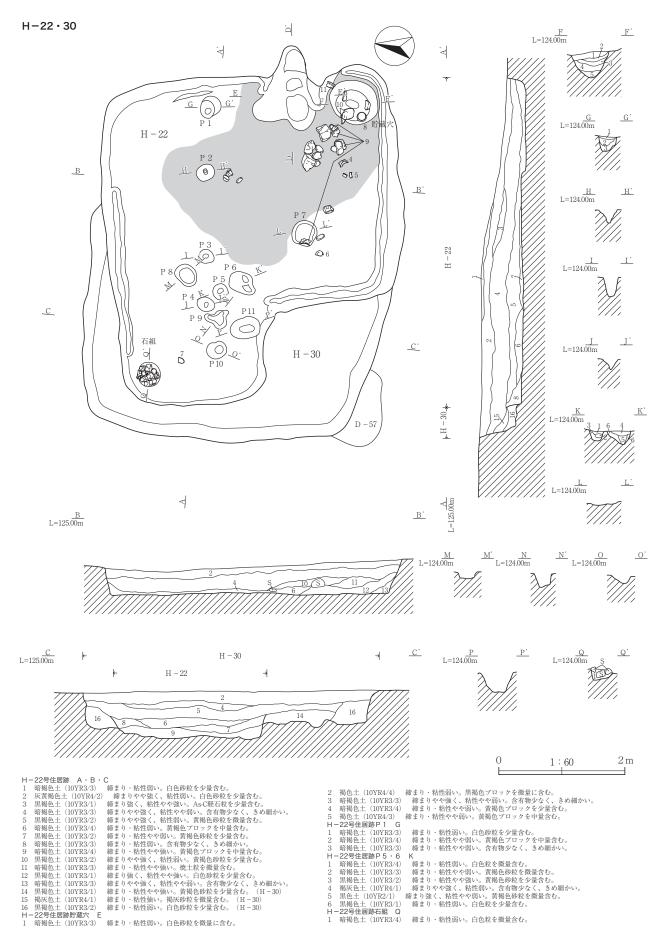


Fig.112 (123) H - 22 · 30 号住居跡

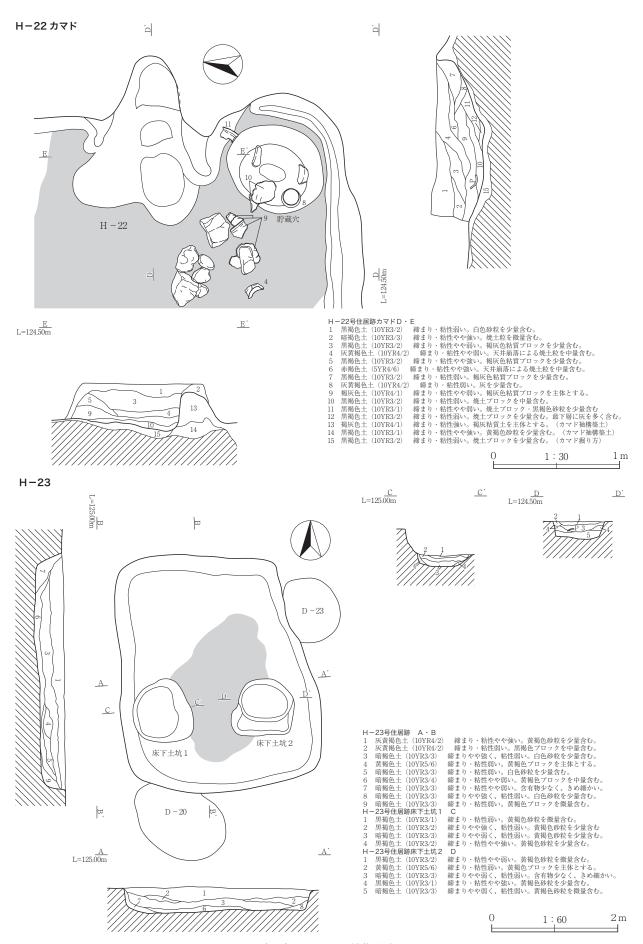


Fig.113 (123) H - 22・23 号住居跡カマド

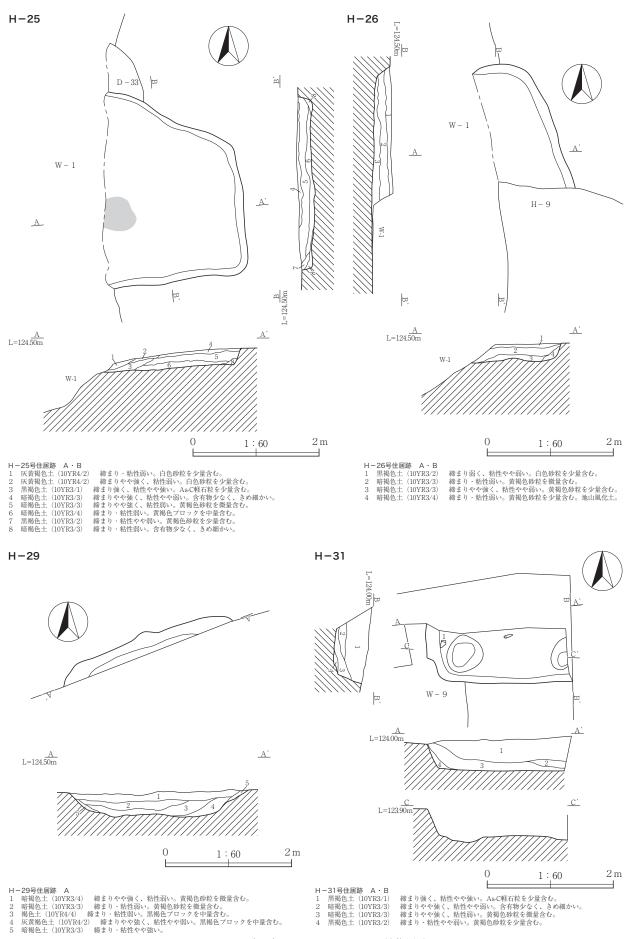


Fig.114 (123) H - 25 · 26 · 29 · 31 号住居跡

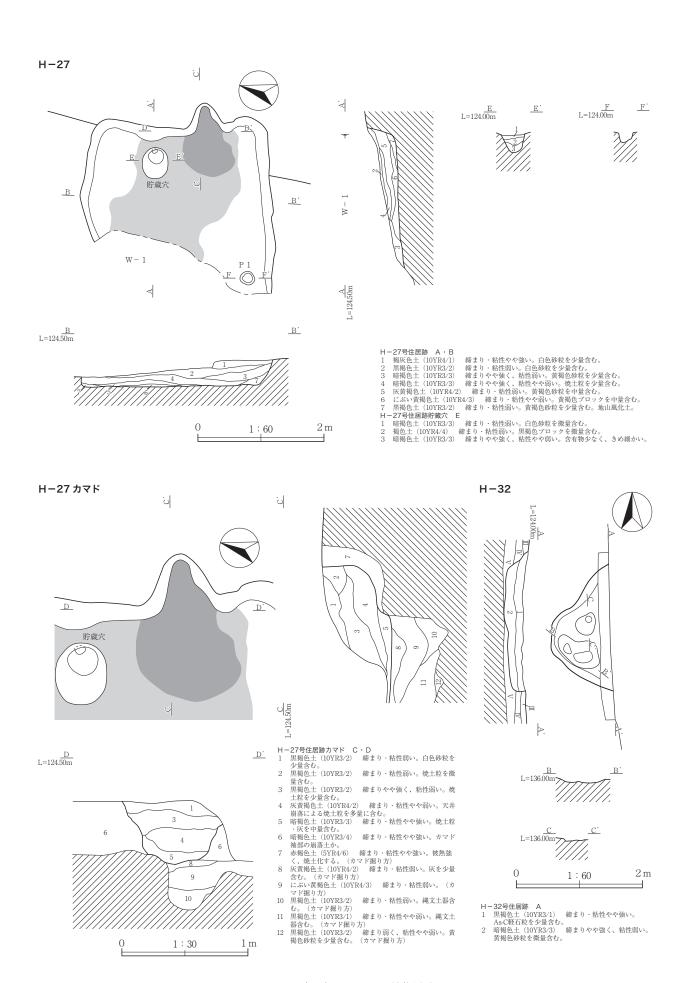
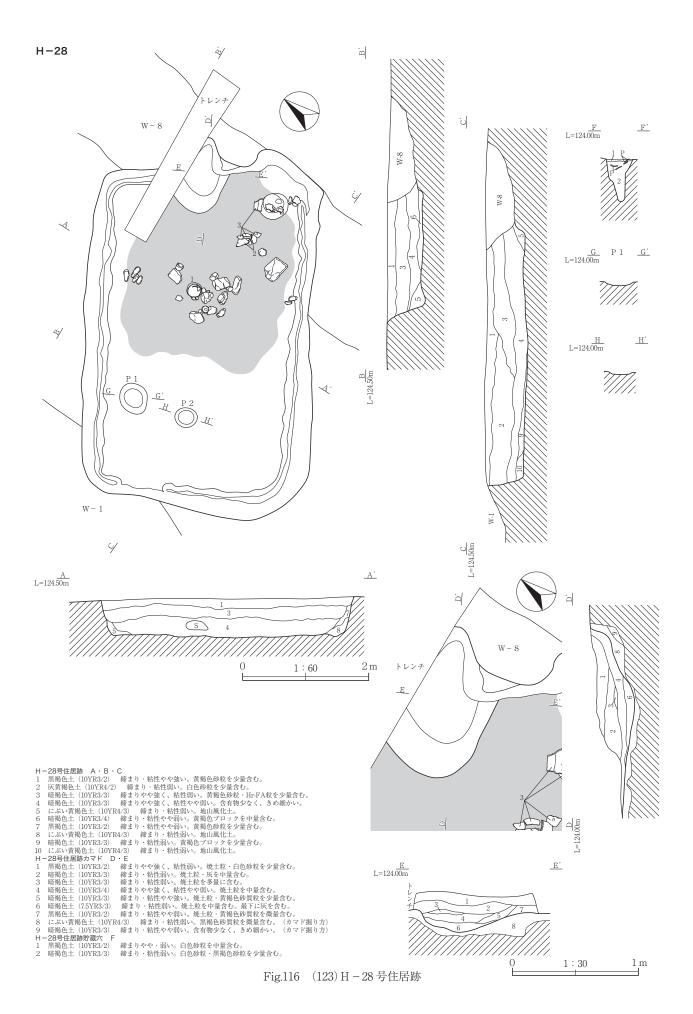
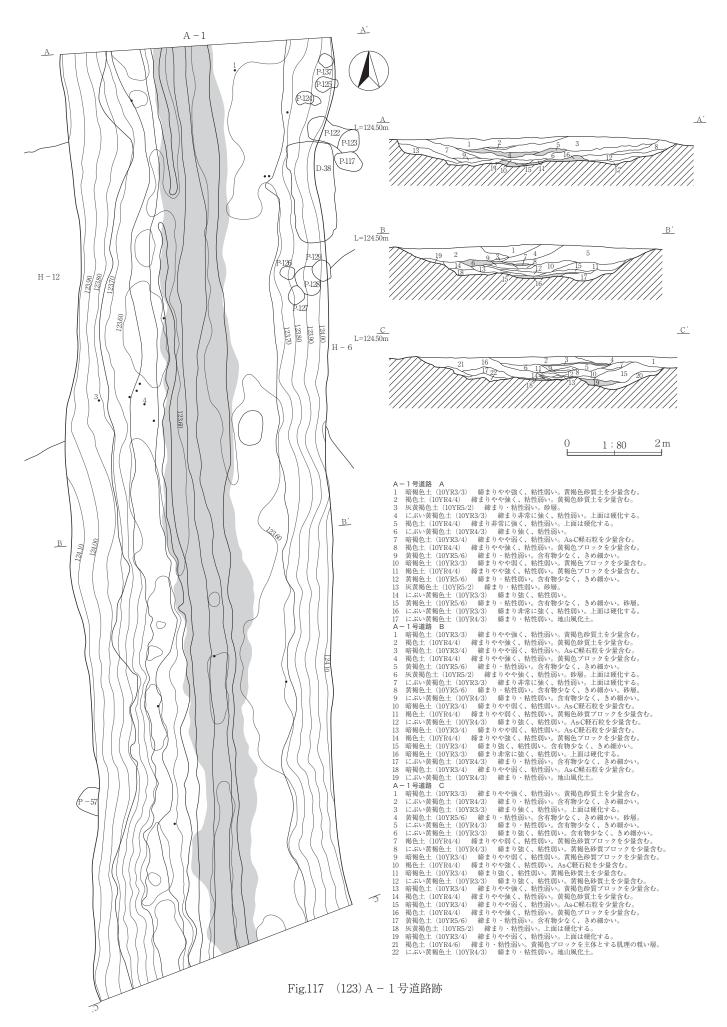


Fig.115 (123) H - 27 · 32 号住居跡





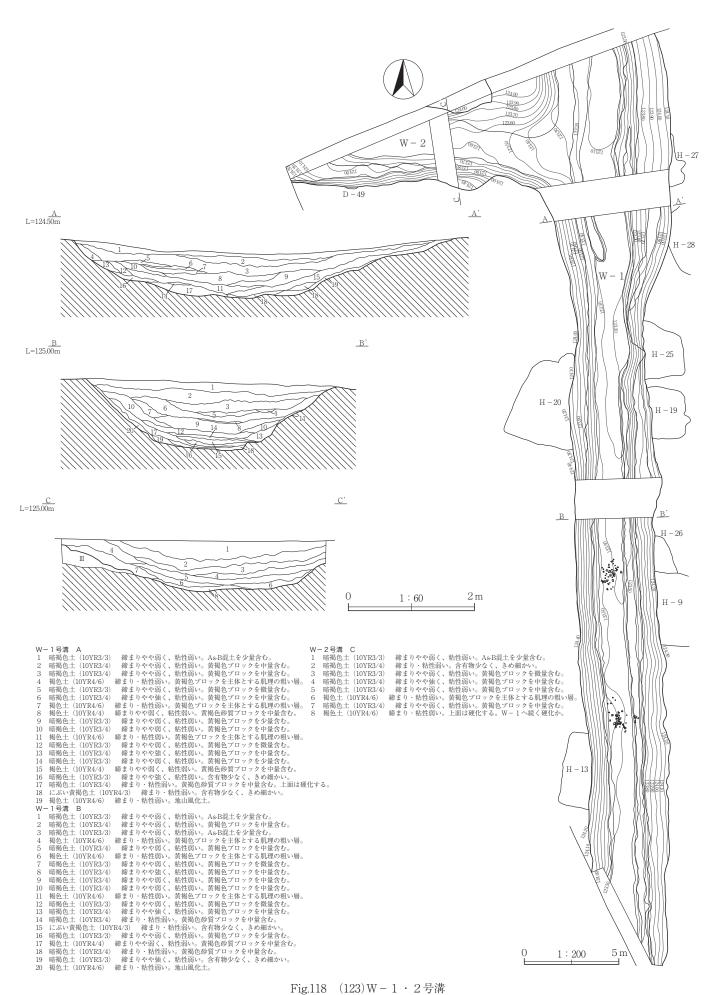
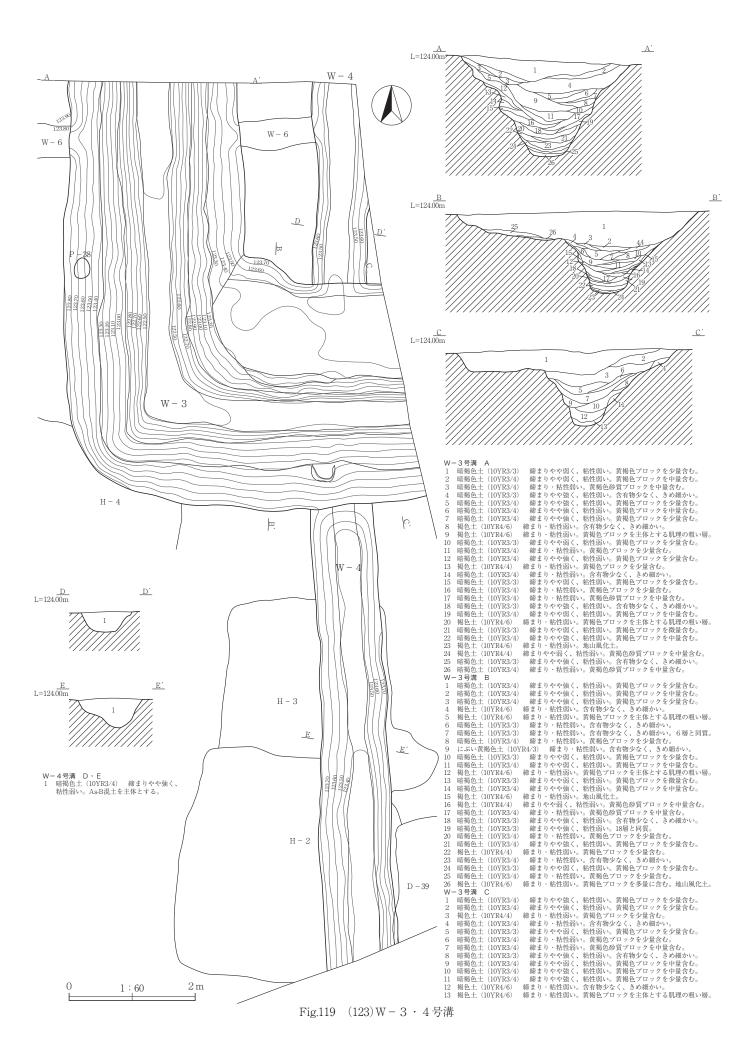
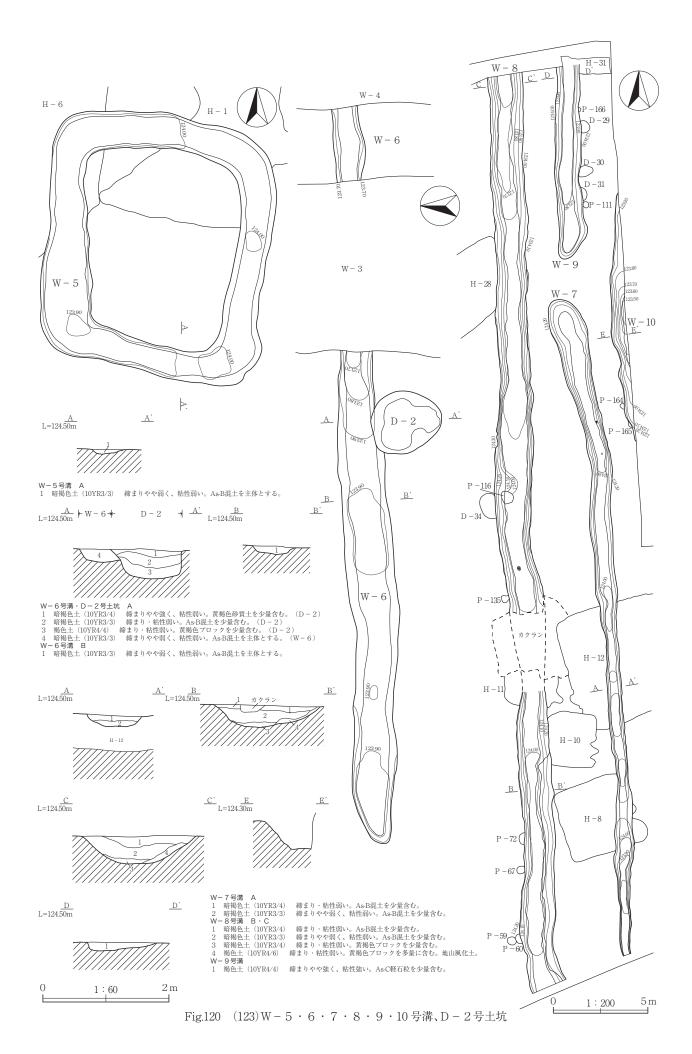


Fig.118 (123)W-1·2号溝



- 188 -



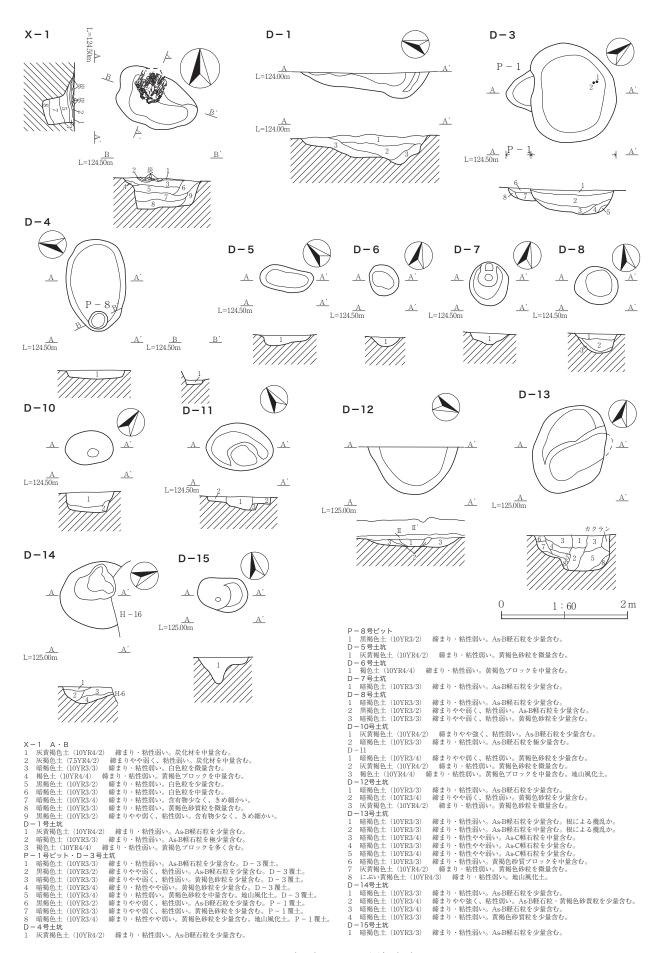


Fig.121 (123) X - 1、土坑 (1)

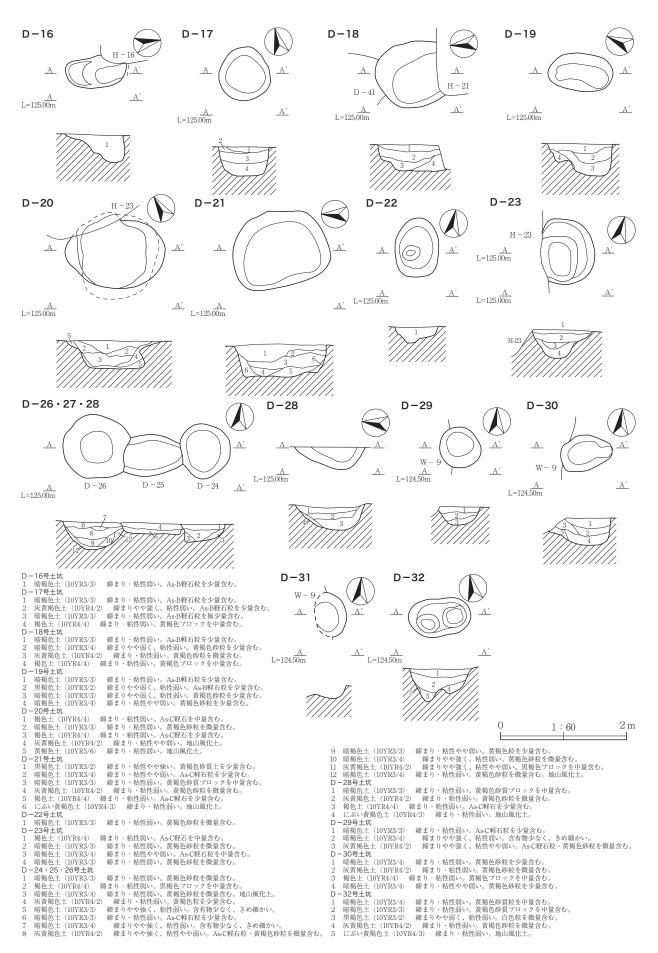


Fig.122 (123) 土坑 (2)

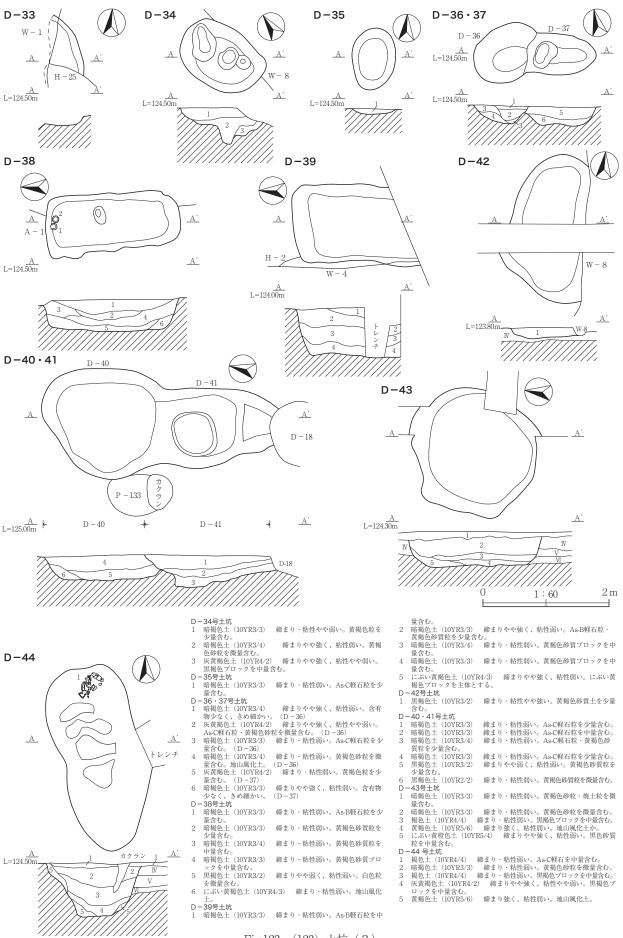
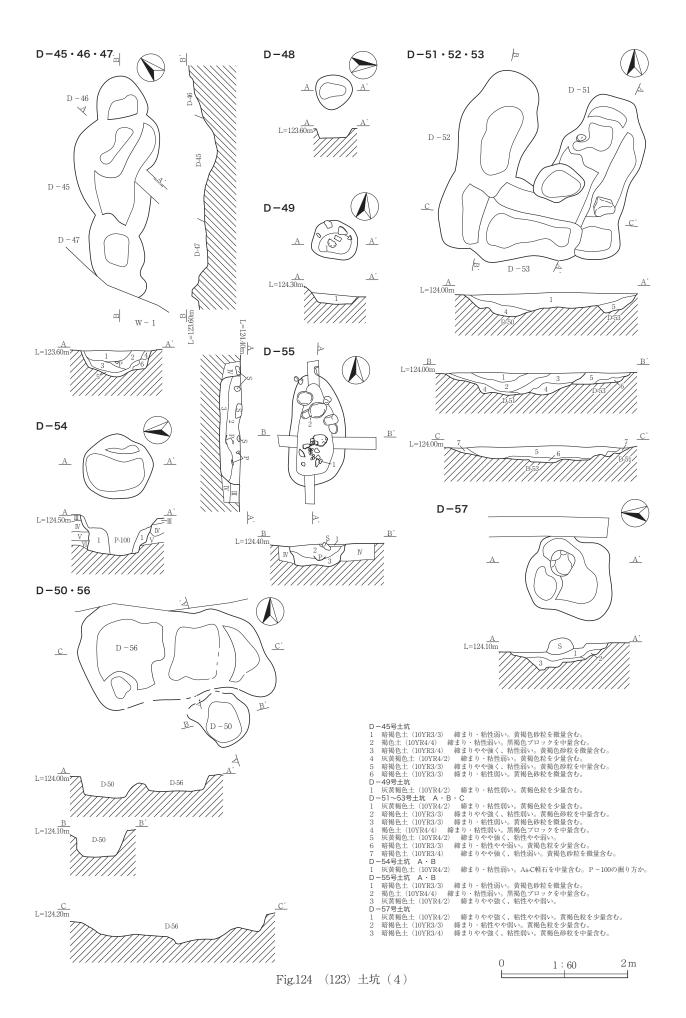


Fig.123 (123) 土坑 (3)



- 193 -

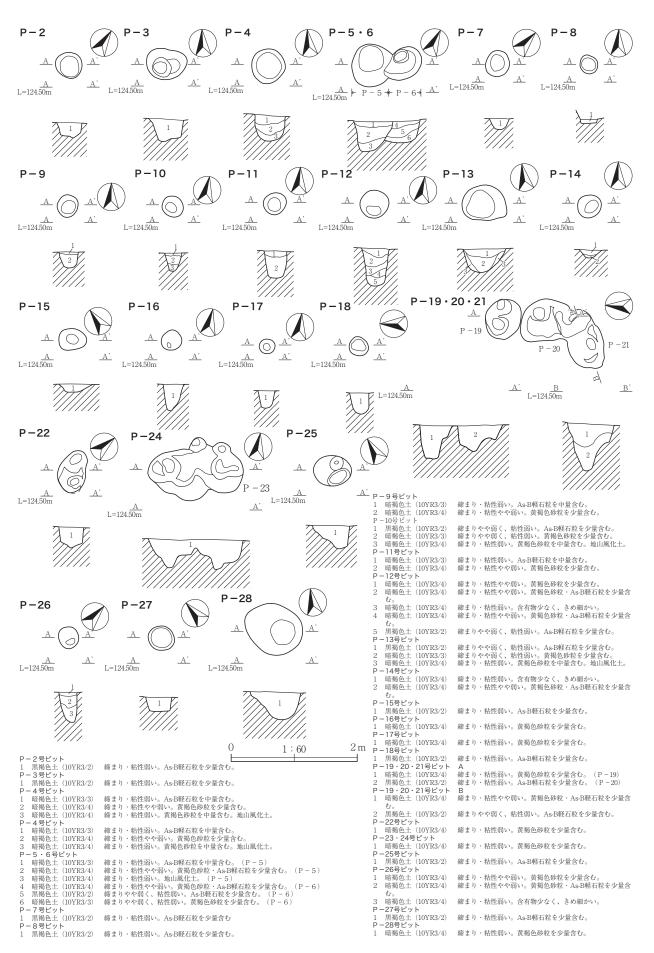


Fig.125 (123) ピット (1)

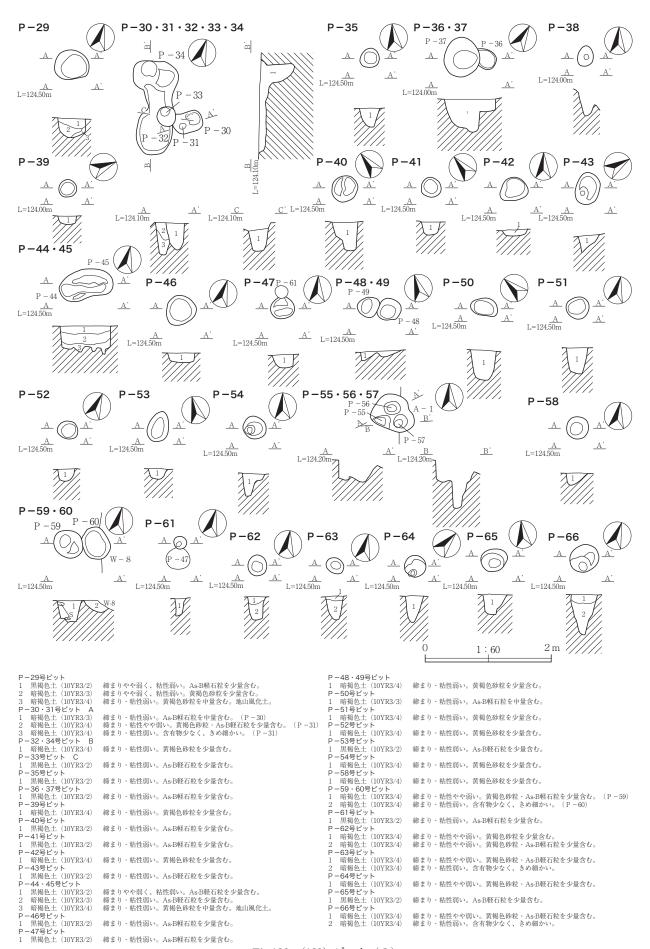


Fig.126 (123) ピット (2)

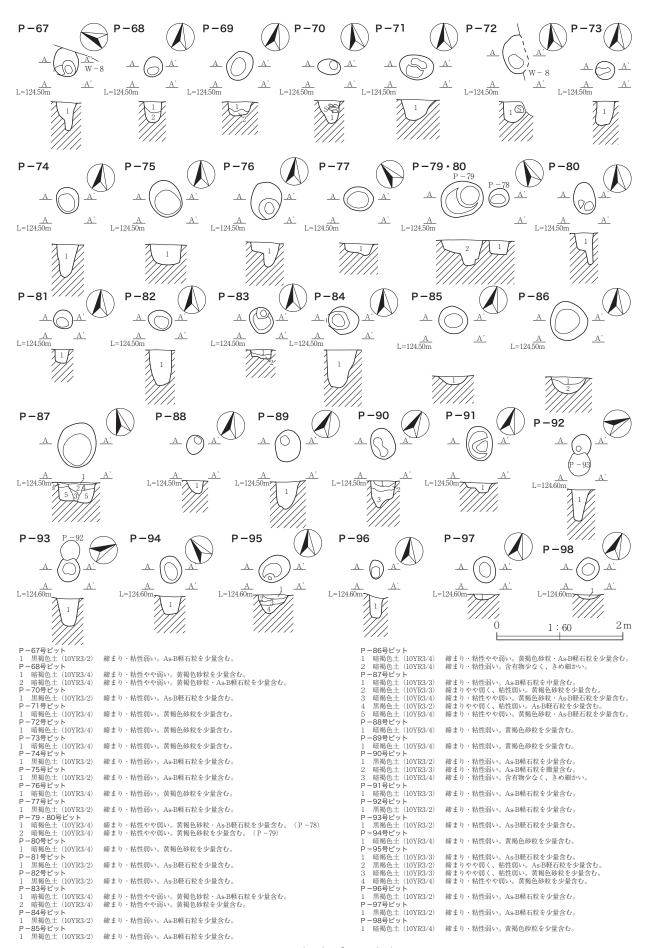


Fig.127 (123) ピット (3)

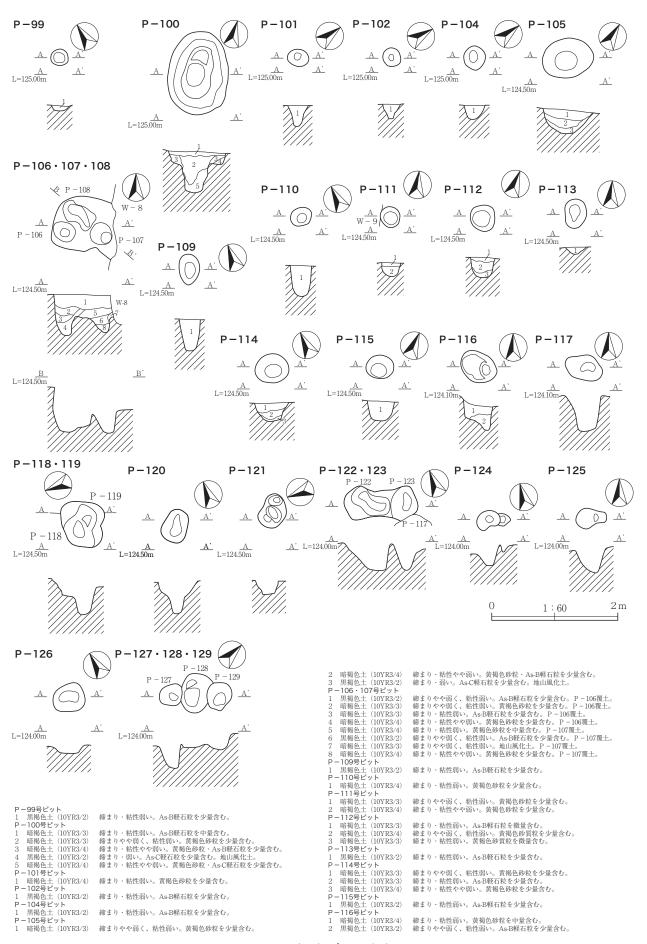


Fig.128 (123) ピット (4)

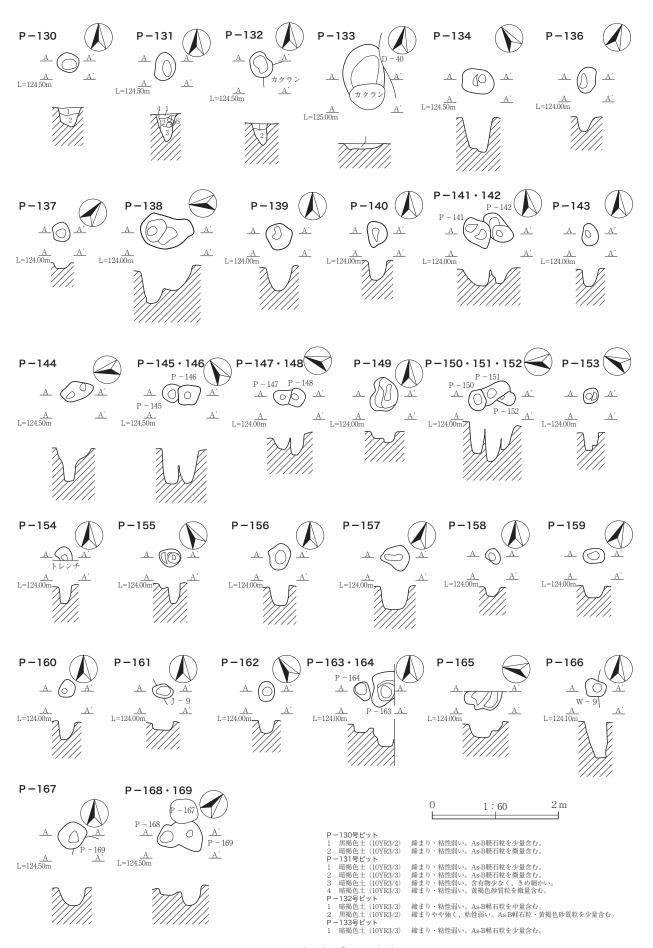
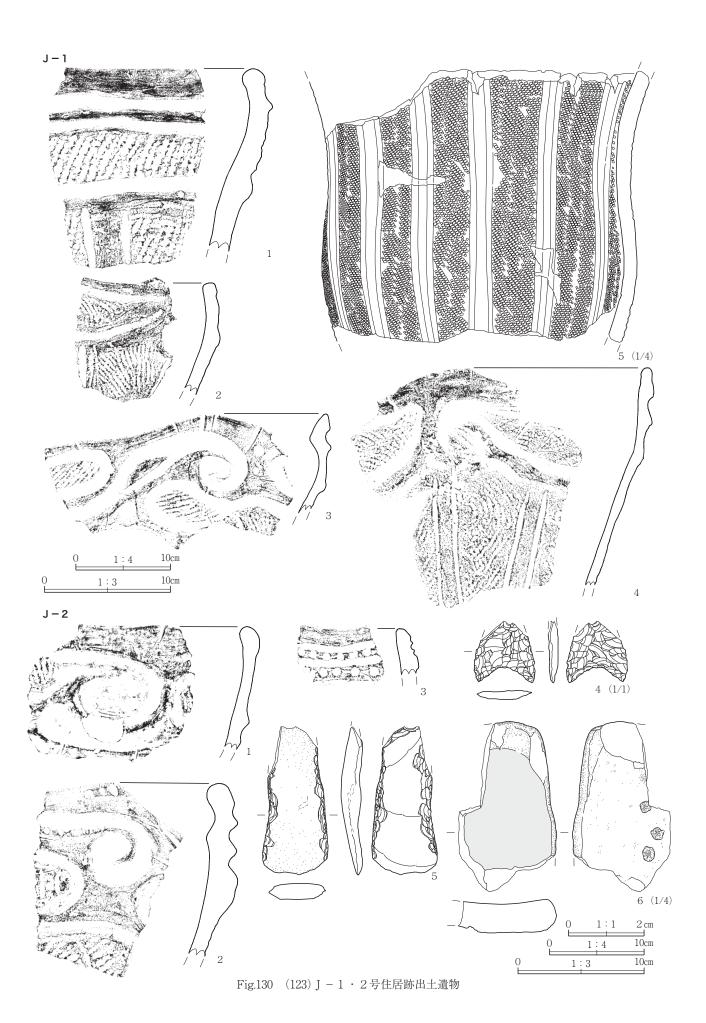
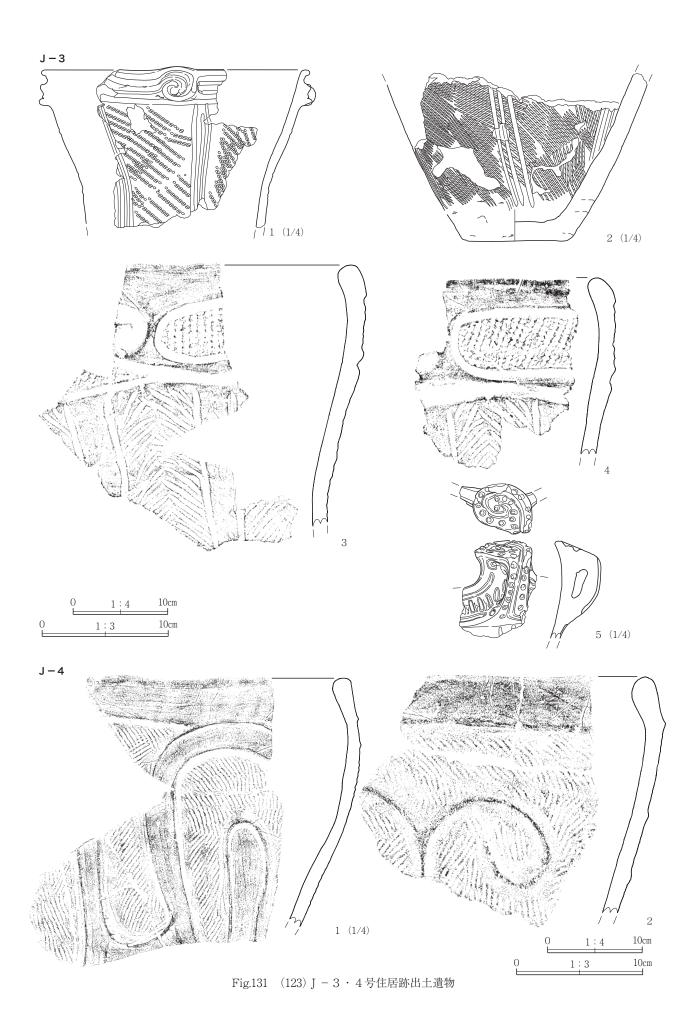


Fig.129 (123) ピット (5)



- 199 -



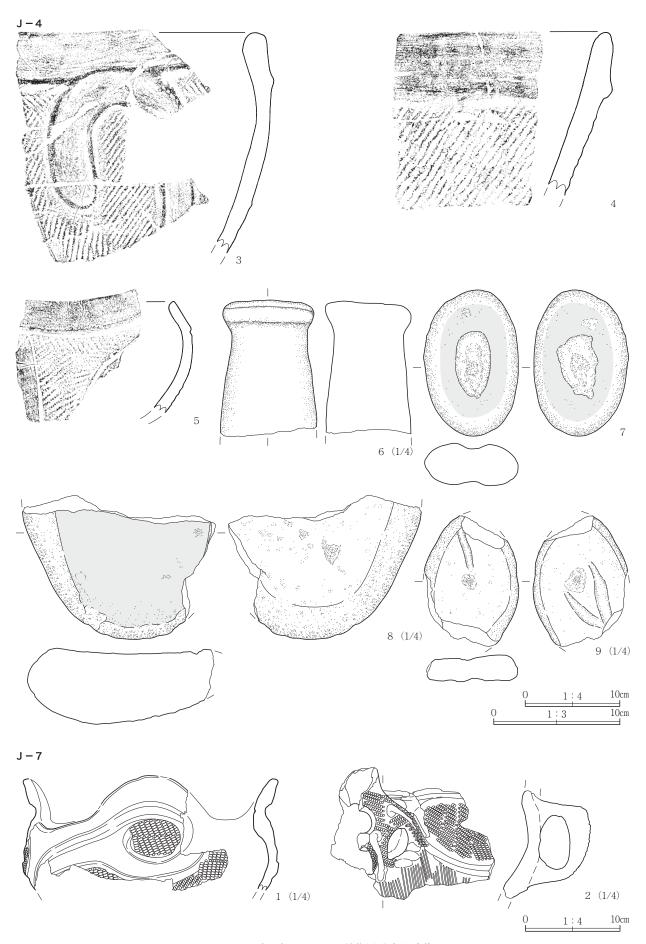
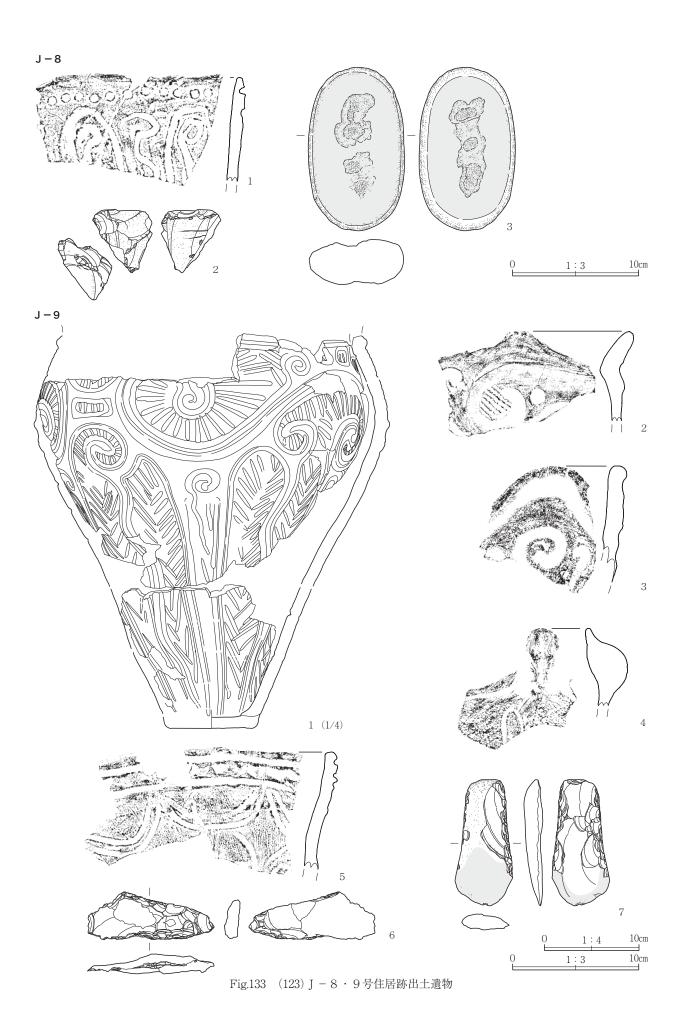


Fig.132 (123) J - 4 · 7 号住居跡出土遺物



- 202 -

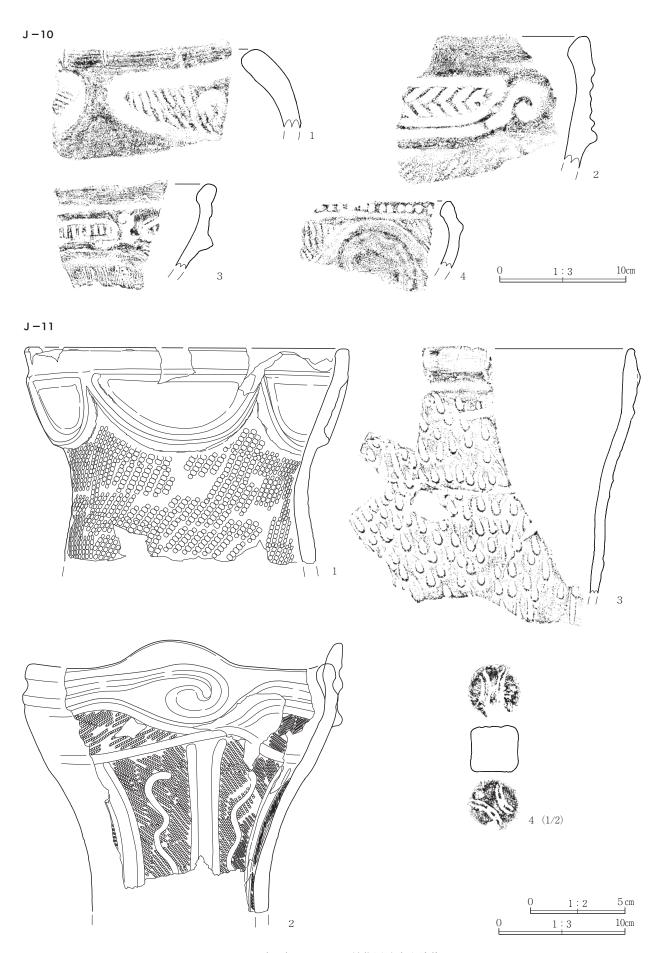


Fig.134 (123)J - 10·11 号住居跡出土遺物

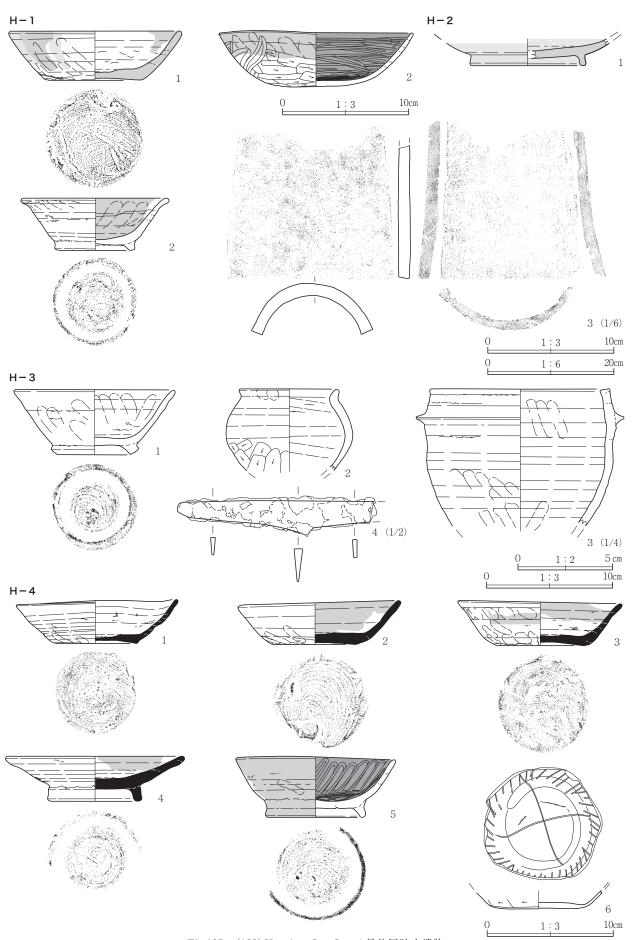


Fig.135 (123) H - 1 · 2 · 3 · 4 号住居跡土遺物

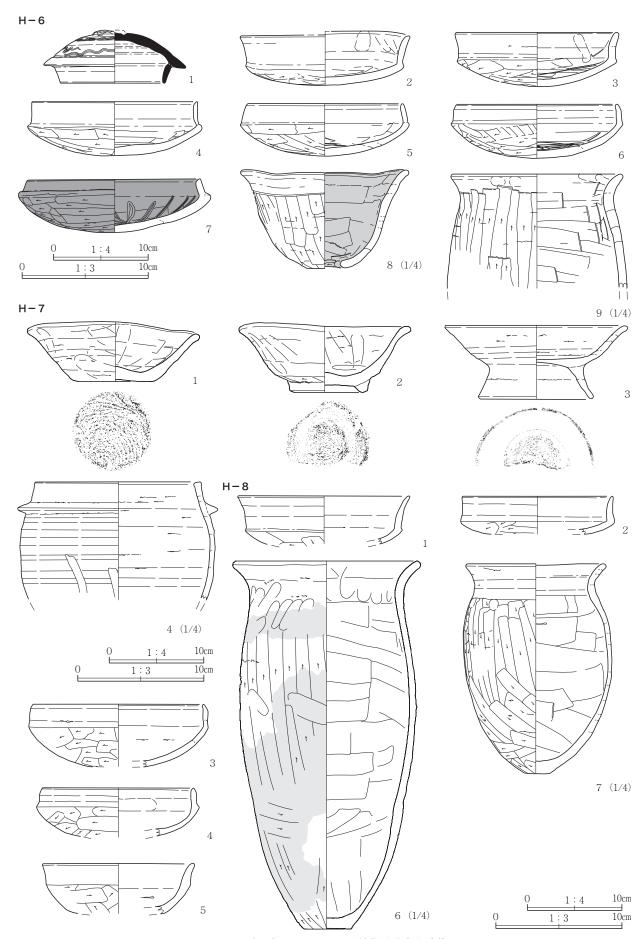


Fig.136 (123) H - 6 · 7 · 8 号住居跡出土遺物

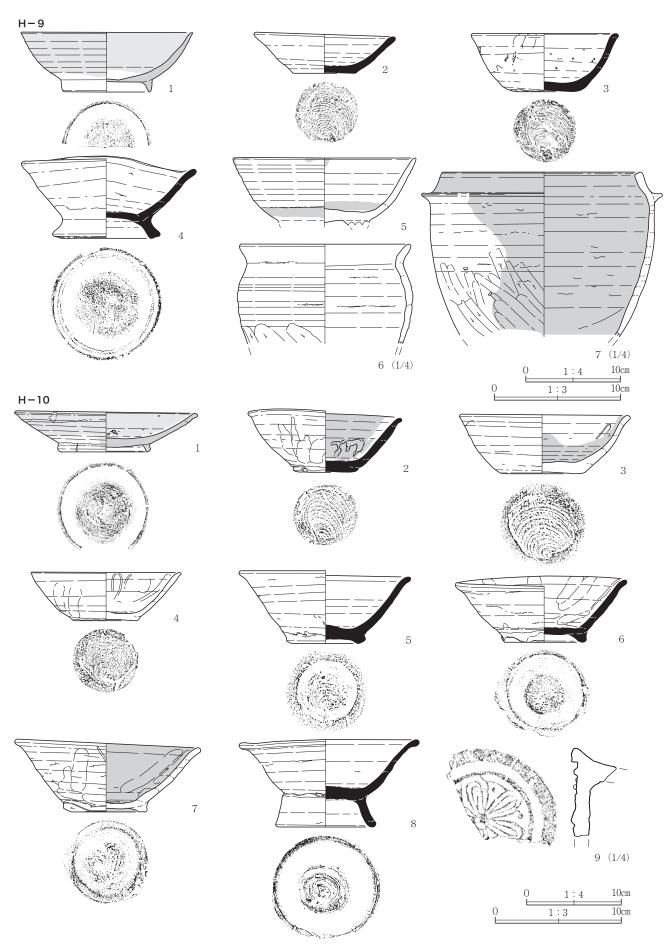
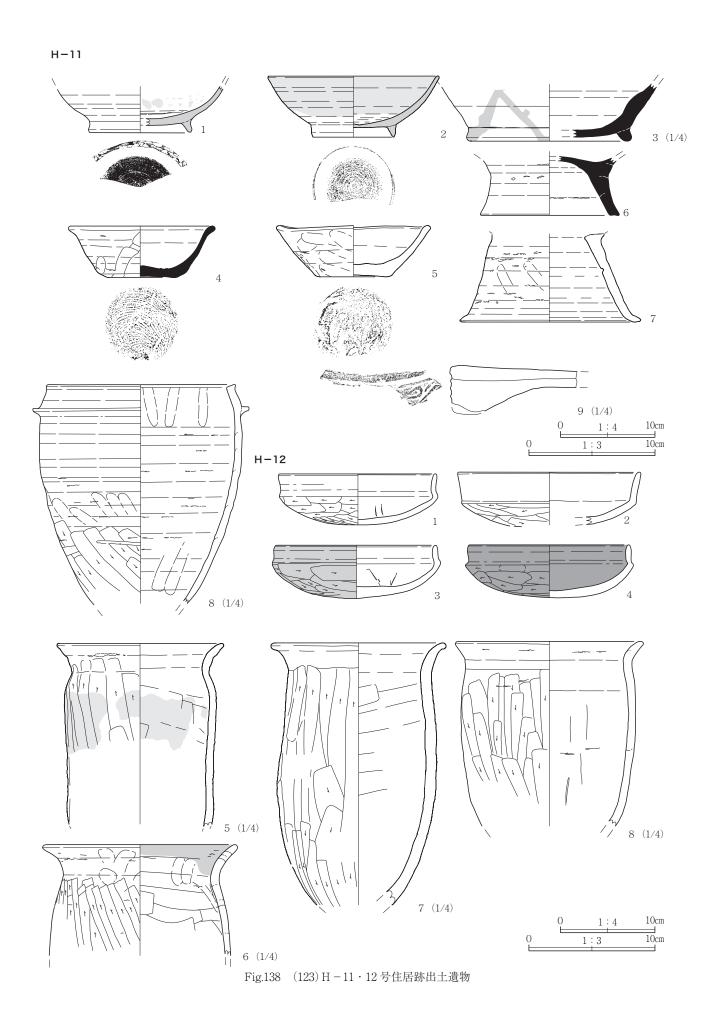


Fig.137 (123) H - 9 · 10 号住居跡出土遺物



- 207 -

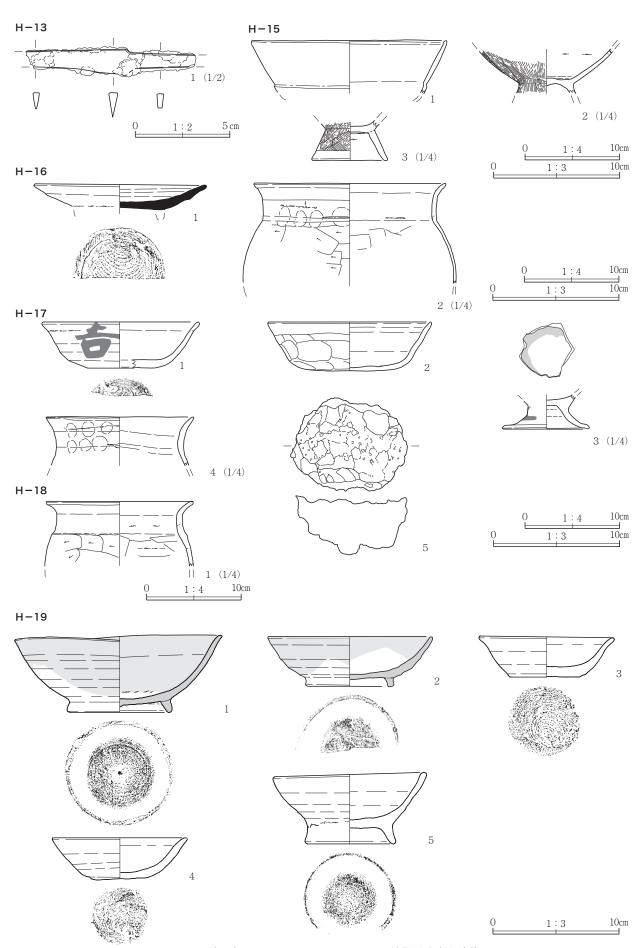


Fig.139 (123)H - 13 · 15 · 16 · 17 · 18 · 19 号住居跡出土遺物

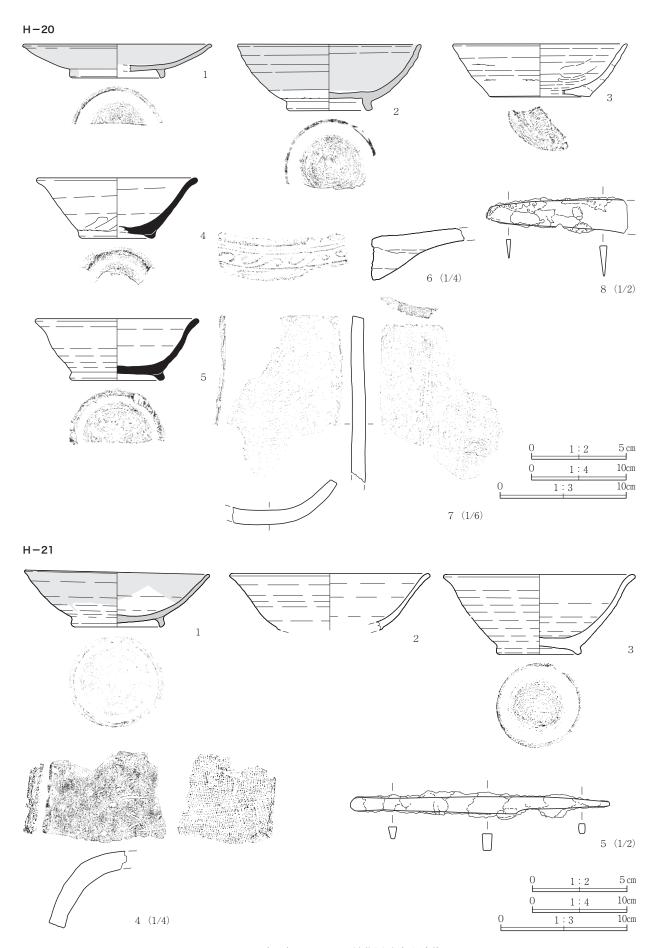


Fig.140 (123) H - 20 · 21 号住居跡出土遺物

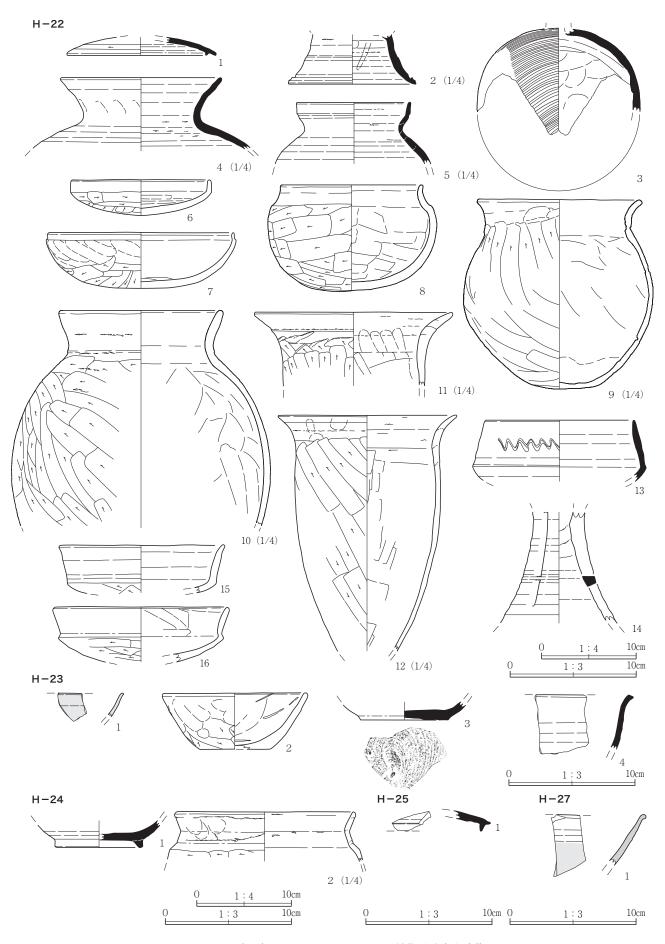
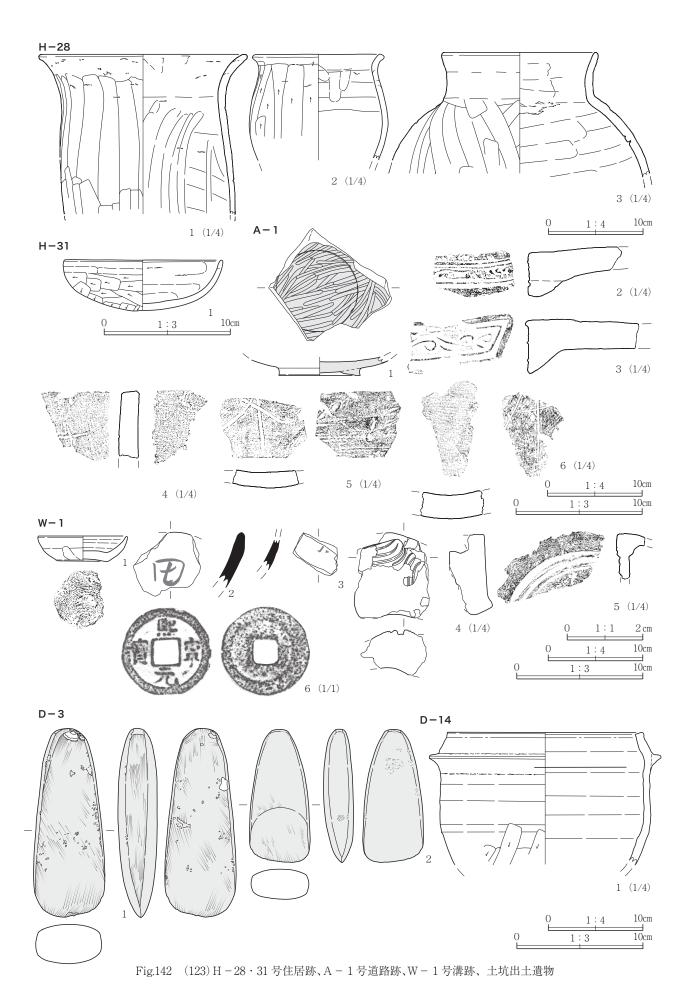
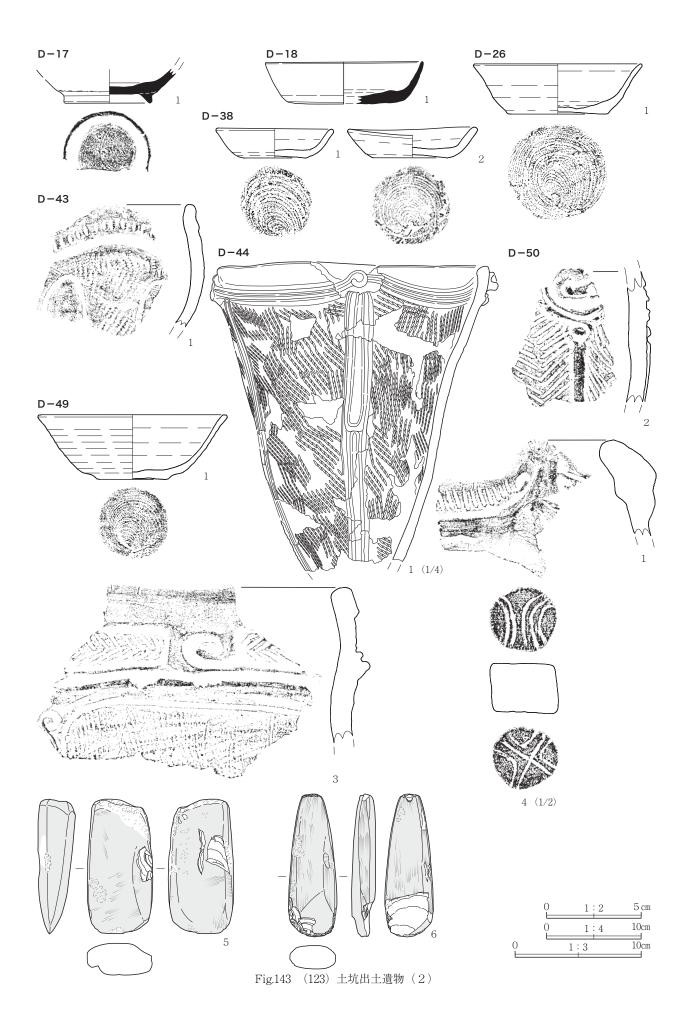


Fig.141 (123) H - 22 · 23 · 24 · 25 · 27 号住居跡出土遺物





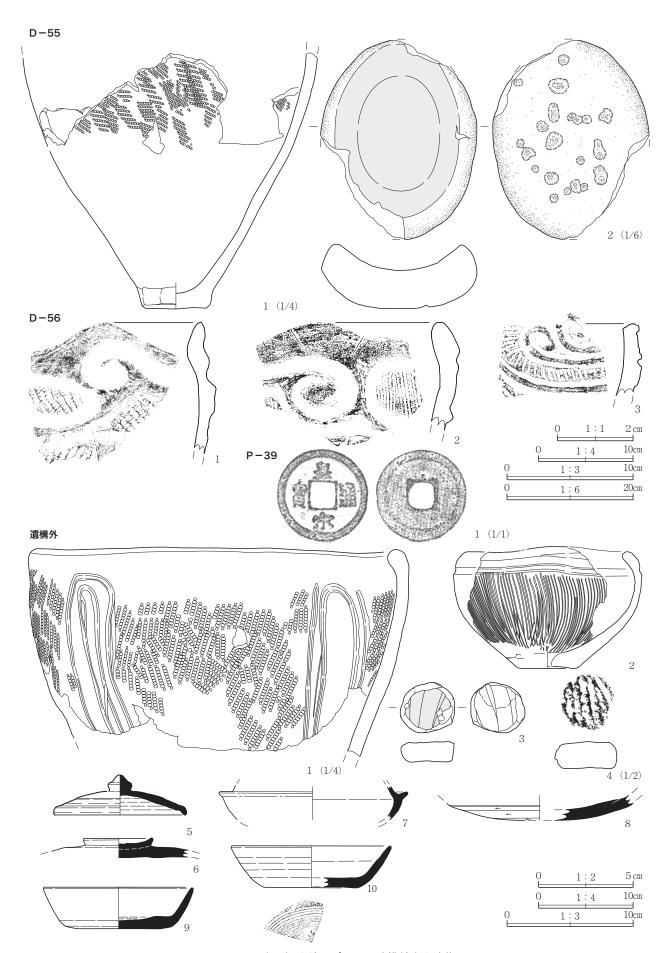


Fig.144 (123) 土坑、ピット、遺構外出土遺物

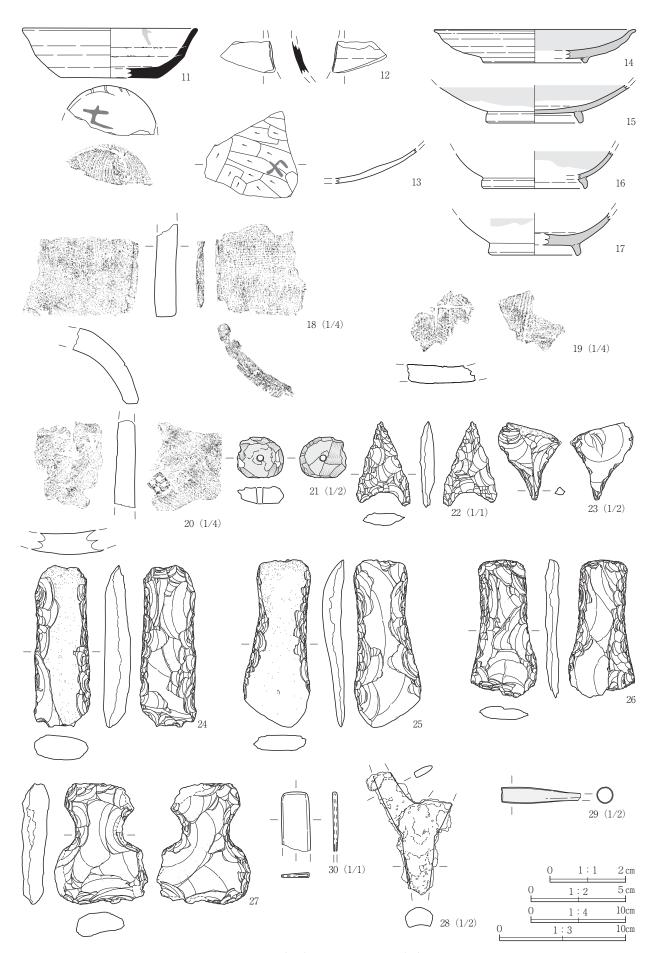


Fig.145 (123) 遺構外出土遺物 (2)

VI 発掘調査の成果と課題

1 集落の変遷

元総社蒼海遺跡群(116)では縄文時代の住居跡 17 軒、古墳時代以降の住居跡 57 軒、(123)では縄文時代の住居跡 10 軒、古墳時代以降の住居跡 32 軒を検出した。個別遺構の詳細については前章に記したが、ここでは集落の動向を従来の編年観に基づいて若干の考察を加え、周辺調査事例を含めて検討したい。

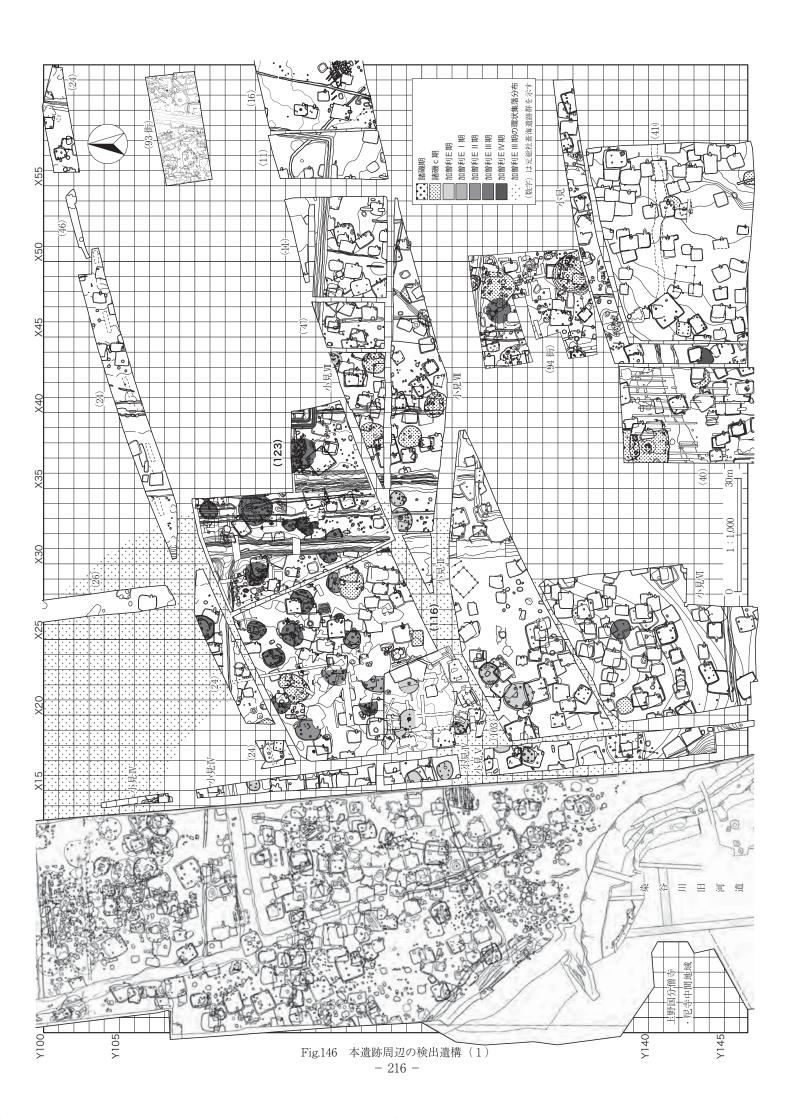
縄文時代前期後半の諸磯 c 期(20 軒)に集落として進出するようになり、検出した住居跡の立地は本遺跡南側の自然堤防上から南東方向にかけて集中する。前段階の諸磯 b 期(2 軒)は、南方に検出事例があるものの、散発的な状況となっている。いずれにしても継続的な集落を構成したとは言い難く、本格的な住居展開が確認できるのは中期後半、加曽利E期となる。EI期は(116)J-16 号住居跡 1 軒であるが、炉に埋設された鉢は北陸地方に見受けられる台付状のものであり、古相を示している。EI期は 4 軒が該当するが、出土遺物から判断すると住居の存続時期に若干の時間差が認められる。EⅢ期(18 軒)になると漸く集落の体裁をなす検出状況となってくる。国分僧寺・尼寺中間地域を含めると、40 軒を超える住居跡が環状に分布していることがわかる(Fig.146)。なお、(116)J-1 号住居跡(6)、J-14 号住居跡(4)、(123)J-11 号住居跡(3)は外面に雨垂れ状の突刺文が施文された鉢であるが、接合関係にあることから同時期に住居が存在していたことが判明している。国分僧寺・尼寺中間地域では、埋葬施設として捉えられることが多い屋外埋甕が検出していることも、集落の存続性を示唆しているといえよう。

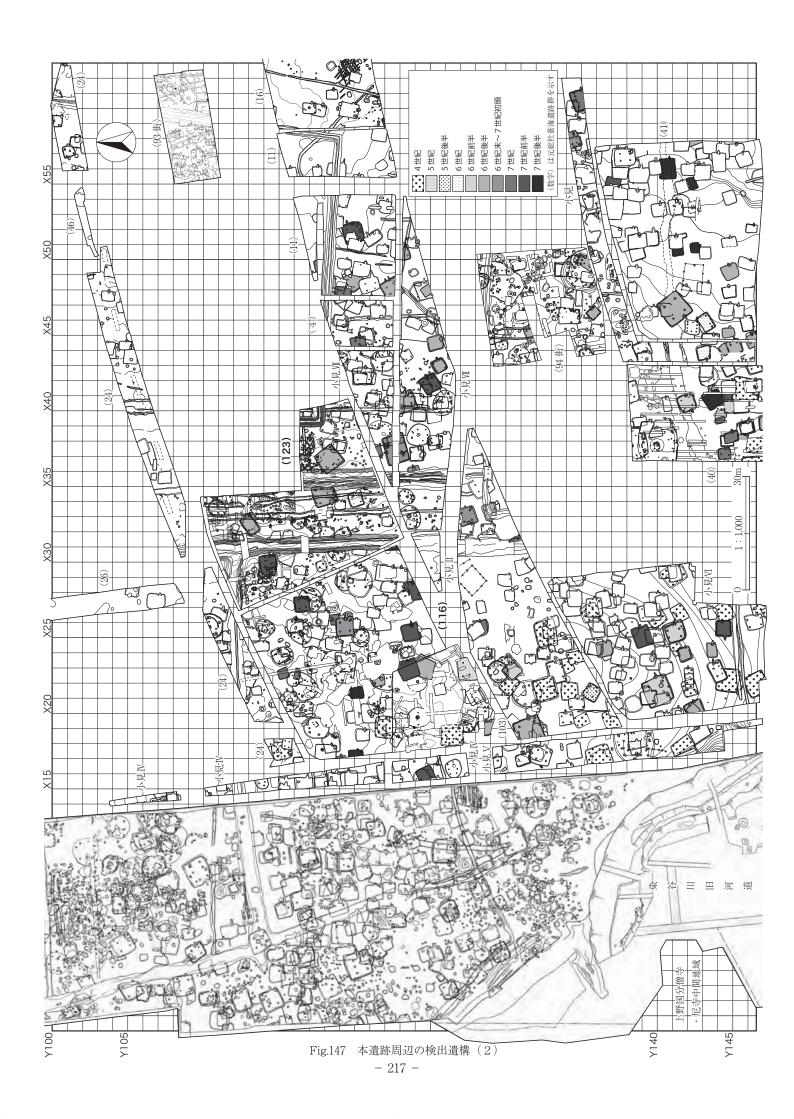
4世紀代の住居跡(30軒)は、染谷川左岸の自然堤防上に限定的に検出し、本遺跡東の後背湿地への集落の広がりは見受けられない。東方の牛池川付近においても右岸微高地上から住居跡が多く検出されていることから、当該期における住居立地の特徴といえよう。(40)H - 1号住居跡出土のS字状口縁台付甕は、外面肩部に横位ハケメ調整を持ち、田口分類ではⅡ類2期にあたる。また、(40)H - 10 出土の東海系小型器台も形態的特長から古相を示す。新相はS字状口縁台付甕の肩部横位ハケメが消失する田口分類Ⅳ類で、本遺跡周辺ではこの古墳時代前期新段階において、自然堤防上への集落展開が本格的となる。5世紀(2軒)の住居跡は本遺跡南側の自然堤防上から検出されているが、絶対数が少ないことから動向は判然としない。6世紀前半(5軒)は前代と同様な分布域を示すが、後半(36軒)になると住居件数は飛躍的に増加し、東側後背湿地への進出が明確に認められる。7世紀前半(13 軒)から後半(7 軒)にかけては、緩やかに住居件数が減少に転じる。その一方で7世紀末から8世紀初頭段階(4 軒)には、本遺跡の南方に位置する(60)B区1号住居跡のような出土遺物の構成が通常の住居跡とは異なり、盤や円面硯を含む多量の須恵器が大半を占め、規模も1辺が10 m近い大型で、ややシンボリックな住居跡が単独で検出するようになる。次段階においても同種の(43)H - 1号住居跡が確認されている。

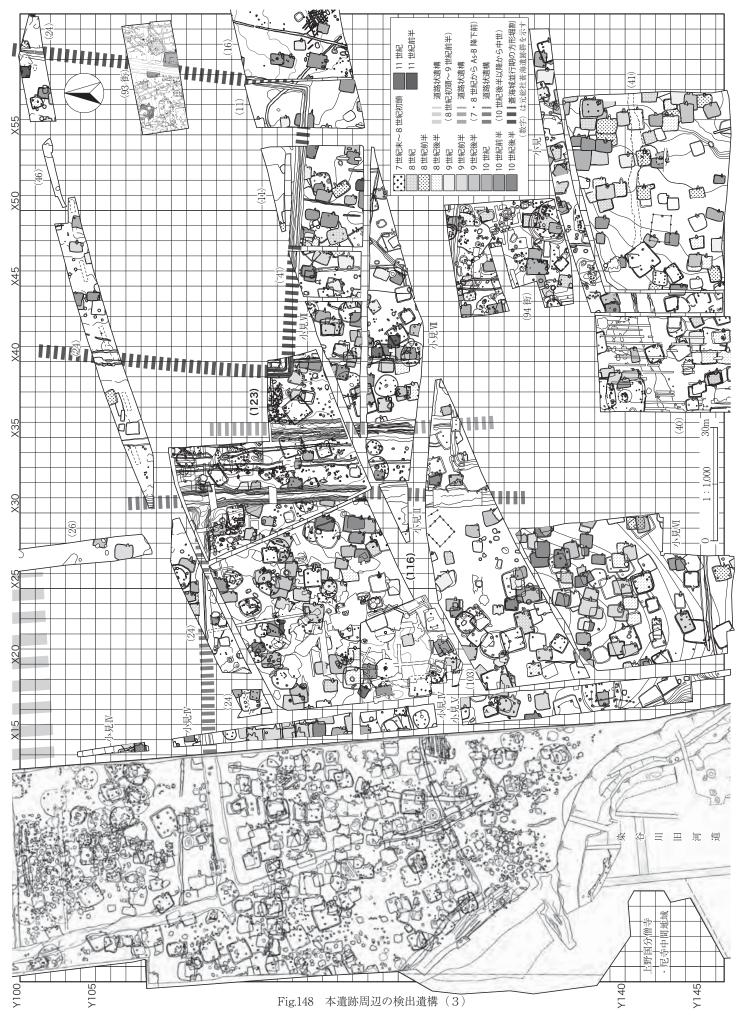
8世紀代(89 軒)は、各種政治的要請によるものか住居跡が再び急激に増加する。国分二寺造営に関わる占地規制のようなものは、少なくとも本遺跡周辺においては認められないようである。むしろ、正方位を指向する条里型地割が施工され、(123)A - 1 道路状遺構のような坪境の構造物を避けながらも、満遍なく集落が広がっていく感さえある。(116)H - 34 号住居跡は8世紀中葉に帰属する遺構であるが、前章でも記載したとおり、同時期の軒平・丸瓦と平・丸瓦がセットで使用され、須恵器高盤や法具である銅製錫杖頭片も出土していることなどから、国分寺造営に関わった人物の居宅である可能性が高い。

9世紀代(167 軒)は当地域において、前半(62 軒)から後半(65 軒)まで、8世紀から継続した集落展開がさらに発展する最盛期であり、当該期内で重複する住居が多いことからも複数世代に亘って連綿と集落が営まれた様子が窺える。

10世紀代(127軒)は、前半(67軒)は9世紀後半と同水準で推移するものの、後半(22軒)になると住居







件数が俄かに減少する。地方軍事貴族層の台頭(武士への萌芽)により起きた、関東全域を巻き込んだ天慶の乱が歴史的要因のひとつとして挙げられる。

9世紀後半から10世紀代にかけての特異な出土遺物として、有鍔台付鉢がある。今回の調査ではH - 21・23・43号住居跡から出土しており、同様に隣接調査地の元総社蒼海遺跡群(103)においても出土例がみられ、報文中で県内資料の集成が図られている。器種名については未だ一定しないものの、用途としては火舎香炉の土製模倣と考えられる。(103)H - 6号住居跡や田端遺跡 B 区 3号住居跡下土坑出土遺物には、2次的な被熱痕が認められることから、鉢内部での火熱の使用が想定されている。県内資料の形態的な違いとしては、鉢底の孔、外面の鍔状突起の有無が挙げられる。鉢底孔の有無については、(116)H - 21号住居跡出土(2・4)があるが、有孔は小破片のため用途の違いについては判然としない。鍔は鉢と台部の境に1段、さらに鉢部中位に加えて2段のものがある。銅製火舎にみられる鍔の模倣的表現であろう。また、周辺遺跡の追加資料としては高崎市(旧群馬町)棟高水窪 II・棟高辻の内IV遺跡 H - 111号住居跡(10世紀前半)覆土遺物(番号1)、高崎市(旧吉井町)吉井町黒熊中西遺跡 1号テラスグリッド遺物がある。

11世紀(6軒)は住居軒数がさらに減少する。長元3年(1030)「上野国交替実録帳」では国分寺内の多くの施設が無実であることが記され、国庁に保管されている重要文書も減失するなど、当地域の政治的訴求力のさらなる低下が考えられる。(123)D - 38 号土坑は墓坑と考えられる遺構で、長軸2.13 m、短軸0.92 m、検出深0.50 mを測り、覆土最上層にはAs-B軽石混土層が確認されている。北壁付近からは酸化焔焼成の皿が2点出土しており、いずれも所謂「かわらけ状の坏」と呼称されるものである。本遺跡の南方、染谷川右岸に位置する鳥羽遺跡SK-332土坑出土遺物(12世紀第1四半期)は、口径8 cm、器高1.5cm以下の斉一性が認められ、底面から15~20cmの間層を挟んでAs-B軽石1次堆積層が確認されている。これに遡る鳥羽25段階(K50号住居跡出土遺物)の皿は、口径8~10cm、器高は2 cm程度に収まる形状となっている。古代末期の皿形土器の変遷は、器高と口径の比率が新しくなるにつれて小型化する傾向があることから、本遺跡における古代最終段階の遺構である(123)D-38号土坑は、11世紀末の遺構と考えられる。

以上のように本遺跡周辺の住居跡の動向は、加曽利EⅢ期に環状に集落が展開することが確認されるものの、一時的なものであり、縄文時代から古墳時代初頭にかけては部分的な展開は見受けられるが、継続的に面としての広がりが認められるようになるのは古墳時代後期の6世紀後半段階となる。8世紀から10世紀前半までは、国分二寺や国府に関連して集落展開は最盛期を迎えるが、10世紀後半には政治的体制の綻びからか住居件数は大幅に減少する。この綻びこそが、武士の台頭や次代の蒼海城築城に繋がると考えられる。元総社蒼海遺跡群は律令期における上野国の中枢部ともあって、集落の趨勢は当時の社会情勢を如実に反映しているといえよう。

2 道と溝、方形堀割について

7世紀中葉から始まる官衙的施設の造営や国府造営に伴う区画、8世紀代に国分二寺を取り込む形で成立した 条里型地割、中世から江戸時代初頭まで城主を代えながら継続する蒼海城の堀割など、広範囲に亘る大規模な土 地改変を伴う土地利用が複数回あり、さらに縄文時代から連綿と営まれる集落跡が重層的に絡み合う状況が、こ の地域の全体像を暈けさせている。ここでは(123)で検出した道・溝・堀割を中心として、周辺域での検出事 例を含めて若干の検討を行いたい。

(123) A − 1 号道路跡は北側のW − 10 と同一遺構であり、南北方向を指向する。隣接地では、北側は(24) W − 8 号溝、南側は近い順に小見Ⅲ遺跡W − 1、小見Ⅱ遺跡W − 4、(2)9トレンチW − 3、(20)5 区 A − 1、小見1 区W − 4、(13)5 区W − 3 が同一遺構となる。南にいくにつれてやや西偏するのは、蛇行しながら接近する染谷川の影響と思われる。この南北方向の道路跡は、牛池川に近い元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳで検出した南北方向の区画溝から西へ12 町、寺田遺跡第 2 調査区の大溝から11 町の地点に位置し、途中蒼海城の堀割によっ

て不鮮明になるものの、西側の本遺跡付近まで同一の条里型地割による施工と考えられる。この地割は染谷川右 岸にまで及んでおり(Fig. 6)、各遺跡の重複関係・出土遺物から判断すると、8世紀には開削されていること から、国分二寺の造営にも影響を与えていると想定される。7世紀中葉から8世紀代の土地利用については、上 記で示した正方位を指向する地割の前に、西偏する古段階の地割がある。東西方向の区画は西から(60) C 区 W - 1、国府 47Tr W - 2 · 3、(95) W - 2 · 3、が該当する。遺構の重複と出土遺物から判断すると、7世紀 後半以降の開削で8世紀前半には部分的に住居が造られることにより埋没していたことが窺え、10世紀代には 全面的に廃絶している。また、約一町北側の東西区画として、(58) W-1が挙げられる。直交する南北ライン は南から (93) W-1、国府 40Tr W-1、 (21) 27 地点W-1、 (23) 24 地点W-4、国府 29Tr W-2、国 府 6 Tr W - 2 、 (14) 5 トレンチW - 32、 (30) A - 1 、 (17 街区) R - 1 が該当する。重複関係と出土遺物 から、7世紀後半以降の開削で、As-B 軽石降下段階には廃絶している。また、8世紀前半の土師器坏が開削時 の造成面から出土している。なお、この道路状遺構の南方向延長上は、東山道駅路国府ルートとの交差が推定さ れ、所謂「日高道」へと接続する。牛池川を渡河した北側は、地割から山王廃寺西縁へと繋がると想定されてい る。さらにこの 10° 前後西偏する区画以前に、 30° 近く西偏する地割が想定される。($9\cdot 10$) B -1 掘立柱建物 跡は桁行10間、梁行3間で28°西偏し、柱穴から7世紀中頃の土師器坏が出土しており、南側に隣接する(7) W-3も同角度で東西方向に走向する。やや離れるが、北側の山王廃寺下層建物群(群馬郡郡家)においても、 33°西傾する建物群が検出されており、瓦の時期(Ia期)から7世紀中葉とされている。しかしながら、建物 方位は同一でも、総柱建物 SB 3と SB 5、SB 2と SB 4で重複による新旧関係が認められることから、強西偏 地割の内でも複数段階に分かれる可能性が指摘されている。

(123) W-1号溝は調査区西側を南北に走向し、北側が(24)31 区W-2、南側は近い順に(116)W-1、小見 IW-2、(2)9トレンチW-1、小見 IW-7、(13)3 区W-1が同一遺構となる。調査区北側でW-1の西方向に直交するW-2は、東から(24)31 区W-1、小見 IW-1、国分僧寺・尼寺中間地域 A区 1号溝が同一遺構となり、この両遺構は断面・平面において新旧の区分ができないことから、同時期と考えられている。いずれも中位から上層にかけて As-B 軽石 2 次堆積層を含む硬化面が複数確認できるのが特徴で、長期に亘って道として機能していたと考えられる。中間地域 A区 1号溝の北側は、中間地域 B・C 区から検出された 14世紀後半から 15 世紀前半の長尾氏との関連が指摘されている小見廃寺(方形区画の堀・土塁、内部には版築状の基壇を伴う瓦葺建物跡)の西縁を巡る。重複関係からは 10 世紀後半以降の開削が想定され、中間地域 A区 1号溝からは 17 世紀以降の近世陶器・陶磁器の出土が確認されており、さらに南北方向の溝と直交する(123)W-2までは米軍写真にその痕跡を留めていることから、地点によっては昭和 35 年の耕地基盤整備以前までは道として継承されていたといえる。

(123) W-3号溝は中世の区画溝で、同一遺構としては、(4) W-1号溝、(11) W-1号溝、(16) W-3号溝、(24) W-3・7号溝、(93街区) W-1号溝がある。いずれもV字に近い薬研状の断面を呈し、平面区画としては方形となる。蒼海城の築城年代は明らかではないが、長元元年(1028) には館としての存在が窺え(総社記)、応安元年(1368) には長尾忠房が御霊社を勧請していることから、これ以前に長尾氏が入府していたと判断できる(修史館本惣社長尾系図)。享徳の乱以降、蒼海城は防御性を高めるために、堀に囲まれた複数の館(居宅)を連接構造として城に取り込んで城郭化を図ったと考えられるが、今回検出した方形区画の堀は、染谷川と牛池川に挟まれた範囲のなかで、城域が最大限に膨張した段階での外周域に近い遺構と想定される。

3 錫杖頭片について

(116) H-34号住居跡の床面直上より、錫杖頭と考えられる銅片が出土した。この住居跡は、共伴遺物から

判断すると8世紀中葉に帰属することから、上野国分寺創建期並行期と考えられる遺構といえる。県内では、榛名神社遺跡から鉄製錫杖頭、金井廃寺から銅製錫杖頭が確認されているが、いずれも表採資料であることから時期は判然としない。関連遺物では前橋市(旧粕川町)友成遺跡から、10世紀代の住居より錫杖頭鋳型が出土している。鋳型は溶湯が回って還元している部分があり、共伴遺物として須恵器転用取瓶があることから、住居内で鋳造が行われたことが判明している。近県では栃木県の男体山山頂遺跡から、錫杖頭を含む多数の仏具、法具が出土している。この男体山を開いたとされる勝道上人は、唯一の同時代資料とされる空海撰文の「遍照発揮精霊集」によると、延暦年中(782~805)に上野国講師として、上野国分寺に止住していたとされる。同時期の創建期 II 軒丸・軒平瓦がセットで出土している H - 34 号住居跡の床面直上から、銅製錫杖頭と考えられる銅製品片が出土することは、この住居跡と上野国分寺の結びつきを否応なしに想起させる。

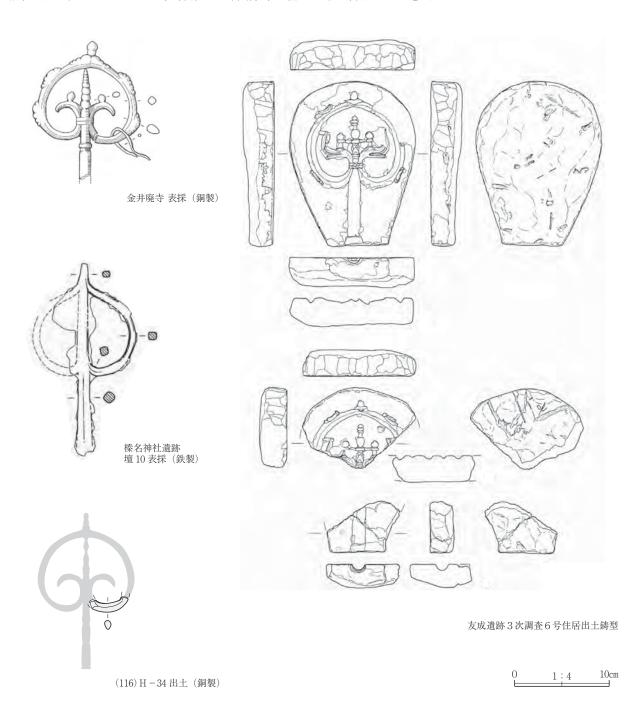


Fig.149 県内出土の錫杖頭関係資料

4 郷名瓦について

(116) I - 1 号井戸跡から出土した「(那)波郡朝倉」郷名平瓦は、出土状況から井戸口の瓦積みに用いたのが崩落したと推察されるもので、凹面の布目および凸面の叩き具痕は縦方向のナデにより丁寧に消されている。 寺院から持ち出した瓦と考える場合、共伴遺物の同時期性は疑われるが、上野国分寺修造期の軒丸瓦A 103、二重囲い「方」陰刻の押印がある平瓦、佐位郡雀部郷を示し上植木廃寺でも出土事例がある、山際窯で作成された凸面の叩き下端部に左字「雀」の平瓦が出土している。この井戸の瓦積みに用いられた瓦は、上記3例と同種の出土事例がある上野国分寺のものとみて問題無いと思われる。

I-1号井戸跡の時期は、住居跡との重複関係から 10 世紀前半以降と考えられる。やや新しい時期ではあるが、「長元三年(1030)上野国不与解由状案(所謂、上野国交替実録帳)」によれば、当時の上野国分寺は金堂と講堂は存在し、長保 3 年(1001)には当時の国司であった平重義によって、丈六十一面観音像が新たに金堂に安置されているものの、僧坊と寺域を画する築垣、各大門が全壊(無実)するなど荒廃した様子が記載されている。このような状況のなかで瓦が井戸に転用されたのであろう。 I-1 号井戸からほぼ真東へ約 250 mには、同じく瓦積み井戸の(18) I-4 号井戸がある。遺構との重複関係が無いために明確な時期は不明ながら、出土瓦から判断すると、少なくとも修造期(軒丸瓦M 002)以降となる。さらに東へ約 209 mの地点には、(12) I-6 号井戸跡がある。重複する 9 世紀中葉の住居跡より新しく、同じく瓦の出土が多く認められる。井戸の掘削には地形や地下水脈の関係が優先されるのは勿論であるが、このように瓦積井戸が一定に近い間隔を以って、直線的に並ぶのは非常に興味深い。

上野国分寺の発掘調査によって出土した墨書瓦は、南大門から平瓦の凸面に「凡国足」、「里麻呂」、「□(馬ヵ)野」と記したものが各1点、講堂(旧金堂)から判読不明のものが1点、計4点出土しているが、いずれも姓名を記したものである。住谷コレクション内の資料では、凸面に「山田」押印とともに「勢多」と墨書された平瓦が1点確認されている。瓦に記された郡や郷名の文字や印については、瓦製作の現場において関与した証や、知識物を献納した地域・人物を明示するためであるなど諸説あるが、那波郡に関連する押印やヘラ書きの文字瓦はこれまで確認されていない。墨書においては、焼成後も葺くまでの間記すことが可能であることから、献納を含めて慎重に判断する必要がある。

5 おわりに

今回の元総社蒼海遺跡群 (116) (123) の調査では、染谷川左岸自然堤防上の集落分布の一端を明らかにすることができたと思う。また、平安・中世・中世から近世と各時期の区画となる道や堀を検出したことで、元総社地区の土地利用の在り方について少なからず検討することができた。特に7世紀中葉から8世紀にかけては、当地域を舞台として、上野国全体に関わる契機となる政治的事象が多い期間といえる。元総社蒼海地区の発掘調査事例も蓄積されていることから、考古学的な調査成果をどのように結び付けていくかが今後の課題となるであろう。

註

- (1) 今回、集落の変遷を検討した範囲は、検出事例の少ない縄文時代中期から古墳時代初頭にの住居跡も対象としたため、本遺跡を含めた染谷川左岸の自然堤 防を西限として、図上に納まる範囲内とした。よって東側の牛池川左岸を含む元総社蒼海遺跡群全域の動向を反映している訳ではないことを予め断ってお きたい。
- (2) 同一ライン上の元総社養海遺跡群(47) において検出されなかったのは、中世の養海城の堀割開削によるものと考えられる。
- (3) 規格性の強い直線道路と捉えた場合、部分的にでも重複する住居跡が新たに造られた時点で、道路または地割に対する規制は弛緩しているといえる。8世 紀前半の住居跡が重複していることが、正方位地割転換への萌芽を示しているのかもしれない。
- (4) 近藤 1981

- (5) 須田 2013
- (6) 報告書掲載遺物のうち1点(遺物番号 131)は、上野国分寺では未見の軒丸瓦であるが、上野国分僧寺・尼寺中間地域において時期不明ながら出土している(瓦.768)。
- (7) 墨書瓦の資料調査については、主に川原秀夫 2005・2007・2008・2009、群馬県教育委員会 1988・2018、かみつけの里博物館 2013 を参照した。ヘラ書きおよび押印によるものは多数あるが、墨書は記載した「勢多」を除いて確認できなかった。ただし、周辺には元総社蒼海遺跡群をはじめとする 100 地点以上の調査事例があることから、遺漏も考えられる。御教示願いたい。

参考文献

論文等

大和久震平 1991 「古式錫杖の形状」『紀要』 1号 帝京短期大学 川原嘉久治 1991 「延喜式内社上野国榛名神社遺跡をめぐって・巌殿寺の放地を求めて・」『研究紀要』8 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 川原秀夫 2005 「上野国文字瓦集成(上)」『明和学園短期大学紀要』16 川原秀夫 2007 「上野国文字瓦集成(中)」『明和学園短期大学紀要』17 川原秀夫 2008 「上野国文字瓦集成(下-1)」『明和学園短期大学紀要』18 川原秀夫 2009 「上野国文字瓦集成(下-2)」『明和学園短期大学紀要』19 木津博明 1999 「国府に地割はあったか 上野国」『幻の国府を掘る - 東国の歩みから - 』雄山閣 近藤義雄 1981 「上野国府をめぐる古代交通路」『信濃』第33巻2号 信濃史学会 須田 勉 2013 「国分寺造営の諸段階 - 考古学から - 」『国分寺の創建 組織技術論』吉川弘文館 須田 勉 2013 「上野国群馬群郡家(山王廃寺の下層建物群)」『古代東国の考古学1 東国の古代官衙』高志書院 高井佳弘 1999 「上野国分寺跡出土の郡郷名押印瓦について」『古代』107 早稲田大学考古学会 高井佳弘 2013 「瓦からみた上野国分寺 | 『上野国分寺 瓦にこめられた祈り・住谷コレクションを中心とした古代瓦・」かみつけの里博物館 高島英之 2013 「上野国分寺 出土瓦の文字」『上野国分寺 瓦にこめられた祈り・住谷コレクションを中心とした古代瓦・』かみつけの里博物館 田口一郎 2000 「北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着」『S字甕を考える』 東海考古学フォーラム 中村岳彦 2018 「"推定上野国府"周辺の古代景観 - 元総社養海潰跡群の溝と道 - 」『群馬文化』332 号 群馬県地域文化研究協議会 能登 健・梅澤克典 2004 「友成遺跡の錫杖頭鋳型について」『群馬県立歴史博物館紀要』第25号

発掘調査報告書

群馬県吾妻郡吾妻町教育委員会 1979 「金井廃寺遺跡 - 町道4 - 83 号線に伴う発掘調査 - 」

群馬県教育委員会 1988 「史跡上野国分寺跡発掘調査報告書」

考古学から古代を考える会 2000 「古代仏教系遺物集成・関東」

群馬県教育委員会 2018 「史跡上野国分寺跡第2期発掘調査報告書-総括編-」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 $1986 \sim 1993$ 「上野国分僧寺・尼寺中間地域 $(1) \sim (8)$ 」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 「鳥羽遺跡 I·J·K区」

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 「黒熊中西遺跡(1)」

高崎市教育委員会 2008 「棟高遺跡群 棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡」

日光二荒山神社 1963 「日光男体山 山頂遺跡発掘調査報告書」角川書店

前橋市教育委員会 2012 「山王廃寺~平成22年度調査報告~」

前橋市教育委員会 2013 「元総社蒼海遺跡群 (40) 」

前橋市教育委員会 2013 「元総社蒼海遺跡群 (41) 」

前橋市教育委員会 2013 「元総社蒼海遺跡群 (46) 」

前橋市教育委員会 2013 「推定上野国府 - 平成 23 年度調査報告 - 」

前橋市教育委員会 2013 「推定上野国府 - 平成 24 年度調査報告 - 」

前橋市教育委員会 2014 「元総社蒼海遺跡群 (60) 」

前橋市教育委員会 2015 「推定上野国府 - 平成 25 年度調査報告 - 」

前橋市教育委員会 2016 「推定上野国府 - 平成 26 年度調査報告 - |

前橋市教育委員会 2016 「元総社蒼海遺跡群 (103) 」

前橋市教育委員会 2016 「元総社蒼海遺跡群(93 街区)」

前橋市教育委員会 2017 「推定上野国府 - 平成 27 年度調査報告 - 」

前橋市教育委員会 2018 「推定上野国府 - 平成 28 年度調査報告 - 」

前橋市教育委員会 2018 「元総社蒼海遺跡群(94 街区)」

前橋市埋蔵文化財発掘調査団	1986	「元総社明神遺跡Ⅲ. Ⅳ」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	1986	「寺田遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2000	「元総社小見遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2002	「元総社小見Ⅱ遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2003	「元総社小見Ⅳ遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2005	「元総社小見V遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2005	「元総社小見VI遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2005	「元総社小見Ⅷ遺跡」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2006	「元総社蒼海遺跡群(4)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007	「元総社蒼海遺跡群(11)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2007	「元総社蒼海遺跡群(12)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2008	「元総社蒼海遺跡群(16)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2008	「元総社蒼海遺跡群(18)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2009	「元総社蒼海遺跡群(24)」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010	「元総社蒼海遺跡群(26)」



PL.1



遺跡の位置(2011年撮影 上が北)



(116) 調査区遠景 (東から)

PL.2 元総社蒼海遺跡群 (116)



(116) 縄文面調査状況(南から パノラマ合成)



(116) 縄文面調査状況(北から パノラマ合成)



(116) J-1号住居跡全景 (東から)



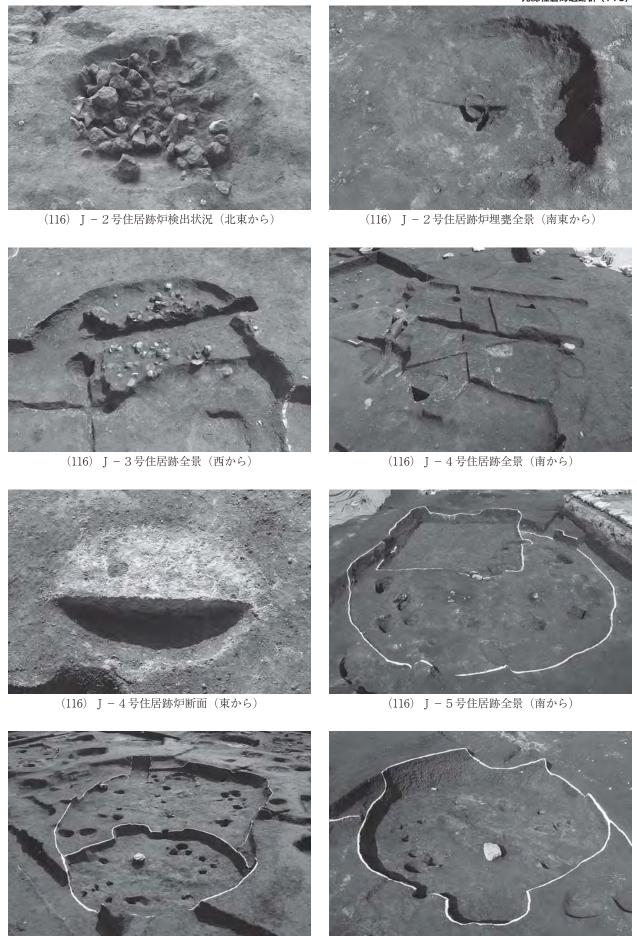
(116) J-1号住居跡炉A全景(南から)



(116) J-1号住居跡遺物出土状況(南から)



(116) J-2号住居跡全景(北東から)



(116) J-6B号住居跡全景(南から)

(116) J-6A・6B号住居跡全景(北東から)

PL.4

元総社蒼海遺跡群 (116)



(116) J-7号住居跡全景(南西から)



(116) J-7号住居跡遺物出土状況(北西から)



(116) J-7号住居跡遺物出土状況(北から)



(116) J-7号住居跡炉埋甕全景(南西から)



(116) J-7号住居跡埋甕断面C-С'(南西から)



(116) J-7号住居跡埋甕断面D-D'(南東から)



(116) J-8号住居跡全景(南西から)



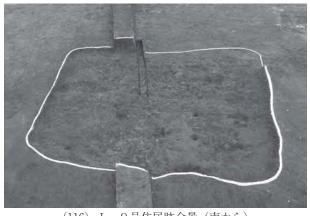
(116) J-8号住居跡遺物出土状況(南西から)



(116) J-8号住居跡遺物出土状況(北東から)



(116) J-8号住居跡炉全景(南東から)



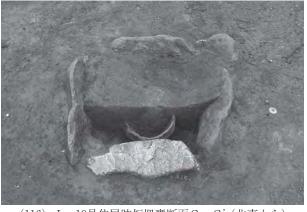
(116) J-9号住居跡全景(南から)



(116) J-10号住居跡全景(北東から)



(116) J-10号住居跡断面B-B'(北から)



(116) J-10号住居跡炉埋甕断面 C-C'(北東から)



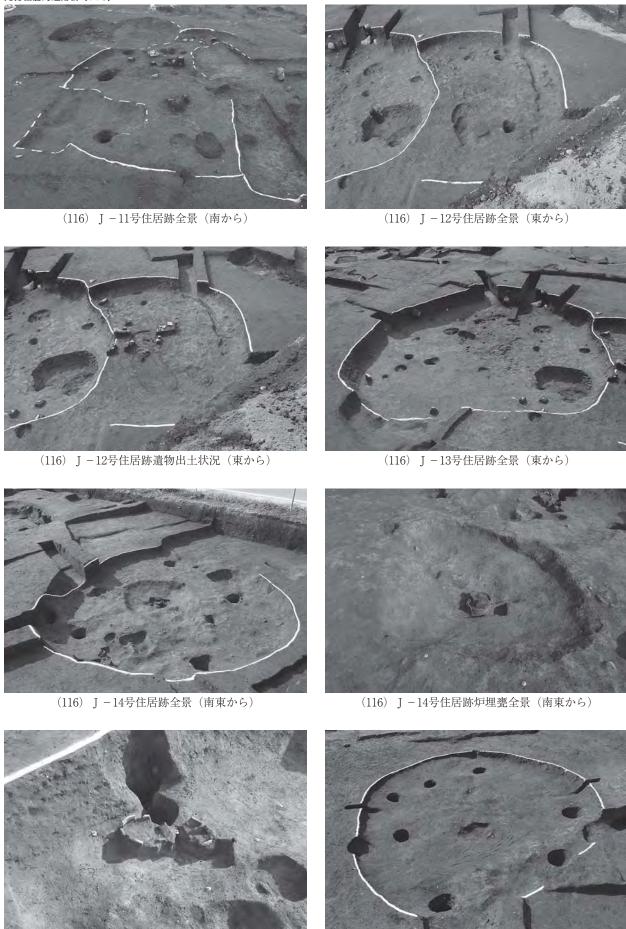
(116) J-10号住居跡炉埋甕全景(北東から)



(116) J-11号住居跡全景(東から)

PL.6

元総社蒼海遺跡群(116)



(116) J-15号住居跡全景(北から)

(116) J-14号住居跡埋甕全景(北から)

PL.7



(116) J-16号住居跡全景(南西から)



(116) J-16号住居跡全景(北東から)



(116) J-16号住居跡炉埋甕断面D-D'(北東から)



(116) J-16号住居跡炉埋甕全景(西から)



(116) 古代面調査区全景(上が北西)

PL.8

元総社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-1号住居跡全景(西から)



(116) H-1号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-2号住居跡全景(西から)



(116) H-2号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-3号住居跡全景(北西から)



(116) H-3号住居跡カマド全景(北西から)



(116) H-4号住居跡全景(西から)



(116) H-4号住居跡カマド全景(西から)





(116) H-5号住居跡断面A-A'(南から)



(116) H-6号住居跡全景(北から)



(116) H-6号住居跡カマド全景(北から)



(116) H-6号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-6号住居跡貯蔵穴全景(南から)



(116) H-7号住居跡全景(西から)



(116) H-7号住居跡カマド全景(西から)

PL.10



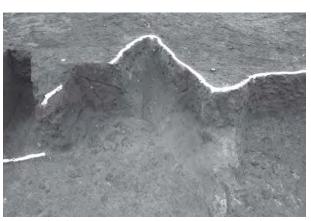
(116) H-8号住居跡全景(西から)



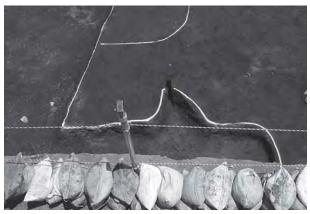
(116) H-8号住居跡カマド全景(西から)



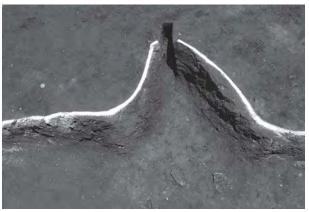
(116) H-9号住居跡全景(西から)



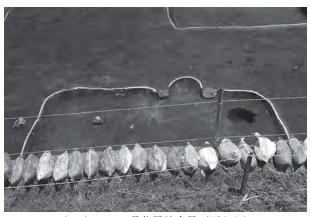
(116) H-9号住居跡カマド全景(西から)



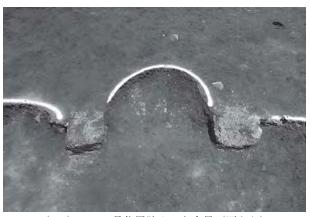
(116) H-10号住居跡全景(西から)



(116) H-10号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-11号住居跡全景(西から)



(116) H-11号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-12号住居跡全景(西から)



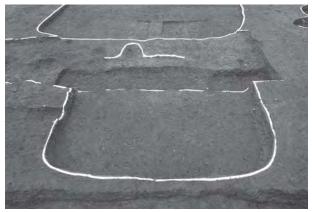
(116) H-12号住居跡カマド全景(西から)



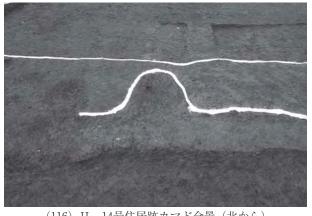
(116) H-13号住居跡全景(西から)



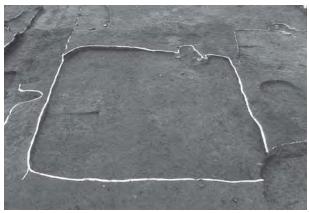
(116) H-13号住居跡カマド全景(西から)



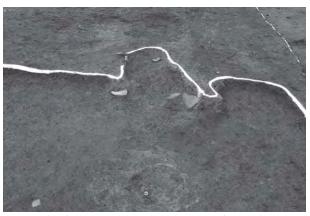
(116) H-14号住居跡全景(北から)



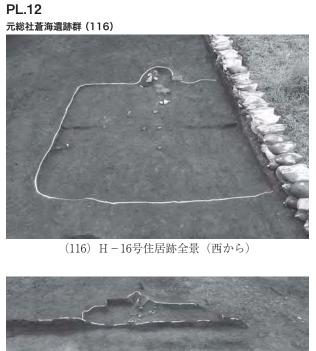
(116) H-14号住居跡カマド全景(北から)



(116) H-15号住居跡全景(西から)

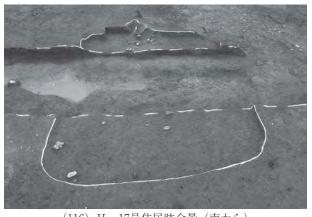


(116) H-15号住居跡カマド全景(西から)





(116) H-16号住居跡カマド全景(西から)



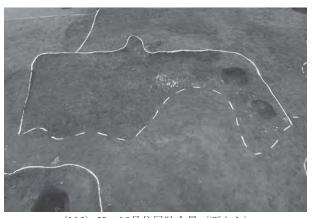
(116) H-17号住居跡全景(南から)



(116) H-17号住居跡カマド全景(南から)



(116) H-18・19号住居跡全景(西から)



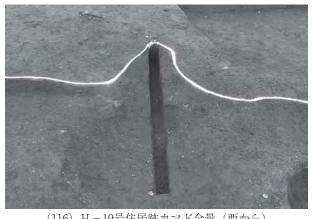
(116) H-18号住居跡全景(西から)



(116) H-18号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-19号住居跡全景(西から)



(116) H-19号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-20号住居跡全景(北西から)



(116) H-20号住居跡カマド全景(北西から)



(116) H-21号住居跡全景(西から)



(116) H-21号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-21号住居跡遺物出土状況(南東から)



(116) H-22号住居跡全景(西から)



(116) H-22号住居跡カマド全景(西から)

PL.14



(116) H-23号住居跡全景(西から)



(116) H-23号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-24号住居跡全景(西から)



(116) H-24号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-25号住居跡全景(西から)



(116) H-25号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-26号住居跡全景(西から)



(116) H-26号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-26・27号住居跡全景(西から)



(116) H-28・29号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-28号住居跡全景(西から)



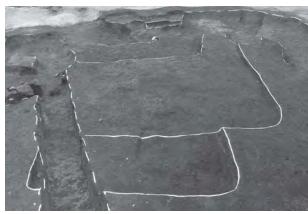
(116) H-28号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-29号住居跡全景(西から)



(116) H-29号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-30・31・32号住居跡全景(北から)



(116) H-30·31·32号住居跡全景(西から)

PL.16



(116) H-33号住居跡全景(北から)



(116) H-34号住居跡全景(南西から)



(116) H-34号住居跡カマド全景(南西から)



(116) H-34号住居跡貯蔵穴全景(南から)



(116) H-34号住居跡遺物出土状況(北東から)



(116) H-34号住居跡銅製品出土状況(南東から)



(116) H-34号住居跡断面C-C'(南西から)



(116) H-34号住居跡断面B-B'(南から)



(116) H-34号住居跡断面A-A'(南東から)



(116) H-35号住居跡全景(西から)



(116) H-35号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-36号住居跡全景(西から)



(116) H-36号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-37号住居跡全景(北から)



(116) H-38号住居跡全景(西から)



(116) H-38号住居跡カマド全景(西から)

PL.18



(116) H-39号住居跡全景(西から)



(116) H-40号住居跡全景(南西から)



(116) H-40号住居跡カマド全景(南西から)



(116) H-41号住居跡全景(西から)



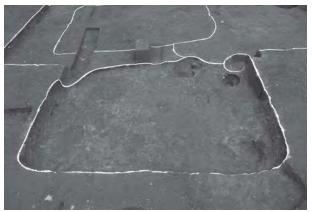
(116) H-41号住居跡カマド全景(西から)



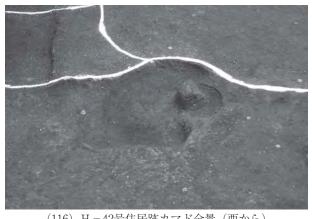
(116) H-42・43・44・45号住居跡全景(西から)



(116) H-42・43・44・45号住居跡全景(北から)



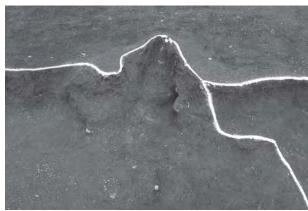
(116) H-42号住居跡全景(西から)



(116) H-42号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-43号住居跡全景(西から)



(116) H-43号住居跡カマド全景(西から)



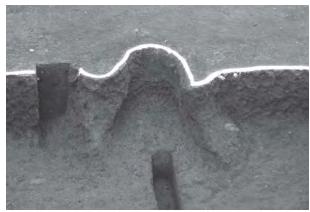
(116) H-45号住居跡全景(西から)



(116) H-45号住居跡カマド全景(西から)



(116) H-47号住居跡全景(南西から)

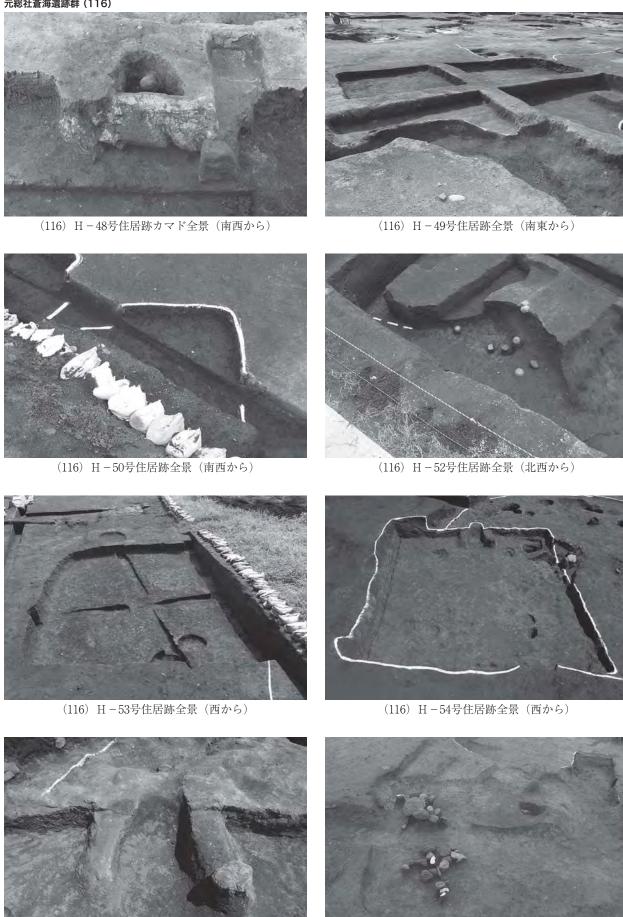


(116) H-47号住居跡カマド全景(南西から)



(116) H-48号住居跡全景(南西から)

PL.20 元総社蒼海遺跡群 (116)



(116) H-54号住居跡カマド全景(西から)

(116) H-55号住居跡全景(南西から)





(116) H-56号住居跡カマド全景(北西から)



(116) H-56・J-15号住居跡検出状況(北から)



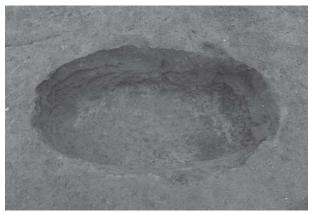
(116) H-57号住居跡全景(西から)



(116) W-1号溝全景(北から)



(116) D-1・13号土坑全景 (東から)

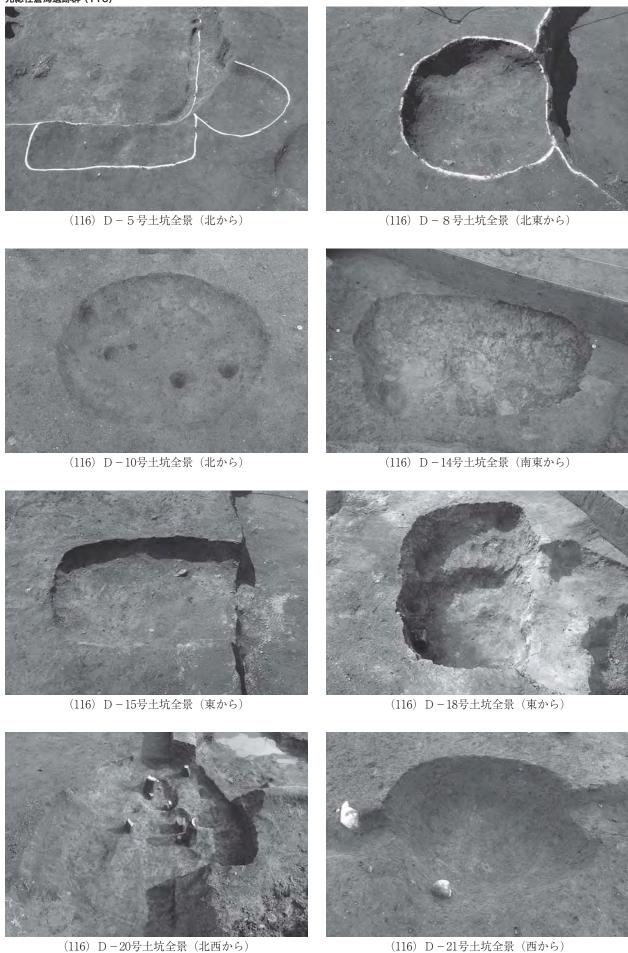


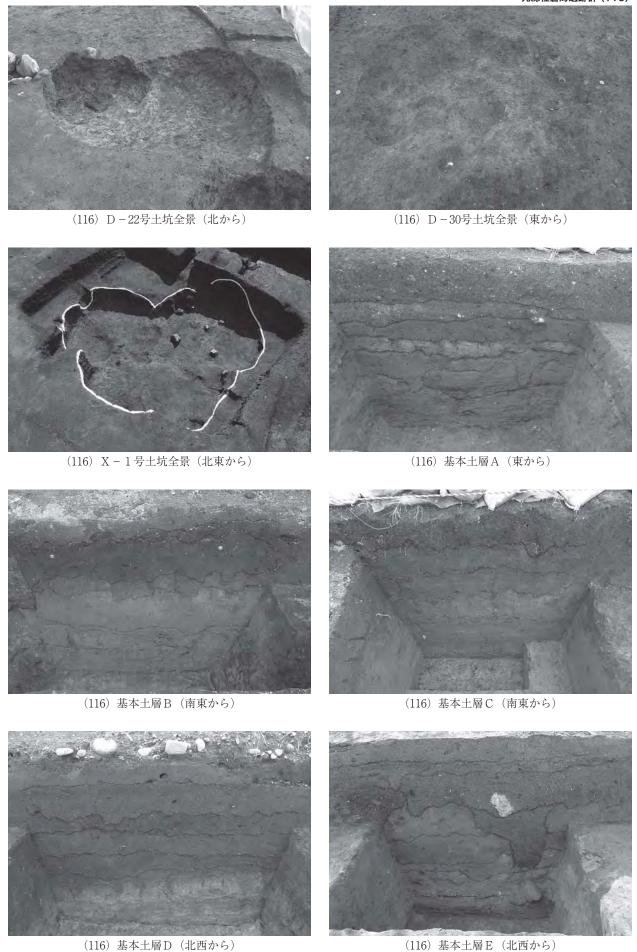
(116) D-3号土坑全景(南東から)



(116) D-3号土坑 As-B軽石堆積状況 (南東から)

PL.22 元総社蒼海遺跡群 (116)



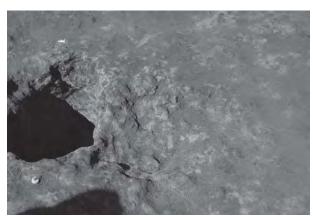




(123) 調査区遠景 (南東から榛名山を望む)



(123) J-1号住居跡全景(東から)



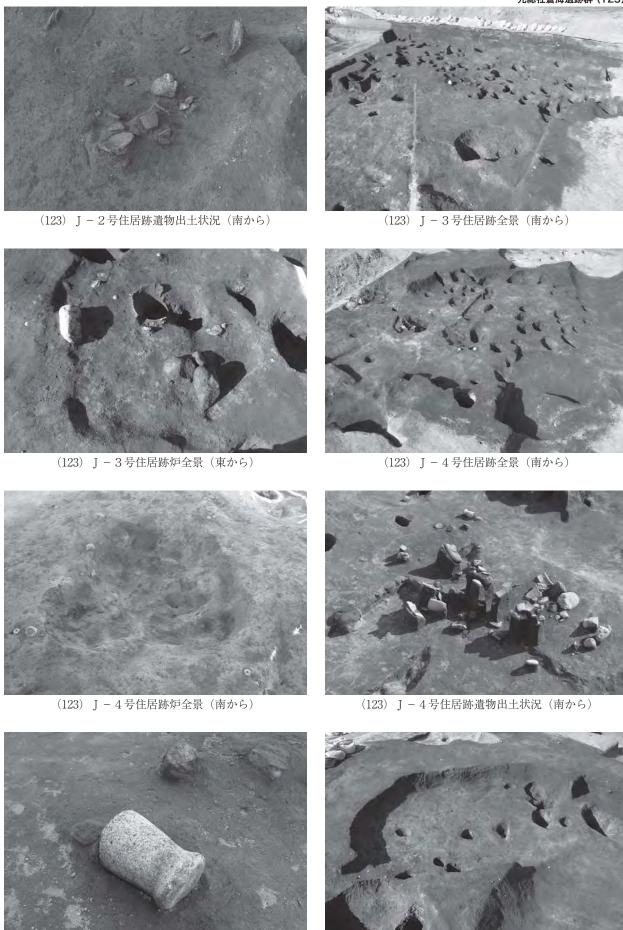
(123) J-1号住居跡炉全景(南から)



(123) J-1号住居跡遺物出土状況 (東から)



(123) J-2号住居跡全景(南から)



(123) J-4号住居跡遺物出土状況(南から)

(123) J-6号住居跡全景(南から)

PL.26



(123) J-7号住居跡全景(南から)



(123) J-8号住居跡全景(南から)



(123) J-9号住居跡全景(西から)



(123) J-9号住居跡炉全景(南から)



(123) J-9号住居跡埋甕出土状況(西から)



(123) J-9号住居跡埋甕半裁状況 (西から)



(123) J-10号住居跡全景(南から)



(123) J-11号住居跡全景(南から)



(123) J-11号住居跡炉全景(南から)



(123) J-11号住居跡炉掘り方全景(南から)



(123) 古代面調査区全景(上が北西)



(123) H-1号住居跡全景(西から)



(123) H-1号住居跡カマド全景(西から)

PL.28



(123) H-1号住居跡貯蔵穴全景(西から)



(123) H-2号住居跡全景(西から)



(123) H-3号住居跡全景(西から)



(123) H-3号住居跡全景(西から)



(123) H-4号住居跡全景 (西から)



(123) H-4号住居跡全景(西から)



(123) H-4号住居跡遺物出土状況(西から)



(123) H-4号住居跡貯蔵穴全景(西から)



(123) H-5号住居跡全景(西から)



(123) H-6号住居跡全景(南から)



(123) H-6号住居跡カマド全景(南から)



(123) H-7号住居跡全景(西から)



(123) H-7号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-8号住居跡全景(西から)



(123) H-8号住居跡遺物出土状況 (西から)



(123) H-9号住居跡全景(西から)

PL.30



(123) H-9号住居跡カマド全景 (西から)



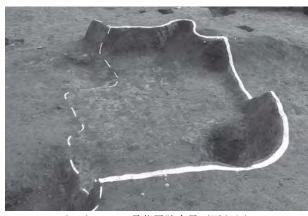
(123) H-9号住居跡遺物出土状況(西から)



(123) H-10号住居跡全景(西から)



(123) H-10号住居跡カマド全景(西から)



(123) H-11号住居跡全景(西から)



(123) H-11号住居跡カマド全景(西から)



(123) H-12号住居跡全景(東から)

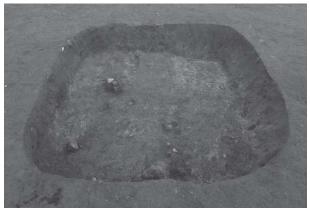


(123) H-12号住居跡カマド1全景 (東から)

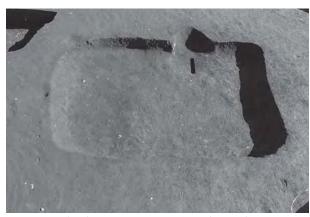




(123) H-14号住居跡全景(西から)



(123) H-15号住居跡全景(南から)



(123) H-16号住居跡全景(西から)



(123) H-16号住居跡カマド全景(西から)



(123) H-17号住居跡全景(北から)



(123) H-17号住居跡カマド全景 (西から)



(123) H-18号住居跡全景(西から)

PL.32 元総社蒼海遺跡群 (123)



(123) H-19号住居跡全景(西から)



(123) H-19号住居跡カマド全景(西から)



(123) H-19号住居跡カマド遺物出土状況(西から)



(123) H-20号住居跡全景(南から)



(123) H-20号住居跡カマド全景(南から)



(123) H-21号住居跡全景(西から)



(123) H-22·30号住居跡全景(西から)



(123) H-22号住居跡カマド全景(西から)





(123) H-23号住居跡全景(西から)



(123) H-24号住居跡全景(東から)



(123) H-25号住居跡全景(西から)



(123) H-26号住居跡全景(西から)



(123) H-27号住居跡全景(西から)



(123) H-27号住居跡カマド全景(西から)



(123) H-28号住居跡全景(西から)

PL.34



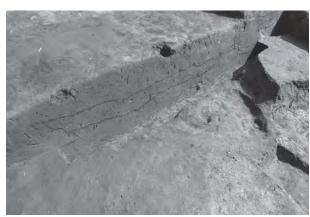
(123) H-28号住居跡カマド全景 (西から)



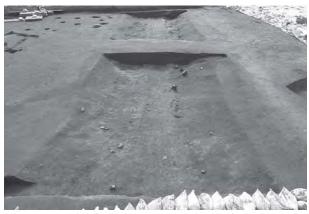
(123) H-29号住居跡全景(北から)



(123) H-31号住居跡全景(西から)



(123) H-32号住居跡全景(北から)



(123) A-1号道全景(北から)



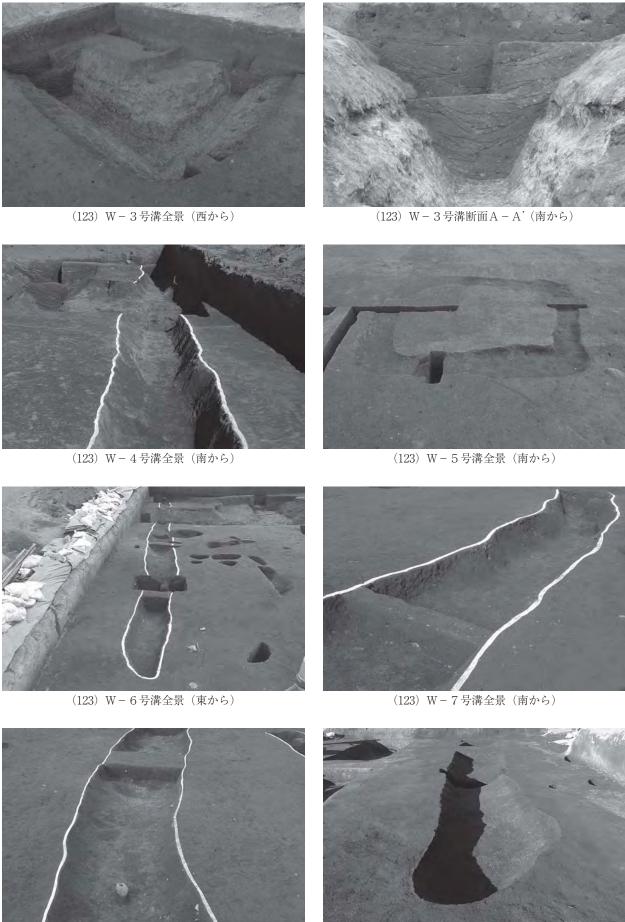
(123) W-1号溝全景(北から)



(123) W-1号溝全景(南から)



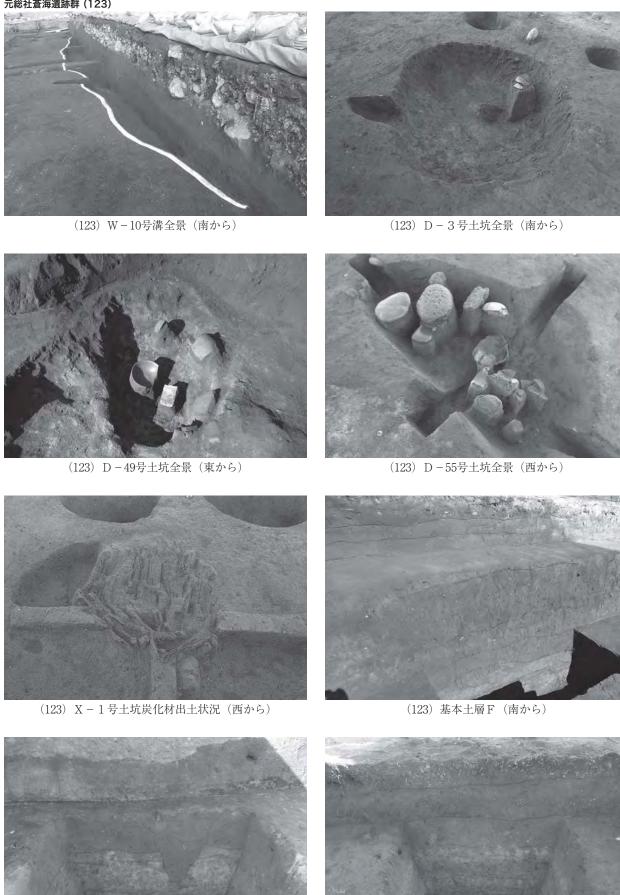
(123) W-2号溝全景 (東から)



(123) W-9号溝全景(南から)

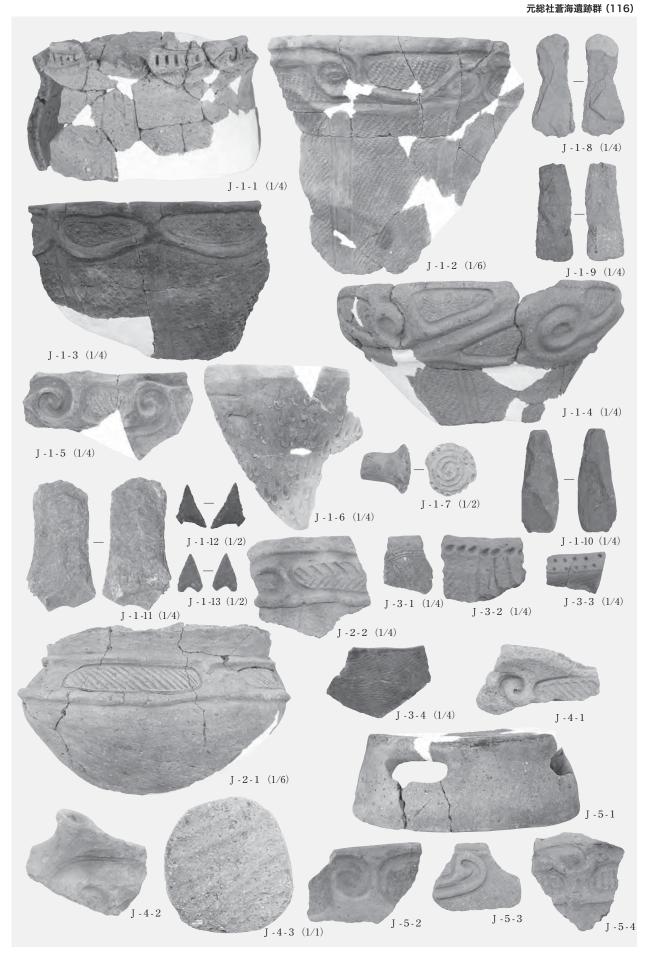
(123) W-8号溝全景(南から)

PL.36

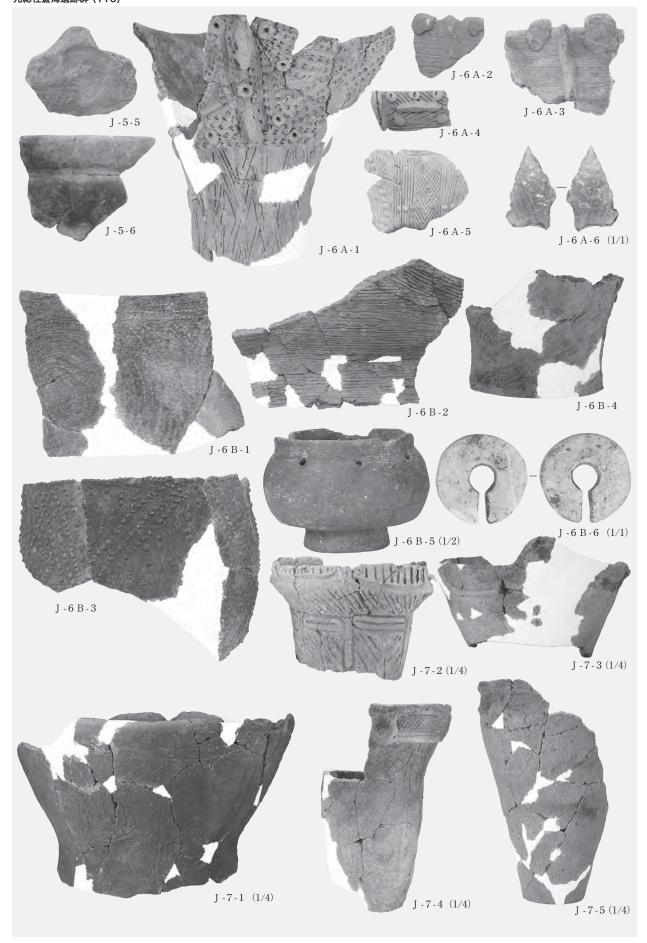


(123) 基本土層G (東から)

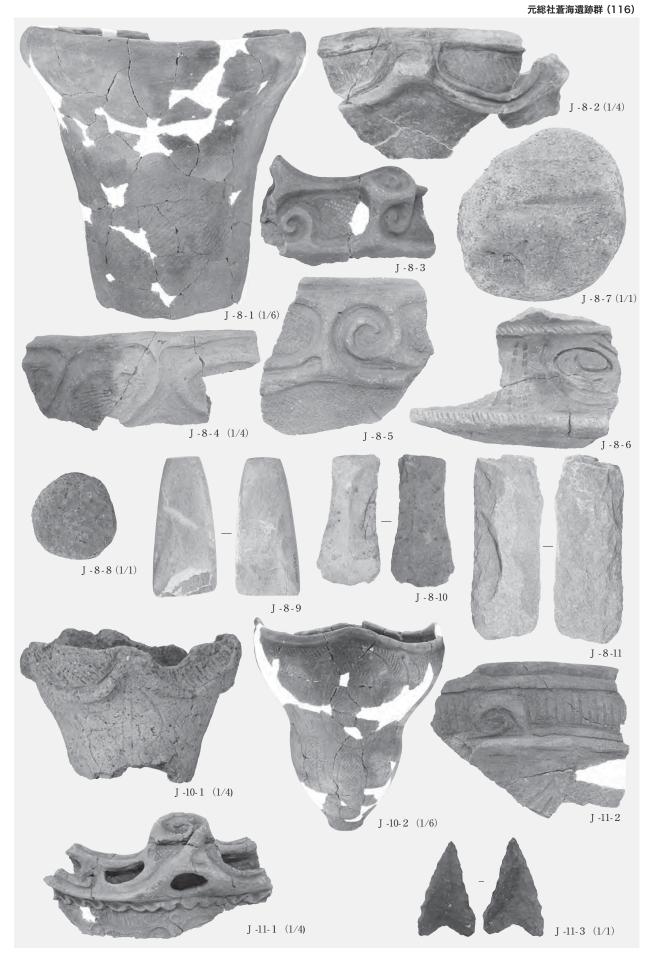
(123) 基本土層H (北から)



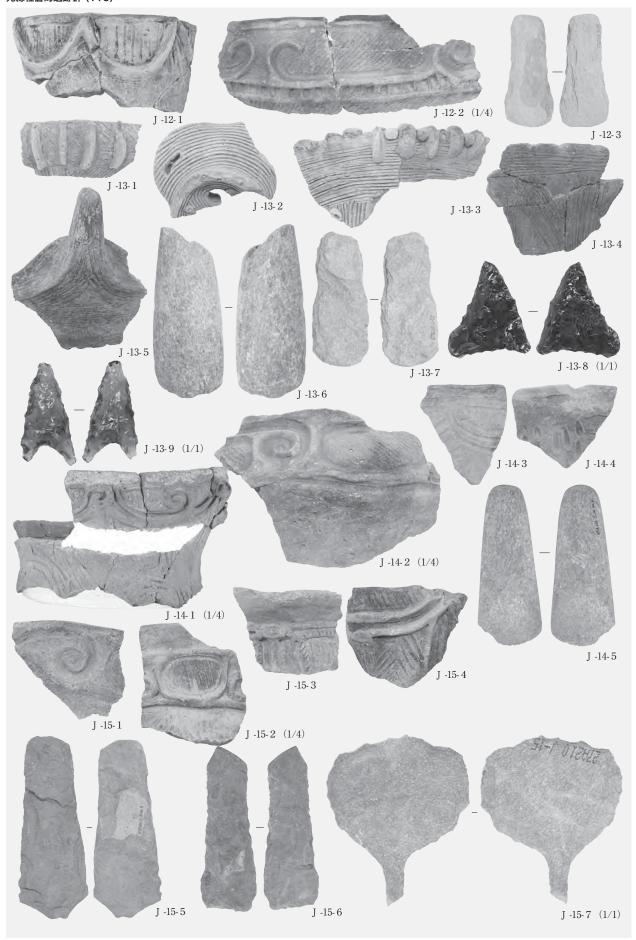
PL.38 元総社蒼海遺跡群 (116)



PL.39



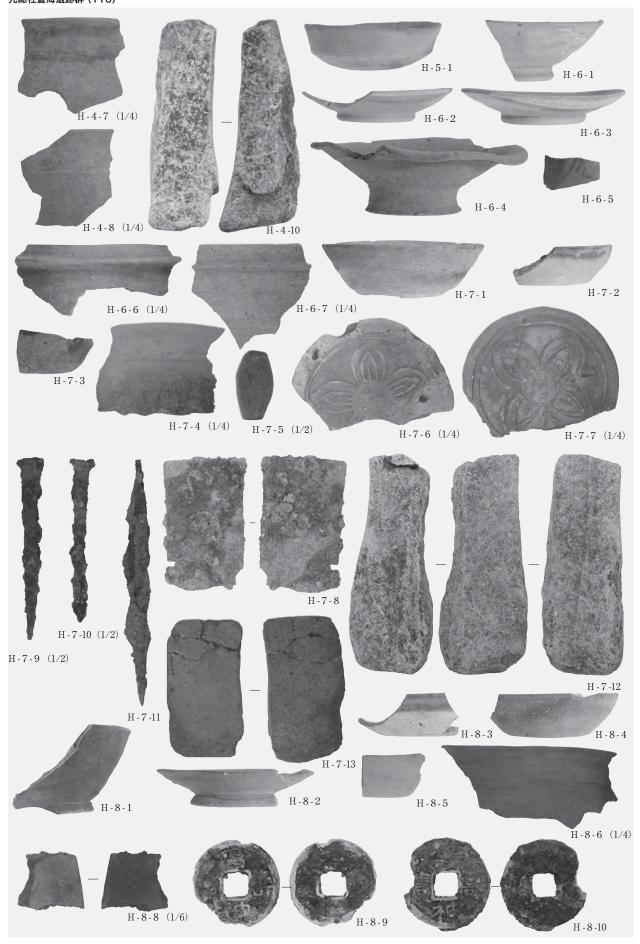
PL.40 元総社蒼海遺跡群 (116)



PL.41 元総社蒼海遺跡群 (116)



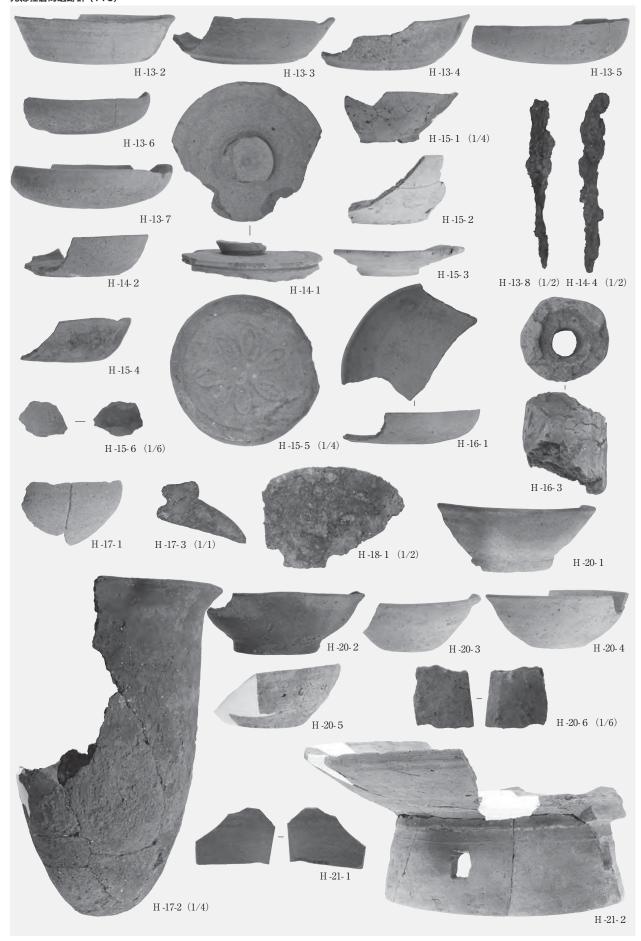
PL.42 元総社蒼海遺跡群 (116)



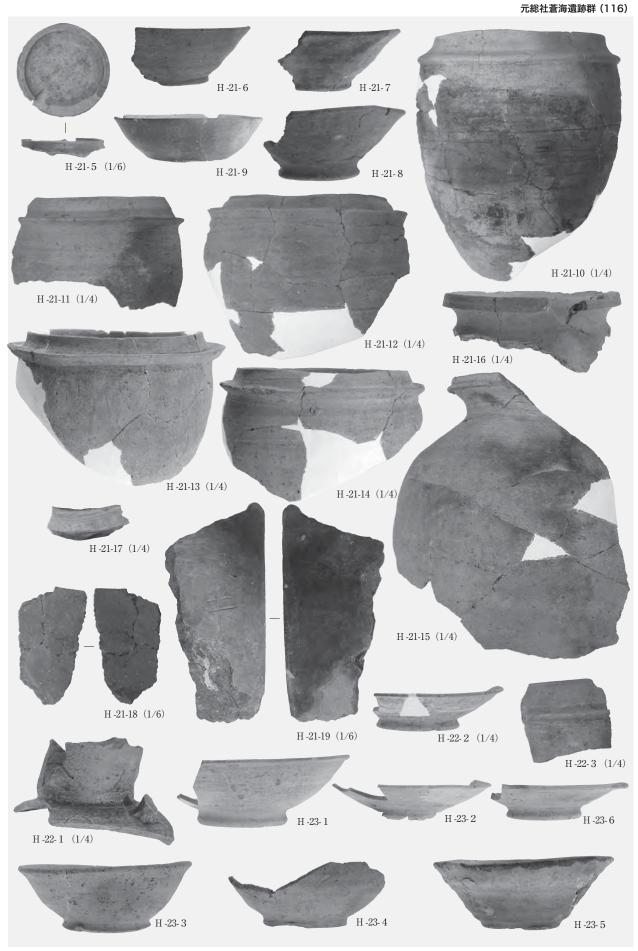
PL.43 元総社蒼海遺跡群 (116)



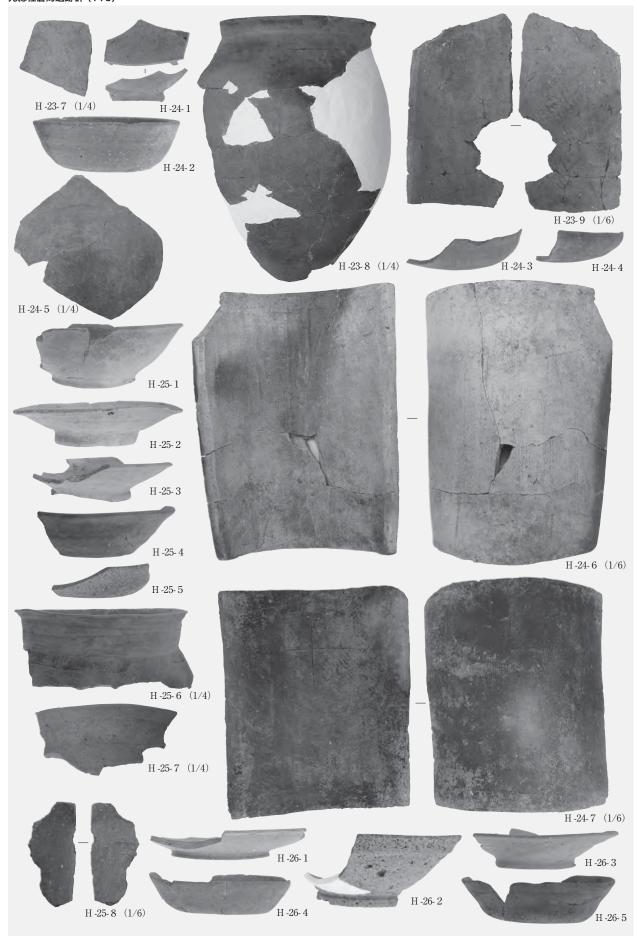
PL.44 元総社蒼海遺跡群 (116)



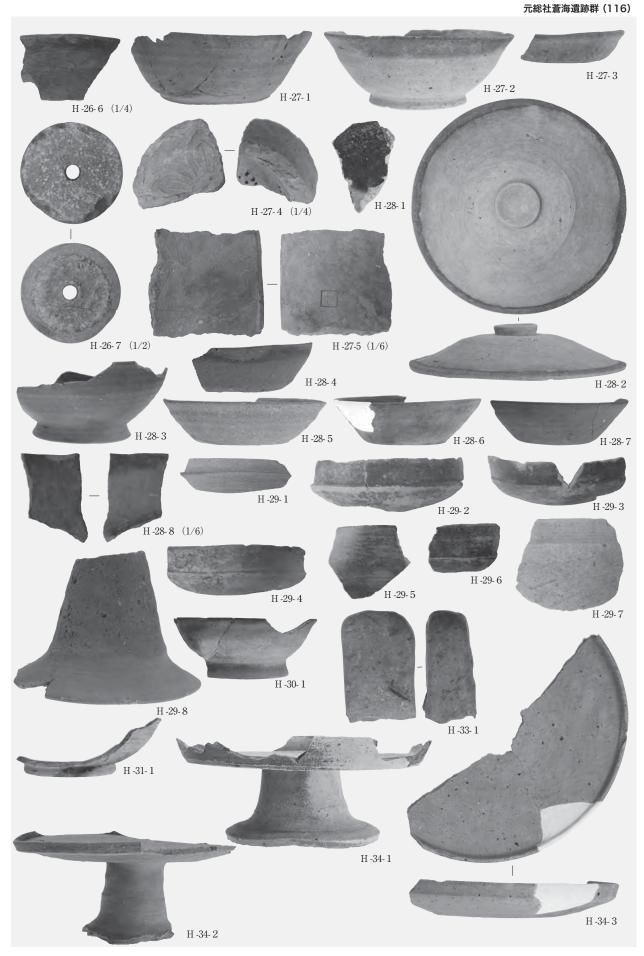
PL.45



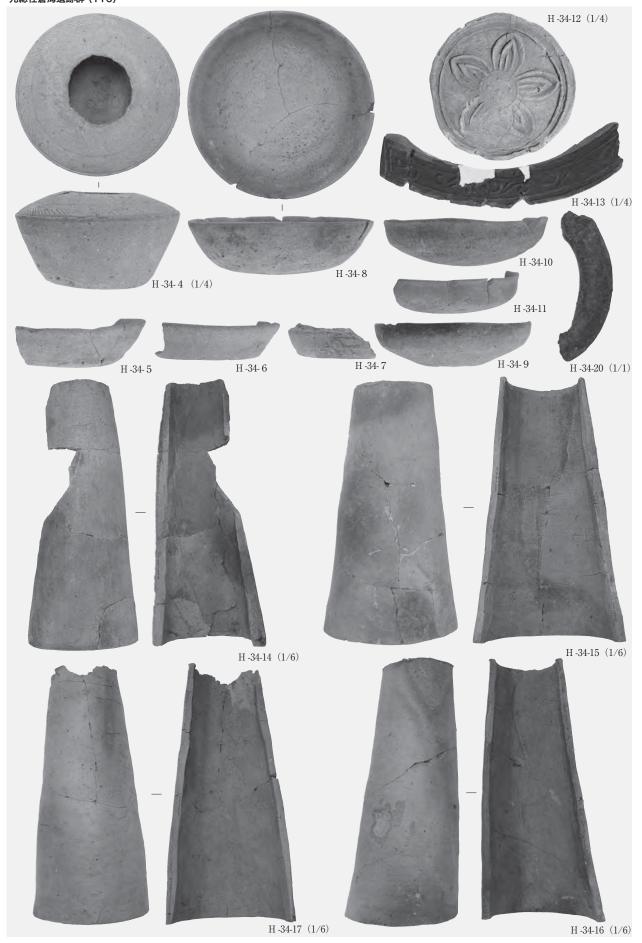
PL.46 元総社蒼海遺跡群 (116)



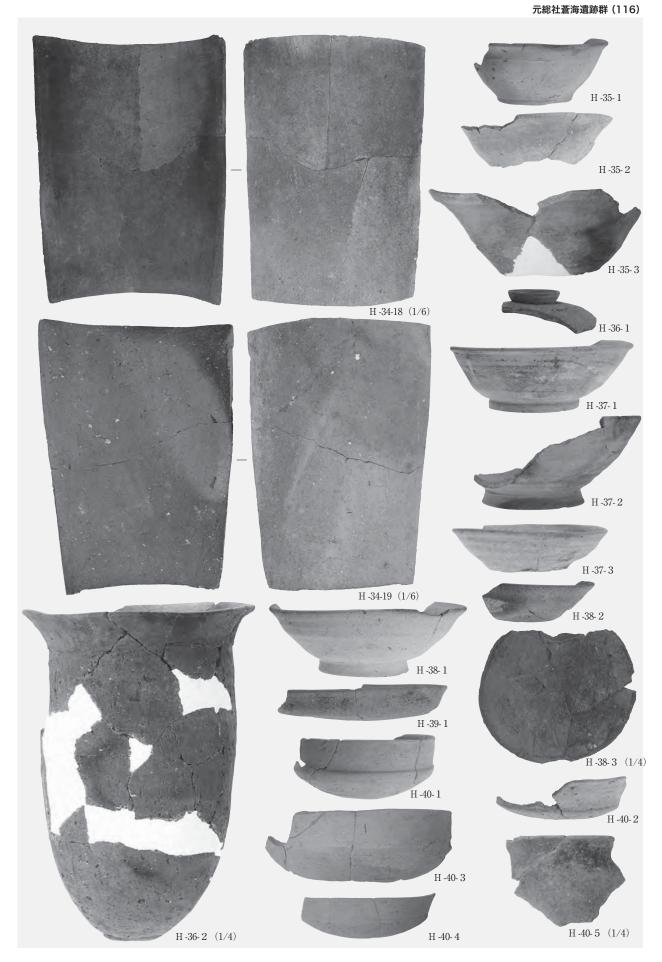
PL.47



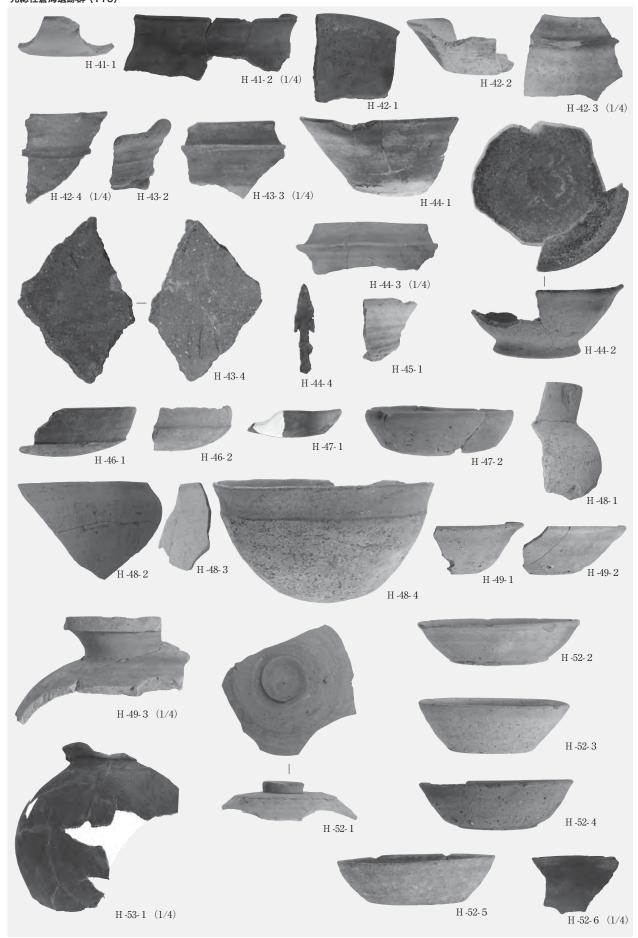
PL.48 元総社蒼海遺跡群 (116)



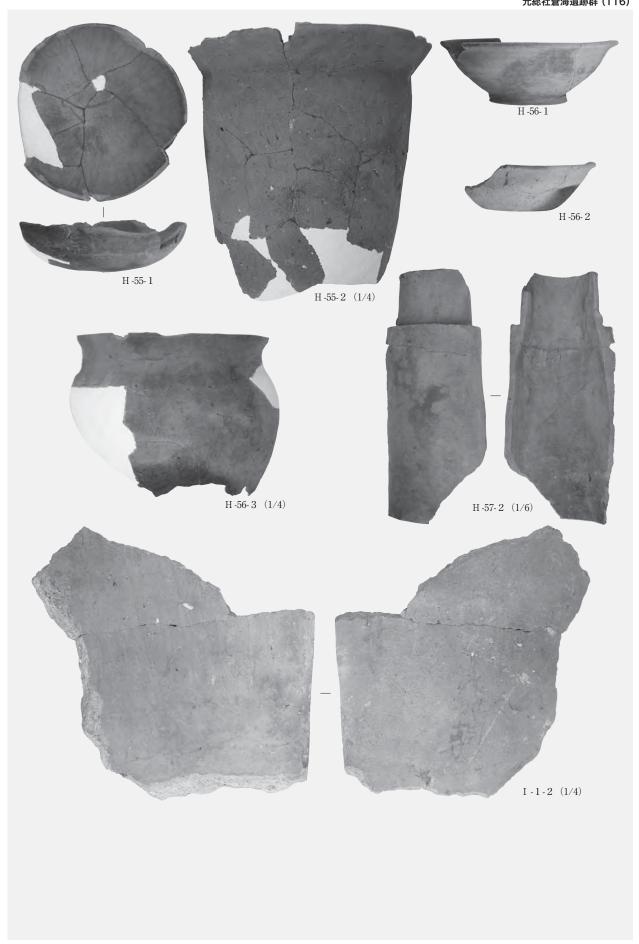
PL.49



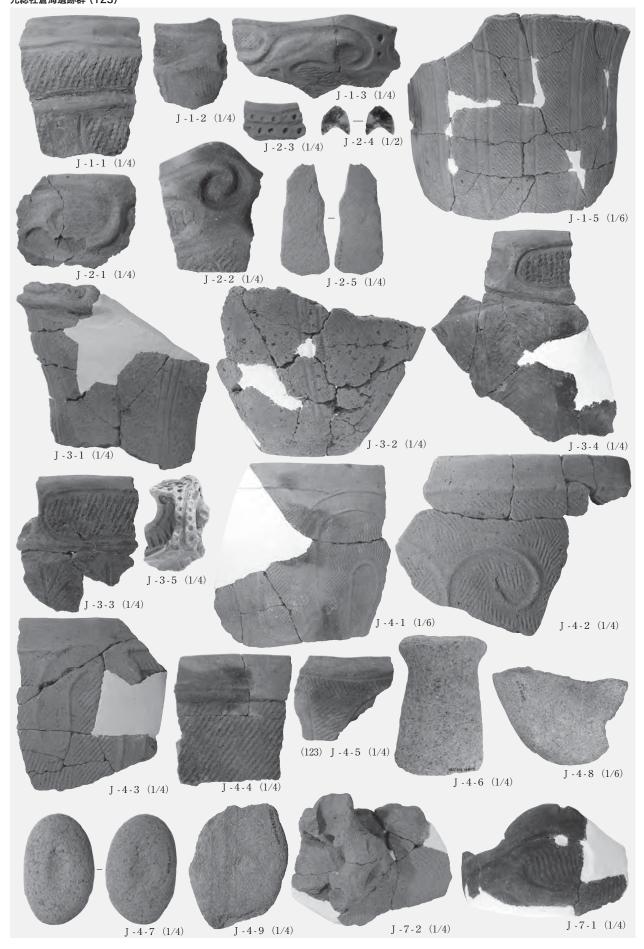
PL.50 元総社蒼海遺跡群 (116)



PL.51 元総社蒼海遺跡群 (116)



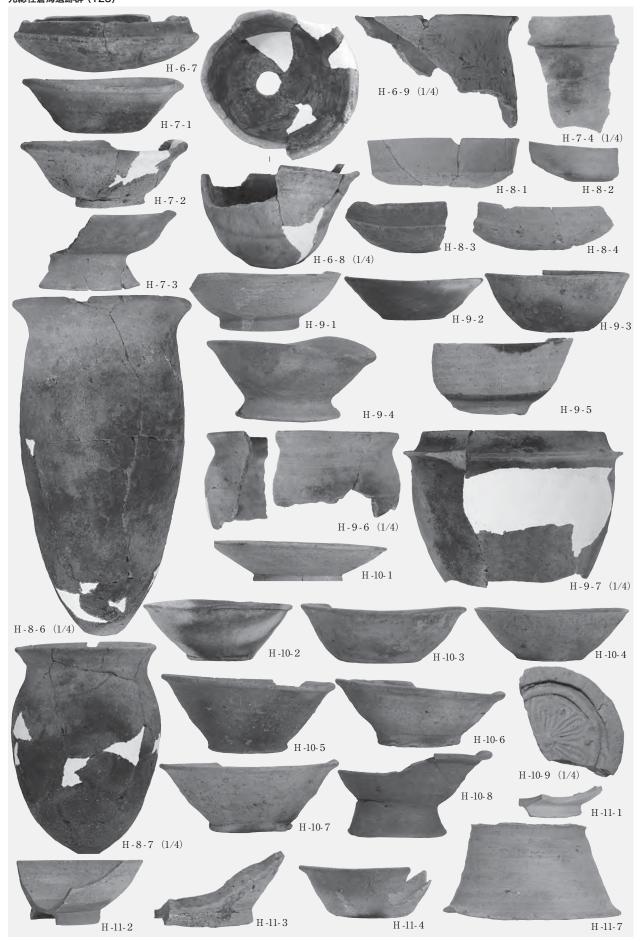
PL.52 元総社蒼海遺跡群 (123)



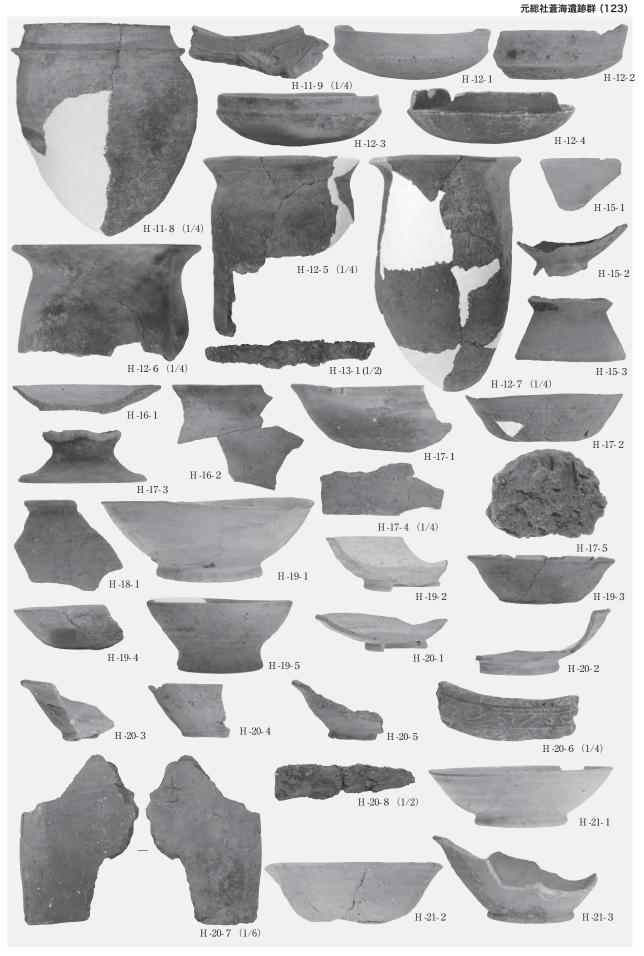
PL.53



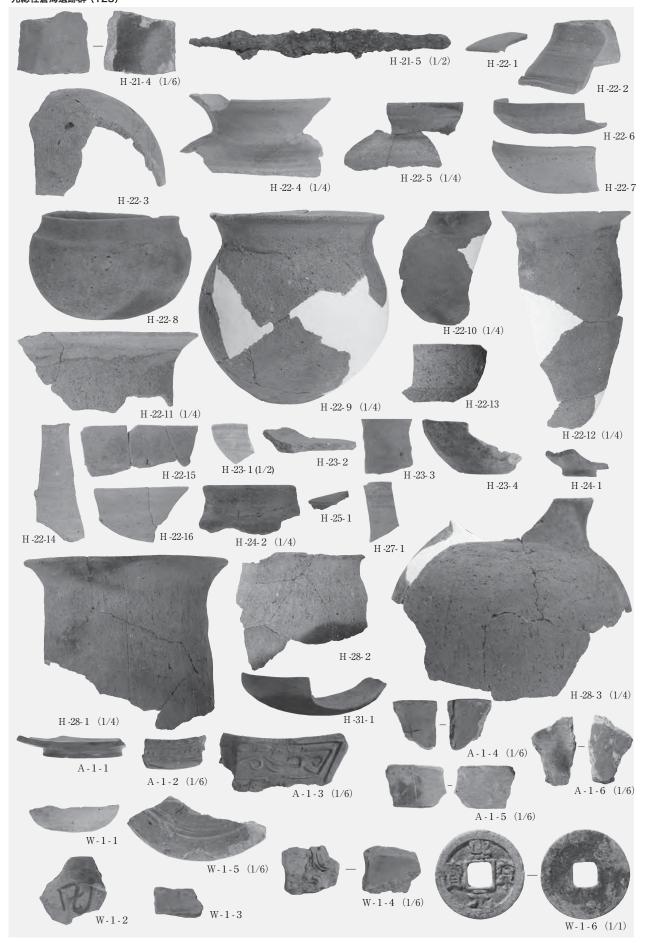
PL.54 元総社蒼海遺跡群 (123)



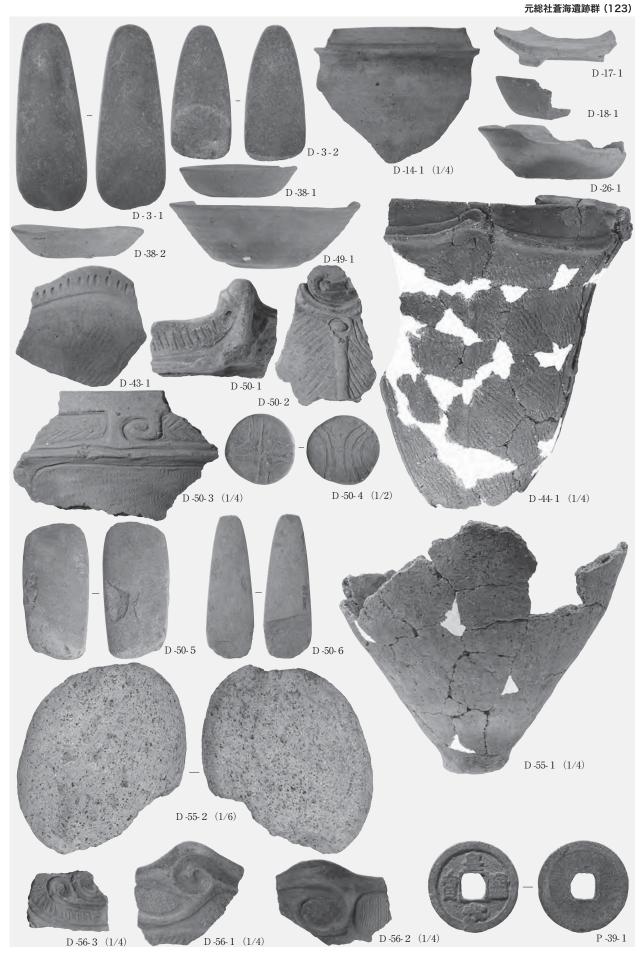
PL.55



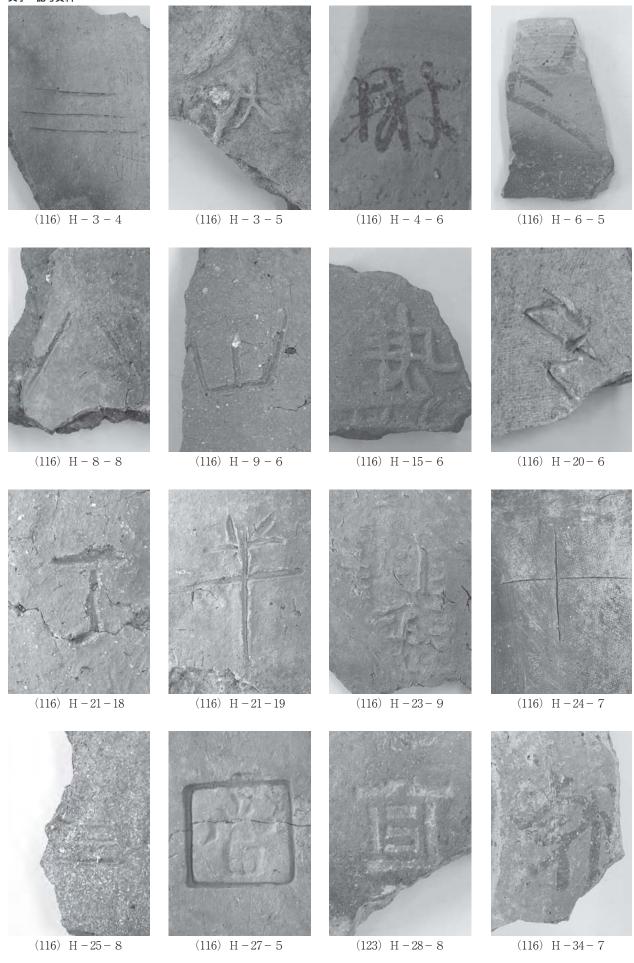
PL.56 元総社蒼海遺跡群 (123)



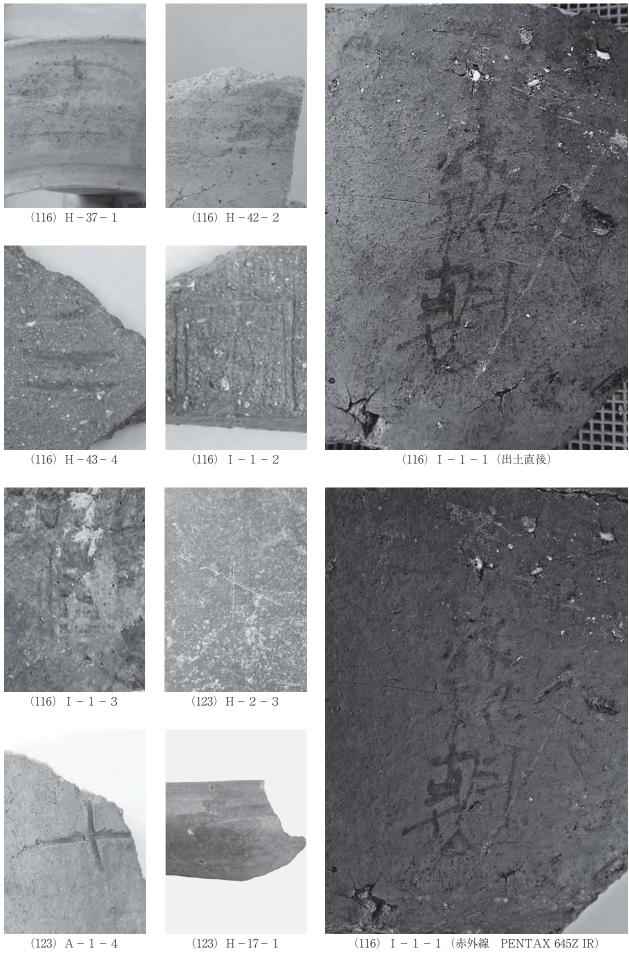
PL.57



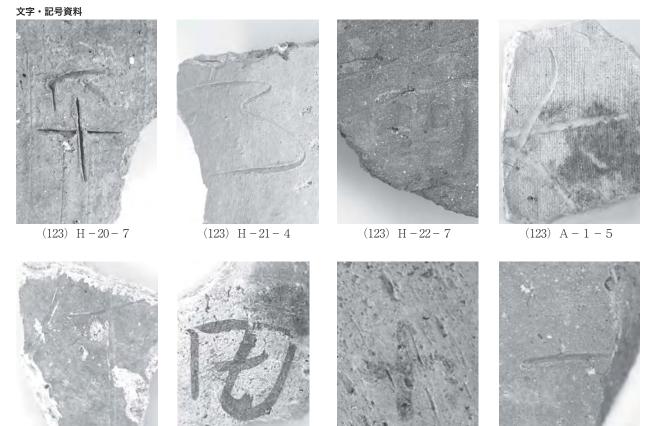
PL.58 文字・記号資料



文字・記号資料



PL.60



(123) 遺構外-13

(123) W - 1 - 2

(123) 遺構外-18



(123) A - 1 - 6

(123) 遺構外-19

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン (116) (123)
書名	元総社蒼海遺跡群 (116) (123)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	_
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	前田和昭・山田誠司
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3
発 行 機 関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2019年2月28日

フ リ ガ ナ	フ リ ガ ナ	 _	- ド	位	置	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東 経	神旦州间	神上川倶	- 神旦
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (116)	前橋市元総社町 1690-1、1706、 1707、1708、1712、 1713	10201	27A210	36° 39'26	139° 2' 63	20160411	1,830 m²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業
- 11 1 5 1								
フ リ ガ ナ	フ リ ガ ナ		- ド	位	置	国本	国本而往	田本店田
所収遺跡名	フリガナ 所在地	市町村	造跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
元総社蒼海遺跡群 (116)	集落その他	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時 中世	住居跡 74軒 溝 1条 井戸 1基 土坑 32基	器(石斧、石鏃、石錘)、石製品(台石、石皿、石製品(台石、石皿、石棒)、土製品(土製円盤)、S字状口縁台付甕、須恵器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、灰釉陶器、鉄製品(刀子、紡錘車)、銅	染谷川左岸の自然堤防上に 位置する、縄文時代前期後 半諸磯B・C期、中期後半 加曽利E期、4世紀から11 世紀まで国府・国分二寺造 営の影響を受けながら、断 続的に継続する集落遺跡。 「那波郡朝倉」郷名墨書瓦が 出土した、瓦積み井戸。
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
元総社蒼海遺跡群 (123)	集落 城館跡 その他	縄文時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	住居跡 42軒 道路跡 1条 溝 10条 堀跡 1条 土坑 55基 ピット 170基	縄文土器(深鉢、浅 鉢)、石器(石斧、石 鏃、石錘)、石製品(台 石、石皿、石棒)、 S 製品(土製円盤)、 S 字状口縁台付甕、 泉 惠器、土師器、 緑 和器、灰釉陶器、 製品(刀子、紡錘車)	縄文時代中期後半加曽利E 期、4世紀から10世紀中頃 まで断続的に継続する集落 遺跡。 南北に走行する古代の道路 状遺構。 蒼海城に関連すると思われ る中世の堀跡。

元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (116) 元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (123)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019年2月22日 印刷 2019年2月28日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4 TEL 027-280-6511

編集 技研コンサル株式会社 印刷 朝日印刷工業株式会社